

2022年度 東京メディア芸術学部 授業計画

はじめに

本学の東京メディア芸術学部メディア芸術学科は、2007年度開設以来の教育研究活動の蓄積をもとに、「メディア・コンテンツ」という学問領域を発展的に再解釈し、「メディア芸術」という学問領域として教育研究活動を展開することを志向し、2015年度より「東京メディア・コンテンツ学部メディア・コンテンツ学科」から学部学科名称を変更しました。東京メディア芸術学部は、学生の興味、関心及び適性などに基づいて体系的な学修が可能であり、学修分野は、「マンガ」「アニメーション」「ゲーム」「イラストレーション」「メディアデザイン」の5分野です。

この制度の導入は、幅広い学修を通して広い視野を身に付けたい、専門分野をより深く学びたい、といったような、学生一人一人の「学び」の要望に応え、なおかつ横断的に学修することを可能とし、加えて、学生の能動的な学修態度の育成を企図しています。

このシラバスは、本学部が2022年度に開講する授業科目と授業内容について説明したものです。授業科目の概要および目的と、到達目標、当該科目の履修により修得が見込める能力、事前に単位修得が必要な科目名、使用する教科書及び参考文献、予習・復習内容、成績評価方法などが記載されています。

また、全ての科目に対し、学修分野内でのその科目の位置が把握できるように、「科目ナンバー」を付けています。科目ナンバーを見ることで、その科目の専門分野、レベルなどが分かるようになっています。

毎回の授業内容を知り、各自の学修分野にあわせて受講するために、この「シラバス」を活用してください。

近年では、将来の進路を高等学校在学中に決定する方も多いため、受験生のみならず高等学校1、2年在学生、保護者の方からも本学の「シラバス」を希望されることが多くなりました。そういった方々にもご理解いただけるように、各科目を整理して体系化し、魅力ある詳細なシラバスとなるように心がけました。

2022年4月1日

宝 塚 大 学

東京メディア芸術学部

1. 科目分類と卒業要件について

科目分類と卒業要件は以下の通りです。(学則第 25 条規定)

「本学を卒業するためには 4 年間以上在学し、下記の区分にしたがって合計 124 単位以上の単位を修得しなければならない。」

科目分類	卒業要件単位		
	2019年度以降入学生	2018年度入学生	2017年度までの入学生
[基礎科目]	20単位以上	20単位以上	20単位以上
[外国語科目]	6単位以上	6単位以上	6単位以上
[専門科目]	98単位以上	98単位以上	98単位以上
〈学科必修科目〉	10単位 20単位	10単位	6単位
〈専門必修科目〉	68単位以上	16単位	16単位
〈専門選択科目〉		72単位以上	76単位以上
合計	124単位以上	124単位以上	124単位以上

2. シラバスの見方について

今年度のシラバス見本を示します。太線枠部分は、以下の注釈も合わせて確認してください。

注①科目ナンバーについて

体系的履修の指針となるように、全ての授業科目にアルファベットと 3 桁の数字からなる科目ナンバーを付番しています。科目ナンバーは以下の規則に従って付番されています。科目ナンバーを見ることで、その科目の学修分野、レベルなどが分かるようになっています。

科目分野		科目レベル	科目形式
GE=基礎科目	MA=マンガ	1=1年次前期レベル	01-09 =必修
FL=外国語科目	AN=アニメーション	2=1年次後期レベル	10~49 =講義形式
MM=学科共通	GA=ゲーム	3=2年次前期レベル	50-89 =演習形式
	IL=イラストレーション	4=2年次後期レベル	90~99 =特殊 (集中講義・学外活動等)
	MD=メディアデザイン	5=3年次以上レベル	

【科目ナンバーの見方】

例えば、科目ナンバーMM104の「コンピュータデザイン基礎I」は、

MM 1 04 ①学科共通科目 ②1年次前期レベル③必修の授業であることが分かります。

① ② ③

※なお科目ナンバーが2つ記載されている場合は、上：2020年度以降入学生用、下：2019年度以前入学生用となります。

注②授業形式について

授業形式は以下の数字で示しています。1~5はオンライン授業です。6は対面授業です。

1【動画型】講義風景の録画(+講義資料)

(例) YouTubeや放送大学等。講義ビデオのストリーミング配信

2【動画型2】PC画面の録画+音声(+講義資料)

(例) PDFを表示しながら喋る、PowerPointのスライドに音声を乗せる等

3【資料型】PowerPointのスライドやワード資料などを提示

(例) 通信添削講座

4【自習中心型】学習課題や視聴すべき外部教材を提示し、学生が自習した成果をテストやレポート/提出課題等によって確認

5【同時双方向型】Microsoft Teamsを利用したライブ講義

(例) ビデオ会議

6【対面型】機材等や教育効果を担保するために対面で授業を行うもの

注③アクティブ・ラーニング(AL)について

アクティブ・ラーニング(Active Learning 以下AL)とは、学生自らが主体的に授業へ取り組む学修方法を指します。本学部では、主体的な学修方法を積極的に取り入れることで、協調性や課題解決力を養成します。ALの要素を含む手法を取り入れる授業回については、以下のALの種別をAL欄に記載しています。

A.学生間でディベートをさせる。

B.2人以上のユニットで協働学習、グループ学習をさせている。

C.学生個人または協働でプレゼンテーションを取り入れている。

D.映像を見た後で、感想を述べさせる。学生同士で講評させる。

E.発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等の授業を行う。

F.その他(上記A~Eに当てはまらないアクティブラーニング)

注④ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応について

ディプロマ・ポリシー(以下DP)とは、本学科の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針を指します。いわば4年

間の学修成果の目標となるものです。本項目では、当該授業科目において、DPに掲げる6つの能力のうちどの能力を培うものであるかを図表で示しています。記号の意味は下記の通りです。

◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある ー：関連していない

卒業までに、DPに掲げる6つの能力を身に付けることを意識し、各自の学修系統に合わせて履修計画を立てるようにしてください。

宝塚大学 東京メディア芸術学部 メディア芸術学科
教育に関するポリシー

宝塚大学ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

宝塚大学は、豊かな感性と、深い理解力と、高い実践力を持つ人材を育成するため、所定の期間在学し、所属学部において定める知識・技能・教養を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

東京メディア芸術学部 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

東京メディア芸術学部メディア芸術学科（以下、「本学科」という）は、所定の卒業要件単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力、資質を備えたうえでメディア芸術の素養を基に、独創的な方法を用いて社会や文化の正常な発展に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

1. 主体的行動力

自身で目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

2. 表現力

自らの考えを、学修によって獲得した知識や技能を駆使して表現し、社会の規範を遵守したうえで他者へ発信することができる。

3. 社会貢献力・コラボレーション力

組織や集団の目的を理解したうえで、違う考えや違う専門を有する多様な他者と協働し、獲得した知識や技能を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

4. 課題発見力・課題解決力

社会の中にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を考え、主体的に実行することができる。

5. コミュニケーション力

自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力

学修によって獲得した知識や技能を統合し、社会の中で活用することができる。

東京メディア芸術学部 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

本学科では、建学の精神に基づき、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力や資質及び専門性を修得させるため、次のような方針に従って教育課程を編成し実施する。

1. メディア芸術に関する基礎的知識の修得と職業意識の醸成、コミュニケーション力及びコラボレーション力の育成を行い、実社会で活動するための知識や技能の基礎を築くことを目的に、初年次教育の科目群を設定する。
2. 現代社会の要請を的確に捉え、思考の方法や行動の原理を理解するための基礎となる、汎用的な能力や社会的規範の修得及び多様な文化の理解を目的に、「基礎科目」「外国語科目」の科目群を設定する。
3. メディア芸術の素養を身につけた人材として、社会において活躍するために求められる、体系的な専門的知識や技能を育成することを目的に、「専門科目」の科目群を設定する。
4. 大学での学修を実社会と接続させる実践的体験を通して、学修の意義を認識し、社会において活動する意欲と能力を育成することを目的に、ゼミ活動や学外連携活動を設定し、単位を付与する。
5. 本学科での学修により得た知識や技能を統合し、自らの思考を表現、発信する能力を育成することを目的に、「卒業研究Ⅰ及び卒業研究Ⅱ」を必修科目として設定する。

◆実施の方針

1. 各授業科目において、授業の目的、到達目標、ディプロマ・ポリシーとの関連、各回の授業内容、成績評価基準を明確にして周知する。
2. 主体的に問題を発見し、それを解決するために協働し、自らの思考を他者に伝える力を育成するために、多様な教育方法に対応した教室環境を整備し、アクティブ・ラーニングを積極的に導入するなど授業形態や教育方法を工夫する。
3. 大学での学修が実社会と接続していることを認識させるために、自治体や地域の団体等と連携した活動を積極的に実施する。
4. 授業の双方向性を高めるために、学生から提出された課題や制作物へのフィードバックを積極的に行うよう努める。
5. 教育課程の有効性について、学生の履修状況、単位修得状況、学生への各種アンケート調査及び教職員などへの調査に基づいて点検し、評価する。

◆教育評価

1. 1年次修了時に、自身の興味・関心や学修状況に基づき、2年次以降の専門分野を教員と話し合う専門選択面談を行う。
2. 3年次修了時に学修の到達度や成果に基づき、卒業制作や卒業論文に取り組む基礎能力の修得が完了しているかどうかの到達度評価を行う。
3. 4年次において、本学科での学修の成果を統合する「卒業研究Ⅰ及び卒業研究Ⅱ」を必修とし、評価担当教員において評価基準に基づいて公正に評価する。

東京メディア芸術学部 アドミッション・ポリシー（入学者選抜の方針）

本学科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに定める教育を行う条件として、次のような能力や意欲を備えた人物を求める。

1. 高等学校等卒業者としての基本的能力を携え、積極的にメディア芸術を学修したい人
2. 高等学校等の教育課程外(部活動やボランティア活動、社会貢献活動等)においても主体的に活動し、知識や技能を身につけてきた人
3. 明確な目的意識や目標を持ち、社会に貢献する意欲を持つ人
4. 社会の規範を遵守し、メディア芸術分野の知識や技能を用いた表現への意欲を持つ人
5. 計画性をもって他者と協力し、物事に取り組もうとする人
6. 知識や経験を基に理論的に判断し、物事を表現しようとする人

2022年度授業科目・担当者一覧表

<東京メディア芸術学部 メディア芸術学科>

I.基礎科目（GE）

[科目ナンバー]	[科目名]	[授業期間]	[担当者]	[単位数]
GE 110	<input type="checkbox"/> 世界観と人生観 I	前期	中川 明博	2
GE 210	<input type="checkbox"/> 世界観と人生観 II	後期	中川 明博	2
GE 111	<input type="checkbox"/> 日本文化史 I	前期	馬場 匡浩	2
GE 211	<input type="checkbox"/> 日本文化史 II	後期	馬場 匡浩	2
GE 112	<input type="checkbox"/> 西洋文化史 I	前期	近藤 真彫	2
GE 212	<input type="checkbox"/> 西洋文化史 II	後期	近藤 真彫	2
GE 113	<input type="checkbox"/> 芸術教養 I（書道と漢詩）	前期/後期	芹澤 麻美子	
GE 114	<input type="checkbox"/> 芸術教養 II（茶道・初級）	前期/後期	岩田 明子	2
GE 410	<input type="checkbox"/> 芸術教養 III（茶道・中級）	後期	岩田 明子	2
GE 115	<input type="checkbox"/> 心理学への招待 I	前期	小方 涼子	2
GE 213	<input type="checkbox"/> 心理学への招待 II	後期	小方 涼子	2
GE 116	<input type="checkbox"/> 音響概論	前期	東川 愛	2
GE 214	<input type="checkbox"/> 音響心理学	後期	東川 愛	2
GE 117	<input type="checkbox"/> 生活の中の法律 I	前期	青木 亮祐	2
GE 215	<input type="checkbox"/> 生活の中の法律 II	後期	青木 亮祐	2
GE 216	<input type="checkbox"/> 著作権法概論	集中	大和 淳	2
GE 118	<input type="checkbox"/> 情報と経済 I	前期	加藤 雅夫	2
GE 217	<input type="checkbox"/> 情報と経済 II	後期	加藤 雅夫	2
GE 119	<input type="checkbox"/> メディア社会学 I	前期	橋口 静思	2
GE 218	<input type="checkbox"/> メディア社会学 II	後期	橋口 静思	2
GE 120	<input type="checkbox"/> 日本と国際情勢	前期/後期		2
GE 121	<input type="checkbox"/> 新しい美術解剖学 I	前期	櫻木 晃彦	2
GE 220	<input type="checkbox"/> 新しい美術解剖学 II	後期	櫻木 晃彦	2
GE 221	<input type="checkbox"/> 社会の中の芸術と科学	後期	櫻木 晃彦	2
GE 122	<input type="checkbox"/> ヒトと進化	前期/後期	櫻木 晃彦	2
GE 123	<input type="checkbox"/> 健康科学	前期/後期	真山 葉瑠	2

II.外国語科目（FL）

[科目ナンバー]	[科目名]	[授業期間]	[担当者]	[単位数]
FL 119	<input type="checkbox"/> 日本語上級	前期/後期	アドゥアヨム・ アヘゴ・希佳子	1
FL 120	<input type="checkbox"/> 韓国語 I	前期	アドゥアヨム・ アヘゴ・希佳子	1
FL 219	<input type="checkbox"/> 韓国語 II	後期	アドゥアヨム・ アヘゴ・希佳子	1
FL 110	<input type="checkbox"/> 英会話 I	前期	木戸口聡子	1
FL 110	<input type="checkbox"/> 英会話 I	前期	伊東 美穂	1
FL 210	<input type="checkbox"/> 英会話 II	後期	木戸口聡子	1
FL 210	<input type="checkbox"/> 英会話 II	後期	伊東 美穂	1
FL 310	<input type="checkbox"/> 英会話 III	前期	秋山まき子	1
FL 410	<input type="checkbox"/> 英会話 IV	後期	秋山まき子	1
FL 313	<input type="checkbox"/> ビジネス英語 I	前期	アドゥアヨム・ アヘゴ・希佳子	1
FL 313	<input type="checkbox"/> ビジネス英語 I	前期	稲葉麻里子	1
FL 413	<input type="checkbox"/> ビジネス英語 II	後期	アドゥアヨム・ アヘゴ・希佳子	1
FL 413	<input type="checkbox"/> ビジネス英語 II	後期	稲葉麻里子	1
FL 114	<input type="checkbox"/> 英語講読 I	前期	近藤 真彫	1
FL 214	<input type="checkbox"/> 英語講読 II	後期	近藤 真彫	1
FL 112	<input type="checkbox"/> 中国語会話 I	前期	李 春	1
FL 212	<input type="checkbox"/> 中国語会話 II	後期	李 春	1
FL 311	<input type="checkbox"/> 中国語会話 III	前期	范 文玲	1
FL 411	<input type="checkbox"/> 中国語会話 IV	後期	范 文玲	1
FL 312	<input type="checkbox"/> ビジネス中国語 I	前期	范 文玲	1
FL 412	<input type="checkbox"/> ビジネス中国語 II	後期	范 文玲	1
FL 113	<input type="checkbox"/> ドイツ語 I	前期	中川 明博	1
FL 213	<input type="checkbox"/> ドイツ語 II	後期	中川 明博	1
FL 116	<input type="checkbox"/> フランス語 I	前期	瀧本 みわ	1
FL 216	<input type="checkbox"/> フランス語 II	後期	瀧本 みわ	1
FL 117	<input type="checkbox"/> イタリア語 I	前期	吉澤 早苗	1
FL 217	<input type="checkbox"/> イタリア語 II	後期	吉澤 早苗	1
FL 115	<input type="checkbox"/> 日本語 I	前期	アドゥアヨム・ アヘゴ・希佳子	1
FL 215	<input type="checkbox"/> 日本語 II	後期	アドゥアヨム・ アヘゴ・希佳子	1
FL 118	<input type="checkbox"/> 日本語会話 I	前期	アドゥアヨム・ アヘゴ・希佳子	1
FL 218	<input type="checkbox"/> 日本語会話 II	後期	アドゥアヨム・ アヘゴ・希佳子	1

III. 専門科目

1. 学科必修科目 [対象学年： 1 年次]

[科目ナンバー]	[科目名]	[授業期間]	[担当者]	[単位数]
MM 101	<input type="checkbox"/> 表現実践 I	前期	中村 泰之 他	2
MM 201	<input type="checkbox"/> 表現実践 II	後期	中村 泰之 他	2
MM 102	<input type="checkbox"/> 表現思考 I	前期	橋口 静思 他	2
MM 202	<input type="checkbox"/> 表現思考 II	後期	橋口 静思 他	2
MM 103	<input type="checkbox"/> 表現とICT	前期	吉岡 章夫 他	2
MM 203	<input type="checkbox"/> データ分析入門	後期	数実 浩佑 他	2

2. 専門必修科目 (1) [対象学年： 1 年次]

[科目ナンバー]	[科目名]	[授業期間]	[担当者]	[単位数]
MM 104	<input type="checkbox"/> コンピュータデザイン基礎 I ※1	前期	増田/松浦/青田/和田	2
MM 203	<input type="checkbox"/> コンピュータデザイン基礎 II ※1	後期	増田/松浦/青田/和田	2

※1 コンピュータデザイン基礎 I・II は2018年度までの入学生は専門選択科目となります。

III. 専門科目

2. 専門必修科目（2）〔対象学年：4年次〕

*分野順に掲載しています

[科目ナンバー]	[科目名]	[授業期間]	[担当者]	[単位数]
MM501	<input type="checkbox"/> 卒業研究 I	前期	竹内 一郎	8
MM501	<input type="checkbox"/> 卒業研究 I	前期	市野 治美	8
MM501	<input type="checkbox"/> 卒業研究 I	前期	芦谷 耕平	8
MM501	<input type="checkbox"/> 卒業研究 I	前期	古瀬 登	8
MM501	<input type="checkbox"/> 卒業研究 I	前期	井上 幸喜	8
MM501	<input type="checkbox"/> 卒業研究 I	前期	吉岡 章夫	8
MM501	<input type="checkbox"/> 卒業研究 I	前期	増田 宗嶺	8
MM501	<input type="checkbox"/> 卒業研究 I	前期	北見 隆	8
MM501	<input type="checkbox"/> 卒業研究 I	前期	渡邊 哲意	8
MM501	<input type="checkbox"/> 卒業研究 I	前期	中村 泰之	8
MM501	<input type="checkbox"/> 卒業研究 I	前期	近藤 真彫	8
MM501	<input type="checkbox"/> 卒業研究 I	前期	橋口 静思	8
MM501	<input type="checkbox"/> 卒業研究 I	前期	神林 優	8
MM502	<input type="checkbox"/> 卒業研究 II	後期	竹内 一郎	8
MM502	<input type="checkbox"/> 卒業研究 II	後期	市野 治美	8
MM502	<input type="checkbox"/> 卒業研究 II	後期	芦谷 耕平	8
MM502	<input type="checkbox"/> 卒業研究 II	後期	古瀬 登	8
MM502	<input type="checkbox"/> 卒業研究 II	後期	井上 幸喜	8
MM502	<input type="checkbox"/> 卒業研究 II	後期	吉岡 章夫	8
MM502	<input type="checkbox"/> 卒業研究 II	後期	増田 宗嶺	8
MM502	<input type="checkbox"/> 卒業研究 II	後期	北見 隆	8
MM502	<input type="checkbox"/> 卒業研究 II	後期	渡邊 哲意	8
MM502	<input type="checkbox"/> 卒業研究 II	後期	中村 泰之	8
MM502	<input type="checkbox"/> 卒業研究 II	後期	近藤 真彫	8
MM502	<input type="checkbox"/> 卒業研究 II	後期	橋口 静思	8
MM502	<input type="checkbox"/> 卒業研究 II	後期	神林 優	8

III. 専門科目

3. 専門選択科目（1）（科目ナンバー100番台）

[科目ナンバー]	[科目名]	[授業期間]	[担当者]	[単位数]
MM 110	<input type="checkbox"/> 芸術学 I	前期	平山 敬二	2
MM 111	<input type="checkbox"/> 西洋美術史 I	前期	近藤 真彫	2
MM 112	<input type="checkbox"/> 日本美術史 I	前期	吉澤 早苗	2
MM 113	<input type="checkbox"/> 東洋美術史 I	前期	田辺 理	2
MM 114	<input type="checkbox"/> ロックミュージック概論 I	前期	伊丹谷良介	2
MM 115	<input type="checkbox"/> 音楽史	前期	東川 愛	2
MM 104	<input type="checkbox"/> コンピュータデザイン基礎 I ※2	前期	増田/松浦/青田/和田	2
MA 116	<input type="checkbox"/> 現代漫画文化論 I	前期	竹内 一郎	2
MA 118	<input type="checkbox"/> ストーリー創作基礎	前期	市野 治美	2
MA 131	<input type="checkbox"/> 日本漫画史	前期	竹内 一郎	2
MA 164	<input type="checkbox"/> マンガ表現基礎	前期	たちばないさぎ ・和田 歩美	2
MA 165	<input type="checkbox"/> マンガ背景美術 I	前期/後期	平敷 隆	2
AN 132	<input type="checkbox"/> アニメ制作・研究基礎 I	前期	橋本 三郎	2
AN 151	<input type="checkbox"/> アニメスキル I	前期	古瀬 登	2
AN/MM 130	<input type="checkbox"/> 現代アニメ文化論 I	前期	月岡 貞夫	2
AN/MM 154	<input type="checkbox"/> アニメ背景遠近法	前期	松平 聡	2
GA 160	<input type="checkbox"/> コンピュータグラフィックス I	前期	吉岡 章夫	2
IL 121	<input type="checkbox"/> 発想表現	前期	北見 隆	2
IL/MD 156	<input type="checkbox"/> 色彩構成	前期	安田 隆浩	2
IL 157	<input type="checkbox"/> 空間構成	前期	西岡 悠妃	2
MM/IL 158	<input type="checkbox"/> デッサン I	前期/後期	西岡 悠妃	2
IL/MM 162	<input type="checkbox"/> 造形表現演習 I	前期	四宮義幸・清水友乃	2
GA/MD 161	<input type="checkbox"/> 映像・演出 I	前期	真島ヒロシ	2
MD 166	<input type="checkbox"/> モーショングラフィックス I	前期	金子 修	2
MD/MM 123	<input type="checkbox"/> 総合芸術論	前期	竹内 一郎	2
MD/MM 125	<input type="checkbox"/> デザイン概論 I	前期	中村 泰之	2
MD 129	<input type="checkbox"/> 放送概論	前期	田淵 俊彦	2
MM 190	<input type="checkbox"/> 学外フィールドワーク	—	単位認定科目	2

※2 コンピュータデザイン基礎 I・II は、2019年度以降入学生は専門必修科目となります。

3. 専門選択科目（2）（科目ナンバー200番台）

[科目ナンバー]	[科目名]	[授業期間]	[担当者]	[単位数]
MM 210	<input type="checkbox"/> 芸術学 II	後期	平山 敬二	2
MM 211	<input type="checkbox"/> 西洋美術史 II	後期	近藤 真彫	2
MM 212	<input type="checkbox"/> 日本美術史 II	後期	吉澤 早苗	2
MM 213	<input type="checkbox"/> 東洋美術史 II	後期	田辺 理	2
MM 214	<input type="checkbox"/> ロックミュージック概論 II	後期	伊丹谷良介	2
MM 215	<input type="checkbox"/> 非言語コミュニケーション論	後期	竹内 一郎	2
MM 203	<input type="checkbox"/> コンピュータデザイン基礎 II ※2	後期	増田/松浦/青田/和田	2
MM 265	<input type="checkbox"/> 人物描写基礎	後期	安田 隆浩	2
MA 227	<input type="checkbox"/> コミックイラスト概論	後期	市野 治美	2
MA 267	<input type="checkbox"/> マンガ表現研究	後期	たちばないさぎ ・和田 歩美	2
AN 229	<input type="checkbox"/> アニメ制作・研究基礎 II	後期	橋本 三郎	2
AN 253	<input type="checkbox"/> アニメスキル II	後期	古瀬 登	2
AN 266	<input type="checkbox"/> アニメデジタル基礎	後期	芦谷 耕平	2
AN/MM 226	<input type="checkbox"/> 現代アニメ文化論 II	後期	月岡 貞夫	2
AN/MM 290	<input type="checkbox"/> 水墨画	集中	王 子江	2
GA 256	<input type="checkbox"/> プログラム基礎	後期	増田 宗嶺	2
GA 268	<input type="checkbox"/> ゲームシナリオ制作	後期	井上 幸喜	2
GA 255	<input type="checkbox"/> コンピュータグラフィックス II	後期	吉岡 章夫	2
GA/MD 257	<input type="checkbox"/> インタラクティブデザイン	後期	増田 宗嶺	2
IL 259	<input type="checkbox"/> 絵画実習	後期	西岡 悠妃	2
IL 260	<input type="checkbox"/> 版画表現	後期	四宮義幸・清水友乃	2
IL 219	<input type="checkbox"/> イラストレーション概論 I	後期	北見 隆	2
IL/MM 261	<input type="checkbox"/> イラストレーション I	後期	安田 隆浩	2
IL/MD 269	<input type="checkbox"/> 視覚表現 I	後期	たぶき正博	2
MD/MM 221	<input type="checkbox"/> デザイン概論 II	後期	中村 泰之	2
MD 270	<input type="checkbox"/> モーショングラフィックス II	後期	金子 修	2
MD 225	<input type="checkbox"/> メディアリテラシー	集中	北村伊知郎	2
MD 264	<input type="checkbox"/> 映像・演出 II	後期	真島ヒロシ	2

※2 コンピュータデザイン基礎 I・II は、2019年度以降入学生は専門必修科目となります。

3. 専門選択科目（15）（科目ナンバー300番）

[科目ナンバー]	[科目名]	[授業期間]	[担当者]	[単位数]
MM 350	<input type="checkbox"/> デッサンⅡ	前期/後期	四宮義幸・清水友乃	2
MA 314	<input type="checkbox"/> 物語創作作法	前期	竹内 一郎	2
MA 351	<input type="checkbox"/> ペン画表現研究Ⅰ	前期	吉田 光彦	2
MA 352	<input type="checkbox"/> コミックイラスト演習Ⅰ	前期	和田 歩美	2
MA 369	<input type="checkbox"/> デジタルマンガ表現技法Ⅰ	前期	青田 めい	2
MA 372	<input type="checkbox"/> マンガ背景美術Ⅱ	前期/後期	和田 歩美	2
MA 373	<input type="checkbox"/> ストーリーマンガ制作基礎	前期	深谷 陽	2
MA 374	<input type="checkbox"/> マンガ制作基礎	前期	楠木あると・青田めい	2
AN 354	<input type="checkbox"/> アニメ制作Ⅰ	前期	古瀬 登・川上 遥	2
AN 355	<input type="checkbox"/> アニメ撮影技術Ⅰ	前期	はとりあゆむ	2
AN 375	<input type="checkbox"/> アニメスキルⅢ（中割り）	前期	川上 遥	2
AN 376	<input type="checkbox"/> アニメ背景美術Ⅰ	前期	松平 聡	2
AN/MD 312	<input type="checkbox"/> アニメ演出論Ⅰ	前期	橋本 三郎	2
GA/MD 316	<input type="checkbox"/> 企画・発想法とプレゼンテーション技法	前期	井上 幸喜	2
GA 356	<input type="checkbox"/> ゲーム企画演習Ⅰ	前期	吉岡 章夫	2
GA 357	<input type="checkbox"/> ゲームプログラミング入門	前期	森 けい	2
GA 358	<input type="checkbox"/> ゲームサウンド演習	前期	多和田 吏	2
GA 359	<input type="checkbox"/> 3DCGⅠ	前期	有富 洋平	2
GA/MD 360	<input type="checkbox"/> ゲームキャラクターデザイン	前期	井上 幸喜	2
IL 361	<input type="checkbox"/> 編集デザイン表現Ⅰ	前期	城芽ハヤト	2
IL 362	<input type="checkbox"/> イラストレーションⅡ	前期	西岡 悠妃	2
IL 363	<input type="checkbox"/> 視覚表現Ⅱ	前期	たぶき正博	2
IL 377	<input type="checkbox"/> 造形表現演習Ⅱ	前期	高田 美苗	2
IL/MD 364	<input type="checkbox"/> グラフィックデザイン演習Ⅰ	前期	松吉 太郎	2
IL/MD/MM 313	<input type="checkbox"/> インデペンデント映像及びアニメーション概論	前期	芦谷 耕平	2
MD 317	<input type="checkbox"/> 映像表現論	前期	池端規恵子	2
MD 365	<input type="checkbox"/> 映像制作Ⅰ	前期	仁藤 潤	2
MD 371	<input type="checkbox"/> 撮影技術Ⅰ	前期	神林 優	2
MD 378	<input type="checkbox"/> メディアプログラミング基礎	前期	原田 康	2
MD 379	<input type="checkbox"/> メディアCG表現Ⅰ	前期	有富 洋平	2
MD/MM 367	<input type="checkbox"/> デザイン基礎演習	前期	川野 智美	2
MM 315	<input type="checkbox"/> 仕事とキャリアデザインⅠ	前期	佐藤 宏樹	2

3. 専門選択科目（16）（科目ナンバー400番）

[科目ナンバー]	[科目名]	[授業期間]	[担当者]	[単位数]
MA 417	<input type="checkbox"/> ストーリーマンガ論	後期	竹内 一郎	2
MA 450	<input type="checkbox"/> マンガ企画制作概論	後期	菊池 優	2
MA 469	<input type="checkbox"/> デジタルマンガ表現技法Ⅱ	後期	和田 歩美	2
MA 472	<input type="checkbox"/> コミックイラスト演習Ⅱ	後期	澤田 美樹	2
MA 474	<input type="checkbox"/> ペン画表現研究Ⅱ	後期	吉田 光彦	2
MA/AN 415	<input type="checkbox"/> 現代マンガアニメ研究	後期	芦谷 耕平	2
MA/IL/MD 479	<input type="checkbox"/> コンピュータデザイン演習	後期	瀬戸早苗・松吉太郎	2
AN 454	<input type="checkbox"/> アニメ制作Ⅱ	後期	古瀬 登・川上 遥	2
AN 455	<input type="checkbox"/> アニメ背景美術Ⅱ	後期	松平 聡	2
AN 466	<input type="checkbox"/> アニメ演出論Ⅱ	後期	橋本 三郎	2
AN 467	<input type="checkbox"/> アニメ撮影技術Ⅱ	後期	はとりあゆむ	2
AN 475	<input type="checkbox"/> キーフレーム	後期	川上 遥	2
AN 476	<input type="checkbox"/> アニメ背景水彩表現	後期	松平 聡	2
AN 477	<input type="checkbox"/> ファンタジーと物語（物語作法）	後期	平野 靖士	2
AN/MD 478	<input type="checkbox"/> 音響制作	後期	坂口 博樹	2
GA 458	<input type="checkbox"/> ゲーム企画演習Ⅱ	後期	吉岡章夫・増田宗嶺	2
GA 459	<input type="checkbox"/> 3DCGⅡ	後期	有富 洋平	2
GA/MD 460	<input type="checkbox"/> Webデザイン演習	後期		2
IL 411	<input type="checkbox"/> 視覚伝達論	後期	松吉 太郎	2
IL 412	<input type="checkbox"/> イラストレーション概論Ⅱ	後期	北見 隆	2
IL/MD 418	<input type="checkbox"/> 広告表現概論	後期	川野 智美	2
IL/MD 461	<input type="checkbox"/> 造形表現Ⅰ	後期	高田 美苗	2
MD 419	<input type="checkbox"/> デザイン企画論	後期	川野 智美	2
MD 465	<input type="checkbox"/> 映像制作Ⅱ	後期	仁藤 潤	2
MD 473	<input type="checkbox"/> 撮影技術Ⅱ	後期	神林 優	2
MD 480	<input type="checkbox"/> メディアCG表現Ⅱ	後期	有富 洋平	2
MD 481	<input type="checkbox"/> 空間演出演習	後期	山本 圭太	2
MM 416	<input type="checkbox"/> 展示論	後期	橋口 静思 他	2
MM 414	<input type="checkbox"/> 仕事とキャリアデザインⅡ	後期	佐藤 宏樹	2

3. 専門選択科目（17）（科目ナンバー17番台）

[科目ナンバー]	[科目名]	[授業期間]	[担当者]	[単位数]
MM 550	<input type="checkbox"/> ポートフォリオ制作実習	前期	神林優／増田宗嶺	2
MA 511	<input type="checkbox"/> 物語文化論	前期	市野 治美	2
MA 517	<input type="checkbox"/> マンガ編集論	前期	菊池 優	2
MA 554	<input type="checkbox"/> マンガ制作実習 I	前期	芦谷 耕平	2
AN 558	<input type="checkbox"/> アニメ制作Ⅲ	前期	古瀬登・川上遥	2
AN/MD 551	<input type="checkbox"/> 音楽(劇場用・TV用・CM用・Web用)	前期	坂口 博樹	2
AN 552	<input type="checkbox"/> シナリオ原作 I	前期	平野 靖士	2
GA 514	<input type="checkbox"/> Webデザイン論	前期		2
GA 562	<input type="checkbox"/> ゲーム企画演習Ⅲ	前期	吉岡章夫・増田宗嶺	2
GA 564	<input type="checkbox"/> 3DCGⅢ	前期	宮下善成・増田宗嶺	2
IL 557	<input type="checkbox"/> イラストレーションⅢ	前期	北見 隆	2
IL 561	<input type="checkbox"/> 絵本表現 I	前期	柴田こずえ	2
IL 578	<input type="checkbox"/> 挿絵表現	前期	吉田 光彦	2
IL/MD 556	<input type="checkbox"/> 編集デザイン表現Ⅱ	前期	松吉太郎・瀬戸早苗	2
MD 570	<input type="checkbox"/> デザインサーベイ	前期	中村 泰之	2
MD 561	<input type="checkbox"/> CM表現研究	前期	真島ヒロシ	2
MD/IL 571	<input type="checkbox"/> インフォメーションデザイン	前期	川野 智美	2
MM 516	<input type="checkbox"/> 就職活動とキャリアデザイン	前期	佐藤宏樹・神林優	2
MA 553	<input type="checkbox"/> キャラクター造形演習	後期	和田 歩美	2
MA 555	<input type="checkbox"/> マンガ制作実習Ⅱ	後期	市野治美・青田めい ・和田歩美	2
AN 559	<input type="checkbox"/> アニメ制作Ⅳ	後期	古瀬 登・川上 遥	2
AN 579	<input type="checkbox"/> シナリオ原作Ⅱ	後期	平野 靖士	2
GA 563	<input type="checkbox"/> ゲーム企画演習Ⅳ	後期	井上幸喜・吉岡章夫	2
GA 565	<input type="checkbox"/> 3DCGⅣ	後期	宮下 善成	2
GA 566	<input type="checkbox"/> インタラクティブ映像制作	後期	西山 信行	2
IL 567	<input type="checkbox"/> 絵本表現Ⅱ	後期	城芽ハヤト	2
IL 568	<input type="checkbox"/> 造形表現Ⅱ	後期	安田 隆浩	2
IL/MD 569	<input type="checkbox"/> グラフィックデザイン演習Ⅱ	後期	松吉 太郎	2
MD 572	<input type="checkbox"/> コンテンツデザイン演習	後期	渡邊哲意・中村泰之	2
MD/IL 573	<input type="checkbox"/> アドバタイジング演習	後期	木村 亮	2

科目レベルの変更により、2020年度以降入学生と2019年度以前入学生で、科目ナンバーが異なる授業科目は、下表の通りです。

授業科目名	科目ナンバー	
	2020年度以降入学生用	2019年度以前入学生用
日本漫画史	MA 131	MA 410
コンピュータグラフィックス I	GA/MD 160	GA/MD 370
マンガ表現研究	MA 267	MA 451
ゲームシナリオ制作	GA 268	GA 159
コンピュータグラフィックス II	GA/MD 255	GA/MD 471
視覚表現 I	IL/MD 269	IL 155
デッサン II	MM 350	MM 251
ストーリーマンガ制作基礎	MA 373	MA 163
マンガ制作基礎	MA374	MA 252
アニメスキルIII (中割り)	AN 375	AN 453
アニメ背景美術 I	AN 376	AN 152
企画・発想法とプレゼンテーション技法	GA 316	GA/MD 228
造形表現演習 II	IL 377	IL/MD/MM 262
映像表現論	MD 317	MD 126
ストーリーマンガ論	MA 417	MA 510
ペン画表現研究 II	MA 474	MA 556
キーフレーム	AN 475	AN 560
アニメ背景水彩表現	AN 476	AN/MM 254
ファンタジーと物語 (物語作法)	AN 477	AN 153
音響制作	AN/MD 478	AN/MD 366
コンピュータデザイン演習	MA/IL/MD 479	MA/IL/MD 353
広告表現概論	IL/MD 418	IL/MD 220
音楽 (劇場用・TV用・CM用・Web用)	AN/MD 551	AN/MD 456
シナリオ原作 I (旧シナリオ原作)	AN/MD 552	AN/MD 457
イラストレーション III	IL 557	IL 463
絵本表現 I	IL 561	IL 464
編集デザイン表現 II	IL/MD 556	IL/MD 462
CM表現研究	MD 561	MD 413

宝塚大学 東京メディア芸術学部 メディア芸術学科 2022年度 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

担当教員	専/兼	科目No.	科目分類	授業科目名	単位数	ページ	実務経験概要	授業内容
芦谷 耕平	専任	AN 266	専門選択	アニメデジタル基礎	2		映像作家・アニメーター。商業アニメーターとして多くの作画監督を務める他、漫画家・映像作家としても作品を発表。	Adobe Premiere/After Effectsを使用し、動画編集ツールの基礎的な使用法を学ぶ。
		IL/MD/MM 313	専門選択	インデペンデント映像及びアニメーション概論	2			世界各国のアート系映像作家の作品から、歴史、映像分野の特性などを解説する。
		MA/AN 415	専門選択	現代マンガアニメ研究	2			「ジョジョの奇妙な冒険」荒木飛呂彦の漫画術を主な題材に、現代マンガの制作手法・発表形態・媒体等について学ぶ。
		MA 554	専門選択	マンガ制作実習 I	2			卒業制作に向けアイデアを練る作業と、選考作家・過去作品研究の講義を並行して行う。
有富 洋平	兼任	GA 359	専門選択	3DCG I	2		クリエイターとしてキャラクターモデリング業務やVRイベント空間の構築を行う。	Blenderによるモデリング、マテリアル作成、UV展開、テクスチャ作成、リギング、アニメーション作成などを身につける。
		MD 378	専門選択	メディアCG表現 I	2			Blenderの基本的な使い方を理解し、3Dモデルの制作方法、マテリアルやテクスチャーでの質感をつける方法などを学ぶ。
		GA 459	専門選択	3DCG II	2			背景モデル制作に必要な基礎知識やテクスチャーの質感を向上させる方法を身につける。
		MD 480	専門選択	メディアCG表現 II	2			Blenderでのアニメーション作成を中心に、パーティクルを使用した効率的な背景モデルの配置や動画として書き出す方法を学ぶ。カメラアニメーションやカメラの切り替える方法を学ぶ。実際にレンダリングの際に起こりがちなトラブルの対処法などを学び、最終的に説得力のある動画を制作することを目的とする。
池端 規恵子	兼任	MD 319	専門選択	映像表現論	2		映画スポット編集、ドキュメンタリー番組演出を務める。映像作品が各国にて特別賞を受賞	実社会で用いられるメディアや映像等について、具体的事例を用いながら解説する。
市野 治美	専任	MA 118	専門選択	ストーリー創作基礎	2		漫画家としてファンタジーマンガを発表。その他、漫画原作者、イラストレーターとしても活動。現在は広告系・教育系マンガの企画制作なども手がけている。	オリジナルのストーリー作品を制作することを通じて、自らの意図を相手に伝えるための文章力を身につける。
		MA 227	専門選択	コミックイラスト概論	2			1900年から現在までのコミックイラスト作品を取り上げ、作家、技法を紹介する。
		MA 511	専門選択	物語文化論	2			日本の文芸、芸能の歴史を解説し、各自の創作に活用できる分析手法を修得する。
		MA 553	専門選択	キャラクター造形演習	2			オリジナルキャラクターを自在に創作する実力と、商業的な企画力、プレゼンテクニックを身につける。
伊丹谷 良介	兼任	MM 114	専門選択	ロックミュージック概論 I	2		ミュージシャンとしてアジアを中心に年間300本のライブを敢行。著名人とのコラボレーションも多数。現在HATAKE BANDのヴォーカルとしても活動中。	ロックミュージックの誕生から現在までの変化について、各ジャンル・スタイルに分類、解説を行い、現代音楽としてのロックの特性について論じる。
		MM 214	専門選択	ロックミュージック概論 II	2			
井上 幸喜	専任	GA 501	専門必修	卒業研究 I	2		ゲームクリエイター、アートデザイナー、シナリオライター。Play Station用ソフト『クーロンズゲート』の企画・アートディレクションを担当。ジェットグラフィックスを設立。30本以上のゲーム制作に携わる。	学びの集大成としてゲーム要素を含む作品を制作し、プレゼンテーションを行う。
		GA 502	専門必修	卒業研究 II	2			
		GA 268	専門選択	ゲームシナリオ制作	2			ゲーム作品特有のシナリオ技法を学ぶ。ゲームシステムの中核となるストーリーを組み立て、ゲーム作品の企画原案まで発展させることを学ぶ。
		GA/MD 316	専門選択	企画・発想法とプレゼンテーション技法	2			ゲームの発想法、アイデアシートの作成法、企画書への落とし込みの手法を学ぶ。また、自ら作成した企画書を基に効果的なプレゼンテーションの手法を学ぶ。
		GA/MD 360	専門選択	ゲームキャラクターデザイン	2			デジタルコンテンツにおけるキャラクターデザインの手法を学ぶ。
		GA 563	専門選択	ゲーム企画演習 IV	2			少人数グループによるゲームのプロトタイプ制作を通じて、UI/UX、スケジュールやコミュニケーションなどの重要性を理解する。
王 子江	兼任	AN/MM 290	専門選択	水墨画	2		水墨画家。内閣総理大臣賞など受賞歴多数。NHKテレビ水墨画講師経験あり。	水墨画初心者向けの基礎作りの授業。水墨画の画材説明・使い方から入り、水墨画の最も基礎となる「線」の練習と線描を中心として行う。
		MA 369	専門選択	デジタルマンガ表現技法 I	2			PCを使用してモノクロマンガ作品を制作するための基礎を学ぶ。ツールは主にCLIP STUDIO PANTを使用する。
		MA 469	専門選択	デジタルマンガ表現技法 II	2			CLIP STUDIO PANTにおけるトーンワークなどの基本技術の他、背景作画、特殊効果処理など、マンガ作品のクオリティアップに欠かせない技術を学ぶ。

担当教員	専/兼	科目No.	科目分類	授業科目名	単位数	ページ	実務経験概要	授業内容
青田 めい	専任	MA 374	専門選択	マンガ制作基礎	2		商業漫画家。東海大学芸術学研究科造型芸術専攻修士課程修了。 4コママンガやコミックイラストを中心に制作活動を行う。	オリジナルマンガを制作する。プロット、キャラクター作り、ネーム、原稿という手順で作成する。
		MA 555	専門選択	マンガ制作実習Ⅱ	2			劇画、四コマ、電子配信マンガ、ゲーム設定、アニメ設定、ライトノベル設定映像配信設定など広義な意味でのマンガ制作の企画制作演習、検証研究を行う。
		MM 104	専門選択	コンピュータデザイン基礎Ⅰ	2			コンピュータを使用したデザイン制作の基礎を学ぶ。デザインの現場で使用される代表的なソフトウェアAdobe Photoshop、Adobe Illustratorの基本的な使用方法を学び、各ソフトウェアの「アドビ認定プロフェッショナル」資格を取得可能なレベルのスキル習得を目指す。
		MM 204	専門選択	コンピュータデザイン基礎Ⅱ	2			
加藤 雅夫	兼任	GE 118	基礎	情報と経済Ⅰ	2	(株)テレビ東京上席執行役員等、メディア業界で長年活動。エンタテインメントとスポーツのコンテンツビジネスに従事。	情報メディアやエンタテインメント産業の最新動向を、経済的な側面を中心に紹介・検証しながら学習する。	
		GE 217	基礎	情報と経済Ⅱ	2			
金子 修	兼任	GA/MD 160	専門選択	モーショングラフィックスⅠ	2	テレビ番組のディレクターを経て、現在は映像作家として活動。映画祭で数々の賞を受賞	ゲーム、映像、web、広告など、どの業界でも必要とされるコンピューターグラフィックスの基本ツールを、実例を示しながら実践する。	
		GA/MD 255	専門選択	モーショングラフィックスⅡ	2			
川野 智美	兼任	MD/MM 367	専門選択	デザイン基礎演習	2	グラフィックデザイナー。広告の企画立案からプロダクトデザインまで、製品・サービスのトータルデザインを得意とする。	デザインに必要な基礎的要素を講義及び演習で学ぶ。演習ではPhotoshop、Illustratorを使用する。	
		IL/MD 418	専門選択	広告表現概論	2		広告の基礎知識を身に付けた後、グループワークの手法で実践的な広告提案のテクニックを学ぶ。	
		MD 481	専門選択	デザイン企画論	2		デザイナーとして必要となる企画力や、企画に必要な、調査・発想・表現・伝達を学ぶ。	
		MD/IL 571	専門選択	インフォメーションデザイン	2		デザイナーに要求される分析力、情報処理力、編集力を課題を通して理解を深めていく。	
		MD/IL 573	専門選択	アドバタイジング演習	2		デザイナー業務の実際の現場について、ディスカッションしながら演習を行い広告の知識、表現について学ぶ。	
北見 隆	専任	IL 501	専門必修	卒業研究Ⅰ	8	イラストレーターとして長年活躍として活動し、様々なジャンルの音楽制作を行っている。	各科目を通して、イラストレーションの基本的な技法、理論から実制作に関する具体的な技術指導まで、一貫して教授する。	
		IL 502	専門必修	卒業研究Ⅱ	8			
		IL 121	専門選択	発想表現	2			
		IL 219	専門選択	イラストレーション概論Ⅰ	2			
		IL 412	専門選択	イラストレーション概論Ⅱ	2			
		IL 557	専門選択	イラストレーションⅢ	2			
北村 伊知郎	兼任	MD 126	専門選択	メディアリテラシー	2	国際会議やコンベンションサービスを手がける企業にて、映像やメディア戦略に中心的に携わる。	実社会で用いられるメディアや映像等について、具体的事例を用いながら詳説する。	
楠木 あると	兼任	MA 374	専門選択	マンガ制作基礎	2	マンガ家。コメディやビジネスドラマなど幅広い分野での作品を出版している。	オリジナルマンガを制作する。プロット、キャラクター作り、ネーム、原稿という手順で作成する。	
坂口 博樹	兼任	AN/MD 478	専門選択	音響制作	2	作編曲家、音楽プロデューサーとして活動し、様々なジャンルの音楽制作を行っている。	音響制作ソフトなどを用いて、音を使用する作品の制作方法を教授する。	
		AN/MD 551	専門選択	音楽	2			
澤田 美樹		MA 472	専門選択	コミックイラスト演習Ⅱ	2	クリエイティブ企業勤務の後、独立してフリーランスのイラストレーター・漫画家として活動する。	実務経験をもとに、作品制作の具体的な方法論、社会への発信の方法等を教授する。	
四宮 義幸	兼任	IL/MM 162	専門選択	造形表現演習Ⅰ	2	版画工房を経営。版画表現にとどまらず、多様な表現方法を用いて作品制作を続け、発表している。	モノをとらえるための基礎的訓練となるデッサンと、実務経験をもとにした立体物制作の表現方法を扱う。	
		IL 260	専門選択	版画表現	2			
		MM 350	専門選択	デッサンⅡ	2			
柴田 こそえ	兼任	IL 561	専門選択	絵本表現Ⅰ	2	長年にわたり絵本・画集の編集及び執筆の経験を有する。	表現としての絵本の制作について、実践的に教授する。	
清水 友乃	兼任	IL/MM 162	専門選択	造形表現演習Ⅰ	2	版画作家として多様な表現方法をもとに作品を発表している。	モノをとらえるための基礎的訓練となるデッサンと、実務経験をもとにした立体物制作の表現方法を扱う。	
		IL 260	専門選択	版画表現	2			
		MM 350	専門選択	デッサンⅡ	2			
城芽 ハヤト	兼任	IL 259	専門選択	絵画実習	2	イラストレーターとして作品発表を行うとともに、書籍の装丁や挿画を手がける。	モノをとらえるための基礎的訓練となるデッサンと、実務経験をもとにした平面作品の表現方法を扱う。	
		IL 361	専門選択	編集デザイン表現Ⅰ	2			

担当教員	専/兼	科目No.	科目分類	授業科目名	単位数	ページ	実務経験概要	授業内容
瀬戸 早苗	兼任	MA/IL/MD 479	専門選択	コンピュータデザイン演習	2		デザイナー、DTPオペレーターとしてエディトリアルデザインや広告などを手がける。	DTPの基本から実制作までを、実際の現場の実例も挙げながら詳説する。
		IL/MD 556	専門選択	編集デザイン表現Ⅱ	2			
高田 美苗	専任	IL 157	専門選択	空間構成	2		企業においてデザイナーとして勤務後、フリーランスのイラストレーター・画家・デザイナーとして活動し、多数の作品を発表している。	平面から立体物まで、多様な表現技法を用いた作品制作の方法を教授する。
		IL/MM 261	専門選択	イラストレーションⅠ	2			
		IL 377	専門選択	造形表現演習Ⅱ	2			
		IL/MD 461	専門選択	造形表現Ⅰ	2			
		IL 568	専門選択	造形表現Ⅱ	2			
西岡 悠妃	専任	MM/IL 158	専門選択	デッサンⅠ	2		日本画家。2021年度院展大観賞など受賞多数。	楽しく描くことで集中力を身につけ、絵の基本を学んでいく。また鉛筆の色の幅を増やすことで、イラストレーションを描く上で大事な基礎力を学ぶ。ポートフォリオに向けての制作も行う。
森 けい	兼任	GA 357	専門選択	ゲームプログラミング入門	2		Webシステム開発やアプリやゲームの開発を行う。Unityを用いたゲーム開発経験あり。	ゲームエンジンUnityを使用したゲーム制作を学習しながら、Unityの基礎知識と技能の習得を行う。
たちばな いさぎ	兼任	MA 164	専門選択	マンガ表現基礎	2		漫画家として、漫画誌に連載を行う。	漫画の背景で日常的によく出てくるものなどの描き方を教授し、実際の作画方法について指導する。
		MA 267	専門選択	マンガ表現研究	2			
たぶき 正博	兼任	IL/MD 269	専門選択	視覚表現Ⅰ	2		広告代理店にて勤務後、イラストレーターとして活躍。広告や商品パッケージを手掛けている。	製図などに必要な基本的な技術を教授し、イラストやCGなどの作品を制作の指導を行う。
		IL 363	専門選択	視覚表現Ⅱ	2			
田淵 俊彦	兼任	MD 129	専門選択	放送概論	2		テレビ局のプロデューサーとして、TV番組の制作に携わり、本の執筆も行っている。	実例を交えながら、放送の現状や特徴と機能、社会的影響力を教授する。
多和田 吏	兼任	GA 358	専門選択	ゲームサウンド演習	2		作曲家、ピアニストとして活躍し、多くのゲーム音楽の制作に携わっている。	音楽や効果音が、どのように作られるのかを解説し、音源制作の指導を行う。
月岡 貞夫	特任	AN/MM 130	専門選択	現代アニメ文化論Ⅰ	2		アニメーターとして長年活躍し、数多くのアニメ作品を制作、後進の育成も手掛けている。	アニメーションの歴史やアニメーション制作に必要な様々な表現について概説する。
		AN/MM 226	専門選択	現代アニメ文化論Ⅱ	2			
西山 信行	兼任	GA 566	専門選択	インタラクティブ映像制作	2		ゲームプログラマーとして長年活躍し、アプリケーションの開発に携わる。	インタラクティブコンテンツ制作に必要な手法と技術を基本から修得する。演習と課題制作を通して、プログラミングによる機能実装の仕組みを学習する。
橋本 三郎	兼任	AN 132	専門選択	アニメ制作・研究基礎Ⅰ	2		企業でのアニメーション業務を経て、アニメーションディレクターの他、TV、コマースの分野で活動している。	アニメ制作の基本となる知識と考え方を学ぶ。アニメの歴史・技術の進化、表現力を研究。 実際のアニメーションの絵コンテを作成を通して、アニメ演出の役割を教授する。
		AN 229	専門選択	アニメ制作・研究基礎Ⅱ	2			
		AN/MD 312	専門選択	アニメ演出論Ⅰ	2			
		AN 466	専門選択	アニメ演出論Ⅱ	2			
はとり あゆむ	兼任	AN 355	専門選択	アニメ撮影技術Ⅰ	2		アニメーション撮影監督、プロデューサーとして、アニメーション撮影の素材提供などに携わっている。	実務経験を基にしたデジタルアニメーションの制作過程と、編集技術の教授を行う。
		AN 467	専門選択	アニメ撮影技術Ⅱ	2			
原田 康	兼任	MD 379	専門選択	メディアプログラミング基礎	2		エンジニア、テクニカルディレクター。インタラクティブコンテンツの領域で10年以上の経験。	TouchDesignerを使用し、様々なメディアを使用したプログラミングを学ぶ。PythonやGLSLと言った言語についても触れる。
		AN 477	専門選択	ファンタジーと物語(物語作法)	2		シナリオライターとして、アニメーションや映像作品の制作に携わっている。	物語を創る発想力、基本的スキルを教授し、シナリオ制作の指導を行う。
		AN/MD 552	専門選択	シナリオ原作Ⅰ	2			
AN/MD 579	専門選択	シナリオ原作Ⅱ	2					
深谷 陽	兼任	MA 373	専門選択	ストーリーマンガ制作基礎	2		マンガ家。数多くの単行本を発売しており、映像化された作品もある。	漫画独特の表現であるコマワリの手法、そして最も重要と言われるキャラクターについて学び、短編のネームを制作する
古瀬 登	専任	AN 501	専門必修	卒業研究Ⅰ	8		アニメーター、作画監督。多数の商業アニメーション作品で作画監督を務める。	アニメーション制作の基本から、作品制作に必要なあらゆる技術を、業界の最新の動向を踏まえながら実践する。
		AN 502	専門必修	卒業研究Ⅱ	8			
		AN 151	専門選択	アニメスキルⅠ	2			
		AN 253	専門選択	アニメスキルⅡ	2			
		AN 354	専門選択	アニメ制作Ⅰ	2			
		AN 375	専門選択	アニメスキルⅢ(中割り)	2			
		AN 454	専門選択	アニメ制作Ⅱ	2			
		AN 475	専門選択	キーフレーム	2			
		AN 558	専門選択	アニメ制作Ⅲ	2			
AN 559	専門選択	アニメ制作Ⅳ	2					

担当教員	専/兼	科目No.	科目分類	授業科目名	単位数	ページ	実務経験概要	授業内容																																																																																																																																																																																																								
平敷 隆	兼任	MA 165	専門選択	マンガ背景美術 I	2		漫画家、アシスタントの業務経験を有する。	マンガを制作する際に必要な背景の技術を、実例を示しながら実践する。																																																																																																																																																																																																								
		MA 372	専門選択	マンガ背景美術 II	2				真島 ヒロシ	兼任	GA/MD 161	専門選択	映像・演出 I	2		ミュージックビデオ・TVCM企画演出の業務経験を有する。	長編映像作品を制作する際に必要な撮影・編集技術を、実例を示しながら実践する。 効果的な広告表現手法を、実例を示しながら実践する。	MD 264	専門選択	映像・演出 II	2		MD 561	専門選択	CM表現研究	2		松平 聡	兼任	AN/MM 154	専門選択	アニメ背景遠近法	2		アニメーション美術監督の業務経験を有する。	アニメーション制作における背景美術の技術を、実例を示しながら実践する。	AN 376	専門選択	アニメ背景美術 I	2		AN 455	専門選択	アニメ背景美術 II	2		AN 476	専門選択	アニメ背景水彩表現	2		松本 零士	兼任	MA 116	専門選択	現代漫画文化論 I	2		『銀河鉄道999』などの代表作を有する日本漫画界の第一人者。	漫画制作の基礎的理論や発想法を、実例を示しながら実践する。	MA 217	専門選択	現代漫画文化論 II	2		松吉 太郎	兼任	IL/MD 364	専門選択	グラフィックデザイン演習 I	2		グラフィックデザイナー。ブックデザインからポスター、ロゴ、マーク、サイン計画などを手がける。	ポスターやパンフレットをデザインする際に必要なグラフィックデザインの技術を、実例を示しながら実践する。	MA/IL/MD 479	専門選択	コンピュータデザイン演習	2		IL 411	専門選択	視覚伝達論	2		IL/MD 556	専門選択	編集デザイン表現 II	2		IL/MD 569	専門選択	グラフィックデザイン演習 II	2		真山 葉瑠	兼任	GE 123	基礎	健康科学	2		宝塚歌劇団・フィットネスクラブインストラクターとして活躍した経験を有する。舞台出演等多数。	身体表現のワークショップを通じて、自己解放やストレスの軽減。身体表現の楽しさ等を学ぶ。	宮下 善成	兼任	GA 564	専門選択	3DCGⅢ	2		CGデザイナー。CG制作会社の代表取締役を務める。	3DCGソフトHoudiniを用いたアニメーションを制作する際に必要な基本技術を、実例を示しながら実践する。	GA 565	専門選択	3DCGⅣ	2		安田 隆浩	兼任	IL/MD 156	専門選択	色彩構成	2		イラストレーター。童話の挿絵をはじめとして、本、CDのカバーイラスト、広告など幅広い創作活動を行っている。	表現の基礎的な技術を、実例を示しながら実践する。	MM/IL 158	専門選択	デッサン I	2		MM 216	専門選択	人物描写基礎	2		IL 362	専門選択	イラストレーション II	2		IL 567	専門選択	絵本表現 II	2		山本 圭太	兼任	MD 482	専門選択	空間演出演習	2		空間演出・舞台照明演出などの実務経験を有する。		吉岡 章夫	専任	GA/MD 160	専門選択	コンピュータグラフィックス I	2		株式会社JETMAN取締役、クリエイティブディレクター。ゲームの開発手法を活かしたUIデザイン、コンテンツ企画の業務経験を有する。	ゲーム、映像、web、広告など、どの業界でも必要とされるコンピューターグラフィックスの基本ツールを、実例を示しながら実践する。 ゲーム制作に必要な企画発想力、デザイン・プログラムの技術を、実例を示しながら実践する。	GA/MD 255	専門選択	コンピュータグラフィックス II	2		GA 356	専門選択	ゲーム企画演習 I	2		GA 458	専門選択	ゲーム企画演習 II	2		GA 562	専門選択	ゲーム企画演習 III	2		吉田 光彦	兼任	MA 351	専門選択	ペン画表現研究 I	2		漫画家、イラストレーター。劇団のポスター、挿絵、イラストなどを手がける。	ペン画に必要な描写の技術を、実例を示しながら実践する。 挿絵を描く際に必要な技術を、実例を示しながら実践する。	MA 474	専門選択	ペン画表現研究 II	2		IL 515	専門選択	挿絵表現	2		実務経験のある教員等による授業科目の単位数合計 (重複科目を除く)				
真島 ヒロシ	兼任	GA/MD 161	専門選択	映像・演出 I	2		ミュージックビデオ・TVCM企画演出の業務経験を有する。	長編映像作品を制作する際に必要な撮影・編集技術を、実例を示しながら実践する。 効果的な広告表現手法を、実例を示しながら実践する。																																																																																																																																																																																																								
		MD 264	専門選択	映像・演出 II	2																																																																																																																																																																																																											
		MD 561	専門選択	CM表現研究	2																																																																																																																																																																																																											
松平 聡	兼任	AN/MM 154	専門選択	アニメ背景遠近法	2		アニメーション美術監督の業務経験を有する。	アニメーション制作における背景美術の技術を、実例を示しながら実践する。																																																																																																																																																																																																								
		AN 376	専門選択	アニメ背景美術 I	2																																																																																																																																																																																																											
		AN 455	専門選択	アニメ背景美術 II	2																																																																																																																																																																																																											
		AN 476	専門選択	アニメ背景水彩表現	2																																																																																																																																																																																																											
松本 零士	兼任	MA 116	専門選択	現代漫画文化論 I	2		『銀河鉄道999』などの代表作を有する日本漫画界の第一人者。	漫画制作の基礎的理論や発想法を、実例を示しながら実践する。																																																																																																																																																																																																								
		MA 217	専門選択	現代漫画文化論 II	2																																																																																																																																																																																																											
松吉 太郎	兼任	IL/MD 364	専門選択	グラフィックデザイン演習 I	2		グラフィックデザイナー。ブックデザインからポスター、ロゴ、マーク、サイン計画などを手がける。	ポスターやパンフレットをデザインする際に必要なグラフィックデザインの技術を、実例を示しながら実践する。																																																																																																																																																																																																								
		MA/IL/MD 479	専門選択	コンピュータデザイン演習	2																																																																																																																																																																																																											
		IL 411	専門選択	視覚伝達論	2																																																																																																																																																																																																											
		IL/MD 556	専門選択	編集デザイン表現 II	2																																																																																																																																																																																																											
		IL/MD 569	専門選択	グラフィックデザイン演習 II	2																																																																																																																																																																																																											
真山 葉瑠	兼任	GE 123	基礎	健康科学	2		宝塚歌劇団・フィットネスクラブインストラクターとして活躍した経験を有する。舞台出演等多数。	身体表現のワークショップを通じて、自己解放やストレスの軽減。身体表現の楽しさ等を学ぶ。																																																																																																																																																																																																								
宮下 善成	兼任	GA 564	専門選択	3DCGⅢ	2		CGデザイナー。CG制作会社の代表取締役を務める。	3DCGソフトHoudiniを用いたアニメーションを制作する際に必要な基本技術を、実例を示しながら実践する。																																																																																																																																																																																																								
		GA 565	専門選択	3DCGⅣ	2																																																																																																																																																																																																											
安田 隆浩	兼任	IL/MD 156	専門選択	色彩構成	2		イラストレーター。童話の挿絵をはじめとして、本、CDのカバーイラスト、広告など幅広い創作活動を行っている。	表現の基礎的な技術を、実例を示しながら実践する。																																																																																																																																																																																																								
		MM/IL 158	専門選択	デッサン I	2																																																																																																																																																																																																											
		MM 216	専門選択	人物描写基礎	2																																																																																																																																																																																																											
		IL 362	専門選択	イラストレーション II	2																																																																																																																																																																																																											
		IL 567	専門選択	絵本表現 II	2																																																																																																																																																																																																											
山本 圭太	兼任	MD 482	専門選択	空間演出演習	2		空間演出・舞台照明演出などの実務経験を有する。																																																																																																																																																																																																									
吉岡 章夫	専任	GA/MD 160	専門選択	コンピュータグラフィックス I	2		株式会社JETMAN取締役、クリエイティブディレクター。ゲームの開発手法を活かしたUIデザイン、コンテンツ企画の業務経験を有する。	ゲーム、映像、web、広告など、どの業界でも必要とされるコンピューターグラフィックスの基本ツールを、実例を示しながら実践する。 ゲーム制作に必要な企画発想力、デザイン・プログラムの技術を、実例を示しながら実践する。																																																																																																																																																																																																								
		GA/MD 255	専門選択	コンピュータグラフィックス II	2																																																																																																																																																																																																											
		GA 356	専門選択	ゲーム企画演習 I	2																																																																																																																																																																																																											
		GA 458	専門選択	ゲーム企画演習 II	2																																																																																																																																																																																																											
		GA 562	専門選択	ゲーム企画演習 III	2																																																																																																																																																																																																											
吉田 光彦	兼任	MA 351	専門選択	ペン画表現研究 I	2		漫画家、イラストレーター。劇団のポスター、挿絵、イラストなどを手がける。	ペン画に必要な描写の技術を、実例を示しながら実践する。 挿絵を描く際に必要な技術を、実例を示しながら実践する。																																																																																																																																																																																																								
		MA 474	専門選択	ペン画表現研究 II	2																																																																																																																																																																																																											
		IL 515	専門選択	挿絵表現	2																																																																																																																																																																																																											
実務経験のある教員等による授業科目の単位数合計 (重複科目を除く)					246																																																																																																																																																																																																											

世界観と人生観 I

GE110

東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目
1年生 2年生 3年生 4年生
2単位 前期
2【動画型2】
講義/1コマ

中川 明博

〔科目の概要および目的〕

西洋の主な哲学者の考え方を紹介し、その世界観・人生観について検討していく授業。毎回のテーマについてテキストに沿って解説していく。今学期は古代ギリシャの最初期の哲学からはじめて、近代の哲学までを取り上げる。自分とは異なる考え方を理解し、柔軟かつ批判的に受けとめる力をつけ、自分の考えを論理的に表現できるようにすることで、視野を広げ、豊かなものの見方を身につけてもらいたい。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・世界観・人生観にはどのような考え方があるのかを知る。
- ・異なる考え方の違いと根拠を説明できる。
- ・問題を提起できる。
- ・自分の考えを論理的に述べるができる。

〔授業形態〕

2【動画型2】

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
授業の概要、授業の進め方、受講の心得などについて説明する。
事前/シラバスを読んでおく(2時間)
事後/受講の仕方を整理する(2時間)
- 第 2 回 自然学者とソフィスト(1)
哲学のはじまり（万物の根源は何か）
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)
- 第 3 回 自然学者とソフィスト(2)
プロタゴラスの相対主義（人間は万物の尺度である）
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)
- 第 4 回 ソクラテス(1)
無知の知とは
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)
- 第 5 回 ソクラテス(2)
魂への配慮（一番大切なことは何か）
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)
- 第 6 回 プラトン(1)
イデア論（真実の世界はあるか）
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)
- 第 7 回 プラトン(2)

想起説と二世界説

事前/教科書の予習(2時間)

事後/課題を解く(2時間)

- 第 8 回 イデア論批判
イデア論への批判をいくつか紹介する
事前/教科書の予習(2時間)

事後/課題を解く(2時間)

- 第 9 回 アリストテレス
プラトン批判と四原因説
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)

- 第 10 回 デカルト(1)
方法的懐疑（疑うことのできないこととは）
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)

- 第 11 回 デカルト(2)
主観とは、客観とは
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)

- 第 12 回 ロック
イギリス経験論の祖（知識は経験にもとづく）
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)

- 第 13 回 バークリ
イギリス経験論の継承（存在するとは知覚されること）
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)

- 第 14 回 ヒューム
イギリス経験論の展開（因果関係は疑わしい）
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)

- 第 15 回 まとめ
今学期の授業をふりかえって
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：— /

3回：E / 4回：— /

5回：— / 6回：— /

7回：— / 8回：E /

9回：— / 10回：E /

11回：— / 12回：— /

13回：E / 14回：— /

15回：—

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

哲学・思想に興味があること。日本語が読めて書けること。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

Microsoft Teamsを使用できるPC

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

毎回の課題（100%）：各回の内容を理解できているか、自分の考えを自分の言葉で説明でき、問題提起ができていのか等を評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

課題の結果について授業で全体にコメントします。

〔出席確認の方法〕

課題の提出による。

〔基本的な授業の進め方〕

- ・ 授業説明:10分
- ・ その日の講義 1 :説明25分
- ・ その日の講義 2 :説明25分
- ・ 課題への取り組み:30分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：－
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：△

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
－：関連していない】

〔教科書〕

プリント配布

〔参考文献〕

必要に応じて授業内で適宜紹介します。

〔オフィスアワー〕

Microsoft Teamsのチャットを使用します。

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

世界観と人生観Ⅱ

GE210

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

2【動画型2】

講義/1コマ

中川 明博

〔科目の概要および目的〕

西洋の主な哲学者の考え方を紹介し、その世界観・人生観について検討していく授業。毎回のテーマについてテキストに沿って解説していく。今学期は現代哲学を取り上げる。自分とは異なる考え方を理解し、柔軟かつ批判的に受けとめる力をつけ、自分の考えを論理的に表現できるようにすることで、視野を広げ、豊かなものの見方を身につけてもらいたい。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・ 世界観・人生観にはどのような考え方があるのかを知る。
- ・ 異なる考え方の違いと根拠を説明できる。
- ・ 問題を提起できる。
- ・ 自分の考えを論理的に述べることができる。

〔授業形態〕

2【動画型2】

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
授業の概要、授業の進め方、受講の心得などについて説明する。
事前/シラバスを読んでおく(2時間)
事後/受講の仕方を整理する(2時間)
- 第 2 回 ニーチェ (1)
神は死んだ
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)
- 第 3 回 ニーチェ (2)
奴隷道徳
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)
- 第 4 回 ベンサム
最大多数の最大幸福
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)
- 第 5 回 J.S.ミル
満足した豚であるより不満足な人間である方がよい
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)
- 第 6 回 フロイト
夢には意味がある
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)
- 第 7 回 ウィトゲンシュタイン (1)
語りえぬものについては沈黙しなければならない
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)
- 第 8 回 ウィトゲンシュタイン (2)
言語ゲーム
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)
- 第 9 回 ソシュール
言葉が世界を秩序づけている
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)
- 第 10 回 ハイデガー
死への存在
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)
- 第 11 回 サルトル
実存は本質に先立つ
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)

- 第 12 回 ホルクハイマー
なぜ人類は野蛮状態へと落ち込んでいくのか
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)
- 第 13 回 ロールズ
正義とは
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)
- 第 14 回 生命倫理・環境倫理
生命・環境に関する倫理的問題とは
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)
- 第 15 回 まとめ
今学期の授業をふりかえって
事前/教科書の予習(2時間)
事後/課題を解く(2時間)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：E /
5回：— / 6回：— /
7回：— / 8回：E /
9回：E / 10回：— /
11回：— / 12回：— /
13回：E / 14回：— /
15回：—

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

哲学・思想に興味があること。日本語が読めて書けること。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

Microsoft Teamsを使用できるPC

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

毎回の課題（100%）：各回の内容を理解できているか、自分の考えを自分の言葉で説明でき、問題提起ができていないか等を評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

課題の結果について授業で全体にコメントします。

〔出席確認の方法〕

課題の提出による。

〔基本的な授業の進め方〕

- ・ 授業説明:10分
- ・ その日の講義 1:説明25分
- ・ その日の講義 2:説明25分
- ・ 課題への取り組み:30分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：△

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

プリント配布

〔参考文献〕

必要に応じて授業内で適宜紹介します。

〔オフィスアワー〕

Microsoft Teamsのチャットを使用します。

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

日本文化史 I

GE111

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目

1年生 2年生 3年生 4年生
2単位 前期

2【動画型2】
講義/1コマ

馬場 匡浩

〔科目の概要および目的〕

本講義では、日本列島の先史時代にあたる旧石器・縄文・弥生・古墳時代の文化と社会のあり方について概説する。こうした前文字社会では、道具や建造物といったモノが、人々のまとまりを示したり、情報を伝達する唯一のメディアであった。そこで、モノのデザインについても時代ごとに紹介し、そこに盛り込まれた社会的メッセージについて述べる。日本の先史時代を学び、製作されたモノの形状や文様に込められた意味を理解することを目的とする。授業を通じて、学生には創作活動の刺激とアイデアを得てもらいたい。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・ 日本列島の歴史と文化を自分の言葉で説明できる。
- ・ 先史時代のモノづくりを述べることができる。
- ・ 日本の歴史と文化を創作活動に活用できる。

〔授業形態〕

2【動画型2】

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
講義の目的と進め方等について説明する
事前/シラバス・参考文献等で予習（1.5時間）
- 第 2 回 旧石器時代①
アフリカ大陸に出現した人類の進化を概説する
事前/参考文献等で予習（1.5時間）
事後/レジュメ等で復習（3時間）
- 第 3 回 旧石器時代②
日本列島に現れた人類とその文化を概説する
事前/参考文献等で予習（1.5時間）
事後/レジュメ等で復習（3時間）
- 第 4 回 縄文時代①

	縄文時代の社会と文化を概説する 事前/参考文献等で予習 (1.5時間) 事後/レジュメ等で復習 (3時間)
第 5 回	縄文時代② 縄文土器はなぜ凝っているのか 事前/参考文献等で予習 (1.5時間) 事後/レジュメ等で復習 (3時間)
第 6 回	縄文時代③ 土偶と石棒の正体 事前/参考文献等で予習 (1.5時間) 事後/レジュメ等で復習 (3時間)
第 7 回	縄文時代④ 縄文のモニュメント 事前/参考文献等で予習 (1.5時間) 事後/レジュメ等で復習 (3時間)
第 8 回	弥生時代① 弥生時代の社会と文化を概説する 事前/参考文献等で予習 (1.5時間) 事後/レジュメ等で復習 (3時間)
第 9 回	弥生時代② 武器生産と戦い 事前/参考文献等で予習 (1.5時間) 事後/レジュメ等で復習 (3時間)
第 10 回	弥生時代③ 鏡と銅鐸の意味 事前/参考文献等で予習 (1.5時間) 事後/レジュメ等で復習 (3時間)
第 11 回	弥生時代④ 邪馬台国はどこか 事前/参考文献等で予習 (1.5時間) 事後/レジュメ等で復習 (3時間)
第 12 回	古墳時代① 古墳時代の社会と文化を概説する 事前/参考文献等で予習 (1.5時間) 事後/レジュメ等で復習 (3時間)
第 13 回	古墳時代② 埴輪の生産 事前/参考文献等で予習 (1.5時間) 事後/レジュメ等で復習 (3時間)
第 14 回	古墳時代③ 巨大古墳の築造 事前/参考文献等で予習 (1.5時間) 事後/レジュメ等で復習 (3時間)
第 15 回	まとめ 講義内容のまとめとレポート評価 事後/レポートの推敲 (4.5時間)
〔アクティブラーニング〕	
1回	— / 2回 : — /
3回	E / 4回 : — /
5回	— / 6回 : — /
7回	E / 8回 : — /
9回	— / 10回 : — /
11回	— / 12回 : — /

13回	: — / 14回 : E /
15回	: —
〔事前に修得しておく必要のある科目〕	
なし	
〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕	
高校までに学んだ日本史の知識と確認	
〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕	
MicrosoftTeams	
MicrosoftForms	
MicrosoftPowerPoint	
AdobeAcrobat	
〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕	
①レポート (60%) : 授業を通じて得られた創作アイデアの論述を評価	
②平常点 (20%) : 積極的に授業に参加しているかを評価	
③コメント欄 (20%) : 疑問・興味を持ったことを質問や調べることで解決する姿勢とその意欲を評価	
〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕	
MicrosoftFormsを用いてコメント欄で疑問点や興味のある点を記載、翌週までにフィードバックする	
〔出席確認の方法〕	
MicrosoftFormsのURLにアクセスして出席確認をおこなう	
〔基本的な授業の進め方〕	
MicrosoftTeamsを用いて、時間割どおりに講義動画を視聴すること。基本、動画型で講義を進めますが、適宜、同時双方型も取り入れます。講義資料 (主にPowerPoint) はTeams内のフォルダーに格納されているので各自ダウンロードして使用すること。授業説明10分、講義70分、出席確認・コメントペーパーの記入10分	
〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕	
1.	主体的行動力 : △
2.	表現力 : ○
3.	社会貢献力・コラボレーション力 : —
4.	課題発見力・課題解決力 : ○
5.	コミュニケーション力 : ○
6.	専門的知識・技能の活用力 : ○
〔◎ : 特に関連が強い ○ : 関連が強い △ : 関連がある — : 関連していない〕	
〔教科書〕	
特になし	
〔参考文献〕	
『列島創世記』 / 松木武彦 / 小学館 / 2,400円	
〔オフィスアワー〕	
MicrosoftTeamsでのチャットや音声通話を使用します	
〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕	
なし	
〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕	
基本的な授業の進め方、オフィスアワー	

日本文化史Ⅱ

GE211
東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目
1年生 2年生 3年生 4年生
2単位 後期
2【動画型2】
講義/1コマ

馬場 匡浩

〔科目の概要および目的〕

本講義では、世界との比較を通じて、日本列島の先史時代にあたる旧石器・縄文・弥生・古墳時代の文化と社会について考える。様々なトピックスを設け、日本を軸に他の古代社会と比較考察し、その独自性または人類の多様性と普遍性について考える。日本の先史時代について、比較文化の視点から考え、人類の歩んできた歴史と文化の多様性と普遍性について理解を深めることを目的とする。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・日本列島の歴史と文化を自分の言葉で説明できる。
- ・日本と世界を比較して考えることができる。
- ・日本と世界の歴史と文化を創作活動に活用できる。

〔授業形態〕

2【動画型2】

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
講義の目的と進め方等について説明する
事前/シラバス・参考文献等で予習（1.5時間）
- 第 2 回 環境
日本列島の自然環境を概観し、環境と文化の関係を地球規模で考える
事前/参考文献等で予習（1.5時間）
事後/レジュメ等で復習（3時間）
- 第 3 回 神と宗教①
記紀にみられる日本の神とその系譜を紹介し、他文明のそれらと比較考察する
事前/参考文献等で予習（1.5時間）
事後/レジュメ等で復習（3時間）
- 第 4 回 神と宗教②
記紀にみられる日本の神とその系譜を紹介し、他文明のそれらと比較考察する
事前/参考文献等で予習（1.5時間）
事後/レジュメ等で復習（4時間）
- 第 5 回 王権と国家
日本における王権と国家の形成過程を紹介し、他文明のそれらと比較考察する
事前/参考文献等で予習（1.5時間）
事後/レジュメ等で復習（3時間）
- 第 6 回 文字
日本における文字の誕生とその系譜を紹介し、他文明のそれらと比較考察する
事前/参考文献等で予習（1.5時間）
事後/レジュメ等で復習（3時間）
- 第 7 回 モニュメント①

日本における大型建造物を紹介し、他文明のそれらと比較考察する

事前/参考文献等で予習（1.5時間）

事後/レジュメ等で復習（3時間）

- 第 8 回 モニュメント②
日本における大型建造物を紹介し、他文明のそれらと比較考察する

事前/参考文献等で予習（1.5時間）

事後/レジュメ等で復習（3時間）

- 第 9 回 墓と埋葬①
日本における墓と埋葬の変遷を概観し、他文明のそれらと比較考察する

事前/参考文献等で予習（1.5時間）

事後/レジュメ等で復習（3時間）

- 第 10 回 墓と埋葬②
日本における墓と埋葬の変遷を概観し、他文明のそれらと比較考察する

事前/参考文献等で予習（1.5時間）

事後/レジュメ等で復習（3時間）

- 第 11 回 墓を発掘する！
古代の墓における実際の発掘調査を紹介し、考古学の現場と研究の実像を理解する

事前/参考文献等で予習（1.5時間）

事後/レジュメ等で復習（3時間）

- 第 12 回 食べ物①
日本における食文化（お酒）の変遷を概観し、他文明のそれらと比較考察する

事前/参考文献等で予習（1.5時間）

事後/レジュメ等で復習（3時間）

- 第 13 回 食べ物②
日本における食文化（お酒）の変遷を概観し、他文明のそれらと比較考察する

事前/参考文献等で予習（1.5時間）

事後/レジュメ等で復習（3時間）

- 第 14 回 食べ物③
日本における食文化（穀物）の変遷を概観し、他文明のそれらと比較考察する

事前/参考文献等で予習（1.5時間）

事後/レジュメ等で復習（3時間）

- 第 15 回 まとめ
講義内容のまとめとレポート評価
事後/レポートの推敲（4.5時間）

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：— /

3回：— / 4回：— /

5回：E / 6回：— /

7回：— / 8回：— /

9回：— / 10回：E /

11回：— / 12回：— /

13回：— / 14回：E /

15回：—

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

高校までに学んだ日本史と世界史の知識と確認

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

MicrosoftTeams

MicrosoftForms

MicrosoftPowerPoint

AdobeAcrobat

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①レポート（60%）：授業を通じて得られた創作アイデアの論述を評価

②平常点（20%）：積極的に授業に参加しているかを評価

③コメント欄（20%）：疑問・興味を持ったことを質問や調べることで解決する姿勢とその意欲を評価

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

MicrosoftFormsを用いてコメント欄で疑問点や興味のある点を記載、翌週までにフィードバックする

〔出席確認の方法〕

MicrosoftFormsのURLにアクセスして出席確認をおこなう

〔基本的な授業の進め方〕

MicrosoftTeamsを用いて、時間割どおりに講義動画を視聴すること。基本、動画型で講義を進めますが、適宜、同時双方型も取り入れます。講義資料（主にPowerPoint）はTeams内のフォルダーに格納されているので各自ダウンロードして使用すること。授業説明10分、講義70分、出席確認・コメントペーパーの記入10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：一
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
一：関連していない】

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

適宜紹介する

〔オフィスアワー〕

MicrosoftTeamsでのチャットや音声通話を使用します

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

授業計画：テーマ・内容

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

基本的な授業の進め方、オフィスアワー

西洋文化史 I

GE112

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

近藤 真彰

〔科目の概要および目的〕

各授業で西洋文化の主要なテーマについて、主に視覚芸術での表現を紹介しながら解説する。西洋の文化圏で人々がどのような価値観を共有して社会を形成したか、それらはどのようなメディアでどう表現されたか、時代によって変化したものと変わらないものはどのような点かを考察する。メディア芸術学部の学生として、西洋文化の基礎的な知識を得ると共に、人間の営みの多様な構造の理解を未来の創造に活かすことを目的とする。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・西洋文化の基本的なテーマや事例の知識を得る
- ・文化の視覚的表現の多様性を理解する
- ・過去の文化を未来に活かす発想が身につく

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

「西洋」「文化」「歴史」とは何か。授業の概要を説明し、履修者の関心を確認する

事前/シラバスを読む(30分)

事後/内容の復習(1時間)

第 2 回 西洋における人間像

西洋における人間の定義と役割について解説する
事前/テーマの確認(1時間)

事後/内容の復習(2時間)

第 3 回 人間の表象

西洋における人間の表象の伝統と変遷を概観する
事前/テーマの確認(1時間)

事後/内容の復習(2時間)

第 4 回 擬人化と擬人像

西洋の擬人像の伝統と発展を概観する

事前/テーマの確認(1時間)

事後/内容の復習(2時間)

第 5 回 神々の姿

西洋の神話の神々と英雄の表象について解説する
事前/テーマの確認(1時間)

事後/内容の復習(2時間)

第 6 回 神の姿

キリスト教の神、天使、聖人の表象について解説する

事前/テーマの確認(1時間)

事後/内容の復習(2時間)

第 7 回 動物

人間と関わる動物と空想された動物について解説する

	事前/テーマの確認(1時間)
	事後/内容の復習(2時間)
第 8 回	異形の他者 人間を脅かす存在としてのモンスターについて解説する
	事前/テーマの確認(1時間)
	事後/内容の復習(2時間)
第 9 回	世界の表象 西洋における世界像(天と地、冥界、地獄)の構造と表象について解説する
	事前/テーマの確認(1時間)
	事後/内容の復習(2時間)
第 10 回	自然と人間 西洋における自然の定義を確認して人間との関係を考える
	事前/テーマの確認(1時間)
	事後/内容の復習(2時間)
第 11 回	人間を包む環境 人間を取巻く風景について表象と受容について解説する
	事前/テーマの確認(1時間)
	事後/内容の復習(2時間)
第 12 回	人間が造る環境 人工的な環境としての都市の形成と建築について解説する
	事前/テーマの確認(1時間)
	事後/内容の復習(2時間)
第 13 回	人間が造る世界 マイクロコスモスとしての庭園について解説する
	事前/テーマの確認(1時間)
	事後/内容の復習(2時間)
第 14 回	異界 ユートピアとディストピアについて解説する
	事前/テーマの確認(1時間)
	事後/内容の復習(2時間)
第 15 回	まとめ 西洋の世界像の表象について復習する
	事前/これまでの整理(3時間)
	事後/内容の復習(1.5時間)

【アクティブラーニング】

1回 : E / 2回 : E /
3回 : E / 4回 : E /
5回 : E / 6回 : E /
7回 : E / 8回 : E /
9回 : E / 10回 : E /
11回 : E / 12回 : E /
13回 : E / 14回 : E /
15回 : E

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・ 基本的な世界史の知識があることが望ましい
- ・ 関心を持った点、疑問点は積極的に調べる

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

Teamsでのpptによる講義の視聴ができること

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①毎回のコメントA (30%) : 解説を理解し、要点を自分で説明できるか

②毎回のコメントB (30%) : 学んだことを現在と未来につなげて活かす視点を持っているか

③レポート (40%) : 与えられたテーマについて授業内容を理解しているか。自分の意見を客観的に論じられるか。適切なリサーチができるか

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

提出後の授業でコメントし、必要に応じて講義内容に反映させる

【出席確認の方法】

開始時のforms記入と終了時のコメントペーパー提出

【基本的な授業の進め方】

10分 出席確認、授業説明

70分 講義 (ppt+参考資料+チャットでの意見交換)

10分 コメントペーパーの記入

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力 : ○
2. 表現力 : △
3. 社会貢献力・コラボレーション力 : △
4. 課題発見力・課題解決力 : ○
5. コミュニケーション力 : △
6. 専門的知識・技能の活用力 : ◎

【◎ : 特に関連が強い ○ : 関連が強い △ : 関連がある
— : 関連していない】

【教科書】

適宜ハンドアウトを配布する

【参考文献】

適宜紹介する

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画 : テーマ・内容、成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

西洋文化史 II

GE212

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

近藤 真彰

【科目の概要および目的】

各授業で西洋文化の主要なテーマについて、主に視覚芸術での表現を紹介しながら解説する。西洋の文化圏で人々が

どのような価値観を共有して社会を形成したか、それらはどのようなメディアでどう表現されたか、時代によって変化したものと変わらないものはどのような点かを考察する。メディア芸術学部の学生として、西洋文化の基礎的な知識を得ると共に、人間の営みの多様な構造の理解を未来の創造に活かすことを目的とする。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・西洋文化の基本的なテーマや事例の知識を得る
- ・文化の視覚的表現の多様性を理解する
- ・過去の文化を未来に活かす発想が身につく

〔授業形態〕

5【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
「西洋」「文化」「歴史」とは何か。授業の概要を説明し、履修者の関心を確認する
事前/シラバスを読む(30分)
事後/内容の復習(1時間)
- 第 2 回 西洋の世界像
「西洋文化史 I」を復習して西洋の伝統的な世界の表象について確認する
事前/テーマの確認(1時間)
事後/内容の復習(2時間)
- 第 3 回 時間
西洋における時間の概念について解説する
事前/テーマの確認(1時間)
事後/内容の復習(2時間)
- 第 4 回 暦と季節
季節の表象とそのアレゴリーについて解説する
事前/テーマの確認(1時間)
事後/内容の復習(2時間)
- 第 5 回 歴史の形成
人々の記憶と記録のメディアについて解説する
事前/テーマの確認(1時間)
事後/内容の復習(2時間)
- 第 6 回 歴史のなかの歴史
西洋近代の古典主義と中世主義について解説する
事前/テーマの確認(1時間)
事後/内容の復習(2時間)
- 第 7 回 物語のなかの歴史
ファンタジーにおける中世趣味について解説する
事前/テーマの確認(1時間)
事後/内容の復習(2時間)
- 第 8 回 旅
中世の聖地巡礼と近代の観光とを比較する
事前/テーマの確認(1時間)
事後/内容の復習(2時間)
- 第 9 回 戦い
十字軍と第一次世界大戦とを比較する
事前/テーマの確認(1時間)
事後/内容の復習(2時間)
- 第 10 回 闘い
キリスト教文化における霊的闘いの表象について解説する

- 事前/テーマの確認(1時間)
事後/内容の復習(2時間)
- 第 11 回 死と病
西洋の死生観と近代における恐怖の娯楽化について解説する
事前/テーマの確認(1時間)
事後/内容の復習(2時間)
- 第 12 回 技術
西洋の技術史と芸術への影響について解説する
事前/テーマの確認(1時間)
事後/内容の復習(2時間)
- 第 13 回 西洋と東洋
西洋文化における東洋、東洋文化における西洋について影響関係を解説する
事前/テーマの確認(1時間)
事後/内容の復習(2時間)
- 第 14 回 歴史と未来
過去の文化の知識を未来にどう活かすかを考える
事前/テーマの確認(1時間)
事後/内容の復習(2時間)
- 第 15 回 まとめ
人間の営みの西洋文化史について復習する
事前/これまでの整理(3時間)
事後/内容の復習(1.5時間)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：E / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：E / 6回：E /
7回：E / 8回：E /
9回：E / 10回：E /
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：E

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・「西洋文化史 I」から継続して履修することが望ましい
- ・基本的な世界史の知識があることが望ましい
- ・関心を持った点、疑問点は積極的に調べる

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

Teamsでのpptによる講義の視聴ができること

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①毎回のコメントA (30%)：解説を理解し、要点を自分で説明できるか
②毎回のコメントB (30%)：学んだことを現在と未来につなげて活かす視点を持っているか
③レポート (40%)：与えられたテーマについて授業内容を理解しているか。自分の意見を客観的に論じられるか。適切なりサーチができるか

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

提出後の授業でコメントし、必要に応じて講義内容に反映させる

〔出席確認の方法〕

開始時のforms記入と終了時のコメントペーパー提出

〔基本的な授業の進め方〕

10分 出席確認、授業説明

70分 講義 (ppt+参考資料+チャットでの意見交換)

10分 コメントペーパーの記入

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：△
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

適宜ハンドアウトを配布する

〔参考文献〕

適宜紹介する

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

授業計画：テーマ・内容、成績評価方法・評価割合・評価基準

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

芸術教養Ⅰ（書道と漢詩）

GE113

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前後期

6【対面型】

講義/1コマ

芹澤 麻美子

〔科目の概要および目的〕

書道の実技を学ぶ講座。漢字の楷書・行書・草書・隸書・篆書の5つの書体と平安時代の仮名の基本を古典の臨書を通して学ぶ。「臨書」とは、書の名品を手本にして、その書法（書き方）を学ぶこと。初心者から経験者まで受講可。評価においては、巧拙（うまい/下手）よりも、いかに真剣に取り組んだかを重視する。書の愉しさ、面白さを理解してもらうことを、何よりも大事にし臨書・創作していく。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・楷書、行書、草書、隸書、篆書、仮名の特徴を捉えて臨書することができる。
- ・書の古典の歴史背景を捉えて書くことができる。
- ・習得した書体を基盤に作品を制作することができる。
- ・好きな言葉や詩を自分で考えて表現豊かに書くことができる。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第1回 ガイダンス
授業の進め方、用具・用材の説明、試書（筆で文字を書いてみよう）
事後/書道用品店模索(90分)
- 第2回 楷書（1）
唐時代「九成宮禮泉銘」の臨書と鑑賞。
事後/楷書体の印刷文字模索(90分)
- 第3回 楷書（2）
唐時代「雁塔聖教序」の臨書と鑑賞。
事後/市中の楷書探索(90分)
- 第4回 楷書（3）
北魏時代「孫秋生造像記」の臨書と鑑賞。
事前/好きな楷書の作品模索(45分)
事後/好きな楷書作品を模写(45分)
- 第5回 行書（1）
東晋時代「蘭亭叙」の臨書と鑑賞。
事前/自分の名前を楷書で書く（45分）
事後/自分の名前を行書で書く（45分）
- 第6回 行書（2）
明・清時代「王鐸の書」「傅山の書」の比較臨書と鑑賞。
事後/漢詩の用意(90分)
- 第7回 作品制作①
楷書作品・行書作品の制作。
事前/楷・行書作品の草稿書き（90分）
- 第8回 草書
唐時代「書譜」の臨書と鑑賞
事前/市中の行書探索（90分）
- 第9回 隸書（1）
漢時代「曹全碑」の臨書と鑑賞
事後/市中の草書模索（90分）
- 第10回 隸書（2）
清時代「趙之謙」の臨書と鑑賞
事前/市中の隸書探索（45分）
事後/隸書の古典を模写（45分）
- 第11回 篆書（1）
西周時代「金文」の臨書と鑑賞
事前/市中の篆書体探索（45分）
事後/篆書体の時代背景復習（45分）
- 第12回 仮名
平安時代「高野切第三種」「升色紙」の臨書と鑑賞
事後/好きな詩や歌詞を調べる（90分）
- 第13回 漢字仮名交じりの書
詩や歌詞を使って作品制作。
事前/創作する書体の字調べ（45分）
事後/創作する漢詩を調べる（45分）
- 第14回 創作②
楷書・行書・草書・隸書・篆書・仮名から選択して作品制作。
事後/創作する言葉を用意する（90分）
- 第15回 まとめ
好きな言葉に合った書体・書風で作品制作。
事前/作品構想（90分）

【アクティブラーニング】

1回：F / 2回：A /
 3回：A / 4回：A /
 5回：A / 6回：A /
 7回：B / 8回：A /
 9回：A / 10回：A /
 11回：A / 12回：A /
 13回：B / 14回：B /
 15回：B

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・今までの学習経験は問いません。
- ・用具は各自で用意する（【書道用具一式】大筆・小筆・半紙・墨汁・硯・下敷き・文鎮）。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点（30%）：「意欲」「態度」について評価する。
- ②課題（50%）：「提出」「理解度・完成度」について評価する。
- ③作品制作（20%）：「創意・工夫・技法」など総合的に評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・課題練習、制作した作品を個別に添削します。
- ・提出物に評価をつけて返却します。

【出席確認の方法】

毎回の課題で出欠確認を行う。

【基本的な授業の進め方】

- ・授業説明5分
- ・その日の古典の歴史背景説明15分
- ・制作（臨書・創作）60分
- ・課題提出、片付け、次回授業内容説明10分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 —：関連していない】

【教科書】

なし。毎授業時に資料を配布。

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

時間：出講日の授業終了後30分

場所：7F非常勤講師控室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

芸術教養Ⅱ（茶道・初級）

GE114

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前後期

6 【対面型】

講義/1コマ

岩田 明子

【科目の概要および目的】

日本に特有な総合芸術文化の茶道は、四百年以上前に千利休によって大成されたものである。茶道とはもてなしとしつらひの美学といわれている。主客の交流を通して、人との関りの大切さ、自然や美に対する心をも養う。本授業を学ぶ中で、譲り合いや思いやる心、感謝し、仕えあう心を学び、人や自然に対する感性を磨き、文化とは何かの本質を自らの体験を通じて考える契機となることを期待する。また、道具の扱いについて解説を行う。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・おもいやりの心、感謝する心を意識し、自らを振り返り、その心を日常生活や作品に生かせる。
- ・日々の生活の中で五感を意識し、季節の変化を感じ取ることができるようになる。
- ・自ら菓子を用意し、抹茶を点て、季節感のあるもてなしを実施することができる。
- ・希望者は、一般社団法人裏千家今日庵へ初級資格の申請が可能(有料)である。

【授業形態】

6 【対面型】

【授業計画】

第1回 講義 本講義の概要

本講義の趣旨、授業内容についての説明、茶の湯とは、茶道を学ぶ心構え、和敬清寂、利休七則について解説し、ビデオ「お茶で豊かな心を」を鑑賞する。自己紹介など
 事後学習/シラバスを読み、特に興味をもったことについて調べる。(1時間)

第2回 講義 茶の歴史

茶とは、茶の分類、茶の効用、中国における喫茶の始まり、日本での喫茶の普及、茶の湯の誕生、千利休の時代について解説する。
 事前学習/自分自身で、中国茶、日本茶(煎茶など)、紅茶の茶葉を観察し、淹れ方を調べ、飲み比べる。(2時間)

事後学習/配布資料を読み直す(0.5時間)

第3回 講義 茶事

茶事とは何か、茶事七式、型について、教材ビデオの解説解説し、茶事の教材ビデオを鑑賞する。
 事前学習/和敬清寂、利休七則の復習(0.5時間)

- 事後学習/茶事の流れ、亭主と客の役割を確認し、次週レポート1を提出する。(6時間)
- 第 4 回 講義 点前の意義・利休百首
茶の十徳、利休百首、課題1(感謝、季節の変化など)の説明をする。
【レポート1提出】
事前学習/配布資料を読む(1時間)
事後学習/課題1 おもいやりとは何かについて考え、感謝したこと、季節の変化についてダイアリーに記入する。課題への取り組み(3時間)
- 第 5 回 講義 茶室・露地について
茶室の起源、茶室の構造、国宝の茶室、太閤の美意識 黄金の茶室、清め場 露地について、課題1の続き(親切など)について説明する。
事前学習/岡倉天心の資料を読む(1.5時間)
事後学習/都内近郊の茶室について調べる(3時間)、課題1への取り組み(3時間)
- 第 6 回 講義・実技 道具に親しむ
茶杓について、茶杓削り、茶杓に銘をつける。【課題1提出】
事前学習/道具の銘について調べ、茶杓に銘をつける(1時間)
事後学習/茶杓の仕上げる。実技では自分で作った茶杓を用いる(3時間)【課題2 茶杓の提出】
- 第 7 回 実技 基本所作・割稽古(1)
実技について、軸、花についての説明する。各自作った茶杓について感想を述べあう。道具の扱い①(扇子)、客の心得(挨拶の仕方、座り方、歩き方、襖の開け閉め、菓子・薄茶のいただき方、服装、懐中物、履物の脱ぎ方・揃え方)を学び、さらに帛紗捌き、棗・茶杓の清め方、抹茶の点て方を実践し、自分で点てた抹茶をいただく。第7回以降、グループに分かれて学習。
事後学習/授業内容の振り返り。特に襖の扱い、帛紗捌きの反復練習(1時間)を行う。
- 第 8 回 実技 割稽古(2)
軸、花の説明、道具の扱い②(棗)帛紗のつけ方、捌き方、棗・茶杓の清め方の復習、茶碗に茶巾・茶筌・茶杓を仕組む。茶筌通し、茶巾のたたみ方、茶碗の清め方を学ぶ。
事前学習/帛紗さばきの反復練習(各0.5時間)
事後学習/点前の三要素(位置の決定・点前の順序・動作)を確認・復習。位置の決定とは座る位置、立つ位置、道具を置く位置。(各0.5時間)
- レポートの課題:テーマや演出を考え、季節感を盛り込みながらお菓子やお茶を準備し誰かにおもてなしを行う。
- 第 9 回 実技 盆略点前(1)
軸、花の説明、道具の扱い③(茶巾)について説明する。お盆を用いた盆略点前を行う。道具の位置と点前の順序を学ぶ。
事前学習/テーマに沿ったおもてなしの演出を考え準備する(1時間)
- 事後学習/授業内容の振り返り(0.5時間)
- 第 10 回 実技 盆略点前(2)
軸、花の説明、道具の扱い④(茶筌)について説明する。盆略点前を行う。
事前学習/テーマに沿ったおもてなしの演出を考え準備する(1時間)
事後学習/授業内容の振り返り(0.5時間)
- 第 11 回 実技 薄茶点前(1) 割稽古
軸、花の説明、道具の扱い⑤(帛紗) 風炉にて薄茶点前、柄杓の扱いを中心に学ぶ。
事前学習/テーマに沿ったおもてなしの演出を考え準備する(1時間)
事後学習/授業内容の振り返り(0.5時間)
- 第 12 回 実技 薄茶点前(2)
軸、花の説明、道具の説明⑥(柄杓)、風炉にて薄茶点前を行う。
事前学習/テーマに沿ったおもてなしの演出を考え準備する(1時間)
事後学習/授業内容の振り返り(0.5時間)
- 第 13 回 実技 薄茶点前(3)
軸、花の説明、道具の説明⑦(茶碗)、風炉にて薄茶点前を行う。
事前学習/テーマに沿ったおもてなしの準備と実践(4時間)
事後学習/授業内容の振り返り(0.5時間)
- 第 14 回 実技 薄茶点前(4)
軸、花の説明、風炉にて薄茶点前、濃茶をいただく。縁高の扱い、濃茶のいただき方を学ぶ。
【学期末レポートの提出】
事前学習/自分で行ったおもてなしについてまとめる(4時間)
事後学習/授業内容の振り返り(0.5時間)
- 第 15 回 実技 まとめ 体験茶会
まとめ 体験茶会 どのようなおもてなしを行ったのか発表をする。
事前学習/茶事の流れ、亭主と客の役割を確認する。(1時間)
事後学習/茶室や露地から自然との調和の精神を考える。体験茶会を踏まえて、五感で何を感じることができたかをまとめる。また、日常生活の中で活かせることは何かを考える。(0.5時間)
- 【アクティブラーニング】
1回：B / 2回：— /
3回：— / 4回：— /
5回：— / 6回：— /
7回：B / 8回：B /
9回：B,C / 10回：B /
11回：B / 12回：B /
13回：B / 14回：B /
15回：B,C,E
- 【事前に修得しておく必要のある科目】
なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

実習費(菓子・抹茶・香・荒曲げ茶杓, キッチンペーパー, 消毒液など)4500円, 道具セット(帛紗・棗・茶筌・懐紙・楊枝・新茶巾)3020円 実技で用いる道具は感染対策のため購入していただきますが, 既に持っている人は必要なものだけご購入下さい。

茶道の経験の有無は問いません。

実技での服装の注意点:白靴下持参・時計やアクセサリは身につけない。女子はお稽古着(大学備品)を洋服の上から着用する。状況次第でマスク, フェイスシールド着用。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点(30%) : 「他者に対するおもいやりや協力」「意欲」「主体的行動力」について評価する

②学年末レポート(40%) : 「理解度」「コミュニケーション力」「表現力」「主体的行動力」「専門的技能の活用力」を評価する

③課題の提出(30%) : 「理解力」「表現力」を評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・提出後の授業で全体にコメントします
- ・実技に対しては個別にコメントします

〔出席確認の方法〕

出席をとる

〔基本的な授業の進め方〕

〔講義の場合〕

授業説明:5分 解説80分 授業の振り返り5分 リアクションペーパー記入5分

〔実技の場合〕

授業説明・床の軸や花の説明10分 実技75分 授業の振り返りと次週の説明5分

実技の際、受講生が難しかった点については復習用の動画をTeamsで送付する。

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力 : ◎
2. 表現力 : ○
3. 社会貢献力・コラボレーション力 : —
4. 課題発見力・課題解決力 : △
5. コミュニケーション力 : ◎
6. 専門的知識・技能の活用力 : ○

【◎ : 特に関連が強い ○ : 関連が強い △ : 関連がある

— : 関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

講義資料はハードコピーを配布

〔オフィスアワー〕

時間 : 金曜日12 : 30~13 : 00

場所 : 授業実施教室

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

授業計画 : テーマ・内容

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など

芸術教養Ⅲ (茶道・中級)

GE410

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6 【対面型】

講義/1コマ

岩田 明子

〔科目の概要および目的〕

本授業は芸術教養Ⅱ(茶道・初級)の修了者を対象にしたもので、実技は二グループに分かれ、小習事を中心に一对一で指導を行う。初級に引き続き、譲り合いや思いやる心、感謝し、仕え合う心を学び、人や自然に対する感性を磨く。受講生一人ひとりが文化とは何かの本質について体験を通して考える契機となることを期待する。実技の際には、床の禅語・花・香合や菓子などの説明に加え、日本の年中行事の由来や意味の解説も行う。

〔到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル) 〕

- ・おもいやりの心、感謝する心を意識し、自らを振り返り、その心を日常生活に生かすことができる。
- ・伝統文化に対する理解を基盤とし、異文化を尊重できる態度や資質を育む。
- ・茶道の歴史や作法を説明できる。
- ・立居振舞が美しくなる。
- ・茶の湯の趣向をとりいれたおもてなしができる。
- ・単位履修者(成績が良以上の学生)で、希望者は、裏千家今日庵へ許状取得と中級資格の申請が可能(有料)。

〔授業形態〕

6 【対面型】

〔授業計画〕

第 1 回 講義・実技 茶道のこころ

茶道のこころ 薄茶点前や客の作法の復習、課題についての説明 帛紗捌きの復習

事前:帛紗捌き, 茶巾の扱い, 茶筌通しの練習 1

時間, 事前の配布資料を読む/1時間

事後:配布資料を読み, リアクションペーパーをTeamsに提出/2時間

第 2 回 講義・実技 茶花について 廻り花之式

利休居士の茶花の教え 茶席の花とは 花の生け方 廻り花之式

事前:薄茶点前の練習/0.5時間, 自宅や街の中で活かしてある花を探し, 写真を撮り, 授業内で発表/1.5時間

事後:/自宅に花を持ち帰り, 活ける/0.5時間。配布資料を読み, リアクションペーパーをTeamsに提出/1.5時間

第 3 回 講義 茶道具に見る文様と絵

- 棗、茶碗、水指、香合など茶道具にみる日本古来の文様や絵について解説する。
事前:薄茶点前の復習/0.5時間, 身のまわりの食器にどのような模様や絵があるか探す/0.5時間
事後:薄茶点前の練習/0.5時間, 配布資料を読み, リアクションペーパーをTeamsに提出/1.5時間
- 第 4 回 講義 茶の湯の趣向と年中行事
日本の宮廷行事、中国から伝わった宮廷の年中行事「五節句」、茶の湯の趣向について説明する。年中行事を画題として色紙に絵を描き、以後の実技では授業内で床に掛ける
事前:日本の年中行事について調べ, 自分が描きたい題材の候補を挙げる/2時間
事後:課題制作/3時間
- 第 5 回 実技 炉の薄茶点前 (1)
薄茶点前 ※課題提出
事前学習:課題制作つづき/2時間
事後学習:薄茶点前の練習, 点前の順序/0.5時間, 配布資料を読み, リアクションペーパーをTeamsに提出/1.5時間
- 第 6 回 実技 炉の薄茶点前 (2)
薄茶点前(棚)
期末レポート(茶の湯の趣向を取り入れたおもてなし)についての説明
事前学習:薄茶点前の練習・点前の順序/1時間, レポートに向けての準備/1時間
事後学習:棚の薄茶点前の練習・道具の位置, 足の運び方の確認/0.5時間, 配布資料を読みリアクションペーパーをTeamsに提出/1.5時間
- 第 7 回 実技 貴人点 薄茶点前
貴人点についての説明 貴人点 レポート指導
事前:薄茶点前の練習/0.5時間, 期末レポートに向けての準備/1.5時間
事後:貴人点の復習/0.5時間, 配布資料を読みリアクションペーパーをTeamsに提出/1.5時間
- 第 8 回 実技 入子点
入子点についての説明 入子点 レポート指導
事前:薄茶点前の練習/0.5時間, 期末レポートの準備/対象者の確定/1.5時間
事後:入子点の復習/0.5時間, 配布資料を読みリアクションペーパーをTeamsに提出/1.5時間
- 第 9 回 講義・実技 濃茶について 割稽古
濃茶点前についての説明 四方捌き 茶入の清め方 仕覆の扱い、縁高の扱い 濃茶の点て方・いただき方 道具の拝見の仕方など
事前:濃茶点前の練習/0.5時間, 期末レポートの準備/趣向を考える/1.5時間
事後:四方捌き, 濃茶器の扱いの復習/0.5時間, 配布資料を読みリアクションペーパーをTeamsに提出/1.5時間
- 第 10 回 実技 濃茶点前 (1)
濃茶点前
事前:濃茶点前の練習/0.5時間, 期末レポートの準備/趣向を考える/1.5時間
事後:濃茶の復習/0.5時間, 配布資料を読みリアクションペーパーをTeamsに提出/1.5時間
- 第 11 回 実技 濃茶点前 (2)
濃茶点前(棚)
事前:濃茶点前の練習/0.5時間, 企画書の作成/趣向を考える/1.5時間
事後:おもてなしの実践のための準備/2時間
- 第 12 回 実技 大津袋
大津袋の由来 大津袋 レポート指導
事前:おもてなしの準備と実践/3時間
事後:レポート作成/3時間
- 第 13 回 実技 長緒茶入
長緒茶入
※レポート提出
事前レポート作成/2時間
事後:長緒の復習/0.5時間, 配布資料を読みリアクションペーパーをTeamsに提出/1.5時間
- 第 14 回 実技 茶入荘、茶碗荘
茶入荘もしくは茶碗荘 レポートについてのコメント
事前:荘り物点前についての配布資料を読む/1時間, 濃茶点前の復習/1時間
事後:点前の復習/0.5時間, 配布資料を読みリアクションペーパーをTeamsに提出/1.5時間
- 第 15 回 講義・実技七事式について 花月之式
七事式とは 七事式の歴史・基本理念, 花月之式
事前:七事式についての配布資料を読む/1.5時間, 点前の復習/0.5時間
事後:七事式の復習/0.5時間, 授業全体を通じた感想をTeamsに提出/1.5時間
- 【アクティブラーニング】
1回: B / 2回: B,C /
3回: B,C / 4回: B /
5回: B / 6回: B /
7回: B / 8回: B /
9回: B / 10回: B /
11回: B / 12回: B /
13回: B / 14回: B /
15回: B
- 【事前に修得しておく必要のある科目】
・「芸術教養Ⅱ(茶道・初級)」
- 【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】
・定員は6名まで。開始時間には遅れないようにしてください。
・実習費5500円(抹茶・菓子・炭・香・小茶巾・キッチンペーパーなど)。帛紗セットと小茶巾入は各自でご用意ください。
・服装の注意点:白靴下持参・時計やアクセサリは身につけない。女子はお稽古着(大学備品)を洋服の上から着用。
- 【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】
—
- 【成績評価方法・評価割合・評価基準】
①平常点(30%):「他者に対するおもしろいやりや協力」「意欲」「主体的行動力」について評価する
②学年末レポート(40%):「理解度」「コミュニケーション

力」「表現力」「主体的行動力」「専門的技能の活用力」を評価する

③課題の提出(30%)：「理解力」「表現力」を評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・提出後の授業で全体にコメントします
- ・実技に対しては個別にコメントします

〔出席確認の方法〕

出席をとる

〔基本的な授業の進め方〕

〔講義の場合〕

授業説明:5分、解説80分、事前・事後学習の説明5分

〔実技の場合〕

授業説明・床の軸や花の説明・レポート指導 10分、実技75分、事前・事後学習の説明 5分

実技の際、受講生が難しかった点については復習用の動画を作成して、Teamsで送付する。

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

講義資料はハードコピーを配布

〔オフィスアワー〕

時間：金曜日12：30～13：00

場所：授業実施教室

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

授業計画：テーマ・内容

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など

心理学への招待 I

GE115

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

2【動画型2】

講義/1コマ

小方 涼子

〔科目の概要および目的〕

心理学とは、こころの働きと行動を科学的に研究する学問であり、その領域は多岐にわたっている。心理学の基礎と呼ばれる感覚・知覚・学習・認知の分野を取り上げ、日常生活における身近な現象を例示しながら授業を進める。芸術分野に心理学が貢献できるようなトピックも挙げる。授

業は主に講義形式だが、実習も取り入れ、心理学を体感することを目的とする。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・心理学の基礎的知識を修得することができる
- ・様々な視点から人や物事をとらえることができる
- ・心理学を利用した芸術に触れ、創出することができる
- ・人の行動について理解することができる

〔授業形態〕

2【動画型2】

〔授業計画〕

第1回 心理学とは

「心理学」について説明しながら、授業内容について解説する。

事前：シラバスを読んでおくこと(30分)

第2回 感覚-人間の五感-

様々な刺激情報が渦巻く環境で、我々は何を感じているのか。主に、視覚と色について取り上げる。

事前：日常における五感の役割を列挙する(30分)

事後：資料を見ながら復習(60分)

第3回 知覚-心理的世界-

外界に存在している刺激を、我々はそのままだに知覚しているわけではない。様々な図形を見ながら、視覚の不思議さを体験する。

事前：形をどのようにとらえているかを考える(30分)

事後：資料を見ながら復習(60分)

第4回 知覚-奥行知覚-

奥行感や立体感を、どのように表現しているのか。様々な方法を心理学的にとらえよう。

事前：奥行きのある図形を列挙する(30分)

事後：資料を見ながら復習(60分)

第5回 知覚-錯視-

錯視図形を用いた実習を通して、ものの見方を検証する。

事前：日常で身近な錯視図形を探索する(30分)

事後：実験結果を見ながら復習(60分)、感覚・知覚について総復習(60分)

第6回 学習-古典的条件づけ-

有名なパブロフの犬の実験から、条件反射・条件反応について、その形成過程について学ぶ。

事前：自分の行動とその習得について列挙する(30分)

事後：資料を見ながら復習(60分)

第7回 学習-オペラント条件づけ①-

ある行動をとった後に、ごほうびがもらえるのか、お仕置きされるのか。繰り返したる行動には、どのような意味があるのか考える。

事前：リアクションペーパーを見ながら復習(30分)

事後：古典的条件づけとの違いを確認(60分)

第8回 学習-オペラント条件づけ②-

複雑な一連の行動を学ぶ方法や、嫌な刺激を回避する行動について学ぶ。

事前：オペラント条件づけによる行動を列挙する

- (30分)
事後：古典的条件づけとの違いを再確認(60分)
- 第 9 回 学習-社会的学習-
人のまねをすることはあるだろう。望ましくない行動をまねさせないためには、どのような点に注意すればよいか考える。
事前：人のまねによって身について行動について列挙する(30分)
事後：資料を見ながら復習(60分),学習について総復習(60分)
- 第 10 回 認知-問題解決-
問題解決を容易にすると、困難にすると、実際に体験し、解決に至るプロセスを探る。
事前：身近な問題解決の方法について列挙する(30分)
事後：資料を見ながら復習(60分)
- 第 11 回 認知-概念・知識-
どのように概念や知識が蓄積されるかを考える。
事前：すでに獲得している概念や知識の関係について考える(30分)
事後：資料を見ながら復習(60分)
- 第 12 回 認知-記憶の仕組み-
少しの間だけ覚えている事柄もあれば、何年経っても鮮明な事柄もある。ものを覚えていることについて学ぶ。
事前：覚えるために心がけていることを列挙する(30分)
事後：資料を見ながら復習(60分)
- 第 13 回 認知-忘却の仕組み-
なぜ物事を忘れてしまうのか。その仕組みについて学ぶ。
事前：忘れる現象について列挙する(30分)
事後：資料を見ながら復習(60分)
- 第 14 回 認知-記憶の変容-
覚えたつもりでも、正確に覚えているわけではない。記憶がどのように変わるのかについて体験する。
事前：記憶内容は変わらないのかについて考える(30分)
事後：資料を見ながら復習(60分),認知について総復習(60分)
- 第 15 回 まとめ
学習内容のまとめ
事前：資料を見ながら復習(120分)
事後：定期試験に向けての準備(180分)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：— / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：E / 6回：— /
7回：— / 8回：— /
9回：— / 10回：E /
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：—

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

実習に積極的に参加すること

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

PowerPointを使用できるPC

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点 (30%)：授業内容を踏まえて自分で考えたことをコメントに出しているか、および授業への積極的参加を評価する

②定期試験 (70%)：心理学の基礎的知識に関する理解度を評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

リアクションペーパーに書かれた質問は通常、次週に解説する

〔出席確認の方法〕

Teamsでの出席確認、また、リアクションペーパーの提出も課す

〔基本的な授業の進め方〕

- ・授業説明：30分
- ・出席確認：5分
- ・各自でPowerPoint資料の視聴：45分
- ・リアクションペーパーの提出：10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

Teamsのメールおよびチャットに連絡のこと

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：事前・事後学習

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

基本的な授業の進め方、オフィスアワー

心理学への招待Ⅱ

GE213
東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目
1年生 2年生 3年生 4年生
2単位 後期
2【動画型2】
講義/1コマ

小方 涼子

【科目の概要および目的】

心理学とは、こころの働きと行動を科学的に研究する学問であり、その領域は多岐にわたっている。心理学の応用と呼ばれる教育・発達・臨床・社会の分野を取り上げ、日々の身近な現象を例示しながら授業を進める。授業は主に講義形式だが、授業中に行う質問紙を通して自分への理解を促し、また他者への認識をも深めることを目的とする。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・心理学の応用的知識を修得することができる
- ・様々な視点から人や物事をとらえることができる
- ・自分と他者への理解が深まる
- ・乳児や幼児の行動について理解することができる

【授業形態】

2【動画型2】

【授業計画】

- 第 1 回 心理学とは
「心理学」について説明しながら、授業内容について解説する。
事前：シラバスを読んでおくこと(30分)
- 第 2 回 動機づけ-行動を起こす過程-
やりたいと思って行動することもあれば、勧められて行くこともあるだろう。行動を起こすきっかけについて考える。
事前：やりたいこと、その理由について列挙する(30分)
事後：資料を見ながら復習(60分)
- 第 3 回 動機づけ-無力感-
やる気が出ない、という経験をしたことがあるのではないだろうか。このような状態を克服する方法について調べる。
事前：動機づけについて見返す(30分)
事後：資料を見ながら復習(60分),動機づけについて総復習(60分)
- 第 4 回 情動-体内の状態との関連-
日常生活では、絶えず様々な感情を抱いている。体内の状態をどのような感情と結びつけているか、その関連性について学ぶ。
事前：情動とそれに伴う行動を列挙する(30分)
事後：資料を見ながら復習(60分)
- 第 5 回 情動-表情-
言葉を交わさなくても、表情一つで気持ちが伝わる。様々な表情を比べ、その特徴について調べる。
事前：様々な顔の表情や絵文字を列挙する(30分)
事後：日常場面で確認(60分),資料を見ながら復習(60分),情動について総復習(60分)

- 第 6 回 発達-社会性の発達-
生まれてから、人は自分を取り巻く環境とどのように関わるのであるうか。周囲との関係に触れながら、その発達過程について学ぶ。
事前：顔の表情について見返す(30分)
事後：日常場面で確認(60分),資料を見ながら復習(60分)
- 第 7 回 発達-認知的な発達-
物事への理解の深まりを、発達段階にそって、映像を交えながら説明する。
事前：自分の子どもの頃の話聞いておく(30分)
事後：日常場面で確認(60分),資料を見ながら復習(60分),子どもの発達について総復習(60分)
- 第 8 回 知能
知能の様々な側面を列挙し、各々の測定方法について調べる。
事前：知能の様々な側面について考える(30分)
事後：資料を見ながら復習(60分)
- 第 9 回 パーソナリティ①
パーソナリティの様々な側面を列挙し、各々の測定方法について調べる。
事前：自分の性格について考える(30分)
事後：資料を見ながら復習(60分)
- 第 10 回 パーソナリティ②
パーソナリティを発達という観点からとらえる。
事前：パーソナリティ①について見返す(30分)
事後：資料を見ながら復習(60分),知能・パーソナリティについて総復習(60分)
- 第 11 回 臨床-フロイトについて-
フロイトの提唱した精神分析について学ぶ。
事前：パーソナリティ②について見返す(30分)
事後：資料を見ながら復習(60分)
- 第 12 回 臨床-心理療法-
様々な心理療法を取り上げ、その一端に触れる。
事前：リアクションペーパーに記入した内容を掘り下げる(30分)
事後：資料を見ながら復習(60分),臨床について総復習(60分)
- 第 13 回 社会-自己意識-
自分への意識が高まると、どのような行動をとるのか。自分を意識しない場合と比べて、検証する。
事前：自分を意識する場面、意識しない場面を列挙する(30分)
事後：資料を見ながら復習(60分)
- 第 14 回 社会-他者からの影響-
皆がしているから同じようにする。反対に、一人の主張が周りに受け入れられることもある。多数派、少数派の影響について調べる。
事前：集団における他者と自分の関係について考える(30分)
事後：日常場面で確認(60分),資料を見ながら復習(60分),社会的現象について総復習(60分)
- 第 15 回 まとめ

学習内容のまとめ

事前：資料を見ながら復習(120分)

事後：定期試験に向けての準備(180分)

【アクティブラーニング】

1回：— / 2回：— /

3回：— / 4回：— /

5回：E / 6回：— /

7回：— / 8回：— /

9回：E / 10回：— /

11回：— / 12回：— /

13回：— / 14回：— /

15回：—

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・「心理学への招待Ⅰ」の修得が望ましい

・質問紙への回答に積極的に参加すること

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

PowerPointを使用できるPC

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点（30%）：授業内容を踏まえて自分で考えたことをコメントに表出しているか、および授業への積極的参加を評価する

②定期試験（70%）：心理学の応用的知識に関する理解度を評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

リアクションペーパーに書かれた質問は通常、次週に解説する

【出席確認の方法】

Teamsでの出席確認、また、リアクションペーパーの提出も課す

【基本的な授業の進め方】

・授業説明：30分

・出席確認：5分

・各自でPowerPoint資料の視聴：45分

・リアクションペーパーの提出：10分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：△

2. 表現力：○

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：△

5. コミュニケーション力：—

6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

Teamsのメールおよびチャットに連絡のこと

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

基本的な授業の進め方、オフィスアワー

音響概論

GE116

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

2【動画型2】

講義/1コマ

東川 愛

【科目の概要および目的】

現代の音響学は情報理論や工学、認知科学、心理学、音楽学など学際的な領域を融合した分野である。こうした音響学の発展に呼応するように、実際の音楽、音響制作においても音に対するアプローチは大きく広がり、多岐に渡っている。本講義では、音響学の基礎的な入門を音の例を聴きながら学んだ上で、その応用編として実際の音楽・音響作品を聴き比べ、音響創作のさまざまな実践とその聴取のあり方を学ぶことを目的にする。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

・音響学の基礎的な知識を理解し、その概要を説明することができる。

・さまざまな音に対する見方を深め、それぞれの音や音楽の特徴を体感し、考えたことを自分の言葉で説明することができる。

・音響の知識を実際の創作活動に活かすことができる。

【授業形態】

2【動画型2】

【授業計画】

第1回 導入編

音から音楽へ：人間の営みと音の関わりについて概説する

事前/シラバスを読む（60分）

事後/講義資料の復習、ノートの整理（60分）

第2回 音の概説

音の分類、構成など基礎知識を概説する

事前/配布資料を読む（60分）

事後/講義資料の復習、ノートの整理（60分）

第3回 音を聴く仕組み

聴覚的な構造と音の知覚（音の高さ・音色）を概説する

事前/配布資料を読む（60分）

事後/講義資料の復習、ノートの整理（60分）

第4回 音声の概説（1）

音声の発話と基本構造について概説する

事前/配布資料を読む（60分）

事後/講義資料の復習、ノートの整理（60分）

- 第 5 回 音声の概説 (2)
音声の合成、音声の知覚について概説する
事前/配布資料を読む (60分)
事後/講義資料の復習、ノートの整理 (60分)
- 第 6 回 音響の基礎 (1)
音楽のシステム (音律) について概説する
事前/配布資料を読む (60分)
事後/復習・ノート整理、課題の作成 (60分)
- 第 7 回 音響の基礎 (2)
楽器の分類と特徴を概観する
事前/配布資料を読む (60分)
事後/講義資料の復習、ノートの整理 (60分)
- 第 8 回 音響の基礎 (3)
音を作る仕組みと電子楽器を概説する
事前/配布資料を読む (60分)
事後/講義資料の復習、ノートの整理 (60分)
- 第 9 回 音響の基礎 (4)
音の収録と再生、音響再生システムについて概観する
事前/配布資料を読む (60分)
事後/講義資料の復習、ノートの整理 (60分)
- 第 10 回 音楽と音響 (1)
音楽のさまざまな音響、音色、音素材
事前/配布資料を読む (60分)
事後/復習・ノートの整理、音楽鑑賞 (60分)
- 第 11 回 音楽と音響 (2)
ミュージック・コンクレート、電子音楽を概観する
事前/配布資料を読む (60分)
事後/復習・ノートの整理、音楽鑑賞 (60分)
- 第 12 回 音楽と音響 (3)
ライブ・エレクトロニック・ミュージックを概観する
事前/配布資料を読む (60分)
事後/復習・音楽鑑賞、課題の作成 (60分)
- 第 13 回 音楽と音響 (4)
ライブ・エレクトロニクスを概観する
事前/配布資料を読む (60分)
事後/復習・ノートの整理、音楽鑑賞 (60分)
- 第 14 回 音楽と音響 (5)
音の吸音や残響、エコーと音響の空間について概観する
事前/配布資料を読む (60分)
事後/復習・ノートの整理、音楽鑑賞 (60分)
- 第 15 回 音楽と音響 (6)
音楽と視覚 (記譜・映像)
事前/配布資料を読む (60分)
事後/復習・音楽鑑賞、課題の作成 (60分)

【アクティブラーニング】

- 1回 : F / 2回 : F /
3回 : F / 4回 : F /
5回 : F / 6回 : F /
7回 : F / 8回 : F /
9回 : F / 10回 : F /
11回 : F / 12回 : F /

13回 : F / 14回 : F /

15回 : F

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

予備知識は特に必要ありませんが、音響に対する探究心を持って授業に臨むこと。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

パソコン (音や映像の視聴)

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①学期末課題 (設問・記述式、50%) : 音響学の基礎知識を理解し、自分の言葉で説明することができるか。

②授業課題 (設問・記述式、50%) : 授業内容を理解し、自分で考えたことを言葉にできるか。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

授業課題はその後の授業で触れます。

【出席確認の方法】

毎回のリアクションペーパー (Forms) の提出 (提出がないと欠席扱いになるので要注意)

【基本的な授業の進め方】

講義動画 (40分-50分程度) を講義資料を見ながら視聴し、重要な箇所は各自ノートを取る。講義を聴いたあとに音響例の音源を視聴すること。各講義後のリアクションペーパーで授業内容を踏まえた設問に回答して提出すること。学期末の課題は所定の締切日までに提出すること。

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力 : ○
2. 表現力 : ○
3. 社会貢献力・コラボレーション力 : ー
4. 課題発見力・課題解決力 : △
5. コミュニケーション力 : ー
6. 専門的知識・技能の活用力 : ◎

【◎ : 特に関連が強い ○ : 関連が強い △ : 関連がある ー : 関連していない】

【教科書】

毎回、講義資料を配布する。

【参考文献】

授業内で適宜指示する。

【オフィスアワー】

オンデマンド授業のため基本的にTeams上で質問を送ってください。

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画 : テーマ・内容

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

出席確認の方法、基本的な授業の進め方

音響心理学

GE214
東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目
1年生 2年生 3年生 4年生
2単位 後期
2【動画型2】
講義/1コマ

東川 愛

〔科目の概要および目的〕

音響心理学は音響に関するさまざまな経験を研究する実験科学であると同時に、音響学、哲学、脳科学、音楽学、人類学など幅広い領域と連携した学際的な分野である。本講義では、そのなかでも比較的新しい研究領域である音楽と感情についての心理学に焦点を当て、具体的な音楽作品や音響の例を聴くことを通して、音楽心理学の基礎的な理論や概念、考え方を理解することを目的とする。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・音響心理学の基礎的な知識や考え方を理解し、その概要を自分で説明することができる
- ・異なる状況・文脈の中で「音を聴く」ことの多様な側面を理解し、幅広い視点から音響の特徴とその心理作用について自ら考えることができる
- ・これらの学んだ知識を自身の専門や創作に活かすことができる

〔授業形態〕

2【動画型2】

〔授業計画〕

- 第1回 導入編
音響心理学の成り立ちと主な研究の方向を概説する
事前/シラバスを読む（60分）
事後/講義資料の復習、ノートの整理（60分）
- 第2回 音現象と感覚
音の属性と音声（言葉）に対する感覚について概説する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/講義資料の復習、ノートの整理（60分）
- 第3回 音楽の認知（1）
音楽の三要素（メロディ）の認知プロセスについて概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/講義資料の復習、ノートの整理（60分）
- 第4回 音楽の認知（2）
音楽の三要素（リズム・調性）の認知プロセスについて概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/講義資料の復習、ノートの整理（60分）
- 第5回 音楽と感情（1）
音楽の感情的性格について概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/講義資料の復習、ノートの整理（60分）
- 第6回 音楽と感情（2）

- 音楽が感情を喚起するメカニズムを概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/復習・ノート整理、課題の作成（60分）
- 第7回 音楽の演奏と感情伝達（1）
音楽作品の演奏表現と感情伝達モデルについて概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/講義資料の復習、ノートの整理（60分）
- 第8回 音楽の演奏と感情伝達（2）
演奏と感情表現・芸術的逸脱と音楽構造の解釈について概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/講義資料の復習、ノートの整理（60分）
- 第9回 音楽経験と心理作用（1）
日常の音（楽）の聴取と社会的・文化的な文脈の関わりについて考察する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/講義資料の復習、ノートの整理（60分）
- 第10回 音楽経験と心理作用（2）
社会における音楽行動と性格、好み、ジェンダーについて概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/講義資料の復習、ノートの整理（60分）
- 第11回 音響と聴取（1）
音響・音楽の記憶と表象について概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/復習・ノート整理、課題の作成（60分）
- 第12回 音響と聴取（2）
音楽と映画の感情体験について概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/講義資料の復習、ノートの整理（60分）
- 第13回 音響と聴取（3）
映画音楽（サウンドトラック）の認知モデルを概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/講義資料の復習、ノートの整理（60分）
- 第14回 音楽療法（1）
音楽療法の概念について概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/講義資料の復習、ノートの整理（60分）
- 第15回 音楽療法（2）
音楽療法における音楽の役割について概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/復習・ノート整理、課題の作成（60分）

〔アクティブラーニング〕

- 1回：F / 2回：F /
3回：F / 4回：F /
5回：F / 6回：F /
7回：F / 8回：F /
9回：F / 10回：F /
11回：F / 12回：F /
13回：F / 14回：F /
15回：F

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

特に予備知識は必要ありませんが、音を聴くということに対して探究心を持って授業に取り組むこと。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

パソコン（音や映像の視聴）

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①学期末課題（設問・記述式、50%）：音響心理学の基礎知識を理解し、自分の言葉で説明することができるか。

②授業課題（設問・記述式、50%）：授業内容を理解し、自分で考えたことを言葉にできるか。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

授業課題はその後の授業で触れます。

〔出席確認の方法〕

毎回のリアクションペーパー（Forms）の提出（提出がないと欠席扱いになるので要注意）

〔基本的な授業の進め方〕

講義動画（40分-50分程度）を講義資料を見ながら視聴し、重要な箇所は各自ノートを取る。講義を聴いたあとに音響例の音源を視聴すること。各講義後のリアクションペーパーで、授業内容を踏まえた設問に回答して提出すること。学期末の課題は所定の締切日までに提出すること。

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない】

〔教科書〕

特に使用しない。講義資料を配布する

〔参考文献〕

必要に応じて講義内で紹介する。

〔オフィスアワー〕

オンデマンド授業のためTeams上で質問を送ってください。

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

授業計画：テーマ・内容

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

出席確認の方法、基本的な授業の進め方

生活の中の法律 I

GE117

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

2【動画型2】

講義/1コマ

青木 亮祐

〔科目の概要および目的〕

法律はわれわれの日常生活上で重要な基準となるものである。

「もう少し法律を知っていればよかったのに」という事態を避けられるように、法的思考を獲得できることを目標とする。授業では、わが国の最高法規である日本国憲法からはじまり、民法・刑法なども取り扱う。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・自己の考えを、学修によって得られた知識等を用いて、社会の規範を踏まえて、他者に表現できる能力の獲得。
- ・学修によって得られた知識を獲得し、社会生活において活用できる能力の獲得。
- ・社会のなかの様々な問題に関心を持ち、自分なりの解決策を発見して行動できる能力の獲得。

〔授業形態〕

2【動画型2】

〔授業計画〕

- | | |
|-------|--|
| 第 1 回 | 法学とは何か
法学の誕生とその目的
事前/自分の身近な法律について考えてみる 0.5 (時間)
事後/レジュメ資料の確認 1 (時間) |
| 第 2 回 | 憲法の目的と仕組み
憲法の目的・全体像を確認する
事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5 (時間)
事後/レジュメ資料の確認 1 (時間) |
| 第 3 回 | 基本的人権①
基本的人権（公共の福祉・憲法13条・表現の自由等）
事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5 (時間)
事後/レジュメ資料の確認 1 (時間) |
| 第 4 回 | 基本的人権②
基本的人権（精神的自由権・経済的自由権・社会権）
事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5 (時間)
事後/レジュメ資料の確認 1 (時間) |
| 第 5 回 | 統治機構
日本の統治機構の仕組み
事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5 (時間)
事後/レジュメ資料の確認 1 (時間) |
| 第 6 回 | 憲法（まとめ） |

	憲法のまとめ		9回：— / 10回：— /
	事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5 (時間)		11回：E / 12回：— /
	事後/レジュメ資料の確認 1 (時間)		13回：— / 14回：— /
第 7 回	民法総論 (民法総則)		15回：E
	民法の目的と概要		〔事前に修得しておく必要のある科目〕
	事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5 (時間)		なし
	事後/レジュメ資料の確認 1 (時間)		〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕
第 8 回	物権法・債権法		日常生活で見えない部分であるけれども、それぞれの法規がどのように関わっているのかを意識すること
	民法における物権法・債権法		〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕
	事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5 (時間)		PDFファイルやパワーポイントの閲覧が可能であるPC
	事後/レジュメ資料の確認 1 (時間)		〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕
第 9 回	親族法・相続法		①試験 (70%) :憲法などの法規について、正確に理解しているか。
	民法における家族像・相続の内容		②平常点 (30%) :授業マナーを守り、授業に積極的に参加しているか。
	事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5 (時間)		〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕
	事後/レジュメ資料の確認 1 (時間)		コメントペーパーにおいて記載された質問などを、次回の授業で解説、説明する。
第 10 回	民事訴訟法		〔出席確認の方法〕
	民事の裁判手続		指定のタイミングでコメントの投稿、出席票、リアクションペーパーの提出などをもって行う。
	事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5 (時間)		〔基本的な授業の進め方〕
	事後/レジュメ資料の確認 1 (時間)		・授業説明 10分
第 11 回	民事法 (まとめ)		・その日の講義説明 60分
	民事法のまとめ		・講義の振り返りのためのリアクションペーパーの作成 20分
	事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5 (時間)		〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕
	事後/レジュメ資料の確認 1 (時間)		1. 主体的行動力：△
第 12 回	刑法総論		2. 表現力：—
	刑法の目的・解釈の方法		3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
	事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5 (時間)		4. 課題発見力・課題解決力：○
	事後/レジュメ資料の確認 1 (時間)		5. コミュニケーション力：—
第 13 回	刑法各論		6. 専門的知識・技能の活用力：○
	主要な犯罪に関する構成要件等		〔◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない〕
	事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5 (時間)		〔教科書〕
	事後/レジュメ資料の確認 1 (時間)		なし
第 14 回	刑事訴訟法		〔参考文献〕
	刑事の裁判手続		なし
	事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5 (時間)		〔オフィスアワー〕
	事後/レジュメ資料の確認 1 (時間)		時間：出講日 (水曜日) の授業の前後
第 15 回	刑事法 (まとめ)		場所：オンライン
	刑事法のまとめ		〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕
	事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5 (時間)		授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習
	事後/レジュメ資料の確認 1 (時間)		〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕
			課題やレポート等に対するフィードバックの方法
	〔アクティブラーニング〕		
	1回：— / 2回：— /		
	3回：— / 4回：— /		
	5回：— / 6回：E /		
	7回：— / 8回：— /		

生活の中の法律Ⅱ

GE215
東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目
1年生 2年生 3年生 4年生
2単位 後期
2【動画型2】
講義/1コマ

青木 亮祐

〔科目の概要および目的〕

日常生活では様々な紛争に巻き込まれることがある。また、事前に法律を知っていれば、大きな悩みとならずに済むことも多い。

授業では、労働法・社会保障法のほか、日常生活上のトラブルになりやすい分野を取り上げる。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・自己の考えを、学修によって得られた知識等を用いて、社会の規範を踏まえて、他者に表現できる能力の獲得。
- ・学修によって得られた知識を獲得し、社会生活において活用できる能力の獲得。
- ・社会のなかの様々な問題に関心を持ち、自分なりの解決策を発見して行動できる能力の獲得。

〔授業形態〕

2【動画型2】

〔授業計画〕

- 第1回 労働法①
労働法の目的・総論
事前/労働法に関する自分なりに興味のある新聞等の記事を読む 1（時間）
事後/レジュメ資料の確認 1（時間）
- 第2回 労働法②
雇用上のルール
事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5（時間）
事後/レジュメ資料の確認 1（時間）
- 第3回 労働法③
採用
事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5（時間）
事後/レジュメ資料の確認 1（時間）
- 第4回 労働法④
人事異動
事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5（時間）
事後/レジュメ資料の確認 1（時間）
- 第5回 労働法⑤
懲戒・退職
事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5（時間）
事後/レジュメ資料の確認 1（時間）
- 第6回 労働法⑥
労働時間・労働時間
事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5（時間）

- 間）
事後/レジュメ資料の確認 1（時間）
- 第7回 労働法⑦
休日・休暇
事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5（時間）
事後/レジュメ資料の確認 1（時間）
- 第8回 社会保障法①
社会保障法の目的・総論
事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5（時間）
事後/レジュメ資料の確認 1（時間）
- 第9回 社会保障法②
年金保険
事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5（時間）
事後/レジュメ資料の確認 1（時間）
- 第10回 社会保障法③
医療保険
事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5（時間）
事後/レジュメ資料の確認 1（時間）
- 第11回 社会保障法④
雇用保険・労災補償
事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5（時間）
事後/レジュメ資料の確認 1（時間）
- 第12回 社会保障法⑤
社会福祉（高齢者福祉）
事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5（時間）
事後/レジュメ資料の確認 1（時間）
- 第13回 社会保障法⑥
社会福祉（障害者福祉）
事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5（時間）
事後/レジュメ資料の確認 1（時間）
- 第14回 社会保障法⑦
社会福祉（児童福祉）
事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5（時間）
事後/レジュメ資料の確認 1（時間）
- 第15回 社会保障法⑧
公的扶助（生活保護）
事前/前回授業のレジュメ資料の確認 0.5（時間）
事後/レジュメ資料の確認 1（時間）

〔アクティブラーニング〕

- 1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：— /
5回：E / 6回：— /
7回：— / 8回：E /
9回：— / 10回：E /
11回：E / 12回：— /

13回：— / 14回：— /

15回：—

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

普段、日常生活で見えない部分であるけれども、それぞれの法規がどのように関わっているのかを意識すること

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

PDFファイルやパワーポイントの閲覧が可能であるPC

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①試験（70%）：憲法などの法規について、正確に理解しているか。

②平常点（30%）：授業マナーを守り、授業に積極的に参加しているか。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

コメントペーパーにおいて記載された質問などを、次回授業で解説・説明する。

【出席確認の方法】

指定のタイミングでコメントの投稿、出席票、リアクションペーパーの提出などをもって行う

【基本的な授業の進め方】

- ・授業説明 10分
- ・その日の講義説明 60分
- ・講義の振り返りのためのリアクションペーパーの作成 20分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：—
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

時間：出講日（水曜日）の授業の前後

場所：オンライン

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

課題やレポート等に対するフィードバックの方法

著作権法概論

GE216

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 夏期集中

5【同時双方向型】

講義・集中/1日5コマ

大和 淳

【科目の概要および目的】

メディアの多様化によって新たなコンテンツの創作・流通が活発化している。デジタル・コンテンツの多くは著作権法による保護を受ける場合が多く、また、それらを制作する場合、他の著作物等を利用することも多い。そのような環境で重要となる著作権制度の概要について、クリエイターの立場から基本的な内容を理解できるようになることを目的とする。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・著作権などの知的財産をめぐる社会の具体的事象を論理的に考え判断できる。
- ・コンテンツの製作・流通の場面で生じる著作権に関する諸問題について、クリエイターとユーザーの両方の立場に立った解決策を考えることができます。
- ・この授業で身に付けた著作権に関する専門的な知識を、コンテンツの製作・流通の現場での業務に活かすことができる。

【授業形態】

5【同時双方向型】

【授業計画】

第1回 知的財産権について（導入）

【同時双方向型授業】

授業の導入として、情報伝達技術が発達している今日における知的財産の意義について概説する。

事前/資料に提示した内容 1 (時間)

事後/課題 1 (時間)

第2回 著作権制度の沿革・概要

【同時双方向型授業】

著作権制度が国際的にどのような背景で確立してきたか、日本においてどのような経緯を経て今日に至っているかを紹介し、大枠としての制度について概説する。

事前/資料に示した内容 1 (時間)

事後/課題 1 (時間)

第3回 著作物の定義・例示

【オンデマンド型授業】

どのようなものが「著作物」としての権利を認められるのか、産業財産権の保護の客体とどのように異なるのか等について解説する。

事前/資料に提示した内容 1 (時間)

事後/課題 1 (時間)

第4回 著作者の概念

	<p>【オンデマンド型授業】</p> <p>「著作者」の基本的な概念及び法人等が著作者となる場合の要件について解説する。</p> <p>事前/資料に示した内容 1 (時間)</p> <p>事後/課題 1 (時間)</p>		
第 5 回	<p>著作者の権利</p> <p>【オンデマンド型授業】</p> <p>「著作者人格権」及び「(財産権としての)著作権」の発生、種類、内容、保護の意義について解説する。</p> <p>事前/資料に提示した内容 1 (時間)</p> <p>事後/課題 1 (時間)</p>	第 13 回	<p>著作物等の利用</p> <p>【オンデマンド型授業】</p> <p>著作物を利用するための方法(個別の許諾、著作権者等のあらかじめの意思表示、利用の裁定)について説明する。</p> <p>事前/資料に示した内容 1 (時間)</p> <p>事後/課題 1 (時間)</p>
第 6 回	<p>ICT発達社会における著作権制度</p> <p>【同時双方向型授業】</p> <p>ネットワーク技術やデジタルメディアを活用した新たなビジネスにおいて、コンテンツの円滑な流通とクリエイターの権利の保護のバランスの在り方を考える。</p> <p>事前/資料に示した内容 1 (時間)</p> <p>事後/課題 1 (時間)</p>	第 14 回	<p>著作権等の制限</p> <p>【オンデマンド型授業】</p> <p>著作権等が制限され、例外的に許諾を得ずに利用できる場合の条件等について解説する。</p> <p>事前/資料に提示した内容 1 (時間)</p> <p>事後/課題 1 (時間)</p>
第 7 回	<p>クリエイターからユーザーに対する啓発活動</p> <p>【同時双方向型授業】</p> <p>権利保護のためのクリエイターらによる様々な活動について紹介する。</p> <p>事前/資料に提示した内容 1 (時間)</p> <p>事後/課題 1 (時間)</p>	第 15 回	<p>権利侵害と救済、登録制度、その他</p> <p>【オンデマンド型授業】</p> <p>著作権等の侵害を受けた場合の民事的・刑事的な救済制度や、著作権等に関する一定の事実を公示する登録制度について解説する。</p> <p>事前/資料に示した内容 1 (時間)</p> <p>事後/課題 1 (時間)</p>
第 8 回	<p>著作権の保護期間</p> <p>【オンデマンド型授業】</p> <p>著作者の権利の存続期間について解説する。</p> <p>事前/資料に示した内容 1 (時間)</p> <p>事後/課題 1 (時間)</p>		<p>【アクティブラーニング】</p> <p>1回：A,D / 2回：A,D / 3回：— / 4回：— / 5回：— / 6回：A,D / 7回：A,D / 8回：— / 9回：— / 10回：— / 11回：A,D / 12回：A,D / 13回：— / 14回：— / 15回：—</p>
第 9 回	<p>著作隣接権制度</p> <p>【オンデマンド型授業】</p> <p>実演家・レコード製作者・放送事業者・有線放送事業者の権利の種類、内容、保護の意義について解説する。</p> <p>事前/資料に示した内容 1 (時間)</p> <p>事後/課題 1 (時間)</p>		<p>【事前に修得しておく必要のある科目】</p> <p>なし</p>
第 10 回	<p>著作権等の国際的保護</p> <p>【オンデマンド型授業】</p> <p>国境を越えて著作物等が利用される場合に、どのような仕組みによって権利が保護されるのか解説する。</p> <p>事前/資料に提示した内容 1 (時間)</p> <p>事後/課題 1 (時間)</p>		<p>【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著作権制度について初めて学ぶ者を想定して授業を行うため、特別な予備知識は必要ない。 ・新聞やテレビ等において著作権に関連するニュースが報道された場合には、問題意識をもって読み、又は視聴しておくこと。
第 11 回	<p>著作権等の集中的管理の歴史①</p> <p>【同時双方向型授業】</p> <p>著作物等の円滑な利用の仕組みについて、社会に変化に応じてどのように変遷してきたかを振り返る(仲介業務法の時代)。</p> <p>事前/資料に示した内容 1 (時間)</p> <p>事後/課題 1 (時間)</p>		<p>【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】</p> <p>—</p>
第 12 回	<p>著作権等の集中的管理の歴史②</p>		<p>【成績評価方法・評価割合・評価基準】</p> <p>①平常点(30%)…疑問をもち、課題を解決しようという意欲をもって授業に臨んでいるか。適切なマナーで授業に参加しているか。</p> <p>②提出物(30%)…各回で示す課題に取り組んでいるか。</p> <p>③レポート(40%)…問われていることに的確に答えているか、本人の主張が分かりやすくまとめられているか、適切な表現が用いられているか。</p> <p>なお、出席時数が全授業(15回)の3分の2に満たない場合は、原則として成績評価の対象としない。</p>

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・提出後の授業で全体に対してコメントする。

〔出席確認の方法〕

指定のタイミングでコメント投稿や出席票、リアクションペーパー提出などを併用して行う。

〔基本的な授業の進め方〕

1回, 2回, 6回, 7回, 11回, 12回: 同時双方向 (資料の説明・解説と質疑応答 (口頭又はチャット))

それ以外の回: オンデマンド (資料の通読 (30分), 資料に基づく調べ学修 (30分), 課題の演習 (30分))

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力: △
2. 表現力: ー
3. 社会貢献力・コラボレーション力: ー
4. 課題発見力・課題解決力: ○
5. コミュニケーション力: ー
6. 専門的知識・技能の活用力: ◎

【◎: 特に関連が強い ○: 関連が強い △: 関連がある
ー: 関連していない】

〔教科書〕

なし (Teamに資料を掲載する)

〔参考文献〕

『著作権法入門2021-2022』, 文化庁, 著作権情報センター, 本体2,700円

『映画・ゲームビジネスの著作権 (第2版)』, 福井健策, 内藤篤, 升本喜郎, 著作権情報センター, 本体2,500円

『出版・マンガビジネスの著作権 (第2版)』, 福井健策, 桑野雄一郎, 赤松健, 著作権情報センター, 本体2,500円

〔オフィスアワー〕

時間: 出講日の授業終了後30分

場所: オンライン (Microsoft Teamsでのチャット)

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

授業計画: テーマ・内容

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

教科書、参考文献、オフィスアワー

情報と経済 I

GE118

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

加藤 雅夫

〔科目の概要および目的〕

テレビ・新聞・雑誌・ネット等の情報メディアや漫画・アニメ・映画・ゲーム・キャラクター等エンタテインメント産業の最新動向を、経済的・マーケティング的な側面を中心に日々の報道記事や調査研究レポート等を紹介・検証しながら学習する。クリエイター志望の学生らを取り巻く業界・市場の「今」を、現在進行形で理解することを目的とする。

常に最新情報を取り上げるので後期の「情報と経済Ⅱ」に続けて受講できる。

〔到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル) 〕

①日々の記事やニュースに関心を持ち、情報収集をして内容を理解できる。

②その内容について、自分なりの意見・感想を持ち発言できる。

③講師や他の学生の意見・感想に接し、比較して自分の意見・感想を発展させる。

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

講義の趣旨を説明し、概要や評価方法を紹介する。最近の日本の広告費とメディア接触の状況等を解説する。

事前/日々の報道を確認 (3時間)

事後/授業の資料を確認 (1時間)

第 2 回 最近のメディアとエンタテインメントの業界動向
最近のマスコミやネットの報道記事や調査研究レポート等を取り上げ、変化する業界・市場を解説する。

事前/日々の報道を確認 (3時間)

事後/授業の資料を確認 (1時間)

第 3 回 最近のメディアとエンタテインメントの業界動向
最近のマスコミやネットの報道記事や調査研究レポート等を取り上げ、変化する業界・市場を解説する。

事前/日々の報道を確認 (3時間)

事後/授業の資料を確認 (1時間)

第 4 回 最近のメディアとエンタテインメントの業界動向
最近のマスコミやネットの報道記事や調査研究レポート等を取り上げ、変化する業界・市場を解説する。

事前/日々の報道を確認 (3時間)

事後/授業の資料を確認 (1時間)

第 5 回 最近のメディアとエンタテインメントの業界動向
最近のマスコミやネットの報道記事や調査研究レポート等を取り上げ、変化する業界・市場を解説する。

事前/日々の報道を確認 (3時間)

事後/授業の資料を確認 (1時間)

第 6 回 演習 (1) -①

出題された課題に対して、調査結果・考察を400字程度の中間課題レポートにまとめ発表。発表時に学生間で質疑応答させる。

事前/レポート発表準備(3時間)

事後/レポート仕上げ(1時間)

第 7 回 演習 (1) -②

出題された課題に対して、調査結果・考察を400字程度の中間課題レポートにまとめ発表。発表時に学生間で質疑応答させる。

事前/レポート発表準備(3時間)

事後/レポート仕上げ(1時間)

- 第 8 回 演習 (1) -③
出題された課題に対して、調査結果・考察を400字程度の間題課題レポートにまとめ発表。発表時に学生間で質疑応答させる。
事前/レポート発表準備(3時間)
事後/レポート仕上げ(1時間)
- 第 9 回 最近のメディアとエンタテインメントの業界動向
最近のマスコミやネットの報道記事や調査研究レポート等を取り上げ、変化する業界・市場を解説する。
事前/日々の報道を確認 (3時間)
事後/授業の資料を確認 (1時間)
- 第 10 回 最近のメディアとエンタテインメントの業界動向
最近のマスコミやネットの報道記事や調査研究レポート等を取り上げ、変化する業界・市場を解説する。
事前/日々の報道を確認 (3時間)
事後/授業の資料を確認 (1時間)
- 第 11 回 最近のメディアとエンタテインメントの業界動向
最近のマスコミやネットの報道記事や調査研究レポート等を取り上げ、変化する業界・市場を解説する。
事前/日々の報道を確認 (3時間)
事後/授業の資料を確認 (1時間)
- 第 12 回 演習 (2) -①
出題された課題に対して、調査結果・考察を1000字程度の最終課題レポートにまとめ発表。発表時に学生間で質疑応答させる。
事前/レポート発表準備(3時間)
事後/レポート仕上げ(1時間)
- 第 13 回 演習 (2) -②
出題された課題に対して、調査結果・考察を1000字程度の最終課題レポートにまとめ発表。発表時に学生間で質疑応答させる。
事前/レポート発表準備(3時間)
事後/レポート仕上げ(1時間)
- 第 14 回 演習 (2) -③
出題された課題に対して、調査結果・考察を1000字程度の最終課題レポートにまとめ発表。発表時に学生間で質疑応答させる。
事前/レポート発表準備(3時間)
事後/レポート仕上げ(1時間)
- 第 15 回 まとめ
前期のまとめ。最終課題レポートを提出する。
事前/レポート仕上げ(4時間)

【アクティブラーニング】

- 1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：— /
5回：— / 6回：C /
7回：C / 8回：C /
9回：— / 10回：— /
11回：— / 12回：C /
13回：C / 14回：C /
15回：—

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

①漫画やアニメ、ゲーム、テレビ、ネット、映画、イベント、広告等に幅広い関心を持ち、日々のマスコミやネットメディアの報道等をチェックする。

②演習 (1) と (2) のレポートでは、出題課題について調査・考察し、簡潔に文章をまとめて、発表する力があること。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

小さい文字や図表等が見やすいPCが好ましい。

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点 (30%)：授業への関心度や質疑応答等への参加を評価する。

②演習 (1) (30%)：課題に対する発表内容や文章力を含めた総合的なコミュニケーション力を評価する。

③演習 (2) (40%)：課題に対する発表内容や文章力を含めた総合的なコミュニケーション力を評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

授業で全体のコメントをする。

【出席確認の方法】

授業終了時に各自簡単なコメントを付けチャットに投稿する。

【基本的な授業の進め方】

①前回の振り返りと本日の講義の概要 (10分)

②その日の講義1～5：解説 (各10分×5) + 質疑応答等 (各5分×5)

③簡単なコメントを付けチャットに投稿 (5分)

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：—

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

Microsoft Teamsでのチャットや音声通話を使用する。

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容、成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、オフィスアワー

情報と経済Ⅱ

GE217

東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目
1年生 2年生 3年生 4年生
2単位 後期
5 【同時双方向型】
講義/1コマ

加藤 雅夫

【科目の概要および目的】

テレビ・新聞・ネット等の情報メディアや漫画・アニメ・映画・ゲーム・キャラクター等エンタテインメント産業の最新動向を、経済的・マーケティング的な側面を中心に日々の報道記事や調査研究レポート等を紹介・検証しながら学習する。クリエイター志望の学生らを取り巻く業界・市場の「今」を、現在進行形で理解することを目的とする。常に最新情報を取り上げるので前期の「情報と経済Ⅰ」に続き受講できる。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ①日々の記事やニュースに関心を持ち、情報収集をして内容を理解できる。
- ②その内容について、自分なりの意見・感想を持ち発言できる。
- ③講師や他の学生の意見・感想に接し、比較して自分の意見・感想を発展させる。

【授業形態】

5 【同時双方向型】

【授業計画】

- 第 1 回 インTRODクシヨシヨシ
本講義の趣旨を説明し、概要や評価方法を紹介する。最近の日本の広告費とメディア接触の状況を解説する。
事前/日々の報道を確認（3時間）
事後/授業の資料を確認（1時間）
- 第 2 回 最近のメディアとエンタテインメントの業界動向
最近のマスコミやネットの報道記事や調査研究レポート等を取り上げ、変化する業界・市場を解説する。
事前/日々の報道を確認（3時間）
事後/授業の資料を確認（1時間）
- 第 3 回 最近のメディアとエンタテインメントの業界動向
最近のマスコミやネットの報道記事や調査研究レポート等を取り上げ、変化する業界・市場を解説する。
事前/日々の報道を確認（3時間）
事後/授業の資料を確認（1時間）
- 第 4 回 最近のメディアとエンタテインメントの業界動向
最近のマスコミやネットの報道記事や調査研究レポート等を取り上げ、変化する業界・市場を解説する。
事前/日々の報道を確認(3時間)
事後/授業の資料を確認(1時間)
- 第 5 回 最近のメディアとエンタテインメントの業界動向

最近のマスコミやネットの報道記事や調査研究レポート等を取り上げ、変化する業界・市場を解説する。

事前/日々の報道を確認(3時間)

事後/授業の資料を確認(1時間)

第 6 回 演習 (1) -①

出題された課題に対して、調査結果・考察を400字程度の中間課題レポートにまとめ発表。発表時に学生間で質疑応答させる。

事前/レポート発表準備(3時間)

事後/レポート仕上げ(1時間)

第 7 回 演習 (1) -②

出題された課題に対して、調査結果・考察を400字程度の中間課題レポートにまとめ発表。発表時に学生間で質疑応答させる。

事前/レポート発表準備(3時間)

事後/レポート仕上げ(1時間)

第 8 回 演習 (1) -③

出題された課題に対して、調査結果・考察を400字程度の中間課題レポートにまとめ発表。発表時に学生間で質疑応答させる。

事前/レポート発表準備(3時間)

事後/レポート仕上げ(1時間)

第 9 回 最近のメディアとエンタテインメントの業界動向
最近のマスコミやネットの報道記事や調査研究レポート等を取り上げ、変化する業界・市場を解説する。

事前/日々の報道を確認（3時間）

事後/授業の資料を確認（1時間）

第 10 回 最近のメディアとエンタテインメントの業界動向
最近のマスコミやネットの報道記事や調査研究レポート等を取り上げ、変化する業界・市場を解説する。

事前/日々の報道を確認（3時間）

事後/授業の資料を確認（1時間）

第 11 回 最近のメディアとエンタテインメントの業界動向
最近のマスコミやネットの報道記事や調査研究レポート等を取り上げ、変化する業界・市場を解説する。

事前/日々の報道を確認（3時間）

事後/授業の資料を確認（1時間）

第 12 回 演習 (2) -①

出題された課題に対して、調査結果・考察を1000字程度の最終課題レポートにまとめ発表。発表時に学生間で質疑応答させる。

事前/レポート発表準備(3時間)

事後/レポート仕上げ(1時間)

第 13 回 演習 (2) -②

出題された課題に対して、調査結果・考察を1000字程度の最終課題レポートにまとめ発表。発表時に学生間で質疑応答させる。

事前/レポート発表準備(3時間)

事後/レポート仕上げ(1時間)

第 14 回 演習 (2) -③

出題された課題に対して、調査結果・考察を1000字程度の最終課題レポートにまとめ発表。発表時に学生間で質疑応答させる。

事前/レポート発表準備(3時間)

事後/レポート仕上げ(1時間)

第 15 回 まとめ

後期のまとめ。最終課題レポートを提出する。

事前/レポート仕上げ(4時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：— /

3回：— / 4回：— /

5回：— / 6回：C /

7回：C / 8回：C /

9回：— / 10回：— /

11回：— / 12回：C /

13回：C / 14回：C /

15回：—

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

①漫画やアニメ、ゲーム、テレビ、ネット、映画、イベント、広告等に幅広い関心を持つこと。

②演習 (1) と (2) のレポートでは、テーマについて調査し、簡潔に文章をまとめ、発表する力があること。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

小さい文字も読みやすいPCが好ましい。

〔成績評価方法 ・評価割合 ・評価基準〕

①平常点 (30%) : 授業への関心度や質疑応答等への参加を評価する。

②演習 (1) (30%) : 課題に対する発表内容や文章力を含めた総合的なコミュニケーション力を評価する。

③演習 (2) (40%) : 課題に対する発表内容や文章力を含めた総合的なコミュニケーション力を評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

授業で全体のコメントをする。

〔出席確認の方法〕

授業終了時に各自簡単なコメントを付けチャットに投稿する。

〔基本的な授業の進め方〕

①前回の振り返りと本日の講義の概要 (10分)

②その日の講義1~5 : 解説 (各10分×5) + 質疑応答等 (各5分×5)

③簡単なコメントを付けチャットに投稿 (5分)

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力 : △

2. 表現力 : ○

3. 社会貢献力・コラボレーション力 : —

4. 課題発見力・課題解決力 : ○

5. コミュニケーション力 : ◎

6. 専門的知識・技能の活用力 : —

【◎ : 特に関連が強い ○ : 関連が強い △ : 関連がある

— : 関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

Microsoft Teamsでのチャットや音声通話を使用する。

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画 : テーマ・内容、成績評価方法・評価割合・評価基準

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、オフィスアワー

メディア社会学 I

GE119

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

橋口 静思

〔科目の概要および目的〕

本授業はオンラインとコンテンツがどのように社会と関係するのか講義と実践を行い、最終的にプレゼンテーションを行う。授業内では、企画を実現させるための知識や配慮を理解し、主体的に考えるために、様々な事例を用いて、他の学生との議論を行う。また、社会で通用するプレゼンテーション手法を数回にわたる実践によって習得する。

本授業の目的は「実現性を持つ企画の立案手法」と、「社会で通用するプレゼンテーション能力」を習得することである。企画・プレゼンテーションを通じて、自らが扱うコンテンツを社会で活かすために、どのような視点を持つべきかを客観的な理由を挙げて説明することができるようになることである。

〔到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル) 〕

(1) コンテンツを実社会へ「発信する」ためのディレクターの視点を獲得する

(2) 地域社会における伝統文化を現代の課題と結び付けて理解するリサーチ力を獲得する

(3) 発想を現実のものにするために前提となる「実現性」のための現場の視点を理解し、自らのことばで説明する能力を習得する

自らの専門だけに留まらない知識や視点を獲得することによって、卒業制作などでも、制作背景の広がりや論理的に説明することを目標とする。

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス : 方向性・身につける力を理解する

	授業の目的を理解する／課題の説明	
	事前/シラバスを読み込む (時間)1	
	事後/課題の理解・企画 (時間)2	
第 2 回	クリエイターの動きを理解する・オーダーの理解 1	
	オーダーの理解・独自性を理解する／課題説明	
	事前/課題のアイデア出し (時間)2	
	事後/授業内容の復習 (時間)1.5	
第 3 回	クリエイターの動きを理解する・オーダーの理解 2	
	現代アートと歴史／現代アートとポップカルチャーなどを事例に解説する	
	事前/課題のアイデア出し (時間)2	
	事後/授業内容の復習 (時間)1.5	
第 4 回	クリエイターの動きを理解する・オーダーの理解 3	
	現代アート事例・イベントの事例を解説する	
	事前/課題のアイデア出し (時間)2	
	事後/授業内容の復習 (時間)1.5	
第 5 回	クリエイターの動きを理解する・オーダーの理解 4	
	講評／チェックからリテイクの必要性を理解する	
	事前/課題を仕上げる (時間)2	
	事後/講評を踏まえて改善 (時間)2	
第 6 回	ディレクターの動きを理解する・コンテンツのチェック 1	
	ディレクションの仕組み・チェックとリサーチを解説する	
	事前/コンテンツのリサーチ (時間)1.5	
	事後/授業内容の復習 (時間)1.5	
第 7 回	ディレクターの動きを理解する・コンテンツのチェック 2	
	リテラシー／安全性の確保について概説する	
	事前/課題のアイデア出し (時間)2	
	事後/授業内容の復習 (時間)1.5	
第 8 回	ディレクターの動きを理解する・コンテンツのチェック 3	
	ブレインストーミングとアイデア出しについての解説・実践	
	事前/課題のアイデア出し (時間)2	
	事後/授業内容の復習 (時間)1.5	
第 9 回	プロデュースを理解する・方向性を定める 1	
	プランニングとは／問題解決のためのリサーチ・ブレストの実践	
	事前/課題のアイデア出し (時間)2	
	事後/授業内容の復習 (時間)1.5	
第 10 回	プロデュースを理解する・方向性を定める 2	
	コンセプトの背景を理解する／現代アートの思考の解説	
	事前/リサーチ・ブレスト (時間)2	
	事後/授業内容の復習 (時間)1.5	
第 11 回	プロデュースを理解する・方向性を定める 3	

	課題の講評	
	事前/課題を仕上げる (時間)2	
	事後/講評を踏まえて改善 (時間)2	
第 12 回	発信の実践・プロジェクトの検証 1	
	広報とプランニングについての解説	
	事前/課題のアイデア出し (時間)2	
	事後/授業内容の復習 (時間)1.5	
第 13 回	発信の実践・プロジェクトの検証 2	
	プロジェクトの相互チェック	
	事前/課題の実践 (時間)2	
	事後/課題の改善 (時間)2	
第 14 回	発信の実践・プロジェクトの検証 3	
	講評／改善案のリサーチ	
	事前/課題を仕上げる (時間)3	
	事後/課題の改善 (時間)3	
第 15 回	発信の実践・プロジェクトの検証 4	
	振り返り	
	事前/課題最終稿の完成 (時間)3	
	事後/授業の振り返り (時間)2	

【アクティブラーニング】

1回：A / 2回：A /
 3回：A / 4回：A,D /
 5回：A,C / 6回：A /
 7回：A / 8回：C,D /
 9回：C,D / 10回：A /
 11回：A,C / 12回：A /
 13回：C,D / 14回：C,D /
 15回：A

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

1年生から4年生まで、履修が可能です。プレゼンテーションソフトが使用できることが前提となります。

重要な点は、自分の知らない地域や、文化を好き嫌いをせずに体験する気持ちです。知らないことを知ろうとする好奇心を強く持ってください。授業の理解度や進度に応じて内容を適宜変更する場合があります。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

teams/office

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①最終的な成果物（企画）（50%）：企画の独創性と、実現可能性などを含め、総合的に判断します。オリジナリティにより加点します。

②プレゼンテーション（30%）：考えを伝える能力と工夫に加点を行います。

③授業全体の貢献度（20%）：ディスカッションと事前／事後学習のリサーチを特に重視します。

出席だけでも単位は取れません。また、プレゼンテーションに参加しないものの単位は認めません。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・課題のフィードバックはできる限り授業中に行います。

・その他の時間でも、相談は随時受け付けます。

【出席確認の方法】

(オンライン)forms

〔基本的な授業の進め方〕

- ・ 授業説明:5分
- ・ その日の講義1:説明20分 → ワーク1 : 10分 → 解説10分
- ・ その日の講義2:説明20分 → ワーク2 : 10分 → 解説10分
- ・ 授業の振り返り 5分

※授業内容によって変更します。

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力 : ◎
2. 表現力 : ◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力 : ○
4. 課題発見力・課題解決力 : ◎
5. コミュニケーション力 : ◎
6. 専門的知識・技能の活用力 : ○

【◎ : 特に関連が強い ○ : 関連が強い △ : 関連がある
— : 関連していない】

〔教科書〕

授業内において適宜指示、配布します

〔参考文献〕

授業内において適宜指示、配布します

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

メディア社会学Ⅱ

GE218

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

橋口 静思

〔科目の概要および目的〕

この授業では音楽フェスを事例に、「オンラインのイベント/音楽フェスがこれまでの対面式より魅力のあるものとするためには」という命題に取り組む。昨今の状況によりイベントの開催はこれまでと異なる形式となった。対面の代替としてのオンラインではなく、オンラインだからこそやる意味のある催しとは何か、現代社会でも明確な答えは出ていないが、受講生が主体的にリサーチや思考をし、教員とともに議論する。

本授業の目的は「実現性を持つ企画の立案手法」と、「正解のない問いに取り組む力」を習得することである。企画や対話を通じて、自らが扱うコンテンツを社会で活かすために、どのような視点を持つべきかを客観的な理由を挙げて説明することができるようになるための授業である。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

(1)コンテンツを実社会へ「発信する」ためのディレクターの視点を獲得する

(2)自らの意見や創造力を実現させるために必要な「伝える」ためのプレゼンテーション能力を獲得する

(3)発想を現実のものにするために前提となる「実現性」のための現場の視点を理解し、自らのことばで説明する能力を習得する

自らの専門だけに留まらない知識や視点を獲得することによって、卒業制作などでも、制作背景の広がりや論理的に説明することを目標とする。

これらに加えて「正解のない問いに取り組む力」である問題発見力・問題解決力を身につける

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨンガイダンス
ガイダンスを行う。対面授業との違いと内容を説明する
事前/シラバスを熟読すること (時間)1
事後/企画概要をたてる (時間)2
- 第 2 回 フェス/イベントとは何か
音楽フェスやイベントについて講義する。人が集まることの意味を考える
事前/予習と体験をメモする (時間)1
事後/授業内容を復習 (時間)1.5
- 第 3 回 祭りと地域の固有性
祭りの歴史から地域固有の事例について理解する
事前/祭りの事例を調べる (時間)2
事後/授業内容を復習 (時間)1.5
- 第 4 回 オンラインとリアル
対面コミュニケーションの意義についてディスカッションを行う
事前/対面/オンラインの差を考察(時間)1.5
事後/授業内容を復習 (時間)1.5
- 第 5 回 正解のない問いについて
問いの立て方・リサーチ手法を理解する
事前/前回の授業内容を復習 (時間)1.5
事後/授業内容を復習 (時間)1.5
- 第 6 回 批評と比較
批評について解説する
事前/テキストを読み込む (時間)1.5
事後/授業内容を復習 (時間)1.5
- 第 7 回 音楽フェスの歴史 1
音楽フェスの歴史について解説する
事前/企画制作 (時間)2
事後/授業内容を復習 (時間)1.5
- 第 8 回 音楽フェスの歴史 2
音楽フェスの歴史について解説する
事前/ニュースをリサーチ (時間)1.5
事後/授業内容を復習 (時間)1.5
- 第 9 回 音楽フェスの事例 1
特徴のある音楽フェスから、各イベントのステイメントを理解する

	事前/ニュースをリサーチ	(時間)1.5
	事後/授業内容を復習	(時間)1.5
第 10 回	音楽フェスの事例 2	
	2020年に開催されたフェス事例から今後を考える	
	事前/企画制作	(時間)2
	事後/授業内容を復習	(時間)1.5
第 11 回	フェス現場について	
	オンラインで音楽フェスの現場での現況を講義する	
	事前/企画制作	(時間)2
	事後/授業内容を復習	(時間)1.5
第 12 回	企画と見せ方について	
	企画の構成方法と伝え方を知る	
	事前/企画制作	(時間)2
	事後/企画制作	(時間)2
第 13 回	企画講評	
	完成した企画を講評する	
	事前/企画制作	(時間)4
	事後/企画修正	(時間)2
第 14 回	企画修正	
	フィードバックをもとに企画を修正する	
	事前/企画修正	(時間)2
	事後/企画完成	(時間)2
第 15 回	まとめ	
	振り返りとともに、実社会に通用するために注意すべきことを解説する	
	事前/企画完成	(時間)2
	事後/授業全体の復習	(時間)2

〔アクティブラーニング〕

1回：D,E / 2回：D,E /
 3回：D,E / 4回：D,E /
 5回：D,E / 6回：D,E /
 7回：D,E / 8回：D,E /
 9回：D,E / 10回：D,E /
 11回：D,E / 12回：D,E /
 13回：D,E / 14回：D,E /
 15回：D,E

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

1年生から4年生まで、履修が可能です。プレゼンテーションソフトが使用できることが前提となります。

重要な点は、自分の知らないジャンルの音楽や、文化を好き嫌いをせずに体験する気持ちを必要とします。知らないことを知ろうとする好奇心を強く持ってください。フェス/イベントに参加した経験は問いませんが、授業を通じて体験するようになると好ましい。授業の理解度や進度に応じて内容を適宜変更する場合があります。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

teams/office

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

1.最終的な成果物(企画)(50%):企画の独創性と、実現可能性などを含め、総合的に判断します。オリジナリティにより加点します。

2.リアクションペーパー(20%):授業内のリアクションペーパーを評価します。特に思考力や批評力を評価します。
 3.授業全体の貢献度(30%):ディスカッションと事前/事後学習のリサーチを特に重視します。出席だけでも単位は取れません。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・課題のフィードバックはできる限り授業中に行います。
- ・その他の時間でも、相談は随時受け付けます。

〔出席確認の方法〕

- ・指定のタイミングでコメントを投稿させる
- ・授業参加
- ・formsによる出欠入力を複合して行う

〔基本的な授業の進め方〕

- ・Aブロック:テーマの説明・講義(30分)
- ・Bブロック:テーマに基づいた事例の紹介・チャットによるディスカッション(40分)
- ・Cブロック:質疑応答・次回のテーマについての事前学習(20分)

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：◎
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 —：関連していない】

〔教科書〕

授業内において適宜指示、配布します

〔参考文献〕

授業内において適宜指示、配布します

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

日本と国際情勢

GE120

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

二村 克彦

〔科目の概要および目的〕

第2次大戦後にアメリカを中心として作られてきた世界秩序が、いま大きく変わりつつあります。アメリカの指導力に衰えが見える一方、中国が影響力を強めています。このなかで日本はどのように国を運営し、国益の確保をはかって

いくのか、について考えます。民主主義が揺らぎ、貧富の格差が開く国際社会の具体的問題、戦争を根絶するための国際連合の役割、日本の安全保障の軍事的仕組みとさらに重要な非軍事的努力、資本主義、民族主義、宗教など国際関係を動かす要素を学ぶことにより、市民としてより紛争の少ない国際社会のためにできることを探ります。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・日本が直面する問題を認識できる
- ・その問題を歴史的に評価することができる
- ・当該問題に関して異なる当事者の主張を理解することができる
- ・対立する主張を冷静に分析し、解決への道筋を探ることができる
- ・偏狭な排外主義を見抜く力を身につける

【授業形態】

【授業計画】

- 第 1 回 イントロダクション
授業の狙い、各回内容、勉強の仕方など説明する
事前/シラバスをよく読む (30分)
- 第 2 回 日本の国家目標
時代と国境を超える国家目標を、日本はかつて持ったことがあるのか。具体的な目標を考えてみる
事前/前々日までにアップロードされたテキスト・参考資料をよく読む (60分)
事後/ 授業内容の整理(60分)
- 第 3 回 日本を規定するもの
ポツダム宣言は戦後日本の在り方を決めたが、それを変えようとする力が強まっている。その狙いはなにかを説明する
事前/前々日までにアップロードされたテキスト・参考資料をよく読む (60分)
事後/ 授業内容の整理(60分)
- 第 4 回 不安定化する世界
国際情勢は不安定化しているが、その要因としてアメリカの指導力衰退、中国台頭、コロナ禍の影響などを考える。
事前/前々日までにアップロードされたテキスト・参考資料をよく読む (60分)
事後/ 授業内容の整理(60分)
- 第 5 回 日本が抱える問題
領土問題、戦後処理が未完など、日本の難問を紹介する
事前/前々日までにアップロードされたテキスト・参考資料をよく読む (60分)
事後/ 授業内容の整理(60分)
- 第 6 回 日本の難問の歴史的背景
明治以降の歴史の中で、前授業で取り上げた問題が生まれた背景について説明する
事前/前々日までにアップロードされたテキスト・参考資料をよく読む (60分)
事後/ 授業内容の整理(60分)
- 第 7 回 戦争の歴史

国際法は戦争を禁止しているが、そこまでに至る歴史を説明。それでも戦争がなくなるのはなぜか、を考える

事前/前々日までにアップロードされたテキスト・参考資料をよく読む (60分)

事後/ 授業内容の整理(60分)

- 第 8 回 国際連合による国際紛争の解決
国際紛争の平和的解決のために国連が定めている仕組みを説明。

事前/前々日までにアップロードされたテキスト・参考資料をよく読む (60分)

事後/ 授業内容の整理(60分)

- 第 9 回 日本を守るための軍事的な仕組み
日本を国際的武力紛争から守る国連、日米安保条約の仕組みを概説する

事前/前々日までにアップロードされたテキスト・参考資料をよく読む (60分)

事後/ 授業内容の整理(60分)

- 第 10 回 日本を守るために非軍事面で大切なこと
4割に届かない日本の食料自給率、1割を下回るエネルギー自給率などを参照しながら、非軍事面の安全保障を考える

事前/前々日までにアップロードされたテキスト・参考資料をよく読む (60分)

事後/ 授業内容の整理(60分)

- 第 11 回 世界第3位の経済大国日本
国内総生産 (GDP)の推移、国際比較などについて説明。世界の中での日本経済の実力、今後の見通しを考える

事前/前々日までにアップロードされたテキスト・参考資料をよく読む (60分)

事後/ 授業内容の整理(60分)

- 第 12 回 資本主義の世界
資本主義の仕組みを説明し、健全な資本主義を考える

事前/前々日までにアップロードされたテキスト・参考資料をよく読む (60分)

事後/ 授業内容の整理(60分)

- 第 13 回 拡大する格差
資本主義のもとでの経済格差の拡大、それに対する対応を議論する

事前/前々日までにアップロードされたテキスト・参考資料をよく読む (60分)

事後/ 授業内容の整理(60分)

- 第 14 回 国際情勢を動かすもの
経済、民族、宗教の影響を説明。

事前/前々日までにアップロードされたテキスト・参考資料をよく読む (60分)

事後/ 授業内容の整理(60分)

- 第 15 回 全体のレビュー・テスト
14回の授業をおさらいの後、テストを実施する。

事前/授業全体の復習(60分)

事後/テスト解答とコメントの確認(60分)

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：— /
 3回：— / 4回：— /
 5回：— / 6回：— /
 7回：— / 8回：— /
 9回：— / 10回：— /
 11回：— / 12回：— /
 13回：— / 14回：— /
 15回：—

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・新聞による授業関連ニュースのチェックと情報整理
- ・高校レベルの近代史、世界史参考書による背景の予習。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

PC、タブレットなど

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点（30%）：毎授業の課題への取り組みが評価ポイント

②テスト（70%）：日本の抱える問題を認識し、国際環境を理解できているか

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

オンライン授業中のコメント、メール

〔出席確認の方法〕

始業時に音声通話での点呼

〔基本的な授業の進め方〕

- ・授業説明と点呼
- ・講義25分
- ・課題取り組み20分と講義 45分
- ・授業とりまとめと質疑 10分
- ・次回の予定

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：○
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：△

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 —：関連していない】

〔教科書〕

担当教員が講義概要を用意します

〔参考文献〕

勝野正恒・二村克彦共著「国連再生と日本外交」（国際書院）【図書館で参照してください。購入の必要はありません】

〔オフィスアワー〕

Microsoft Teams のチャット、音声通話やメールを使います。

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

新しい美術解剖学 I

GE121

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

2【動画型2】

講義/1コマ

櫻木 晃彦

〔科目の概要および目的〕

造形の題材としてヒトの形態から体系的に学習することを目的とし、アーティスト・デザイナーに向けた人体解剖学の講義を行う。解剖学の基礎として、全身の骨の形態と骨格の基本構造を中心に概説する。また、ヒトのからだの三次元的な構造を解説するに当たり、実物の写真や解剖図さらには作品中の人体像を提示するにとどまらず、コンピュータグラフィックスを駆使して視覚に訴える。

「超現実を描けるのは現実を知る者だけ」とのコンセプトをもとに、自然科学を基礎とする客観的な視点で正確な人体とはどのようなものを理解する。人体について細かい知識よりむしろ正確なイメージを構築することを目標とする。人体という生物体を自然科学的な視点でとらえることを教養として身につけることを目指す。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・人体に関する正確なイメージを構築できる。
- ・人体を構成する骨格について、形態を説明できる。
- ・人体を構成する骨格について、構造を説明できる。

〔授業形態〕

5【同時双方向型】

〔授業計画〕

第 1 回 人体の基本

人体について学ぶにあたって、最も基本的な知識を確認する。

事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）

第 2 回 骨の基本

全身にはどのような骨があってどのように組み合わさってヒトの形となっているかを学ぶ。

事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）

第 3 回 筋肉とは何か

筋肉にはどのようなものがあり、どのようにしてからだを動かしているのかを学ぶ。

事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）

第 4 回 共通の言語をもとう

複雑なヒトのからだを学ぶにあたって、同じことばで同じところを指すという約束がある。

事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）

第 5 回	頭の形 ヒトの頭は球形でも楕円形でもないことを十分に理解する。 事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）	[アクティブラーニング] 1回：— / 2回：— / 3回：— / 4回：F / 5回：F / 6回：F / 7回：F / 8回：F / 9回：F / 10回：F / 11回：F / 12回：F / 13回：F / 14回：F / 15回：—
第 6 回	眼、鼻、口、耳 顔の部品はどのような働きでどの位置に配置されているのか。 事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）	[事前に修得しておく必要のある科目] なし
第 7 回	くびの形 生物の定義を考え、全ての生物に共通するしくみを学ぶ。 事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）	[履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など] 人体に興味があること
第 8 回	肩の構造 ヒトとヒト型ロボットが最も異なるところが肩である。肩の骨格を学ぶとその理由が分かる。 事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）	[オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件] ・以下のソフトウェアが問題なく動作するPC ・MSTeams
第 9 回	肩、それはマジック 肩の構造は肩の動き腕の動きにだけでなく全身の動きにも大きな影響を与える。 事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）	[成績評価方法・評価割合・評価基準] ①レポート（80%）：「理解度」を評価する。 ②授業中の課題（20%）：「理解度」を評価する。 [課題やレポート等に対するフィードバックの方法] 必要に応じて授業中に解説する。
第 10 回	腕 肩から肘までの上腕と肘から手首までの前腕ではその骨格構造が全く異なる。 事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）	[出席確認の方法] 指定のタイミングでコメント投稿や出席票、リアクションペーパー提出などを併用
第 11 回	肘と手くびと手 手が示す湾曲が他の形の基本となっている。 事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）	[基本的な授業の進め方] 会議チャットで出席確認（5分） ビデオ映像を見て学ぶ（85分）
第 12 回	胸・腹・腰 胴体は入れ物と考えて、胸、腹、腰を3次的に見る。 事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）	[ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応] 1. 主体的行動力：○ 2. 表現力：— 3. 社会貢献力・コラボレーション力：— 4. 課題発見力・課題解決力：— 5. コミュニケーション力：— 6. 専門的知識・技能の活用力：◎ 【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない】
第 13 回	体幹の構造 胴体も変形しながら運動することを理解する。 事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）	[教科書] とくになし。プリントを配布する。
第 14 回	下肢 上肢との共通点と相違点を学ぶ。 事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）	[参考文献] 必要に応じて授業中に紹介する。
第 15 回	足のアーチ 足の裏にあるアーチは直立二足歩行するヒト特有のものであることを理解する。 事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）	[オフィスアワー] 専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示） 【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】 アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準 【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】 なし

新しい美術解剖学Ⅱ

GE220

東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目
1年生 2年生 3年生 4年生
2単位 後期
2【動画型2】
講義/1コマ

櫻木 晃彦

【科目の概要および目的】

新しい美術解剖学Ⅰで修得した人体に関する知識をもとに、人体の筋骨格系から内臓に至るまでの形態と構造について造形に必要な解剖学的知識を互いに関連付ながら解説する。また、男女の違い、子どものからだ、老人のからだのそれぞれの特徴を示す。更に、「動き」をキーワードとして人体の形態・構造と運動の関係を概説する。

この授業は新しい美術解剖学Ⅰの履修者を対象に行われる。したがって、造形に必要な人体に関する基礎が既習であることが履修の条件となっている。目標の一つとしては生物としてヒトをやや詳細に理解することにある。もうひとつの目標は、ヒトの動きについて理解することにある。動きがその形態・構造と密接な関係にあることを掴むことができればこの科目の内容を習得したことになる。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・人体が動くためのしくみとその結果生じる動きについて正確なイメージを構築できる。
- ・ヒトの感覚の特徴について説明できる。
- ・人体について男女のちがい、子どもと老人のちがいを説明できる。

【授業形態】

5【同時双方向型】

【授業計画】

- 第1回 人体の基本を再確認
人体について学ぶにあたって、最も基本的な知識を再確認する。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）
- 第2回 人体を構成する組織
人体を構成する各素材である組織の基本構造、種類、それぞれの特徴を学ぶ。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）
- 第3回 人体を構成するシステム
人体を構成する各システムについて筋骨格系を中心に内臓に至るまで学ぶ。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）
- 第4回 個体発生と系統発生
人体が出来上がる過程について学ぶ。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）
- 第5回 感覚はすべてのはじまり

ヒトの感覚の特徴について学ぶ。

事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）

- 第6回 男のからだと女のからだ
男性・女性それぞれの解剖学的特徴、共通点と相違点を学ぶ。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）
- 第7回 子どものからだと老人のからだ
未熟で成長過程にある子どものからだと老化し衰えつつある老人のからだの特徴を学ぶ。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）
- 第8回 動きとは何か
人体が動くとはどういうことなのかを簡単な力学で解説する。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）
- 第9回 関節とは何か
関節の構造と機能を学ぶ。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）
- 第10回 筋の種類と収縮
収縮装置としての筋の種類と役割分担について学ぶ。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）
- 第11回 動きの基本
起きる；立ち上がる；歩く；走る；跳ぶなどの基本動作について学ぶ。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）
- 第12回 体幹の動き
頸・胸・腰の筋骨格系の特徴と動きを学ぶ。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）
- 第13回 頭部の動き
咀嚼筋と表情筋の動きについて学ぶ。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）
- 第14回 上肢・下肢の動き
上肢・下肢の筋骨格系の特徴と動きを学ぶ。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）
- 第15回 総復習
この授業で学んだ知識の概要を復習する。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）
- 【アクティブラーニング】
1回：— / 2回：F /
3回：F / 4回：F /
5回：F / 6回：F /
7回：F / 8回：F /
9回：F / 10回：F /

11回：— / 12回：F /

13回：F / 14回：F /

15回：—

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

人体に興味があること

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

・以下のソフトウェアが問題なく動作するPC

・MSTeams

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①レポート（80%）：「理解度」を評価する。

②授業中の課題（20%）：「理解度」を評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

必要に応じて授業中に解説する。

【出席確認の方法】

指定のタイミングでコメント投稿や出席票、リアクションペーパー提出などを併用

【基本的な授業の進め方】

会議チャットで出席確認（5分）

ビデオ映像を見て学ぶ（85分）

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○

2. 表現力：—

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：—

5. コミュニケーション力：—

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

とくになし。プリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介する。

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

社会の中の芸術と科学

GE221

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 後期

5【同時双方向型】

講義/1コマ

櫻木 晃彦

【科目の概要および目的】

主に芸術系の教育を受け、社会の各分野で活躍している多様な人材を招聘して講演していただく。ゲストスピーカーとしては、ベストセラー・ゲームのモーション担当者、教育ソフトウェアのモデリング担当デザイナー、人体の動きを研究する舞踊家、美術の視点で恐竜から人体まで解説する研究者などを予定している。

この授業の目的は、メディア芸術学部の学生として関連分野において実際に社会で活躍している人々に直に接することにより、自分の将来を考える上での材料とすることにある。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・社会で活躍する自分をイメージできる。
- ・自分と授業分担者との共通点を説明できる。
- ・自分が今、何をすべきかを説明できる。

【授業形態】

5【同時双方向型】

【授業計画】

第1回 芸術と科学

芸術と科学の共通点と相違点を考える。また、授業の概要を説明する。

事後学習（授業の内容が将来の自分とどのような関係があるかを考えてみること／1時間）

第2回 ゲスト・スピーカーによる講演Ⅰ

この仕事の内容と将来性。どのようにしたらこの仕事に就けるか。

事後学習（授業の内容が将来の自分とどのような関係があるかを考えてみること／1時間）

第3回 ゲスト・スピーカーによる講演Ⅱ

この仕事の内容と将来性。どのようにしたらこの仕事に就けるか。

事後学習（授業の内容が将来の自分とどのような関係があるかを考えてみること／1時間）

第4回 ゲスト・スピーカーによる講演Ⅲ

この仕事の内容と将来性。どのようにしたらこの仕事に就けるか。

事後学習（授業の内容が将来の自分とどのような関係があるかを考えてみること／1時間）

第5回 ゲスト・スピーカーによる講演Ⅳ

この仕事の内容と将来性。どのようにしたらこの仕事に就けるか。

事後学習（授業の内容が将来の自分とどのような関係があるかを考えてみること／1時間）

第6回 ゲスト・スピーカーによる講演Ⅴ

	この仕事の内容と将来性。どのようにしたらこの仕事に就けるか。 事後学習（授業の内容が将来の自分とどのような関係があるかを考えてみる）／1時間	13回：C / 14回：C / 15回：—
第 7 回	解説と意見交換 I 前半 5 回の講演を振り返り、意見を出し合う。 事後学習（授業の内容が将来の自分とどのような関係があるかを考えてみる）／1時間	【事前に修得しておく必要のある科目】 なし 【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】 人体に興味があること 【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】 ・以下のソフトウェアが問題なく動作するPC ・MSTeams
第 8 回	ゲスト・スピーカーによる講演 VI この仕事の内容と将来性。どのようにしたらこの仕事に就けるか。 事後学習（授業の内容が将来の自分とどのような関係があるかを考えてみる）／1時間	【成績評価方法・評価割合・評価基準】 ①レポート（70%）：「理解度」を評価する。 ②平常点（30%）：「積極性」を評価する。
第 9 回	ゲスト・スピーカーによる講演 VII この仕事の内容と将来性。どのようにしたらこの仕事に就けるか。 事後学習（授業の内容が将来の自分とどのような関係があるかを考えてみる）／1時間	【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】 必要に応じて授業中に解説する。 【出席確認の方法】 指定のタイミングでコメント投稿や出席票、リアクションペーパー提出などを併用
第 10 回	ゲスト・スピーカーによる講演 VIII この仕事の内容と将来性。どのようにしたらこの仕事に就けるか。 事後学習（授業の内容が将来の自分とどのような関係があるかを考えてみる）／1時間	【基本的な授業の進め方】 会議チャットで出席確認（5分） ビデオ映像を見て学ぶ（85分）
第 11 回	ゲスト・スピーカーによる講演 IX この仕事の内容と将来性。どのようにしたらこの仕事に就けるか。 事後学習（授業の内容が将来の自分とどのような関係があるかを考えてみる）／1時間	【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】 1. 主体的行動力：○ 2. 表現力：— 3. 社会貢献力・コラボレーション力：— 4. 課題発見力・課題解決力：— 5. コミュニケーション力：○ 6. 専門的知識・技能の活用力：△
第 12 回	ゲスト・スピーカーによる講演 X この仕事の内容と将来性。どのようにしたらこの仕事に就けるか。 事後学習（授業の内容が将来の自分とどのような関係があるかを考えてみる）／1時間	【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない】
第 13 回	解説と意見交換 II 後半 5 回の講演を振り返り、意見を出し合う。 事後学習（授業の内容が将来の自分とどのような関係があるかを考えてみる）／1時間	【教科書】 とくになし。 【参考文献】 必要に応じて授業中に紹介する。
第 14 回	社会の中の芸術 社会の中で芸術が占める位置について考える。 事後学習（授業の内容が将来の自分とどのような関係があるかを考えてみる）／1時間	【オフィスアワー】 専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示） 【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】 アクティブラーニング
第 15 回	まとめ 受講者からだされた意見を参考にして将来を展望する。 事後学習（授業の内容が将来の自分とどのような関係があるかを考えてみる）／1時間	【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】 なし
	【アクティブラーニング】 1回：— / 2回：F / 3回：F / 4回：F / 5回：F / 6回：F / 7回：C / 8回：F / 9回：F / 10回：F / 11回：F / 12回：F /	

ヒトと進化

GE122

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 前後期

2【動画型2】

講義/1コマ

櫻木 晃彦

〔科目の概要および目的〕

この授業の内容はヒトの生物学、すなわち生物学的観点に立って人間を探究するものである。具体的には、現在判っている限りの進化の道筋をたどり、人類の起源を考える。また、生物としてのヒトの特徴を学ぶ。あらゆる自然科学の究極の目的はおそらく自分自身を知ることであろう。生物としての人間は、どのようにして現在のよう姿になったのかを学ぶことによって、「自らを知ろうとする」という知的作業を体験する。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・人間を生物の一種としても見ることができる。
- ・生物の進化について大筋を説明できる。
- ・生物の進化についての正確な知識をもとにして生物としてのヒトの正確なイメージを構築する。

〔授業形態〕

5【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンスとイントロダクション
ヒトの生物学を学ぶに当たっての基礎知識を確認する。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）
- 第 2 回 生物としてのヒトの特徴
生物はどのように分類されヒトはどのグループに属しているかを学ぶ。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）
- 第 3 回 ヒトの運動システム（1）
ヒトの概形を決めているのも運動の支えとなっているのも骨である。骨を中心に筋骨格系について学ぶ。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）
- 第 4 回 ヒトの運動システム（2）
生物としてのヒトの運動の特徴について学ぶ。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）
- 第 5 回 ヒトのエネルギーシステム
ヒトが生きていくこと、動くことにはエネルギーが必要。生物としてのヒトがどのようにエネルギーをつくり、利用しているのかを学ぶ。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）
- 第 6 回 ヒトの情報システム

生物としてのヒトが情報を取り入れ伝達し処理するシステムについて、ヒトの特徴を考慮しながら学ぶ。

事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）

第 7 回 生物とは何か

生物の定義を考え、全ての生物に共通するしくみを学ぶ。

事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）

第 8 回 細胞とDNA

生命活動の最小単位である細胞と生命の設計図といわれる物質DNAについて学ぶ。

事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）

第 9 回 進化とは何か

進化とはどのような現象か、また生物の進化はどのようなしくみで実現されているかを学ぶ。

事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）

第 10 回 進化学の歴史

生物の進化はどのように研究されてきたか、黎明期から最新の報告までを概観する。

事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）

第 11 回 ヒトへの進化

生命誕生からヒトに至る系統の進化を概観する。
事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）

第 12 回 直立二足歩行の起源

なぜヒトだけが直立二足歩行なのか。その謎に迫りながらヒトの進化を学ぶ。

事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）

第 13 回 ヒトの進化

直立二足歩行というロコモーション様式を獲得して以降のヒトの進化を概観する。

事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）

第 14 回 ヒトから人間へ

人間は生物としてのヒトであることから逃れられない。このことが人間として生きていくことにどのように関わるかを考える。

事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）

第 15 回 総まとめ

生物としてのヒトについての総まとめ。

事後学習（授業内容に関連する事項を調べる／1時間）

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：F /

3回：F / 4回：F /

5回：F / 6回：F /

7回：F / 8回：F /

9回：F / 10回：F /
 11回：F / 12回：F /
 13回：F / 14回：F /
 15回：F

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

人体と進化に興味があること

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

- ・以下のソフトウェアが問題なく動作するPC
- ・MSTeams

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①レポート（80%）：「理解度」を評価する。
- ②授業中の課題（20%）：「理解度」を評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

必要に応じて授業中に解説する。

〔出席確認の方法〕

指定のタイミングでコメント投稿や出席票、リアクションペーパー提出などを併用

〔基本的な授業の進め方〕

会議チャットで出席確認（5分）

ビデオ映像を見て学ぶ（85分）

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：—
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：△

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 —：関連していない】

〔教科書〕

とくになし。プリントを配布する。

〔参考文献〕

授業中に紹介する

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

健康科学

GE123

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 基礎科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 前後期

6【対面型】

講義/1コマ

真山 葉瑠

〔科目の概要および目的〕

身体表現のワークショップを通じて、自己解放やストレスの軽減。身体表現の楽しさ等を学ぶ。

（状況によっては、発声のワークショップを行う場合もあり）

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・身体を自己で管理する方法を学ぶ。
- ・筋力をアップするトレーニング方法を身に付ける。
- ・リズム運動やリトミック運動を体験する。
- ・身体表現の様々な方法を学ぶ。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第1回 ストレッチ、有酸素運動、身体表現
 ストレッチ・有酸素運動、柔軟な体の作り方について指導する。
 事前/ストレッチの予習 (1時間)
 事後/ストレッチの復習 (1時間)
- 第2回 挑戦！筋トレ！①
 ストレッチ・有酸素運動、自分が望む体の作り方、楽曲を利用して下半身トレーニング等について指導する。
 事前/ストレッチの予習 (1時間)
 事後/下半身トレーニングの復習(1時間)
- 第3回 挑戦！筋トレ！②
 ストレッチ・有酸素運動、自分が望む体の作り方、楽曲を利用して上半身トレーニング等について指導する。
 事前/ストレッチの予習 (1時間)
 事後/上半身トレーニングの復習(1時間)
- 第4回 リズム感って？リズム天国！！
 ストレッチ・有酸素運動、リズムの取り方等について、様々な音楽を使用し指導する。
 事前/ストレッチの予習 (1時間)
 事後/身体表現の復習(1時間)
- 第5回 ダンディズム①宝塚式美学1
 ストレッチ・有酸素運動、宝塚式、男が憧れる男・女が憧れる男の歩き方や所作について指導する。
 事前/ストレッチの予習 (1時間)
 事後/宝塚式歩き方の復習(1時間)
- 第6回 アイドル風ダンスを踊ってみる① 男性アイドル編
 ストレッチ・有酸素運動、J-pop,K-popなどの男性アイドルダンスの特徴と構成について指導する。

	事前/ストレッチの予習 (1時間)		
	事後/ダンスの復習(1時間)		
第7回	アイドル風ダンスを踊ってみる② 男性アイドル編 ストレッチ・有酸素運動、J-pop,K-popなどの男性アイドルダンスの特徴と構成について指導する。 リズムの取り方。		[アクティブラーニング] 1回:C / 2回:C / 3回:C / 4回:C / 5回:C / 6回:C / 7回:C / 8回:C / 9回:C / 10回:C / 11回:C / 12回:C / 13回:C / 14回:C / 15回:C
	事前/ストレッチの予習 (1時間)		
	事後/ダンスの復習(1時間)		
第8回	アイドル風ダンスを踊ってみる① 女性アイドル編 ストレッチ・有酸素運動、J-pop,K-popなどの女性アイドルダンスの特徴と構成について指導する。		[事前に修得しておく必要のある科目] なし [履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など] 運動に適した服装。靴下着用。 [オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件] —
	事前/ストレッチの予習 (1時間)		
	事後/ダンスの復習(1時間)		
第9回	アイドル風ダンスを踊ってみる② 女性アイドル編 ストレッチ・有酸素運動、J-pop,K-popなどの女性アイドルダンスの特徴と構成について指導する。		[成績評価方法・評価割合・評価基準] ①平常点(50%):授業態度、積極性を評価する。 ②実技(50%)表現力、理解度等を評価する。 [課題やレポート等に対するフィードバックの方法] 実技に対して個別にコメントします。
	事前/ストレッチの予習 (1時間)		
	事後/ダンスの復習(1時間)		
第10回	ミュージカル?!宝塚式ミュージカル風ダンス ストレッチ・有酸素運動、ミュージカル風ダンスの特徴と構成について指導する。		[出席確認の方法] 指定のタイミングでコメント投稿や出席表、リアクションペーパー提出などを併用
	事前/ストレッチの予習 (1時間)		
	事後/ダンスの復習(1時間)		
第11回	ミュージカル?!宝塚式ミュージカル風ダンス ストレッチ・有酸素運動、ミュージカル風ダンスの特徴と構成について指導する。		[基本的な授業の進め方] ・ウォーミングアップ、ストレッチ:10分 ・課題説明:10分 ・実技:60分 ・授業振り返り:5分 ・次回課題説明:5分
	事前/ストレッチの予習 (1時間)		
	事後/ダンスの復習(1時間)		
第12回	挑戦!自分でできるワークアウト① ストレッチ・有酸素運動、自分が望む体の作り方。それぞれに適したワークアウトメニューを作成してみる。3種のDANCE復習。		[ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応] 1. 主体的行動力:◎ 2. 表現力:○ 3. 社会貢献力・コラボレーション力:— 4. 課題発見力・課題解決力:○ 5. コミュニケーション力:○ 6. 専門的知識・技能の活用力:—
	事前/ストレッチ有酸素運動(1時間)		
	事後/復習、ストレッチ(1時間)		
第13回	挑戦!自分でできるワークアウト② ストレッチ・有酸素運動、自分が望む体の作り方。それぞれに適したワークアウトメニューを作成してみる。3種のDANCE復習。		[◎:特に関連が強い ○:関連が強い △:関連がある —:関連していない]
	事前/ストレッチ有酸素運動(1時間)		
	事後/復習、ストレッチ(1時間)		
第14回	グループ発表に向けて ストレッチ・有酸素運動。3種類のダンスのいずれかを選択し、グループ分け後、構成やダンス、ポーズを考え練習する。		[教科書] なし [参考文献] なし [オフィスアワー] 時間:出講日の授業終了後30分 場所:授業実施教室
	事前/ストレッチ(1時間)		
	事後/表現活動の復習ストレッチ(1時間)		
第15回	まとめ発表 ストレッチ・有酸素運動。 今まで学んだ成果を、グループで発表。		[[シラバスに不掲載]昨年度のシラバスから変更を行った箇所①] 授業計画:テーマ・内容、授業計画:事前・事後学習、成績評価方法・評価割合・評価基準 [[シラバスに不掲載]昨年度のシラバスから変更を行った箇所②] 履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など
	事前/ストレッチ(1時間)		
	事後/表現活動の復習ストレッチ(1時間)		

日本語上級

FL119

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 前後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

アドウアヨム・アヘゴ 希佳子

〔科目の概要および目的〕

本授業では、ディスカッションを通して総合的な日本語運用力を伸ばすことを目的としています。外国人に起こりうる大学生活や職場での問題や悩みに関するケースを読んで、クラスメイトと話し合うことによって、多様な場面に対応できる問題発見解決能力を身に付けます。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・自分の考えや主張を、論理的に分かりやすく他者に伝えることができる。
- ・ケースに対する複数の解決方法を見出した上で、その場面にあった自分なりの解決方法を選択することができる。
- ・他者の多様な考えを柔軟に受け止め、様々な角度から考えてコミュニケーションできる。

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
授業のやり方や到達目標などを知る。クラスメイトについて知る。
事前/ シラバスを読む (30分)
事後/ ケース 1 を読む (30分)
- 第 2 回 大学生活のトラブル 1
ケース 1 について、グループディスカッションとクラスディスカッションを行う。
事前/ ケース 1 を読んで、設問に答える (60分)
事後/ 振り返りシートへの記入 (45分)
- 第 3 回 大学生活のトラブル 2
ケース 2 について、グループディスカッションとクラスディスカッションを行う。
事前/ ケース 2 を読んで、設問に答える (60分)
事後/ 振り返りシートへの記入 (45分)
- 第 4 回 大学生活のトラブル 3
ケース 3 について、グループディスカッションとクラスディスカッションを行う。
事前/ ケース 3 を読んで、設問に答える (60分)
事後/ 振り返りシートへの記入 (45分)
- 第 5 回 人間関係のトラブル 1
ケース 4 について、グループディスカッションとクラスディスカッションを行う。
事前/ ケース 4 を読んで、設問に答える (60分)
事後/ 振り返りシートへの記入 (45分)
- 第 6 回 人間関係のトラブル 2
ケース 5 について、グループディスカッションとクラスディスカッションを行う。

- 事前/ ケース 5 を読んで、設問に答える (60分)
事後/ 振り返りシートへの記入 (45分)
- 第 7 回 人間関係のトラブル 3
ケース 6 について、グループディスカッションとクラスディスカッションを行う。
事前/ ケース 6 を読んで、設問に答える (60分)
事後/ 振り返りシートへの記入 (45分)
- 第 8 回 アルバイトのトラブル 1
ケース 7、グループディスカッションとクラスディスカッションを行う。
事前/ ケース 7 を読んで、設問に答える (60分)
事後/ 振り返りシートへの記入 (45分)
- 第 9 回 アルバイトのトラブル 2
ケース 8 について、グループディスカッションとクラスディスカッションを行う。
事前/ ケース 8 を読んで、設問に答える (60分)
事後/ 振り返りシートへの記入 (45分)
- 第 10 回 アルバイトのトラブル 3
ケース 9 について、グループディスカッションとクラスディスカッションを行う。
事前/ ケース 9 を読んで、設問に答える (60分)
事後/ 振り返りシートへの記入 (45分)
- 第 11 回 ビジネス場面のトラブル 1
ケース 10 について、グループディスカッションとクラスディスカッションを行う。
事前/ ケース 10 を読んで、設問に答える (60分)
事後/ 振り返りシートへの記入 (45分)
- 第 12 回 ビジネス場面のトラブル 2
ケース 11 について、グループディスカッションとクラスディスカッションを行う。
事前/ ケース 11 を読んで、設問に答える (60分)
事後/ 振り返りシートへの記入 (45分)
- 第 13 回 ビジネス場面のトラブル 3
ケース 12 について、グループディスカッションとクラスディスカッションを行う。
事前/ ケース 12 を読んで、設問に答える (60分)
事後/ 振り返りシートへの記入 (45分)
- 第 14 回 ビジネス場面のトラブル 4
ケース 13 について、グループディスカッションとクラスディスカッションを行う。
事前/ ケース 13 を読んで、設問に答える (60分)
事後/ 振り返りシートへの記入 (45分)
- 第 15 回 まとめ
ケース 1～13 のディスカッションの振り返り
事前/ 今学期のディスカッションを振り返る (60分)
事後/ 今学期のディスカッションを振り返る (45分)
- 〔アクティブラーニング〕
1回：B / 2回：A,B,E /
3回：A,B,E / 4回：A,B,E /
5回：A,B,E / 6回：A,B,E /
7回：A,B,E / 8回：A,B,E /
9回：A,B,E / 10回：A,B,E /

11回：A,B,E / 12回：A,B,E /

13回：A,B,E / 14回：A,B,E /

15回：A,B,E

【事前に修得しておく必要のある科目】

「日本語Ⅰ・Ⅱ」、「日本語会話Ⅰ・Ⅱ」を履修済であることが望ましい。

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

※注意 日本語を母国語とする者の履修はできません

※ディスカッションしやすいクラスの雰囲気を作るために、基本的にカメラはONにしてください。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

PC

マイク

Zoom

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①テスト30%：多面的な考え方が身に付いているかを評価する。

②作文課題10%：オリジナルケースの記述内容を評価する。

③事前事後課題50%：毎回の事前・事後課題の記述内容を評価する。

④授業中の発言10%：ディスカッション中の発言の量と質を評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

授業の初めに課題へのフィードバックを行う。

【出席確認の方法】

授業開始後に点呼により出席確認を行う。

【基本的な授業の進め方】

15分 出欠確認、前回の課題へのフィードバック

25分 グループディスカッション

35分 クラスディスカッション

15分 振り返り

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○

2. 表現力：○

3. 社会貢献力・コラボレーション力：○

4. 課題発見力・課題解決力：◎

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

必要に応じて教員が配布する。

【参考文献】

・『日本人も外国人も ケース学習で学ぼう ビジネスコミュニケーション』金孝卿・近藤彩・池田玲子、日経HR、2420円
 ・『ビジネスコミュニケーションのためのケース学習—職場のダイバーシティで学び合う』【教材編2】近藤彩・金孝卿・池田玲子、ココ出版、2200円

・『ビジネスコミュニケーションのためのケース学習：職場のダイバーシティで学び合う』【教材編】近藤彩・金孝卿・ムグダヤルディー・福永由佳・池田玲子、ココ出版、1760円
 ・『留学生のためのケースで学ぶ日本語—問題発見解決能力を伸ばす』宮崎七湖編著 江後千香子・武一美・田中敦子・

中山由佳・村上まさみ著、ココ出版、1980円

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応、教科書、参考文献、オフィスアワー

韓国語Ⅰ

FL120

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

アドウアヨム・アヘゴ 希佳子

【科目の概要および目的】

韓国語は日本人にとって最も習得しやすい言語であると言われています。本授業では、初めて韓国語を学ぶ学生が、ハングルの文字と発音を覚え、基本的な読み書き・タイピングや簡単な日常会話ができるようになることを目指します。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

・ハングルの文字がすらすら読める、書ける、タイピングできる。

・初級前半レベルの韓国語文法を習得し、韓国語での簡単な意思疎通ができる。

・韓国語で簡単なスピーチができる。

【授業形態】

5 【同時双方向型】

【授業計画】

第1回 文字1

ハングルの文字や韓国語の特徴について知る。

事前/ シラバスの確認 (30分)

事後/ 授業内容の復習 (90分)

第2回 文字2

ハングルの母音と子音を覚える。

事前/ 教科書の予習 (30分)

事後/ 授業内容の復習 (90分)

第3回 文字3

	パッチムを覚える。
	事前/ 教科書の予習 (30分)
	事後/ 授業内容の復習 (90分)
第 4 回	文字 4 仮名のハングル表記を覚える。 タイピング練習をする。
	事前/ 教科書の予習 (30分)
	事後/ 授業内容の復習 (90分)
第 5 回	文字の総復習 文字の総復習とタイピング練習をする。
	事前/ 教科書の予習 (30分)
	事後/ 授業内容の復習 (90分)
第 6 回	第 1 課 「名詞+です (か)」①、助詞「は」
	事前/ 教科書の予習 (30分)
	事後/ 授業内容の復習 (90分)
第 7 回	第 2 課 「名詞+です (か)」②、漢数字、助数詞
	事前/ 教科書の予習 (30分)
	事後/ 授業内容の復習 (90分)
第 8 回	第 3 課 助詞「が」、「あります・います／ありません・いません」、助詞「に」①
	事前/ 教科書の予習 (30分)
	事後/ 授業内容の復習 (90分)
第 9 回	第 4 課 「この・その・あの・どの」、助詞「の」、「～は 何ですか」
	事前/ 教科書の予習 (30分)
	事後/ 授業内容の復習 (90分)
第 10 回	第 5 課 「～ではありません」、「ここ、そこ、あそこ、どこ」
	事前/ 教科書の予習 (30分)
	事後/ 授業内容の復習 (90分)
第 11 回	第 6 課 固有数字、助詞「～から～まで」①、助詞「と」
	事前/ 教科書の予習 (30分)
	事後/ 授業内容の復習 (90分)
第 12 回	第 7 課 助詞「を」、「～します (か)」、助詞「で」①、「何の」
	事前/ 教科書の予習 (30分)
	事後/ 授業内容の復習 (90分)
第 13 回	第 8 課 「～ます／です (か)」①、助詞「も」
	事前/ 教科書の予習 (30分)
	事後/ 授業内容の復習 (90分)
第 14 回	スピーチ発表会 習った文法を使って、一人ずつスピーチをする。
	事前/ スピーチの準備・練習 (90分)
	事後/ 授業内容の復習 (30分)
第 15 回	総復習 ハングルの文字と文法の総復習をする。
	事前/ 教科書の復習 (90分)
	事後/ 授業内容の復習 (30分)

〔アクティブラーニング〕

1回：B 2回：B

3回：B 4回：B

5回：B 6回：B

7回：B 8回：B

9回：B 10回：B

11回：B 12回：B

13回：B 14回：C

15回：B

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

※韓国語を母語とする学生は履修できません。

※語学の習得にはコミュニケーションが重要となるため、カメラは基本的にONにしてください。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

PC

マイク

Zoomでの受講

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①テスト60%：ハングルの文字と文法が身についているかを評価します。

②課題35%：毎回の授業が理解できているかを評価します。

③スピーチ5%：スピーチの内容、文法の正確さ、発音を評価します。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

提出後の授業で全体にコメントします。

〔出席確認の方法〕

授業の初めに口頭で確認します。

〔基本的な授業の進め方〕

10分 前回の復習

35分 文法 1 説明10分、基本練習15分、応用練習15分

35分 文法 2 説明10分、基本練習15分、応用練習15分

10分 まとめ

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：—

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用力：—

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

〔教科書〕

『どんどん話そう！韓国語』朝日出版社

陸心芬/金由那/白明学/金昭鎭 2,860円

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし、科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：

事前・事後学習、アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし、事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応、教科書、参考文献、オフィスアワー

韓国語Ⅱ

FL219

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

アドウアヨム・アヘゴ 希佳子

【科目の概要および目的】

本授業では、韓国語Ⅰの内容をふまえて、より多様な語彙や文法を使って韓国語話者と意思疎通が図れるようになることを目指します。また、インターネット上で韓国語で情報を得たり、発信したりできるようになることも目指します。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・初級後半レベルの韓国語文法を習得し、韓国語での簡単な意思疎通ができる。
- ・韓国語で簡単なスピーチができる。
- ・韓国語で自然にタイピングができる。

【授業形態】

5 【同時双方向型】

【授業計画】

第1回 韓国語Ⅰの復習

韓国語Ⅰで学んだ語彙や文法を使って自己紹介をします。

事前/ 韓国語Ⅰの復習 (60分)

事後/ 授業の復習 (60分)

第2回 第9課

「～ます/です(か)②、助詞「で」②、助詞「～から～まで」②

事前/ 教科書の予習 (30分)

事後/ 授業内容の復習 (90分)

第3回 第10課

「ㄹ」「으」変則活用、助詞「より」

事前/ 教科書の予習 (30分)

事後/ 授業内容の復習 (90分)

第4回 第11課

助詞「に」②、「～しません」

事前/ 教科書の予習 (30分)

事後/ 授業内容の復習 (90分)

第5回 第12課

「～ました/でした(か)」、「～しませんでした」

事前/ 教科書の予習 (30分)

事後/ 授業内容の復習 (90分)

第6回 第13課

「～して/くて」、「～が」、「～したい」

事前/ 教科書の予習 (30分)

事後/ 授業内容の復習 (90分)

第7回 第14課

「～しに行く」、「～しましょうか」、「～しましょう」

事前/ 教科書の予習 (30分)

事後/ 授業内容の復習 (90分)

第8回 第15課

尊敬形、「～してください」、「～しないでください」

事前/ 教科書の予習 (30分)

事後/ 授業内容の復習 (90分)

第9回 第16課

「～するつもりです/～でしょう」、「～ごとに」

事前/ 教科書の予習 (30分)

事後/ 授業内容の復習 (90分)

第10回 第17課

「～ている」、「～することができる」

事前/ 教科書の予習 (30分)

事後/ 授業内容の復習 (90分)

第11回 第18課

「～するつもりだ」、「～と、たら、ば」

事前/ 教科書の予習 (30分)

事後/ 授業内容の復習 (90分)

第12回 第19課

「～しようと思う」、「～ので、から」

事前/ 教科書の予習 (30分)

事後/ 授業内容の復習 (90分)

第13回 第20課

「～してみる」、「～してください」

事前/ 教科書の予習 (30分)

事後/ 授業内容の復習 (90分)

第14回 スピーチ発表会

提示されたテーマに従って、一人ずつスピーチをします。

事前/ スピーチの準備・練習 (90分)

事後/ 授業の復習 (30分)

第15回 総復習

各課の総まとめ

事前/ 教科書の総復習 (60分)

事後/ 授業の復習 (60分)

【アクティブラーニング】

1回：B 2回：B

3回：B 4回：B

5回：B 6回：B

7回：B 8回：B

9回：B 10回：B

11回：B 12回：B

13回：B 14回：C

15回：B

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

韓国語 I

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

※韓国語を母語とする学生は履修できません。

※語学の習得にはコミュニケーションが重要となるため、カメラは基本的にONにしてください。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

PC

マイク

Zoomでの受講

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①テスト60%：文法が身につけているかを評価する。
 ②課題35%：毎回の授業が理解できているかを評価する。
 ③スピーチ5%：スピーチの内容、文法の正確さ、発音を評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

提出後の授業で全体にコメントします。

〔出席確認の方法〕

授業の最初に口頭で確認します。

〔基本的な授業の進め方〕

10分 前回の復習

35分 文法1を学ぶ10分、基本練習15分、応用練習15分

35分 文法2を学ぶ10分、基本練習15分、応用練習15分

10分 まとめ

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：－
4. 課題発見力・課題解決力：－
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：－

〔教科書〕

『どンドン話そう！韓国語』朝日出版社

陸心芬/金由那/白明学/金昭鎭 2,860円

(韓国語 I と同じ)

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進

め方、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応、教科書、参考文献、オフィスアワー

英会話 I (木戸口)

FL110

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

木戸口 聡子

〔科目の概要および目的〕

教科書『World English <Level 1>』のワークに取り組みながら、社会生活に役立つ初級の英語を身につけることを目標にしている。「英会話I」では、Unit1～6までを取り扱う。授業内では、英語でコミュニケーションを取る機会が多くあるので、失敗を恐れず積極的に参加して欲しい。また、学期の最後には、1人1人スピーチをする機会を設ける。授業で学んだことを使って、自分のこと・自分の考えを他者に伝えてみよう。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・日常生活程度の英語が理解できる（リーディング・リスニング）
- ・日常生活程度の英語を使って、自分の考えを他者に伝えることができる（スピーキング・ライティング）
- ・日常生活程度の英語を使って、他者と議論することができる（スピーキング）

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

第1回 ガイダンス

授業内容と、リスニング、映像教材の視聴方法の説明。受講者の自己紹介タイム(日本語)。必ず出席すること。

事前/ シラバスを読む (1時間)

事後/ 教科書のPDFに目を通す (1時間)

第2回 Unit 1 People(1) 前半

人物紹介に関する表現を学ぶ。

事前/ 授業の予習 (1時間)

事後/ 授業の復習・課題 (1時間)

第3回 Unit 1 People(2) 後半

人物紹介に関する表現を学ぶ。

事前/ 授業の予習 (1時間)

事後/ 授業の復習・課題 (1時間)

第4回 Unit 2 A Day in the Life(1) 前半

日常生活に関する表現を学ぶ。

事前/ 授業の予習 (1時間)

事後/ 授業の復習・課題 (1時間)

第5回 Unit 2 A Day in the Life(2) 後半

日常生活に関する表現を学ぶ。

事前/ 授業の予習 (1時間)

事後/ 授業の復習・課題 (1時間)

第6回 Unit 3 Going Places(1) 前半

	場所に関する表現を学ぶ。	
	事前/ 授業の予習	(1時間)
	事後/ 授業の復習・課題	(1時間)
第 7 回	Unit 3 Going Places(2) 後半 場所に関する表現を学ぶ。	
	事前/ 授業の予習	(1時間)
	事後/ 授業の復習・課題	(1時間)
第 8 回	Unit 4 Food(1) 前半 食に関する表現を学ぶ。	
	事前/ 授業の予習	(1時間)
	事後/ 授業の復習・課題	(1時間)
第 9 回	Unit 4 Food(2) 後半 食に関する表現を学ぶ。	
	事前/ 授業の予習	(1時間)
	事後/ 授業の復習・課題	(1時間)
第 10 回	Unit 5 Sports(1) 前半 スポーツに関する表現を学ぶ。	
	事前/ 授業の予習	(1時間)
	事後/ 授業の復習・課題	(1時間)
第 11 回	Unit 5 Sports(2) 後半 スポーツに関する表現を学ぶ。	
	事前/ 授業の予習	(1時間)
	事後/ 授業の復習・課題	(1時間)
第 12 回	Unit 6 Destinations(1) 前半 旅行に関する表現を学ぶ。	
	事前/ 授業の予習	(1時間)
	事後/ 授業の復習・課題	(1時間)
第 13 回	Unit 6 Destinations(2) 後半 旅行に関する表現を学ぶ。	
	事前/ 授業の予習	(1時間)
	事後/ 授業の復習・課題	(1時間)
第 14 回	まとめ (1) 「英会話 I」で学んだポイントを復習する。 英語でスピーチと質疑応答を行う。	
	事前/ スピーチ・質問の準備	(2時間)
	事後/ 授業の復習・課題	(1時間)
第 15 回	まとめ (2) 「英会話 I」で学んだポイントを復習する。 英語でスピーチと質疑応答を行う。	
	事前/ スピーチ・質問の準備	(2時間)
	事後/ 授業の復習・課題	(1時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：B /
3回：B,D / 4回：B /
5回：B,D / 6回：B /
7回：B,D / 8回：B /
9回：B,D / 10回：B /
11回：B,D / 12回：B /
13回：B,D / 14回：C /
15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

※注 英語を母国語とする学生は履修できません

※注 初級英語の授業です

- ・履修人数制限あり
- ・高校卒業程度の英語能力（文法等、授業内でも復習する）
- ・積極的に会話に参加し、共同作業ができること
- ・必ず辞書(紙の辞書か電子辞書)を準備すること
- ・「英会話Ⅱ」を履修することが望ましい
- ・指定した教科書は半期分を使用する

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

- ・Microsoft Teamsを使用できるPC
- ・スピーチ時のマイクオンは必須
- ・可能な限り発言時にカメラをオンにすること

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点、授業における取り組み（25%）：主体的に授業に参加しているか、積極的に英語で会話しようとしているか
- ②授業内の小テスト（30%）：授業で学んだこと(主にリーディングとリスニング)を理解しているか
- ③課題（30%）：授業で学んだこと(主にリーディングとライティング)を理解しているか、締め切りが守れているか
- ④スピーチと質疑応答（15%）：授業で学んだこと(主にスピーキング)を理解しているか

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で全体にコメントすることがあります

〔出席確認の方法〕

- ・出席確認フォームの提出
- ・コメントシートの提出
- ・Microsoft Teamsの会議出席レポートを使用

〔基本的な授業の進め方〕

- ・出席確認フォームへの記入と6分間スピーキング：10分
- ・講義（教科書のワーク、チャットへの投稿、映像教材視聴、スピーチ等）：55分
- ・振り返り、次回の授業、課題の説明：10分
- ・リスニングかリーディングの小テストへの解答、コメントシートへの記入：15分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：△

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

『World English <Level 1>』第3版、Becky Tarver Chase John Hughes他著、Cengage Learning、3000円

〔参考文献〕

リスニング、映像教材は <https://eltngl.com/sites/world-english-3e/introducing-world-english-third-edition> で視聴

〔オフィスアワー〕

出講日の5限終了後30分
オンライン

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、授業計画：事前・事後学習

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方

英会話 I (伊東)

FL110

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

伊東 美穂

【科目の概要および目的】

” Let the world know who you are!” ークラスゴールは世界に向かって自分の考えを発信するためのベーシックな英語プレゼンテーション能力の修得です。講義を通して①自分の意見/アイデアを述べるマイ・スピーチ②カジュアルな1分スピーチ③英語発声リズムを学びます。将来英語で自分の意見を海外へ伝えたい！という意欲があることが履修必須条件。単位修得には、スピーチ発表の成果とクラス貢献度等を合わせた60点以上が求められます。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

1. ベーシックな英語で自己紹介スキル
2. ベーシックな英語でのスピーチスキル
3. 世界に向けて自分が発信したいアイデア・意見を認知
4. 相手をEncourage & Respectする視点・積極性
5. グローバルな場面で求められる学術的エチケット

【授業形態】

5 【同時双方向型】

【授業計画】

- 第 1 回 CLASS INTRODUCTION
Learn the class ground rules, goals and objectives.
事後/Takeaway 提出と授業内容の振り返り (45分)
- 第 2 回 THE OBJECTIVES OF SPEECH
Learn the objectives and basic outline of public speech.
事前/前回クラス内容の復習 (45分)
事後/Takeaway 提出と授業内容の振り返り (45分)
- 第 3 回 1-MINUTE SPEECH
Learn the basic outline of 1-minute speech.
事前/前回クラス内容の復習 (45分)
事後/Takeaway 提出と 1-min speech 原稿提出 (60分)
- 第 4 回 SELF-INTRODUCTION CLUB #1
Learn the objectives and basic outline of self-introduction speech.

事前/前回クラス内容の復習 (45分)

事後/Takeaway の提出と self-introduction speech 初回原稿提出 (60分)

- 第 5 回 SELF-INTRODUCTION CLUB #2
Practice your self-introduction speech.
事前/前回クラス内容の復習 (45分)
事後/Takeaway 提出と self-introduction speech 最終原稿提出 (60分)
- 第 6 回 SELF-INTRODUCTION CLUB #3
Consolidate your self-introduction speech.
事前/前回クラス内容の復習 (45分)
事後/Takeaway 提出と self-introduction speech の練習 (60分)
- 第 7 回 SELF-INTRODUCTION CLUB #4
Discuss and practice your speech with the peers.
事前/self-introduction speech の練習 (45分)
事後/Takeaway 提出と self-introduction speech の練習 (60分)
- 第 8 回 MIDTERM PRESENTATION
Midterm Test: Deliver your self-introduction speech.
事前/self-introduction speech の練習 (60分)
事後/Takeaway 提出と授業内容の振り返り (45分)
- 第 9 回 My Speech: Challenging for my dream #1
Learn the basic outline of "My Speech: Challenging for my dream."
Define the outline of "My Speech"; Theme & My story
事前/前回クラス内容の復習 (45分)
事後/Takeaway 提出と My Speech の Theme & My story 提出 (60分)
- 第 10 回 My Speech: Challenging for my dream #2
Define the outline of "My Speech"; Your agenda & Solution.
事前/前回クラス内容の復習 (45分)
事後/Takeaway 提出と My Speech の Your agenda & Solution 提出 (60分)
- 第 11 回 My Speech: Challenging for my dream #3
Consolidate your "My Speech".
事前/前回クラス内容の復習 (45分)
事後/Takeaway 提出と "My Speech" 初回原稿提出 (60分)
- 第 12 回 My Speech: Challenging for my dream #4
Finalize your "My Speech"
事前/前回クラス内容の復習 (45分)
事後/Takeaway 提出と "My Speech" 完成版原稿提出 (60分)
- 第 13 回 PREPARATION FOR PRESENTATION
Discuss and practice your final speech with the peers.
事前/"My Speech" の練習 (60分)
事後/Takeaway 提出と "My Speech" の練習 (60分)
- 第 14 回 FINAL PRESENTATION

Final Test: Deliver your "My Speech"

事前/My Speech"の練習 (60分)

事後/Takeaway提出と授業内容の振り返り(45分)

第 15 回 PRESENTATION REVIEW

Review and develop your final speech.

事前/前回クラス内容の復習 (45分)

事後/これから「継続すべきこと」を明確化する(45分)

〔アクティブラーニング〕

1回：E / 2回：B,C /

3回：B,C / 4回：B,C /

5回：B,C / 6回：B,C /

7回：B,C / 8回：A,C /

9回：B,C / 10回：B,C /

11回：B,C / 12回：B,C /

13回：B,C / 14回：A,C /

15回：A,C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

※注 英語を母国語とする学生は履修できません。

※初級英語の授業です。

※履修人数制限あり。

・ベーシックな英単語力、文法理解・読解力・ライティング力・リスニング力があること。

・英語で自分の意見を伝えたいという意欲があること。

・クラスに貢献したいという意欲があること。

・クラス内でしっかりと発言ができ、共同作業ができること。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

・Microsoft Teamsを使用できるPC

・マイクオンは必須

・発言時はカメラをオンにすること

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①グランドルールに則った積極的な発言等の授業参加・クラスへの貢献度→20%

②中間・期末スピーチ発表成果→50%

③1分間スピーチ・クイズ・takeawayに対する評価→30%

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・授業内にて全体フィードバックを実施

・課題フォームにて個別フィードバックを実施

・クラス内で個別指導を実施

〔出席確認の方法〕

・授業開始時に出欠確認実施予定

・クラス最後に”Today’s takeaway”を提出

〔基本的な授業の進め方〕

・前回の授業のレビュー及び本日の授業内容・到達ゴールの説明：10分

・発音リズム練習及びToday's Phrase：20分

・1分間スピーチとディスカッション：20分

・レクチャー／ワークショップ(含：英文記事のリスニング／リーディング／ディスカッション)：30分

・次回の授業、課題の説明等：10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：○

4. 課題発見力・課題解決力：○

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

特になし

〔オフィスアワー〕

時間：出講日の授業前後

場所：オンライン上

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応、教科書、参考文献

英会話Ⅱ（木戸口）

FL210

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

木戸口 聡子

〔科目の概要および目的〕

教科書『World English <Level 1>』の課題に取り組みながら、社会生活に役立つ初級の英語を身につけることを目標にしている。「英会話Ⅱ」では、Unit7～12までを取り扱う。授業内では、英語でコミュニケーションを取る機会が多いため、失敗を恐れず積極的に参加して欲しい。また、学期の最後には、1人1人スピーチをする機会を設ける。授業で学んだことを使って、自分のこと・自分の考えを他者に伝えてみよう。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

・日常生活程度の英語が理解できる（リーディング・リスニング）

・日常生活程度の英語を使って、自分の考えを他者に伝えることができる（スピーキング・ライティング）

・日常生活程度の英語を使って、他者と議論することができる（スピーキング）

〔授業形態〕

5【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
授業内容と、リスニング、映像教材の視聴方法の説明。受講者の自己紹介タイム(日本語)。必ず出席すること。
事前/ シラバスを読む (1時間)
事後/ 教科書のPDFに目を通す (1時間)
- 第 2 回 Unit 7 Communication(1) 前半
コミュニケーションとそのツールに関する表現を学ぶ。
事前/ 授業の予習 (1時間)
事後/ 授業の復習・課題 (1時間)
- 第 3 回 Unit 7 Communication(2) 後半
コミュニケーションとそのツールに関する表現を学ぶ。
事前/ 授業の予習 (1時間)
事後/ 授業の復習・課題 (1時間)
- 第 4 回 Unit 8 Making Plans(1) 前半
スケジュールリングに関する表現を学ぶ。
事前/ 授業の予習 (1時間)
事後/ 授業の復習・課題 (1時間)
- 第 5 回 Unit 8 Making Plans(2) 後半
スケジュールリングに関する表現を学ぶ。
事前/ 授業の予習 (1時間)
事後/ 授業の復習・課題 (1時間)
- 第 6 回 Unit 9 Types of Clothing(1) 前半
衣服に関する表現を学ぶ。
事前/ 授業の予習 (1時間)
事後/ 授業の復習・課題 (1時間)
- 第 7 回 Unit 9 Types of Clothing(2) 後半
衣服に関する表現を学ぶ。
事前/ 授業の予習 (1時間)
事後/ 授業の復習・課題 (1時間)
- 第 8 回 Unit 10 Lifestyles(1) 前半
ライフスタイルに関する表現を学ぶ。
事前/ 授業の予習 (1時間)
事後/ 授業の復習・課題 (1時間)
- 第 9 回 Unit 10 Lifestyles(2) 後半
ライフスタイルに関する表現を学ぶ。
事前/ 授業の予習 (1時間)
事後/ 授業の復習・課題 (1時間)
- 第 10 回 Unit 11 Achievements(1) 前半
目標・業績に関する表現を学ぶ。
事前/ 授業の予習 (1時間)
事後/ 授業の復習・課題 (1時間)
- 第 11 回 Unit 11 Achievements(2) 後半
目標・業績に関する表現を学ぶ。
事前/ 授業の予習 (1時間)
事後/ 授業の復習・課題 (1時間)
- 第 12 回 Unit 12 Decisions(1) 前半

金銭・決定に関する表現を学ぶ。

事前/ 授業の予習 (1時間)

事後/ 授業の復習・課題 (1時間)

第 13 回 Unit 12 Decisions(2) 後半

金銭・決定に関する表現を学ぶ。

事前/ 授業の予習 (1時間)

事後/ 授業の復習・課題 (1時間)

第 14 回 まとめ (1)

「英会話Ⅱ」で学んだポイントを復習する。

英語でスピーチと質疑応答を行う。

事前/ スピーチ・質問の準備 (2時間)

事後/ 授業の復習・課題 (1時間)

第 15 回 まとめ (2)

「英会話Ⅱ」で学んだポイントを復習する。

英語でスピーチと質疑応答を行う。

事前/ スピーチ・質問の準備 (2時間)

事後/ 授業の復習・課題 (1時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：B /

3回：B,D / 4回：B /

5回：B,D / 6回：B /

7回：B,D / 8回：B /

9回：B,D / 10回：B /

11回：B,D / 12回：B /

13回：B,D / 14回：C /

15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

※注 英語を母国語とする学生は履修できません

※注 初級英語の授業です

- ・履修人数制限あり
- ・高校卒業程度の英語能力（文法等、授業内でも復習する）
- ・積極的に会話に参加し、共同作業ができること
- ・必ず辞書(紙の辞書か電子辞書)を準備すること
- ・「英会話Ⅰ」を履修することが望ましい
- ・指定した教科書は半期分を使用する

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

- ・Microsoft Teamsを使用できるPC
- ・スピーチ時のマイクオンは必須
- ・可能な限り発言時にカメラをオンにすること

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点、授業における取り組み (25%)：主体的に授業に参加しているか、積極的に英語で会話しようとしているか
- ②授業内の小テスト (30%)：授業で学んだこと(主にリーディングとリスニング)を理解しているか
- ③課題 (30%)：授業で学んだこと(主にリーディングとライティング)を理解しているか、締め切りが守れているか
- ④スピーチと質疑応答 (15%)：授業で学んだこと(主にスピーキング)を理解しているか

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で全体にコメントすることがあります

〔出席確認の方法〕

- ・出席確認フォームの提出
- ・コメントシートの提出
- ・Microsoft Teamsの会議出席レポートを使用

〔基本的な授業の進め方〕

- ・出席確認フォームへの記入、6分間スピーキング：15分
- ・講義（教科書のワーク、チャットへの投稿、映像教材視聴、スピーチ等）：55分
- ・振り返り、次回の授業、課題の説明：5分
- ・リスニングかリーディングの小テストへの解答、コメントシートへの記入：15分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：△

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

『World English <Level 1>』第3版、Becky Tarver Chase John Hughes他著、Cengage Learning、3000円

〔参考文献〕

リスニング、映像教材は <https://eltngl.com/sites/world-english-3e/introducing-world-english-third-edition> で視聴

〔オフィスアワー〕

出講日の5限終了後30分
オンライン

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

授業計画：事前・事後学習

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方

英会話Ⅱ（伊東）

FL210

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

伊東 美穂

〔科目の概要および目的〕

” Let the world know who you are!” ークラスゴールは世界に向かって自分の考えを発信するためのベーシックな英語プレゼンテーション能力の修得です。講義を通して①自分の意見／アイデアを述べるマイ・スピーチ②カジュアルな1分スピーチ③英語発声リズムを学びます。将来英語で自分の意見を日本の外へ伝えたい！という意欲があることが履修

必須条件。単位修得には、スピーチ発表の成果とクラス貢献度等を合わせた60点以上が求められます。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

1. ベーシックな英語で自己紹介スキル
2. ベーシックな英語でのスピーチスキル
3. 世界に向けて自分が発信したいアイデア・意見を認知
4. 相手をEncourage & Respectする視点・積極性
5. グローバルな場面で求められる学術的エチケット

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

第 1 回 CLASS INTRODUCTION & SELF-INTRODUCTION

Learn the class ground rules, goals and objectives.

Design and practice your self-introduction.

事後/Takeaway提出と授業内容の振り返り (45分)

第 2 回 1-MINUTE SPEECH

Learn the basic outline of 1-minute speech.

事前/前回クラス内容の復習 (45分)

事後/Takeaway提出と1-min speech原稿提出 (60分)

第 3 回 My Speech: "What today's Japan needs" #1

Learn the basic outline of "My Speech: "What today's Japan needs"

事前/前回クラス内容の復習 (45分)

事後/Takeaway提出とMy SpeechのTheme案提出 (60分)

第 4 回 My Speech: "What today's Japan needs" #2

Consolidate your theme for "My Speech".

Learn the speech part #1: What is the problem/agenda?

事前/前回クラス内容の復習 (45分)

事後/Takeaway提出とMy Speech part #1のThemeとProblem原稿提出(60分)

第 5 回 My Speech: "What today's Japan needs" #3

Consolidate your theme and problem for "My Speech".

Learn and develop the speech part #2: What is your own "My Story"

事前/前回クラス内容の復習 (45分)

事後/Takeaway提出とMy Speech part #2のMy story原稿提出(60分)

第 6 回 My Speech: "What today's Japan needs" #4

Learn and develop the speech part: Evidence

事前/前回クラス内容の復習 (45分)

事後/Takeaway提出とMy Speech part #3のEvidence原稿提出(60分)

第 7 回 PREPARATION FOR PRESENTATION

Discuss and practice your speech with the peers.

事前/My Speechの練習 (45分)

事後/Takeaway提出とMy Speechの練習(60分)

第 8 回 MIDTERM PRESENTATION

- Midterm Test: Deliver your "My Speech"
事前/My Speechの練習(60分)
事後/Takeaway提出と授業内容の振り返り(60分)
- 第9回 My Speech: "What today's Japan needs" #5
Learn and develop the speech part: Solution
事前/前回クラス内容の復習(45分)
事後/Takeaway提出とMy Speech part #4のSolution
初回原稿提出(60分)
- 第10回 My Speech: "What today's Japan needs" #6
Receive feedback and develop the speech part: Solution
事前/前回クラス内容の復習(45分)
事後/Takeaway提出とMy Speech part #4のSolution
最終原稿提出(60分)
- 第11回 My Speech: "What today's Japan needs" #7
Learn and develop the speech part: Conclusion
事前/前回クラス内容の復習(45分)
事後/Takeaway提出と"My Speech"初回原稿提出
(60分)
- 第12回 PREPARATION FOR FINAL PRESENTATION
Finalize your "My Speech"
事前/前回クラス内容の復習(45分)
事後/Takeaway提出と"My Speech"最終原稿提出
(60分)
- 第13回 PREPARATION FOR FINAL PRESENTATION
Discuss and practice your final speech with the peers.
事前/My Speech"の練習(60分)
事後/Takeaway提出と"My Speech"の練習(60分)
- 第14回 FINAL PRESENTATION
Final Test: Deliver your "My Speech"
事前/My Speech"の練習(60分)
事後/Takeaway提出と授業内容の振り返り(45分)
- 第15回 REVIEW
Review and develop your final speech.
事前/前回クラス内容の復習(45分)
事後/これから「継続すべきこと」を明確化する
(45分)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：E / 2回：B,C /
3回：B,C / 4回：B,C /
5回：B,C / 6回：B,C /
7回：B,C / 8回：A,C /
9回：B,C / 10回：B,C /
11回：B,C / 12回：B,C /
13回：B,C / 14回：A,C /
15回：A,C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

※注 英語を母国語とする学生は履修できません。

※初級英語の授業です。

※履修人数制限あり。

- ・ベーシックな英単語力、文法理解・読解力・ライティング力・リスニング力があること。
- ・英語で自分の意見を伝えたいという意欲があること。
- ・クラスに貢献したいという意欲があること。
- ・クラス内でしっかりと発言ができ、共同作業ができること。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

- ・Microsoft Teamsを使用できるPC
- ・マイクオンは必須
- ・発言時はカメラをオンにすること

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①グラドルルールに則った積極的な発言等の授業参加・クラスへの貢献度→20%
②中間・期末スピーチ発表成果→50%
③1分間スピーチ・クイズ・Today's takeawayに対する評価→30%

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・授業内にて全体フィードバックを実施
- ・課題フォームにて個別フィードバックを実施
- ・クラス内で個別指導を実施

〔出席確認の方法〕

- ・授業開始時に出席確認実施予定
- ・クラス最後に”Today's takeaway”を提出

〔基本的な授業の進め方〕

- ・前回の授業のレビュー及び本日の授業内容・到達ゴールの説明：10分
- ・発音リズム練習及びToday's Phrase：20分
- ・1分間スピーチとディスカッション：20分
- ・レクチャー／ワークショップ(含：英文記事のリスニング／リーディング／ディスカッション)：30分
- ・次回の授業、課題の説明、及び”Today's takeaway”の記入、提出：10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：○
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

特になし

〔オフィスアワー〕

時間：出講日の授業前後

場所：オンライン上

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

英会話Ⅲ

FL310

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

秋山 まき子

【科目の概要および目的】

In this course, you will learn the basic skills necessary to be a confident and capable speaker of English. You will mainly study listening and speaking. You will also study reading and writing when necessary. Learn English that will help you to function as an adult and a member of society.

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・ Listen to and participate in conversations on everyday work and life topics.
- ・ Understand English documents in everyday life.
- ・ Not to be afraid to communicate in English.

【授業形態】

5 【同時双方向型】

【授業計画】

- 第 1 回 Orientation
Explanation of the class and how the class will be conducted
- 第 2 回 Unit 1 "Hobbies" (1)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間)
- 第 3 回 Unit 1 "Hobbies" (2)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間)
- 第 4 回 Unit 2 "Clothes and colors" (1)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間)
- 第 5 回 Unit 2 "Clothes and colors" (2)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間)
- 第 6 回 Unit 3 "An active life" (1)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間)
- 第 7 回 Unit 3 "An active life" (2)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review for Exam 2 (時間)
- 第 8 回 Review (1)
Midterm Exam
After reviewing the topics in the textbook, students

will choose one of those topics and take a speaking test.

- 第 9 回 Unit 4 "Getting around" (1)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review for Exam 2 (時間)
- 第 10 回 Unit 4 "Getting around" (2)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間)
- 第 11 回 Unit 5 "Personality" (1)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間)
- 第 12 回 Unit 5 "Personality" (2)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間)
- 第 13 回 Unit 6 "Cooking" (1)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間)
- 第 14 回 Unit 6 "Cooking" (2)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review for Assignment 2 (時間)
- 第 15 回 Review (2)
Final Exam
After reviewing the topics in the textbook, students will choose one of those topics and take a speaking test.

【アクティブラーニング】

- 1回 : C / 2回 : B /
3回 : B / 4回 : B /
5回 : B / 6回 : B /
7回 : B / 8回 : C /
9回 : B / 10回 : B /
11回 : B / 12回 : B /
13回 : B / 14回 : B /
15回 : C

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

※注 英語を母国語とする学生は履修できません。 ※中級英語の授業です。 ・指定した教科書は半期分を使用します。 It is not necessary to have completed English Conversation 1 or 2, but an exit level is required.

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

Microsoft Teams

【成績評価方法 ・ 評価割合 ・ 評価基準】

Based on Final Assignment's performance and Midterm Exam 40%

Based on class performance, participation, attendance 30%, and assignments 30%

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

Individualized response to each issue

【出席確認の方法】

Attendance will be taken at the beginning of class by calling your name.

〔基本的な授業の進め方〕

Non-face-to-face (media) classes, which combine distance learning (simultaneous interactive class) and assignment delivery learning (on-demand class), are basically provided. Schedule is subject to change depending on the progress of the class.

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：－
2. 表現力：△
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：－

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
－：関連していない】

〔教科書〕

Stretch 2, Susan Stempleski, Oxford University Press, 2014.

ISBN: 9780194603133 2,800円+税

〔参考文献〕

Dictionary

〔オフィスアワー〕

There will be no specific office hours. If you have any questions, please contact me by e-mail

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：事前・事後学習

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

教科書、参考文献

英会話Ⅳ

FL410

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

秋山 まき子

〔科目の概要および目的〕

In this course, you will learn the basic skills necessary to be a confident and capable speaker of English. You will mainly study listening and speaking. You will also study reading and writing when necessary. Learn English that will help you to function as an adult and a member of society.

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・ Listen to and participate in conversations on everyday work and life topics.
- ・ Understand English documents in everyday life.
- ・ Not to be afraid to communicate in English.

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

第 1 回 Orientation

Explanation of the class and how the class will be conducted

- | | |
|--------|--|
| 第 2 回 | Unit 7 "Weather" (1)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間) |
| 第 3 回 | Unit 7 "Weather" (2)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間) |
| 第 4 回 | Unit 8 "Everyday activities" (1)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間) |
| 第 5 回 | Unit 8 "Everyday activities" (2)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間) |
| 第 6 回 | Unit 9 "Math, history, and art" (1)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間) |
| 第 7 回 | Unit 9 "Math, history, and art" (2)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間) |
| 第 8 回 | Review (1)
Midterm Exam
After reviewing the topics in the textbook, students will choose one of those topics and take a speaking test. |
| 第 9 回 | Unit 10 "A busy semester"(1)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間) |
| 第 10 回 | Unit 10 "A busy semester" (2)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間) |
| 第 11 回 | Unit 11 "Favors and requests" (1)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間) |
| 第 12 回 | Unit 11 "Favors and requests" (2)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間) |
| 第 13 回 | Unit 12 "Before you travel" (1)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間) |
| 第 14 回 | Unit 12 "Before you travel" (2)
事前/ Textbook Preparation 1 (時間)
事後/ Review and assignment 1 (時間) |
| 第 15 回 | Review (2)
Final Exam
After reviewing the topics in the textbook, students will choose one of those topics and take a speaking test. |

〔アクティブラーニング〕

- 1回：C / 2回：B /
3回：B / 4回：B /
5回：B / 6回：B /
7回：B / 8回：C /
9回：B / 10回：B /

11回：B / 12回：B /

13回：B / 14回：B /

15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

※注 英語を母国語とする学生は履修できません。 ※中級英語の授業です。 ・指定した教科書は半期分を使用します。
・「英会話Ⅲ」から続けて履修することが望ましい。

It is not necessary to have completed English Conversation 1 or 2, but an exit level is required.

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

Microsoft Teams

〔成績評価方法 ・評価割合 ・評価基準〕

Based on Special Assignments' s and Midterm Assignments' performance 40%

Based on class performance, participation, attendance 30%, and assignments 30%

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

Individualized response to each issue

〔出席確認の方法〕

Attendance will be taken at the beginning of class by calling your name.

〔基本的な授業の進め方〕

Non-face-to-face (media) classes, which combine distance learning (simultaneous interactive class) and assignment delivery learning (on-demand class), are basically provided. Schedule is subject to change depending on the progress of the class.

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：－
2. 表現力：△
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：－

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
－：関連していない】

〔教科書〕

Stretch 2, Susan Stempleski, Oxford University Press, 2014.

ISBN: 9780194603133 2,800円+税

〔参考文献〕

Dictionary

〔オフィスアワー〕

There will be no specific office hours. If you have any questions, please contact me by e-mail

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：事前・事後学習

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

教科書、参考文献

ビジネス英語 I (アヘゴ)

FL313

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

アドゥアヨム・アヘゴ 希佳子

〔科目の概要および目的〕

本授業では、高校卒業レベルの基礎を定着させ、より様々な状況で運用できるレベルまで伸ばすことを目標としています。旅行・ビジネス・日常生活などの場面における120語程度の会話やアナウンスの聴解力、400語程度の英文の読解力を養うほか、英語での発信力に磨きをかけます。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・聞き取りのポイントを理解して聞くことにより、正確な情報がキャッチできる。
- ・会話を行う上で利便性の高い語彙や表現を、用例を通じて学び、使いこなせるようになる。
- ・話し言葉、書き言葉での文法の活用能力を向上させる。

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

自己紹介、授業のやり方の説明など

事前/ シラバスを読む (30分)

事後/ 教科書を読む (30分)

第 2 回 Unit1 Let' s Clean Up! (日常生活)

リスニングパートの聞き取り・会話練習を行う

事前/リスニングパートの予習 (45分)

事後/語彙・表現の復習 (45分)

第 3 回 Unit1 Let' s Clean Up! (日常生活)

リーディングパートの読み・書き練習を行う

事前/リーディングパートの予習 (45分)

事後/語彙・表現の復習 (45分)

第 4 回 Unit2 Human Society (人間関係・コミュニケーション)

リスニングパートの聞き取り・会話練習を行う

事前/小テストの準備、リスニングパートの予習 (45分)

事後/語彙・表現の復習 (45分)

第 5 回 Unit2 Human Society (人間関係・コミュニケーション)

リーディングパートの読み・書き練習を行う

事前/リーディングパートの予習 (45分)

事後/語彙・表現の復習 (45分)

第 6 回 Unit3 Express Yourself with Emoji! (言葉・文化)

リスニングパートの聞き取り・会話練習を行う

事前/小テストの準備、リスニングパートの予習 (45分)

事後/語彙・表現の復習 (45分)

第 7 回 Unit3 Express Yourself with Emoji! (言葉・文化)

- リーディングパートの読み・書き練習を行う
事前/リーディングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)
- 第 8 回 Unit4 Good Sleep, Good Health (健康・医療)
リスニングパートの聞き取り・会話練習を行う
事前/小テストの準備、リスニングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)
- 第 9 回 Unit4 Good Sleep, Good Health (健康・医療)
リーディングパートの読み・書き練習を行う
事前/リーディングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)
- 第 10 回 Unit5 Job Interview Success (職業・キャリア)
リスニングパートの聞き取り・会話練習を行う
事前/小テストの準備、リスニングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)
- 第 11 回 Unit5 Job Interview Success (職業・キャリア)
リーディングパートの読み・書き練習を行う
事前/リーディングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)
- 第 12 回 Unit6 Dress Your Own Way (ファッション)
リスニングパートの聞き取り・会話練習を行う
事前/小テストの準備、リスニングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)
- 第 13 回 Unit6 Dress Your Own Way (ファッション)
リーディングパートの読み・書き練習を行う
事前/リーディングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)
- 第 14 回 Unit7 New Ways to Travel (旅行・観光)
リスニングパートの聞き取り・会話練習を行う
事前/小テストの準備、リスニングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)
- 第 15 回 Unit7 New Ways to Travel (旅行・観光)
リーディングパートの読み・書き練習を行う
事前/リーディングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)

【アクティブラーニング】

- 1回：B / 2回：B /
3回：B / 4回：B /
5回：B / 6回：B /
7回：B / 8回：B /
9回：B / 10回：B /
11回：B / 12回：B /
13回：B / 14回：B /
15回：B

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

※英語を母語とする学生は履修できません。

※毎回ペアワークやグループワークを行うので、基本的にカメラはONにしてください。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

PC

Zoom

マイク、カメラ

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①テスト50%：聴解力、読解力、語彙・表現の使い方、文法能力などを評価する。

②課題・小テスト40%：課題や小テストへの取り組みを評価する。

③平常点10%：授業中の参加態度を評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

授業中にコメントします

【出席確認の方法】

授業開始時に点呼により出欠確認を行う

【基本的な授業の進め方】

15分 出欠確認、課題へのフィードバック、小テスト

15分 ポイントの確認

30分 会話の聞き取り／読解

30分 会話練習／要約・作文練習

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：－

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：－

4. 課題発見力・課題解決力：－

5. コミュニケーション力：○

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

－：関連していない】

【教科書】

『TARGET! Intermediate 総合英語のターゲット演習【中級】』

森田彰 / 飯尾牧子 / 橋本健広 / 佐竹幸信 / 角田麻里 / Taron Plaza 著 金星堂

2200円

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応、教科書、参考文献、オフィスアワー

ビジネス英語 I (稲葉)

FL313

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 前期

6【対面型】

講義/1コマ

稲葉 麻里子

〔科目の概要および目的〕

テキストを始め、中級レベル以上の、ビジネスや日常生活、メディアなどの様々な実社会の英語を教材とする。それらを読解・視聴して正確に理解し、それについて自分の意見を英語で書く・話し、発信する訓練をする。パンデミック下の世界では、英語はオンラインでのコミュニケーションが中心となることを見据え、メールで円滑にやりとりができ、また、画面を通じた会話や、簡単なスピーチを行えるようにする。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・ビジネスの基本的な英語のEメールを、円滑に作成できる
- ・テキストの各ユニットの会話を練習・応用し、現場に即した英語での意思疎通ができる
- ・海外のメディアをはじめ、様々な場面の英語を読み、聴き取るコツを身につける

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンスと自己紹介
授業の進め方、テキストの使い方を説明し、履修者が自己紹介を英語で行う。必ず出席すること。
事前/シラバスの確認 (30分)
事後/次回テキストの予習 (1時間)
- 第 2 回 Lesson 1
ウォームアップ
テキスト: Stating the Purpose of a Contact 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 3 回 Lesson 2
ウォームアップ
テキスト: Meeting for the First Time 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 4 回 Lesson 3
ウォームアップ
テキスト: Presenting a Business Card 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 5 回 Lesson 4
ウォームアップ
テキスト: Transferring a Call 解説及び練習問題

事前/次回テキストの予習 (1時間)

事後/授業内容の復習 (1時間)

- 第 6 回 Lesson 5
ウォームアップ
テキスト: Phone Troubles 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 7 回 Lesson 6
ウォームアップ
テキスト: At the Airport Abroad 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 8 回 Lesson 7
ウォームアップ
テキスト: Making Polite Request 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 9 回 Lesson 8
ウォームアップ
テキスト: Taking and Leaving Telephone Messages 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 10 回 Lesson 9
ウォームアップ
テキスト: Making Inquiries 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 11 回 Lesson 10
ウォームアップ
テキスト: Making Appointments 1 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 12 回 Lesson 11
ウォームアップ
テキスト: Stating Requests Clearly 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 13 回 Lesson 12
ウォームアップ
テキスト: Making Apologies 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 14 回 Lesson 13
ウォームアップ
テキスト: Making Appointments 2 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 15 回 Lesson 1- 13 review

今学期の復習

事前/次回テキストの予習 (1時間)

事後/授業内容の復習 (1時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：E / 2回：E /

3回：E / 4回：E /

5回：E / 6回：E /

7回：E / 8回：E /

9回：E / 10回：E /

11回：E / 12回：E /

13回：E / 14回：E /

15回：E

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

※注 英語を母国語とする学生は履修できません。

- ・高校卒業程度の英語読解力
- ・「ビジネス英語Ⅱ」とあわせて履修することが望ましい。

教科書は同じものを半期分使用する。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

Teamsでの受講

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①学期末課題 (30%)：到達目標に達成できているか

②授業への参加度 (30%)：指名された時や、意見を求められた時に積極的に答えているか

③授業内課題 (40%)：テキストや指示された教材についての課題の成果

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

提出後の授業あるいはメールで個別にコメントする

〔出席確認の方法〕

授業時に口頭で出欠確認

〔基本的な授業の進め方〕

15分 出欠及び英語で近況報告 (毎回2-3センテンスで答える)

10分 ウォームアップとして、英語のリズム・発音を練習

10分 ウォームアップとして、リスニング訓練 (数字の聞き取り、シャドーイング、クイック・リスポンスなど)

40分 テキスト (解説、問題に答える)

15分 海外メディアの視聴と内容確認

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎

2. 表現力：○

3. 社会貢献力・コラボレーション力：◎

4. 課題発見力・課題解決力：○

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用力：△

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

〔教科書〕

①『A Shorter Course in English for Business Communication 5分間ビジネスコミュニケーション』②新田亜紀子③南雲堂

④700円+税

〔参考文献〕

適宜授業内に紹介する

〔オフィスアワー〕

出講日の授業前後

オンライン

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

ビジネス英語Ⅱ (アヘゴ)

FL413

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

アドウアヨム・アヘゴ 希佳子

〔科目の概要および目的〕

本授業では、高校卒業レベルの基礎を定着させ、より様々な状況で運用できるレベルまで伸ばすことを目標としています。旅行・ビジネス・日常生活などの場面における120語程度の会話やアナウンスの聴解力、400語程度の英文の読解力を養うほか、英語での発信力に磨きをかけます。

〔到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル) 〕

・聞き取りのポイントを理解して聞くことにより、正確な情報がキャッチできる。

・会話を行う上で利便性の高い語彙や表現を、用例を通じて学び、使いこなせるようになる。

・話し言葉、書き言葉での文法の活用能力を向上させる。

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

第1回 ガイダンス

自己紹介、授業のやり方の説明など

事前/ シラバスを読む (30分)

事後/ 教科書を読む (30分)

第2回 Unit 8 Sports Anytime, Anywhere (スポーツ)

リスニングパートの聞き取り・会話練習を行う

事前/リスニングパートの予習 (45分)

事後/語彙・表現の復習 (45分)

第3回 Unit 8 Sports Anytime, Anywhere (スポーツ)

リーディングパートの読み・書き練習を行う

事前/リーディングパートの予習 (45分)

事後/語彙・表現の復習 (45分)

第4回 Unit 9 How Do You Enjoy Music? (レジャー・エンタメ)

リスニングパートの聞き取り・会話練習を行う

事前/リスニングパートの予習 (45分)

事後/語彙・表現の復習 (45分)

第5回 Unit 9 How Do You Enjoy Music? (レジャー・エンタメ)

- リーディングパートの読み・書き練習を行う
事前/リーディングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)
- 第 6 回 Unit 10 Choose What Color to Paint (アート)
リスニングパートの聞き取り・会話練習を行う
事前/リスニングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)
- 第 7 回 Unit 10 Choose What Color to Paint (アート)
リーディングパートの読み・書き練習を行う
事前/リーディングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)
- 第 8 回 Unit 11 The Future of Food (食)
リスニングパートの聞き取り・会話練習を行う
事前/リスニングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)
- 第 9 回 Unit 11 The Future of Food (食)
リーディングパートの読み・書き練習を行う
事前/リーディングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)
- 第 10 回 Unit 12 To Gain Experience in Business (ビジネス)
リスニングパートの聞き取り・会話練習を行う
事前/リスニングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)
- 第 11 回 Unit 12 To Gain Experience in Business (ビジネス)
リーディングパートの読み・書き練習を行う
事前/リーディングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)
- 第 12 回 Unit 13 Science We Should Know (サイエンス)
リスニングパートの聞き取り・会話練習を行う
事前/リスニングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)
- 第 13 回 Unit 13 Science We Should Know (サイエンス)
リーディングパートの読み・書き練習を行う
事前/リーディングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)
- 第 14 回 Unit 14 Apps That Change Your Life (産業・テクノロジー)
リスニングパートの聞き取り・会話練習を行う
事前/リスニングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)
- 第 15 回 Unit 14 Apps That Change Your Life (産業・テクノロジー)
リーディングパートの読み・書き練習を行う
事前/リーディングパートの予習 (45分)
事後/語彙・表現の復習 (45分)

【アクティブラーニング】

- 1回：B / 2回：B /
3回：B / 4回：B /
5回：B / 6回：B /
7回：B / 8回：B /
9回：B / 10回：B /
11回：B / 12回：B /
13回：B / 14回：B /
15回：B

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

※英語を母語とする学生は履修できません。

※毎回ペアワークやグループワークを行うので、基本的にカメラはONにしてください。

※「ビジネス英語 I (アヘゴ)」を履修していることが望ましい。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

PC

Zoom

マイク、カメラ

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①テスト50%：聴解力、読解力、語彙・表現の使い方、文法能力などを評価する。

②課題・小テスト40%：課題や小テストへの取り組みを評価する。

③平常点10%：授業中の参加態度を評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

授業内でコメントする。

【出席確認の方法】

授業開始後に点呼により出欠確認を行う。

【基本的な授業の進め方】

15分 出欠確認、課題へのフィードバック、小テスト

15分 ポイントの確認

30分 会話の聞き取り／読解

30分 会話練習／要約・作文練習

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：－

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：－

4. 課題発見力・課題解決力：－

5. コミュニケーション力：○

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
－：関連していない】

【教科書】

『TARGET! Intermediate 総合英語のターゲット演習【中級】』

森田彰 / 飯尾牧子 / 橋本健広 / 佐竹幸信 / 角田麻里 / Taron Plaza 著 金星堂

2200円 (「ビジネス英語 I (アヘゴ)」と同じ)

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応、教科書、参考文献、オフィスアワー

ビジネス英語Ⅱ（稲葉）

FL413

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 後期

6【対面型】

講義/1コマ

稲葉 麻里子

【科目の概要および目的】

テキストを始め、中級レベル以上の、ビジネス・日常生活・メディアなどの様々な実社会の英語を教材とする。それらを読み解き・視聴して正確に理解し、それについて自分の意見を英語で書く・話し、発信する訓練をする。特に後期はテキスト中のメールについての章を中心にとりあげる。パンデミック下の世界では、英語はオンラインでのコミュニケーションが中心となることを見据え、メールで円滑にやりとりができ、また、画面を通じた会話や、簡単なスピーチを行えるようにする。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・ビジネスの基本的な英語のEメールを、円滑に作成できる
- ・テキストの各ユニットの会話を練習・応用し、現場に即した英語での意思疎通ができる
- ・海外のメディアをはじめ、様々な場面の英語を読み、聴き取るコツを身につける

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

- 第 1 回 ガイダンスと自己紹介
授業の進め方、テキストの使い方を説明し、履修者が自己紹介を英語で行う。必ず出席すること。
事前/シラバスの確認 (30分)
事後/次回テキストの予習 (1時間)
- 第 2 回 Lesson 1
ウォームアップ
テキスト: Stating the Purpose of a Contact 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 3 回 Lesson 14
ウォームアップ
テキスト: Notification of Absence 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)

- 第 4 回 Lesson 16
ウォームアップ
テキスト: Informing of Email Attachments 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 5 回 Lesson 17
ウォームアップ
テキスト: Inquiring about Job Openings 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 6 回 Lesson 18
ウォームアップ
テキスト: Making Suggestions 1 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 7 回 Lesson 19
ウォームアップ
テキスト: Making Suggestions 2 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 8 回 Lesson 14
ウォームアップ
テキスト: Notification of Absence 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 9 回 Lesson 15
ウォームアップ
テキスト: Confirming Your Understanding 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 10 回 Lesson 16
ウォームアップ
テキスト: Informing of Email Attachments 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 11 回 Lesson 17
ウォームアップ
テキスト: Inquiring about Job Openings 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 12 回 Lesson 18
ウォームアップ
テキスト: Making Suggestions 1 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習 (1時間)
事後/授業内容の復習 (1時間)
- 第 13 回 Lesson 19

ウォームアップ

テキスト：Making Suggestions 2解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習（1時間）
事後/授業内容の復習（1時間）

第14回 Lesson 21

ウォームアップ

テキスト：Parting 解説及び練習問題
事前/次回テキストの予習（1時間）
事後/授業内容の復習（1時間）

第15回 review

今学期の復習

事前/次回テキストの予習（1時間）
事後/授業内容の復習（1時間）

【アクティブラーニング】

1回：E / 2回：E /

3回：E / 4回：E /

5回：E / 6回：E /

7回：E / 8回：E /

9回：E / 10回：E /

11回：E / 12回：E /

13回：E / 14回：E /

15回：E

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

※注 英語を母国語とする学生は履修できません。

- ・高校卒業程度の英語読解力
- ・「ビジネス英語I」とあわせて履修することが望ましい。教科書は同じものを半期分使用する。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

Teamsでの受講

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①学期末課題（30%）：到達目標に達成できているか
- ②授業への参加度（30%）：指名された時や、意見を求められた時に積極的に答えているか。
- ③授業内課題（40%）：テキストや指示された教材についての課題の成果

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

提出後の授業あるいはメールで個別にコメントする

【出席確認の方法】

授業時に口頭で出欠確認

【基本的な授業の進め方】

15分 出欠及び英語で近況報告（毎回2-3センテンスで答える）

10分 ウォームアップとして、英語のリズム・発音を練習

10分 ウォームアップとして、リスニング訓練（数字の聞き取り、シャドーイング、クイック・リスponsなど）

40分 テキスト（解説、問題に答える）

15分 海外メディアの視聴と内容確認

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：◎
4. 課題発見力・課題解決力：○

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用力：△

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

①『A Shorter Course in English for Business Communication 5 分間ビジネスコミュニケーション』②新田亜紀子③南雲堂
④700円＋税

【参考文献】

適宜授業内に紹介する

【オフィスアワー】

出講日の授業前後

オンライン

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

英語講読 I

FL114

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 前期

6【対面型】

講義/1コマ

近藤 真彫

【科目の概要および目的】

初級から中級レベルの英語の文章を読んで、基本的な語彙、文法、構文、表現を確認しながら読解力を養い、学んだことをもとに簡単な英作文の練習を行う。身近な社会問題を扱った意見発信型のテキストを読むことで、実生活での情報収集と発信に活用できる英語力の基礎を養う。また、文化や社会、政治等の背景についての解説も加え、外国語の学習を通して多文化社会への理解を深めることも重視する。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・基本的な語彙、文法、構文、表現を確認して、英語での情報を正確に読解することができる
- ・適切な構成に基づいて簡単な英文が作成できる
- ・外国語を通して文化の多様性を知る

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第1回 ガイダンス

授業内容の説明。補足資料の選択のために履修者の希望も調査するので必ず出席すること。

事前/シラバスを読む(30分)

事後/次回テキストの予習(2時間)

第2回 Unit1

	Dogs or Cats? テキスト読解 事前/次回テキストの予習(2時間) 事後/授業内容の復習(1時間)	今学期に学んだテーマと要点を復習する 事前/これまでの復習(2時間) 事後/授業内容の復習(1時間)
第 3 回	Unit1 review テーマを復習し補足資料を読む 事前/次回テキストの予習(2時間) 事後/授業内容の復習(1時間)	【アクティブラーニング】 1回 : E / 2回 : E / 3回 : E / 4回 : E / 5回 : E / 6回 : E / 7回 : E / 8回 : E / 9回 : E / 10回 : E / 11回 : E / 12回 : E / 13回 : E / 14回 : E / 15回 : E
第 4 回	Unit2 Dubbing or Subtitling? テキスト読解 事前/次回テキストの予習(2時間) 事後/授業内容の復習(1時間)	
第 5 回	Unit2 review テーマを復習し補足資料を読む 事前/次回テキストの予習(2時間) 事後/授業内容の復習(1時間)	【事前に修得しておく必要のある科目】 なし
第 6 回	Unit3 Traveling on Your Own or in a Group Tour? テキスト読解 事前/次回テキストの予習(2時間) 事後/授業内容の復習(1時間)	【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】 ※注 英語を母国語とする学生は履修できません ・高校卒業程度の英語読解力 ・必ず辞書を用意すること ・この授業を履修した後、継続して「英語講義Ⅱ」を履修することが望ましい（同じ教科書の前半をⅠ、後半をⅡで使用）
第 7 回	Unit3 review テーマを復習し補足資料を読む 事前/次回テキストの予習(2時間) 事後/授業内容の復習(1時間)	【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】 原則として対面 *やむを得ずオンラインとなる場合は、主にTeamsで同時双方向型とし、wordで課題を提出できること。
第 8 回	Unit4 Paper Bags or Plastic Bags? テキスト読解 事前/次回テキストの予習(2時間) 事後/授業内容の復習(1時間)	【成績評価方法 ・評価割合 ・評価基準】 ①学期末課題 (30%) : 授業で学んだこと (主に読解力) を習得しているか ②授業における取り組みを含めた平常点 (30%) : 自分が理解できているかを確認しているか。授業内での課題 (英作文等) に積極的に参加しているか ③授業内課題 (40%) : 指示されたテキストの予習や授業内課題の成果
第 9 回	Unit4 review テーマを復習し補足資料を読む 事前/次回テキストの予習(2時間) 事後/授業内容の復習(1時間)	【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】 提出後の授業で返却またはコメントする
第 10 回	Unit5 Do We Need TV Broadcasting or Not? テキスト読解 事前/次回テキストの予習(2時間) 事後/授業内容の復習(1時間)	【出席確認の方法】 授業開始時に出席を取る
第 11 回	Unit5 review テーマを復習し補足資料を読む 事前/次回テキストの予習(2時間) 事後/授業内容の復習(1時間)	【基本的な授業の進め方】 10分 授業説明 20分 解説 20分 コースワーク(テキスト) 15分 解説 15分 コースワーク (設問) 10分 課題説明
第 12 回	Unit6 Age-based or Performance-based? テキスト読解 事前/次回テキストの予習(2時間) 事後/授業内容の復習(1時間)	【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】 1. 主体的行動力 : ◎ 2. 表現力 : ○ 3. 社会貢献力・コラボレーション力 : △ 4. 課題発見力・課題解決力 : ○ 5. コミュニケーション力 : △ 6. 専門的知識・技能の活用力 : ○
第 13 回	Unit6 review テーマを復習し補足資料を読む 事前/次回テキストの予習(2時間) 事後/授業内容の復習(1時間)	【◎ : 特に関連が強い ○ : 関連が強い △ : 関連がある — : 関連していない】
第 14 回	Unit7 Buying Music Online or Buying CDs? 事前/次回テキストの復習(2時間) 事後/授業内容の復習(1時間)	
第 15 回	Units 1-7 review	

〔教科書〕

①『In My Opinion 話して伸ばす 発信型英語演習』②飯野厚ほか③金星堂④1,900円（税別）、他に配布資料

〔参考文献〕

必要に応じて紹介する

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、出席確認の方法

英語講読Ⅱ

FL214

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 後期

6【対面型】

講義/1コマ

近藤 真彫

〔科目の概要および目的〕

初級から中級レベルの英語の文章を読んで、基本的な語彙、文法、構文、表現を確認しながら読解力を養い、学んだことをもとに簡単な英作文とパラグラフ構成の練習を行う。身近な社会問題を扱った意見発信型のテキストを読むことで、実生活での情報収集と発信に活用できる英語力の基礎を養う。また、文化や社会、政治等の背景についての解説も加え、外国語の学習を通して多文化社会への理解を深めることも重視する。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・基本的な語彙、文法、構文、表現を確認して、英語での中級程度のエッセイや小論文を理解することができる
- ・自分の関心のあるテーマについてパラグラフを英作できる
- ・外国語を通して文化の多様性を知る

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

授業内容の説明。補足資料の選択のために履修者の希望も調査するので必ず出席すること。

事前/シラバスを読む(30分)

事後/次回テキストの予習(2時間)

第 2 回 Unit8

Living with Family or Living Alone? テキスト読解

事前/次回テキストの予習(2時間)

事後/授業内容の復習(1時間)

第 3 回 Unit8 review

テーマを復習し補足資料を読む

事前/次回テキストの予習(2時間)

事後/授業内容の復習(1時間)

第 4 回 Unit9

Team Sports or Individual Sports? テキスト読解

事前/次回テキストの予習(2時間)

事後/授業内容の復習(1時間)

第 5 回 Unit9 review

テーマを復習し補足資料を読む

事前/次回テキストの予習(2時間)

事後/授業内容の復習(1時間)

第 6 回 Unit10

Online Shopping or In-store Shopping? テキスト読解

事前/次回テキストの予習(2時間)

事後/授業内容の復習(1時間)

第 7 回 Unit10 review

テーマを復習し補足資料を読む

事前/次回テキストの予習(2時間)

事後/授業内容の復習(1時間)

第 8 回 Unit11

Professional Training or Liberal Arts? テキスト読解

事前/次回テキストの予習(2時間)

事後/授業内容の復習(1時間)

第 9 回 Unit11 review

テーマを復習し補足資料を読む

事前/次回テキストの予習(2時間)

事後/授業内容の復習(1時間)

第 10 回 Unit12

Self-driving Cars or Human-driven Cars? テキスト読解

事前/次回テキストの予習(2時間)

事後/授業内容の復習(1時間)

第 11 回 Unit12 review

テーマを復習し補足資料を読む

事前/次回テキストの予習(2時間)

事後/授業内容の復習(1時間)

第 12 回 Unit13

Boxed Lunch or School Cafeteria? テキスト読解

事前/次回テキストの予習(2時間)

事後/授業内容の復習(1時間)

第 13 回 Unit13 review

テーマを復習し補足資料を読む

事前/次回テキストの予習(2時間)

事後/授業内容の復習(1時間)

第 14 回 Unit14

Manga or Novels?

事前/次回テキストの復習(2時間)

事後/授業内容の復習(1時間)

第 15 回 Units8-14 review

今学期に学んだテーマと要点を復習する

事前/これまでの復習(2時間)

事後/授業内容の復習(1時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：E / 2回：E /

3回：E / 4回：E /

5回：E / 6回：E /

7回：E / 8回：E /
 9回：E / 10回：E /
 11回：E / 12回：E /
 13回：E / 14回：E /
 15回：E

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

※注 英語を母国語とする学生は履修できません

- ・「英語講読Ⅰ」から継続して履修することが望ましい（同じ教科書の前半をⅠ、後半をⅡで使用）
- ・高校卒業程度の英語読解力
- ・必ず辞書を用意すること

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

原則として対面

*やむを得ずオンラインとなる場合は、主にTeamsで同時双方向型とし、wordで課題を提出できること。

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①学期末課題（30%）：授業で学んだこと（主に読解力）を習得しているか
- ②授業における取り組みを含めた平常点（30%）：自分が理解できているかを確認しているか。授業内での課題（英作文等）に積極的に参加しているか
- ③授業内課題（40%）：指示されたテキストの予習や授業内課題の成果

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

提出後の授業で返却またはコメントする

【出席確認の方法】

授業開始時に出席を取る

【基本的な授業の進め方】

10分 授業説明
 20分 解説
 20分 コースワーク(テキスト)
 15分 解説
 15分 コースワーク（設問）
 10分 課題説明

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 —：関連していない】

【教科書】

①『In My Opinion 話して伸ばす 発信型英語演習』②飯野厚ほか③金星堂④1,900円（税別）、他に配布資料

【参考文献】

必要に応じて紹介する

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、出席確認の方法

中国語会話Ⅰ

FL112

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 前期

6【対面型】

講義/1コマ

李 春

【科目の概要および目的】

本授業の目標は、中国語を初めて学習する人が一般的な会話や簡単な文書の読み書きができるようになることにある。「聞く」「話す」「読む」「書く」「訳す」訓練を通じて、中国語の理解から表現への練習を行う。そのために、本授業は主に三つの内容で構成される。1) 中国語の発音を学習し、正しい中国語発音を身につけること。2) 日常生活における常用文型や単語を中心に学習し、中国語の基礎会話と基礎文法を身につけること。3) 中国の文化や習慣などを学習し、それらに対する理解を深めること。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・正しい中国語の発音ができる。
- ・簡単な日常会話と簡単な読み書きができる。
- ・中国の文化や習慣などを理解できる。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第1回 ガイダンス発音(1)

授業内容、学習方法、評価方法などを説明する。
 ピンイン、子音、母音を解説する。会話練習。
 事前準備（スマホ中国語入力設定）
 事後学習（今回の学習内容45分）

第2回 発音(2) 日常用語

声調、つづり方、音節表を解説する。
 日常用語の学習。会話練習。
 事前学習（前回の学習内容45分）
 事後学習（今回の学習内容45分）

第3回 第1課 挨拶(1) こんにちは

形容詞述語文を解説する。
 会話練習。
 事前学習（前回の学習内容45分）
 事後学習（今回の学習内容45分）

第4回 第2課 挨拶(2) お変わりありませんか

主述述語文、指数字を解説する。
 会話練習。
 事前学習（前回の学習内容45分）
 事後学習（今回の学習内容45分）

第 5 回	第3課 挨拶 (3) お仕事はお忙しいですか 「不 _レ 太 _一 」を解説する。 会話練習。 事前学習 (前回の学習内容45分) 事後学習 (今回の学習内容45分)	前期内容のまとめ、理解度確認テストを行う。 事前学習 (前回の学習内容45分) 事後学習 (今回の学習内容45分)
第 6 回	第4課 初めて会う (1) お名前は何かとおっしゃいますか 「是」構文 (1)、動詞述語文を解説する。 会話練習。 事前学習 (前回の学習内容45分) 事後学習 (今回の学習内容45分)	〔アクティブラーニング〕 1回 : B / 2回 : B / 3回 : B / 4回 : B / 5回 : B / 6回 : B / 7回 : B / 8回 : B / 9回 : B / 10回 : B / 11回 : B / 12回 : B / 13回 : B / 14回 : B / 15回 : B
第 7 回	第5課 初めて会う (2) ちょっと紹介します 疑問詞疑問文、「在」構文を解説する。 会話練習。 事前学習 (前回の学習内容45分) 事後学習 (今回の学習内容45分)	〔事前に修得しておく必要のある科目〕 なし
第 8 回	復習1 第1課～第5課の復習。 ロールプレイで実会話練習。翻訳練習。 事前学習 (前回の学習内容45分) 事後学習 (今回の学習内容45分)	〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕 (1)「中国語会話Ⅱ」も履修することが望ましい。 (2)授業中の私語、居眠り、携帯電話の無許可使用、飲食、内職は禁止する。また、遅刻や授業中の無断退出、教科書の不携帯は認めない。 ※注 ①中国語を母国語とする学生は履修できません。②受講者の到達度に合わせてカリキュラムを調整する場合があります。
第 9 回	第6課 尋ねる (1) お誕生日は何月何日ですか 名詞述語文、年月日曜日の表し方を解説する。 会話練習。 事前学習 (前回の学習内容45分) 事後学習 (今回の学習内容45分)	〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕 パソコン、ipad、スマートフォンのいずれか
第 10 回	第7課 尋ねる (2) ご家族は何人ですか 「有」構文、前置詞構造を解説する。 会話練習。 事前学習 (前回の学習内容45分) 事後学習 (今回の学習内容45分)	〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕 (1)平常点 (30%) : 授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。 (2)課題完成 (30%) : 指示された翻訳・入力課題の完成状況及びグループ練習の参加状況を評価する。 (3)実技 (40%) : 学習した簡単な日常会話や簡単な読み書きができるかを評価する。
第 11 回	第8課 尋ねる (3) 今は何時ですか 時間詞、「太～了」、「吧」を解説する。 会話練習。 事前学習 (前回の学習内容45分) 事後学習 (今回の学習内容45分)	〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕 ・提出された課題をチェックした後、次の授業で参考答えを公表し、全体にコメントする。
第 12 回	第9課 尋ねる (4) お住まいはどちらですか 連動文を解説する。 会話練習。 事前学習 (前回の学習内容45分) 事後学習 (今回の学習内容45分)	〔出席確認の方法〕 授業開始時の出席確認と授業後の課題提出の二点セットで一回の出席としてカウントする。
第 13 回	第10課 尋ねる (5) 郵便局はどこですか 方位詞、反復疑問文を解説する。 会話練習。 事前学習 (前回の学習内容45分) 事後学習 (今回の学習内容45分)	〔基本的な授業の進め方〕 ・出席確認・前回の復習 (20分) ・新しい文法の学習 (20分) ・新しい会話本文の学習 (25分) ・日中文化比較 (10分) ・課題完成 (15分)
第 14 回	復習2 第6課～第10課の復習。 ロールプレイで実会話練習。翻訳練習。 事前学習 (前回の学習内容45分) 事後学習 (今回の学習内容45分)	〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕 1. 主体的行動力 : ○ 2. 表現力 : ○ 3. 社会貢献力・コラボレーション力 : ○ 4. 課題発見力・課題解決力 : ○ 5. コミュニケーション力 : ◎ 6. 専門的知識・技能の活用力 : △
第 15 回	まとめ、小テスト	〔◎ : 特に関連が強い ○ : 関連が強い △ : 関連がある — : 関連していない〕

【教科書】

『中国語会話301文』(上)、康玉華・来思平編著、語文研究社、1,300円+税

【参考文献】

『中国語学習ハンドブック(改訂版)』、相原茂、大修館書店、2,200円+税

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照(7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

中国語会話Ⅱ

FL212

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 後期

6【対面型】

講義/1コマ

李 春

【科目の概要および目的】

本授業の目標は、「中国語会話Ⅰ」を学習した人を対象とし、「聞く」「話す」「読む」「書く」「訳す」訓練を通じて、一般的な会話や簡単な文書の読み書きをレベルアップするところにある。そのために、本授業は主に三つの内容で構成される。1) 中国語の発音を復習し、美しい中国語発音を身につけること。2) 日常生活における常用文型や単語を中心に学習し、中国語の基礎会話と基礎文法を身につけること。3) 中国の文化や習慣などを学習し、それらに対する理解を深めること。

【到達目標(授業を通じて身につく能力・スキル)】

- ・美しい中国語の発音ができる。
- ・常用日常会話と簡単な読み書きができる。
- ・中国の文化や習慣などを理解できる。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス前期内容の復習
授業内容、学習方法、評価方法を説明する。
前期文法事項、会話を復習する。
事前学習(前回の学習内容45分)
事後学習(今回の学習内容45分)
- 第2回 第11課 必要(1) みかんを買いたいです
人民元、数え方、能願動詞を解説する。
会話練習。
事前学習(前回の学習内容45分)
事後学習(今回の学習内容45分)
- 第3回 第12課 必要(2) セーターを買いたいです
変化の「了」、重ね型動詞を解説する。
会話練習。

事前学習(前回の学習内容45分)

事後学習(今回の学習内容45分)

- 第4回 第13課 必要(3) 乗り換えが必要で二重目的語文を解説する。
会話練習。
事前学習(前回の学習内容45分)
事後学習(今回の学習内容45分)
- 第5回 第14課 必要(4) 両替に行きたいです
謙語文、完了の「了」を解説する。
会話練習。
事前学習(前回の学習内容45分)
事後学習(今回の学習内容45分)
- 第6回 第15課 必要(5) 写真を撮りたいです
「是」構文(2)、結果補語を解説する。
会話練習。
事前学習(前回の学習内容45分)
事後学習(今回の学習内容45分)
- 第7回 復習3
第11課～第15課の復習。
ロールプレイで実会話練習。翻訳練習。
事前学習(前回の学習内容45分)
事後学習(今回の学習内容45分)
- 第8回 第16課 約束(1) 京劇を見たことがありますか
経験を表す文を解説する。
会話練習。
事前学習(前回の学習内容45分)
事後学習(今回の学習内容45分)
- 第9回 第17課 約束(2) 動物園に行きます
選択疑問文、方向補語を解説する。
会話練習。
事前学習(前回の学習内容45分)
事後学習(今回の学習内容45分)
- 第10回 第18課 迎える(1) 道中お疲れさまでした
「要～了」、「是～的」を解説する。
会話練習。
事前学習(前回の学習内容45分)
事後学習(今回の学習内容45分)
- 第11回 第19課 迎える(2) 歓迎いたします
「从」、「在」の目的語、動量補語を解説する。
会話練習。
事前学習(前回の学習内容45分)
事後学習(今回の学習内容45分)
- 第12回 第20課 招待する私たちの友情のために乾杯
程度補語を解説する。
会話練習。
事前学習(前回の学習内容45分)
事後学習(今回の学習内容45分)
- 第13回 復習4
第16課～第20課の復習。
ロールプレイで実会話練習。翻訳練習。
事前学習(前回の学習内容45分)
事後学習(今回の学習内容45分)
- 第14回 実会話練習

グループに分けてロールプレイで「自己紹介」「買い物」「両替」。

事前学習（前回の学習内容45分）

事後学習（今回の学習内容45分）

第 15 回 まとめ、小テスト

後期内容のまとめ、理解度確認テストを行う。

事前学習（前回の学習内容45分）

事後学習（今回の学習内容45分）

〔アクティブラーニング〕

1回：B / 2回：B /

3回：B / 4回：B /

5回：B / 6回：B /

7回：B / 8回：B /

9回：B / 10回：B /

11回：B / 12回：B /

13回：B / 14回：B /

15回：B

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

(1)「中国語会話Ⅰ」を履修したことが望ましい。

(2)授業中の私語、居眠り、携帯電話の無許可使用、飲食、内職は禁止する。また、遅刻や授業中の無断退出、教科書の不携帯は認めない。

※注 ①中国語を母国語とする学生は履修できません。②受講者の到達度に合わせてカリキュラムを調整する場合があります。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

パソコン、ipad、スマートフォンのいずれか

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

(1)平常点 (30%)：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

(2)課題完成 (30%)：指示された翻訳・入力課題の完成状況及びグループ練習の参加状況を評価する。

(3)実技 (40%)：学習した簡単な日常会話や簡単な読み書きができるかを評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・提出された課題をチェックした後、次の授業で参考答えを発表し、全体にコメントする。

〔出席確認の方法〕

授業開始時の出席確認と授業後の課題提出の二点セットで一回の出席としてカウントする。

〔基本的な授業の進め方〕

・出席確認・前回の復習 (20分)

・新しい文法の学習 (20分)

・新しい会話本文の学習 (25分)

・日中文化比較 (10分)

・課題完成 (15分)

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○

2. 表現力：○

3. 社会貢献力・コラボレーション力：○

4. 課題発見力・課題解決力：○

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用力：△

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

『中国語会話301文』(上)、康玉華・来思平編著、語文研究社、1,300円+税

〔参考文献〕

『中国語学習ハンドブック (改訂版)』、相原茂、大修館書店、2,200円+税

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

中国語会話Ⅲ

FL311

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

范文玲

〔科目の概要および目的〕

近年、中国からの旅行者や留学生は増え続け、至る所で中国語を耳にするようになりました。今後中国語のニーズは益々高くなるでしょう。本科目は、中国語の発音および基本的な文法の学習を終えた学生向けの実践会話コースであり、中国人とのコミュニケーションを図れるようになること、また、中国の文化・習慣・伝統・流行などに対する理解を深めることを目的とします。

〔到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル) 〕

- ・日常生活における中国語の簡単な会話が聞き取れる。
- ・日常生活において自分の考えを簡単な中国語で伝えることが出来る。
- ・中国語の簡単な文章を読んで理解することができる (日本語に訳すことができる)。

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

授業の進め方の説明、成績評価方法の説明

事前/シラバス確認 (10分)

第 2 回 自己紹介の表現をマスター

スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の

確認、漢字・関連語句の解説

事後/復習、音読練習 (90分)

第 3 回 「ご遠慮なく」の表現をマスター

- スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習 (90分)
- 第 4 回 「失礼します」の表現をマスター
スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習 (90分)
- 第 5 回 「たいしたことはない」の表現をマスター
スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習 (90分)
- 第 6 回 「まあまあだ」の表現をマスター
スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習 (90分)
- 第 7 回 「お願いしますね」の表現をマスター
スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習 (90分)
- 第 8 回 「冗談でしょう？」の表現をマスター
スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習 (90分)
- 第 9 回 「大げさすぎる」の表現をマスター
スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習 (90分)
- 第 10 回 「わかったわかった」の表現をマスター
スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習 (90分)
- 第 11 回 「申し訳ない」の表現をマスター
スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習 (90分)
- 第 12 回 「会えるまでいよう」の表現をマスター
スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習 (90分)
- 第 13 回 「お疲れ様」の表現をマスター
スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習 (90分)
- 第 14 回 総復習
これまでのスキットの総復習
事後/定期試験準備 (120分)
- 第 15 回 前期のまとめ、定期試験
前期のまとめ、定期試験
事前/定期試験準備 (120分)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：— / 2回：B /
3回：B / 4回：B /
5回：B / 6回：B /
7回：B / 8回：B /

- 9回：B / 10回：B /
11回：B / 12回：B /
13回：B / 14回：B /
15回：—

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

※注 中国語を母語とする学生は履修できません。

・「中国語会話Ⅰ」(発音の基礎)を修得済みであることが望ましい。

・毎回声を出して練習してもらいますので、声を出せる環境を整えておくこと。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

パソコン、マイク

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点 (30%)：積極的に授業に参加し、声を出しているか、ノートをしっかりとっているか。

②課題など (40%)：授業で扱ったスキットを自力で読めているか。

③定期試験 (30%)：授業で扱った中国語を自分の言葉として表現できるか。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・課題などに対してコメント・評価をつけて返却します。

〔出席確認の方法〕

授業開始時に点呼。授業後に、授業中にとったノートの写真を提出。

〔基本的な授業の進め方〕

出欠の確認 (5分) →スキットの提示・前回の復習 (10分)

→スキットのピンイン・漢字の書き写し (20分) →発音練習・ポイント説明・意味の確認・関連語句の解説等 (40分)

→各自スキット発音練習 (15分)

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない】

〔教科書〕

なし (授業中にスライドを表示します)

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

木曜2限と3限の間の休み時間 (オンライン対応)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

出席確認の方法

中国語会話Ⅳ

FL411

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 後期

5【同時双方向型】

講義/1コマ

范文玲

【科目の概要および目的】

近年、中国からの旅行者や留学生は増え続け、至る所で中国語を耳にするようになりました。今後中国語のニーズは益々高くなるでしょう。本科目は、中国語の発音および基本的な文法の学習を終えた学生向けの実践会話コースであり、中国人とのコミュニケーションを図れるようになること、また、中国の文化・習慣・伝統・流行などに対する理解を深めることを目的とします。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・日常生活における中国語の簡単な会話が聞き取れる。
- ・日常生活において自分の考えを簡単な中国語で伝えることができる。
- ・中国語の簡単な文章を読んで理解することができる（日本語に訳すことができる）。

【授業形態】

5【同時双方向型】

【授業計画】

第1回 ガイダンス

授業の進め方の説明、成績評価方法の説明
事前/シラバス確認（10分）

第2回 「なんなら」の表現をマスター

スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習（90分）

第3回 「どおりで」の表現をマスター

スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習（90分）

第4回 「何だって？」の表現をマスター

スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習（90分）

第5回 「もういい」の表現をマスター

スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習（90分）

第6回 「なんてことだ」の表現をマスター

スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習（90分）

第7回 「本当に？」の表現をマスター

スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習（90分）

第8回 「そんなわけがない」の表現をマスター

スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習（90分）

第9回 「まったくもう」の表現をマスター

スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習（90分）

第10回 「約束だよ」の表現をマスター

スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習（90分）

第11回 「きりがない」の表現をマスター

スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習（90分）

第12回 「がんばれ」の表現をマスター

スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習（90分）

第13回 「心ここにあらず」の表現をマスター

スキット文の発音指導、文法事項の説明、意味の確認、漢字・関連語句の解説
事後/復習、音読練習（90分）

第14回 総復習

これまでのスキットの総復習
事後/定期試験準備（120分）

第15回 後期のまとめ、定期試験

前期のまとめ、定期試験
事前/定期試験準備（120分）

【アクティブラーニング】

1回：— / 2回：B /

3回：B / 4回：B /

5回：B / 6回：B /

7回：B / 8回：B /

9回：B / 10回：B /

11回：B / 12回：B /

13回：B / 14回：B /

15回：—

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

※注 中国語を母語とする学生は履修できません。

・「中国語会話Ⅰ」（発音の基礎）を修得済みであることが望ましい。

・毎回声を出して練習してもらいますので、声を出せる環境を整えておくこと。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

パソコン、マイク

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点（30%）：積極的に授業に参加し、声を出しているか、ノートをしっかりとしているか。

②課題など（40%）：授業で扱ったスキットを自力で読めているか。

③定期試験（30%）：授業で扱った中国語を自分の言葉として表現できるか。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・課題などに対してコメント・評価をつけて返却します。

〔出席確認の方法〕

授業開始時に点呼。授業後に、授業中にとったノートの写真を提出。

〔基本的な授業の進め方〕

出欠の確認（5分）→スキットの提示・前回の復習（10分）→スキットのピンイン・漢字の書き写し（20分）→発音練習・ポイント説明・意味の確認・関連語句の解説等（40分）→各自スキット発音練習（15分）

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない】

〔教科書〕

なし（授業中にスライドを表示します）

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

木曜2限と3限の間の休み時間（オンライン対応）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

出席確認の方法

ビジネス中国語 I

FL312

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

范文玲

〔科目の概要および目的〕

日本企業の中国進出に伴い、日本社員の中国駐在や出張、中国側との取引など、ビジネスにおいて中国語が必要なシーンはたくさんあり、企業でも中国語スキルのある人材を高く評価するようになってきました。本科目は、ビジネスシーンに特化した中国語会話の授業です。様々なビジネスシーンにおいて、中国語である程度コミュニケーションがとれるようになることを目的とします。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・ビジネス用語を習得する。
- ・ビジネスシーンにおける中国語の簡単な会話が聞き取れる。

・ビジネスシーンにおいて自分の考えを簡単な中国語で伝えることができる。

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

授業の進め方の説明、成績評価方法の説明
事前/シラバス確認（10分）

第 2 回 自己紹介・名刺交換（1）発音練習および関連用語

スキット文の発音指導、漢字・語彙・関連語句の解説、意味の確認
事後/復習（90分）

第 3 回 自己紹介・名刺交換（2）会話練習

スキット文の発音指導、会話練習の指導
事後/復習（90分）

第 4 回 自己紹介・名刺交換（3）会話実践

会話実践の指導
事後/復習（90分）

第 5 回 電話対応（1）発音練習および関連用語

スキット文の発音指導、漢字・語彙・関連語句の解説、意味の確認
事後/復習（90分）

第 6 回 電話対応（2）会話練習

スキット文の発音指導、会話練習の指導
事後/復習（90分）

第 7 回 電話対応（3）会話実践

会話実践の指導
事後/復習（90分）

第 8 回 お店の予約（1）発音練習および関連用語

スキット文の発音指導、漢字・語彙・関連語句の解説、意味の確認
事後/復習（90分）

第 9 回 お店の予約（2）会話練習

スキット文の発音指導、会話練習の指導
事後/復習（90分）

第 10 回 お店の予約（3）会話実践

会話実践の指導
事後/復習（90分）

第 11 回 会食（1）発音練習および関連用語

スキット文の発音指導、漢字・語彙・関連語句の解説、意味の確認
事後/復習（90分）

第 12 回 会食（2）会話練習

スキット文の発音指導、会話練習の指導
事後/復習（90分）

第 13 回 会食（3）会話実践

会話実践の指導
事後/復習（90分）

第 14 回 総復習

これまでのスキットの総復習
事後/定期試験準備（120分）

第 15 回 前期のまとめ、定期試験

前期の復習・まとめ、定期試験

事前/定期試験準備 (120分)

【アクティブラーニング】

1回：— / 2回：B /

3回：B / 4回：B /

5回：B / 6回：B /

7回：B / 8回：B /

9回：B / 10回：B /

11回：B / 12回：B /

13回：B / 14回：B /

15回：—

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

※注 中国語を母語とする学生は履修できません。

・この科目は「中国語会話Ⅰ～Ⅳ」を履修済みの方向けの科目である。少なくとも、「中国語会話Ⅰ」（発音の基礎）を修得済みであることが望ましい。

・毎回声を出して練習してもらいますので、声を出せる環境を整えておくこと。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

パソコン、マイク

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点 (30%)：積極的に授業に参加し、声を出しているか、ノートをしっかりとっているか。

②課題など (40%)：授業で扱ったスキットを自力で読んでいるか。

③定期試験 (30%)：授業で扱った中国語を自分の言葉として表現できるか。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

課題などに対してコメント・評価をつけて返却します。

【出席確認の方法】

授業開始時に点呼。また、授業後に授業中にとったノートの写真を提出。

【基本的な授業の進め方】

出欠確認・復習 (10分) → 解説・発音指導・発音練習等 (80分)

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：△

2. 表現力：○

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：—

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

なし (授業中にスライドを表示します)

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

木曜2限と3限の間の休み時間 (オンライン対応)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)、授業計画：テーマ・内容

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法

ビジネス中国語Ⅱ

FL412

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

范文玲

【科目の概要および目的】

日本企業の中国進出に伴い、日本人社員の中国駐在や出張、中国側との取引など、ビジネスにおいて中国語が必要なシーンはたくさんあり、企業でも中国語スキルのある人材を高く評価するようになってきました。本科目は、ビジネスシーンに特化した中国語会話の授業です。様々なビジネスシーンにおいて、中国語である程度コミュニケーションがとれるようになることを目的とします。

【到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)】

- ・ビジネス用語を習得する。
- ・ビジネスシーンにおける中国語の簡単な会話が聞き取れる。
- ・ビジネスシーンにおいて自分の考えを簡単な中国語で伝えることが出来る。

【授業形態】

5 【同時双方向型】

【授業計画】

第 1 回 ガイダンス

授業の進め方の説明、成績評価方法の説明

事前/シラバス確認 (10分)

第 2 回 会議 (1) 会話練習および関連用語

スキット文の発音指導、漢字・語彙・関連語句の解説、意味の確認

事後/復習 (90分)

第 3 回 会議 (2) 会話練習

スキット文の発音指導、会話練習の指導

事後/復習 (90分)

第 4 回 会議 (3) 会話実践

会話実践の指導

事後/復習 (90分)

第 5 回 クレーム対応 (1) 会話練習および関連用語

スキット文の発音指導、漢字・語彙・関連語句の解説、意味の確認

事後/復習 (90分)

第 6 回 クレーム対応 (2) 会話練習

- スキット文の発音指導、会話練習の指導
事後/復習 (90分)
- 第 7 回 クレーム対応 (3) 会話実践
会話実践の指導
事後/復習 (90分)
- 第 8 回 休暇申請 (1) 会話練習および関連用語
スキット文の発音指導、漢字・語彙・関連語句の
解説、意味の確認
事後/復習 (90分)
- 第 9 回 休暇申請 (2) 会話練習
スキット文の発音指導、会話練習の指導
事後/復習 (90分)
- 第 10 回 休暇申請 (3) 会話実践
会話実践の指導
事後/復習 (90分)
- 第 11 回 商談 (1) 会話練習および関連用語
スキット文の発音指導、漢字・語彙・関連語句の
解説、意味の確認
事後/復習 (90分)
- 第 12 回 商談 (2) 会話練習
スキット文の発音指導、会話練習の指導
事後/復習 (90分)
- 第 13 回 商談 (3) 会話実践
会話実践の指導
事後/復習 (90分)
- 第 14 回 総復習
これまでのスキットの総復習
事後/定期試験準備 (120分)
- 第 15 回 後期のまとめ、定期試験
前期の復習・まとめ、定期試験
事前/定期試験準備 (120分)

【アクティブラーニング】

- 1回：— / 2回：B /
3回：B / 4回：B /
5回：B / 6回：B /
7回：B / 8回：B /
9回：B / 10回：B /
11回：B / 12回：B /
13回：B / 14回：B /
15回：—

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

※注 中国語を母語とする学生は履修できません。

・この科目は「中国語会話Ⅰ～Ⅳ」を履修済みの方向けの科目である。少なくとも、「中国語会話Ⅰ」（発音の基礎）を修得済みであることが望ましい。

・毎回声を出して練習してもらいますので、声を出せる環境を整えておくこと。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

パソコン、マイク

【成績評価方法 ・評価割合・評価基準】

①平常点 (30%)：積極的に授業に参加し、声を出しているか、ノートをしっかりとしているか。

②課題など (40%)：授業で扱ったスキットを自力で読めているか。

③定期試験 (30%)：授業で扱った中国語を自分の言葉として表現できるか。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

課題などに対してコメント・評価をつけて返却します。

【出席確認の方法】

授業開始時に点呼。また、授業後に授業中にとったノートの写真を提出。

【基本的な授業の進め方】

出欠確認・復習 (10分) → 解説・発音指導・発音練習等 (80分)

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし (授業中にスライドを表示します)

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

木曜2限と3限の間の休み時間 (オンライン対応)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)、授業計画：テーマ・内容

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法

ドイツ語Ⅰ

FL113

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

中川 明博

【科目の概要および目的】

初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。発音のルールからはじめて、文のしくみを理解し、場面ごとの表現をマスターすることを通じて、徐々にドイツ語の基礎力をつけていきます。あいさつ、自己紹介、職業名、趣味の表現などの、かんたんな会話にもチャレンジしていきます。またドイツ語圏の人々の生活・文化なども紹介します。ドイツ

語検定にトライすることもおすすめします。楽しく学んでいきましょう。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・ドイツ語を正しく発音できる。
- ・文法の知識をつける。
- ・かんたんな会話ができる。
- ・ドイツ語圏の文化について理解を深める。

【授業形態】

5【同時双方向型】

【授業計画】

- 第 1 回 ガイダンス
授業の概要、授業の進め方、受講の心得などについて説明する。
事前/シラバスを読む(0.5時間)
事後/受講の仕方の確認(0.5時間)
- 第 2 回 発音(1)
アルファベット
事前/教科書の予習(0.5時間)
事後/課題を解く(0.5時間)
- 第 3 回 発音(2)
注意すべき母音の発音、あいさつ(1)
事前/教科書の予習(0.5時間)
事後/課題を解く(0.5時間)
- 第 4 回 発音(3)
注意すべき子音の発音(1)、あいさつ(2)
事前/教科書の予習(0.5時間)
事後/課題を解く(0.5時間)
- 第 5 回 発音(4)
注意すべき子音の発音(2)
事前/教科書の予習(0.5時間)
事後/課題を解く(0.5時間)
- 第 6 回 語彙と発音
曜日、四季、月、数詞
事前/教科書の予習(0.5時間)
事後/課題を解く(0.5時間)
- 第 7 回 1 課(1)
人称代名詞、動詞の現在人称変化
事前/教科書の予習(0.5時間)
事後/課題を解く(0.5時間)
- 第 8 回 1 課(2)
sein, habenの現在人称変化
事前/教科書の予習(0.5時間)
事後/課題を解く(0.5時間)
- 第 9 回 1 課(3)
sein, habenの現在人称変化の復習、語順
事前/教科書の予習(0.5時間)
事後/課題を解く(0.5時間)
- 第 10 回 1 課(4)
Dialog（自己紹介）
事前/教科書の予習(0.5時間)
事後/課題を解く(0.5時間)
- 第 11 回 2 課(1)

名詞の姓と格、定冠詞+名詞の格変化

事前/教科書の予習(0.5時間)

事後/課題を解く(0.5時間)

第 12 回 2 課(2)

不定冠詞+名詞の格変化

事前/教科書の予習(0.5時間)

事後/課題を解く(0.5時間)

第 13 回 2 課(3)

名詞の格変化の復習

事前/教科書の予習(0.5時間)

事後/課題を解く(0.5時間)

第 14 回 2 課(4)

疑問代名詞、並列の接続詞

事前/教科書の予習(0.5時間)

事後/課題を解く(0.5時間)

第 15 回 2 課(5)

Dialog（職業は何ですか）

事前/教科書の予習(0.5時間)

事後/課題を解く(0.5時間)

【アクティブラーニング】

1回：— / 2回：— /

3回：— / 4回：— /

5回：— / 6回：— /

7回：— / 8回：— /

9回：— / 10回：D /

11回：— / 12回：— /

13回：— / 14回：— /

15回：D

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

※注 ドイツ語を母国語とする学生は履修できません。
ドイツ語に限らず、外国語を学ぶときには、よく聞き、しっかり発音することが不可欠です。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

Microsoft Teamsを使用できるPC

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①課題（80%）：各課の内容（発音・会話・文法事項など）の理解度、締切が守られているかを評価する

②平常点（20%）：授業マナーを守り、積極的に授業に参加しているかを評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

課題の結果について授業で全体にコメントします。

【出席確認の方法】

指定のタイミングでチャットを利用します。

【基本的な授業の進め方】

・授業説明:5分

・その日の講義 1 :説明20分 → 確認問題を解く : 10分 → 解説10分

・その日の講義 2 :説明20分 → 確認問題を解く : 10分 → 解説10分

・授業の振り返りと課題説明: 5分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

プリント配布

〔参考文献〕

必要に応じて授業内で適宜紹介します。

〔オフィスアワー〕

Microsoft Teamsのチャットを利用します。

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

ドイツ語Ⅱ

FL213

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

中川 明博

〔科目の概要および目的〕

ドイツ語Iで学んだ内容をベースに、さらに歩みを進めていきます。まずは復習からはじめて、各課の表現と文法をしっかりと理解し、ボキャブラリーを増やしながらドイツ語の基礎力をつけることをめざします。ドイツ語Iと同様に、かんたんな会話にもチャレンジします。またドイツ語圏の人々の生活・文化などについての理解も深めていきます。ドイツ語検定で力試しをすることもお勧めします。楽しく学んでいきましょう。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・ドイツ語を正しく発音できる。
- ・文法の知識をつける。
- ・かんたんな会話ができる。
- ・ドイツ語圏の文化について理解を深める。

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

授業の概要、授業の進め方、受講の心得などについて説明する。

事前/シラバスを読んでおく(0.5時間)

事後/受講の仕方を整理する(0.5時間)

第 2 回 あいさつ

挨拶の復習

事前/教科書の予習(0.5時間)

事後/課題を解く(0.5時間)

第 3 回 1 課の復習

人称代名詞、sein, habenの現在人称変化の復習

事前/教科書の予習(0.5時間)

事後/課題を解く(0.5時間)

第 4 回 2 課の復習

名詞の姓・格変化の復習

事前/教科書の予習(0.5時間)

事後/課題を解く(0.5時間)

第 5 回 3 課 (1)

不規則動詞の現在人称変化

事前/教科書の予習(0.5時間)

事後/課題を解く(0.5時間)

第 6 回 3 課 (2)

命令形

事前/教科書の予習(0.5時間)

事後/課題を解く(0.5時間)

第 7 回 3 課 (3)

人称代名詞の3・4格

事前/教科書の予習(0.5時間)

事後/課題を解く(0.5時間)

第 8 回 3 課 (4)

3・4格の目的語の語順、非人称のes

事前/教科書の予習(0.5時間)

事後/課題を解く(0.5時間)

第 9 回 3 課 (5)

Dialog (趣味は何?)

事前/教科書の予習(0.5時間)

事後/課題を解く(0.5時間)

第 10 回 4 課 (1)

名詞の複数形

事前/教科書の予習(0.5時間)

事後/課題を解く(0.5時間)

第 11 回 4 課 (2)

定冠詞類

事前/教科書の予習(0.5時間)

事後/課題を解く(0.5時間)

第 12 回 4 課 (3)

不定冠詞類

事前/教科書の予習(0.5時間)

事後/課題を解く(0.5時間)

第 13 回 4 課 (4)

keinとnichtの使い方、否定疑問分

事前/教科書の予習(0.5時間)

事後/課題を解く(0.5時間)

第 14 回 4 課 (5)

Dialog (買い物)

事前/教科書の予習(0.5時間)

事後/課題を解く(0.5時間)

第 15 回 まとめ

授業の振り返りとドイツ語圏の文化についての説明

事前/教科書の予習(0.5時間)

事後/課題を解く(0.5時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：— /

3回：— / 4回：— /

5回：— / 6回：— /

7回：— / 8回：— /

9回：D / 10回：— /

11回：— / 12回：— /

13回：— / 14回：D /

15回：—

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

・「ドイツ語I」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

※注 ドイツ語を母国語とする学生は履修できません。

ドイツ語に限らず、外国語を学ぶときには、よく聞き、しっかり発音することが不可欠です。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

Microsoft Teamsを使用できるPC

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①課題(80%)：各課の内容(発音・会話・文法事項など)の理解度、締切が守られているかを評価する

②平常点(20%)：授業マナーを守り、積極的に授業に参加しているかを評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

課題の結果について授業で全体にコメントします。

〔出席確認の方法〕

指定のタイミングでチャットを利用します。

〔基本的な授業の進め方〕

・授業説明:5分

・その日の講義1:説明20分→確認問題を解く:10分→解説10分

・その日の講義2:説明20分→確認問題を解く:10分→解説10分

・授業の振り返りと課題説明:5分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力:△

2. 表現力:◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力:—

4. 課題発見力・課題解決力:—

5. コミュニケーション力:◎

6. 専門的知識・技能の活用力:○

【◎:特に関連が強い ○:関連が強い △:関連がある

—:関連していない】

〔教科書〕

プリント配布

〔参考文献〕

必要に応じて授業内で適宜紹介します

〔オフィスアワー〕

Microsoft Teamsのチャットを利用します。

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

フランス語 I

FL116

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 前期

6【対面型】

講義/1コマ

瀧本 みわ

〔科目の概要および目的〕

本授業は、フランス語初心者のための初級授業である。教科書を用いながら、初歩的な文法を習得し、フランスに旅行する際に必要最低限のコミュニケーション能力を培う。そのため、授業では、練習問題による文法の基礎を身につけた上で、旅先のシチュエーションや、友人たちとの会話を想定した表現を、講師やクラスメートと練習し、フランス語の実践力をつける。

〔到達目標(授業を通じて身につく能力・スキル)〕

・通年の授業を通して、フランス語の基礎的な文法を習得し、応用することができる。

・発音、会話、聞き取りの力を高め、初級文法を用いた短文の読み書きができる。

・旅先や友人たちとの会話で必要とされるフランス語の基礎表現を身につけ、実践することができる。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第1回 ガイダンス/第0課 フランス語のアルファベと発音、挨拶

授業の説明/フランス語のアルファベ、発音と挨拶を学ぶ

事後：授業の復習課題(1時間)

第2回 第0課 フランス語のアルファベと発音、挨拶
フランス語のアルファベ、発音と挨拶、数を学ぶ

事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認(1時間)

事後：授業の復習問題への取り組み(1時間)

第3回 第1課 自己紹介をしてみよう

動詞êtreと-er動詞の活用、基本的な自己紹介を学ぶ

事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認(1時間)

事後：授業の復習問題への取り組み(1時間)

第4回 第1課 自己紹介をしてみよう

動詞êtreと-er動詞の活用、基本的な自己紹介を学ぶ

- 事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認（1時間）
事後：授業の復習問題への取り組み（1時間）
- 第5回 第1課 自己紹介をしてみよう
動詞êtreと-er動詞の活用、基本的な自己紹介を学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認（1時間）
事後：授業の復習問題への取り組み（1時間）
- 第6回 第2課 国籍や言語について話そう
名詞の性と数、不定冠詞、疑問文、国籍と言語について話すことを学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認（1時間）
事後：授業の復習問題への取り組み（1時間）
- 第7回 第2課 国籍や言語について話そう
名詞の性と数、不定冠詞、疑問文、国籍と言語について話すことを学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認（1時間）
事後：授業の復習問題への取り組み（1時間）
- 第8回 第2課 国籍や言語について話そう
名詞の性と数、不定冠詞、疑問文、国籍と言語について話すことを学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認（1時間）
事後：授業の復習問題への取り組み（1時間）
- 第9回 第3課 身の回りのものについて話そう
名詞の性と数、数詞、定冠詞、身の回りのものを説明することを学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認（1時間）
事後：授業の復習問題への取り組み（1時間）
- 第10回 第3課 身の回りのものについて話そう
名詞の性と数、数詞、定冠詞、身の回りのものを説明することを学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認（1時間）
事後：授業の復習問題への取り組み（1時間）
- 第11回 第3課 身の回りのものについて話そう
名詞の性と数、数詞、定冠詞、身の回りのものを説明することを学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認（1時間）
事後：授業の復習問題への取り組み（1時間）
- 第12回 第4課 家族について話そう（1）
所有形容詞、動詞avoirとfaireの活用、家族の紹介の仕方を学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認（1時間）
事後：授業の復習問題への取り組み（1時間）
- 第13回 第4課 家族について話そう（1）
所有形容詞、動詞avoirとfaireの活用、家族の紹介の仕方を学ぶ

- 事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認（1時間）
事後：授業の復習問題への取り組み（1時間）
- 第14回 第4課 家族について話そう（1）
所有形容詞、動詞avoirとfaireの活用、家族の紹介の仕方を学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認（1時間）
事後：授業の復習問題への取り組み（1時間）、
期末試験のための復習（6時間以上）
- 第15回 前期のまとめ
前期で学んだ全課の文法と表現方法を復習する
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認（1時間）
事後：授業の復習問題への取り組み（1時間）、
期末試験のための復習（6時間以上）

〔アクティブラーニング〕

- 1回：F / 2回：F /
3回：F / 4回：F /
5回：F / 6回：F /
7回：F / 8回：F /
9回：F / 10回：F /
11回：F / 12回：F /
13回：F / 14回：F /
15回：F

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし。

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・外国語の習得は、復習と学習の継続が重要であるため、高い意識をもって履修すること。

- ・「フランス語II」と合わせて履修することが望ましい。
- ・フランス語の辞書をひき、意味や読み方を随時確認すること。

・授業で学んだことを復習する習慣をつけ、音声（教科書の音源）を聞きながら、発音練習をすること。

※注 フランス語を母国語とする学生は履修できません。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

ー

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点(20%)：授業への積極的な取り組みを評価する。
- ②毎回の復習課題(40%)：毎回の授業の理解度について評価する。
- ③期末試験（40%）：授業で学んだ文法と会話表現の習得を評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

毎回の授業後に復習を兼ねた小課題（筆記あるいは会話練習）を課す。そして翌週に、皆で答え合わせを行いながら、間違いやすい点など解説しながら復習を行う。

〔出席確認の方法〕

授業開始時に出席確認を行う。

〔基本的な授業の進め方〕

- ・小課題の答え合わせとフィードバック：20分
- ・その日に学ぶ文法や表現の説明：30分

- ・練習問題や会話の実践：30分
- ・その日に学んだ文法や表現のまとめ：10分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

『Mon petit cahier de français 私だけのフランス語ノート』 釣馨、武内英公子／朝日出版社／2020年/2200円+税

【参考文献】

授業内に適宜紹介

【オフィスアワー】

時間：出講日の授業前後30分

場所：授業実施教室または7F非常勤講師控室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、教科書、参考文献

フランス語Ⅱ

FL216

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目
1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 後期

6【対面型】

講義/1コマ

瀧本 みわ

【科目の概要および目的】

本授業は、フランス語初心者のための初級授業である。教科書を用いながら、初歩的な文法を習得し、フランスに旅行する際に必要最低限のコミュニケーション能力を培う。そのため、授業では、練習問題による文法の基礎を身につけた上で、旅先のシチュエーションや、友人たちとの会話を想定した表現を、講師やクラスメートと練習し、フランス語の実践力をつける。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・通年の授業を通して、フランス語の基礎的な文法を習得し、応用することができる。
- ・発音、会話、聞き取りの力を高め、初級文法を用いた短文の読み書きができる。
- ・旅先や友人たちとの会話で必要とされるフランス語の基礎表現を身につけ、実践することができる。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス/前期の復習
授業の説明/前期に学んだ文法と基礎表現を復習する
事後学習(授業の復習/1時間)
- 第2回 第5課 家族について話そう(2)
形容詞の性と数、疑問形容詞を学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認(1時間)
事後：授業の復習問題への取り組み(1時間)
- 第3回 第5課 家族について話そう(2)
形容詞の性と数、疑問形容詞を学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認(1時間)
事後：授業の復習問題への取り組み(1時間)
- 第4回 第5課 家族について話そう(2)
形容詞の性と数、疑問形容詞を学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認(1時間)
事後：授業の復習問題への取り組み(1時間)
- 第5回 第6課 好きなもの・好きなことについて話そう
-er動詞の活用、部分冠詞を学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認(1時間)
事後：授業の復習問題への取り組み(1時間)
- 第6回 第6課 好きなもの・好きなことについて話そう
-er動詞の活用、部分冠詞を学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認(1時間)
事後：授業の復習問題への取り組み(1時間)
- 第7回 第6課 好きなもの・好きなことについて話そう
-er動詞の活用、部分冠詞を学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認(1時間)
事後：授業の復習問題への取り組み(1時間)
- 第8回 第7課 食事について話そう
疑問文、指示形容詞を学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認(1時間)
事後：授業の復習問題への取り組み(1時間)
- 第9回 第7課 食事について話そう
疑問文、指示形容詞を学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認(1時間)
事後：授業の復習問題への取り組み(1時間)
- 第10回 第7課 食事について話そう
疑問文、指示形容詞を学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認(1時間)
事後：授業の復習問題への取り組み(1時間)
- 第11回 第8課 旅行に出かけよう

- 動詞allerの活用、前置詞àと定冠詞の縮約形、近未来を学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認（1時間）
事後：授業の復習問題への取り組み（1時間）
- 第12回 第8課 旅行に出かけよう
動詞allerの活用、前置詞àと定冠詞の縮約形、近未来を学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認（1時間）
事後：授業の復習問題への取り組み（1時間）
- 第13回 第8課 旅行に出かけよう
動詞allerの活用、前置詞àと定冠詞の縮約形、近未来を学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認（1時間）
事後：授業の復習問題への取り組み（1時間）
- 第14回 第8課 旅行に出かけよう
動詞allerの活用、前置詞àと定冠詞の縮約形、近未来を学ぶ
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認（1時間）
事後：授業の復習問題への取り組み（1時間）、
期末試験のための復習（6時間以上）
- 第15回 後期のまとめ
後期で学んだ全課の文法と表現方法を復習する
事前：前回の授業で講師が指定したページの意味調べと発音の確認（1時間）
事後：授業の復習問題への取り組み（1時間）、
期末試験のための復習（6時間以上）

【アクティブラーニング】

- 1回：F / 2回：F /
3回：F / 4回：F /
5回：F / 6回：F /
7回：F / 8回：F /
9回：F / 10回：F /
11回：F / 12回：F /
13回：F / 14回：F /
15回：F

【事前に修得しておく必要のある科目】

フランス語Iを履修済み、あるいは同等のレベルを有していること。フランス語Iを履修していない場合は、第1回授業後に講師と面談してレベルを確認する。

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・外国語の習得は、復習と学習の継続が重要であるため、高い意識をもって履修すること。
- ・フランス語Iを履修済み、あるいは同等のレベルを有していること。
- ・フランス語の辞書をひき、意味や読み方を随時確認すること。
- ・授業で学んだことを復習する習慣をつけ、音声（教科書の音源）を聞きながら、発音練習をすること。

※注 フランス語を母国語とする学生は履修できません。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点(20%)：授業への積極的な取り組みを評価する。
- ②毎回の復習課題(40%)：毎回の授業の理解度について評価する。
- ③期末試験(40%)：授業で学んだ文法と会話表現の習得を評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

毎回の授業後に復習を兼ねた小課題（筆記あるいは会話練習）を課す。そして翌週に、皆で答え合わせを行いながら、間違いやすい点など解説しながら復習を行う。

【出席確認の方法】

授業開始時に出席確認を行う。

【基本的な授業の進め方】

- ・小課題の答え合わせとフィードバック：20分
- ・その日に学ぶ文法や表現の説明：30分
- ・練習問題や会話の実践：30分
- ・その日に学んだ文法や表現のまとめ：10分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

『Mon petit cahier de français 私だけのフランス語ノート』釣馨、武内英公子／朝日出版社／2020年/2200円+税

【参考文献】

授業内で紹介

【オフィスアワー】

時間：出講日の授業前後30分

場所：授業実施教室または7F非常勤講師控室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：事前・事後学習、成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

イタリア語 I

FL117

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

吉澤 早苗

〔科目の概要および目的〕

イタリア語のもっとも基本的なしくみを学ぶ。イタリア語に初めて触れる学生が対象。アルファベットと発音の練習からはじめ、初級文法の学習を中心としながら、よく使う挨拶など日常のコミュニケーションに必要な語彙や表現を身につけてゆく。語学を通じ、イタリアの社会や文化についても関心を広げてゆきたい。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

本学のディプロマ・ポリシー（とくに表現力、コミュニケーション力、専門的知識の活用力の養成）にもとづき、以下を主な到達目標とする。

- ・イタリア語のアルファベットと発音、名詞、冠詞、形容詞、動詞の用法を理解することができる。
- ・簡単な単語を使って基本的な挨拶や自己紹介することができる。
- ・イタリアの社会や文化についての知識を深める。

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション／イタリア語の文字と発音 (1)

- ・オリエンテーション

授業に関する概要説明

- ・イタリア語の文字と発音 (1)

イタリア語のアルファベット

事前/教科書に目を通し、付属の音声教材を試聴 (1.5時間)

事後/授業の復習(2.5時間)

第 2 回 イタリア語の文字と発音 (2)

イタリア語の発音

事前/教科書に目を通し、付属の音声教材を試聴 (1.5時間)

事後/授業の復習(2.5時間)

第 3 回 教科書 Unità 1 (1)

名詞と形容詞 (pp.6-9)

事前/Unità 1 の単語の意味と発音を確認(1.5時間)

事後/授業の復習とUnità 1 の練習問題を行う(2.5時間)

第 4 回 教科書 Unità 1 (2)

名詞と形容詞 (pp.10-13)

事前/Unità 1 の単語の意味と発音を確認(1.5時

間)

事後/授業の復習とUnità 1 の練習問題を行う(2.5時間)

第 5 回 教科書 Unità 2 (1)

essereとavere (pp.14-19)

事前/Unità 2 の単語の意味と発音を確認(1.5時間)

事後/授業の復習とUnità 2 の練習問題を行う(2.5時間)

第 6 回 教科書 Unità 2 (2)

essereとavere (pp.18-23)

事前/Unità 2 の単語の意味と発音を確認(1.5時間)

事後/授業の復習とUnità 2 の練習問題を行う(2.5時間)

第 7 回 教科書 Unità 3 (1)

are動詞 (pp.24-27)

事前/Unità 3 の単語の意味と発音を確認(1.5時間)

事後/授業の復習とUnità 3 の練習問題を行う(2.5時間)

第 8 回 教科書 Unità 3 (2)

are動詞 (pp.28-31)

事前/Unità 3 の単語の意味と発音を確認(1.5時間)

事後/授業の復習とUnità 3 の練習問題を行う(2.5時間)

第 9 回 教科書 Unità 4 (1)

are動詞・ere動詞・ire動詞 (pp.32-35)

事前/Unità 4 の単語の意味と発音を確認(1.5時間)

事後/授業の復習とUnità 4 の練習問題を行う(2.5時間)

第 10 回 教科書 Unità 4 (2)

are動詞・ere動詞・ire動詞 (pp.36-39)

事前/Unità 4 の単語の意味と発音を確認(1.5時間)

事後/授業の復習とUnità 4 の練習問題を行う(2.5時間)

第 11 回 教科書 Unità 5 (1)

piacere (pp.40-43)

事前/Unità 5 の単語の意味と発音を確認(1.5時間)

事後/授業の復習とUnità 5 の練習問題を行う(2.5時間)

第 12 回 教科書 Unità 5 (2)

piacere (pp.44-47)

事前/Unità 5 の単語の意味と発音を確認(1.5時間)

事後/授業の復習とUnità 5 の練習問題を行う(2.5時間)

第 13 回 教科書 Unità 6 (1)

再帰動詞・不規則動詞 (pp.48-53)

事前/Unità 6 の単語の意味と発音を確認(1.5時間)
事後/授業の復習とUnità 6 の練習問題を行う(2.5時間)

第 14 回 教科書 Unità 6 (2)

再帰動詞・不規則動詞 (pp.52-57)

事前/Unità 6 の単語の意味と発音を確認(1.5時間)
事後/授業の復習とUnità 6 の練習問題を行う(2.5時間)

第 15 回 まとめ

Unità 1-6の総まとめ

事前/Unità 1-6の総復習(1.5時間)

事後/授業の復習(2.5時間)

【アクティブラーニング】

1回：F / 2回：F /

3回：F / 4回：F /

5回：F / 6回：F /

7回：F / 8回：F /

9回：F / 10回：F /

11回：F / 12回：F /

13回：F / 14回：F /

15回：F

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

※イタリア語を母語とする学生は履修できません。

イタリア語の初学者が対象となります。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

テキストを表示するので、文字の読みやすい大きな画面をもつ機器 (PC) の利用が望ましい。

Microsoft Teamsは必須。

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

評価方法：主に毎回の提出課題により評価する (すべての課題を提出することが成績評価の前提となる)。

評価割合：平常点 (課題への取り組み姿勢) (10%) + 提出課題の成績 (90%)

評価基準：イタリア語のアルファベットと発音、および教科書Unità 1-6の単語や文法、表現の理解度ををはかる。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

毎回提示する課題については、原則的に当日の授業で解説を行う。

【出席確認の方法】

Microsoft Teamsの機能 (「出席者リスト」) および提出課題により確認。

【基本的な授業の進め方】

Microsoft Teamsを利用したライブ授業

①出席確認、授業概要説明 [5分]

② (ライブ講義+課題演習+解説) ×2セット程度 [75分]

③授業連絡、質疑応答等 [10分]

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：—

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：○

4. 課題発見力・課題解決力：—

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

『Un piatto d'italiano イタリア語ひとさら 改訂版』 遠藤礼子 白水社 2,592円

【参考文献】

辞書等の参考文献については授業時に紹介する。

【オフィスアワー】

毎回、授業中に質疑応答時間を設けるので、原則的にこちらを利用すること (Microsoft Teamsの音声通話やチャットを利用)。

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

事前に修得しておく必要のある科目、基本的な授業の進め方、オフィスアワー

イタリア語Ⅱ

FL217

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

吉澤 早苗

【科目の概要および目的】

イタリア語のもっとも基本的なしくみを学ぶ。「イタリア語Ⅰ」(前期)の続き。動詞の用法を中心に初級文法の学習を進めながら、日常のコミュニケーションに必要な語彙や表現を身につけてゆく。語学を通じ、イタリアの社会や文化についても関心を広げてゆきたい。

【到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)】

本学のディプロマ・ポリシー (とくに表現力、コミュニケーション力、専門的知識の活用力の養成) にもとづき、以下を主な到達目標とする。

- ・過去や未来の時制をはじめ、動詞の用法についての理解を深める。

- ・簡単な単語を使った日常の会話表現を身につける。

- ・イタリアの社会や文化についての知識を深める。

【授業形態】

5 【同時双方向型】

【授業計画】

第 1 回 オリエンテーション/教科書 Unità 1-3

- ・オリエンテーション
授業に関する概要説明
・教科書Unità 1-3
Unità 1-3の復習
- 事前/Unità 1-3の復習(1.5時間)
事後/授業の復習(2.5時間)
- 第 2 回 教科書 Unità 4-6
Unità 4-6の復習
- 事前/Unità 4-6の復習(1.5時間)
事後/授業の復習(2.5時間)
- 第 3 回 教科書 Unità 7 (1)
補助動詞 (pp.58-61)
- 事前/Unità 7の単語の意味と発音を確認(1.5時間)
事後/授業の復習とUnità 7の練習問題を行う(2.5時間)
- 第 4 回 教科書 Unità 7 (2)
補助動詞 (pp.62-65)
- 事前/Unità 7の単語の意味と発音を確認(1.5時間)
事後/授業の復習とUnità 7の練習問題を行う(2.5時間)
- 第 5 回 教科書 Unità 8 (1)
近過去 (pp.66-67)
- 事前/Unità 8の単語の意味と発音を確認(1.5時間)
事後/授業の復習とUnità 8の練習問題を行う(2.5時間)
- 第 6 回 教科書 Unità 8 (2)
近過去 (pp.68-69)
- 事前/Unità 8の単語の意味と発音を確認(1.5時間)
事後/授業の復習とUnità 8の練習問題を行う(2.5時間)
- 第 7 回 教科書 Unità 8 (3)
近過去 (pp.70-73)
- 事前/Unità 8の単語の意味と発音を確認(1.5時間)
事後/授業の復習とUnità 8の練習問題を行う(2.5時間)
- 第 8 回 教科書 Unità 9 (1)
半過去 (pp.74-75)
- 事前/Unità 9の単語の意味と発音を確認(1.5時間)
事後/授業の復習とUnità 9の練習問題を行う(2.5時間)
- 第 9 回 教科書 Unità 9 (2)
半過去 (pp.76-79)
- 事前/Unità 9の単語の意味と発音を確認(1.5時間)
事後/授業の復習とUnità 9の練習問題を行う(2.5時間)

- 第 10 回 教科書 Unità 10 (1)
未来 (pp.80-81)
- 事前/Unità 10の単語の意味と発音を確認(1.5時間)
事後/授業の復習とUnità 10の練習問題を行う(2.5時間)
- 第 11 回 教科書 Unità 10 (2)
未来 (pp.82-85)
- 事前/Unità 10の単語の意味と発音を確認(1.5時間)
事後/授業の復習とUnità 10の練習問題を行う(2.5時間)
- 第 12 回 教科書 Unità 11 (1)
命令法 (pp.86-87)
- 事前/Unità 11の単語の意味と発音を確認(1.5時間)
事後/授業の復習とUnità 11の練習問題を行う(2.5時間)
- 第 13 回 教科書 Unità 11 (2)
命令法 (pp.88-91)
- 事前/Unità 11の単語の意味と発音を確認(1.5時間)
事後/授業の復習とUnità 11の練習問題を行う(2.5時間)
- 第 14 回 イタリアの社会・文化
イタリアの社会・文化をイタリア語で学ぶ
- 事前/Unità 7-11の総復習(1.5時間)
事後/授業の復習(2.5時間)
- 第 15 回 まとめ
Unità 7-11の総まとめ
- 事前/Unità 7-11の総復習(1.5時間)
事後/授業の復習(2.5時間)

【アクティブラーニング】

- 1回：F / 2回：F /
- 3回：F / 4回：F /
- 5回：F / 6回：F /
- 7回：F / 8回：F /
- 9回：F / 10回：F /
- 11回：F / 12回：F /
- 13回：F / 14回：F /
- 15回：F

【事前に修得しておく必要のある科目】

「イタリア語Ⅰ」

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

※イタリア語を母語とする学生は履修できません。

イタリア語の初学者が対象となります。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

テキストを表示するので、文字の読みやすい大きな画面をもつ機器（PC）の利用が望ましい。

Microsoft Teamsは必須。

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

評価方法：主に毎回の提出課題により評価する（すべての課題を提出することが成績評価の前提となる）。

評価割合：平常点（課題への取り組み姿勢）（10%）＋提出課題の成績（90%）

評価基準：教科書Unità 7-11の単語や文法、表現の理解度をはかる。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

毎回提示する課題については、原則的に当日の授業で解説を行う。

〔出席確認の方法〕

Microsoft Teamsの機能（「出席者リスト」）および提出課題により確認。

〔基本的な授業の進め方〕

Microsoft Teamsを利用したライブ講義

①出席確認、授業概要説明 [5分]

②（ライブ講義＋課題演習＋解説）×2セット程度 [75分]

③授業連絡、質疑応答等 [10分]

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：－

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：○

4. 課題発見力・課題解決力：－

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

－：関連していない】

〔教科書〕

『Un piatto d' italiano イタリア語ひとさら 改訂版』 遠藤礼子 白水社 2,592円

〔参考文献〕

辞書等の参考文献については授業時に紹介する。

〔オフィスアワー〕

毎回、授業中に質疑応答時間を設けるので、原則的にこちらを利用すること（Microsoft Teamsの音声通話やチャットを利用）。

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、基本的な授業の進め方、オフィスアワー

日本語 I

FL115

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

1単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

アドゥアヨム・アヘゴ 希佳子

〔科目の概要および目的〕

本授業では、エッセイ、論説文、小説など様々なジャンルの文章を読み、日本語能力試験N1レベルの読解力をつけることを目的としています。また、テーマについて考え、クラスメイトと話し合ったり、作文を書くなどして、表現力も身に付けます。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

・様々なジャンルの文章を読んで内容を把握することができる。

・読んだ内容について主体的に考え、他者に意見を伝えることができる。

・テーマに関する自分の意見を、N1レベルの語彙や表現を使って書くことができる。

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

授業のやり方や到達目標を知る。クラスメイトについて知る。

事前/シラバスを読む（30分）

事後/なし

第 2 回 01 漫画・アニメ

読み物1を読んで理解する。

事前/読み物1の予習（45分）

事後/読み物1の復習（45分）

第 3 回 01 漫画・アニメ

読み物2を読んで理解する。

事前/読み物2の予習（45分）

事後/読み物2の復習（45分）

第 4 回 01 漫画・アニメ

作文を書く

事前/作文の内容を考える（45分）

事後/作文の修正（45分）

第 5 回 02 恋×AI＝？

読み物1を読んで理解する。

事前/読み物1の予習（45分）

事後/読み物1の復習（45分）

第 6 回 02 恋×AI＝？

読み物2を読んで理解する。

事前/読み物2の予習（45分）

事後/読み物2の復習（45分）

第 7 回 03 見る脳、聞く脳

読み物1を読んで理解する。

事前/読み物1の予習（45分）

事後/読み物1の復習（45分）

- 第 8 回 03 見る脳、聞く脳
読み物 2 を読んで理解する。
事前/読み物 2 の予習 (45分)
事後/読み物 2 の復習 (45分)
- 第 9 回 03 見る脳、聞く脳
作文を書く
事前/作文の内容を考える (45分)
事後/作文の修正 (45分)
- 第 10 回 04 外来生物の今
読み物 1 を読んで理解する。
事前/読み物 1 の予習 (45分)
事後/読み物 1 の復習 (45分)
- 第 11 回 04 外来生物の今
読み物 2 を読んで理解する。
事前/読み物 2 の予習 (45分)
事後/読み物 2 の復習 (45分)
- 第 12 回 05 日本人と宗教
読み物 1 を読んで理解する。
事前/読み物 1 の予習 (45分)
事後/読み物 1 の復習 (45分)
- 第 13 回 05 日本人と宗教
読み物 2 を読んで理解する。
事前/読み物 2 の予習 (45分)
事後/読み物 2 の復習 (45分)
- 第 14 回 05 日本人と宗教
作文を書く
事前/作文の内容を考える (45分)
事後/作文の修正 (45分)
- 第 15 回 まとめ
今学期の総まとめ
事前/今学期の内容を振り返る (45分)
事後/今学期の内容を振り返る (45分)

【アクティブラーニング】

- 1回：B / 2回：B /
3回：B / 4回：B /
5回：B / 6回：B /
7回：B / 8回：B /
9回：B / 10回：B /
11回：B / 12回：B /
13回：B / 14回：B /
15回：B

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

※日本語を母語とする学生は履修できません。日本語学習者のための科目です。

※グループワークをしますので、基本的にカメラはONにしてください。

※履修者の日本語能力やニーズに合わせ、授業進度や内容を調整する可能性があります。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

PC

Zoom

マイク、カメラ

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①テスト50%：読解力を評価する。
②課題40%：作文を評価する。
③平常点10%：授業中の参加態度を評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

授業で説明する。

【出席確認の方法】

授業開始時に点呼により出欠確認を行う。

【基本的な授業の進め方】

- 5分 出欠確認
40分 文章読解
20分 問題と解説
20分 意見交換
5分 振り返り

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：○
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

『日本語学習者のための読解厳選テーマ10 [上級]』清水正幸、凡人社、2200円

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応、教科書、参考文献、オフィスアワー

日本語Ⅱ

FL215

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

5【同時双方向型】

講義/1コマ

アドゥアヨム・アヘゴ 希佳子

【科目の概要および目的】

本授業では、エッセイ、論説文、小説など様々なジャンルの文章を読み、日本語能力試験N1レベルの読解力をつけることを目的としています。また、テーマについて考え、クラスメイトと話し合ったり、作文を書くなどして、表現力も身に付けます。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・様々なジャンルの文章を読んで内容を把握することができる。
- ・読んだ内容について主体的に考え、他者に意見を伝えることができる。
- ・テーマに関する自分の意見を、N1レベルの語彙や表現を使って書くことができる。

【授業形態】

5【同時双方向型】

【授業計画】

第1回 ガイダンス

授業のやり方や到達目標を知る。

事前/シラバスを読む(30分)

事後/なし

第2回 06 お花見

読み物1を読んで理解する。

事前/読み物1の予習(45分)

事後/読み物1の復習(45分)

第3回 06 お花見

読み物2を読んで理解する。

事前/読み物2の予習(45分)

事後/読み物2の復習(45分)

第4回 06 お花見

作文を書く

事前/作文の内容を考える(45分)

事後/作文を修正する(45分)

第5回 07 富士山

読み物1を読んで理解する。

事前/読み物1の予習(45分)

事後/読み物1の復習(45分)

第6回 07 富士山

読み物2を読んで理解する。

事前/読み物2の予習(45分)

事後/読み物2の復習(45分)

第7回 08 今、学校で起きていること

読み物1を読んで理解する。

事前/読み物1の予習(45分)

事後/読み物1の復習(45分)

第8回 08 今、学校で起きていること

読み物2を読んで理解する。

事前/読み物2の予習(45分)

事後/読み物2の復習(45分)

第9回 08 今、学校で起きていること

作文を書く

事前/作文の内容を考える(45分)

事後/作文を修正する(45分)

第10回 09 夫婦別姓をめぐる

読み物1を読んで理解する。

事前/読み物1の予習(45分)

事後/読み物1の復習(45分)

第11回 09 夫婦別姓をめぐる

読み物2を読んで理解する。

事前/読み物2の予習(45分)

事後/読み物2の復習(45分)

第12回 10 人生の終わり

読み物1を読んで理解する。

事前/読み物1の予習(45分)

事後/読み物1の復習(45分)

第13回 10 人生の終わり

読み物2を読んで理解する。

事前/読み物2の予習(45分)

事後/読み物2の復習(45分)

第14回 10 人生の終わり

作文を書く

事前/作文の内容を考える(45分)

事後/作文を修正する(45分)

第15回 総まとめ

今学期の振り返り

事前/今学期の授業を振り返る(45分)

事後/今学期の授業を振り返る(45分)

【アクティブラーニング】

1回：B / 2回：B /

3回：B / 4回：B /

5回：B / 6回：B /

7回：B / 8回：B /

9回：B / 10回：B /

11回：B / 12回：B /

13回：B / 14回：B /

15回：B

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

※日本語を母語とする学生は履修できません。日本語学習者のための科目です。

※グループワークをしますので、基本的にカメラはONにしてください。

※履修者の日本語能力やニーズに合わせ、授業進度や内容を調整する可能性があります。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

PC

Zoom

マイク、カメラ

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①テスト50%：読解力を評価する。
 ②課題40%：作文を評価する。
 ③平常点10%：授業中の参加態度を評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

授業で説明する。

〔出席確認の方法〕

授業開始後に点呼により出欠確認を行う。

〔基本的な授業の進め方〕

- 5分 出欠確認
 40分 文章読解
 20分 問題と解説
 20分 意見交換
 5分 振り返り

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：○
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：○

〔教科書〕

『日本語学習者のための読解厳選テーマ10 [上級]』清水正幸、凡人社、2200円（日本語Iと同じ）

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応、教科書、参考文献、オフィスアワー

日本語会話 I

FL118

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

アドゥアヨム・アヘゴ 希佳子

〔科目の概要および目的〕

本授業では、日本の社会で暮らす社会人として身に付けておかなければならない常識、ルール、マナーなどに基づいた日本語会話ができるようになることを目的としています。日本の会社の実際の会話例から問題点を見つけ、その場面にふさわしい表現や行動を考えて、練習します。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・学生同士の言葉遣いと職場での言葉遣いの違いを理解する。
- ・電話などで使われる基本的なビジネス日本語を知る。
- ・職場でよい人間関係を作るために必要な職場のマナーを理解し、場面に応じた表現ができるようになる。

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、Chapter I -1
 授業のやり方や到達目標などを知る。社外の人との電話①
 事前/ シラバスを読む (30分)
 事後/ 事後課題を提出する (60分)
- 第 2 回 Chapter I -2,3
 社内の人との会話① / 社外の人との電話②
 事前/ 教科書を読む (30分)
 事後/ 事後課題を提出する (60分)
- 第 3 回 Chapter I -5,6
 社内の人との会話② / 社外の人との電話③
 事前/ 教科書を読む (30分)
 事後/ 事後課題を提出する (60分)
- 第 4 回 Chapter I -7,8
 社外の人との電話④ ⑤
 事前/ 教科書を読む (30分)
 事後/ 事後課題を提出する (60分)
- 第 5 回 Chapter I -9,10
 社外の人との会話① / 社内の人との会話③
 事前/ 教科書を読む (30分)
 事後/ 事後課題を提出する (60分)
- 第 6 回 Chapter II -11,12
 社内の人との会話④ ⑤
 事前/ 教科書を読む (30分)
 事後/ 事後課題を提出する (60分)
- 第 7 回 Chapter II -13,15
 社内の人との会話⑥ / 社外の人との電話⑥
 事前/ 教科書を読む (30分)
 事後/ 事後課題を提出する (60分)
- 第 8 回 Chapter II -16,17

- 社外の人との電話⑦ / 社外の人との会話②
 事前/ 教科書を読む (30分)
 事後/ 事後課題を提出する (60分)
- 第 9 回 Chapter II-18,19
 社外の人との会話③ / 名刺交換の仕方
 事前/ 教科書を読む (30分)
 事後/ 事後課題を提出する (60分)
- 第 10 回 Chapter III-21,22
 社外の人との電話⑧ / 社内の人との会話⑦
 事前/ 教科書を読む (30分)
 事後/ 事後課題を提出する (60分)
- 第 11 回 Chapter III-23,24
 社内の人との会話⑧⑨
 事前/ 教科書を読む (30分)
 事後/ 事後課題を提出する (60分)
- 第 12 回 Chapter III-25,26
 社内の人との会話⑩ ⑪
 事前/ 教科書を読む (30分)
 事後/ 事後課題を提出する (60分)
- 第 13 回 Chapter III-27,28
 社内の人との会話⑫ ⑬
 事前/ 教科書を読む (30分)
 事後/ 事後課題を提出する (60分)
- 第 14 回 Chapter III-29,30
 社内の人との会話⑭ / 社外の人との会話④
 事前/ 教科書を読む (30分)
 事後/ 事後課題を提出する (60分)
- 第 15 回 まとめ
 今学期の振り返り
 事前/ 今学期の復習をする (30分)
 事後/ 今学期の復習をする (60分)

【アクティブラーニング】

- 1回：B / 2回：B /
 3回：B / 4回：B /
 5回：B / 6回：B /
 7回：B / 8回：B /
 9回：B / 10回：B /
 11回：B / 12回：B /
 13回：B / 14回：B /
 15回：B

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

※日本語を母語とする学生は履修できません。日本語学習者のための科目です。

※会話練習をしますので、基本的にカメラはONにしてください。

※履修者の日本語能力やニーズに合わせ、授業進度や内容を調整する可能性があります。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

PC

マイク

Zoom

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①会話テスト50%：場面にふさわしい会話ができているかどうかを評価する。

②課題40%：毎回の事後課題を評価する。

③平常点10%：授業中の参加態度を評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

授業時にコメントします。

【出席確認の方法】

授業の初めに点呼で確認します。

【基本的な授業の進め方】

5分 出欠確認、前回の課題へのフィードバック

15分 場面1の問題点と改善点について考える

25分 場面1の会話練習

15分 場面2の問題点と改善点について考える

25分 場面2の会話練習

5分 振り返り

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：○

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

『マンガで体験! につぼんのカイシャ ビジネス日本語を実践する』日本漢字能力検定協会、1320円

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、出席確認の方法、基本的な授業の進め方、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応、教科書、参考文献、オフィスアワー

日本語会話Ⅱ

FL218

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 外国語科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

アドゥアヨム・アヘゴ 希佳子

【科目の概要および目的】

本授業では、日本のビジネス場面で使われる語彙、表現、マナーを身につけ、ビジネス場面で必要とされる日本語運用力を身につけることを目的としています。モデル会話から重要な語彙・表現を学び、ロールプレイによって会話練習をします。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・ビジネス場面で使われる重要な語彙・表現が使えるようになる
- ・様々なビジネス場面において、場面に応じた表現ができるようになる
- ・社会人として知っておくべきマナーをふまえた言動ができるようになる

【授業形態】

5 【同時双方向型】

【授業計画】

第 1 回 ガイダンス

授業のやり方や到達目標などを知る。

事前/シラバスを読む (30分)

事後/教科書 1 課を読む (30分)

第 2 回 1 課

自己紹介 (社内)

事前/教科書 1 課を読む (45分)

事後/教科書 1 課の復習 (45分)

第 3 回 2 課

自己紹介 (社外)

事前/小テストの準備 (45分)

事後/教科書 2 課の復習 (45分)

第 4 回 3 課

電話対応

事前/小テストの準備 (45分)

事後/教科書 3 課の復習 (45分)

第 5 回 4 課

アポイントを取る

事前/小テストの準備 (45分)

事後/教科書 4 課の復習 (45分)

第 6 回 5 課

会議に参加する

事前/小テストの準備 (45分)

事後/教科書 5 課の復習 (45分)

第 7 回 6 課

クレームを受ける

事前/小テストの準備 (45分)

事後/教科書 6 課の復習 (45分)

第 8 回 7 課

クレームを報告する

事前/小テストの準備 (45分)

事後/教科書 7 課の復習 (45分)

第 9 回 8 課

クレームを処理する

事前/小テストの準備 (45分)

事後/教科書 8 課の復習 (45分)

第 10 回 9 課

会議で提案する

事前/小テストの準備 (45分)

事後/教科書 9 課の復習 (45分)

第 11 回 10 課

新規顧客を開拓する

事前/小テストの準備 (45分)

事後/教科書 10 課の復習 (45分)

第 12 回 11 課

新規顧客とアポイントを取る

事前/小テストの準備 (45分)

事後/教科書 11 課の復習 (45分)

第 13 回 12 課

商品を売り込む

事前/小テストの準備 (45分)

事後/教科書 12 課の復習 (45分)

第 14 回 13 課

催促の電話をかける

事前/小テストの準備 (45分)

事後/教科書 13 課の復習 (45分)

第 15 回 総まとめ

今学期の振り返り

事前/今学期の総復習 (45分)

事後/今学期の総復習 (45分)

【アクティブラーニング】

1回：B / 2回：B /

3回：B / 4回：B /

5回：B / 6回：B /

7回：B / 8回：B /

9回：B / 10回：B /

11回：B / 12回：B /

13回：B / 14回：B /

15回：B

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

※日本語を母語とする学生は履修できません。日本語学習者のための科目です。

※会話練習をしますので、基本的にカメラはONにしてください。

※履修者の日本語能力やニーズに合わせ、授業進度や内容を調整する可能性があります。

※「日本語会話Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

PC

Zoom

マイク・カメラ

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①会話テスト50%：場面にふさわしい会話ができているかどうかを評価する。
 ②小テスト40%：重要な語彙・表現の理解度・定着度を評価する。
 ③平常点10%：授業中の参加態度を評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

授業時にコメントします

〔出席確認の方法〕

授業開始後に点呼により出欠を確認する。

〔基本的な授業の進め方〕

- 15分 出欠確認、小テスト
 25分 会話の流れと内容を理解する
 40分 ロールプレイによる口頭練習
 10分 振り返り

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 —：関連していない】

〔教科書〕

『上級レベル ロールプレイで学ぶビジネス日本語—グローバル企業でのキャリア構築をめざして』村野節子・山辺真理子・向山陽子、スリーエーネットワーク 2,200円

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方、教科書、参考文献、オフィスアワー

表現実践 I

MM101

東京新宿キャンパス
 東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 学科必修科目
 1年生 2年生 3年生 4年生
 2単位 前期
 6 【対面型】
 演習/2コマ

中村 泰之、松浦 李恵

〔科目の概要および目的〕

表現するためには「制作する力」が必要となります。クリエイティブ産業で活躍する人材となることを目標とし、制作表現能力を身につけます。また、知識や技術だけではなく、協働やインプット／アウトプットの仕方などをアクティブラーニングで習得します。思考する力を中心とする「表現思考 I」と連動し、考えながら制作する基礎力を身につけます。

後期（「表現実践 II」）では、2年次以降に専門分野を選択することを念頭に置き、学習方針を定めるためのクリエイティブワークショップなどを行い、よりよい制作力を身につけます。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

この授業で、皆さんに身につけてほしい能力や視点として、
 (1) コンテンツを表現するための思考力
 (2) コンテンツを表現するための制作力
 (3) 自らの意見や創造力を伝えるための制作表現力の獲得
 (4) 他人の話さく傾聴力と意見発信能力の獲得が挙げられます。

基礎ながらも幅広い知識や視点を獲得することによって、社会や大学において活躍する能力を身につけます。

〔授業形態〕

6 【対面型】

〔授業計画〕

第 1 回 コミュニケーション基礎1

1. 事前に作成したオリジナルの名刺を用いて、コミュニケーションを行う。
2. 制作基礎1の課題説明
 事前：名刺制作(3h)
 事後：名刺交換した相手の確認(1.5h)

第 2 回 制作基礎1(1)

- 自分とグループを両立しながら作品を制作する。
 事前：作品制作準備(1.5h)
 事後：制作、表現手法の再考(1.5h)

第 3 回 制作基礎1(2)

- 自分とグループを両立しながら作品を制作する。
 事前：作品制作準備(1.5h)
 事後：制作、表現手法の再考(1.5h)

第 4 回 制作基礎1(3)

- 自分とグループを両立しながら作品を制作する。
 事前：作品制作準備(1.5h)
 事後：制作、表現手法の再考(1.5h)

第 5 回 制作基礎1(4)

1. 作品プレゼンテーションと講評
2. コミュニケーション基礎2の課題説明

- 事前：プレゼンテーションの準備(1.5h)
事後：プレゼンテーションの振り返り(1.5h)
- 第 6 回 コミュニケーション基礎2
各分野の概要説明
事前：各分野のリサーチ(1.5h)
事後：授業内容の振り返り(1.5h)
- 第 7 回 コミュニケーション基礎2
教員インタビューの準備
事前：インタビュー対象のリサーチ(1.5h)
事後：授業内容の振り返り(1.5h)
- 第 8 回 コミュニケーション基礎2
1.教員インタビューの実施と撮影
2.プレゼンテーション準備
事前：インタビュー対象のリサーチ(1.5h)
事後：授業内容の振り返り(1.5h)
- 第 9 回 コミュニケーション基礎2
教員インタビューのプレゼンテーションを行う。
事前：インタビュー対象のリサーチ(1.5h)
事後：授業内容の振り返り(1.5h)
- 第 10 回 コミュニケーション基礎3
上級生企画によるワークショップを行う。
事前：前回のプレゼンテーションの振り返り(1.5h)
事後：授業内容の振り返り(1.5h)
- 第 11 回 制作基礎2
基礎的なデッサンを行う。
事前：前回のワークショップの振り返り(1.5h)
事後：授業内容の振り返り(1.5h)
- 第 12 回 制作基礎3(1)
ファッションショーを実演することを前提とした個人制作を行う。
事前：作品制作準備(1.5h)
事後：制作、表現手法の再考(1.5h)
- 第 13 回 制作基礎3(2)
ファッションショーを実演することを前提とした個人制作を行う。
事前：作品制作準備(1.5h)
事後：制作、表現手法の再考(1.5h)
- 第 14 回 制作基礎3(3)
ファッションショーを実演することを前提とした個人制作を行う。
事前：作品制作準備(1.5h)
事後：制作、表現手法の再考(1.5h)
- 第 15 回 展示基礎1・振り返りとまとめ
1.ファッションショーの準備
2.授業を振り返り、また自分の将来を考えることを通して夏休み及び後期に「やるべきこと」を明確化する。
事前：制作、表現手法の再考(1.5h)
事後：夏休みと後期の内容を確認(1.5h)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：B,C / 2回：B /
3回：B / 4回：B /
5回：B,C / 6回：B,E /
7回：B / 8回：B /

- 9回：B,C / 10回：B /
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：B

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・知識や技術は求めません。大学で学び、成長することの基礎力を養う授業です。そのためには「他人の話をきく（傾聴）」「自分自身の意見を持ち、発信する」「必要な情報を収集する」ことが重要です。授業への積極的な参加、柔軟な思考を求めます。

・授業中は、担当教員が許可した場合を除き、私語・居眠り・私物電子機器の利用（電子辞書を除く）・この授業と関係のない作業を一切禁止します。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

授業への積極的な参加や、柔軟な思考、意欲的な態度を評価します。

①授業内の課題・プレゼンテーション（70%）：企画の独自性と、実現可能性などを含め、総合的に判断します。オリジナリティにより加点します。

②授業内のワークシート（30%）：考えを伝える能力と工夫に加点を行います。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

課題のフィードバックはできる限り授業中に行います。

〔出席確認の方法〕

formsによる確認を予定

〔基本的な授業の進め方〕

前回のフィードバック10分

作業等160分

まとめ・次回の連絡等10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

表現実践Ⅱ

MM201
東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 学科必修科目
1年生 2年生 3年生 4年生
2単位 後期
6【対面型】
演習/2コマ

中村 泰之、松浦 李恵

〔科目の概要および目的〕

表現するためには「制作する力」が必要となります。クリエイティブ産業で活躍する人材となることを目標とし、制作表現能力を身につけます。また、知識や技術だけではなく、協働やインプット/アウトプットの仕方などをアクティブラーニングで習得します。思考する力を中心とする「表現思考Ⅱ」と連動し、考えながら制作する基礎力を身につけます。

後期は、2年次以降に専門分野を選択することを念頭に置き、学習方針を定めるためのクリエイティブワークショップなどを行い、よりよい制作力を身につけます。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

この授業で、皆さんに身につけてほしい能力や視点として、
(1) コンテンツを表現するための思考力
(2) コンテンツを表現するための制作力
(3) 自らの意見や創造力を伝えるための制作表現力の獲得
(4) 他人の話をしきく傾聴力と意見発信能力の獲得
が挙げられます。

基礎ながらも幅広い知識や視点を獲得することによって、社会や大学において活躍する能力を身につけます。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 展示基礎1(1)
ファッションショーの準備
事前：作品制作準備(1.5h)
事後：制作、表現手法の再考(1.5h)
- 第 2 回 展示基礎1(2)
ファッションショーの実践
事前：作品制作準備(1.5h)
事後：制作、表現手法の再考(1.5h)
- 第 3 回 展示基礎1(3)・リサーチ基礎1
1.ファッションショーの振り返り
2.フィールドワークとは
事前：作品制作準備(1.5h)
事後：授業内容の振り返り(1.5h)
- 第 4 回 リサーチ基礎1
新宿を舞台としたフィールドワーク1
事前：各分野のリサーチ(1.5h)
事後：授業内容の振り返り(1.5h)
- 第 5 回 ゼミナール説明会1
ゼミナール説明会1
事前：各分野のリサーチ(1.5h)
事後：授業内容の振り返り(1.5h)
- 第 6 回 ゼミナール説明会2

ゼミナール説明会2

事前：各分野のリサーチ(1.5h)
事後：授業内容の振り返り(1.5h)

- 第 7 回 リサーチ基礎2
新宿を舞台としたリサーチ・フィールドワーク2
事前：各分野のリサーチ(1.5h)
事後：授業内容の振り返り(1.5h)
- 第 8 回 展示基礎2
1.新宿を舞台としたリサーチ・フィールドワーク2
2.上級生企画によるワークショップ
事前：プレゼンテーション準備(1.5h)
事後：授業内容の振り返り(1.5h)
- 第 9 回 展示基礎3
1.表現思考での本のリサーチプレゼンテーション準備
2.表現思考での本のリサーチプレゼンテーションと講評
事前：リサーチ (1.5h)
事後：授業内容の振り返り (1.5h)
- 第 10 回 グループワーク基礎(1)
1.新宿区との地域連携企画リサーチ
2.グループワークの意義と方法を学ぶ
事前：リサーチ (1.5h)
事後：授業内容の振り返り (1.5h)
- 第 11 回 グループワーク基礎(2)
1.グループによる新宿区との地域連携企画ブレインストーミング
2.リサーチ・フィールドワークの準備
事前：リサーチ (1.5h)
事後：フィールドワーク (1.5h)
- 第 12 回 グループワーク基礎(3)
1.リサーチ・フィールドワーク
2.新宿区との地域連携企画まとめ
事前：フィールドワーク (1.5h)
事後：授業内容の振り返り (1.5h)
- 第 13 回 グループワーク基礎(4)
新宿区との地域連携企画ポスター制作
事前：リサーチ (1.5h)
事後：ポスター制作 (1.5h)
- 第 14 回 グループワーク基礎(5)
1.新宿区との地域連携企画ポスター制作
2.新宿区との地域連携企画プレゼンテーション準備
事前：ポスター制作 (1.5h)
事後：プレゼンテーション準備 (1.5h)
- 第 15 回 グループワーク基礎(6)・振り返りとまとめ
1.新宿区との地域連携企画プレゼンテーションと講評
2.授業を振り返り、2年次に「やるべきこと」を明確化する。
事前：プレゼンテーション準備 (1.5h)
事後：授業内容の振り返り (1.5h)

〔アクティブラーニング〕

1回：B / 2回：B,C /
 3回：E / 4回：E /
 5回：E / 6回：E /
 7回：E / 8回：E,C /
 9回：C / 10回：B,E /
 11回：B,E / 12回：B,E /
 13回：B / 14回：B /
 15回：B,C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・原則として表現実践Ⅰを履修済みであること
- ・知識や技術は求めません。大学で学び、成長することの基礎力を養う授業です。そのためには「他人の話をきく（傾聴）」「自分自身の意見を持ち、発信する」「必要な情報を収集する」ことが重要です。授業への積極的な参加、柔軟な思考を求めます。
- ・授業中は、担当教員が許可した場合を除き、私語・居眠り・私物電子機器の利用（電子辞書を除く）・この授業と関係のない作業を一切禁止します。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

授業への積極的な参加や、柔軟な思考、意欲的な態度を評価します。

①授業内の課題・プレゼンテーション（70%）：企画の独創性と、実現可能性などを含め、総合的に判断します。オリジナリティにより加点します。

②授業内のワークシート（30%）：考えを伝える能力と工夫に加点を行います。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

課題のフィードバックはできる限り授業中に行います。

〔出席確認の方法〕

formsによる確認を予定

〔基本的な授業の進め方〕

前回のフィードバック10分

作業等160分

まとめ・次回の連絡等10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 —：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

授業計画：テーマ・内容

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

課題やレポート等に対するフィードバックの方法

表現思考Ⅰ

MM102

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 学科必修科目
 1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

講義/1コマ

橋口 静思、近藤 真彫、李 春、数実 浩佑

〔科目の概要および目的〕

表現するためには「思考する力」が必要となります。資料・書籍などのリサーチや作品の鑑賞を通じて、インプットを理解し実践します。また、自分の思考を適切に伝えるために、言葉による表現や、コミュニケーション手法の習得から、アウトプットを理解し実践します。クリエイティブ業界で活躍する人材となることを目標として、大学生としての学び方や考え方を身につけます。

この授業は他の初年次必修科目と連動しています。制作やクリエイティブ能力は「表現実践Ⅰ」、言語表現やPCスキルなどは「表現とICT」と関連します。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・コンテンツを制作するための思考力を獲得する
- ・自分の意見や発想を論理的に他人に伝える力を習得する
- ・他人の話を聴く傾聴力と理解力を獲得する
- ・大学や社会で活用できる知識とリサーチ方法を理解する

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第1回 学びの手法の獲得・履修の組み方実践
 ガイダンスとして大学で学習することとは何かを学ぶ。そして学習目標を達成するための履修科目を検討する
 事前/シラバスを熟読する (時間)2
 事後/履修計画を立てる (時間)3
- 第2回 論理的思考
 現状を分析して情報を整理し、自分で目標を見つけ取り組むために必要な思考法を学ぶ
 事前/前回の授業の復習 (時間)1.5
 事後/授業課題に取り組む (時間)1.5
- 第3回 思考の伝達
 自分の考えを他者と共有するために必要なことを学ぶ。情報の伝達のための適切な表現を理解する
 事前/前回の授業の復習 (時間)1.5
 事後/授業内容の復習 (時間)1.5
- 第4回 傾聴体験

	傾聴の心構え、技術を学び、実りのあるコミュニケーションを実践する	
	事前/前回の授業の復習	(時間)1.5
	事後/傾聴を実践する	(時間)3
第 5 回	リサーチ力1 図書館を中心とした書籍や資料のリサーチ手法を習得する	
	事前/前回の授業の復習	(時間)1.5
	事後/授業内容の復習	(時間)1.5
第 6 回	リフレクション 「振り返り」によって学習した内容を定着させることを知る。未来履歴書を記述し、過去を活かす思考力を養う	
	事前/前回の授業の復習	(時間)1.5
	事後/授業課題に取り組む	(時間)1.5
第 7 回	自己分析 自己を適切に把握するために、社会人基礎力測定の結果を正しく分析する	
	事前/前回の授業の復習	(時間)1.5
	事後/授業内容の復習	(時間)1.5
第 8 回	社会人基礎力 社会で活躍するために、「遊ぶ人」から「創る人」へ視点をチェンジする。「創る人」になるための計画を立てる	
	事前/前回の授業の復習	(時間)1.5
	事後/授業内容の復習	(時間)1.5
第 9 回	鑑賞について・観察力を養う 観察力を養うために、ミュージアム鑑賞の手法を学ぶ	
	事前/前回の授業の復習	(時間)1.5
	事後/鑑賞の計画を立てる	(時間)1.5
第 10 回	展示鑑賞 ミュージアム鑑賞を実際に行う。東京国立博物館を予定。作品資料と環境のつながりを五感で経験する	
	事前/ワークシートの記入	(時間)3
	事後/授業課題に取り組む	(時間)3
第 11 回	展示鑑賞の振り返り 展示鑑賞で記入したワークシートをもとに振り返りを行う。経験した思考を伝達するための言語化能力を養う	
	事前/前回の授業の復習	(時間)1.5
	事後/授業内容の復習	(時間)1.5
第 12 回	リサーチ力2 図書館を中心とした書籍や資料のリサーチ手法を習得する	
	事前/書籍リサーチを行う	(時間)1.5
	事後/授業内容の復習	(時間)1.5
第 13 回	リサーチ力3 図書館を中心とした書籍や資料のリサーチ手法を習得する	
	事前/書籍リサーチを行う	(時間)1.5
	事後/授業課題に取り組む	(時間)3
第 14 回	まとめ1	

	これまでの学習の振り返りを行い、未来履歴書を充実した内容とする	
	事前/前回の授業の復習	(時間)1.5
	事後/授業内容の復習	(時間)1.5
第 15 回	まとめ2 夏休みのインプットの重要性について説明する。さらに未来を計画的に考えるために夏休みの行動計画を立てる/ゼミ説明	
	事前/夏休みの計画を立てる	(時間)1.5
	事後/授業内容の復習	(時間)1.5

【アクティブラーニング】

1回：A / 2回：C,E /
3回：C,E / 4回：C,E /
5回：C,E / 6回：C,E /
7回：C,E / 8回：C,E /
9回：C,E / 10回：E /
11回：C,E / 12回：C,E /
13回：C,E / 14回：C,E /
15回：C,E

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・知識や技術は求めません。大学で学び、成長するための基礎力を養う授業です。そのためには「他人の話を聴く（傾聴）」「自分自身の意見を持ち、発信する」「必要な情報を収集する」ことが重要です。授業への積極的な参加、柔軟な思考を求めます。

・授業中は、担当教員が許可した場合を除き、私語・居眠り・私物電子機器の利用（電子辞書を除く）・この授業と関係のない作業を一切禁止します。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

teams/office

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点 (30%)：授業マナーを守り、課題意識をもって積極的に授業に参加しているか。
②授業内の課題・ワークシート (30%)：授業をしっかりと傾聴して、内容と課題に合った記述や対応ができていないか。
③授業外の課題 (40%)：指示されたことを理解して授業に必要なリサーチを期限内に行い、主体的な考えが反映されているか。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・課題のフィードバックはできる限り授業中に行います。
・その他の時間でも、相談は随時受け付けます。

【出席確認の方法】

(対面)出席点呼

(オンライン)forms

【基本的な授業の進め方】

・授業説明:5分
・その日の講義1:説明20分 → ワーク1：10分 → 解説10分
・その日の講義2:説明20分 → ワーク2：10分 → 解説15分
・授業の振り返り 5分

※授業内容によって変更します。

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

授業内において適宜指示、配布します

〔参考文献〕

授業内において適宜指示、配布します

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

表現思考Ⅱ

MM202

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 学科必修科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

講義/1コマ

橋口 静思、近藤 真彰、李 春、数実 浩佑

〔科目の概要および目的〕

表現するためには「思考する力」が必要となります。資料・書籍などのリサーチや作品の鑑賞を通じて、インプットを理解し実践します。また、思考を適切に伝えるために、言葉による表現や、コミュニケーション手法の習得から、アウトプットを理解し実践します。クリエイティブ業界で活躍する人材となることを目標として、大学生としての学び方や考え方を身につけます。

この授業は他の初年次必修科目と連動しています。制作やクリエイティブ能力、さらに協働力は「表現実践Ⅱ」と関連します。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・コンテンツを制作するための思考力を獲得する
- ・自分の意見や発想を論理的に他人に伝える力を習得する
- ・他人の話や聴く傾聴力と理解力を獲得する
- ・大学や社会で活用できる知識とリサーチ方法を理解する

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第 1 回 一年次後期の計画

後期の学習目標を達成するための計画を検討する

事前/履修計画を立てる (時間)2

事後/履修計画を立てる (時間)2

第 2 回 リフレクション・「自分成長マップ」振り返り
夏休みのインプットを振り返り、習得した力を認識し、分析する

事前/夏休みの振り返りを行う (時間)2

事後/分析して学習計画を立てる(時間)2

第 3 回 作品鑑賞

作品を観て分析する手法を実践し、習得する

事前/前回の授業の復習 (時間)1.5

事後/授業内容の復習 (時間)1.5

第 4 回 鑑賞力・VTS (Visual Thinking Strategy)

「観る」から「考える」そして「表現する」の流れを理解し習得するために、鑑賞手法であるVTSを実践する

事前/鑑賞方法の復習 (時間)1

事後/実際に鑑賞する (時間)3

第 5 回 企画書の書き方

自己の思考をより伝わる表現にするための、適切な文章能力・企画書の書き方を習得する

事前/前回の授業の復習 (時間)1.5

事後/授業内容の復習 (時間)1.5

第 6 回 リサーチ力 1

資料の読み込みの手法を学び、情報を読み解く修練を行う

事前/資料を探す (時間)1.5

事後/資料を読み込む (時間)2.5

第 7 回 リサーチ力 2

選んだ資料を正しく理解し、内容を伝えるための手法を思考する。表現実践と連携する

事前/資料を読み込む (時間)4

事後/授業課題に取り組む (時間)4

第 8 回 ゼミナール計画書作成

リサーチと自己分析をもとに、ゼミ申請のためのエントリーシートを記入する

事前/ゼミ選択の計画を立てる (時間)2

事後/エントリーシート作成 (時間)4

第 9 回 リサーチ力 3

リサーチをして展示実践を行った図書資料のまとめについてリフレクションを行う

事前/表現実践の課題を振り返る(時間)1.5

事後/授業内容の復習 (時間)1.5

第 10 回 クリエイターゲストによるキャリア形成のための講義

外部のゲストクリエイターを呼び講義を行う。クリエイティブ業界の現状を知り、今後の成長のための課題を理解する

事前/前回の授業の復習 (時間)1.5

事後/授業内容の復習 (時間)1.5

第 11 回 ポートフォリオ基礎

クリエイターに必要なポートフォリオ制作に関して基礎知識を知り、学びをアーカイブする

事前/業界研究を行う (時間)2

事後/授業内容の復習 (時間)2

第 12 回 ストレスコントロール

- 制作や学習、そして社会で心身ともに健康に生きるためのストレスコントロールについて学ぶ
- 事前/前回の授業の復習 (時間)1.5
事後/授業内容の復習 (時間)1.5
- 第 13 回 映像鑑賞
映像を鑑賞し、読み解いた内容を文章で表現する
事前/前回の授業の復習 (時間)1.5
事後/授業内容の復習 (時間)1.5
- 第 14 回 初年次振り返り
初年次の学びを確認するために、ワークシートを記入する。ワークシートをもとに今年度の振り返る
事前/前回の授業の復習 (時間)1.5
事後/授業内容の復習 (時間)1.5
- 第 15 回 大学学修・社会での計画を立てる
これまでの積み重ねた学修を認識し、今後の学習計画を立てる
事前/前期の授業の復習 (時間)1.5
事後/学習計画を立てる (時間)1.5

【アクティブラーニング】

- 1回：A / 2回：A,B /
3回：A,B / 4回：A,B /
5回：C,E / 6回：C,E /
7回：A,C / 8回：A,C /
9回：A,B / 10回：E /
11回：A,E / 12回：A,B /
13回：D / 14回：A,B /
15回：A,B

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・知識や技術は求めません。大学で学び、成長するための基礎力を養う授業です。そのためには「他人の話を聴く（傾聴）」「自分自身の意見を持ち、発信する」「必要な情報を収集する」ことが重要です。授業への積極的な参加、柔軟な思考を求めます。

・授業中は、担当教員が許可した場合を除き、私語・居眠り・私物電子機器の利用（電子辞書を除く）・この授業と関係のない作業を一切禁止します。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

teams/office

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点 (30%)：授業マナーを守り、課題意識をもって積極的に授業に参加しているか。
- ②授業内の課題・ワークシート (40%)：授業をしっかりと傾聴して、内容と課題に合った記述や対応ができていないか。
- ③授業外の課題 (30%)：指示されたことを理解して授業に必要なリサーチを期限内に行い、主体的な考えが反映されているか。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・課題のフィードバックはできる限り授業中に行います。
- ・その他の時間でも、相談は随時受け付けます。

【出席確認の方法】

(対面)出席点呼

(オンライン)forms

【基本的な授業の進め方】

- ・授業説明:5分
- ・その日の講義1:説明20分 → ワーク1：10分 → 解説10分
- ・その日の講義2:説明20分 → ワーク2：10分 → 解説15分
- ・授業の振り返り 5分

※授業内容によって変更します。

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

授業内において適宜指示、配布します

【参考文献】

授業内において適宜指示、配布します

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

表現とICT

MM103

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 学科必修科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

講義/1コマ

吉岡 章夫、数実 浩佑

【科目の概要および目的】

一般社会では、企画書や報告書等は、通常ワープロソフトや計算ソフト、プレゼンテーションソフトを使用して作成することが求められています。また、様々な情報をインターネットを利用して取得することも多くなってきています。そのため、この授業は、「表現思考I」と連動し、大学における学習や将来の仕事上必要となるワープロソフトや計算ソフト、プレゼンテーションソフトを使用して、「しっかりと考えて」文書等の作成ができるようになることを目的とします。加えて、インターネットの使用法やネットリテラシーをはじめとした社会常識や情報倫理に関する基礎知識、情報共有に有用な各種ツールの利用法、クリエイターとしての就職活動にも活用することができるWebポートフォリオとは何かについても学びます。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・社会常識としてのネットリテラシーや情報倫理を理解することができる。
- ・PCでワープロソフトや計算ソフト、プレゼンテーションソフトを利用して、指示された条件を満たした提出物等の作成ができる。
- ・適切な日本語を用いた文章等を作成することができる。
- ・プレゼンテーションソフトを利用して、時間と分量に配慮した発表ができる。
- ・情報共有に有用な各種ツールを利用することができる。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクションITリテラシー基礎
授業の目的、概要説明、ビジネスメールの書き方・提出、メールログイン確認、ファイル提出、タイピング練習
事前／シラバスの確認 30分
事後／授業の内容の復習 1.5時間
- 第 2 回 クリエイターが知っておきたい著作権
SNS活用法解説、著作権解説、Web検索解説、タイピング練習
事前／前回の授業の復習 1.5時間
事後／授業の内容の復習 1.5時間
- 第 3 回 ウェブポートフォリオ
ウェブポートフォリオ作成、タイピング練習
事前／前回の授業の復習 1.5時間
事後／授業の内容の復習 1.5時間
- 第 4 回 MS Office Word
Word機能解説、タイピング練習
事前／前回の授業の復習 1.5時間
事後／授業の内容の復習 1.5時間
- 第 5 回 レポート作成
レシピレポート作成、引用の仕方、タイピング練習
事前／前回の授業の復習 1.5時間
事後／授業の内容の復習 1.5時間
- 第 6 回 インターネットリテラシー
インターネットセキュリティ解説、情報倫理の小テスト、タイピング練習
事前／前回の授業の復習 1.5時間
事後／授業の内容の復習 1.5時間
- 第 7 回 MS Office Excel(1)
Excel機能解説、タイピング練習
事前／前回の授業の復習 1.5時間
事後／授業の内容の復習 1.5時間
- 第 8 回 MS Office Excel(2)
Excel機能解説、タイピング練習
事前／前回の授業の復習 1.5時間
事後／授業の内容の復習 1.5時間
- 第 9 回 MS Office Excel(3)
Excel機能解説、Excel小テスト、タイピング練習
事前／前回の授業の復習 1.5時間
事後／授業の内容の復習 1.5時間
- 第 10 回 MS Office PowerPoint(1)

PowerPoint機能解説、タイピング練習

事前／前回の授業の復習 1.5時間

事後／授業の内容の復習 1.5時間

第 11 回 MS Office PowerPoint(2)

PowerPoint機能解説、タイピング練習

事前／前回の授業の復習 1.5時間

事後／授業の内容の復習 1.5時間

第 12 回 プレゼンテーション課題作成(1)

プレゼンテーション作成、タイピング練習

事前／前回の授業の復習 1.5時間

事後／授業の内容の復習 1.5時間

第 13 回 プレゼンテーション課題作成(2)

プレゼンテーション作成、プレゼンテーション練習、タイピング練習

事前／前回の授業の復習 1.5時間

事後／授業の内容の復習 1.5時間

第 14 回 グループプレゼンテーション相互評価

グループ内プレゼンテーション、相互評価、タイピング練習

事前／前回の授業の復習 1.5時間

事後／授業の内容の復習 1.5時間

第 15 回 全体プレゼンテーション

全体プレゼンテーション、講評、タイピング練習

事前／前回の授業の復習 1.5時間

事後／授業の内容の復習 1.5時間

事後／授業の内容の復習 1.5時間

事後／授業の内容の復習 1.5時間

〔アクティブラーニング〕

1回：E / 2回：E /

3回：E / 4回：E /

5回：E / 6回：E /

7回：E / 8回：E /

9回：E / 10回：E /

11回：E / 12回：E /

13回：E / 14回：B /

15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・授業中は、担当教員が許可した場合を除き、私語・居眠り・私物電子機器の利用（電子辞書を除く）・この授業と関係のない作業を一切禁止します。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点（20%）：授業マナーを守り、課題意識をもって積極的に授業に参加しているか。

②タイピング練習の向上度（10%）：毎回の授業の最初に実施するタイピング練習の結果、どの程度上達したか。

③ネットリテラシー・情報倫理の理解（小テスト）（10%）：大学生・社会人として知っておかなければならない基礎知識がどの程度理解できたか。

④レポート、ウェブポートフォリオ、プレゼンシート（50%）：提出期限・体裁を守っているか、文章等に誤字・脱字等がないか。

⑤プレゼンテーション（10%）：発表時間と分量の関係は適

切か、適切な言葉遣いで発表できたか、しっかり傾聴できていたか。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・PCスキル・PCソフトスキルに関する評価は、毎回の授業で講評します。

・提出物の内容に関する評価はこの授業だけでなく、「表現思考I」の授業内でも講評します。

【出席確認の方法】

授業開始時に点呼

タイピングスコアの提出

【基本的な授業の進め方】

20分：該当回の授業の内容の説明

60分：講義・実技

10分：クロージング解説

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用性：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

授業中にプリントを配付します

【参考文献】

授業中に指示します

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

データ分析入門

MM203

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 学科必修科目

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

講義/1コマ

数実 浩佑

【科目の概要および目的】

この授業の目的は、今後の社会に必要とされる数理的・論理的思考やデータ分析・活用能力を体得することです。それに向けて、まずはデータ分析の目的と意義を確認したうえで、統計データを正しく読み解くためのスキルを身に付けていきます。そのうえで、「ビジネスの現場でデータ分析をどのように活用できるか」という実践的な問いを題材として、データ分析の方法とその考え方を学んでいきます。

またデータの視覚化とデザインというテーマを設け、データをわかりやすく伝える技法についても学びます。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・データ分析の目的と意義を説明できる
- ・データを正しく読むスキルを身につける
- ・データを適切に加工・分析して、問題解決の方法を考えることができる
- ・効果的な図表を用いて、エビデンスに基づく主張を述べるができる

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

- 第1回 インTRODクシヨン：何のためにデータ分析をするのか
事前：シラバスを熟読する（1.5h）
事後：授業内容の復習（1.5h）
- 第2回 公的統計データを読む（1）：e-Statの概要／度数分布表
事前：授業内容の予習（1.5h）
事後：授業内容の復習（1.5h）
- 第3回 公的統計データを読む（2）：平均値の比較／棒グラフ
事前：授業内容の予習（1.5h）
事後：授業内容の復習（1.5h）
- 第4回 公的統計データを読む（3）：クロス集計表
事前：授業内容の予習（1.5h）
事後：授業内容の復習（1.5h）
- 第5回 売上の傾向を把握する：平均／外れ値／折れ線グラフ
事前：授業内容の予習（1.5h）
事後：授業内容の復習（1.5h）
- 第6回 売上高を増やす方法を探し出す（1）：ヒストグラムの活用
事前：授業内容の予習（1.5h）
事後：授業内容の復習（1.5h）
- 第7回 売上高を増やす方法を探し出す（2）：散布図の活用
事前：授業内容の予習（1.5h）
事後：授業内容の復習（1.5h）
- 第8回 売上個数に影響する要因を分析する（1）：仮説の設定／因果関係
事前：授業内容の予習（1.5h）
事後：授業内容の復習（1.5h）
- 第9回 売上個数に影響する要因を分析する（2）：回帰分析
事前：授業内容の予習（1.5h）
事後：授業内容の復習（1.5h）
- 第10回 来店者を増やす方法を検討する（1）：アンケートデータの活用
事前：授業内容の予習（1.5h）
事後：授業内容の復習（1.5h）
- 第11回 来店者を増やす方法を検討する（2）：CSポートフォリオ

- 事前：授業内容の予習（1.5h）
事後：授業内容の復習（1.5h）
- 第12回 データの視覚化とデザイン（1）：データの視覚化の概要／インフォグラフィックス
事前：授業内容の予習（1.5h）
事後：授業内容の復習（1.5h）
- 第13回 データの視覚化とデザイン（2）：グラフのデザインの基本
事前：授業内容の予習（1.5h）
事後：授業内容の復習（1.5h）
- 第14回 データの視覚化とデザイン（3）：グラフのデザインの応用
事前：授業内容の予習（1.5h）
事後：授業内容の復習（1.5h）
- 第15回 まとめ：最終課題の提示
事前：授業内容の予習（1.5h）
事後：最終課題に取り組む（4h）

【アクティブラーニング】

- 1回：A / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：E / 6回：E /
7回：E / 8回：E /
9回：E / 10回：E /
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：E

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・原則として表現とICTを履修済みであること。
- ・知識や技術は求めません。積み重ねを前提とした授業なので、毎回授業に出席し、わからないことが出てきた場合はそのつど自分で調べたり、質問したりするなどして、解決するように努めてしてください。
- ・授業中は、担当教員が許可した場合を除き、私語・居眠り・私物電子機器の利用（電子辞書を除く）、この授業と関係のない作業を一切禁止します。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

Teams/Office

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

平常点（20%）：授業マナーを守り、課題意識をもって積極的に授業に参加しているか

授業内の課題（40%）：授業内の課題に取り組み、学んだ内容を理解したうえで提出できているか

最終課題（40%）：課題の指示に従って適切な分析ができているか、表現力・完成度はどうか、締切が守れているか

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・授業内で全体にコメントします。
- ・その他の時間でも、質問および相談は随時受け付けます。

【出席確認の方法】

Forms

【基本的な授業の進め方】

- 10分：先週の授業の振り返り
35分：講義
35分：演習
10分：クロージング

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
 2. 表現力：◎
 3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
 4. 課題発見力・課題解決力：◎
 5. コミュニケーション力：△
 6. 専門的知識・技能の活用力：○
- 【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

授業中にプリントを配布します

【参考文献】

授業中に指示します

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

コンピュータデザイン基礎 I

MM104

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

増田 宗嶺、松浦 李恵、青田 めい、和田 歩美

【科目の概要および目的】

コンピューターを使用したデザイン制作の基礎を学ぶ。デザインの現場で使用される代表的なソフトウェア Adobe Photoshop、Adobe Illustratorの基本的な使用方法を学び、各ソフトウェアの「アドビ認定プロフェッショナル」資格を取得可能なレベルのスキル習得を目指す。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・Photoshop、Illustrator各ソフトウェアの基本的な操作を行うことができる。
- ・習得したスキルを元に教科書レベルの課題制作を行うことができる。
- ・制作した作品についてコンセプト、工夫した点等をプレゼンテーションできる。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第1回 Photoshop&Illustratorチュートリアル1 基本操作

	Photoshop：基本操作の説明と練習課題を行う Illustrator：基本操作の説明と練習課題を行う 事後：演習内容の復習（1h）		
第 2 回	Photoshop&Illustratorチュートリアル2 画像データ、シェイプ Photoshop：前回の復習、画像データの解説、練習課題を行う Illustrator：前回の復習、シェイプの解説、練習課題を行う 事前：演習内容の予習（1h） 事後：演習内容の復習（1h）	第 9 回	Photoshop&Illustratorチュートリアル9 ブラシ、マスク Photoshop：前回の復習、ブラシ・グラデーション等の解説、練習課題を行う Illustrator：前回の復習、マスク・パターン等の解説、練習課題を行う 事前：演習内容の予習（1h） 事後：演習内容の復習（1h）
第 3 回	Photoshop&Illustratorチュートリアル3 カラー Photoshop：前回の復習、カラー設定の解説、練習課題を行う Illustrator：前回の復習、カラー設定の解説、練習課題を行う 事前：演習内容の予習（1h） 事後：演習内容の復習（1h）	第 10 回	Photoshop&Illustratorチュートリアル10 出力、デザインプロジェクト デザインプロジェクトの概説を行う Photoshop：前回の復習、出力の解説、練習課題を行う Illustrator：前回の復習、出力の解説、練習課題を行う 事前：演習内容の予習（1h） 事後：演習内容の復習（1h）
第 4 回	Photoshop&Illustratorチュートリアル4 選択範囲、パス Photoshop：前回の復習、選択範囲の解説、練習課題を行う Illustrator：前回の復習、パスの解説、練習課題を行う 事前：演習内容の予習（1h） 事後：演習内容の復習（1h）	第 11 回	Photoshop課題制作1 企画 課題説明とデザインの企画・素材制作を行う 事後：デザイン企画・素材制作（1.5h）
第 5 回	Photoshop&Illustratorチュートリアル5 レイヤー、配置 Photoshop：前回の復習、レイヤーの解説、練習課題を行う Illustrator：前回の復習、オブジェクトの配置と変形の解説、練習課題を行う 事前：演習内容の予習（1h） 事後：演習内容の復習（1h）	第 12 回	Photoshop課題制作2 制作 課題の仕上げと提出用データの作成を行う 事前：デザイン企画・素材制作（1h） 事後：課題の仕上げと提出用データの作成（1.5h）
第 6 回	Photoshop&Illustratorチュートリアル6 練習課題 Photoshop：中間まとめとして練習課題を行う Illustrator：中間まとめとして練習課題を行う 事前：演習内容の予習（1h） 事後：演習内容の復習（1h）	第 13 回	Photoshop 課題制作3 プレゼンテーション Illustrator課題制作1 きかく 制作した作品のプレゼンテーションと講評を行う 課題説明とデザインの企画・素材制作を行う 事前：プレゼンテーション準備（1h） 事後：デザイン企画・素材制作（1.5h）
第 7 回	Photoshop&Illustratorチュートリアル7 テキスト Photoshop：前回の復習、テキストの解説、練習課題を行う Illustrator：前回の復習、テキストの解説、練習課題を行う 事前：演習内容の予習（1h） 事後：演習内容の復習（1h）	第 14 回	Illustrator課題制作2 制作 課題の仕上げと提出用データの作成を行う 事前：デザイン企画・素材制作（1h） 事後：課題の仕上げと提出用データの作成（1.5h）
第 8 回	Photoshop&Illustratorチュートリアル8 レタッチ、効果 Photoshop：前回の復習、レタッチの解説、練習課題を行う Illustrator：前回の復習、効果と加工の解説、練習課題を行う 事前：演習内容の予習（1h） 事後：演習内容の復習（1h）	第 15 回	Illustrator課題制作3 プレゼンテーション 制作した作品のプレゼンテーションと講評を行う 事前：プレゼンテーション準備（1h） 事後：講評の振り返り（1h）
			〔アクティブラーニング〕 1回：— / 2回：— / 3回：— / 4回：— / 5回：— / 6回：— / 7回：— / 8回：— / 9回：— / 10回：— / 11回：— / 12回：— / 13回：C / 14回：— / 15回：C
			〔事前に修得しておく必要のある科目〕 なし
			〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕 各ソフトウェアの基本スキルを覚える授業である。未経験者向けの内容であるが、PCの基本操作ができる必要がある。
			〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕 —

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①チュートリアル回の練習課題（30%）：各回のチュートリアルの理解度を評価する
- ②提出課題（50%）：課題制作に使用した機能と制作物の完成度を評価する
- ③発表プレゼンテーション(20%)：スライド、プレゼンテーション内容を評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

作品プレゼンテーションの際に行う。

〔出席確認の方法〕

ワークデータの提出による

〔基本的な授業の進め方〕

前回の復習20分

作業等（途中でワークデータの提出）150分

まとめ・次回の連絡等10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

①『ACAアドビ認定アソシエイト対応Photoshop CC試験対策』

②『ACAアドビ認定アソシエイト対応Illustrator CC試験対策』

〔参考文献〕

Adobe Photoshop (<https://helpx.adobe.com/photoshop/tutorials.html>)

Adobe Illustrator (<https://helpx.adobe.com/illustrator/tutorials.html>)

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：事前・事後学習

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

コンピュータデザイン基礎Ⅱ

MM204

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

増田 宗嶺、松浦 李恵、青田 めい、和田 歩美

〔科目の概要および目的〕

コンピューターを使用したデザイン制作の基礎を学ぶ。デザインの現場で使用される代表的なソフトウェア Adobe Photoshop、Adobe Illustratorの基本的な使用方法を学び、各ソフトウェアの「アドビ認定プロフェッショナル」資格を取得可能なレベルのスキル習得を目指す。また、ポートフォリオ制作に必要な Adobe Indesignの基本的な使用方法を学ぶ。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・ Photoshop、Illustrator各ソフトウェアの教科書レベルのスキルを複合的に用いた操作を行うことができる。
- ・ Indesignの基本的な操作を行うことができる。
- ・ 習得したスキルを元に「アドビ認定プロフェッショナル」資格を取得可能なレベルの課題制作を行うことができる。
- ・ 制作した作品についてコンセプト、工夫した点等をプレゼンテーションできる。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

Adobe Photoshop, Illustratorのサンプル問題を使い、復習する

事後：解けなかったサンプル問題の復習（1h）

第 2 回 ポストカードデザイン1 企画

課題説明とデザインの企画・素材制作を行う

事後：デザイン企画・素材制作（2h）

第 3 回 ポストカードデザイン2 制作

課題の仕上げと提出用データの作成を行う

事前：デザイン企画・素材制作（1h）

事後：課題の仕上げと提出用データの作成（1h）

第 4 回 ポストカードデザイン3 プレゼンテーション/パッケージデザイン1 企画

作品プレゼンテーションと講評、課題説明とデザインの企画を行う

課題説明とデザインの企画・素材制作を行う

事前：プレゼンテーション準備（1h）

事後：デザイン企画・素材制作（1h）

第 5 回 パッケージデザイン2 制作

課題の仕上げと提出用データの作成を行う

事前：素材制作（1h）

事後：課題の仕上げ（1h）

第 6 回 パッケージデザイン3 制作・プレゼンテーション

課題の仕上げと提出用データの作成、作品プレゼンテーションと講評を行う

- 事前：提出用データの作成とプレゼンテーション準備 (2h)
- 第 7 回 Indesignチュートリアル1
Indesignの基礎を学ぶ
事後：演習内容の復習 (2h)
- 第 8 回 Indesignチュートリアル2
Indesignの基礎を学ぶ
事後：演習内容の復習 (2h)
- 第 9 回 パンフレットデザイン1 企画
課題説明とデザインの企画・素材制作を行う
事後：デザイン企画・素材制作 (2h)
- 第 10 回 「アドビ認定プロフェッショナル」模試
「アドビ認定プロフェッショナル」模試を行う
事前：模試準備 (2h)
- 第 11 回 パンフレットデザイン2 制作・プレゼンテーション
課題の仕上げと提出用データの作成、作品プレゼンテーションと講評を行う
事前：提出用データの作成とプレゼンテーション準備 (3h)
- 第 12 回 ポートフォリオデザイン1 企画
課題説明とデザイン企画・素材制作を行う
事後：デザイン企画・素材制作 (2h)
- 第 13 回 ポートフォリオデザイン2 制作
課題の仕上げと提出用データの作成を行う
事前：素材制作 (1h)
事後：提出用データの作成 (2h)
- 第 14 回 ポートフォリオデザイン3 制作
課題の仕上げと提出用データの作成を行う
事前：素材制作 (2h)
事後：課題の仕上げと提出用データの作成 (2h)
- 第 15 回 ポートフォリオデザイン4 プレゼンテーション
作品プレゼンテーションと講評を行う
事前：プレゼンテーション準備 (2h)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：E / 2回：E /
3回：— / 4回：C,E /
5回：— / 6回：C /
7回：— / 8回：— /
9回：E / 10回：— /
11回：C / 12回：E /
13回：— / 14回：— /
15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・原則として「コンピュータデザイン基礎Ⅰ」を履修済みであること

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①提出課題 (70%) :課題制作に使用した機能と制作物の完成度を評価する
②発表プレゼンテーション(20%) :スライド、プレゼンテ

ーション内容を評価する

③「アドビ認定プロフェッショナル」模試(10%) : 模試の点数を評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

作品プレゼンテーションの際に行う。

〔出席確認の方法〕

ワークデータの提出による

〔基本的な授業の進め方〕

前回の復習20分

作業等 (途中でワークデータの提出) 150分

まとめ・次回の連絡等10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

①『ACAアドビ認定アソシエイト対応Photoshop CC試験対策』

②『ACAアドビ認定アソシエイト対応Illustrator CC試験対策』

〔参考文献〕

Adobe Photoshop (<https://helpx.adobe.com/photoshop/tutorials.html>)

Adobe Illustrator (<https://helpx.adobe.com/illustrator/tutorials.html>)

Adobe Indesign(<https://helpx.adobe.com/jp/indesign/tutorials.html>)

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

卒業研究Ⅰ (竹内)

MM501

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 前期

演習/2コマ

竹内 一郎

〔科目の概要および目的〕

4年間学んだ、漫画に関する学びの集大成を行う。就職活動をにらみ、ポートフォリオの制作を行う。作品の物語や世界観が、未知の読者に伝わっているか、客観性が問われる。

漫画作品、小説作品、シークエンシャル・アート、作品研究などの研究に取り組む。授業内容は漫画の形式で書かれているが、他の作品形式もそれに準ずる。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・自ら世界観を構築し、伝達する方法を考えることができる。
- ・論理的表現力を身につける。
- ・中間発表に向けた発信力を身につける。

〔授業形態〕

5【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
卒業制作完成までの流れを説明
事前／マンガ制作（180分）
事後／マンガ制作（180分）
- 第 2 回 シナリオ制作（1）
荒筋をつくる
事前／マンガ制作（180分）
事後／マンガ制作（180分）
- 第 3 回 シナリオ制作（2）
ハコ書きをつくる
事前／マンガ制作（180分）
事後／マンガ制作（180分）
- 第 4 回 シナリオ制作（3）
脚本の作成
事前／マンガ制作（180分）
事後／マンガ制作（180分）
- 第 5 回 中間発表（1）
発表と講評
事前／マンガ制作（180分）
事後／マンガ制作（180分）
- 第 6 回 キャラ表（1）
主要登場人物のキャラ表作成
事前／マンガ制作（180分）
事後／マンガ制作（180分）
- 第 7 回 キャラ表（2）
サブキャラのキャラ表作成
事前／マンガ制作（180分）
事後／マンガ制作（180分）
- 第 8 回 キャラ表（3）
等身表の作成
事前／マンガ制作（180分）
事後／マンガ制作（180分）
- 第 9 回 中間発表（2）
発表と講評
事前／マンガ制作（180分）
事後／マンガ制作（180分）
- 第 10 回 ネーム制作（1）
カメラアングルを考える
事前／マンガ制作（180分）
事後／マンガ制作（180分）
- 第 11 回 ネーム制作（2）
コマ割りをつくる
事前／マンガ制作（180分）
事後／マンガ制作（180分）

- 第 12 回 ネーム制作（3）
カメラアングルの再構成
事前／マンガ制作（180分）
事後／マンガ制作（180分）
- 第 13 回 ネーム制作（4）
コマ割りの再構成
事前／マンガ制作（180分）
事後／マンガ制作（180分）
- 第 14 回 中間発表（3）
発表と講評
事前／マンガ制作（180分）
事後／マンガ制作（180分）
- 第 15 回 ネーム完成
全体講評
事前／マンガ制作（180分）
事後／マンガ制作（180分）

〔アクティブラーニング〕

- 1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：— /
5回：A / 6回：— /
7回：— / 8回：— /
9回：— / 10回：— /
11回：— / 12回：— /
13回：— / 14回：A /
15回：D

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

- ・マンガ分野のコアカリキュラムを履修していること。

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・主人公や登場人物のキャラクター設定、世界観に斬新性があることが望ましい。
- ・24ページ以上のマンガ作品、800字以上のシナリオ・小説の骨子が完成していること。
- ・中間発表を数回行う。この際にはパワーポイントなどを使用してプレゼンテーションをする。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

PCあるいは画像を送受信できる機器

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点（30%）：主体的な授業参加態度を評価する
- ②作品（50%）：表現力・伝達力・完成度を評価する
- ③中間発表（20%）：コミュニケーション力を評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・毎週、実技の進行状況を見て講評します。

〔出席確認の方法〕

オンライン

〔基本的な授業の進め方〕

40分（講義）100分（実技）40分（講評）

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

印刷物を配布

【参考文献】

授業内で紹介する

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板上に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

卒業研究Ⅰ（市野）

MM501

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 前期

演習/2コマ

市野 治美

【科目の概要および目的】

当科目は、前期後期を通じて、個人、又はグループにて作品を企画し制作する。これまでの授業のみでなく学生生活を通じて学んだことを集大成し、数回のプレゼンによりブラッシュアップを図り、教員の指導により、完成度を上げていく。研究のジャンルは、マンガ、メディアストーリー、メディアイラスト、キャラクターデザイン、企画編集などから、各自選択する。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・世界観を構築し、伝達する方法を考えることができる。
- ・2、3年次の経験を活かし、クオリティの高いコンテンツを作成することができる
- ・卒業に値する集大成の作品企画力を培う。

【授業形態】

5【同時双方向型】

【授業計画】

第1回 ガイダンス

卒業研究の流れの説明、企画発想書の制作

事前/ 研究のテーマを考える (2時間)

事後/ 企画書を制作する(2時間)

第2回 企画制作1

研究ジャンルの決定

事前/企画の準備(2時間)

事後/企画の準備(2時間)

第3回 企画制作2

研究コンテンツの決定

事前/企画の準備(2時間)

事後/企画の準備(2時間)

第4回 企画制作3

研究企画のテーマの決定

事前/企画の準備(2時間)

事後/研究企画発表の準備(2時間)

第5回 研究企画発表1

第一回の企画内容のプレゼンを行う

事前/研究企画発表の準備(2時間)

第6回 企画制作4

企画についての指導を受け、方向の見直し、修正を行う

事前/企画のブラッシュアップ(2時間)

事後/企画のブラッシュアップ(2時間)

第7回 企画制作5

企画についての指導を受け、方向の見直し、修正を行う

事前/企画のブラッシュアップ(2時間)

事後/企画のブラッシュアップ(2時間)

第8回 企画制作6

企画書の制作

事前/企画のブラッシュアップ(2時間)

事後/企画のブラッシュアップ(2時間)

第9回 研究企画発表2

第二回の企画内容のプレゼンを行う

事前/研究企画発表の準備(2時間)

第10回 作品制作1

テーマに基づき、研究制作を進める。-世界観-

事前/ 作品の制作(2時間)

事後/ 作品の制作(2時間)

第11回 作品制作2

テーマに基づき、研究制作を進める。-世界観-

事前/ 作品の制作(2時間)

事後/ 作品の制作(2時間)

第12回 作品制作3

テーマに基づき、研究制作を進める。-キャラクター-

事前/ 作品の制作(2時間)

事後/ 作品の制作(2時間)

第13回 作品制作4

テーマに基づき、研究制作を進める。-キャラクター-

事前/ 作品の制作(2時間)

事後/ 作品の制作(2時間)

第14回 作品制作5

テーマに基づき、研究制作を進める。-キービジュアルの提出

事前/ 作品の制作(2時間)

事後/ 作品の制作(2時間)

第15回 卒業研究中間発表1

進捗状況をプレゼンする

事前/中間発表の準備(2時間)

【アクティブラーニング】

1回：F / 2回：F /

3回：F / 4回：F /

5回：F / 6回：F /

7回：F / 8回：F /

9回：F / 10回：F /
 11回：F / 12回：F /
 13回：F / 14回：F /
 15回：F

【事前に修得しておく必要のある科目】

マンガ分野のコアカリキュラムを履修していること
 (ジャンルによっては、すべてのコアを履修していなくても可)

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・研究制作を完成させる意欲があること

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

・PC、マイク、カメラ等、通信環境の成り立つデバイス
 ・Adobeなどドローイングソフト:PowerPoint

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点 (20%) : 授業受講態度
 ②企画書 (30%) オリジナリティがあるか、技術レベル、プレゼン表現力の総合評価
 ③中間発表+キービジュアル (50%) : オリジナリティがあるか、技術レベル、プレゼン表現力の総合評価

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・毎週、進捗状況を確認、指導を行う

【出席確認の方法】

・点呼確認
 ・提出課題発表

【基本的な授業の進め方】

・導入・授業のガイダンス
 ・講義 20分
 ・演習 研究制作 教員との面談 70分+80分
 ・今日のまとめ 10分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
 2. 表現力：◎
 3. 社会貢献力・コラボレーション力：一
 4. 課題発見力・課題解決力：◎
 5. コミュニケーション力：○
 6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 一：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

卒業研究 I (芦谷)

MM501

東京新宿キャンパス
 東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)
 4年生
 8単位 前期
 演習/2コマ

芦谷 耕平

【科目の概要および目的】

4年間学んだ、漫画に関する学びの集大成を行う。就職活動に
 をにらみ、ポートフォリオの制作
 を行う。作品の物語や世界観が、未知の読者に伝わっているか、客観性が問われる。漫画作
 品、小説作品、シークエンシャル・アート、作品研究など
 の研究に取り組む。授業内容は漫
 画の形式で書かれているが、他の作品形式もそれに準ずる。

【到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)】

・自ら世界観を構築し、伝達する方法を考えることができる。
 ・論理的表現力を身につける。
 ・中間発表に向けた発信力を身につける。
 ・アニメーション用の企画書 (論文の場合は研究計画書) を作成できる
 ・アニメーション制作フローに必要なスキルを総合的に身につけることができる

【授業形態】

5【同時双方向型】

【授業計画】

第 1 回 ガイダンス
 卒業制作完成までの流れを説明/企画書の発表
 事前/企画書の作成 (180分)
 事後/企画書の作成 (180分)
 第 2 回 シナリオ/企画制作 (1)
 荒筋をつくる/企画内容を元に人員を配置する
 事前/企画書の作成 (180分)
 事後/企画書の作成 (180分)
 第 3 回 シナリオ/企画制作 (2)
 ハコ書きをつくる/提出までのスケジュール作成
 事前/実制作 (180分)
 事後/実制作 (180分)
 第 4 回 シナリオ/企画制作 (3)
 脚本の作成/物語の中心となるイメージボードを作成
 事前/実制作 (180分)
 事後/実制作 (180分)
 第 5 回 中間発表 (1)
 発表と講評/物語のシーン構成を決定する
 事前/実制作 (180分)
 事後/実制作 (180分)
 第 6 回 キャラ表/絵コンテの作成 (1)
 主要登場人物のキャラ表作成/メインキャラクターのビジュアル・内面を確立させる
 事前/実制作 (180分)
 事後/実制作 (180分)

- 第 7 回 キャラ表/絵コンテの作成 (2)
サブキャラのキャラ表作成/シーンごとの美術設定を作成する
事前/実制作 (180分)
事後/実制作 (180分)
- 第 8 回 キャラ表/絵コンテの作成 (3)
等身表の作成/アニメーションの設計図と呼ばれる絵コンテの作成
事前/実制作 (180分)
事後/実制作 (180分)
- 第 9 回 中間発表 (2)
発表と講評/アイレベル、パース感などは絵コンテのうちに決めておく
事前/実制作 (180分)
事後/実制作 (180分)
- 第 10 回 ネーム/コンテ撮制作 (1)
カメラアングルを考える/カットナンバーとカット尺は必ず記載する
事前/実制作 (180分)
事後/実制作 (180分)
- 第 11 回 ネーム/コンテ撮制作 (2)
コマ割りをつくる/全体を見通して、カット数を調整する
事前/実制作 (180分)
事後/実制作 (180分)
- 第 12 回 ネーム/コンテ撮制作 (3)
カメラアングルの再構成/世界観を決める上で音源 (劇伴)・SEは重要な選択、自作も可
事前/実制作 (180分)
事後/実制作 (180分)
- 第 13 回 ネーム/コンテ撮制作 (4)
コマ割りの再構成/絵コンテと音響を合わせる重要な作業
事前/実制作 (180分)
事後/実制作 (180分)
- 第 14 回 中間発表 (3)
発表と講評/スポンティングはこの段階のうちに調整する
事前/実制作 (180分)
事後/実制作 (180分)
- 第 15 回 ネーム/コンテ撮の完成
全体講評/コンテ撮を用いてプレゼンし、他人の意見を収集する
指導教員のチェック&リテイク
事前/実制作 (180分)
事後/実制作 (180分)

【アクティブラーニング】

- 1回：— / 2回：B,F /
3回：B,F / 4回：B,F /
5回：C,D / 6回：F /
7回：F / 8回：F /
9回：C,D / 10回：F /
11回：F / 12回：F /

13回：F / 14回：C,D /

15回：D

【事前に修得しておく必要のある科目】

・各自の分野のコアカリキュラムを履修していること。

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・主人公や登場人物のキャラクター設定、世界観に斬新性があることが望ましい。

・24ページ以上のマンガ作品、800字以上のシナリオ・小説の骨子が完成していること。

・中間発表を数回行う。この際にはパワーポイントなどを使用してプレゼンテーションをする。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

特になし

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点 (30%)：主体的な授業参加態度を評価する

②作品 (50%)：表現力・伝達力・完成度を評価する

③中間発表 (20%)：コミュニケーション力を評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・毎週、実技の進行状況を見て講評します。

【出席確認の方法】

指定のタイミングでコメント投稿 出席票、出席者リスト、リアクションペーパー、その日の課題提出など

【基本的な授業の進め方】

・課題作品中間発表や講評会など重要な会には対面での授業実施があります。(都度連絡します)

・授業説明:10分・その日の講義1:説明10分

→ 実制作:70分

・その日のチェック:10分 → 実作業:70分

・授業の振り返り10分

・その授業回によってフレキシブルに対応

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：—

5. コミュニケーション力：○

6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

コピー・オンラインで配布する。

【参考文献】

授業内で紹介する。

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板上に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

基本的な授業の進め方

卒業研究 I (古瀬)

MM501

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (I)

4年生

8単位 前期

演習/2コマ

古瀬 登

〔科目の概要および目的〕

3年間コンテンツという括りの中で学んだ集大成としての卒業制作又は卒業論文の指導を行う。

コンテンツのキーワードは共感であり、そしてそれがすべてなのだ。共感とはすべての表現に共通するキーワードだが、すべての表現において共通認識が薄い。従って共感に至らないモノもまた山のように存在する。美しい光景を見て共感した、とは言わない。これは感動だ。共に感ずるとは、人が表現したいモノや考えていることに対して感ずることを言うのである。

〔到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル) 〕

- ・アニメーション用の企画書(論文の場合は研究計画書)を作成できる

- ・2、3年次の経験を活かし、クオリティーの高いコンテンツを作成することができる

- ・スポットティングやタイミングを意識したコンテ撮影を作成できる

〔授業形態〕

5【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
企画書の発表
事前/企画書の作成(6h)
- 第 2 回 企画内容の検討～確定
企画内容を元に人員を配置する
事前/企画書の作成(6h)
- 第 3 回 年間計画
提出までのスケジュール作成
事後/課題の制作(3h)
- 第 4 回 イメージボード
物語の中心となるイメージボードを作成
事後/課題の制作(3h)
- 第 5 回 プロット・構成
物語のシーン構成を決定する
事後/課題の制作(3h)
- 第 6 回 キャラクター
メインキャラクターのビジュアル・内面を確立させる
事後/課題の制作(3h)
- 第 7 回 背景美術
シーンごとの美術設定を作成する
事後/課題の制作(3h)
- 第 8 回 絵コンテの作成(1)

アニメーションの設計図と呼ばれる絵コンテの作成

事後/課題の制作(3h)

- 第 9 回 絵コンテの作成(2)第一項のチェック
アイレベル、パース感などは絵コンテのうちに決めておく

事後/課題の制作(3h)

- 第 10 回 絵コンテの作成(3)第二項のチェック
カットナンバーとカット尺は必ず記載する
事後/課題の制作(3h)

- 第 11 回 絵コンテの作成(4)決定稿のチェック
全体を見通して、カット数を調整する
事後/課題の制作(3h)

- 第 12 回 音響の選択
世界観を決める上で音は重要な選択
自作も可

事後/課題の制作(3h)

- 第 13 回 コンテ撮の作成(1)
絵コンテと音響を合わせる重要な作業
事後/課題の制作(3h)

- 第 14 回 コンテ撮の作成(2)
スポットティングはこの段階のうちに調整する
事後/課題の制作(3h)

- 第 15 回 コンテ撮の発表・提出
コンテ撮を用いてプレゼンし、他人の意見を収集する

指導師のチェック&リテイク

事前/課題の制作(3h)

〔アクティブラーニング〕

1回 : B / 2回 : B /

3回 : B / 4回 : B /

5回 : B / 6回 : B /

7回 : B / 8回 : B /

9回 : B / 10回 : B /

11回 : B / 12回 : B /

13回 : B / 14回 : B /

15回 : B

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・卒業制作または論文の「企画」「テーマ」を自由に選択。制作においては個人制作も可

- ・随時担当教員とのミーティング、或いは指導を受けること。論文希望者は専門教員の指導を受けること

- ・授業は基本オンラインで行うが、発表時は対面にて行う

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

Adobe Photoshop, After Effects, Premiere Pro, CLIP STUDIO PAINT EX,ペンタブレット

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点 (30%) : 授業に積極的に参加できているか。スケジュールを管理できているか

②課題(70%) : 企画書の内容・完成度。コンテ撮発表でのプレゼン・内容について評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・提出後の授業で個別にコメントします

〔出席確認の方法〕

授業開始時に名前を読み上げて確認します

〔基本的な授業の進め方〕

教員からの指示を適宜受けながらグループ及び個人で制作を続ける(180分)

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：－
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
－：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件

卒業研究Ⅰ（井上）

MM501

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (I)

4年生

8単位 前期

演習/4コマ

井上 幸喜

〔科目の概要および目的〕

ゲームショー等、外部公開向けにゲームコンテンツ制作を行う。表現の手法はムービーを用いたイメージ映像や、コンピュータ上で操作するインタラクティブな作品などを想定する。ゲーム制作における問題点やそれらの解決方法や自己表現の方法を学ぶ。また、出来上がった作品をインターネットや外部のイベントを通じて発表する機会を設ける。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・自らの企画の具現化・スケジュールの管理・外部展示クオリティを有する作品を制作できる
- ・イベント企画運営の共同作業を体験する
- ・作品を第三者へプレゼンと試遊を行い、感想を回収、作品修正に必要なことが理解できる

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
本科目の概要の説明と各人の計画作り。
事前／企画草案（6時間）
- 第 2 回 企画の提出
企画の評価と指導を行う。
事後／プレゼンシートの完成（4時間）
- 第 3 回 企画テーマ発表Ⅰ
企画をプレゼンし、意見を収集し企画に反映する。
事後／企画書完成（4時間）
- 第 4 回 企画テーマ発表Ⅱ
企画をプレゼンし、意見を収集し企画に反映する。
事後／企画書完成（4時間）
- 第 5 回 作業進捗会議（1）
進捗状況を報告し合い、必要な修正又は、助言を受ける。
作品制作(20時間)
- 第 6 回 作業進捗会議（2）
進捗状況を報告し合い、必要な修正又は、助言を受ける。
作品制作（20時間）
- 第 7 回 制作進捗の見極めⅠα版
進捗をプレゼンし、意見を聞き、必要な指導を受ける。
事前／α試遊版と企画書の完成（15時間）
- 第 8 回 作業進捗会議（3）
進捗状況を報告し合い、必要な修正又は、助言を受ける。
作品制作（20時間）
- 第 9 回 作業進捗会議（4）
進捗状況を報告し合い、必要な修正又は、助言を受ける。
作品制作(20時間)
- 第 10 回 制作進捗の見極めⅡβ版
進捗をプレゼンし、意見を聞き、必要な指導を受ける。
作品制作（20時間）
- 第 11 回 作業進捗会議（5）
進捗状況を報告し合い、必要な修正又は、助言を受ける。
事前／β試遊版と企画書の完成（15時間）
- 第 12 回 作業進捗会議（6）
進捗状況を報告し合い、必要な修正又は、助言を受ける。
作品制作（20時間）
- 第 13 回 制作進捗の見極めⅢリリース版
進捗をプレゼンし、意見を聞き、必要な指導を受ける。
作品制作（20時間）
- 第 14 回 成果発表Ⅰ
各人、各チームの成果をプレゼンテーションする。
事後／プレゼン準備（4時間）
- 第 15 回 成果発表Ⅱ

各人、各チームの成果をプレゼンテーションし、総評を行う。

事後／プレイデモ、プレゼンシート完成（16時間）

〔アクティブラーニング〕

1回：E / 2回：C,E /
3回：C,E / 4回：C,E /
5回：C / 6回：C /
7回：C,E / 8回：C /
9回：C / 10回：C /
11回：C / 12回：C /
13回：C,E / 14回：C,E /
15回：C,E

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

・「ゲーム企画演習Ⅳ」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・最低限個人にて習得したツールを駆使しコンテンツの作成を企画より完成、展示法を提案できる技能を有する者。各自展示には自己出費が必要となります。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

Adobeアプリ各種

Unity、maya、ue、他

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点（30%）：授業態度
②中間提出物α版、β版（30%）：完成度、クオリティ
③最終提出展示評価（40%）：完成度、クオリティ

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・個々面談、進行確認後制作アドバイスとスケジュール確認を行う

・外部被験者より感想をヒアリング

〔出席確認の方法〕

授業内点呼

〔基本的な授業の進め方〕

開始～15分TOPICS業界の情報や市場動向について

15分～出席点呼・課題提出確認

20分～360分授業（個別指導）（全体進捗プレゼン）

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

科目の概要および目的

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

卒業研究Ⅰ（吉岡）

MM501

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 前期

演習/4コマ

吉岡 章夫

〔科目の概要および目的〕

ゲームショー等、外部公開向けにゲームコンテンツ制作を行う。表現の手法はムービーを用いたイメージ映像や、コンピュータ上で操作するインタラクティブな作品などを想定する。ゲーム制作における問題点やそれらの解決方法や自己表現の方法を学ぶ。また、出来上がった作品をインターネットや外部のイベントを通じて発表する機会を設ける。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・自らの企画の具現化・スケジュールの管理・外部展示クオリティを有する作品を制作できる
- ・イベント企画運営の共同作業を体験する
- ・作品を第三者へプレゼンと試遊を行い、感想を回収、作品修正に必要なことが理解できる

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション
本科目の概要の説明と各人の計画作り。
事前／企画草案 6時間
- 第2回 企画の提出
企画の評価と指導を行う。
事後／プレゼンシートの完成(4時間)
- 第3回 企画テーマ発表Ⅰ
企画をプレゼンし、意見を収集し企画に反映する。
事後／企画書完成（4時間）
- 第4回 企画テーマ発表Ⅱ
企画をプレゼンし、意見を収集し企画に反映する。
事後／企画書完成（4時間）
- 第5回 作業進捗会議（1）
進捗状況を報告し合い、必要な修正又は、助言を受ける。
作品制作(20時間)
- 第6回 作業進捗会議（2）
進捗状況を報告し合い、必要な修正又は、助言を受ける。
作品制作(20時間)
- 第7回 制作進捗の見極めⅠα版
進捗をプレゼンし、意見を聞き、必要な指導を受ける。
事前／α試遊版と企画書の完成(15時間)
- 第8回 作業進捗会議（3）

- 進捗状況を報告し合い、必要な修正又は、助言を受ける。
作品制作(20時間)
- 第 9 回 作業進捗会議 (4)
進捗状況を報告し合い、必要な修正又は、助言を受ける。
作品制作(20時間)
- 第 10 回 制作進捗の見極めⅡβ版
進捗をプレゼンし、意見を聞き、必要な指導を受ける。
作品制作(20時間)
- 第 11 回 作業進捗会議 (5)
進捗状況を報告し合い、必要な修正又は、助言を受ける。
事前/β試遊版と企画書の完成 (15時間)
- 第 12 回 作業進捗会議 (6)
進捗状況を報告し合い、必要な修正又は、助言を受ける。
作品制作(20時間)
- 第 13 回 制作進捗の見極めⅢリリース版
進捗をプレゼンし、意見を聞き、必要な指導を受ける。
作品制作(20時間)
- 第 14 回 成果発表Ⅰ
各人、各チームの成果をプレゼンテーションする。
事後/プレゼン準備 (4時間)
- 第 15 回 成果発表Ⅱ
各人、各チームの成果をプレゼンテーションし、総評を行う。
事後/プレイデモ、プレゼンシート完成 (16時間)

〔アクティブラーニング〕

- 1回 : E / 2回 : C,E /
3回 : C,E / 4回 : C,E /
5回 : C / 6回 : C /
7回 : C,E / 8回 : C /
9回 : C / 10回 : C /
11回 : C / 12回 : C /
13回 : C,E / 14回 : C,E /
15回 : C,E

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

- ・「ゲーム企画演習Ⅳ」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・最低限個人にて習得したツールを駆使しコンテンツの作成を企画より完成、展示法を提案できる技能を有する者。各自展示には自己出費が必要となります。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

Adobeアプリ各種

Unity、maya、ue、他

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点 (30%) : 授業態度
②中間提出物α版、β版 (30%) : 完成度、クオリティ
③最終提出展示評価 (40%) : 完成度、クオリティ

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・個々面談、進行確認後制作アドバイスとスケジュール確認を行う
- ・外部被験者より感想をヒアリング

〔出席確認の方法〕

授業内点呼

〔基本的な授業の進め方〕

開始～15分TOPICS業界の情報や市場動向について
15分～出席点呼・課題提出確認
20分～360分授業 (個別指導) (全体進捗プレゼン)

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力 : ◎
2. 表現力 : ◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力 : △
4. 課題発見力・課題解決力 : ○
5. コミュニケーション力 : △
6. 専門的知識・技能の活用力 : ◎

【◎ : 特に関連が強い ○ : 関連が強い △ : 関連がある
— : 関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

卒業研究Ⅰ (増田)

MM501

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 前期

演習/4コマ

増田 宗嶺

〔科目の概要および目的〕

ゲームショウ等、外部公開向けにゲームコンテンツ制作を行う。表現の手法はムービーを用いたイメージ映像や、コンピュータ上で操作するインタラクティブな作品などを想定する。ゲーム制作における問題点やそれらの解決方法や自己表現の方法を学ぶ。また、出来上がった作品をインターネットや外部のイベントを通じて発表する機会を設ける。

〔到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル) 〕

- ・自らの企画の具現化・スケジュールの管理・外部展示クオリティを有する作品を制作できる
- ・イベント企画運営の共同作業を体験する
- ・作品を第三者へプレゼンと試遊を行い、感想を回収、作品修正に必要なことが理解できる

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
本科目の概要の説明と各人の計画作り。
事前：企画草案（6h）
- 第 2 回 企画の提出
企画の評価と指導を行う。
事後：プレゼンシートの完成（4h）
- 第 3 回 企画テーマ発表 I
企画をプレゼンし、意見を収集し企画に反映する。
事後：企画書完成（4h）
- 第 4 回 企画テーマ発表 II
企画をプレゼンし、意見を収集し企画に反映する。
事後：企画書完成（4h）
- 第 5 回 作業進捗会議（1）
進捗状況を報告し合い、必要な修正又は、助言を受ける。
事後：作品制作（20h）
- 第 6 回 作業進捗会議（2）
進捗状況を報告し合い、必要な修正又は、助言を受ける。
事後：作品制作（20h）
- 第 7 回 制作進捗の見極め I α版
進捗をプレゼンし、意見を聞き、必要な指導を受ける。
事前：α試遊版と企画書の完成（15h）
- 第 8 回 作業進捗会議（3）
進捗状況を報告し合い、必要な修正又は、助言を受ける。
事後：作品制作（20h）
- 第 9 回 作業進捗会議（4）
進捗状況を報告し合い、必要な修正又は、助言を受ける。
事後：作品制作（20h）
- 第 10 回 制作進捗の見極め II β版
進捗をプレゼンし、意見を聞き、必要な指導を受ける。
事後：作品制作（20h）
- 第 11 回 作業進捗会議（5）
進捗状況を報告し合い、必要な修正又は、助言を受ける。
事前：β試遊版と企画書の完成（15h）
- 第 12 回 作業進捗会議（6）
進捗状況を報告し合い、必要な修正又は、助言を受ける。
事後：作品制作（20h）
- 第 13 回 制作進捗の見極め III リリース版
進捗をプレゼンし、意見を聞き、必要な指導を受ける。
事後：作品制作（20h）
- 第 14 回 成果発表 I
各人、各チームの成果をプレゼンテーションする。
事後：プレゼン準備（4h）

第 15 回 成果発表 II

各人、各チームの成果をプレゼンテーションし、総評を行う。

事後：プレイデモ、プレゼンシート完成（16h）

〔アクティブラーニング〕

1回：C,E / 2回：— /

3回：— / 4回：— /

5回：— / 6回：— /

7回：E / 8回：C,E /

9回：— / 10回：C /

11回：E / 12回：— /

13回：C / 14回：C,E /

15回：C,E

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

「ゲーム企画演習IV」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

最低限個人にて習得したツールを駆使しコンテンツの作成を企画より完成、展示法を提案できる技能を有する者。各自展示には自己出費が必要となります。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

Adobeアプリ各種

Unity、Maya、UE4、他

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点（30%）：授業態度

②中間提出物α版、β版（30%）：完成度、クオリティ

③最終提出展示評価（40%）：完成度、クオリティ

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・個々面談、進行確認後制作アドバイスとスケジュール確認を行う

・外部被験者より感想をヒアリング

〔出席確認の方法〕

授業内点呼

〔基本的な授業の進め方〕

開始～15分TOPICS業界の情報や市場動向について

15分～出席点呼・課題提出確認

20分～360分授業（個別指導）（全体進捗プレゼン）

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：△

4. 課題発見力・課題解決力：○

5. コミュニケーション力：△

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

事前に修得しておく必要のある科目

卒業研究 I (北見)

MM501
東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)
4年生
8単位 前期
演習/2コマ

北見 隆

【科目の概要および目的】

・授業の概要：イラストレーション分野4年間の総まとめ的な実技授業である。本年度用作品集のためのイラストレーションの制作をはじめ、3年間に学んだスキルを用いた「卒業制作に連なる作品」の制作の他、卒業制作のチェックや中間発表が行われる。状況を見ながら、5回程度の対面授業、10回程度のオンライン授業を予定している。手書き、デジタル共に制作方法は自由とする。また社会状況を見ながら、校外授業等も行う予定である。

・科目の目的：3年間に身に付けた技術の応用と展開を行い、自己のスキルを再確認しながら、更に完成度の高い作品を目指し、自己の足りない部分は再学習を行いながら制作を進めていく。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

・講師による個別指導のもと、質量共に伴った、完成度の高い作品を完遂させることができる。

・卒業制作の企画から製作、展示方法等を考える作業を通し、4年間で客観的に振り返り、自己が進むべき道や作風を、確認、確立することができる。

・様々な課題を通して、社会に出てからも役立つスキルの再確認と、再学習を行うことができる。

・作品展示と自己作品のプレゼンテーションを通して、コミュニケーションスキルを向上させる事ができる。

【授業形態】

5【同時双方向型】

【授業計画】

- 第1回 作品集のためのイラストレーション制作(1)
授業オリエンテーション、卒業制作の企画に関するアンケート作品集の為のアイデアスケッチを何案か提出
事前学習(授業概要の認識/30分)
事後学習(描画練習/1時間)
- 第2回 作品集のためのイラストレーション制作(2)
アイデアスケッチをもとに、下書きを描く。
事前学習(授業概要の認識/30分)
事後学習(描画練習/1時間)
- 第3回 作品集のためのイラストレーション制作(3)
イラストレーション制作。
事前学習(授業概要の認識/30分)
事後学習(描画練習/1時間)
- 第4回 作品集のためのイラストレーション制作(4)

学生による完成作品プレゼンテーションと講評会。

第一回の卒業制作の企画発表。

事前学習(授業概要の認識/30分)

事後学習(描画練習/1時間)

第5回 学外学習(予定)

例：深大寺遠足(絵付け体験等)。状況に応じて予定変更。

事前学習(授業概要の認識/30分)

事後学習(描画練習/1時間)

第6回 卒業制作試作(1)

卒業制作に繋がる作品、もしくはB1サイズ作品を制作する。現状発表の後、アイデアを講師と個別に相談する。

事前学習(授業概要の認識/30分)

事後学習(描画練習/1時間)

第7回 卒業制作試作(2)

卒業制作に繋がる作品制作。

事前学習(授業概要の認識/30分)

事後学習(描画練習/1時間)

第8回 卒業制作試作(3)

卒業制作に繋がる作品制作。

事前学習(授業概要の認識/30分)

事後学習(描画練習/1時間)

第9回 卒業制作試作(4)

卒業制作に繋がる作品制作。

事前学習(授業概要の認識/30分)

事後学習(描画練習/1時間)

第10回 卒業制作企画発表

第二回の卒業制作の企画発表。卒業制作試作作品講評会。

事前学習(授業概要の認識/30分)

事後学習(描画練習/1時間)

第11回 「卒業」をテーマにした作品制作(1) 卒制個別相談

卒業をテーマにした作品制作。(例：アルバム、自己作品集等)

平行して、この期間、卒業制作に関する個人面談も行われる。

事前学習(授業概要の認識/30分)

事後学習(描画練習/1時間)

第12回 「卒業」をテーマにした作品制作(2) 卒制個別相談

卒業をテーマにした作品制作。講師によるアイデアチェックの後、制作に入る。

事前学習(授業概要の認識/30分)

事後学習(描画練習/1時間)

第13回 「卒業」をテーマにした作品制作(3) 卒制個別相談

卒業をテーマにした作品制作。

事前学習(授業概要の認識/30分)

事後学習(描画練習/1時間)

第14回 「卒業」をテーマにした作品制作(4) 卒制個別相談

卒業をテーマにした作品、講評会。完成作品プレゼンテーションと講評会。

事前学習（授業概要の認識/30分）

事後学習（描画練習/1時間）

第15回 卒業制作企画発表

第三回の卒業制作の企画発表。卒業制作のレジメを用意してくる。

事前学習（授業概要の認識/30分）

事後学習（描画練習/1時間）

【アクティブラーニング】

1回：D / 2回：E /

3回：E / 4回：C /

5回：D / 6回：C /

7回：E / 8回：E /

9回：E / 10回：C /

11回：D / 12回：E /

13回：E / 14回：C /

15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

・イラストレーション分野のコアカリキュラム。

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・学生時代最後にふさわしい、完成度の高い作品を提出すること。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

オンライン提出の場合は、デジタルカメラ（カメラ付き携帯電話可）また作品をPCで作画する学生は、任意の作画ソフト。

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①課題（70%）：表現力・完成度を評価する。

②平常点（30%）：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・課題ごとに全体講評会が行われる。
- ・作品裏に採点が記入され、返却される。

【出席確認の方法】

チャットと音声による確認。

【基本的な授業の進め方】

講師による講義（40分）、課題制作（130分）出席確認（10分）。作品講評のある日の場合は、講義（20分）、課題制作（60分）講評（60分）、次回課題説明（30分）、出席確認（10分）程度の配分を予定。制作時間中に14分程度の面談が行われる場合もある。

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

無し

【参考文献】

無し

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

事前に修得しておく必要のある科目

卒業研究Ⅰ（渡邊）

MM501

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 前期

演習/2コマ

渡邊 哲意

【科目の概要および目的】

アドバタイジング・クリエイティブ・マルチメディアなど各自将来の進路を念頭に制作分野を選択し、実践的な計画立案、制作を行う。各自の企画書やアイデアスケッチなどをもとに選定テーマに合わせた個別指導を行う。この授業を通じて時代を見据えたこれから求められるデザインスキル（デザインに何が必要か、人々の生活にとって真に必要なデザインの企画提案実行力）を身につける。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・コンテンツのデザイン企画ができる
- ・デザイン方法論を実践できる
- ・考えた企画を発表できる
- ・企画を作品として表現できる
- ・制作した作品を発表できる
- ・外部発信できる作品制作・提案ができる

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第1回 ガイダンス・講義

授業の進め方を説明、コンテンツデザインの概要説明、課題に対してディスカッション

復習：授業振り返り、次週の準備(18時間)

第2回 講義・演習（1）

課題のコンテンツに対し調査、分析、アイデア出し
予習：課題準備（22時間）

第3回 講義・演習（2）

分析、アイデア出し
復習：調査（22時間）

第4回 講義・演習（3）

分析結果・アイデアの整理、個別指導
復習：アイデアの再考（22時間）

第5回 講義・演習（4）

分析結果・アイデアの整理、資料化
復習：資料化（22時間）

第6回 発表

- プレゼンテーション
予習：制作完成、プレゼンテーション準備（28時間）
- 第 7 回 研究テーマの設定（1）
テーマ設定と企画書の作成
予習：研究テーマを考える（22時間）
- 第 8 回 研究テーマの設定（2）
企画内容についての個別指導
予習：研究テーマを考える（22時間）
- 第 9 回 アイデアスケッチ（1）
個別指導による再考、修正、追加
復習：アイデアの再考（20時間）
- 第 10 回 アイデアスケッチ（2）
最終表現決定
復習：デザイン制作に向けての準備（22時間）
- 第 11 回 デザイン制作（1）
最終完成に向けて制作開始
予習：制作準備（22時間）
- 第 12 回 デザイン制作（2）
表現方法や技術的指導
予習：進行報告準備（20時間）
- 第 13 回 デザイン制作（3）
表現方法や技術的指導
予習：進行報告準備（20時間）
- 第 14 回 デザイン制作（4）
表現方法や技術的指導
予習：進行報告準備（20時間）
- 第 15 回 作品審査
プレゼンテーション
予習：制作完成、プレゼンテーション準備（28時間）

【アクティブラーニング】

- 1回：A / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：E / 6回：C /
7回：E / 8回：E /
9回：E / 10回：E /
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

- ・「コンテンツデザイン演習」

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

社会力・観察力・発見力・分析力・企画力・表現力・実行力を習得する意欲

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

ー

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①制作進行（20%）：計画的な制作進行度を評価する
②企画発表（30%）：企画の立案精度を評価する
③課題発表（30%）：制作意図の伝達度を評価する
④発表聴講（20%）：他の発表者との意見交換度を評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・課題発表後、評価・コメントします

【出席確認の方法】

授業開始時の点呼

【基本的な授業の進め方】

出席確認・授業説明 20分
各自の制作進行/制作指導 140分
授業まとめ/次回の確認事項 20分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
ー：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

卒業研究 I（中村）

MM501

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 前期

演習/1コマ

中村 泰之

【科目の概要および目的】

グラフィックデザインを中心として各自将来の進路を念頭に制作分野を選択し、卒業研究の企画立案、制作を行う。各自企画した卒業研究の計画書を元にテーマを設定し、個別指導を行う。

まずテーマについてのリサーチを行いレポートにまとめ、リサーチの成果を元にして作品制作を開始する。作品制作の過程は記録し、最終的にリサーチのレポートと合わせて卒業論文の形式にまとめる。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・デザイン企画の立案をすることができる
- ・企画に必要なリサーチを行うことができる
- ・リサーチの成果をレポートにまとめることができる
- ・リサーチの成果を作品制作に活用することができる
- ・作品を適切に記録・展示することができる

【授業形態】

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 卒業研究についての全体説明
卒業研究の内容、進め方を概説する
事後/授業内容の復習(1時間)
- 第 2 回 研究テーマの設定1 リサーチ
各自の研究テーマについてのリサーチを行う
事前/研究テーマについてのリサーチ(2時間)
事後/研究テーマについてのリサーチ(2時間)
- 第 3 回 研究テーマの設定2 分析・整理
リサーチ結果を分析・整理してテーマの設定を行う
事前/研究テーマについてのリサーチ(2時間)
事後/プレゼンテーションの準備(3時間)
- 第 4 回 研究テーマの設定3 プレゼンテーション
設定したテーマについてプレゼンテーションとディスカッションを行う
事前/プレゼンテーションの準備(2時間)
事後/ディスカッション結果の整理(2時間)
- 第 5 回 研究テーマのリサーチ1 リサーチ
研究テーマについてより深くリサーチする
事前/研究テーマについてのリサーチ(2時間)
事後/研究テーマについてのリサーチ(2時間)
- 第 6 回 研究テーマのリサーチ2 分析・整理
リサーチ結果を分析・整理してレポートにまとめる内容を検討する
事前/研究テーマについてのリサーチ(2時間)
事後/プレゼンテーションの準備(3時間)
- 第 7 回 研究テーマのリサーチ3 プレゼンテーション
レポートにまとめる内容についてプレゼンテーションとディスカッションを行う
事前/プレゼンテーションの準備(2時間)
事後/ディスカッション結果の整理(2時間)
- 第 8 回 研究テーマのレポート作成1 分析・整理
レポートの作成のため情報を整理する
事前/研究テーマについてのリサーチ(2時間)
事後/研究テーマについてのリサーチ(2時間)
- 第 9 回 研究テーマのレポート作成2 文章作成
レポートを作成する
事前/研究テーマについてのリサーチ(2時間)
事後/研究テーマについてのリサーチ(2時間)
- 第 10 回 研究テーマのレポート作成3 推敲
作成したレポートの内容を推敲する
事前/研究テーマについてのリサーチ(2時間)
事後/研究テーマについてのリサーチ(2時間)
- 第 11 回 デザイン企画1 分析・整理
レポートの内容を元にデザイン企画を検討する
事前/研究テーマについてのリサーチ(2時間)
事後/研究テーマについてのリサーチ(2時間)
- 第 12 回 デザイン企画2 企画書作成
企画書を作成する
事前/研究テーマについてのリサーチ(2時間)
事後/研究テーマについてのリサーチ(2時間)
- 第 13 回 デザイン企画3 推敲

企画書を推敲する

事前/研究テーマについてのリサーチ(2時間)
事後/研究テーマについてのリサーチ(2時間)

第 14 回 デザイン企画4 まとめ

レポート、デザイン企画書を完成させる
事前/研究テーマについてのリサーチ(2時間)
事後/研究テーマについてのリサーチ(2時間)

第 15 回 レポート・デザイン企画中間審査

レポート、デザイン企画書の中間審査を行う
事前/研究テーマについてのリサーチ(2時間)
事後/審査結果の整理(3時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：— /

3回：— / 4回：C,D /

5回：— / 6回：— /

7回：C,D / 8回：— /

9回：— / 10回：— /

11回：— / 12回：— /

13回：— / 14回：— /

15回：C,D

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

「デザイン概論Ⅰ,Ⅱ」「デザインサーベイ」「コンテンツデザイン演習」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

デザインを企画・リサーチ・制作する意欲

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

1.計画(20%):計画通り作業が進行しているかどうかを評価する

2.レポート(40%):テーマに沿ってリサーチがなされているか、文章・表記が適切かどうかを評価する

3.企画書(40%):リサーチの成果を取り入れて企画がなされているかを評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

個別指導、プレゼンテーションの際コメントする

〔出席確認の方法〕

点呼による

〔基本的な授業の進め方〕

全体的な連絡10分

個別指導もしくはプレゼンテーション60分

全体でのディスカッション20分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：△

4. 課題発見力・課題解決力：◎

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲載）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

事前に修得しておく必要のある科目

卒業研究Ⅰ（近藤）

MM501

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 前期

演習/1コマ

近藤 真彰

〔科目の概要および目的〕

卒業研究の準備科目となる。基本および専門的情報を整理しながら研究テーマを掘り下げて、学術論文にふさわしい構成を考えながら、小テーマについてレポートを作成していく。関心のあるテーマについてその特徴や背景を客観的に分析したうえで自分の問題意識を明確にし、それを論じるための情報の扱い方、言葉の使い方を習得する。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・研究計画を立てることができる
- ・関心があるテーマについて適切な問いを立てることができる
- ・作品やテーマについて必要な情報収集ができる
- ・自分が持っている情報や考えを論理的に他者に伝えることができる

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODククション
授業の進め方の説明
事前/シラバスを読む(30分)
- 第 2 回 研究計画書の作成
研究に関わるデータを言葉にして整理する
事前/事前調査(2時間)
事後/復習・確認(2時間)
- 第 3 回 情報を集める (1)
辞典や事典、文献、インターネットの使い方を学ぶ
事前/研究テーマの整理 (2時間)
事後/復習・確認 (3時間)
- 第 4 回 情報を集める (2)
図書室を使って情報を集める
事前/研究テーマの整理 (2時間)
事後/復習・確認 (3時間)
- 第 5 回 レポート作成準備：研究計画
テーマを決めて、情報を収集、構成し、レポートを作成する

事前/事前調査 (3時間以上)

事後/復習・確認 (3時間以上)

第 6 回 レポート作成

事前/事前調査 (3時間以上)

事後/復習・確認 (3時間以上)

第 7 回 レポート作成準備：テーマの論述

テーマを決めて、情報を収集、構成し、レポートを作成する

事前/事前調査 (3時間以上)

事後/復習・確認 (3時間以上)

第 8 回 レポート作成

事前/事前調査 (3時間以上)

事後/復習・確認 (3時間以上)

第 9 回 レポート作成準備：関連・背景のリサーチ

テーマを決めて、情報を収集、構成し、レポートを作成する

事前/事前調査 (3時間以上)

事後/復習・確認 (3時間以上)

第 10 回 レポート作成

事前/事前調査 (3時間以上)

事後/復習・確認 (3時間以上)

第 11 回 レポート作成準備：問題提起

テーマを決めて、情報を収集、構成し、レポートを作成する

事前/事前調査 (3時間以上)

事後/復習・確認 (3時間以上)

第 12 回 レポート作成

事前/事前調査 (3時間以上)

事後/復習・確認 (3時間以上)

第 13 回 レポート作成準備：論文構成と結論

テーマを決めて、情報を収集、構成し、レポートを作成する

事前/事前調査 (3時間以上)

事後/復習・確認 (3時間以上)

第 14 回 レポート作成

事前/事前調査 (3時間以上)

事後/復習・確認 (3時間以上)

第 15 回 まとめ

論文作成のポイントを復習する

事前/整理(3時間)

事後/内容の復習(3時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：E / 2回：E,C /

3回：E / 4回：E /

5回：E,C / 6回：E /

7回：E,C / 8回：E /

9回：E,C / 10回：E /

11回：E,C / 12回：E /

13回：E,C / 14回：E /

15回：E,C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・気になった情報や浮かんだアイデアのメモを取ること
を習慣づけること

・研究テーマに関わる資料を集め、整理、分析すること
・疑問、問題がある場合は早めに担当教員に相談すること

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

原則として対面で行うが、オンラインの場合はTeamsでの受講、wordでのコースワークの作成ができること

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①授業における取り組みを含めた平常点（40%）：必要な情報収集ができていないか、特徴や問題を客観的に理解しているか

②レポート（60%）：卒業研究（論文）に向けたテーマと要点が論理的にまとまっているか。研究論文の構成を理解しているか。正確なリサーチが行えているか。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

提出後の授業で個別にコメントする

〔出席確認の方法〕

各授業で進捗について面談

〔基本的な授業の進め方〕

5分 授業説明

15分 講義（ppt）

60分 制作・執筆（教員による各自の指導）

10分 要点確認

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎

2. 表現力：○

3. 社会貢献力・コラボレーション力：○

4. 課題発見力・課題解決力：◎

5. コミュニケーション力：○

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

〔教科書〕

適宜資料を配布する

〔参考文献〕

授業で適宜紹介する

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、基本的な授業の進め方

卒業研究Ⅰ（橋口）

MM501

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 前期

演習/1コマ

橋口 静思

〔科目の概要および目的〕

卒業研究（作品制作・論文執筆）に向けた準備科目として、必要となる基本および専門的情報を整理しながら研究テーマを掘り下げて、作品制作・学术论文にふさわしい構成を考えていく。関心のあるテーマについてその特徴や背景を客観的に分析したうえで自分の問題意識を明確にし、それを論じるための情報の扱い方、言葉の使い方を習得する。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・卒業研究計画を立てることができる
- ・卒業研究の具体的な内容を考えることができる
- ・作品やテーマについて必要な情報収集ができる
- ・自分が持っている情報や考えを論理的に他者に伝えることができる

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第1回	イントロダクション 授業の進め方の説明 事前/シラバスを読む 事後/計画立て	(時間)1 (時間)2
第2回	情報の整理 研究に関わるデータを言葉にして整理する 事前/研究テーマの整理 事後/復習・確認	(時間)2 (時間)2
第3回	情報を集める（1） 辞典や事典、文献、インターネットの使い方を学ぶ 事前/研究テーマの整理 事後/復習・確認	(時間)2 (時間)2
第4回	情報を集める（2） 図書室を使って情報を集める 事前/事前調査 事後/復習・確認	(時間)4 (時間)4
第5回	レポート作成準備（1）研究計画 テーマを決めて、情報を収集、構成し、レポートを作成する 事前/事前調査 事後/復習・確認	(時間)4 (時間)4
第6回	レポート作成（1）研究計画 事前/事前調査 事後/復習・確認	(時間)4 (時間)4
第7回	レポート作成準備（2）テーマの特徴 テーマを決めて、情報を収集、構成し、レポートを作成する 事前/事前調査 事後/復習・確認	(時間)4 (時間)5

第 8 回	レポート作成 (2) テーマの特徴 事前/事前調査 (時間)4 事後/復習・確認 (時間)4
第 9 回	レポート作成準備 (3) 関連・背景 テーマを決めて、情報を収集、構成し、レポートを作成する 事前/事前調査 (時間)4 事後/復習・確認 (時間)4
第 10 回	レポート作成 (3) 関連・背景 事前/事前調査 (時間)4 事後/復習・確認 (時間)4
第 11 回	レポート作成準備 (4) 問題提起 テーマを決めて、情報を収集、構成し、レポートを作成する 事前/事前調査 (時間)4 事後/復習・確認 (時間)4
第 12 回	レポート作成 (4) 問題提起 事前/事前調査 (時間)4 事後/復習・確認 (時間)4
第 13 回	レポート作成準備 (5) 論文構成 テーマを決めて、情報を収集、構成し、レポートを作成する 事前/事前調査 (時間)4 事後/復習・確認 (時間)4
第 14 回	レポート作成 (5) 論文構成 事前/事前調査 (時間)4 事後/復習・確認 (時間)4
第 15 回	まとめ 作品・論文作成のポイントを復習する 事前/研究の整理 (時間)3 事後/内容の復習 (時間)4

【アクティブラーニング】

1回：C,E / 2回：C,E /
3回：C,E / 4回：C,E /
5回：C,E / 6回：C,E /
7回：C,E / 8回：C,E /
9回：C,E / 10回：C,E /
11回：C,E / 12回：C,E /
13回：C,E / 14回：C,E /
15回：C,E

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・履修にあたっては、担当教員による選考を行います
・日常的にさまざまな芸術に接し、文献を読み、自分の関心を確認していく

・気になったこと、浮かんだアイデアのメモを取る

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

teams/その他制作に必要なソフト (各自指示します)

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①授業における取り組みを含めた平常点 (50%)：必要な情報収集ができていないか、特徴や問題を客観的に理解しているか

②成果報告 (50%)：卒業研究 (論文) に向けたテーマと要点が適切にまとまっているか

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・提出後の授業で各自にコメントします

【出席確認の方法】

出席点呼

【基本的な授業の進め方】

- 1：授業内容解説：20分
- 2：各自作業：80分
- 3：フィードバック：30分
- 4：FBを受けて制作：50分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：○
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

卒業研究 I (神林)

MM501

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 前期

演習/2コマ

神林 優

【科目の概要および目的】

個々の研究テーマを設定し、担当教員のアドバイス、技術指導を受けながら卒業制作展に向けて制作と研究を行う。写真または映像作品の企画を考え、そのプレゼンテーション、制作、発表、講評を行う。作ることと見せることを実践するだけでなく、お互いの作品を鑑賞し講評することで、自分の作品を客観的に捉え、より洗練させていく。習得した知識、技術を総動員し卒業制作作品を制作・発表する。同時に自身、自作の歴史や現代の広がりにおける位置とその価値を理論的に考察し導き出す。

【到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)】

- ・卒業制作、研究の計画を立てることができる
- ・卒業制作、研究の具体的な内容を考えることができる

- ・ 作品やテーマについて必要な情報収集ができる
- ・ リサーチの成果を作品制作に活用することができる

【授業形態】

6 【対面型】

【授業計画】

第 1 回 ガイダンス

卒業研究の進め方について

事前/シラバスををよく読む (1.5時間)

事後/授業で学んだことをまとめる (1.5時間)

第 2 回 講義とディスカッション①写真の歴史

近代 ムーデンベルグの印刷技術の発明から写真の発明

・ テクノコードの誕生

・ 写真が美術館へ(1938年にMoMAで初の写真展)

・ ネイチャーランドスケープからソーシャルランドスケープへ

事前/写真史についてリサーチする (1.5時間)

事後/授業で学んだことをまとめる (1.5時間)

第 3 回 講義とディスカッション②コンセプトと作品

写真から始まったコンセプチュアルアート

・ ヨーゼフ・コスース 「一つと三つの椅子」

ホームビデオの誕生

・ 1965年に発売された携帯型ビデオカメラとナム・ジュンパイク

・ ヴィト・アコンチ、ジョン・バルデッサリ、松本俊夫など

事前/コンセプチュアルアートやビデオアートについてリサーチする (1.5時間)

事後/授業で学んだことをまとめる (1.5時間)

第 4 回 講義とディスカッション③スペクタクルの時代

インスタ映えの社会

・ 『スペクタクルの時代』ギ・ドゥポール

・ iPhone (スマートフォン) やSNSで世界はどう変わったか

・ 全てがスペクタクル化した社会で何を考え、どう振る舞うのかを考える

事前/『スペクタクルの時代』についてリサーチする (1.5時間)

事後/授業で学んだことをまとめる (1.5時間)

第 5 回 作品・研究のテーマ構築①作品考察

好きな写真集・嫌いな写真集をピックアップしその理由をプレゼンし討論する

事前/好きな写真集・嫌いな写真集を準備する (1.5時間)

事後/授業で学んだことをまとめる (1.5時間)

第 6 回 作品・研究のテーマ構築②リサーチ

自身の関心のあるテーマ (人、社会、その他) をリサーチしレポートを作成する

事前/自身の関心のあるテーマについてリサーチする (1.5時間)

事後/自身の関心のあるテーマについてまとめる (1.5時間)

第 7 回 作品・研究のテーマ発表

作品・研究テーマをプレゼンテーションする

事前/プレゼンテーションに準備をする (1.5時間)

事後/プレゼンテーションで得た気づきをまとめる (1.5時間)

第 8 回 作品・研究のテーマリサーチ①先行作品リサーチ

設定した作品・研究テーマについて、先行作品や研究をリサーチする

個別指導によるリサーチサポート

事前/自身のテーマについてリサーチする (1.5時間)

事後/リサーチの結果についてまとめる (1.5時間)

第 9 回 作品・研究のテーマリサーチ②先行研究リサーチ

設定した作品・研究テーマについて、先行作品や研究をリサーチしまとめる

個別指導によるリサーチサポート

事前/自身のテーマについてリサーチする (1.5時間)

事後/リサーチの結果についてまとめる (1.5時間)

第 10 回 作品・研究のテーマリサーチ発表

リサーチについてプレゼンテーションとディスカッションを行う

事前/プレゼンテーションに準備をする (1.5時間)

事後/プレゼンテーションで得た気づきをまとめる (1.5時間)

第 11 回 制作・研究企画及び計画書①企画立案

制作・研究の企画及び計画書の作成

個別指導による推敲、修正

事前/企画及び計画書を作成する (1.5時間)

事後/企画及び計画書を推敲、修正する (1.5時間)

第 12 回 制作・研究企画及び計画書②コンセプト

制作・研究の企画及び計画書の作成

個別指導による推敲、修正

事前/企画及び計画書を推敲、修正する (1.5時間)

事後/企画及び計画書を推敲、修正する (1.5時間)

第 13 回 制作・研究企画及び計画書③作品について

制作・研究の企画及び計画書の作成

個別指導による推敲、修正

事前/企画及び計画書を推敲、修正する (1.5時間)

事後/企画及び計画書を推敲、修正する (1.5時間)

第 14 回 制作・研究企画及び計画書④計画作成

制作・研究の企画及び計画書を完成させる
個別指導による推敲、修正

事前/企画及び計画書を推敲、修正する (1.5時間)
事後/企画及び計画書を推敲、修正する (1.5時間)

第 15 回 中間審査
卒業制作、研究について中間発表を行い審査する

事前/プレゼンテーションに準備をする (1.5時間)
事後/プレゼンテーションで得た気づきをまとめる (1.5時間)

〔アクティブラーニング〕

1~4、6、8、9、11~14：A、E

5、7、10、15：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

撮影技術Ⅰ、Ⅱ

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

撮影のみならず、写真史、写真評論への関心も高めておくこと。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

Adobeを利用できるPC環境

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

プレゼンテーション40%：自身の発表と他者との活発な意見交換を評価する

企画書・計画書40%：リサーチに基づいた立案の完成度を評価する

平常点20%：必要な情報収集や作業ができていないかを評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

個別指導、プレゼンテーションの際にコメントする

〔出席確認の方法〕

点呼による

〔基本的な授業の進め方〕

出席確認・授業説明 20分

各自の制作進行/制作指導 140分

授業まとめ/次回の確認事項 20分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力 ◎
2. 表現力 ◎
3. 社会貢献力コラボレーション力 △
4. 課題発見力・課題解決力 ◎
5. コミュニケーション力 ◎
6. 専門的知識・技能の活用力 ◎

〔教科書〕

適宜資料を配布する

〔参考文献〕

授業で適宜紹介する

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

卒業研究Ⅱ (竹内)

MM502

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 後期

演習/2コマ

竹内 一郎

〔科目の概要および目的〕

4年間学んだ、漫画に関する学びの集大成を行う。就職活動をにらみ、ポートフォリオの制作を行う。作品の物語や世界観が、未知の読者に伝わっているか、客観性が問われる。漫画作品、小説作品、シークエンシャル・アート、作品研究などの研究に取り組む。授業内容は漫画の形式で書かれているが、他の作品形式もそれに準ずる。

〔到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル) 〕

- ・自ら世界観を構築し、伝達する方法を考えることができる。
- ・論理的表現力を身につける。
- ・中間発表に向けた発信力を身につける。

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 下絵 (1)
主要キャラを描く
事前/マンガ制作 (180分)
事後/マンガ制作 (180分)
- 第 2 回 下絵 (1)
サブキャラを描く
事前/マンガ制作 (180分)
事後/マンガ制作 (180分)
- 第 3 回 下絵 (3)
背景を描く
事前/マンガ制作 (180分)
事後/マンガ制作 (180分)
- 第 4 回 ペン入れ (1)
主要キャラを描く
事前/マンガ制作 (180分)
事後/マンガ制作 (180分)
- 第 5 回 ペン入れ (2)
サブキャラを描く
事前/マンガ制作 (180分)
事後/マンガ制作 (180分)
- 第 6 回 ペン入れ (3)
背景を描く
事前/マンガ制作 (180分)
事後/マンガ制作 (180分)
- 第 7 回 中間発表 (1)
発表と講評
事前/マンガ制作 (180分)
事後/マンガ制作 (180分)

- 第 8 回 作品制作 (1)
ネームを整える
事前/マンガ制作 (180分)
事後/マンガ制作 (180分)
- 第 9 回 作品制作 (2)
中間発表の準備をする
事前/マンガ制作 (180分)
事後/マンガ制作 (180分)
- 第 10 回 中間発表 (2)
発表と講評
事前/マンガ制作 (180分)
事後/マンガ制作 (180分)
- 第 11 回 作品制作 (3)
表情を整える
事前/マンガ制作 (180分)
事後/マンガ制作 (180分)
- 第 12 回 作品制作 (4)
背景を描く
事前/マンガ制作 (180分)
事後/マンガ制作 (180分)
- 第 13 回 作品制作 (5)
トーンを貼る
事前/マンガ制作 (180分)
事後/マンガ制作 (180分)
- 第 14 回 論文発表
論文発表
事前/マンガ制作 (180分)
事後/マンガ制作 (180分)
- 第 15 回 合評
合評会をする
事前/マンガ制作 (180分)
事後/マンガ制作 (180分)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：— /
5回：— / 6回：— /
7回：C / 8回：— /
9回：— / 10回：C /
11回：— / 12回：— /
13回：— / 14回：C /
15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

マンガ分野のコアカリキュラムを履修していること。

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・少しでも水準の高い作品を創るための努力を惜しまないこと。

・24ページ以上のマンガ作品、800字以上のシナリオ・小説の骨子が完成していること。

・中間発表を数回行う。この際にはパワーポイントなどを使用しプレゼンテーションする。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

PCなど画像を送受信できる機器

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点 (30%)：積極的な授業参加態度を評価する
②作品 (50%)：表現力・伝達力・完成度を評価する
③卒業制作展の展示 (20%)：協調性・コミュニケーション力を評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・毎週、実技の進行状況を見て講評します。

〔出席確認の方法〕

オンラインで行なう

〔基本的な授業の進め方〕

講義 (40分) 実技 (100分) 講評 (40分)

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：—

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

印刷物を配布

〔参考文献〕

授業内で紹介する

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

卒業研究Ⅱ (市野)

MM502

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 後期

演習/2コマ

市野 治美

〔科目の概要および目的〕

当科目は、前期後期を通じて、マンガ、メディアストーリー、メディアイラスト、キャラクターデザイン、企画編集などから、各自選択、個人、又はグループにて作品を企画し制作する。後期は作品の完成度を上げていくとともに、研究の発表にたいして明確な方向性を確立し、卒業展に向けての準備を行う。

〔到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル) 〕

- ・世界観を構築し、伝達する方法を考えることができる。
- ・2、3年次の経験を活かし、クオリティーの高いコンテンツを作成することができる
- ・卒業に値する集大成の作品企画力を培う。
- ・自身の作品を世の中に発信する方法を学ぶ。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 作品制作 5
指導を受け、制作を進行する-下絵
事前/ 作品の制作(2時間)
事後/ 作品の制作(2時間)
- 第 2 回 作品制作 5
指導を受け、制作を進行する-下絵
事前/ 作品の制作(2時間)
事後/ 作品の制作(2時間)
- 第 3 回 作品制作 7
指導を受け、制作を進行する-下絵
事前/作品の制作(2時間)
事後/中間発表の準備(2時間)
- 第 4 回 卒業研究中間発表2
進捗状況をプレゼンする
事前/中間発表の準備(2時間)
事後/作品の制作(2時間)
- 第 5 回 作品制作 8
指導を受け、制作を進行する-主線
事前/ 作品の制作(2時間)
事後/ 作品の制作(2時間)
- 第 6 回 作品制作 9
指導を受け、制作を進行する-主線
事前/ 作品の制作(2時間)
事後/ 作品の制作(2時間)
- 第 7 回 作品制作 1 0
指導を受け、制作を進行する-カラーリング
事前/ 作品の制作(2時間)
事後/ 作品の制作(2時間)
- 第 8 回 作品制作 1 1
指導を受け、制作を進行する-仕上げ
事前/ 作品の制作(2時間)
事後/ 作品の制作(2時間)
- 第 9 回 作品制作 1 2
指導を受け、制作を進行する-仕上げ
事前/ 作品の制作(2時間)
事後/ 作品の制作(2時間)
- 第 10 回 作品制作 1 3
指導を受け、制作を進行する-最終チェック
事前/ 作品の制作(2時間)
事後/ 作品の制作(2時間)
- 第 11 回 卒業研究提出
作品を提出、教員からチェックを受ける
事前/ 作品の制作(2時間)
事後/ 作品の制作(3時間)
- 第 12 回 卒業研究発表
プレゼン・講評を行う
事前/ プレゼンの準備(2時間)
事後/
- 第 13 回 卒業展示準備

卒展の準備、印刷、展示物、プロダクツなどの用意
事前/ 作品の制作(2時間)
事後/ 作品の制作(2時間)

- 第 14 回 卒業展示準備
卒展の準備、印刷、展示物、プロダクツなどの用意
事前/ 作品の制作(2時間)
事後/ 作品の制作(2時間)
- 第 15 回 卒業展示準備・総括
卒展の準備、印刷、展示物、プロダクツなどの用意
・一年間の総括
事前/ 作品の制作(2時間)
事後/ 作品の制作(4時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：F / 2回：F /
3回：F / 4回：F /
5回：F / 6回：F /
7回：F / 8回：F /
9回：F / 10回：F /
11回：F / 12回：F /
13回：F / 14回：F /
15回：F

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

・「卒業研究 I」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・研究制作を完成させる意欲があること

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

・PC、マイク、カメラ等、通信環境の成り立つデバイス
・Adobeなどドローイングソフト:PowerPoint

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点 (20%)：授業受講態度
②卒業展示 (30%) 展示、他制作物、展示に対する協力の総合評価
③卒業研究制作物 (50%)：オリジナリティがあるか、技術レベル、完成度の総合評価

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・毎週、進捗状況を確認、指導を行う

〔出席確認の方法〕

- ・点呼確認
- ・提出課題発表

〔基本的な授業の進め方〕

- ・導入・授業のガイダンス
- ・講義 20分
- ・演習 研究制作 教員との面談 70分+80分
- ・今日のまとめ 10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：◎
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）
 【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

卒業研究Ⅱ（芦谷）

MM502

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 後期

演習/2コマ

芦谷 耕平

〔科目の概要および目的〕

4年間学んだ、漫画に関する学びの集大成を行う。就職活動をにらみ、ポートフォリオの制作を行う。作品の物語や世界観が、未知の読者に伝わっているか、客観性が問われる。漫画作品、小説作品、シークエンシャル・アート、作品研究などの研究に取り組む。授業内容は漫画の形式で書かれているが、他の作品形式もそれに準ずる。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・自ら世界観を構築し、伝達する方法を考えることができる。
- ・論理的表現力を身につける。
- ・協調性を持って卒展展示に取り組み、プレゼンテーション力を身につける。
- ・一本のアニメーション作品または論文を発表できる
- ・アニメーション作品としてワールドワイドに発表、配信ができる。

〔授業形態〕

5【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 下絵/原画（1）
 主要キャラを描く／現状の成果を報告し、後半のスケジュールを立て直す
 事前／実制作（180分）
 事後／実制作（180分）
- 第 2 回 下絵/原画（2）
 サブキャラを描く／絵コンテを元にレイアウトを作成する。
 事前／実制作（180分）
 事後／実制作（180分）
- 第 3 回 下絵/原画（3）
 背景を描く／レイアウトを元に大まかな動きのラフを作成する。
 事前／実制作（180分）
 事後／実制作（180分）

- 第 4 回 ペン入れ/動画（1）
 主要キャラを描く／ラフの動きをさらに正確にし、動きのチェック。
 事前／実制作（180分）
 事後／実制作（180分）
- 第 5 回 ペン入れ/動画（2）
 サブキャラを描く／中割作業
 事前／実制作（180分）
 事後／実制作（180分）
- 第 6 回 ペン入れ/動画（3）
 背景を描く／クリンナップ
 事前／実制作（180分）
 事後／実制作（180分）
- 第 7 回 中間発表（1）
 発表と講評／全体で発表、プレゼンテーション。
 この時点で絵コンテの決定稿として発表。
 事前／実制作（180分）
 事後／実制作（180分）
- 第 8 回 作品制作/仕上げ・撮影（1）
 ネームを整える／スキャン
 事前／実制作（180分）
 事後／実制作（180分）
- 第 9 回 作品制作/仕上げ・撮影（2）
 中間発表の準備をする
 事前／実制作（180分）
 事後／実制作（180分）
- 第 10 回 中間発表（2）
 発表と講評／彩色
 事前／実制作（180分）
 事後／実制作（180分）
- 第 11 回 作品制作/撮影・編集（3）
 表情を整える／AfterEffectsを使用し、背景とセルを組み合わせる（コンポジットする）。
 事前／実制作（180分）
 事後／実制作（180分）
- 第 12 回 作品制作/撮影・編集（4）
 背景を描く／前回に引き続き、組み合わせたコンポジションに効果を加えていく。
 事前／実制作（180分）
 事後／実制作（180分）
- 第 13 回 作品制作/撮影・編集（5）
 トーンを貼る／アニメーション全体を見て、不自然な箇所がないかチェックする。
 事前／実制作（180分）
 事後／実制作（180分）
- 第 14 回 論文発表/リテイク及びブラッシュアップ
 自作を発表し、講評し合う/指導教員から最終チェックを経て、提出
 事前／実制作（180分）
 事後／実制作（180分）
- 第 15 回 合評/講評会
 合評会をする／指導教員、全員での講評会の実施
 事前／実制作（180分）
 事後／実制作（180分）

〔アクティブラーニング〕

1回：B,F / 2回：B,F /
 3回：B,F / 4回：F /
 5回：F / 6回：F /
 7回：C,D / 8回：F /
 9回：F / 10回：C,D /
 11回：B,F / 12回：B,F /
 13回：B,F / 14回：C,D /
 15回：D

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

・各自の分野のコアカリキュラムを履修していること。

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・主人公や登場人物のキャラクター設定、世界観に斬新性があることが望ましい。

・24ページ以上のマンガ作品、800字以上のシナリオ・小説の骨子が完成していること。

・中間発表を数回行う。この際にはパワーポイントなどを使用してプレゼンテーションをする。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

特になし

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点 (30%)：主体的な授業参加態度を評価する
 ②作品 (50%)：表現力・伝達力・完成度を評価する
 ③中間発表 (20%)：コミュニケーション力を評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・毎週、実技の進行状況を見て講評します。

〔出席確認の方法〕

指定のタイミングでコメント投稿 出席票、出席者リスト、リアクションペーパー、その日の課題提出など

〔基本的な授業の進め方〕

・課題作品中間発表や講習会など重要な回には対面での授業実施があります。(都度連絡します)

・授業説明:10分・その日の講義1:説明10分

→実制作:70分

・その日のチェック:10分 →実作業:70分

・授業の振り返り10分

・その授業回によってフレキシブルに対応

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：一
4. 課題発見力・課題解決力：一
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

一：関連していない】

〔教科書〕

コピー・オンラインで配布する。

〔参考文献〕

授業内で紹介する。

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

基本的な授業の進め方

卒業研究Ⅱ (古瀬)

MM502

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 後期

演習/2コマ

古瀬 登

〔科目の概要および目的〕

優れたコンテンツなら即ビジネスに直結していく。それは独立、フリーランスを目指す人間にはいわば看板にもなりうるもの。AO試験を行うプロダクションなどでは最高のプレゼンテーションにもなる。そうした目標目的意識をもって制作指導を行う。

〔到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル) 〕

- ・臨機応変にスケジュールを管理できる
- ・一本のアニメーション作品または論文を発表できる
- ・卒業制作展では魅力的な展示を実施することができる

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 スケジュールの見直し
現状の成果を報告し、
後半のスケジュールを立て直す
事後/課題の制作(3h)
- 第 2 回 レイアウト
絵コンテを元にレイアウトを作成する。
事後/課題の制作(3h)
- 第 3 回 原画(1)
レイアウトを元に大まかな動きのラフを作成する。
事後/課題の制作(3h)
- 第 4 回 原画(2)
ラフの動きをさらに正確にし、動きのチェック。
事後/課題の制作(3h)
- 第 5 回 動画(1)
中割作業
事後/課題の制作(3h)
- 第 6 回 動画(2)
クリンナップ
事後/課題の制作(3h)
- 第 7 回 背景
背景に色を付ける
事後/課題の制作(3h)
- 第 8 回 中間発表
全体で発表、プレゼン。
講習会へ向けた予行練習を兼ねて
事後/課題の制作(3h)

- 第 9 回 仕上げ
彩色作業
事後/課題の制作(3h)
- 第 10 回 撮影
AfterEffectsを使用し、背景とセルを組み合わせる
(コンポジットする)。組み合わせたコンポジション
に効果を加えていく。
事後/課題の制作(3h)
- 第 11 回 第一稿提出・発表
Adobe Premiere を使い撮影したカットを繋ぎ合
わせる。不自然な箇所がないかチェックする。
事後/課題の制作(3h)
- 第 12 回 修正
第一稿の修正
事後/課題の制作(3h)
- 第 13 回 第二稿提出・発表
Adobe Premiere を使い撮影したカットを繋ぎ合
わせる。不自然な箇所がないかチェックする。
事後/課題の制作(3h)
- 第 14 回 編集
最終的な編集
事後/課題の制作(3h)
- 第 15 回 講評会
全体で発表、プレゼン
各専門の指導師から講評を受ける
事前/課題の制作(3h)

【アクティブラーニング】

- 1回：B / 2回：B /
3回：B / 4回：B /
5回：B / 6回：B /
7回：B / 8回：B /
9回：B / 10回：B /
11回：B / 12回：B /
13回：B / 14回：B /
15回：B

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・卒業制作または論文の「企画」「テーマ」を自由に選択。
制作においては個人制作も可
- ・随時担当教員とのミーティング、或いは指導を受けること
- ・授業は基本オンラインで行うが、発表時は対面にて行う

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

Adobe Photoshop, After Effects, Premiere Pro, CLIP STUDIO
PAINT EX,ペンタブレット

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①課題 (50%)：スケジュールを管理できているか。表現
力・完成度はどうか
- ②成果発表(50%)：講評会でのプレゼン・内容について評価
する。卒業制作展示の内容を評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・講評会にて全体の課題発表と講評を行う

【出席確認の方法】

授業開始時に名前を読み上げて確認します

【基本的な授業の進め方】

教員からの指示を適宜受けながらグループ及び個人で制作
を続ける(180分)

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った 箇所①】

授業計画：テーマ・内容

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った 箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オン
ライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件

卒業研究Ⅱ (井上)

MM502

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 後期

演習/4コマ

井上 幸喜

【科目の概要および目的】

ゲームショー等、外部公開向けにゲームコンテンツ制作を
行う。表現の手法はムービーを用いたイメージ映像や、コ
ンピューター上で操作するインタラクティブな作品などを
想定する。ゲーム制作における問題点やそれらの解決方法
や自己表現の方法を学ぶ。また、出来上がった作品をイン
ターネットや外部のイベントを通じて発表する機会を設け
る。

【到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)】

- ・自らの企画の具現化・スケジュールの管理・外部展示ク
オリティを有する作品を制作できる
- ・イベント企画運営の共同作業を体験する
- ・作品を第三者へプレゼンと試遊を行い、感想を回収、作
品修正に必要なことが理解できる

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第 1 回 オリエンテーション

	前期中間発表の結果をうけ、今後の作品の方向性を決める 事後／企画準備（6時間）		書に基づいて材料の製作を行う 事後／評価版の作成（6時間）
第2回	オリエンテーション ゲーム企画を完成させ、プレゼンを行う。その後見直し変更作業 事前／企画草案完成（6時間） 事後／企画見直し（3時間）	第13回	素材作り（8） CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う 事後／評価版の作成（6時間）
第3回	素材作り（1） CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う 事前／企画完成（3時間） 事後／企画見直し（2時間）	第14回	仕上げ 最終調整し、素材を組み立てる 事前／完成準備作業（6時間）
第4回	素材作り（2） CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う 事後／中間発表版の完成（6時間）	第15回	作品発表／講評 出来上がった作品をプレゼンテーションする 事後／修正箇所洗い出し（3時間）
第5回	素材作り（3） CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う 事後／中間発表版の作成（6時間）	〔アクティブラーニング〕 1回：E / 2回：— / 3回：— / 4回：— / 5回：— / 6回：— / 7回：E / 8回：C,E / 9回：— / 10回：— / 11回：E / 12回：— / 13回：— / 14回：E / 15回：C,E	
第6回	素材作り（4） CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う 事後／中間発表版の作成（6時間）	〔事前に修得しておく必要のある科目〕 ・「ゲーム企画演習Ⅳ」「卒業研究Ⅰ」	
第7回	素材の組み立て 中間発表にそなえての準備を行う 事後／α版の完成（6時間）	〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕 ・Unity又はUnreal Engine、Webツールを使用して個人でコンテンツを作成できる事。	
第8回	中間発表／講評 途中の進捗をプレゼンテーションする 事前／プレゼン資料の準備（6時間）	〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕 Adobeアプリ各種 Unity、maya、ue、他	
第9回	素材作り（5） CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う 事後／中間発表版の作成（6時間）	〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕 ①平常点（30%）：授業態度 ②中間提出物（30%）：完成度、クオリティ、プレゼンテーション ③最終時課題（40%）：完成度、クオリティ、プレゼンテーション	
第10回	素材作り（6） CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う 事後／中間発表版の作成（6時間）	〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕 ・指導教員より個別に回収指示を発表毎に行う。 ・多数の学外試遊者よりの感想を直接ヒアリングする。	
第11回	β試遊版完成チェック 実機でのデモを含む進捗確認と最終版に向けての問題抽出 事前／β版の完成（6時間） プレゼン資料の準備（6時間）	〔出席確認の方法〕 授業内点呼	
第12回	素材作り（7） CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様	〔基本的な授業の進め方〕 開始～15分TOPICS業界の情報や市場動向について 15分～出席点呼・課題提出確認 20分～360分授業（個別指導）（全体進捗プレゼン）	
		〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕 1. 主体的行動力：○ 2. 表現力：○ 3. 社会貢献力・コラボレーション力：△ 4. 課題発見力・課題解決力：○ 5. コミュニケーション力：○ 6. 専門的知識・技能の活用力：◎ 〔◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない〕	

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

卒業研究Ⅱ（吉岡）

MM502

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 後期

演習/4コマ

吉岡 章夫

【科目の概要および目的】

個人作品最低1作品、他にグループ制作にて作品を制作。これまでの授業のみでなく学生生活を通じて学んだことを集大成し、自らの企画し設計したものを制作し作品展示及びプレゼンテーションを行う。形式は問わないがゲーム的要素を含むこと。本学で学んだことの締めくくりとしての成果を確認し外部へ発表を行う。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・卒業に値する集大成の作品企画力を学ぶ。
- ・プレゼンテーション力を高めることができる。
- ・自己制作物、論文を用いた外部者向けへ発表力を身につける。
- ・グループ制作での役割把握と協力制作力を身につける。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
前期中間発表の結果をうけ、今後の作品の方向性を決める
事後／企画準備 6時間
- 第2回 オリエンテーション
ゲーム企画を完成させ、プレゼンを行う。その後見直し変更作業
事前／企画草案完成 6時間
事後／企画見直し 3時間
- 第3回 素材作り（1）
CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う
事前／企画完成 3時間
事後／企画見直し 2時間
- 第4回 素材作り（2）

CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う

事後／中間発表版の完成 6時間

第5回 素材作り（3）

CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う

事後／中間発表版の作成 6時間

第6回 素材作り（4）

CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う

事後／中間発表版の作成 6時間

第7回 素材の組み立て

中間発表にそなえての準備を行う

事後／α版の完成 6時間

第8回 中間発表／講評

途中の進捗をプレゼンテーションする

事前／プレゼン資料の準備 6時間

第9回 素材作り（5）

CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う

事後／中間発表版の作成 6時間

第10回 素材作り（6）

CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う

事後／中間発表版の作成 6時間

第11回 β試遊版完成チェック

実機でのデモを含む進捗確認と最終版に向けての問題抽出

事前／β版の完成 6時間

プレゼン資料の準備 6時間

第12回 素材作り（7）

CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う

事後／評価版の作成 6時間

第13回 素材作り（8）

CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う

事後／評価版の作成 6時間

第14回 仕上げ

最終調整し、素材を組み立てる

事前／完成準備作業 6時間

第15回 作品発表／講評

出来上がった作品をプレゼンテーションする

事後／修正箇所洗い出し 3時間

【アクティブラーニング】

1回：E / 2回：— /

3回：— / 4回：— /

5回：— / 6回：— /
 7回：E / 8回：C,E /
 9回：— / 10回：— /
 11回：E / 12回：— /
 13回：— / 14回：E /
 15回：C,E

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

・「ゲーム企画演習Ⅳ」「卒業研究Ⅰ」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・Unity又はUnreal Engine、Webツールを使用して個人でコンテンツを作成できる事。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

Adobeアプリ各種

Unity、maya、ue、他

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点（30%）：授業態度

②中間提出物（30%）：完成度、クオリティ、プレゼンテーション

③最終時課題（40%）：完成度、クオリティ、プレゼンテーション

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・指導教員より個別に回収指示を発表毎に行う。
- ・多数の学外試遊者よりの感想を直接ヒアリングする。

〔出席確認の方法〕

授業内点呼

〔基本的な授業の進め方〕

開始～15分TOPICS業界の情報や市場動向について

15分～出席点呼・課題提出確認

20分～360分授業（個別指導）（全体進捗プレゼン）

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 —：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

卒業研究Ⅱ（増田）

MM502

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 後期

演習/4コマ

増田 宗嶺

〔科目の概要および目的〕

ゲームショー等、外部公開向けにゲームコンテンツ制作を行う。表現の手法はムービーを用いたイメージ映像や、コンピューター上で操作するインタラクティブな作品などを想定する。ゲーム制作における問題点やそれらの解決方法や自己表現の方法を学ぶ。また、出来上がった作品をインターネットや外部のイベントを通じて発表する機会を設ける。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・自らの企画の具現化・スケジュールの管理・外部展示クオリティを有する作品を制作できる
- ・イベント企画運営の共同作業を体験する
- ・作品を第三者へプレゼンと試遊を行い、感想を回収、作品修正に必要なことが理解できる

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション
 前期中間発表の結果をうけ、今後の作品の方向性を決める
 事後：企画準備（6h）
- 第2回 オリエンテーション
 ゲーム企画を完成させ、プレゼンを行う。その後見直し変更作業
 事前：企画草案完成（6h）
 事後：企画見直し（3h）
- 第3回 素材作り（1）
 CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う
 事前：企画完成（3h）
 事後：企画見直し（2h）
- 第4回 素材作り（2）
 CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う
 事後：中間発表版の完成（6h）
- 第5回 素材作り（3）
 CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う
 事後：中間発表版の作成（6h）
- 第6回 素材作り（4）
 CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様

- 書に基づいて材料の製作を行う
事後：中間発表版の作成（6h）
- 第 7 回 素材の組み立て
中間発表にそなえての準備を行う
事後：中間発表版の完成（6h）
- 第 8 回 中間発表／講評
途中の進捗をプレゼンテーションする
事前：プレゼン資料の準備（6h）
- 第 9 回 素材作り（5）
CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う
事後：β試遊版の作成（6h）
- 第 10 回 素材作り（6）
CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う
事後：β試遊版の作成（6h）
- 第 11 回 β試遊版完成チェック
実機でのデモを含む進捗確認と最終版に向けての問題抽出
事前：β試遊版の完成、プレゼン資料の準備（12h）
- 第 12 回 素材作り（7）
CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う
事後：評価版の作成（6h）
- 第 13 回 素材作り（8）
CGモデルデータやアニメーションデータ、サウンドデータ、プログラミングなど、企画書・仕様書に基づいて材料の製作を行う
事後：評価版の作成（6h）
- 第 14 回 仕上げ
最終調整し、素材を組み立てる
事前：完成準備作業（6h）
- 第 15 回 作品発表／講評
出来上がった作品をプレゼンテーションする
事後：修正箇所洗い出し(6h)

【アクティブラーニング】

- 1回：C,E / 2回：— /
3回：— / 4回：— /
5回：— / 6回：— /
7回：E / 8回：C,E /
9回：— / 10回：— /
11回：C,E / 12回：— /
13回：— / 14回：E /
15回：C,E

【事前に修得しておく必要のある科目】

「ゲーム企画演習Ⅳ」「卒業研究Ⅰ」

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

Unity又はUnreal Engine、Webツールを使用して個人でコンテンツを作成できる事。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

Adobeアプリ各種

Unity、Maya、UE4、他

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点（30%）：授業態度
②中間提出物（30%）：完成度、クオリティ、プレゼンテーション
③最終時課題（40%）：完成度、クオリティ、プレゼンテーション

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・指導教員より個別に回収指示を発表毎に行う。
- ・多数の学外試遊者よりの感想を直接ヒアリングする。

【出席確認の方法】

授業内点呼

【基本的な授業の進め方】

開始～15分TOPICS業界の情報や市場動向について

15分～出席点呼・課題提出確認

20分～360分授業（個別指導）（全体進捗プレゼン）

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

卒業研究Ⅱ（北見）

MM502

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 後期

演習/2コマ

北見 隆

【科目の概要および目的】

・授業の概要：卒業制作として質量共に充実した作品を製作する。

量的には平面作品ではB1サイズ4～5枚程度が目安となる。何を制作するかは自由であるが、趣味的な方向に陥り過ぎること無く、4年間の集大成に相応しい作品を制作しても

らいたい。指導教員との密な報告が求められ、対面による個別中間チェックと中間発表の場が設けられている。提出期限は元より展示状態も評価対象となり、完成度の高い作品作りが要求される。1月に提出となるが不十分な作品は再提出となる。

状況によって変更もあり得るが、対面7、オンライン8の授業を予定している。

・科目の目的：卒業制作は一生に一度のことであり、学生生活の間に身に付けた技術と発想力を基に、悔いのない作品作りをしてほしい。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

・担当教員による個別指導のもと、完成度の高い作品を制作することができる。

・4年間を客観的に振り返り、自分が進むべき道や作風を確認することができる。

・課題を通して、社会で役立つスキルの再確認と、再学習ができる。

・作品展示とプレゼンテーションを通して、コミュニケーションスキルを向上させる事ができる。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第1回 中間発表(1)

対面授業による、卒制ガイダンス。

1人持ち時間10分程度で、自己作品のラフをもとに卒制計画を発表。学内か自宅制作か制作方法及び、展示計画の確認。面談及び発表は全員必ず行う事。

事前・事後学習：発表準備と制作（3h）

第2回 中間発表(2)

対面授業。

1人持ち時間10分程度で、自己作品のラフをもとに卒制計画を発表。学内か自宅制作か制作方法及び、展示計画の確認。面談及び発表は全員必ず行う事。

事前・事後学習：発表準備と制作（3h）

第3回 個別対面相談と制作

個別対面相談とオンライン授業。

担当講師と密に連絡をとって、制作を進めていく。

事前・事後学習：発表準備と制作（3h）

第4回 個別対面相談と制作

個別対面相談とオンライン授業。

担当講師と密に連絡をとって、制作を進めていく。

事前・事後学習：発表準備と制作（3h）

第5回 個別対面相談と制作

個別対面相談とオンライン授業。

担当講師と密に連絡をとって、制作を進めていく。

事前・事後学習：発表準備と制作（3h）

第6回 個別対面相談と制作

個別対面相談とオンライン授業。

担当講師と密に連絡をとって、制作を進めていく。

事前・事後学習：発表準備と制作（3h）

第7回 中間発表(3)

対面授業。

一人持ち時間15分程度で中間発表を行う。面談及び発表は全員必ず行う事。

講師、及び学生からの質疑応答等の意見交換の結果を卒制に反映させる。

事前・事後学習：発表準備と制作（3h）

第8回 中間発表(4)

対面授業。

一人持ち時間15分程度で中間発表を行う。面談及び発表は全員必ず行う事。

講師、及び学生からの質疑応答等の意見交換の結果を卒制に反映させる。

事前・事後学習：発表準備と制作（3h）

第9回 個別対面相談と制作

個別対面相談とオンライン授業。

担当講師と密に連絡をとって、制作を進めていく。

事前・事後学習：発表準備と制作（3h）

第10回 個別対面相談と制作

個別対面相談とオンライン授業。

担当講師と密に連絡をとって、制作を進めていく。

事前・事後学習：発表準備と制作（3h）

第11回 個別対面相談と制作

個別対面相談とオンライン授業。

担当講師と密に連絡をとって、制作を進めていく。

事前・事後学習：発表準備と制作（3h）

第12回 個別対面相談と制作

個別対面相談とオンライン授業。作品提出受付開始。

担当講師と密に連絡をとって、制作を進めていく。

事前・事後学習：発表準備と制作（3h）

第13回 卒業制作提出とプレゼンテーション(1)

対面授業。

卒業制作提出。自己作品のプレゼンテーション。（15分）

発表後採点。不合格（60点未満）の学生は、作品を加筆修正を行った後、再提出となる。卒業制作展示確認。プレゼンテーションは全員必ず行う事。

事前・事後学習：発表準備と制作（3h）

第14回 卒業制作提出とプレゼンテーション(2)

対面授業。

卒業制作提出。自己作品のプレゼンテーション。（15分）

発表後採点。不合格（60点未満）の学生は、作品を加筆修正を行った後、再再提出となる。卒業制作展示確認。プレゼンテーションは全員必ず行う事。

事前・事後学習：発表準備と制作（3h）

第15回 最終授業と卒業制作展準備

対面授業。

集合写真撮影。

卒業制作展示確認。

事前・事後学習：展示準備と制作（3h）

〔アクティブラーニング〕

1回：C / 2回：C /
 3回：E / 4回：E /
 5回：E / 6回：E /
 7回：C / 8回：C /
 9回：E / 10回：E /
 11回：E / 12回：E /
 13回：C / 14回：C /
 15回：F

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

・イラストレーション分野のコアカリキュラム。

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・学生時代最後にふさわしい、完成度の高い作品を提出すること。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

オンライン提出の場合は、デジタルカメラ（カメラ付き携帯電話可）また作品をPCで作画する学生は、任意の作画ソフト。

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①課題（70%）：表現力・完成度を評価する。
 ②平常点（30%）：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・中間報告会と全体講評会が行われる。
 ・採点標に採点が記入され、作品に添付される。

〔出席確認の方法〕

チャットと音声による確認。

〔基本的な授業の進め方〕

講師による講義（40分）、課題制作（130分）出席確認（10分）。作品講評のある日の場合は、講義（20分）、課題制作（60分）講評（60分）、次回課題説明（30分）、出席確認（10分）程度の配分を予定。制作時間中に14分程度の面談が行われる場合もある。

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 —：関連していない】

〔教科書〕

無し

〔参考文献〕

無し

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

事前に修得しておく必要のある科目、課題やレポート等に対するフィードバックの方法

卒業研究Ⅱ（渡邊）

MM502

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 後期

演習/2コマ

渡邊 哲意

〔科目の概要および目的〕

各自の将来志向ししようとするジャンルの仕事や作品制作など、自由な観点から各自のテーマを選び提案性のある制作を行う。この授業では実社会でも運用する個性的で高いレベルの作品に結実させるとともに、自信を持って自身が携わるデザイン分野を示す。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・コンテンツのデザイン企画ができる
- ・デザイン方法論を実践できる
- ・考えた企画を発表できる
- ・企画を作品として表現できる
- ・制作した作品を発表できる
- ・外部発表を伴う作品制作・提案ができる
- ・制作した作品の展示発表ができる

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第1回 研究テーマの設定
 テーマ設定と企画書の作成
 復習：企画書の作成（22時間）
- 第2回 研究テーマの設定
 企画内容についての個別指導
 復習：企画内容の再考（22時間）
- 第3回 企画検討（2）
 企画の具体化と決定
 復習：調査に向けての手順整理（22時間）
- 第4回 テーマコンセプトの作成
 調査、分析、ポジショニング
 復習：調査結果の整理（22時間）
- 第5回 テーマコンセプトの作成
 資料、分析結果の整理、マップ化
 予習：資料準備（22時間）
- 第6回 中間審査（1）
 テーマ、進行内容の確認、プレゼンテーション
 復習：ビジュアルコンセプトの作成（22時間）
- 第7回 アイデアスケッチ（1）
 個別指導による再考、修正、追加
 復習：アイデアの再考（20時間）
- 第8回 アイデアスケッチ（2）
 個別指導による再考、修正、追加
 復習：アイデアの再考（20時間）

- 第 9 回 アイデアスケッチ (3)
最終表現決定
復習：デザイン制作に向けての準備 (20時間)
- 第 10 回 展示計画
卒業制作展の展示方法についての話し合い、技術確認
復習：展示イメージ作成 (22時間)
- 第 11 回 中間審査 (2)
企画プレゼンテーション、最終完成に向けて制作開始
復習：指摘事項の訂正 (20時間)
- 第 12 回 アイデアスケッチ (4)
表現方法や技術的指導
予習：アイデアスケッチの準備 (22時間)
- 第 13 回 アイデアスケッチ (5)
表現方法や技術的指導
予習：アイデアスケッチの修正 (22時間)
- 第 14 回 発表事前確認
発表内容の最終確認指導
予習：発表内容の準備 (22時間)
- 第 15 回 作品・論文審査
プレゼンテーション
予習：制作完成、プレゼンテーション準備 (30時間)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：E / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：E / 6回：C /
7回：E / 8回：E /
9回：E / 10回：A /
11回：C / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

・「卒業研究Ⅰ」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

観察力・発見力・分析力・企画力・表現力・実行力を習得する意欲

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①制作進行 (20%)：計画的な制作進行度を評価する
②作品表現 (30%)：企画からの作品精度を評価する
③作品発表 (30%)：制作意図の伝達度を評価する
④発表聴講 (20%)：他の発表者との意見交換度を評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・授業内のコミュニケーションで対応

〔出席確認の方法〕

授業開始時の点呼

〔基本的な授業の進め方〕

出席確認・授業説明 20分

各自の制作進行/制作指導 140分

授業まとめ/次回の確認事項 20分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：○
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

卒業研究Ⅱ (中村)

MM502

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 後期

演習/1コマ

中村 泰之

〔科目の概要および目的〕

グラフィックデザインを中心として各自将来の進路を念頭に制作分野を選択し、卒業研究の企画立案、制作を行う。各自企画した卒業研究の計画書を元にテーマを設定し、個別指導を行う。

まずテーマについてのリサーチを行いレポートにまとめ、リサーチの成果を元にして作品制作を開始する。作品制作の過程は記録し、最終的にリサーチのレポートと合わせて卒業論文の形式にまとめる。

〔到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル) 〕

- ・デザイン企画の立案をすることができる
- ・企画に必要なリサーチを行うことができる
- ・リサーチの成果をレポートにまとめることができる
- ・リサーチの成果を作品制作に活用することができる
- ・作品を適切に記録・展示することができる

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第 1 回 デザイン企画中間審査

前期終了以降に追加されたデザイン企画の内容についてプレゼンテーション、ディスカッションを行う

事前/プレゼンテーションの準備(2時間)

事後/ディスカッション結果の整理(2時間)

第 2 回	デザイン制作1 準備 デザイン制作のための準備を行う 事前/デザイン制作(2時間) 事後/デザイン制作(2時間)	卒業制作・卒業論文のプレゼンテーションの準備を行う 事前/卒業論文作成(2時間) 事後/プレゼンテーションの準備(2時間)
第 3 回	デザイン制作2 制作 デザイン制作を開始する 事前/デザイン制作(2時間) 事後/デザイン制作(2時間)	第 15 回 卒業研究最終審査 卒業制作・卒業論文のプレゼンテーションを行う 事前/プレゼンテーションの準備(2時間) 事後/審査結果の整理(2時間)
第 4 回	中間審査準備1 デザイン制作の全体像が分かるように発表の準備を行う 事前/デザイン制作(2時間) 事後/プレゼンテーションの準備(2時間)	〔アクティブラーニング〕 1回：C,D / 2回：— / 3回：— / 4回：— / 5回：C,D / 6回：— / 7回：— / 8回：— / 9回：— / 10回：C,D / 11回：— / 12回：— / 13回：— / 14回：— / 15回：C,D
第 5 回	卒業研究中間審査1 デザイン制作についてプレゼンテーション、ディスカッションを行う 事前/プレゼンテーションの準備(2時間) 事後/ディスカッション結果の整理(2時間)	〔事前に修得しておく必要のある科目〕 「卒業研究Ⅰ」 〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕 デザインを企画・リサーチ・制作する意欲 〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕 —
第 6 回	デザイン制作3 推敲 中間審査の結果を受けて改善点を検討する 事前/デザイン制作(2時間) 事後/デザイン制作(2時間)	〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕 1.計画(20%):計画通り作業が進行しているかどうかを評価する 2.卒業論文(40%):テーマに沿ってリサーチがなされているか、制作過程の記録は適切か、文章・表記が適切かどうかを評価する 3.卒業制作(40%):リサーチの成果を取り入れて制作がなされているかを評価する
第 7 回	デザイン制作4 制作 デザイン制作の改善を行う 事前/デザイン制作(2時間) 事後/デザイン制作(2時間)	〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕 個別指導、プレゼンテーションの際コメントする
第 8 回	デザイン制作5 仕上げ デザイン制作の仕上げを行う 事前/デザイン制作(2時間) 事後/デザイン制作(2時間)	〔出席確認の方法〕 点呼による
第 9 回	中間審査準備2 デザイン制作についてプレゼンテーションの準備を行う 事前/デザイン制作(2時間) 事後/プレゼンテーションの準備(2時間)	〔基本的な授業の進め方〕 全体的な連絡10分 個別指導もしくはプレゼンテーション60分 全体でのディスカッション20分
第 10 回	卒業研究中間審査2 デザイン制作についてプレゼンテーション、ディスカッションを行う 事前/プレゼンテーションの準備(2時間) 事後/ディスカッション結果の整理(2時間)	〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕 1. 主体的行動力：◎ 2. 表現力：◎ 3. 社会貢献力・コラボレーション力：○ 4. 課題発見力・課題解決力：◎ 5. コミュニケーション力：◎ 6. 専門的知識・技能の活用力：◎
第 11 回	展示企画 卒業制作展の展示について全体で企画を行う 事前/デザイン制作(2時間) 事後/デザイン制作(2時間)	〔◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない〕
第 12 回	卒業論文1 文章作成 レポートとデザイン制作の過程を卒業論文としてまとめる 事前/卒業論文作成(2時間) 事後/卒業論文作成(2時間)	〔教科書〕 なし
第 13 回	卒業論文2 推敲 卒業論文を推敲する 事前/卒業論文作成(2時間) 事後/卒業論文作成(2時間)	〔参考文献〕 なし
第 14 回	卒業研究発表準備	〔オフィスアワー〕 専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

卒業研究Ⅱ（近藤）

MM502

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 後期

演習/1コマ

近藤 真彫

【科目の概要および目的】

卒業論文を作成し発表する。「卒業研究I」で調査研究を進めたメディア芸術に関わるテーマについて、必要な情報を収集整理しながら、独自の問題意識に基づいて客観的に分析した学術論文を執筆する。また、その論文の内容に基づいた成果（ポスター等）を作成し、卒業制作展で発表する。必要に応じて研究作品を加える場合は、論文の内容に合わせて作品を制作し、適切な形式で発表する。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・メディア芸術に関わるテーマについて正確な情報を収集できる

- ・設定したテーマについて客観的な特徴を理解したうえで独自の視点から分析することができる

- ・以上の成果を論理的に他者に伝えることができる

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

- 第 1 回 インTRODククション
授業内容の説明、スケジュールの作成
事前/シラバスを読む(30分)論文で扱う研究テーマを整理する(2時間)
- 第 2 回 インTRODククション
テーマを設定し、基本的な素材を調べる
事前/事前調査(2時間)
事後/復習・確認(2時間)
- 第 3 回 テーマと構成 (2)
論文全体の章立てを考えながら、論点を整理する
事前/事前調査 (4時間以上)
事後/復習・確認 (4時間以上)
- 第 4 回 制作・執筆 (1)
各自で論文作成を進める。教員は適宜、個別に助言する
事前/事前調査 (6時間以上)
事後/復習・確認 (6時間以上)
- 第 5 回 制作・執筆 (2)
事前/事前調査 (6時間以上)
事後/復習・確認 (6時間以上)
- 第 6 回 制作・執筆 (3)

- 事前/事前調査 (6時間以上)
事後/復習・確認 (6時間以上)
- 第 7 回 中間報告
各自が進捗状況を報告する。互いに批評する
事前/整理(3時間)
事後/復習・確認(3時間)
- 第 8 回 制作・執筆 (4)
各自で論文作成を進める。教員は適宜、個別に助言する
事前/事前調査 (6時間以上)
事後/復習・確認 (6時間以上)
- 第 9 回 制作・執筆 (5)
事前/事前調査 (6時間以上)
事後/復習・確認 (6時間以上)
- 第 10 回 制作・執筆 (6)
事前/事前調査 (6時間以上)
事後/復習・確認 (6時間以上)
- 第 11 回 制作・執筆 (7)
事前/事前調査 (6時間以上)
事後/復習・確認 (6時間以上)
- 第 12 回 制作・執筆 (8)
事前/事前調査 (6時間以上)
事後/復習・確認 (6時間以上)
- 第 13 回 制作・執筆 (9)
事前/事前調査 (6時間以上)
事後/復習・確認 (6時間以上)
- 第 14 回 最終発表
作成した論文の概要を発表し批評する
事前/整理(3時間)
事後/復習・確認(3時間)
- 第 15 回 仕上げ
発表後の意見をもとに修正。論文の形式の最終確認
事前/整理(3時間)
事後/確認(3時間)

【アクティブラーニング】

- 1回：E / 2回：E /
3回：E / 4回：A,E /
5回：A,E / 6回：A,E /
7回：A,C / 8回：A,E /
9回：A,E / 10回：A,E /
11回：A,E / 12回：A,E /
13回：A,E / 14回：A,C /
15回：E

【事前に修得しておく必要のある科目】

卒業研究 I

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・気になった情報や浮かんだアイディアのメモを取ること
- ・研究テーマに関わる資料を集め、整理、分析すること
- ・疑問、問題がある場合は早めに担当教員に相談すること

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

原則として対面で行うが、オンラインの場合はTeamsでの受講、wordでのコースワークの作成ができること

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①授業における取り組みを含めた平常点（25%）：研究対象について論理的に分析し、必要な情報収集ができていないか
 ②課題（25%）：段階的に論文の執筆が進められているか
 ③卒論成果（50%）：メディア芸術に関連する独自の問題提起からなるテーマについて、客観的な論述、適切な資料の扱いがされているか。その成果を発表する方法として、卒業制作展で適切な展示がなされているか

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

提出後の授業で個別にコメントする

〔出席確認の方法〕

各授業で進捗について面談

〔基本的な授業の進め方〕

- 5分 授業説明
 15分 講義 (ppt)
 60分 制作・執筆（教員による各自の指導）
 10分 要点確認

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：○
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 ー：関連していない】

〔教科書〕

適宜資料を配布する

〔参考文献〕

授業で適宜紹介する

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、基本的な授業の進め方

卒業研究Ⅱ（橋口）

MM502

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 後期

演習/1コマ

橋口 静思

〔科目の概要および目的〕

卒業作品・論文を作成し発表する。「卒業研究I」で調査研究を進めたメディア芸術に関わるテーマについて、必要な情報を収集整理しながら、独自の問題意識に基づいて客観的に分析した上で作品を作成または学術論文を執筆する。また、その論文の内容に基づいた成果（ポスター等）を作成

し、卒業制作展で発表する。特に展示を意識して研究結果を適切に伝えることを目標とする。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・メディア芸術に関わるテーマについて適切な情報を収集できる
- ・設定したテーマについて客観的な特徴を理解したうえで独自の視点から分析することができる
- ・以上の成果を論理的に他者に伝えることができる

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第1回 インTRODクシヨン
 授業内容の説明、スケジュールの作成
 事前/作品・論文の計画立て (時間)3
 事後/制作・発表準備 (時間)3
- 第2回 インTRODクシヨン
 卒業研究Iで作成したテーマを発表する
 事前/制作・発表準備 (時間)3
 事後/制作 (時間)3
- 第3回 テーマと構成(1)
 テーマ設定を修正し、基本的な素材を調べる
 事前/事前調査 (時間)6
 事後/制作・リサーチ (時間)6
- 第4回 テーマと構成(2)
 論点を整理し、素材の整理をする
 事前/事前調査 (時間)6
 事後/制作・リサーチ (時間)6
- 第5回 制作・執筆(1)
 各自で作品制作・論文作成を進める。教員は適宜、個別に助言する
 事前/事前調査 (時間)6
 事後/制作・リサーチ (時間)6
- 第6回 制作・執筆(2)
 事前/事前調査 (時間)6
 事後/制作・発表準備 (時間)6
- 第7回 中間報告(1)
 各自が進捗状況を報告する。互いに批評する
 事前/制作・発表準備 (時間)6
 事後/制作・リサーチ (時間)6
- 第8回 制作・執筆(3)
 各自で作品制作・論文作成を進める。教員は適宜、個別に助言する
 事前/事前調査 (時間)6
 事後/制作・リサーチ (時間)6
- 第9回 制作・執筆(4)
 事前/事前調査 (時間)6
 事後/制作・リサーチ (時間)6
- 第10回 制作・執筆(5)
 事前/事前調査 (時間)6
 事後/制作・発表準備 (時間)6
- 第11回 中間報告(2)
 各自が進捗状況を報告する。互いに批評する
 事前/制作・発表準備 (時間)6
 事後/制作・リサーチ (時間)6

第 12 回	制作・執筆（6）	
	各自で作品制作・論文作成を進める。教員は適宜、個別に助言する	
	事前/事前調査	(時間)6
	事後/制作・リサーチ	(時間)6
第 13 回	制作・執筆（7）	
	事前/事前調査	(時間)6
	事後/制作・発表準備	(時間)6
第 14 回	最終発表	
	作成した作品・論文を発表。互いに批評する	
	事前/制作・発表準備	(時間)6
	事後/制作・リサーチ	(時間)6
第 15 回	展示計画・仕上げ	
	発表後の意見をもとに修正。展示の形式の最終確認	
	事前/展示計画	(時間)6
	事後/展示作成	(時間)6

【アクティブラーニング】

1回：C,E / 2回：C,E /
 3回：C,E / 4回：C,E /
 5回：C,E / 6回：C,E /
 7回：C,E / 8回：C,E /
 9回：C,E / 10回：C,E /
 11回：C,E / 12回：C,E /
 13回：C,E / 14回：C,E /
 15回：C,E

【事前に修得しておく必要のある科目】

卒業研究 I

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・履修にあたっては、担当教員による選考を行います
- ・気になった情報や浮かんだアイデアのメモを取ることを習慣づける
- ・研究テーマに関わる資料を集め、整理、分析する
- ・疑問、問題がある場合は早めに担当教員に相談すること

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

teams/その他制作に必要なソフト（各自指示します）

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①授業における取り組みを含めた平常点（25%）：研究対象について論理的に分析し、必要な情報収集ができていないか
 - ②課題（25%）：段階的に論文の執筆・作品の制作が進められているか
 - ③卒論成果（50%）：メディア芸術に関連する独自の問題提起からなるテーマについて、客観的な論述、適切な資料の扱いがされているか
- また、その成果を発表する方法として、卒業制作展で適切な展示がなされているか

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・授業内外で個別にコメントします

【出席確認の方法】

出席点呼

【基本的な授業の進め方】

- 1：授業内容解説：10分
- 2：各自作業：90分

3：フィードバック：30分

4：FBを受けて制作：50分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：○
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 —：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

卒業研究 II（神林）

MM502

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門必修科目 (1)

4年生

8単位 後期

演習/2コマ

神林 優

【科目の概要および目的】

個々の研究テーマを設定し、担当教員のアドバイス、技術指導を受けながら卒業制作展に向けて制作と研究を行う。写真または映像作品の企画を考え、そのプレゼンテーション、制作、発表、講評を行う。作ることと見せることを実践するだけでなく、お互いの作品を鑑賞し講評することで、自分の作品を客観的に捉え、より洗練させていく。習得した知識、技術を総動員し卒業制作作品を制作発表する。同時に自身、自作の歴史や現代の広がりにおける位置とその価値を理論的に考察し導き出す。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・自身のテーマに基づいた作品を制作し表現できる
- ・制作した作品を展示し発表できる
- ・作品について論理的に他者に伝えることができる

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第 1 回 企画及び計画発表

前期終了以降に追加や修正された企画の内容についてプレゼンテーション、ディスカッションを行う

事前/プレゼンテーションの準備をする (1.5時間)

	事後/プレゼンテーションで得た気づきをまとめる (1.5時間)		事前/先行作品・研究についてリサーチする (1.5時間)
第 2 回	企画及び計画検討 プレゼンテーションで得た気づきから企画や計画をブラッシュアップする 個別指導		事後/自作理論の執筆を進める (2時間)
	事前/企画・計画をブラッシュアップする (1.5時間) 事後/企画・計画をブラッシュアップする (1.5時間)		第 10 回
第 3 回	企画及び計画決定 企画を決定し具体的な制作方法やスケジュールを立てる 個別指導		制作⑥自作理論推敲 自作について先行作品や研究をベースに文章化する 個別指導
	事前/企画・計画をブラッシュアップする (1.5時間) 事後/企画・計画を完成させる (1.5時間)		事前/自作理論の推敲し執筆を進める (2時間) 事後/自作理論の執筆を進める (2時間)
第 4 回	制作①リサーチやロケハン 企画やスケジュールをベースにリサーチやロケーションハンティングを行う 個別指導		第 11 回
	事前/制作のためのリサーチをする (1.5時間) 事後/リサーチやロケーションハンティングをまとめる (1.5時間)		中間審査②自作理論 自作理論をプレゼンテーションしディスカッションする
第 5 回	制作②撮影機材の選定 企画をベースに機材の選定を行う 個別指導		事前/プレゼンテーションの準備をする (2時間) 事後/プレゼンテーションで得た気づきをまとめる (2時間)
	事前/機材のリサーチをする (1.5時間) 事後/機材についてまとめる (1.5時間)		第 12 回
第 6 回	中間審査①作品 制作や撮影について計画と具体的な方法をプレゼンテーションしディスカッションする		展示企画 卒業制作展の展示プランを作成する 個別指導
	事前/プレゼンテーションに準備をする (1.5時間) 事後/プレゼンテーションで得た気づきをまとめる (1.5時間)		事前/展示プランを準備をする (2時間) 事後/展示プランをブラッシュアップする (2時間)
第 7 回	制作③撮影 撮影を行う 個別指導		第 13 回
	事前/撮影の準備をする (1.5時間) 事後/撮影したデータを整理する (1.5時間)		制作⑦プリントや出力 撮影し編集したデータをプリント、出力する 個別指導
第 8 回	制作④データ処理 撮影したデータの現像や編集を行う 個別指導		事前/データの準備をする (2時間) 事後/出力した作品を確認し保管する (2時間)
	事前/撮影したデータを整理する (1.5時間) 事後/編集したデータを整理する (1.5時間)		第 14 回
第 9 回	制作⑤自作について文章化する 自作について先行作品や研究をベースに文章化する 個別指導		卒業研究発表準備 卒業制作及び研究のプレゼンテーションの準備をする 個別指導
			事前/これまでの活動をまとめる (2時間) 事後/プレゼンテーションの準備をする (2時間)
			第 15 回
			卒業研究最終審査 卒業制作及び研究のプレゼンテーションを行う
			事前/プレゼンテーションの準備をする (2時間) 事後/審査結果をまとめる (2時間)
			【アクティブラーニング】
			1～5、7～10、12～14 : A、E
			6、11、15 : C
			【事前に修得しておく必要のある科目】
			撮影技術 I、II
			卒業研究 I (神林)
			【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】
			撮影や作品制作のみならず、写真史、写真評論への関心も高めておくこと
			【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】
			Adobeを利用できるPC環境

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ・プレゼンテーション20%：自身の発表と他者との活発な意見交換を評価する
- ・完成作品40%：作品の完成度を評価する
- ・卒業制作展20%：準備、会場設営、展示作業、運搬、後片付けなどの積極的参加を評価する
- ・作品の展示記録 20%：卒業制作展の記録撮影を評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

個別指導、プレゼンテーションの際にコメントする

〔出席確認の方法〕

点呼による

〔基本的な授業の進め方〕

出席確認・授業説明 20分

各自の制作進行/制作指導 140分

まとめ/次回の確認 20分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力 ◎
2. 表現力 ◎
3. 社会貢献力コラボレーション力 △
4. 課題発見力・課題解決力 ◎
5. コミュニケーション力 ◎
6. 専門的知識・技能の活用力 ◎

〔教科書〕

適宜資料を配布する

〔参考文献〕

授業で適宜紹介する

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

芸術学 I

MM110

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

2【動画型2】

講義/1コマ

平山 敬二

〔科目の概要および目的〕

本講義では芸術概念の歴史的変遷をそれぞれの時代の芸術表現との連関を基に解説し、近代および現代における芸術概念の特質と現代における芸術上の課題とについて考察する。西洋近代において確立された芸術概念の意味内容と特質とを他の時代や地域との比較の中で理解するとともに、現代におけるより広い芸術についての考え方についても理解する。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・芸術概念の歴史的変遷についてその概略を理解し説明することができる。
- ・芸術史を哲学的に考察することに関心を持つ。
- ・現代における芸術の特質と意義とについて主体的に考えることができる。

〔授業形態〕

2【動画型2】

〔授業計画〕

第1回 はじめに

「芸術学 I」の講義を始めるに当たり、その内容と目的、講義の進め方および受講上の注意点等について説明する。

事前/シラバスの読解と考察 (2.0H)

事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)

第2回 「芸術」とは何か

「芸術」という日本語の成立事情とその本来の意味を説明し、現代における芸術概念の状況について解説する。

事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)

事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)

第3回 芸術概念の歴史的変遷

タタルキューヴィッチ等の説を紹介し、近代的芸術概念がどのようにして成立したのかを歴史的に解説する。

事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)

事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)

第4回 近代的芸術概念の特質

独創性や個性を重視する近代的芸術概念とそれ以前の芸術概念とを対比し、その相違について説明する。

事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)

事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)

第5回 日本における「芸」と芸道思想

近代以前の日本における「芸」という言葉の意味契機と、芸道思想の特質について解説する。

事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)

事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)

第6回 西洋古代における芸術思想と表現

古代ギリシャ・ローマ時代の芸術表現とその背後にある芸術思想との関連について解説する。

事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)

事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)

第7回 西洋中世における芸術思想と表現

西洋中世における芸術表現とキリスト教思想における芸術についての考え方との関連について解説する。

	事前/授業内容についての事前考察 (2.0H) 事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)	事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)
第 8 回	西洋近代における芸術思想と表現 (1) ルネサンスにおける芸術思想と芸術表現との関連を理解し、近代芸術の特質について説明する。 事前/授業内容についての事前考察 (2.0H) 事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)	【アクティブラーニング】 1回：D,E / 2回：D,E / 3回：D,E / 4回：D,E / 5回：D,E / 6回：D,E / 7回：D,E / 8回：D,E / 9回：D,E / 10回：D,E / 11回：D,E / 12回：D,E / 13回：D,E / 14回：D,E / 15回：D,E
第 9 回	西洋近代における芸術思想と表現 (2) 17世紀以降20世紀前半までの芸術表現の展開と近代的芸術概念との必然的連関について説明する。 事前/授業内容についての事前考察 (2.0H) 事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)	【事前に修得しておく必要のある科目】 なし 【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】 講義ビデオの視聴後にはその内容についてのリアクションペーパーを作成し提出すること。講義内容に関連する事項について自主的に学習するとともに、文化史・美術史・哲学に関する基本的知識を積極的に身につけることを心掛ける。
第 10 回	現代における芸術思想と表現 (1) 現代における芸術表現の展開を近代批判の視点から把握し、現代における芸術活動の課題について解説する。 事前/授業内容についての事前考察 (2.0H) 事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)	【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】 ・以下のソフトウェアが問題なく動作するPC ・Microsoft Word/Microsoft PowerPoint 【成績評価方法・評価割合・評価基準】
第 11 回	現代における芸術思想と表現 (2) 19世紀末から20世紀におけるデザイン・工芸運動について学び、現代芸術との連関を説明する。 事前/授業内容についての事前考察 (2.0H) 事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)	①平常点(30%)：授業マナーを守り、積極的に授業に参加しているか。 ②リアクションペーパー(20%)：授業内容について主体的に考察する姿勢を持っているか。 ③論述テスト(50%)：授業内容についての「理解度」および「考察力」を評価する。
第 12 回	現代における芸術思想と表現 (3) 現代芸術に決定的な影響を与えたヨーゼフ・ボイスの「社会彫刻」および「拡張された芸術概念」について概説する。 事前/授業内容についての事前考察 (2.0H) 事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)	【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】 ・提出後の授業で全体にコメントします。 【出席確認の方法】 指定のタイミングでコメント投稿や出席票、リアクションペーパー提出などを併用
第 13 回	グローバリズムとプルーラリズム (1) 芸術文化におけるグローバリズム(世界主義)とプルーラリズム(複数主義)とのあるべき関係について解説する。 事前/授業内容についての事前考察 (2.0H) 事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)	【基本的な授業の進め方】 ・授業説明:10分 ・講義ブロック1：講義・説明15分→リアクションペーパー1の作成 (5分) ・講義ブロック2：講義・説明20分→リアクションペーパー2の作成 (10分) ・講義ブロック3：講義・説明15分→リアクションペーパー3の作成 (10分) ・連絡事項・その他：5分 (毎回リアクションペーパー1・2・3のすべての提出で出席とする。)
第 14 回	グローバリズムとプルーラリズム (2) 芸術文化におけるグローバリズム(世界主義)とプルーラリズム(複数主義)とのあるべき関係について解説する。 事前/授業内容についての事前考察 (2.0H) 事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)	【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】 1. 主体的行動力：△ 2. 表現力：○ 3. 社会貢献力・コラボレーション力：— 4. 課題発見力・課題解決力：△ 5. コミュニケーション力：△ 6. 専門的知識・技能の活用力：◎
第 15 回	まとめ論述テスト これまでの講義の内容全般について質問の機会を設け、必要な解説と論述テストを行う。 事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)	【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

『芸術学(改訂版)』／渡辺護／東京大学出版会／3,520円、『美学のキーワード』／W. ヘンクマン他編／勁草書房／4,400円

〔オフィスアワー〕

時間：出講日〔水曜日〕2限の前後

teams等を使用

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

授業計画：事前・事後学習

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など

西洋美術史 I

MM111

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生
2単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

近藤 真彰

〔科目の概要および目的〕

現在の美術史学における分類と解釈をもとに、古代ギリシアからルネサンス期までの西欧の美術について、主な作品とその特徴を解説する。各時代の美術の基本的な知識を得るだけでなく、歴史のなかでの表象の連続性や変化を確認する。また、作品の制作環境や評価の形成なども学ぶことで、社会のなかの美術の役割を理解し、客観的にその価値を考えていく。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・西洋美術の歴史を構成する主な作品の具体的な特徴を把握して、「名作」の価値を検証することができる
- ・美術と社会とのつながりを認識し、広い視野で作品をとらえることができる
- ・美術史からの学びを現代の芸術制作に活かすことができる

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
西洋における美術（アート）の定義、美術作品の歴史を学ぶことの意味を確認する
事前/シラバスを読む(30分)
事後/内容の復習(1時間)
- 第 2 回 古典古代
西洋美術史における古典古代の意義について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)
- 第 3 回 ギリシア美術

古代ギリシアの人間像について解説する

事前/時代背景の確認（1時間）

事後/内容の復習(2時間)

- 第 4 回 ローマ美術
古代ローマの彫刻と建築について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)

- 第 5 回 初期中世美術
古典古代の継承とキリスト教美術の発展について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)

- 第 6 回 ロマネスク美術
修道院芸術について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)

- 第 7 回 ゴシック美術：建築
都市の発展と大聖堂について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)

- 第 8 回 ゴシック美術：絵画
写本挿絵と壁画について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)

- 第 9 回 中世からルネサンス
国際ゴシック美術の展開について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)

- 第 10 回 イタリア・ルネサンス（1）
15世紀のイタリア美術について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)

- 第 11 回 イタリア・ルネサンス（2）
16世紀のイタリア美術について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)

- 第 12 回 北方ルネサンス（1）
15世紀のアルプス以北の美術について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)

- 第 13 回 北方ルネサンス（2）
16世紀のアルプス以北の美術について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)

- 第 14 回 前半まとめ
古典古代から中世までの美術史を復習する
事前/これまでの整理(3時間)
事後/内容の復習(1.5時間)

- 第 15 回 後半まとめ
ルネサンス期の美術史を復習する
事前/これまでの整理(3時間)
事後/内容の復習(1.5時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：E / 2回：E /
 3回：E / 4回：E /
 5回：E / 6回：E /
 7回：E / 8回：E /
 9回：E / 10回：E /
 11回：E / 12回：E /
 13回：E / 14回：E /
 15回：E

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・ 基本的な世界史の知識があることが望ましい
- ・ 作品をよく観察し、疑問点は調べる

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

Teamsでのpptによる講義の視聴、チャットの記入ができること

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①毎回のコメントA (30%)：講義を理解し作品をよく見ているか。自分の印象を具体的に言葉で説明ができるか
 ②毎回のコメントB (30%)：講義の内容を自分の制作に活かそうという視点があるか
 ③学期末レポート (40%)：作品の特徴を分析し、その価値を客観的に論じることができるか。現在の制作活動を芸術の歴史とつなげて考えることができるか

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

提出後の授業でコメントし、必要に応じて講義内容に反映させる

〔出席確認の方法〕

開始時のforms記入と終了時のコメントペーパー提出

〔基本的な授業の進め方〕

10分 出席確認、授業説明
 70分 講義 (ppt+参考資料+チャットでの意見交換)
 10分 コメントペーパーの記入

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：△
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 ー：関連していない】

〔教科書〕

適宜ハンドアウトを配布する

〔参考文献〕

適宜紹介する

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

成績評価方法・評価割合・評価基準

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件

日本美術史 I

MM112

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

2 【動画型2】

講義/1コマ

吉澤 早苗

〔科目の概要および目的〕

この授業では、先史・古墳時代から平安時代にかけての日本美術の歴史を取り上げる。異なる時代、異なる社会の美術においてなにが課題となったのか、またその課題に対し人々がどのように取り組んだのかを問いながら、造形作品のかたちを見る目を養い、そのかたちが表す意味を当時の社会的背景とともに考えてゆく。

〔到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル) 〕

本学のディプロマ・ポリシー (とくに専門的知識の活用力の養成) にもとづき、以下を主な到達目標とする。

- ・ 絵画、彫刻、工芸、建築といった、各ジャンルの造形作品の見方を習得する。
- ・ 各時代や作家などの表現様式の特徴を知り、それを見分ける力を身につける。
- ・ 作品のかたちとそれが表す意味、そして作品成立の背景にある社会との結びつきについて理解する。

〔授業形態〕

2 【動画型2】

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

授業に関する概要説明

日本美術史関連資料の紹介

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)

事後/授業で紹介された資料等の閲覧(2.5時間)

第 2 回 先史・古墳時代 (1)

縄文時代の美術・弥生時代の美術

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)

事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)

第 3 回 先史・古墳時代 (2)

古墳時代の美術

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)

事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)

第 4 回 飛鳥時代 (1)

仏教美術の誕生と伝播

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)

事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)

第 5 回 飛鳥時代 (2)

	飛鳥時代の美術（前期）	事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間) 事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)
第 6 回	飛鳥時代（3） 飛鳥時代の美術（後期）	事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間) 事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)
第 7 回	奈良時代（1） 奈良時代の美術（建築・彫刻）	事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間) 事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)
第 8 回	奈良時代（2） 奈良時代の美術（彫刻）	事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間) 事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)
第 9 回	奈良時代（3） 奈良時代の美術（絵画・工芸）	事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間) 事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)
第 10 回	平安時代（1） 平安時代の美術（前期：彫刻）	事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間) 事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)
第 11 回	平安時代（2） 平安時代の美術（前期：絵画）	事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間) 事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)
第 12 回	平安時代（3） 平安時代の美術（後期：建築・彫刻）	事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間) 事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)
第 13 回	平安時代（4） 平安時代の美術（後期：工芸・絵画）	事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間) 事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)
第 14 回	平安時代（5） 平安時代の美術（後期：絵画）	事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間) 事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)
第 15 回	まとめ 先史時代から平安時代にかけての日本美術史の総 まとめ	事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間) 事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)
事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)

【アクティブラーニング】

1回：F / 2回：F /
3回：F / 4回：F /
5回：F / 6回：F /
7回：F / 8回：F /
9回：F / 10回：F /
11回：F / 12回：F /
13回：F / 14回：F /
15回：F

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

日本美術史の背景にある一般史（日本史）について、高校の教科書レベルの内容は理解しておくこと。

授業で取り上げる作品のみならず、日頃からさまざまな美術作品に関心を向けることが大切。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

造形作品の図版を表示するので、大きな画面をもつ機器（PC）の利用が望ましい。

Microsoft Teamsは必須。

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

評価方法：主に毎回の提出課題により評価する（すべての課題を提出することが成績評価の前提となる）。

評価割合：平常点（課題への取り組み姿勢）（10%）＋提出課題の成績（90%）

評価基準：各ジャンルの造形作品を見る力、また各時代の代表的な作品についての理解度ををはかる。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

毎回提示する課題については、次回の授業で解説を行う。

【出席確認の方法】

Microsoft Teamsの機能（「出席者リスト」）および提出課題により確認。

【基本的な授業の進め方】

Microsoft Teamsを利用したライブ授業（①-③）とオンデマンド授業（④）の二形態を採用

①出席確認、授業概要説明等 [5分]

②課題解説 [15分]

③授業連絡、質疑応答等 [10分]

④オンデマンド講義＋課題演習 [60分]

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：－
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：－
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
－：関連していない】

【教科書】

なし

〔参考文献〕

『日本美術史』（美術出版ライブラリー 歴史編）山下裕二・高岸輝監修 美術出版社 3,080円ほか（その他の文献等についてはオリエンテーションの際に紹介する）

〔オフィスアワー〕

毎回、授業中に質疑応答時間を設けるので、原則的にこちらを利用すること（Microsoft Teamsの音声通話やチャットを利用）。

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

基本的な授業の進め方、教科書、参考文献、オフィスアワー

東洋美術史 I

MM113

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (I)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

2 【動画型2】

講義/1コマ

田辺 理

〔科目の概要および目的〕

美術は、我々の身近にあり、歴史上連続と作り上げられてきた造形芸術である。本講義では、西アジア、南アジア、中央アジア、中国に至るまでの東洋の美術作品の特徴と歴史を概説する。具体的な美術作品と共に学び、美術についての基礎知識を得ることによって、美術への興味と作品を鑑賞する目を養うことが目標である。本講義を通して、個々の優れた美術作品に親しみ、地域や時代ごとの特徴を理解し、さらにそれらの作品を生み出してきた歴史的背景や文化について理解や共感を深めてもらいたい。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・ユーラシア大陸の各地域の歴史と美術について基礎知識が身につく
- ・世界的視野を広げることができる
- ・美術作品への見方が身につき、博物館において作品鑑賞を楽しむことができる

〔授業形態〕

2 【動画型2】

〔授業計画〕

第 1 回 西アジアの美術 1

はじめに東洋美術とは何かを概説する。その後、シュメール、アッカド、新シュメール時代などの古代西アジアの美術について説明する。

事前/ 古代西アジアの歴史 (2時間)

事後/ 古代西アジアの美術 (2時間)

第 2 回 西アジアの美術 2

第一回目の授業に引き続き、古代西アジアの美術を概説する、古バビロニア、アッシリア、新バビロニア時代の美術作品を中心に説明する。

事前/ 古代西アジアの歴史 (2時間)

事後/ 古代西アジアの美術 (2時間)

第 3 回 西アジアの美術 3

古代の西アジアの美術とギリシア美術を折衷した、アケメネス朝ペルシアの美術とその歴史について概説する。

事前/ アケメネス朝の歴史 (2時間)

事後/ アケメネス朝の美術 (2時間)

第 4 回 西アジアの美術 4

ギリシア美術の特色をもつアルサケス朝パルティアと、パルティア美術とローマ美術を折衷したササン朝ペルシアの歴史と美術について解説する。

事前/パルティア・ササン朝の歴史(2時間)

事後/パルティア・ササン朝の美術(2時間)

第 5 回 インドの美術 1

マウリヤ朝、シュンガ朝、サータヴァーハナ朝の歴史と美術について解説する。主に仏教美術に焦点を当てて、彫刻作品を紹介し、その特徴について解説する。

事前/古代インドの歴史 (2時間)

事後/古代インドの美術 (2時間)

第 6 回 インドの美術 2

第五回目の授業に引き続き、古代インドの美術作品について解説する。特に、クシヤン朝、グプタ朝のマトゥラー、サールナートなどの仏教彫刻と、アジャンター石窟の壁画などの仏教美術作品について概説する。

事前/古代インドの歴史 (2時間)

事後/古代インドの美術 (2時間)

第 7 回 中央アジアの美術 1

グレコ・バクトリア、クシヤン朝（ガンダーラ）、パーミヤンなどの仏教美術作品を通して現在のパキスタンやアフガニスタンの歴史や美術作品について概説する。

事前/北西インドの歴史 (2時間)

事後/北西インドの美術 (2時間)

第 8 回 中央アジアの美術 2

ソグディアナ、ミーラーン、クチャなどのいわゆる西域といわれている地域とその周辺地域の美術作品の特徴について概説する。

事前/ 中央アジアの歴史 (2時間)

事後/ 中央アジアの美術 (2時間)

第 9 回 中国の美術 1

殷代から三国時代の美術作品について概説する。殷代の青銅器や、秦代の兵馬俑、漢代の画像石などについて解説する。

事前/ 古代中国の歴史 (2時間)

事後/ 古代中国の美術 (2時間)

第 10 回 中国の美術 2

南北朝時代の美術作品について解説する。中国の敦煌莫高窟に代表される石窟寺院の壁画や仏像彫刻、南北朝期に描かれた絵画などについて解説する。

事前/ 古代中国の歴史 (2時間)

事後/ 古代中国の美術 (2時間)

第 11 回 中国の美術 3

中国の隋・唐時代の美術作品を解説する。隋・唐時代の仏教美術、絵画、工芸、書などの多種多様な美術作品について説明する。

事前/ 古代中国の歴史 (2時間)

事後/ 古代中国の美術 (2時間)

第 12 回 中国の美術 4

五代十国から北宋・南宋の美術作品を概説する。特に、五代十国時代から北宋・南宋の絵画、仏教美術を中心に解説する。

事前/ 中国の歴史 (2時間)

事後/ 中国の美術 (2時間)

第 13 回 中国の美術 5

元代及び明代の歴史と美術作品を概説する。特に絵画と陶磁器、仏教芸術を中心に解説する。

事前/ 中国の歴史 (2時間)

事後/ 中国の美術 (2時間)

第 14 回 中国の美術 6

清代の歴史と美術作品を概説する。清代の絵画、工芸品などを見ることによって、中国美術史の集大成ともいえる美術作品について学ぶ。

事前/ 中国の歴史 (2時間)

事後/ 中国の美術 (2時間)

第 15 回 まとめ・復習

各地域の美術作品の特徴についてまとめる。この授業によって各地域の美術作品の特徴や異同を再確認する。

事前/ これまでの復習 (2時間)

事後/ これまでの復習 (2時間)

【アクティブラーニング】

1回：— / 2回：— /

3回：— / 4回：— /

5回：— / 6回：— /

7回：— / 8回：— /

9回：— / 10回：— /

11回：— / 12回：— /

13回：— / 14回：— /

15回：—

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・高校の世界史を復習しておくことわかりやすい。
- ・博物館や美術館に行き、美術作品に触れておくこと。特に、東京国立博物館と古代オリエント博物館を推薦する。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

パソコンが望ましい

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

小レポート提出(70%)：毎回の授業後に授業内容（感想・疑問点を含む）をまとめた小レポートを提出。理解度を評価する。

なお、配布資料やインターネット上からコピー&ペーストされたものは評価しない。

平常点(30%)：小レポートの提出状況で評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・提出後に全体にコメントやアドバイスを行う

【出席確認の方法】

毎授業後に小レポートを提出すれば出席となる

【基本的な授業の進め方】

授業毎に10分から15分で授業内容の確認と質問に回答を行う。その後、およそ50分から60分の授業を見る。

授業終了後、15分から30分の時間で授業内容をまとめた小レポートを書いて提出する

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない】

【教科書】

なし。プリントを配布する

【参考文献】

前田耕作『【カラー版】東洋美術史』美術出版社 2700円

【オフィスアワー】

Teams上のチャットなどで質問などは常時受け付けている

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

ロックミュージック概論 I

MM114

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

伊丹谷 良介

【科目の概要および目的】

ロックミュージックの誕生から70年代までのロックミュージックの変化について、各ジャンル・スタイルに分類、解説を行い、現代音楽としてのロックの特性について論じる。この授業を通じて、現代聴かれる音楽として主流にあるロック・ミュージックの歴史、ジャンルスタイルの特徴につ

いて理解し、音楽的知識を深めるとともに、自身の作品へ応用する力を育む。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・ロックミュージックの生い立ちと進化を説明できる
- ・背景にある文化（ファッション、サウンド、ビジュアル等）との関わりについて説明できる
- ・理解と勘考し、自分の行動につなげることができる

【授業形態】

5【同時双方向型】

【授業計画】

- 第 1 回 歴史的概観
ロックミュージックの歴史観
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 2 回 ロック・ミュージックのブルース・ルーツ
ブルースの音楽的ルーツ、ブルース及びリズム&ブルースに基づいた50年代のロックについて
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 3 回 ジャズの歴史
ジャズの歴史について
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 4 回 ロック・ミュージックのカントリー・ルーツ
ロック・ミュージックに影響を与えたカントリー・スタイルについて
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 5 回 ゴスペル・ルーツ
ゴスペル・ミュージック、ドゥー・ワップについて
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 6 回 ポップ・スタイルのロックミュージック
ティーン・アイドル・ポップ、ウォール・オブ・サウンド・プロダクションについて
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 7 回 フォーク・ミュージック
ボブ・ディラン、英国のフォーク・ロックについて
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 8 回 ソウル・ミュージック
ソウルのスタイルとその後のスタイルに及ぼした影響について
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 9 回 ブリティッシュ・インヴェンション
ロンドンにおけるロック、マーギー・グループについて
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 10 回 ビートルズ
ビートルズについて
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 11 回 ブリティッシュ・ブルース・リヴァイバル
ローリングストーンズ、その他重要なバンドについて
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 12 回 ブリティッシュ・インヴェンションに対するアメリカの反応
ガレージバンド、英国の影響を受けたその他のロック・スタイルについて
事後/授業内容の確認 (4時間30分)

- 第 13 回 サイケデリック・ロック
サンフランシスコ・サウンド、サイケデリックロックについて
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 14 回 カントリー・スタイルのリヴァイバル
カントリーロック、ロカビリー・リヴァイバルについて
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 15 回 まとめ
これまでのロック・ミュージックスタイルのまとめ
事後/授業内容の確認 (4時間30分)

【アクティブラーニング】

- 1回：F / 2回：F /
3回：F / 4回：F /
5回：F / 6回：F /
7回：F / 8回：F /
9回：F / 10回：F /
11回：F / 12回：F /
13回：F / 14回：F /
15回：F

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

積極的な授業態度

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

Teamsでの受信ができるPC、端末

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①授業毎の質問（60%）：質問、気付きが書かれたコメントカードから授業ごとの理解を評価する

②最終日のレポート（40%）：提出された「ロックミュージックの生い立ちと進化」のレポートを評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・授業毎のコメントカードを翌週の授業で回答します

【出席確認の方法】

指定のタイミングでコメント提出。リアクションペーパーの提出

【基本的な授業の進め方】

授業説明 10分
ワーク1 講義5分 ワーク①15分 解説10分
ワーク2 講義5分 ワーク②15分 解説15分
授業の振り返り 10分 次回課題説明 5分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：—
2. 表現力：—
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

なし

〔参考文献〕

ロックミュージックの歴史（上） キャサリン・チャールトン著 佐藤実訳 音楽之友社

〔オフィスアワー〕

時間：出講日〔水曜日〕の授業終了後

場所：オンライン

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

音楽史

MM115

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (I)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

2【動画型2】

講義/1コマ

東川 愛

〔科目の概要および目的〕

本講義では、主に西洋クラシック音楽の流れと各時代の作曲家、音楽作品の変遷（古代ギリシア～20世紀後半以降）を文化史・芸術史的な視点も含めながら概観する。ヨーロッパのキリスト教社会と文化（諸芸術）のなかで音楽がどのように発展していったのか、各時代の社会的・文化的な背景とともに作曲家と音楽作品の成り立ちを学び、実際に音楽を耳で聴きながら音楽様式や音楽思想の特徴を理解することを目的とする。授業の終盤では、西洋音楽の伝統的な価値観が根底から見直され、新たなフェーズに入った第二次世界大戦以降の現代音楽の流れを概観する。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・西洋クラシック音楽および現代音楽の歴史と基本概念・理論・用語を理解し、説明できる。
- ・音楽作品の特徴を捉え、各時代の音楽の変遷を耳で体感することができる。
- ・学んだ知識を自身の制作・研究活動に活用できる。

〔授業形態〕

2【動画型2】

〔授業計画〕

- 第1回 導入編：西洋音楽の始まり
音楽のメディア：記譜（楽譜）と器楽（楽器）
事前/シラバスを読む（60分）
事後/音楽鑑賞、講義資料の復習（60分）
- 第2回 古代ギリシア～初期キリスト教の音楽
古代ギリシアの音楽論～典礼音楽の始まりについて概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/音楽鑑賞、講義資料の復習（60分）
- 第3回 中世～ルネサンスの多声音楽

- 中世の多声音楽とルネサンスの各楽派を概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/音楽鑑賞、講義資料の復習（60分）
- 第4回 バロックの音楽（1）
オペラの誕生と教会音楽を概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/音楽鑑賞、講義資料の復習（60分）
- 第5回 バロックの音楽（2）
バロックの器楽音楽（室内楽・管弦楽）を概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/音楽鑑賞、復習、課題の作成（60分）
- 第6回 古典派の音楽（1）
古典派の器楽音楽と交響曲を概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/音楽鑑賞、講義資料の復習（60分）
- 第7回 古典派の音楽（2）
古典派のオペラと教会音楽を概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/音楽鑑賞、講義資料の復習（60分）
- 第8回 ロマン派の音楽（1）
ロマン派のピアノ音楽を概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/音楽鑑賞、講義資料の復習（60分）
- 第9回 ロマン派の音楽（2）
ロマン派の室内楽と交響曲を概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/音楽鑑賞、講義資料の復習（60分）
- 第10回 ロマン派の音楽（3）
ロマン派の標題交響曲・交響詩を概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/音楽鑑賞、復習、課題の作成（60分）
- 第11回 ロマン派の音楽（4）
ロマン派のオペラを概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/音楽鑑賞、講義資料の復習（60分）
- 第12回 後期ロマン派～印象主義の音楽（1）
ヴァーグナーの楽劇と印象主義のオペラを概観する
事前/配布資料を読む（60分）
事後/音楽鑑賞、講義資料の復習（60分）
- 第13回 後期ロマン派～印象主義の音楽（2）
後期ロマン派～印象主義の器楽音楽と管弦楽作品を概観する。
事前/配布資料を読む（60分）
事後/音楽鑑賞、講義資料の復習（60分）
- 第14回 20世紀前半の音楽
新古典主義、無調音楽・十二音技法、電子音響音楽の黎明期について概観する
事前/配布資料を読む（30分）
事後/音楽鑑賞、講義資料の復習（60分）
- 第15回 20世紀後半の音楽
前衛音楽とアメリカ実験音楽を中心に20世紀後半の流れを概観する

事前/配布資料を読む (60分)

事後/音楽鑑賞、学期末課題の作成 (60分)

【アクティブラーニング】

1回：F / 2回：F /

3回：F / 4回：F /

5回：F / 6回：F /

7回：F / 8回：F /

9回：F / 10回：F /

11回：F / 12回：F /

13回：F / 14回：F /

15回：F

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

予備的な知識は必要ありませんが、音楽を聴こうとする主体的・積極的な姿勢で授業に取り組むこと。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

パソコン (YouTube等の視聴)

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①学期末課題 (設問・記述式、50%)：音楽史の流れを理解し、音楽を聴いて感じたことを自分の言葉で説明することができるか。

②授業課題 (設問・記述式、50%)：授業内容を理解し、自分で考えたことを言葉にできるか。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

授業課題の内容は、その後の授業で取り上げます。

【出席確認の方法】

毎回のリアクションペーパー (Forms) の提出 (提出がないと欠席扱いになるので要注意)

【基本的な授業の進め方】

講義動画 (40分-50分程度) を講義資料を見ながら視聴し、重要な箇所は各自ノートを取る。講義を聴いたあとに講義資料に貼られたリンクから各作品の音源を視聴すること。各講義後のリアクションペーパーで授業内容を踏まえた設問に回答して提出すること。学期末の課題は所定の締切日までに提出すること。

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない】

【教科書】

講義資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて講義内で紹介する。

【オフィスアワー】

オンデマンド授業のためTeams上で質問を送ってください。

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

出席確認の方法、基本的な授業の進め方

現代漫画文化論 I

旧 マンガ原作設定デザイン

MA116

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

講義/1コマ

竹内 一郎

【科目の概要および目的】

日本の漫画史を概説する。漫画大国となった日本文化の豊かさに触れる。現代日本文化を代表する漫画の誕生からの歴史を知る。また、日本漫画史で特筆すべき作品のキャラクター相関図・荒筋を毎回書いてもらう。マンガを源流とした日本アニメの発達史についても概説する。キャラクター相関図や荒筋を書くことで、要点をまとめて簡潔に伝える力を育む。

【到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)】

・漫画史を通じて、明治以降の日本文化に関心を持つことができる。

・先達のキャラ相関表を描く事で、物語の骨格を主体的に考えることができる。

・あらすじを書くことで、要素を簡潔に表現する力を身につける。

授業計画

【授業形態】

5【同時双方向型】

【授業計画】

第 1 回 明治とビゴー

イギリス文化の流入

事前/扱うテーマについて予習する (30分)

事後/キャラクター表の作成 (30分)

第 2 回 楽天と一平

明治期の二大巨人

事前/扱うテーマについて予習する (30分)

事後/キャラクター表の作成 (30分)

第 3 回 ストーリー漫画の誕生

マンガと物語

事前/扱うテーマについて予習する (30分)

事後/キャラクター表の作成 (30分)

第 4 回 講談社と中村書店

戦前の巨人

事前/扱うテーマについて予習する (30分)

事後/キャラクター表の作成 (30分)

第 5 回 田河水泡と大城のぼる

戦前の巨人

事前/扱うテーマについて予習する (30分)

事後/キャラクター表の作成 (30分)

第 6 回 手塚治虫の登場

- マンガの革新者
事前／扱うテーマについて予習する (30分)
事後／キャラクター表の作成 (30分)
- 第 7 回 トキワ荘の存在
集団創作の源流
事前／扱うテーマについて予習する (30分)
事後／キャラクター表の作成 (30分)
- 第 8 回 売本から貸本へ
マンガの大衆化
事前／扱うテーマについて予習する (30分)
事後／キャラクター表の作成 (30分)
- 第 9 回 少女漫画の発展
少女漫画という世界
事前／扱うテーマについて予習する (30分)
事後／キャラクター表の作成 (30分)
- 第 10 回 週刊漫画の登場
多作の時代
事前／扱うテーマについて予習する (30分)
事後／キャラクター表の作成 (30分)
- 第 11 回 ジャンプの登場
人気の潮流
事前／扱うテーマについて予習する (30分)
事後／キャラクター表の作成 (30分)
- 第 12 回 青年誌の出現
読者層の拡大
事前／扱うテーマについて予習する (30分)
事後／キャラクター表の作成 (30分)
- 第 13 回 キャラクタービジネス
広告代理店の参入
事前／扱うテーマについて予習する (30分)
事後／キャラクター表の作成 (30分)
- 第 14 回 メディアミックス
インターネットと漫画
事前／扱うテーマについて予習する (30分)
事後／キャラクター表の作成 (30分)
- 第 15 回 ジャパニメーション
世界市場への拡がり
事前／扱うテーマについて予習する (30分)
事後／キャラクター表の作成 (30分)

【アクティブラーニング】

- 1回：B / 2回：B /
3回：B / 4回：B /
5回：B / 6回：B /
7回：B / 8回：B /
9回：B / 10回：B /
11回：B / 12回：B /
13回：B / 14回：B /
15回：B

【事前に修得しておく必要のある科目】

特になし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・講義科目なので、しっかりとノートをとって覚えてほしい。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

PCあるいは、画像を送受信できる機器

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点 (30%)：積極的な授業への参加態度を評価する
②授業内レポート (60%)：理解度を評価する
③授業中発言 (10%)：積極性を評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・課題返却時に講評します。リアクションペーパーは次回にフィードバックします。

【出席確認の方法】

指定のタイミングでコメント投稿や出席票、リアクションペーパーの併用。

【基本的な授業の進め方】

講義 (40分) 画像視聴 (25分) 実技 (15分) 講評 (10分)

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：—
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用性：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

『漫画の祖、楽天と一平』竹内一郎

集英社新書 780円

【参考文献】

授業内で紹介する

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

ストーリー創作基礎

旧 マンガシナリオ基礎

MA118

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

市野 治美

【科目の概要および目的】

的確に何かを伝達する方法は、ハードとしてのメディアだけに依存するものではない。ここではストーリーというコンテンツに特化し、日記から始まり、何かを相手に伝える為に必要な文章力を身につけ、オリジナルのストーリー作品 (ライトノベル又はマンガネーム) を制作、完了を目指す科目である。おとぎ話や名作の分解研究、キャラクター制作法、三幕構成やプロットの物語論などをストーリー創作の基本メソッドの学習及び、日本語の文法、熟語の再学習も行う。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・的確に自分の考えを相手に伝える事ができる
- ・考えたストーリーを破綻なく構成する事ができる
- ・プレストやプレゼンなど、実際に他者との意思疎通をはかり、作品分析を行う事ができる
- ・一本の作品を完成する事ができる

〔授業形態〕

5【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
ストーリーとは何か
最終課題の説明
事前/ キャラクターを作るとは何かを思索する (1時間)
- 第 2 回 人に伝わる文章を書く (1)
日記を書く利点と技術
事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間)
事後/ 授業課題のブラッシュアップ (1時間)
- 第 3 回 人に伝わる文章を書く (2)
人間の五感の描写法
事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間)
事後/ 授業課題のブラッシュアップ (1時間)
- 第 4 回 人に伝わる文章を書く (3)
場面描写法
事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間)
事後/ 授業課題のブラッシュアップ (1時間)
- 第 5 回 人に伝わる文章を書く (4)
演出の種類
事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間)
事後/ 授業課題のブラッシュアップ (1時間)
- 第 6 回 物語の構成 (1)
昔話の構造
事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間)
事後/ 授業課題のブラッシュアップ (1時間)
- 第 7 回 物語の構成 (2)
物語を構成するもの
事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間)
事後/ 授業課題のブラッシュアップ (1時間)
- 第 8 回 物語の構成 (3)
キャラクター創作法Ⅰ
事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間)
事後/ 授業課題のブラッシュアップ (1時間)
- 第 9 回 物語の構成 (4)
キャラクター創作法Ⅱ
事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間)
事後/ 授業課題のブラッシュアップ (1時間)
- 第 10 回 物語の構成 (5)
三幕構成とは
事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間)
事後/ 授業課題のブラッシュアップ (1時間)
- 第 11 回 物語の構成 (6)
プロットの立て方
事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間)
事後/ 授業課題のブラッシュアップ (1時間)

- 第 12 回 物語の構成 (7)
ジャンルとは
事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間)
事後/ 授業課題のブラッシュアップ (1時間)
- 第 13 回 ストーリー創作 (1)
読者を引きつけるものとは
事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間)
事後/ 授業課題のブラッシュアップ (1時間)
- 第 14 回 ストーリー創作 (2)
個性
事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間)
事後/ 授業課題のブラッシュアップ (1時間)
- 第 15 回 総括
これまでの授業の総括
事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：F / 2回：F /
3回：F / 4回：F /
5回：F / 6回：F /
7回：F / 8回：F /
9回：F / 10回：F /
11回：F / 12回：F /
13回：F / 14回：F /
15回：F

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

なし

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

- ・PC、マイク、カメラ等、通信環境の成り立つデバイス
- ・Word。アクロバットなど作文ツール

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点 (30%)：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む姿勢を評価する
- ②授業内での課題 (50%)：授業の内容を反映しているか、作品性やオリジナリティがあるか、文章力の総合評価
- ③最終課題 (20%)：授業の内容を反映しているか、作品性やオリジナリティがあるか、意欲、期日、完成度の総合評価

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・課題により、全体の課題発表と講評を行う
- ・最終課題は、講義最終回に提出、講師による評価を行い、のちに返却

〔出席確認の方法〕

- ・点呼確認
- ・提出課題発表

〔基本的な授業の進め方〕

- ・導入・授業のガイダンス
- ・ストーリー創作の講義 20分
- ・演習 課題制作 提出課題講評 60分
- ・今日のまとめと課題説明 10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：－
 4. 課題発見力・課題解決力：○
 5. コミュニケーション力：○
 6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 ー：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

日本漫画史

旧 マンガ・アニメ文化論

MA131

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

竹内 一郎

【科目の概要および目的】

日本の漫画史を概説する。漫画大国となった日本文化の豊かさに触れる。現代日本文化を代表する漫画の誕生からの歴史を知る。また、日本漫画史で特筆すべき作品のキャラクター相関図・荒筋を毎回書いてもらう。マンガを源流とした日本アニメの発達史についても概説する。キャラクター相関図や荒筋を書くことで、要点をまとめて簡潔に伝える力を育む。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・漫画史を通じて、明治以降の日本文化に関心を持つことができる。
- ・先達のキャラ相関表を描く事で、物語の骨格を主体的に考えることができる。
- ・あらすじを書くことで、要素を簡潔に表現する力を身につける。

【授業形態】

5 【同時双方向型】

【授業計画】

第 1 回 明治とビゴー

イギリス文化の流入

事前／扱うテーマについて予習する（30分）

事後／キャラクター表の作成（30分）

第 2 回 楽天と一平

明治期の二大巨人

事前／扱うテーマについて予習する（30分）

事後／キャラクター表の作成（30分）

第 3 回 ストーリー漫画の誕生

マンガと物語

事前／扱うテーマについて予習する（30分）

事後／キャラクター表の作成（30分）

第 4 回 講談社と中村書店

戦前を牽引した出版社

事前／扱うテーマについて予習する（30分）

事後／キャラクター表の作成（30分）

第 5 回 田河水泡と大城のぼる

戦前の巨人

事前／扱うテーマについて予習する（30分）

事後／キャラクター表の作成（30分）

第 6 回 手塚治虫の登場

マンガの革新者

事前／扱うテーマについて予習する（30分）

事後／キャラクター表の作成（30分）

第 7 回 トキワ荘の存在

集団創作の源流

事前／扱うテーマについて予習する（30分）

事後／キャラクター表の作成（30分）

第 8 回 売本から貸本へ

マンガの大衆化

事前／扱うテーマについて予習する（30分）

事後／キャラクター表の作成（30分）

第 9 回 少女漫画の発展

少女漫画という世界

事前／扱うテーマについて予習する（30分）

事後／キャラクター表の作成（30分）

第 10 回 週刊漫画の登場

多作の時代

事前／扱うテーマについて予習する（30分）

事後／キャラクター表の作成（30分）

第 11 回 ジャンプの登場

人気の潮流

事前／扱うテーマについて予習する（30分）

事後／キャラクター表の作成（30分）

第 12 回 青年誌の出現

読者層の拡大

事前／扱うテーマについて予習する（30分）

事後／キャラクター表の作成（30分）

第 13 回 キャラクタービジネス

広告代理店の参入

事前／扱うテーマについて予習する（30分）

事後／キャラクター表の作成（30分）

第 14 回 メディアミックス

インターネットと漫画

事前／扱うテーマについて予習する（30分）

事後／キャラクター表の作成（30分）

第 15 回 ジャパニメーション

世界市場への拡がり

事前／扱うテーマについて予習する (30分)

事後／キャラクター表の作成 (30分)

【アクティブラーニング】

1回：B / 2回：B /

3回：B / 4回：B /

5回：B / 6回：B /

7回：B / 8回：B /

9回：B / 10回：B /

11回：B / 12回：B /

13回：B / 14回：B /

15回：B

【事前に修得しておく必要のある科目】

特になし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・講義科目なので、しっかりとノートをとって覚えてほしい。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

PCあるいは、画像を送受信できる機器

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点 (30%)：積極的な授業への参加態度を評価する

②授業内レポート (60%)：理解度を評価する

③授業中発言 (10%)：積極性を評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・課題返却時に講評します。リアクションペーパーは次回にフィードバックします。

【出席確認の方法】

指定のタイミングでコメント投稿や出席票、リアクションペーパーの併用。

【基本的な授業の進め方】

講義 (40分) 画像視聴 (25分) 実技 (15分) 講評 (10分)

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：—

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：—

5. コミュニケーション力：○

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

『漫画の祖、楽天と一平』竹内一郎

集英社新書 780円

【参考文献】

授業内で紹介する

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

マンガ表現基礎
旧 短編マンガ基礎

MA164

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/1コマ

たちばな いさぎ、和田 歩美

【科目の概要および目的】

漫画作りの方法を原稿用紙の使い方から始め、話作り、人物、背景を描く基本を学ぶ。授業最終日を「締切」と設定して、8ページの作品を完成させる。

【到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)】

- ・作画にまつわる構図や遠近法などが理解できる
- ・描きたい話や絵の表現方法を考えることができる
- ・話作り、作画方法の基本が身につく

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第1回 はじめに

原稿用紙の使い方を説明する・枠線引きまで実践する

事後/授業内の課題を完成させる(1時間)

第2回 手描き効果基本 (1)

手描き効果を実践する (2カケ・4カケ)

事後/授業内の課題を完成させる(1時間)

第3回 手描き効果基本 (2)

手描き効果を実践する (ナワカケ・点描)

事後/授業内の課題を完成させる(1時間)

第4回 手描き効果基本 (3)

集中線を実践する

事後/授業内の課題を完成させる(1時間)

第5回 トーン効果

トーン処理を実践する (フラッシュ・ボカシ削り)

事後/授業内の課題を完成させる(1時間)

第6回 背景基本 (1)

1点透視図法・空気遠近法を実践する

事後/授業内の課題を完成させる(1時間)

第7回 背景基本 (2)

2点透視図法・3点透視図法を実践する

事後/授業内の課題を完成させる(1時間)

第8回 ストーリー基本 (1)

話、世界観、構図、キャラ作りの基本

を実践する

事後/授業内の課題を完成させる(1時間)

第9回 ストーリー基本 (2)

3題漸5本を作成・講評しあう

事後/授業内の課題を完成させる(1時間)

第10回 エッセイ漫画プロット制作

8Pのエッセイ漫画を考える

事後/授業内の課題を完成させる(1時間)

第11回 エッセイ漫画ネーム作成

- 8Pのエッセイ漫画ネームを作成する
事後/授業内の課題を完成させる(1時間)
- 第12回 エッセイ漫画下書き
8Pのエッセイ漫画下書きを作成する
(アナログのみ)
事後/授業内の課題を完成させる(1時間)
- 第13回 エッセイ漫画ペン入れ
作業8Pのエッセイ漫画のペン入れをする (アナ
ログのみ)
事後/授業内の課題を完成させる(1時間)
- 第14回 エッセイ漫画仕上げ
8Pのエッセイ漫画のベタ塗り・トーン貼り作業
などをする
事後/授業内の課題を完成させる(1時間)
- 第15回 講評会
原稿を仕上げ互いに講評しあう
事後/講評の結果を以後の自分の作品に生かす

【アクティブラーニング】

- 1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：— /
5回：— / 6回：— /
7回：— / 8回：— /
9回：D / 10回：— /
11回：— / 12回：— /
13回：— / 14回：— /
15回：D

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・自分が好きな漫画について①話の面白いと思う点②構図
はどう描かれているか③キャラの魅力④世間の評価を研究
しておく

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点 (30%) : 授業態度・積極性を評価する
②提出物 (70%) : 課題の完成度・〆切が守られているかを
評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・講評会で担当教員、学生が作品を読み合って、それぞれの
作品のコメントを書く

【出席確認の方法】

出席票を提出

【基本的な授業の進め方】

- ・その日の演習説明：10分
- ・実践のワーク：75分
- ・振り返り/次回課題説明：5分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

時間：出講日の授業終了後30分

場所：授業実施教室または7F非常勤講師控室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った
箇所①】

授業計画：テーマ・内容

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った
箇所②】

基本的な授業の進め方

マンガ背景美術 I

旧 マンガ背景美術基礎

MA165

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前後期

6 【対面型】

演習/1コマ

平敷 隆

【科目の概要および目的】

基本的な背景技術として、1. 真に実践的なマンガ技術と
して、つけペンによる線の引き方 2. 複雑な背景の前に、
基本としてのパースを学びます。キチンと線を引くことを
覚え、背景の完成度を上げることを目的とします。更にそ
の先の表現力の習熟までを目指します。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・自己流に行く前の、正確な線を引くことができる
- ・実践的な技術を身につける
- ・現場で求められることを理解できる

【授業形態】

6 【対面型】

【授業計画】

- 第1回 講師紹介、イラスト制作
講師、学生の自己紹介、アンケート（創作の傾
向、絵柄、テーマ）プロフィールイラストの制作
事後/ふりかえり（1時間）
- 第2回 斜線と流線
定規を使ったりゆう線の練習と、それに付随する
修正技術、ベタフラッシュ
事後/未完成課題は、持ち帰って自宅で完成させ
る（1時間～）
- 第3回 斜線とりゆう線、ホワイト技術の実習
多様な集中線と効果線による感情表現、効果パッ
ク処理による意味合いの持たせ方並びにペンの習
熟法の解説、他ホワイト技術に触れる。
事後/未完成課題は、持ち帰って自宅で完成させ
る（1時間～）

- 第 4 回 スクリーントーンの基本的な処理①
トーンの基本的な処理法、その削り方や二重張り法を学習。削り、ぼかし、トーンフラッシュ、時間が有れば応用編まで。
事後/未完成課題は、持ち帰って自宅で完成させる (1時間～)
- 第 5 回 スクリーントーンの基本的な処理②
多様なトーンとその効果的な処理方法を実習指導する。空、削りぼかし、湯気等々
事後/未完成課題は、持ち帰って自宅で完成させる (1時間～)
- 第 6 回 トーン処理の応用
トーン処理の応用による空(夕焼け雲)や水の表現等。今後トーン表現をする際の基本を学ぶ
事後/未完成課題は、持ち帰って自宅で完成させる (1時間～)
- 第 7 回 小道具の表現学習
コップ、スマホ等の基本的な食器類の処理法を解説、実習指導する。(漫画家アシスタントの漫画制作についての話)
事後/未完成課題は、持ち帰って自宅で完成させる (1時間～)
- 第 8 回 分割とパースの基礎①
同じ大きさの物を分割、増殖させて、教室やビルの窓等を正確に描いていく技術を学ぶ。
事後/未完成課題は、持ち帰って自宅で完成させる (1時間～)
- 第 9 回 分割とパースの基礎②
前回の技術の応用とおさらい
事後/未完成課題は、持ち帰って自宅で完成させる (1時間～)
- 第 10 回 透視図の基礎鍛練①
透視図法の基礎的実習その①。透視図の基本的なやり方を学ぶ
事後/未完成課題は、持ち帰って自宅で完成させる (1時間～)
- 第 11 回 透視図の基礎鍛練②
前回の技術に引き続き、それに伴う線の引き分けを学ぶ (*試験課題の配布)
事後/未完成課題は、持ち帰って自宅で完成させる (1時間～)
- 第 12 回 建築物の表現学習①
「全体像を掴む」事から透視図法で建築物(ビル等)の一般的な表現を実習指導する。(鉛筆による下書き、アタリを学ぶ)
事後/未完成課題は、持ち帰って自宅で完成させる (1時間～)
- 第 13 回 建築物の表現学習②
「全体像を掴む」復習と建築物実習指導。(アシスタントの個性と先生からの影響) パッティング(時間的余裕があれば)
事後/未完成課題は、持ち帰って自宅で完成させる (1時間～)
- 第 14 回 建築物の表現学習③

今まで学んだことを確認しつつ背景の線画にトーン仕上げなどを入れる
事後/未完成課題は、持ち帰って自宅で完成させる (1時間～)

- 第 15 回 試験課題の講評
試験課題を講評。実践的な個人アドバイス。最終回の授業。総評質問の受付等。
事前/全ての課題を完成させる (1時間～)

〔アクティブラーニング〕

1回：E,F / 2回：E,F /
3回：E,F / 4回：E,F /
5回：E,F / 6回：E,F /
7回：E,F / 8回：E,F /
9回：E,F / 10回：E,F /
11回：E,F / 12回：E,F /
13回：E,F / 14回：E,F /
15回：E,F

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・背景画の透視図法やスクリーントーンの削り法など、基礎的な理解が必要です。

・基本的な漫画用品。筆記用具、紙、定規全般が必要です。

・次の道具を用意し持参してください。2・3回：ペン、インク、筆記具、直定規、ホワイトとホワイト用の筆/4～6回：スクリーントーン、カッター、トーン用品/9～11回：直定規

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

基本的な漫画用品。筆記用具、紙、定規全般、

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①各課題 (50%)：習熟度+理解度を評価します

②平常点 (30%)：積極的な授業態度を評価します

③試験課題 (20%)：完成度+表現力を評価します

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・提出時に個別にアドバイスします

〔出席確認の方法〕

授業に応じた課題提出

〔基本的な授業の進め方〕

授業内容の説明。実際の作業の見本の実演。実作業により体を通して技術を自分の物とする。

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

授業内容に応じて作成、プリントを配布する

〔参考文献〕

授業内容に応じて作成、プリントを配布する

〔オフィスアワー〕

時間：出講日〔金曜日〕の授業終了後

場所：授業実施教室、7F非常勤講師控室

〔〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

アニメ制作・研究基礎Ⅰ

旧 アニメ制作・研究基礎（分割）

AN132

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

講義/1コマ

橋本 三郎

〔科目の概要および目的〕

アニメ制作の基本となる知識と考え方を学ぶ。ウォルトディズニーが築き上げた古典作品を素材に、アニメの歴史・技術の進化、表現力を研究。作品制作時に反映させる。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・アニメ制作・研究基盤の理解
- ・アニメ制作・研究基盤の修得
- ・アニメ制作・研究基盤の確信を持って実行

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第1回 ガイダンス

〔授業内容〕 構成・予定 学習法の説明

事後/復習（レポート作成）（4時間）

第2回 アニメの概念

〔概念規定〕 旧概念 参考映像視聴

事前/課題の確認（2時間）

事後/課題の復習（2時間）

第3回 アニメの特性

〔映像〕 新概念 参考映像視聴

事前/課題の確認（2時間）

事後/課題の復習（2時間）

第4回 アニメの歴史①

〔草創期・海外〕 年表提示 参考映像視聴

事前/課題の確認（2時間）

事後/課題の復習（2時間）

第5回 アニメの歴史②

〔草創期・日本〕 年表提示 参考映像視聴

事前/課題の確認（2時間）

事後/課題の復習（2時間）

第6回 アニメの作家・作品①

〔特異な作家・作品〕 新しい表現 参考映像視聴

事前/課題の確認（2時間）

事後/課題の復習（2時間）

第7回 アニメの作家・作品②

〔特異な作家・作品〕 実験的な表現 参考映像視聴
事前/課題の確認（2時間）

事後/課題の復習（2時間）

第8回 アニメにおけるエンターテイメント①

〔作品の分析〕 シーン・カットの意味と効果 参考映像視聴

事前/課題の確認（2時間）

事後/課題の復習（2時間）

第9回 アニメにおけるエンターテイメント②

〔作品の分析〕 キャラクターの造形と世界観 参考映像視聴

事前/課題の確認（2時間）

事後/課題の復習（2時間）

第10回 アニメにおけるエンターテイメント③

〔作品の分析〕 メインとサブのキャラの役割 参考映像視聴

事前/課題の確認（2時間）

事後/課題の復習（2時間）

第11回 アニメにおけるエンターテイメント④

〔作品の分析〕 作品のもつカリカチュア性について 参考映像視聴

事前/課題の確認（2時間）

事後/課題の復習（2時間）

第12回 アニメにおけるエンターテイメント⑤

〔作品の分析〕 リアリティとアニメ的リアルについて 参考映像視聴

事前/課題の確認（2時間）

事後/課題の復習（2時間）

第13回 アニメにおけるエンターテイメント⑥

〔作品の分析〕 ストーリーとスタイルについて 参考映像視聴

事前/課題の確認（2時間）

事後/課題の復習（2時間）

第14回 アニメにおけるエンターテイメント⑦

〔作品の分析〕 作品のメイキングに学ぶ 参考映像視聴

事前/課題の確認（2時間）

事後/課題の復習（2時間）

第15回 まとめ

アニメの未来 可能性の追求

事前/課題の確認（2時間）

事後/課題の復習（2時間）

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：— /

3回：— / 4回：— /

5回：— / 6回：— /

7回：D / 8回：— /

9回：— / 10回：— /

11回：— / 12回：— /

13回：— / 14回：— /

15回：—

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

旺盛な好奇心と向上心

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①レポート（70%）：授業内容の理解度を評価

②平常点（30%）：授業態度を評価

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

個別に授業内にて講評

〔出席確認の方法〕

点呼もしくは出席カード

〔基本的な授業の進め方〕

出欠確認（10分）

資料鑑賞・講義（80分）

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：◎

5. コミュニケーション力：—

6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

〔教科書〕

授業内にて指示

〔参考文献〕

授業内にて紹介

〔オフィスアワー〕

時間：出講日〔火〕の授業の前後

場所：授業実施教室

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

アニメスキルⅠ

旧 アニメ基礎・人間素描

AN151

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

古瀬 登

〔科目の概要および目的〕

タイミングを習得する事は、映像としてのアニメーション（2Dに限らず）において「画を描く」事と同じくらい大切であり、人によって画に個性があるようにタイミングによってその動きの個性が出るものである。タイミングとは何か、「画の数」、「尺」、画を動かすためのスピードをコント

ロールする事であり、その故に感覚的要素が強く曖昧である。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

・生き物（人間も含む）独特の動きのやわらかさを表現できる

・動かすタイミングを習得し、基本的なタイムシートを作成することができる

・アニメーション制作向けPCツールを操作できる

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第1回 タイミングの基礎 (1)

タイムシートを使い、画を動かすタイミングを学ぶ
事前/タイムシートについて調べる(1.5h)

事後/課題の制作(1.5h)

第2回 タイミングの基礎 (2)

作画(線画)したものを撮影、確認する

事前/課題の制作(3h)

第3回 動きの表現 (1)レイアウト

レイアウトの作成

事前/レイアウトについて調べる(1.5h)

事後/課題の制作(1.5h)

第4回 動きの表現 (2) キーフレーム

与えられたテーマに沿って作画（キーフレーム）

事前/キーフレームについて調べる(1.5h)

事後/課題の制作(1.5h)

第5回 動きの表現 (3)中割

キーフレーム（原画）を動画、中割り

事前/中割りについて調べる(1.5h)

事後/課題の制作(1.5h)

第6回 動きの表現 (4) 仕上げ・撮影

PCによるペイント・撮影・タイミング編集

事後/課題の制作(3h)

第7回 課題提出

課題提出と指導師のチェック&リテイク

事後/課題の制作(3h)

第8回 作画 (1) キャラクター

実際のキャラクターを使い作画、指導

事後/課題の制作(3h)

第9回 作画 (2) レイアウト

レイアウト・原画

事後/課題の制作(3h)

第10回 作画 (3) 原画

序走や慣性の性質を学ぶ。人間をはじめ動きは想像より軟らかいもの

事後/課題の制作(3h)

第11回 作画 (4) 原画

大まかな動きのラフを作成し、更にタイミングのチェック

事後/課題の制作(3h)

第12回 作画 (5) 動画

動画作業

事後/課題の制作(3h)

第13回 作画 (6) 動画

- クリンナップする
事後/課題の制作(3h)
- 第14回 撮影
PCによる撮影・タイミング編集
事後/課題の制作(3h)
- 第15回 課題提出
課題提出と指導師のチェック&リテイク
事前/課題の制作(3h)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：E / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：E / 6回：E /
7回：E / 8回：E /
9回：E / 10回：E /
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：E

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・必要な用具①アニメーション用タップ②動画用紙(7階事務局にて販売)③鉛筆Bまたは2B④色鉛筆赤・青を初回授業時までに事前に必ず購入しておくこと
- ・デジタル作業可

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点(30%)：授業態度・積極性を評価する
②課題評価(70%)：アニメーション独特の表現を理解できているか。PCツールを使いこなせているか。完成度はどうか

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・提出後の授業で個別にコメントします

〔出席確認の方法〕

授業開始時に名前を読み上げて確認します

〔基本的な授業の進め方〕

1コマ目

- ・出席確認:5分 ・資料配布、課題説明:10分・講義10分 ・作画作業65分

2コマ目

- ・作成した課題のチェック、添削の繰り返し80分
- ・課題提出5分・次回説明5分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

課題ごとに資料配布

〔参考文献〕

神村 幸子 「アニメーションの基礎知識大百科」(2009年) グラフィック社 3080円

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照(7F掲示板に掲示)
【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、教科書、参考文献

現代アニメ文化論 I

AN/MM130

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

月岡 貞夫

〔科目の概要および目的〕

日本のアニメは国際的に評価が高いのだが、この50年間日本のアニメは殆ど進化はしていないし、むしろ退化しているのである。然るに何故それほど人気があるのかと言えば物語にあったのだ。物語こそ世界に類がないほど多様なものであり、中国でもアメリカでもEUにおいても、そこはリードされているところなのだ。従って日本で学ぶべきは、物語であり登場するキャラクターなのだ。同時に学ぶものとして、皆さんがプロとして習得しなければならないものが、ウケるという概念なのだ。アニメに限らずマンガでも同じだがウケなければプロの扉さえ開けられないのがデジタル時代で習得しなければならない必須条件といってもよいのである。

〔到達目標(授業を通じて身につく能力・スキル)〕

- ・作る楽しさを理解することができる。
- ・アニメーションの基本的な理論について理解することができる。
- ・過去のアニメーション作品を研究し、自身の作品づくりに繋げることができる。

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

第1回 ウケる・とは

お笑いタレントたちは懸命にウケることを研究しているのだ。ただウケるだけならタレントでもできるだろう。コンテンツはウケること以外にも必要なものがあるのだ。面白いとはウケることと同義であるが、必要なものとはオーディエンスの心の中に何事かを残すことだ。これもウケることと同義だと考えてほしいのだ。

事前/毎回、神話、寓話、おとぎ話、民話、伝説の違いについて調べる(30分)

	事後/毎回、各自が一本の物語を読み、どうしたところに物語性をみたか、好感、共感、感動があればそれをレポートに纏めてみることに。(対象物語は各自が選ぶこと) (60分)	
第 2 回	おもしろい・とは 起きているはずだ。おもしろいと感ずるセンスは人それぞれ千差万別だ。	
第 3 回	「毀滅の刃」「半沢直樹」「ハリーポッター」の共通点 おもしろいコンテンツにはツカミという専門用語がある。ものを掴むという言葉から転嫁したものだ。こちらはウケると同様	
第 4 回	物語とは モノを語る・が物語で、何を語るかだ。人は昔から人と人の関係を語ってきたのだ。人の悩みとはすべて人間関係からくる。	
第 5 回	小説と寓話について 小説は映画と相性がよい。アニメーションは寓話と相性がよい小説はありうる世界で、アニメはあり得ない世界である。	
第 6 回	笑話と怪異譚ー喜劇と悲劇 古代ギリシャには人間は悲劇と喜劇を観なければならぬといわれた。古代中国には笑話と怪異譚(悲劇ではない)が残された。	
第 7 回	アニメと寓話の親和性 村上春樹は小説家だ。石黒和夫は寓話作家である。お二人とも売れっ子の作家である。二人の違いから学ぶもの。	
第 8 回	リアリズムとリアリティ あり得る世界にはリアリズムが必要だ。あり得ない世界にはリアリティが必要なのだ。	
第 9 回	他人を知る・自分を知る 自分がされて厭なことは人にもしない、相手が喜ぶことをしたい、道徳の黄金律だ。人は自分をどう見ているかを知ろうとする。	
第 10 回	感動と共感 良い音楽を聴いてるとき、良い景色を見ている時共感したり感動もするものだ。さて自分でそれを表現するとどうなるか。	
第 11 回	幸福観と自己実現 人は何のために生きるのか、永遠のアンサーだろう。人の生き方を語っているのが物語(ナラティブ)なのだ。	
第 12 回	ピノキオとペルセウスと孫悟空 前二つに共通するものは自己確立の物語である。西遊記の孫悟空は成長したか、自己確立は。	
第 13 回	「敦盛」「狼王ロボ」 二つに共通するものは”思いやる”である。誰に対して思いやるのか。	
第 14 回	KYと出る杭 空気を読むと出る杭は打たれる、と思いやるということは同じ心の作用である。	
第 15 回	思いやる 共感と感動の集大成	
		【アクティブラーニング】 1回：— / 2回：— / 3回：— / 4回：— / 5回：— / 6回：— / 7回：— / 8回：— / 9回：— / 10回：— / 11回：— / 12回：— / 13回：— / 14回：— / 15回：—
		【事前に修得しておく必要のある科目】 なし
		【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】 アニメーションについて深く興味を持ち、授業への積極的な参加を求める。
		【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】 Teamsでの受信ができるPC、端末
		【成績評価方法・評価割合・評価基準】 ①平常点(10%)：積極的に授業に参加しているか ②レポート(90%)：授業内容が理解できているか
		【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】 授業内で紹介
		【出席確認の方法】 授業冒頭にTeams上のチャットで確認を行う
		【基本的な授業の進め方】 出欠確認(10分) テーマに関する講義・質疑応答①(20分) / テーマに関する講義・質疑応答②(20分) テーマに関する講義・質疑応答③(20分) / テーマに関する講義・質疑応答④(20分)
		【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】 1. 主体的行動力：○ 2. 表現力：△ 3. 社会貢献力・コラボレーション力：△ 4. 課題発見力・課題解決力：— 5. コミュニケーション力：○ 6. 専門的知識・技能の活用力：◎
		【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない】
		【教科書】 なし
		【参考文献】 なし
		【オフィスアワー】 出講日の授業前後
		【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】 なし
		【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】 なし

アニメ背景遠近法 旧 アニメ背景美術基礎

AN/MM154
東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (I)
1年生 2年生 3年生 4年生
2単位 前期
6 【対面型】
演習/2コマ

松平 聡

【科目の概要および目的】

アニメーションの背景美術における遠近法の授業である。アニメーションでは、キャラクターの存在（動く）する世界を画面（平面）に奥行きのある空間（立体）として表現しなければならない。そのための遠近法を学ぶ。パース感覚の習得から始め、そして技法としての線遠近法を学び、さらにアニメーションにおけるカメラレンズの遠近効果までを学ぶ。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・絵を描くための基礎的な遠近法が習得できる。
(特にアニメーションで重要な線遠近法（パース）の技術が習得できる。)
- ・遠近法を学ぶ事により形態の理解、画面構成などの描画力が習得できる。
- ・図法に頼らずに描けるパース感覚を身につける。

【授業形態】

6 【対面型】

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
授業の概要説明、パースの基本概要、アニメーションにおけるパースの必要性を学ぶ
事前/授業内容の予習 (1時間)
事後/授業内容の予習 (1時間)
- 第 2 回 線透視図法（1）遠近法の基本
重ねあわせ、サイズとスペースの変化を学ぶ
事前/授業内容の予習 (1時間)
事後/授業内容の予習 (1時間)
- 第 3 回 線透視図法（2）遠近法の基本
モデリング、ディテールと端部、色彩とバリエーションの変化を学ぶ
事前/授業内容の予習 (1時間)
事後/授業内容の予習 (1時間)
- 第 4 回 線透視図法（3）一点透視図法
線の収束、視点と目の高さ、角度を目測するを学ぶ
事前/授業内容の予習 (1時間)
事後/授業内容の予習 (1時間)
- 第 5 回 線透視図法（4）一点透視図法
グリッドを使い一点透視図法で室内を描く
事前/授業内容の予習 (1時間)
事後/授業内容の予習 (1時間)
- 第 6 回 線透視図法（5）二点透視図法
シンプルな箱を遠近法で描く、透かし描き、隠れた端部を見つける学ぶ

- 事前/授業内容の予習 (1時間)
事後/授業内容の予習 (1時間)
- 第 7 回 線透視図法（6）二点透視図法
消点を自由に扱う、角度を正しくとらえる、遠近法の中心を使うを学ぶ
事前/授業内容の予習 (1時間)
事後/授業内容の予習 (1時間)
- 第 8 回 線透視図法（7）二点透視図法
スケッチの修正、ドアと窓を描く、箱の組み合わせを学ぶ
事前/授業内容の予習 (1時間)
事後/授業内容の予習 (1時間)
- 第 9 回 線透視図法（8）二点透視図法
家を描く、対象物の集まり、高さの違う対象物を学ぶ
事前/授業内容の予習 (1時間)
事後/授業内容の予習 (1時間)
- 第 10 回 線透視図法（9）曲線
円と楕円、円筒形の対象物、円筒形の組み合わせを学ぶ
事前/授業内容の予習 (1時間)
事後/授業内容の予習 (1時間)
- 第 11 回 線透視図法（10）曲線
アーチを学ぶ。橋を描く。
事前/授業内容の予習 (1時間)
事後/授業内容の予習 (1時間)
- 第 12 回 線透視図法（11）傾斜
複数の消点、垂直線の収束、傾斜のある対象物を描く
事前/授業内容の予習 (1時間)
事後/授業内容の予習 (1時間)
- 第 13 回 線透視図法（11）傾斜
道、畑、川を描く。階段を描く。
事前/授業内容の予習 (1時間)
事後/授業内容の予習 (1時間)
- 第 14 回 カメラのレンズと遠近感
カメラ位置、焦点距離、視野角、構図を学ぶ
事前/授業内容の予習 (1時間)
事後/授業内容の予習 (1時間)
- 第 15 回 課題制作
課題制作
事前/授業内容の予習 (1時間)
事後/授業内容の予習 (1時間)

【アクティブラーニング】

- 1回：F / 2回：F /
3回：F / 4回：F /
5回：F / 6回：F /
7回：F / 8回：F /
9回：F / 10回：F /
11回：F / 12回：F /
13回：F / 14回：F /
15回：F

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・準備するもの：素描道具（鉛筆（B、2B、4B）、消しゴム、直定規30cm、スケッチブック又はクロッキー帳サイズA4以上）

・履修人数制限あり（25名まで）

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点（30%）：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

②提出課題（30%）：理解度、表現力、完成度を評価する。

③試験課題（40%）：課題の総合的な完成度を評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・各課題に対し、個別にコメント、指導を行う。

〔出席確認の方法〕

授業開始時に出席簿に記入

〔基本的な授業の進め方〕

・その日の授業説明：10分／・講義：80分

・演習実技：80分／・その日の授業の振り返り：10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

「初めて学ぶ遠近法」フィリップ・W・メッツガー著
エムディエヌコーポレーション 2090円

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

時間：出講日〔火・木〕の授業（9：10～12：20）の前後
場所：授業実施教室

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

コンピュータグラフィックス I

GA160

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

吉岡 章夫

〔科目の概要および目的〕

Adobe PhotoShop、Illustratorといった2次元画像を制作する手法と、Adobe AfterEffectsをつかった動画制作の手法を学ぶ。ゲーム、映像、web、広告、プロダクトなど、どの業界でも必要とされるコンピュータグラフィックスの基本ツールの使い方とともに、ここではゲームやWebコンテンツに特化した制作技法を習得する。ドット画、GIFアニメーション、高精細なアイコン、画面レイアウト、音楽に合わせた動画作成を行う。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・デザイナーとして精度の高い描画ができる。
- ・デザイナーとして精度の高いレイアウトができる。
- ・デザイナーとして高度な動画編集ができる。
- ・制作上の問題解決ができる。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
ゲーム業界の動向紹介、授業の進め方の説明、ゲーム表現の構成要素を考える
事前/ 業界調査3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 2 回 ドット画
Photoshopを使って、ドットを打って物体やキャラクターを描く
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 3 回 GIFアニメーション
フレームアニメーションの概念を学ぶ
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 4 回 中間課題制作（1）
オリジナルのドット画キャラアニメーションを作成
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 5 回 中間課題制作（2）
オリジナルのドット画キャラアニメーションを作成
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 6 回 発表会/アイコン制作
ドット画キャラアニメの発表会
高精細なアイコンの作成

- 事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 7 回 アイコン制作/画面レイアウト
高精細なアイコンの作成
ゲーム画面の要素を考え、レイアウトを制作する
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 8 回 画面レイアウト
ゲーム内広告の要素を考え、バナー広告のレイアウトを制作する
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 9 回 トレース
パスツールでキャラクターをトレースする
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 10 回 動画制作 (1)
AfterEffectsを使って短い動画制作をする
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 11 回 動画制作 (2)
AfterEffectsを使って短い動画制作をする
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 12 回 最終課題制作 (1)
自分の好きな音楽に合わせたイメージ動画を制作する
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 13 回 最終課題制作 (2)
自分の好きな音楽に合わせたイメージ動画を制作する
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 14 回 最終課題制作 (3)
自分の好きな音楽に合わせたイメージ動画を制作する
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 15 回 プレゼン・講評
イメージ動画の講評会
事前/ 制作3(時間)
事後/ フィードバック確認3(時間)

【アクティブラーニング】

- 1回 : E / 2回 : E /
3回 : E / 4回 : E /
5回 : E / 6回 : C /
7回 : E / 8回 : E /
9回 : E / 10回 : E /
11回 : E / 12回 : E /
13回 : E / 14回 : E /
15回 : C

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・キャラクターのアイデアを考えられること。
- ・楽曲からイメージを発想できること。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点(最大30点) : 授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。
②中間課題(最大30点) : 表現力・完成度を評価する。
③最終課題(最大30点) : 表現力・完成度を評価する。
④プレゼンテーション(最大10点) : 課題の制作意図をしっかりと伝えられているかを評価する。
平常点が6割に満たない場合は課題の採点対象外とする。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・提出後の授業で全体にコメントします

【出席確認の方法】

授業開始時に点呼

【基本的な授業の進め方】

20分 : 該当回の授業の内容の説明

150分 : 実技

10分 : クロージング解説

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力 : ○
2. 表現力 : ◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力 : —
4. 課題発見力・課題解決力 : —
5. コミュニケーション力 : △
6. 専門的知識・技能の活用力 : ◎

【◎ : 特に関連が強い ○ : 関連が強い △ : 関連がある
— : 関連していない】

【教科書】

参考ウェブサイトを授業内で紹介

【参考文献】

参考ウェブサイトを授業内で紹介

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

発想表現

旧 イラストレーション表現基礎 I

IL121

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (I)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

北見 隆

〔科目の概要および目的〕

・授業の概要：表現者にとって自己の作品を制作する上で必要な事は、技術的な描写力だけでは無い。アイデア、発想、自己の世界観といったイメージーションこそが、最も重要な資質として求められることになる。この授業では柔軟な発想の育成やトレーニングと共に、自己の世界観の確認作業を行う事になる。既成の価値観や過去の経験にとらわれる事無く、オリジナリティのある作品を構築して行くための授業である。アートを志向する学生だけに留まらず、全分野の学生にも対応した授業内容が考慮されている。ほぼ毎回小課題が出題され、手描き中心の授業であるが、オンライン授業でもあるためデジタルによる課題提出も可としている。

・科目の目的：従来の価値観から脱却し、発想力の柔軟さと豊かさを身につける。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

・柔軟な発想力と、それを最低限、人に伝えることの出来る表現力を身につける事が出来る。

・完成度のある作品を作り上げる力を身につける事が出来る。

・自己の作品や制作姿勢に対する批評的態度を身につける事が出来る。

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

第 1 回 前提講義

授業概要説明、受講生の自己紹介画を描き、送信してもらう

事前学習（授業概要の認識/1h）

事後学習（鉛筆描写練習/1h）

第 2 回 自己紹介

自己紹介画の講評

事前学習（授業概要の認識/1h）

事後学習（鉛筆描写練習/1h）

第 3 回 一本の鉛筆から (1)

鉛筆表現の可能性と試み

事前学習（授業概要の認識/1h）

事後学習（鉛筆描写練習/1h）

第 4 回 一本の鉛筆から (2)

前回の授業で知った鉛筆による技法を用いて、自画像を描く

事前学習（授業概要の認識/1h）

事後学習（鉛筆描写練習/1h）

第 5 回 3つの題材

自画像講評、物語性のある絵を考える。

事前学習（授業概要の認識/1h）

事後学習（鉛筆描写練習/1h）

第 6 回 抽象表現

抽象的に描くとはどういう事か。

事前学習（授業概要の認識/1h）

事後学習（鉛筆描写練習/1h）

第 7 回 起承転結とは

4コマ漫画を描いてみる

事前学習（授業概要の認識/1h）

事後学習（鉛筆描写練習/1h）

第 8 回 4頁の絵本制作 (1)

「絵を描く理由」をテーマに、4頁の絵本を作る

①アイデアスケッチ提出。

事前学習（授業概要の認識/1h）

事後学習（鉛筆描写練習/1h）

第 9 回 4頁の絵本制作 (2)

②決まったアイデアをもとに作画作業に入る。

事前学習（授業概要の認識/1h）

事後学習（鉛筆描写練習/1h）

第 10 回 4頁の絵本制作 (3)

③作画作業

事前学習（授業概要の認識/1h）

事後学習（鉛筆描写練習/1h）

第 11 回 絵本の講評会

自己の作品解説と講師による講評。

事前学習（授業概要の認識/1h）

事後学習（鉛筆描写練習/1h）

第 12 回 人生双六 (1)

双六の歴史解説の後、自分を主人公にA3サイズの双六を描く①アイデア決定

事前学習（授業概要の認識/1h）

事後学習（鉛筆描写練習/1h）

第 13 回 人生双六 (2)

②任意の画材による着色作業。

事前学習（授業概要の認識/1h）

事後学習（鉛筆描写練習/1h）

第 14 回 人生双六 (3) 講評会

③自己の作品解説と講評会

事前学習（授業概要の認識/1h）

事後学習（鉛筆描写練習/1h）

第 15 回 授業の総括と小課題

この授業のまとめと小課題(制作時間1時間程度)

事前学習（授業概要の認識/1h）

事後学習（鉛筆描写練習/1h）

〔アクティブラーニング〕

1回：D / 2回：C /

3回：E / 4回：E /

5回：C / 6回：E /

7回：E / 8回：D /

9回：E / 10回：E /

11回：C / 12回：E /

13回：E / 14回：C /

15回：D

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・特に予備知識や技術は必要無いが、手書き指導中心の従行であるため、アクリル絵具等の画材、およびA4～3サイズのイラストボードや紙の準備が必要となる。PCによる課題提出も可とする。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

デジタルカメラ（カメラ付き携帯電話可）また作品をPCで作画する学生は、任意の作画ソフト。

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①作品評価（50%）：表現力・完成度を評価する。
- ②平常点（25%）：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。
- ③最終小課題（25%）：授業の内容を理解してしているか評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・メインの作画課題が2点出題され、その講習会も行われる。その際、学生による解説も求められる。

〔出席確認の方法〕

チャットと音声による確認。

〔基本的な授業の進め方〕

講師による講義（40分）、課題制作（40分）出席確認（10分）。作品講評日の場合は、講義（20分）、課題制作（60分）出席確認（10分）程度の配分を予定。

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：事前・事後学習

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

色彩構成

旧 グラフィックデザイン I

IL/MD156

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

安田 隆浩

〔科目の概要および目的〕

視覚デザインの入門として課題ごとのそれぞれのテーマ（色彩効果、構図、文字のデザインなど）を考えながら、アクリルガッシュ、製図用具を用いて手作業で制作する。画材や製図用具の扱い方、丁寧な表現を体験していく事で、今後の作品制作において完成度の高い作品づくりに活かしていく。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・デザインの体験を通しそれぞれの専門分野に活かす力を身につける。
- ・製図用具の使い方を理解し、使いこなすことができる。
- ・色彩効果を理解し自作に活かす力を身につける。
- ・構図の効果を考え、画面構成に活かす力を身につける。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション／用具の使い方

授業解説及び製図用具を用いて簡単な作図をする。

持ち物／アクリル絵具（黒、白）／筆／筆洗／パレット／ティッシュ／製図用具（コンパス・烏口）／直定規・三角定規／筆記用具

事前／シラバスを熟読する。画材を用意する。

事後／烏口を使ってみる。(1時間)

第2回 色彩1

配色を考えるうえでのベースになる明度、彩度、色相等の対比と効果を学習する。

持ち物／アクリル絵具（18色以上）／筆／筆洗／パレット／ティッシュ／製図用具（コンパス・烏口）／直定規・三角定規／筆記用具 ※以後の授業も同様の画材を使用する。

事前：下図を仕上げる。(30分程度)

事後：テキストを読んでおく(30分)

第3回 色彩2

配色を考えるうえでのベースになる明度、彩度、色相等の対比と効果を学習する。

事前：テキストを読み色彩の対比を理解しておく。(30分)

事後：課題の進行(1時間程度)

第4回 色彩3

配色を考えるうえでのベースになる明度、彩度、色相等の対比と効果を学習する。

事前：課題の進行(1時間程度)

事後：課題を仕上げる。(1時間程度)

- 第 5 回 幾何構成1
幾何図形を用いた構成を行う。疎密の対比を考えた構図を考える。
事前／色彩の課題を仕上げる(1 時間程度)
事後／課題の進行(1 時間程度)
- 第 6 回 幾何構成 2
構図と配色を決定する。
事前：課題の進行(1 時間程度)
事後：課題の進行(1 時間程度)
- 第 7 回 幾何構成 3
構図と色彩のバランスを考え彩色する。
事前／課題の進行(1 時間程度)
事後／課題の進行(1 時間程度)
- 第 8 回 幾何構成 4 / ロゴタイプ1
幾何構成を仕上げる。
事前／課題の進行(1 時間程度)
事後／街で目にするロゴタイプ、ロゴマークを撮影する。アイデアを考える。(2 時間程度)
- 第 9 回 ロゴタイプ 2
文字を用いたデザインを考える。文字の形、バランスを活かし、自分のマークをつくる。
事前／アイデアを考える。(1 時間)
事後／課題の進行(1 時間程度)
- 第 10 回 ロゴタイプ 3
ロゴタイプの仕上げ
事前／課題の進行(1 時間程度)
事後／課題を仕上げる。(1 時間程度)
- 第 11 回 デザイン1
自分のポートレイトとロゴタイプ用いてデザインをする。
事後／アイデアを考える(1 時間程度)
事前／アイデアを考える(1 時間程度)
- 第 12 回 デザイン 2
アイデアの決定と作画
事前／課題の進行(1 時間程度)
事後／課題の進行(1 時間程度)
- 第 13 回 デザイン 3
作画作業
事前／課題の進行(1 時間程度)
事後／課題の進行(1 時間程度)
- 第 14 回 デザイン 4
作画作業
事前／課題の進行(1 時間程度)
事後／課題の進行(1 時間程度)
- 第 15 回 デザイン 5
仕上げと講評
事前／課題の進行(1 時間程度)
事後／課題を仕上げる(1 時間程度)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：E / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：E / 6回：E /
7回：E / 8回：— /

- 9回：E / 10回：— /
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：—

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・絵具や製図用具の使い方等基礎的な内容を含むので1年次に受講することが望ましい。

・授業には製図用具【直定規30 cm以上／三角定規24cm以上／コンパス／烏口（ペン先の長めのものが使いやすい。）、アクリルガッシュ18色以上／彩色用具が初回から必要になる。

・用紙費用を徴収する。(700 円程度)

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①授業への参加姿勢 (30%)：授業マナーを守り、積極的に参加出来ているか。

②課題 (70%)：テーマを理解出来ているか。完成度にこだわっているか。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

課題返却時に個別にコメントまたは講評会で全体にコメントします。

〔出席確認の方法〕

授業初めに出席の点呼をとります。

〔基本的な授業の進め方〕

・授業説明:10 分から30 分

・その日のワーク／全体への課題解説や個人毎の質疑応答、アドバイス

・次回課題説明 5 分（講評時は 1 時間ほど）授業初めに出席を点呼をとります。

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

随時貸与。

〔オフィスアワー〕

時間：出講日の授業後30 分

教室：授業実施教室／

イラストレーション研究室 (812)

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

科目の概要および目的、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、出席確認の方法

空間構成
旧 立体アート

IL157

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

西岡 悠妃

【科目の概要および目的】

3つの課題を制作しながら、立体造形の体験を行う。紙、粘土等、それぞれの素材の特性を考え、造形を工夫する。作品を制作するうえで必要な、立体的にもものを捉える力をつけるだけではなく、素材・表現の多様性を学び、体験することを通して、制作の楽しさ、造形の魅力を知る。また『遊び』とは何かを考え、表現者としての自己をひろげるきっかけとする。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・立体構成能力を身につける
- ・企画力、造形力を身につける
- ・様々な素材を知り、応用する能力を身につける

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

- 第1回 授業全体のオリエンテーションと課題説明 [粘土でフィギュア制作]
事前/画材の使い方を学ぶ(1時間)
事後/ラフ案を練る(1時間)
- 第2回 制作 [動物、人物、恐竜、機械などフィギュアにしたいものを決める]
それぞれのテーマに沿った参考作品の提示
事前/制作 (1時間)
事後/制作 (1時間)
- 第3回 制作 [課題ワーク提出が済んだ人から土台作り]
事前/制作 (1時間)
事後/制作 (1時間)
- 第4回 制作 [肉付け]
事前/制作 (1時間)
事後/制作 (1時間)
- 第5回 制作 [仕上げ/塗り]
事前/制作 (1時間)
事後/制作 (1時間)
- 第6回 全体講評と課題ワーク提出
事前/発表の予習 (1時間)
事後/復習 (1時間)
- 第7回 第6回講評の振り返りと課題説明 [紙素材のペーパークラフト]

- 事前/ラフ案を練る (1時間)
事後/材料購入、制作 (1時間)
- 第8回 制作 [ラフ案を詰める]
事前/制作 (1時間)
事後/制作 (1時間)
- 第9回 制作 [構造を間違えていないかをチェック]
事前/制作 (1時間)
事後/制作 (1時間)
- 第10回 制作 [途中経過の確認]
事前/制作 (1時間)
事後/制作 (1時間)
- 第11回 制作
事前/制作 (1時間)
事後/仕上げ (1時間)
- 第12回 全体講評と課題ワーク提出、課題説明 [アートブック制作]
事前/仕上げ (1時間)
事後/次回課題の準備 (1時間)
- 第13回 第12回講評の振り返りと制作 [案を固める]
事前/制作 (1時間)
事後/制作 (1時間)
- 第14回 制作 [仕上げ]
事前/制作 (1時間)
事後/制作 (1時間)
- 第15回 制作/全体講評
事前/仕上げ (1時間)
事後/復習 (1時間)

【アクティブラーニング】

- 1回 : E / 2回 : E /
3回 : E / 4回 : E /
5回 : E / 6回 : C /
7回 : E / 8回 : E /
9回 : E / 10回 : E /
11回 : E / 12回 : C /
13回 : E / 14回 : E /
15回 : C

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・フィギュア (粘土、粘土ベラ、紙やすり、布、ボンド等)、ペーパークラフト、アートブックの課題に使用する素材は、各自が用意する。
- ・材料費は各自負担。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①課題制作点 (70%) : 課題の表現力・独創性・完成度を評価する。
- ②平常点 (30%) : 授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・各課題ごとに、全体の課題発表と講評を行う

【出席確認の方法】

点呼とteamsによる出席確認、授業最後に課題ワーク提出

〔基本的な授業の進め方〕

- ・授業説明：10分～20分
- ・その日のワーク／全体への課題説明や個人毎の質疑応答、アドバイス

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：-
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
-：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

授業計画：テーマ・内容、成績評価方法・評価割合・評価基準

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

出席確認の方法

デッサン I

MM/IL158

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前後期

6 【対面型】

演習/2コマ

西岡 悠妃

〔科目の概要および目的〕

課題を通してデッサンへの「上手く描かなくてはいけない」という認識を捨て、楽しく描くことで集中力を身につけ、絵の基本を学んでいく。また鉛筆の色の幅を増やすことで、イラストレーションを描く上で大事な基礎力を学ぶ。ポートフォリオに向けての制作も行う。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・上手なデッサンと悪いデッサンの違いを学ぶ。
- ・構図力を身につける。
- ・客観的に作品を見る力を身につける。

〔授業形態〕

6 【対面型】

〔授業計画〕

第 1 回 授業全体のオリエンテーションと課題説明
事後/復習（1H）説明1時間30分 アンケート1時間30分

第 2 回 制作 [写真模写の素材を決定する]

20×20cmに拡大縮小して模写の準備をする
説明20分 制作2時間 中間講評20分 片付け
事前/制作（1時間）

事後/制作（1時間）

第 3 回 制作 [色の幅を増やしていく]
説明20分 制作2時間 中間講評20分 片付け
事前/制作（1時間）
事後/制作（1時間）

第 4 回 制作 [密度を上げていく]
説明20分 制作2時間 中間講評20分 片付け
事前/制作（1時間）
事後/制作（1時間）

第 5 回 制作 [全体を一度まとめる]
説明20分 制作2時間 中間講評20分 片付け
事前/制作（1時間）
事後/制作（1時間）

第 6 回 制作 [一番目立たせたいところを加筆する]
説明20分 制作2時間 中間講評20分 片付け
事前/制作（1時間）
事後/仕上げ（1時間）

第 7 回 全体講評/次回課題説明/作品撮影
講評2時間 説明30分 撮影20分 片付け
事前/制作（1時間）
事後/復習（1時間）

第 8 回 水族館スケッチ(観察力、動きを学ぶ)
スケッチ制作
事前/リサーチ（1時間）
事後/制作（1時間）

3種類の生き物をスケッチする。動きをラフに描く。特徴をメモする。

第 9 回 動物園スケッチ(観察力、動きを学ぶ)
スケッチ制作
事前/リサーチ（1時間）
事後/制作（1時間）

3種類の動物をスケッチする。動きをラフに描く。特徴をメモする。

第 10 回 制作 [スケッチしたものの中から一つ清書] / 講評 (動物園予備日)
説明20分 制作2時間 中間講評20分 片付け
事前/制作（1時間）
事後/制作（1時間）

第 11 回 課題説明/制作 [友達の横顔を描く]
説明20分 制作2時間 中間講評20分 片付け
事前/制作（1時間）
事後/制作（1時間）

第 12 回 制作 [耳、髪の参考作品を見ながら制作]
説明20分 制作2時間 中間講評20分 片付け
事前/制作（1時間）
事後/制作（1時間）

第 13 回 制作 [肌、目の参考作品を見ながら制作] 講評
説明20分 制作2時間 中間講評20分 片付け
事前/仕上げ（1時間）
事後/復習（1時間）

第 14 回 静物デッサン [想像で構成]

説明20分 制作2時間 中間講評20分 片付け
事前/制作 (1時間)
事後/制作 (1時間)

第 15 回 制作／全体講評／作品撮影
制作1時間30分 講評1時間 振り返り20分 片
付け
事前/仕上げ (1時間)
事後/振り返り (1時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：E / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：E / 6回：E /
7回：C / 8回：E /
9回：E / 10回：E /
11回：E / 12回：E /
13回：C / 14回：E /
15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・ 3H～10Bの鉛筆（5段階など）、練り消しゴム、消しゴム
- ・ 教材費（クロッキー帳、紙、モチーフ等）として1,000円程必要
- ・ 動物園、水族館入園料1,000円程必要

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点（30%）：授業への取り組み態度を評価する

②課題（70%）：作品の表現力、完成度を評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・ 課題作品について制作途中及び完成提出後、授業で全体講評。

〔出席確認の方法〕

点呼とteamsで出席確認

〔基本的な授業の進め方〕

- ・ 授業説明:10分～20分
- ・ その日のワーク／全体への課題解説や個人毎の質疑応答、アドバイス
- ・ 次回課題説明10分（講評時は1時間ほど）

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：○

〔◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない〕

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法

造形表現演習 I

IL/MM162

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6 【対面型】

演習/2コマ

四宮 義幸、清水 友乃

〔科目の概要および目的〕

描画材について学び、立体表現、版表現、染色、古典技法など、幅広い表現方法の実技を通して、知識と感性を養い、各自の分野での展開や、制作のきっかけとする。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・ 様々な技法を理解し、実施できる。
- ・ 表現者として、表現の幅を広げ、よりの確かな発信ができる。
- ・ 興味深い技法を発見し、計画をたてて研究することができる。

〔授業形態〕

6 【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 デッサンから水彩表現へ (1)
描画材について知識を深める
事後／配布資料を読む (1H)
- 第 2 回 デッサンから水彩表現へ (2)
透明水彩絵の具を作り、描画する
事前/描画案を考える (2H)
- 第 3 回 版表現ドライポイント (1)
版表現について、ドライポイントについて学ぶ
事前/原画案を作成する (3H)
- 第 4 回 版表現ドライポイント (2)
銅版をプレス機で刷って作品を創る
事後/乾燥して仕上げる (2H)
- 第 5 回 土器の制作 (1)
縄文土器について学ぶ
事前/縄文土器について調べ、レポートにまとめる (3H)
- 第 6 回 土器の制作 (2)
野焼き粘土で土器を制作する
事後/野焼きをして焼成する (3H)
- 第 7 回 染色 (1)
藍染を通して染色技法を学ぶ
事前/身近な染物を見つける
- 第 8 回 染色 (2)

- シャツや布を草木染めで染める
事前/作品のプランを考える (2H)
- 第 9 回 染色 (3)
絞りや抜染をして作品を完成させる
事前/作品のプランを考える (2H)
- 第 10 回 プランニング
課題作品を完成させ、各自の研究テーマを決定。
プランを立てる。
事前/テーマの選択とプランニング (2H)
- 第 11 回 各種技法の研究 (1)
各自で決めたテーマを研究し、作品を制作する
事前/プランに合わせて準備する (3H)
- 第 12 回 各種技法の研究 (2)
研究技法による作品を制作する
事前/プランに合わせて準備する (3H)
- 第 13 回 各種技法の研究 (3)
研究技法による作品を制作する
事前/プランに合わせて準備する (3H)
- 第 14 回 各種技法の研究 (4)
研究技法による作品を制作する
事前/プランに合わせて準備する (3H)
- 第 15 回 各種技法の研究 (5)
作品を完成させ、発表する
事前/プランに合わせて準備する (3H)

【アクティブラーニング】

- 1回：E / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：C,E / 6回：E /
7回：E / 8回：C,E /
9回：E / 10回：C,F/
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：C,E

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

未知なる表現技法に興味を持つ。

技法によっては特別な準備のもとに授業を行うので欠席をしないように。

・教材費（銅版、布、染料、顔料、粘土等）として3,000円～4,000円程必要

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法 ・評価割合 ・評価基準】

- ①平常点 (30%)：授業への取り組み態度を評価する
②課題 (70%)：技法を理解しているかと、作品の表現力、完成度を評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・課題作品について、制作途中及び完成、提出後、授業で合評しコメントします。

【出席確認の方法】

対面による確認

【基本的な授業の進め方】

参考作品などを見ながらの講義の後、各自の作品制作のプラン作り、実践。制作課程での適時の相談、アドバイスなどを経て完成させる。完成後、合評をする。

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

時間：出講日の授業前後

場所：イラストレーション研究室 (812) または501教室
【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

映像・演出 I

GA/MD161

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6 【対面型】

演習/2コマ

真島 ヒロシ

【科目の概要および目的】

授業概要：映像制作の各行程／企画→撮影準備→撮影→編集における基本的な作業の流れを理解した上で、実際の現場では分業化された各セクションの作業をロールプレイング形式で学んでいく。

科目の目的：短編作品（CM等）における企画立案のポイント、その企画をもとに実際に撮影するための準備や撮影方法、撮影した素材を作品として表現するための編集作業といった映像制作の全行程を、実際に作品の制作を行い映像作品として表現するためには何が必要かをトータルで理解する事で基本スキルを習得する。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

・短編作品（CM等）の企画／撮影／編集の全ての行程を実体験する事で、基礎的な映像表現力を身につける。

- ・業務用カメラを用いた基礎的な撮影技術が習得できる。
- ・特殊効果を含めた基礎的な編集技術が習得できる。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
映像媒体の各メディアごとの簡単な特性と、制作ワークフローにおける作業の流れと各パートの役割解説
事後/メディア特性と制作ワークフローの復習(時間)3.0H
- 第 2 回 企画(参考事例/作品検証)～企画立案
数名ずつのグループに分かれ、各グループごとに仮想のオリエンテーションに対する企画立案を行う。(企画コンテ作成)
事後/企画コンテの完成(時間)3.0
- 第 3 回 プレゼンテーション
前週立てた企画をグループ内で個別にプレゼンテーション(企画説明)し、企画を決定する
事前/企画コンテの完成(時間)1.5H
事後/決定した企画の推敲(時間)1.5H
- 第 4 回 講義(映像演出手法)
映像制作(制作・演出)における基本的な手法や知識、用語解説
事後/様々な映像演出手法の復習(時間)3.0H
- 第 5 回 演出プラン作成
前々週決定した企画に対して、前週学んだ知識を活かして実際の演出プランを考え、演出コンテを作成する
事前/決定した企画の推敲(時間)1.5H
事後/演出コンテの完成(時間)1.5H
- 第 6 回 講義(撮影機材/撮影手法)実技(カメラ機材操作実習)
実際の編集作業に関する手法や知識、用語の解説、ビデオカメラの操作方法の実習
事後/撮影技法やカメラの取り扱い方法の復習(時間)3.0H
- 第 7 回 講義(編集機材/編集手法)
実際の編集作業に関する手法や知識、用語の解説
事後/編集技法や編集ソフトの取り扱い方法の復習(時間)
- 第 8 回 撮影(1)/実技(ノンリニア編集操作実習)
撮影/ノンリニア編集ソフトの操作方法の実習
事後/ノンリニア編集ソフト取り扱いの復習(時間)3.0H
- 第 9 回 撮影(2)/実技(ノンリニア編集操作実習)
撮影/ノンリニア編集ソフトの操作方法の実習
事後/ノンリニア編集ソフト取り扱いの復習(時間)3.0H
- 第 10 回 撮影(3)
撮影
事前/撮影プランの再確認(時間)1.5H
事後/撮影素材整理・編集準備(時間)1.5H
- 第 11 回 撮影(4)

撮影

事前/撮影プランの再確認(時間)1.5H

事後/撮影素材整理・編集準備(時間)1.5H

第 12 回 編集(1)

編集

事前/撮影素材整理・編集準備(時間)1.5H

事後/次週のための編集準備(時間)1.5H

第 13 回 編集(2)

編集

事前/撮影素材整理・編集準備(時間)1.5H

事後/次週のための編集準備(時間)1.5H

第 14 回 編集(3)

編集

事前/撮影素材整理・編集準備(時間)1.5H

事後/次週のための編集準備(時間)1.5H

第 15 回 発表(試写)/講評

作品試写/講評、終了後に各自レポート作成

事前/作品が完成していない場合は編集(時間)3.0H

〔アクティブラーニング〕

1回:A / 2回:B /

3回:C / 4回:F /

5回:A / 6回:B /

7回:B / 8回:B /

9回:B / 10回:B /

11回:B / 12回:B /

13回:B / 14回:B /

15回:C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・映像制作の基礎知識と技術の習得が目標なので、特になし

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

-

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点(30%)：授業態度・共同制作での作品づくりへの積極性を評価する

②企画力(20%)：優れた企画ができるか・プレゼンテーション能力があるかを評価する

③課題作品(50%)：完成した作品を総合的に採点し、その中で個人の貢献度に応じて評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・制作チームごとに個別に指導する

〔出席確認の方法〕

対面授業のため直接点呼

〔基本的な授業の進め方〕

- ・授業説明：10分・その日の講義or実践ワーク：140分・質疑応答：30分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：△

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
ー：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

必要に応じて適宜プリント配布

【オフィスアワー】

時間：金曜日の授業前後

場所：授業実施教室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

モーショングラフィックス I

MD166

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (I)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6 【対面型】

演習/2コマ

金子 修

【科目の概要および目的】

アニメーションの基本を学ぶことで、CGと動画制作の関係性を理解する

現代と今後の社会におけるCGの使われ方、活用方法を模索する

この授業はAfterEffects（以後AEと呼ぶ）を用いたモーショングラフィックス制作を行う

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・AEの基本的な操作
- ・アニメーションの基本的な考え方
- ・実践的なモーショングラフィックスのスキル

【授業形態】

6 【対面型】

【授業計画】

- 第 1 回 AEの基本的な使い方①
「飛行機アニメ」「SNS広告」
事前/シラバス確認 (1時間)
事後/課題を作成 (1時間)
- 第 2 回 AEの基本的な使い方②
「検索クリックアニメ」「架空の広告」
事前/本日の内容を予習 (1時間)
事後/課題を作成 (1時間)
- 第 3 回 シェイプレイヤー① 基本操作
●課題発表「架空の広告」
「時計のフラットアニメーション」「幾何学アニメーション」

- 事前/発表準備 (1時間)
事後/課題を作成 (1時間)
- 第 4 回 シェイプレイヤー② ポップアップなどの演出
「モーフィングアニメーション」
事前/本日の内容を予習 (1時間)
事後/課題を作成 (1時間)
- 第 5 回 シェイプレイヤー③ モディファイアを使った表現
アクセントグラフィックスを分類別に作成
事前/本日の内容を予習 (1時間)
事後/課題を作成 (1時間)
- 第 6 回 テキストアニメーション
テキストアニメーションの基礎と応用
事前/発表準備 (1時間)
事後/課題を作成 (1時間)
- 第 7 回 キャラクターアニメーション① 基本
●課題発表「音に合わせたテキストアニメーション」
「パペットツール」「パーツ分けした関節アニメーション」
事前/発表準備 (1時間)
事後/課題を作成 (1時間)
- 第 8 回 キャラクターアニメーション② 応用
「動くグリーティングカード」
事前/本日の内容を予習 (1時間)
事後/課題を作成 (1時間)
- 第 9 回 カメラレイヤーを使った表現① 基本操作
●課題発表「動くグリーティングカード」
カメラレイヤーを使ったアニメーションを作成
事前/発表準備 (1時間)
事後/課題を作成 (1時間)
- 第 10 回 カメラレイヤーを使った表現② 応用表現
立体的なスライドショーなどのアニメーションを作成
事前/本日の内容を予習 (1時間)
事後/課題を作成 (1時間)
- 第 11 回 インフォグラフィックス
動くインフォグラフィックスを分類別に作成
事前/本日の内容を予習 (1時間)
事後/課題を作成 (1時間)
- 第 12 回 最終課題制作
●課題発表「動くインフォグラフィックス」
最終課題説明
事前/発表準備 (1時間)
事後/内容の振り返り (1時間)
- 第 13 回 最終課題制作
最終課題作成
事前/制作準備 (1時間)
事後/内容の振り返り (1時間)
- 第 14 回 最終課題作成
最終課題作成
事前/制作準備 (1時間)
事後/内容の振り返り (1時間)
- 第 15 回 最終課題発表

●最終課題発表

事前/発表準備 (1時間)

事後/本日の内容を復習 (1時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：— /

3回：C / 4回：— /

5回：— / 6回：— /

7回：C / 8回：— /

9回：C / 10回：— /

11回：— / 12回：C /

13回：— / 14回：— /

15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・ Photoshop、Illustratorの基礎知識を習得している。楽曲からイメージを発想できる。

- ・ 受講する学生の人数や授業の進行状況によって内容が適宜変わる

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

映像制作に最低限必要とされるスペックのPCもしくはMac、AdobeCC (AfterEffects,Photoshop,Illustrator)、Googleドキュメント

※授業内容などによりオンライン授業を並行して行う回もありうる

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点 (最大10点)：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

②通常課題 (最大60点)：理解度・完成度を評価する。

③最終課題 (最大30点)：理解度・完成度を評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

課題発表に対してコメントします

〔出席確認の方法〕

Teams内のチャット

〔基本的な授業の進め方〕

①授業の説明と前回のおさらい (10分)

②基礎技術：その日の課題をPC画面を見ながら一緒に作業→練習 (40分)

③実践ワーク：練習課題を学生が各自作業→解説 (40分)

※②～③の繰り返し

④授業の振り返りと次回課題の説明 (10分)

授業後、課題をTeamsに提出 ※毎回の授業で提出課題あり
2～3週に一度、学生が課題の発表を行う

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：◎

5. コミュニケーション力：△

6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

参考ウェブサイトを授業内で紹介

〔オフィスアワー〕

授業時間前後もしくはTeamsのチャットにて質問

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、基本的な授業の進め方、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

総合芸術論

MD/MM123

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

講義/1コマ

竹内 一郎

〔科目の概要および目的〕

演劇は、総合芸術と呼ばれる。脚本(言葉)、演出、演技、衣装、メイク、音楽、照明、それらを総合して一つの表現とする。表現を断片ではなく、つながりの中で考える方法を育むのが目的である。実際に、台詞をいい、身体を動かして演じ、相手との関係をとる。コミュニケーションを観念ではなく、具体的に覚える科目である。いくつのも役を演じることで、人格によって、同じ事象でも感じ方が異なることを実際に体験する。

〔到達目標(授業を通じて身につく能力・スキル)〕

- ・ 非言語コミュニケーション力を身につける。
- ・ 表現力を身に付け、協調性が育めるようになる。
- ・ 他者への関心を持ち、どうやって社会に貢献できるかを考える力を身につける。
- ・ 声優にはどのような技能が必要か気付くことができる。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第1回 身体のデッサン

演劇で使われるエクソサイズを解説し、実際に身体を動かして体験する

事後/エクソサイズを反復する (60分)

第2回 発声練習

発声のメカニズムを解説し、実践する

事前/前回の復習 (30分)

事後/発声練習 (30分)

第3回 朗読(1)

日本語の名文を解説し、音読する

事前/発声練習 (30分)

事後/文章のイメージを膨らます (30分)

第4回 朗読(2)

- 登場人物の感情を解説し、ほり下げる
事前／発声練習 (30分)
事後／文章のイメージを膨らませ (30分)
- 第 5 回 朗読 (3)
言葉を相手に届ける方法を解説し、実践する
事前／発声練習 (30分)
事後／文章のイメージを膨らませ (30分)
- 第 6 回 素読み
脚本の構成を解説し、音読する。
事前／脚本を読みイメージづくりをする (30分)
事後／役の反復練習 (30分)
- 第 7 回 解説と立ち稽古 (1)
台本をはなして、演じてみる
事前／脚本を読みイメージづくりをする (30分)
事後／役の反復練習 (30分)
- 第 8 回 解説と立ち稽古 (2)
台本をはなして、演じてみる
事前／脚本を読みイメージづくりをする (30分)
事後／役の反復練習 (30分)
- 第 9 回 解説と立ち稽古 (3)
役を入れ替え、他者を観察する
事前／脚本を読みイメージづくりをする (30分)
事後／役の反復練習 (30分)
- 第 10 回 解説と立ち稽古 (4)
役を入れ替え、他者を観察する
事前／脚本を読みイメージづくりをする (30分)
事後／役の反復練習 (30分)
- 第 11 回 ナレーションの解説と実践
マイクに向かって、ナレーションの練習をする
事前／脚本を読みイメージづくりをする (30分)
事後／役の反復練習 (30分)
- 第 12 回 声優の解説と実習 (1)
第一線で活躍する声優をゲストに、実習をする
事前／脚本を読みイメージづくりをする (30分)
事後／役の反復練習 (30分)
- 第 13 回 声優の解説と実習 (2)
アニメ作品を見ながら、マイクに向かって台詞をいう
事前／脚本を読みイメージづくりをする (30分)
事後／役の反復練習 (30分)
- 第 14 回 声優の解説と実習 (3)
役を入れかえて、講評しあう
事前／脚本を読みイメージづくりをする (30分)
事後／役の反復練習 (30分)
- 第 15 回 作品発表 (1)
録音作品を発表し、解説をする
事前／自分の役を整理する (30分)
事後／反省点を復習する (30分)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：B / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：E / 6回：C /
7回：B / 8回：B /
9回：B / 10回：E /

- 11回：— / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：E

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・動きやすい服装（ジャージ等）をすること。女子学生のハイヒールは不可。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点 (30%)：積極的な授業参加態度を評価する

②授業内レポート (30%)：理解度を評価する

③実技 (40%)：表現力・積極性を評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・授業内でアドバイス、チェック、本人の再確認を行います。リアクションペーパーは次回にフィードバックする。

〔出席確認の方法〕

対面授業のため直接点呼

〔基本的な授業の進め方〕

講義 (30分) 実技 (50分) 講評 (10分)

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：—

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：○

4. 課題発見力・課題解決力：—

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用力：—

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

〔教科書〕

適宜プリントを配布

〔参考文献〕

授業内で紹介

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

デザイン概論Ⅰ

MD/MM125
東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (I)
1年生 2年生 3年生 4年生
2単位 前期
5 【同時双方向型】
講義/1コマ

中村 泰之

〔科目の概要および目的〕

デザインの概念について解説を行い、近代芸術の誕生から現代のデザインに至るまでの歴史と、デザインの基礎知識について講義を行う。この講義を通じてデザインの多様な概念について理解し、各自の表現の多様性を育む。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・デザインの歴史について概要を説明できる
- ・色彩や文字等のデザインに必要な基礎知識を説明できる
- ・デザインの役割について概要を説明できる

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 デザインの意味
デザインという言葉の意味、デザインの概念について概説する
事後学習（ノートのまとめ:3h）
- 第 2 回 デザイン前史
デザインという言葉ができるまでの表現について歴史に沿って概説する
事前学習（リサーチ:1h）
事後学習（ノートのまとめ:3h）
- 第 3 回 近代デザインの始まり
アーツ・アンド・クラフツ運動に代表されるデザイン黎明期について概説する
事前学習（リサーチ:1h）
事後学習（ノートのまとめ:3h）
- 第 4 回 芸術とデザインの関係
20世紀初頭の芸術とデザインの関わりについて概説する
事前学習（リサーチ:1h）
事後学習（ノートのまとめ:3h）
- 第 5 回 バウハウスのデザイン教育
デザイン教育に大きな影響を与えた総合デザイン学校バウハウスについて概説する
事前学習（リサーチ:1h）
事後学習（ノートのまとめ:3h）
- 第 6 回 20世紀のデザイン概説
バウハウス後のデザインの流れについて20世紀を中心に概説する
事前学習（リサーチ:1h）
事後学習（ノートのまとめ:3h）
- 第 7 回 デザイン史まとめ
デザインの歴史概説のまとめと小テストを行う
事前学習（ノート全体のまとめ:4h）
事後学習（小テストの振り返り:1h）

第 8 回 特別講義

デザインの現場で活躍するゲストスピーカーによる、デザインという仕事についての特別講義を行う（日程は前後する可能性がある）

事前学習（リサーチ:1h）

事後学習（ノートのまとめ:2h）

第 9 回 デザインとデジタル

コンピューターとデザインの関係について概説する

事前学習（リサーチ:1h）

事後学習（ノートのまとめ:3h）

第 10 回 デザインと形

形とデザインの関係について概説する

事前学習（リサーチ:1h）

事後学習（ノートのまとめ:3h）

第 11 回 デザインと色彩

色彩とデザインの関係について概説する

事前学習（リサーチ:1h）

事後学習（ノートのまとめ:3h）

第 12 回 デザインと文字

文字とデザインの関係について概説する

事前学習（リサーチ:1h）

事後学習（ノートのまとめ:3h）

第 13 回 デザインと印刷

印刷とデザインの関係について概説する

事前学習（リサーチ:1h）

事後学習（ノートのまとめ:3h）

第 14 回 デザインとレイアウト

レイアウトとデザインの関係について概説する

事前学習（リサーチ:1h）

事後学習（ノートのまとめ:3h）

第 15 回 まとめ

全体のまとめと小テストを行う

事前学習（ノート全体のまとめ:4h）

事後学習（小テストの振り返り:1h）

〔アクティブラーニング〕

1回:— / 2回:— /

3回:— / 4回:— /

5回:— / 6回:— /

7回:— / 8回:— /

9回:— / 10回:— /

11回:— / 12回:— /

13回:— / 14回:— /

15回:—

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

ノートのまとめが重要となるのできちんとメモを取ること

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

Teamsで受講できれば問題ない

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①授業毎のリアクションシートへの記入（30%）：毎回授業の理解度を評価する

②2回の小テスト（70%）：授業で説明のあったデザインに対する理解度を評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

毎回記述するリアクションシートへの回答を授業内で行う

【出席確認の方法】

期限を設定したリアクションシートの提出

【基本的な授業の進め方】

1.10～15分程度：前回のフィードバック

2.70～75分程度：講義

3.5～10分程度：リアクションシート記入

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：－
2. 表現力：△
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：－
5. コミュニケーション力：－
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
－：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

『デザイン概論』飯岡正麻 白石和也 / 編著 ダヴィッド社

その他授業で紹介する

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

放送概論

MD129

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (I)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

田淵 俊彦

【科目の概要および目的】

この授業は、日々テレビの現場で働く現役のテレビ局プロデューサーによる実践的な講義です。近年、放送業界には「配信」という劇的な変化が訪れています。そういったリアルタイムの情報やテレビ現場のエピソード、隠れた逸話を事例としながら、放送の現状や特徴と機能、社会的影響力、問題点をわかりやすく学んでゆきます。受講生の中には将来、様々なコンテンツをプロデュースする仕事に就く人も多いでしょう。この授業でメディアの仕組みを総合的、複合的に理解することができれば、自らの作品をメディアで自由自在に発信することも可能になります。自らの先入観

や常識を覆すことで、社会で役立つ「実践力」や現場で必要とされる「プロデュース能力」を養ってゆきます。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

授業を通して、以下の本学におけるディプロマ・ポリシーを完遂することを到達目標とします。

- ・自ら自主的・積極的に授業の目標設定を行い(ディプロマ・ポリシー1.「主体的行動力」)、
- ・グループでそれらの課題について意思疎通を行いながら(ディプロマ・ポリシー5.「コミュニケーション力」)、
- ・放送に関する考えを述べるができるとともに(ディプロマ・ポリシー2.「表現力」)、
- ・メディアや情報に関する社会のさまざまな問題点を洗い出し(ディプロマ・ポリシー4.「課題発見力・課題解決力」)、
- ・さらに授業で得た知識や技能を活用しながら(ディプロマ・ポリシー6.「専門的知識・技能の活用力」)、
- ・放送に関わるコンテンツのアイデアを通じて問題解決の方法を見出すことで(ディプロマ・ポリシー4.「課題発見力・課題解決力」)、
- ・社会における役割を果たすことができる能力を身につけてゆきます(ディプロマ・ポリシー3.「社会貢献力・コラボレーション力」)。

【授業形態】

5 【同時双方向型】

【授業計画】

第 1 回 放送の劇的な変化

劇的な変化の渦に巻き込まれつつある放送業界。「配信」を組み込んだ「三位一体の流れ」を解き明かし、放送の現状と問題点を浮き彫りにします。事前/「反転授業」を推進するため、事前に配布されるレジュメを必ず読み込み、内容を理解しておいてください。また「事前課題」に取り組み、〈放送メディア〉に関する疑問点を洗い出してみよう。(3時間)

事後/授業のPPTを見直し、〈放送の劇的な変化〉とは何かを十分に理解するようにしてください。復習を行い、自らの疑問点や不明点が解消されたかを確認してみよう。(1時間)

第 2 回 放送の「ヒト」～どんな役目があるのか？

テレビ局の組織図を元に、様々な人々の役割と苦労やリアルな苦労話を伝え、放送メディアにおける「ヒト」について考察します。

事前/事前に配布されるレジュメを必ず読み込み、内容を理解しておいてください。また「事前課題」に取り組み、〈放送における「ヒト」〉に関する疑問点を洗い出してみよう。(3時間)

事後/授業のPPTを見直して復習を行い、〈放送における「ヒト」〉に関する自らの疑問点が解消されたかを確認してみよう。(1時間)

第 3 回 放送の「カネ」～お金はどこから来てどう消える？

テレビ番組の予算はどこから来て、どうやって決まるのでしょうか？ 実際の予算書を参考に、放送を取り巻く「カネ」に関する様々な真実を伝えます。

- 事前/事前に配布されるレジюмеを必ず読み込み、内容を理解しておいてください。また「事前課題」に取り組み、〈放送における「カネ」〉に関する疑問点を洗い出してみましよう。(3時間)
事後/授業のPPTを見直して復習を行い、〈放送における「カネ」〉に関する疑問点が解消できたかどうかを確認してみましよう。(1時間)
- 第 4 回 **放送の「モノ」～番組の企画はどうやって決まる？**
企画を提案し、番組(「モノ」)として成立するまでを説きます。実際の企画書が実際の映像成果物となってゆく過程を解明してゆきます。
事前/事前に配布されるレジюмеを必ず読み込み、内容を理解しておいてください。また「事前課題」に取り組み、〈放送における「モノ」〉に関する疑問点を洗い出してみましよう。(3時間)
事後/授業のPPTを見直して復習を行い、〈放送における「モノ」〉に関する自らの疑問点が解消できたかどうかを確認してみましよう。(1時間)
- 第 5 回 **テレビは嘘をつく？～「メディアリテラシー」を考える**
テレビとの付き合い方、映像の読み解き方を教示し、「メディアに利用されない」スキルを伝授します。
事前/事前に配布されるレジюмеを必ず読み込み、内容を理解しておいてください。また「事前課題」に取り組み、〈メディアリテラシー〉に関する自らの疑問点を洗い出してみましよう。(3時間)
事後/授業のPPTを見直して復習を行い、〈メディアリテラシー〉に関する疑問点が解消できたかどうかを確認してみましよう。(1時間)
- 第 6 回 **放送の罫～メディアの裏側に潜むもの**
テレビの現場には様々なリスクが満ち溢れています。それらを予知・回避する能力の重要性について説いてゆきます。
事前/事前に配布されるレジюмеを必ず読み込み、内容を理解しておいてください。また「事前課題」に取り組み、メディアに潜在する〈リスク〉に関する疑問点を洗い出してみましよう。(3時間)
事後/授業のPPTを見直して復習を行い、〈メディアリスク〉及び〈リスクマネジメント〉に関する自らの疑問点が解消できたかどうかを確認してみましよう。(1時間)
- 第 7 回 **どんな人がメディアに必要とされるのか？～スキルを身につける**
放送メディアにおいてどんな人物が必要とされているのでしょうか？ どんなスキルや能力があればよいのでしょうか？ 実践力を身につける秘策を伝えてゆきます。
事前/事前に配布されるレジюмеを必ず読み込み、内容を理解しておいてください。また「事前課題」に取り組み、〈メディアにおける人材〉について自分の疑問点を洗い出しておきましよう。(3時間)
- 事後/授業のPPTを見直して復習を行い、〈メディアにおける人材〉についての疑問点が解消できたかどうかを確認しておきましよう。(1時間)
- 第 8 回 **放送の裏側を覗く①～ドキュメンタリー番組**
ドキュメンタリーが直面する現状と問題点を検証します。
事前/事前に配布されるレジюмеを必ず読み込み、内容を理解しておいてください。また「事前課題」に取り組み、〈ドキュメンタリー番組〉に関する疑問点を洗い出しておきましよう。(3時間)
事後/授業のPPTを見直して復習を行い、〈ドキュメンタリー番組〉に関する自らの疑問点が解消できたかどうかを確認しておきましよう。(1時間)
- 第 9 回 **放送の裏側を覗く②～ドラマ番組**
フィクションが産み出す夢とそこに潜む落とし穴を看破してゆきます。
事前/事前に配布されるレジюмеを必ず読み込み、内容を理解しておいてください。また「事前課題」に取り組み、〈ドラマ番組〉に関する疑問点を洗い出しておきましよう。(3時間)
事後/授業のPPTを見直して復習を行い、〈ドラマ番組〉に関する自分の疑問点が解消できたかどうかを確認してみましよう。(1時間)
- 第 10 回 **放送の裏側を覗く③～バラエティ番組**
バラエティ番組のリスクとそれに対処する力の重要性を解き明かします。
事前/事前に配布されるレジюмеを必ず読み込み、内容を理解しておいてください。また「事前課題」に取り組み、〈バラエティ番組〉に関する疑問点を洗い出しておきましよう。(3時間)
事後/授業のPPTを見直して復習を行い、〈バラエティ番組〉に関する自分の疑問点が解消できたかどうかを確認しておきましよう。(1時間)
- 第 11 回 **放送の裏側を覗く④～アニメ番組**
ビジネスとしてのアニメーションの現実を俯瞰します。
事前/事前に配布されるレジюмеを必ず読み込み、内容を理解しておいてください。また「事前課題」に取り組み、〈アニメ番組〉に関する疑問点を洗い出しておきましよう。(3時間)
事後/授業のPPTを見直して復習を行い、〈アニメ番組〉に関する自分の疑問点が解消できたかどうかを確認しておきましよう。(1時間)
- 第 12 回 **放送の裏側を覗く⑤～ニュース・報道番組**
グローバルメディアの長所と短所を伝え、メディア報道のリスクについて究明します。
事前/事前に配布されるレジюмеを必ず読み込み、内容を理解しておいてください。また「事前課題」に取り組み、〈ニュース・報道番組〉に関する疑問点を洗い出しておきましよう。(3時間)
事後/授業のPPTを見直して復習を行い、〈ニュース・報道番組〉に関する自分の疑問点が解消できたかどうかを確認しておきましよう。(1時間)
- 第 13 回 **放送の裏側を覗く⑥～スポーツ番組**

エンターテインメントの世界に見え隠れする様々な立場の思惑を考察します。

事前/事前に配布されるレジュメを必ず読み込み、内容を理解しておいてください。また「事前課題」に取り組み、〈スポーツ番組〉に関する疑問点を洗い出しておきましょう。(3時間)

事後/授業のPPTを見直して復習を行い、〈スポーツ番組〉に関する自分の疑問点が解消できたかどうかを確認しておきましょう。(1時間)

第 14 回 放送の未来～テレビやラジオに未来はあるのか？

「おわコン」と揶揄されるテレビ。経営難のラジオ。放送の可能性を模索します。

事前/事前に配布されるレジュメを必ず読み込み、内容を理解しておいてください。また「事前課題」に取り組み、〈放送メディアの未来〉に関する自らの考えをまとめておきましょう。同時に疑問点も洗い出しておきましょう。(3時間)

事後/授業のPPTを見直して復習を行い、〈放送メディアの未来〉に関する疑問点が解消できたかどうかを確認しておきましょう。(1時間)

第 15 回 まとめ

総まとめと質疑応答

事前/事前に配布されるレジュメを必ず読み込み、内容を理解しておいてください。また「事前課題」に取り組み、最終授業に向けた疑問点を洗い出しておきましょう。不明点はないでしょうか？ 再度、確認してみましょう。(3時間)

事後/授業のPPTを見直して復習を行い、全講義における疑問点が解消できているかどうかを確認してみましょう。(1時間)

【アクティブラーニング】

1回：A,C / 2回：A,C /

3回：A,C / 4回：A,C /

5回：A,C / 6回：A,C /

7回：A,C / 8回：A,C /

9回：A,C / 10回：A,C /

11回：A,C / 12回：A,C /

13回：A,C / 14回：A,C /

15回：A,C

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・毎回、講師が作成した具体的な映像視聴を行うため、映像表現やコンテンツ制作に興味を持ってほしいと思います。

・豊富な映像を視聴し、問題提起、グループによるディスカッションやプレゼンテーションなどのALを駆使した講義を展開してゆくため、授業に積極的に参加する意識を持ってほしいと思います。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

・PCもしくはスマホなど、Teamsを使用できるデバイスを使用できること

・マイク機能、カメラ機能を「ONにできる状態」にして授業に参加することが前提となります。音声及び映像機能が

使えることは必ずチェックして、履修準備を整えてください。

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①事前課題 (20%)：毎回の事前課題に積極的に取り組んでいるか(ディプロマ・ポリシー1.「主体的行動力」)、また放送に関する自らの考えを述べられているか(ディプロマ・ポリシー2.「表現力」)によって評価します。事前課題は5段階評価で数値化され加点されます。提出しないと加点されないで注意してください。

②小レポート (20%)：毎回の授業を理解しているか、またメディアや情報に関する社会のさまざまな問題点を洗い出し(ディプロマ・ポリシー4.「課題発見力・課題解決力」)、さらに授業で得た知識や技能を活用しながら(ディプロマ・ポリシー6.「専門的知識・技能の活用力」)、放送に関わるコンテンツのアイデアを通じて問題解決の方法を見出すことができているか(ディプロマ・ポリシー4.「課題発見力・課題解決力」)、以上の点において評価を行います。レポートは5段階評価で数値化され加点されます。欠席をすると小レポートを提出できないため、加点対象にはなりませんので注意してください。

③ディスカッション (20%)：グループで議題について話す中でコミュニケーション力の到達度を見ます(ディプロマ・ポリシー5.「コミュニケーション力」)。

④プレゼンテーション (20%)：放送について考えを述べることにの到達度を見ます(ディプロマ・ポリシー2.「表現力」)。

⑤平常点 (20%)：授業マナーを守り、積極的に授業やディスカッションなどのALに参加している姿勢がみられるかどうかを評価します。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

事前課題及び小レポートは、次回の講義内で詳しく考察を行い、フィードバックしてゆきます。

【出席確認の方法】

授業参加状態をオンラインで記録、録画して出欠を確認します。同時に、毎回授業の最後に提出する小レポートが出席の条件となります。詳しくは最初の授業で説明します。

【基本的な授業の進め方】

リアルタイムのオンラインで、以下のような流れに従って時間割通りに授業を開始、終了します。受講生は必ず「マイク」や「カメラ」をONにできる状態にして、入室の際にはOFFにしておくようにしてください。

＜基本的な授業の流れ＞

①レジュメに従いPPTを視聴しながら講師が講義を行います：40分

②講義内容に関する映像視聴などを行います：5分

③ALによるディスカッションやディベートを行います：10分

④ディスカッションの成果をプレゼンテーションします：20分

⑤プレゼンテーションに講師から考察、コメントを加えます：5分

⑥小レポート作成→提出でその回の授業の理解度をはかります：10分

*以上の流れは、授業の進行具合によって臨機応変に変更してゆきます。

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

・特に指定図書はありませんが、事前にTeamsの「ファイル」機能を利用して毎回のレジュメを教科書として配布しますので必ず授業の前に目を通しておくようにしてください。また授業時には自分でレジュメを手もとに用意して授業を受けるようにしてください。

・講師が作成した映像も「映像教科書」として使用してゆきます。

〔参考文献〕

授業内で紹介してゆきます。

〔オフィスアワー〕

オンライン授業時間内にチャットや音声通話を通じて受けつけます。

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応、教科書、参考文献、オフィスアワー

学外フィールドワーク

旧 学外フィールドワーク I

MM190

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (1)
1年生 2年生 3年生 4年生
2単位

〔科目の概要および目的〕

学生の、内外におけるボランティア活動、インターンシップ、短期留学、及び学内における授業以外の地域イベント活動や学内奉仕活動を単位として認定する。

これまで大学で学修した内容に加えて、地域・社会に奉仕活動として参画することにより、活かしたスキル・活かした知識を実体験し、そこで得た経験を更なる学びの動機づけへと転化できることを目標とする。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・それぞれの興味、関心に応じた諸活動を通じ、主体的思考力、社会貢献力、コラボレーション力、コミュニケーション力、課題解決力など、教育課程内のみでは身につけにくい、実践的・総合的能力を身につける
- ・社会的な活動に携わることのよろこびを知ることができる
- ・諸活動によって得た経験をその後の学びへの動機につなげることができる

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

授業内では経験することができない諸活動には多様なものが存在する。

それらの活動の、内容及び時間を所定の申請用紙に詳細に記録すること。さらに、その活動を経験したことで、何をどのように感じ、現在及び今後の自らの学びにどのような影響を与えるか等について記録したものを提出する。

〔アクティブラーニング〕

F

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

学内外における活動には、一個人としての社会的責任が伴う。またことに学外活動では自他の安全に十分気をつけることに留意し、有意義な活動に主体的に関わってほしい。なお学外活動を行う場合は、必ず事前に大学へ届け出ることが必要である。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

活動内容及び活動時間、活動記録、総括レポートなど、所定様式の提出物をもとに、教務委員会において単位認定の可否を総合的に判断する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

—

〔出席確認の方法〕

—

〔基本的な授業の進め方〕

—

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：※
2. 表現力：※
3. 社会貢献力・コラボレーション力：※
4. 課題発見力・課題解決力：※
5. コミュニケーション力：※
6. 専門的知識・技能の活用力：※

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

個別に指示する

〔参考文献〕

個別に指示する

〔オフィスアワー〕

学外活動に関する相談は、専任教員が随時受け付ける。

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

芸術学Ⅱ

MM210

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

2【動画型2】

講義/1コマ

平山 敬二

【科目の概要および目的】

本講義では芸術の本質を明らかにすべく、芸術と道德、芸術と娯楽、芸術と学問、芸術と呪術、芸術と遊戯、芸術と風土等との関係を順次考察し、さらに現代における芸術上の諸問題を近代批判の文脈の中で論ずる。芸術を芸術たらしめているいわば「芸術の原理」とでもいうべきものをまず基本として理解するとともに、現代におけるさまざまな芸術現象の多様さの意味を整理して把握する。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・ 芸術を芸術たらしめている「芸術の原理」について理解できる。
- ・ 芸術という文化的営みの特質と価値を哲学的に考察し説明することができる。
- ・ 芸術現象の多様さの意味について主体的に考えることができる。

【授業形態】

2【動画型2】

【授業計画】

第1回 はじめに

「芸術学Ⅱ」の講義を始めるに当たり、その内容と目的、講義の進め方および受講上の注意点等について説明する。

事前/シラバスの読解と考察 (2.0H)

事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)

第2回 芸術とは何か

近代的芸術概念を基礎づけたカントの哲学を基に、近代において芸術がどのように定義されたかを解説する。

事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)

事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)

第3回 芸術と美的価値 (I)

芸術を「美的価値を実現する技術」として捉え、美的価値の本質から芸術という技術の意味を解説する。

事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)

事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)

第4回 芸術と美的価値 (II)

「芸術と道德」、「芸術と娯楽」、「芸術と技術」、「芸術と学問」それぞれの関係について解説する。

事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)

事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)

第5回 芸術の分類

芸術の体系的分類について代表的な例を幾つか挙げて説明し、それぞれの芸術表現の特質について解説する。

事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)

事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)

第6回 芸術体験の諸相

芸術活動における「自然観照」、「芸術創作」、「芸術観照」という3つの位相の弁証法的関係について説明する。

事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)

事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)

第7回 芸術作品の構造

芸術作品における「素材」、「形式」、「内容」の結びつきについて説明し、併せて美的形式原理について概説する。

事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)

事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)

第8回 芸術と遊戯

カントおよびシラーの美学を基に、芸術と遊戯との関係について説明するとともに、その相違についても解説する。

事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)

事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)

第9回 芸術と呪術

芸術と呪術の比較を基に、芸術の起源としての呪術の意味を考えると同時に、両者の相違についても解説する。

事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)

事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)

第10回 芸術と歴史

芸術表現とその背後にある芸術精神との関連について説明し、芸術表現の歴史性について解説する。

事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)

事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)

第11回 芸術の様式

歴史様式、ジャンル様式、基本様式等の芸術における様式の多様な現れ方とそれらの相互関係を解説する。

事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)

- 事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)
- 第12回 芸術と風土
和辻哲郎の『風土』を基に、芸術表現と風土との関連について説明し、文化的多元主義の意味について概説する。
事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)
事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)
- 第13回 現代における諸問題 (I)
近代芸術の果たした意味と現代における問題点とを検証し、現代において芸術に課せられた課題について解説する。
事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)
事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)
- 第14回 現代における諸問題 (II)
近代芸術の果たした意味と現代における問題点とを検証し、現代において芸術に課せられた課題について解説する。
事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)
事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)
- 第15回 まとめ論述テスト
これまでの講義の内容全般について質問の機会を設け、必要な解説と論述テストを行う。
事前/授業内容についての事前考察 (2.0H)
事後/講義内容の復習と考察・関連資料の調査研究 (2.5H)

【アクティブラーニング】

- 1回：D,E / 2回：D,E /
3回：D,E / 4回：D,E /
5回：D,E / 6回：D,E /
7回：D,E / 8回：D,E /
9回：D,E / 10回：D,E /
11回：D,E / 12回：D,E /
13回：D,E / 14回：D,E /
15回：D,E

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

講義ビデオの視聴後にはその内容についてのリアクションペーパーを作成し提出すること。講義内容に関連する事項について自主的に学習するとともに、文化史・美術史・哲学に関する基本的知識を積極的に身につけることを心掛けること。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

- ・以下のソフトウェアが問題なく動作するPC
- ・Microsoft Word/Microsoft PowerPoint

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点(30%)：授業マナーを守り、積極的に授業に参加しているか。
- ②リアクションペーパー(20%)：授業内容について主体的に考察する姿勢を持っているか。

③論述テスト(50%)：授業内容についての「理解度」および「考察力」を評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・提出後の授業で全体にコメントします。

【出席確認の方法】

指定のタイミングでコメント投稿や出席票、リアクションペーパー提出などを併用

【基本的な授業の進め方】

- ・授業説明:10分
- ・講義ブロック1：講義・説明15分→リアクションペーパー1の作成 (5分)
- ・講義ブロック2：講義・説明20分→リアクションペーパー2の作成 (10分)
- ・講義ブロック3：講義・説明15分→リアクションペーパー3の作成 (10分)
- ・連絡事項・その他：5分 (毎回リアクションペーパー1・2・3のすべての提出で出席とする。)

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

『芸術学(改訂版)』/渡辺護/東京大学出版会/3,520円、『美学のキーワード』/W.ヘンクマン他編/勁草書房/4,400円

【オフィスアワー】

時間：出講日〔水曜日〕2限の前後

teams等を使用

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：事前・事後学習

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など

西洋美術史 II

MM211

東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

近藤 真彫

【科目の概要および目的】

現在の美術史学の分類と解釈をもとに、17世紀から現代までの欧米の美術について、主な作品とその特徴を解説す

る。各時代の美術の基本的な知識を得るだけでなく、歴史のなかでの表象の連続性や変化を確認する。また、作品の制作環境や評価の形成について学ぶことで、社会のなかの美術の役割を理解し、客観的にその価値を考えていく。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・西洋美術の歴史を構成する主な作品の具体的な特徴を把握して、「名作」の価値を検証することができる
- ・美術と社会とのつながりを認識し、広い視野で作品をとらえることができる
- ・美術史からの学びを現代の芸術制作に活かすことができる

【授業形態】

5【同時双方向型】

【授業計画】

- 第 1 回 インTRODクシヨン
西洋における美術（アート）の定義、美術作品の歴史を学ぶことの意味を確認する
事前/シラバスを読む(30分)
事後/内容の復習(1時間)
- 第 2 回 バロック美術：イタリア
17世紀のイタリアの美術について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)
- 第 3 回 バロック美術：北方
17世紀のフランドルとオランダの美術について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)
- 第 4 回 ロココ美術
18世紀のフランスを中心としたロココ美術について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)
- 第 5 回 古典主義：フランス
17世紀から18世紀のフランス美術の古典主義について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)
- 第 6 回 古典主義：イギリス
18世紀のイギリス美術の古典主義について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)
- 第 7 回 ロマン主義
19世紀前半のフランスを中心としたヨーロッパ美術のロマン主義について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)
- 第 8 回 19世紀後半のヨーロッパ美術
19世紀後半のヨーロッパ美術における伝統と革新について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)
- 第 9 回 世紀末美術

- 世紀転換期のヨーロッパ美術について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)
- 第 10 回 モダン・アート：ヨーロッパ
20世紀前半のヨーロッパ美術について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)
- 第 11 回 モダン・アート：アメリカ
20世紀前半のアメリカ美術について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)
- 第 12 回 現代アート
美術史において現代をどう捉えるかを考える
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)
- 第 13 回 日本美術との関係
日本美術と西洋美術の影響と相違について解説する
事前/時代背景の確認（1時間）
事後/内容の復習(2時間)
- 第 14 回 前半まとめ
17世紀から18世紀までの西洋美術史を復習する
事前/これまでの整理(3時間)
事後/内容の復習(1.5時間)
- 第 15 回 後半まとめ
19世紀以降の西洋美術史を復習する
事前/これまでの整理(3時間)
事後/内容の復習(1.5時間)

【アクティブラーニング】

- 1回：E / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：E / 6回：E /
7回：E / 8回：E /
9回：E / 10回：E /
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：E

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・「西洋美術史Ⅰ」から継続して履修することが望ましい
- ・基本的な世界史の知識があることが望ましい
- ・作品をよく観察し、疑問点は調べること

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

Teamsでのpptによる講義の視聴、チャットの記入ができること

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①毎回のコメントA（30%）：講義を理解し作品をよく見ているか。自分の印象を具体的に言葉で説明ができるか
- ②毎回のコメントB（30%）：講義の内容を自分の制作に活かそうという視点があるか
- ③学期末レポート（40%）：作品の特徴を分析し、その価値を客観的に論じることができるか。現在の制作活動を芸術の歴史とつなげて考えることができるか

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

提出後の授業でコメントし、必要に応じて講義内容に反映させる

〔出席確認の方法〕

開始時のforms記入と終了時のコメントペーパー提出

〔基本的な授業の進め方〕

10分 出席確認、授業説明

70分 講義 (ppt+参考資料+チャットでの意見交換)

10分 コメントペーパーの記入

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：△
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

適宜ハンドアウトを配布する

〔参考文献〕

適宜紹介する

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

授業計画：テーマ・内容、成績評価方法・評価割合・評価基準

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件

日本美術史 II

MM212

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

2 【動画型2】

講義/1コマ

吉澤 早苗

〔科目の概要および目的〕

この授業では、鎌倉時代から江戸時代にかけての日本美術の歴史を取り上げる。異なる時代、異なる社会の美術においてなにか課題となったのか、またその課題に対し人々がどのように取り組んだのかを問いながら、造形作品のかたちを見る目を養い、そのかたちが表す意味を当時の社会的背景とともに考えてゆく。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

本学のディプロマ・ポリシー（とくに専門的知識の活用力の養成）にもとづき、以下を主な到達目標とする。

- ・ 絵画、彫刻、工芸、建築といった、各ジャンルの造形作品の見方を習得する。
- ・ 各時代や作家などの表現様式の特徴を知り、それを見分

ける力を身につける。

- ・ 作品のかたちとそれが表す意味、そして作品成立の背景にある社会との結びつきについて理解する。

〔授業形態〕

2 【動画型2】

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

授業に関する概要説明

日本美術史関連資料の紹介

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)

事後/授業で紹介された資料等の閲覧(2.5時間)

第 2 回 鎌倉時代 (1)

鎌倉時代の美術 (彫刻)

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)

事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)

第 3 回 鎌倉時代 (2)

鎌倉時代の美術 (建築・絵画)

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)

事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)

第 4 回 鎌倉時代 (3)

鎌倉時代の美術 (絵画)

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)

事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)

第 5 回 室町時代 (1)

室町時代の美術 (絵画)

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)

事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)

第 6 回 室町時代 (2)

室町時代の美術 (絵画)

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)

事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)

第 7 回 室町時代 (3)

室町時代の美術 (工芸・建築)

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)

事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)

第 8 回 桃山時代 (1)

桃山時代の美術 (建築・絵画)

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)

事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)

第 9 回 桃山時代 (2)

桃山時代の美術 (絵画)

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)

事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)

第 10 回 桃山時代 (3)

桃山時代の美術（絵画・工芸）

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)
事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)

第 11 回 江戸時代（1）

江戸時代の美術（前期：建築・絵画）

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)
事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)

第 12 回 江戸時代（2）

江戸時代の美術（前期：絵画・工芸）

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)
事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)

第 13 回 江戸時代（3）

江戸時代の美術（中期・後期：工芸・絵画）

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)
事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)

第 14 回 江戸時代（4）

江戸時代の美術（中期・後期：絵画）

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)
事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)

第 15 回 まとめ

鎌倉時代から江戸時代にかけての日本美術史の総
まとめ

事前/高校レベルの日本史の復習(1.5時間)
事後/配付教材等による授業の復習(2.5時間)

【アクティブラーニング】

1回：F / 2回：F /
3回：F / 4回：F /
5回：F / 6回：F /
7回：F / 8回：F /
9回：F / 10回：F /
11回：F / 12回：F /
13回：F / 14回：F /
15回：F

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

日本美術史の背景にある一般史（日本史）について、高校の教科書レベルの内容は理解しておくこと。

授業で取り上げる作品のみならず、日頃からさまざまな美術作品に関心を向けることが大切。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

造形作品の図版を表示するので、大きな画面をもつ機器（PC）の利用が望ましい。

Microsoft Teamsは必須。

【成績評価方法 ・評価割合・評価基準】

評価方法：主に毎回の提出課題により評価する（すべての課題を提出することが成績評価の前提となる）。

評価割合：平常点（課題への取り組み姿勢）（10%）＋提出

課題の成績（90%）

評価基準：各ジャンルの造形作品を見る力、また各時代の代表的な作品についての理解度をはかる。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

毎回提示する課題については、次回の授業で解説を行う。

【出席確認の方法】

Microsoft Teamsの機能（「出席者リスト」）および提出課題により確認。

【基本的な授業の進め方】

Microsoft Teamsを利用したライブ授業（①-③）とオンデマンド授業（④）の二形態を採用

①出席確認、授業概要説明等 [5分]

②課題解説（Microsoft Teamsを利用したライブ講義）[15分]

③授業連絡、質疑応答等 [10分]

④オンデマンド講義＋課題演習 [60分]

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：－
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：－
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
－：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

『日本美術史』（美術出版ライブラリー 歴史編）山下裕二・高岸輝監修 美術出版社 3,080円ほか（その他の文献等についてはオリエンテーションの際に紹介する）

【オフィスアワー】

毎回、授業中に質疑応答時間を設けるので、原則的にこちらを利用すること（Microsoft Teamsの音声通話やチャットを利用）。

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

基本的な授業の進め方、教科書、参考文献、オフィスアワー

東洋美術史Ⅱ

MM213

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

2【動画型2】

講義/1コマ

田辺 理

【科目の概要および目的】

本講義では、前半はインドやガンダーラの仏教美術を中心に講義を行う。はじめに、仏教美術の基礎的な概説を行う。次に、ストゥーパと呼ばれる仏塔とそれを飾っていた彫刻を見る。後半は、インドやガンダーラから東漸し、中国や日本まで伝来した仏教美術について、テーマ別に解説する。文化交流史を学ぶことによって、日本文化の源流を理解することが目標である。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・ 仏教美術の基礎知識が身につく
- ・ インドやガンダーラの珍しい美術作品の見方や歴史がわかる
- ・ 文化交流史が理解できる

【授業形態】

2【動画型2】

【授業計画】

- 第1回 仏教と仏像の伝播
ブッダ像の変遷とインドから日本までの各地域の仏教美術の特徴を解説する
事前/仏教について (2時間)
事後/仏像について (2時間)
- 第2回 仏像の種類
仏教美術を理解する上で必要な基礎知識の解説を行う。特にインド、ガンダーラ、中央アジア、中国、日本などの仏像の種類及び名称、専門用語を解説する
事前/仏像の種類について (2時間)
事後/仏像の種類について (2時間)
- 第3回 釈迦牟尼の生涯
仏教の開祖釈迦牟尼の生涯を仏伝図を見ながら解説する。仏伝図とは、釈迦牟尼の生涯を表した彫刻や絵画であり、それらを見ることによって、仏教説話の登場人物や基礎知識を学んで欲しい。
事前/釈迦牟尼について (2時間)
事後/釈迦牟尼について (2時間)
- 第4回 インド初期仏教美術史1
古代インドのバールフット、サーンチー、ボドガヤ、マトゥラーなどの仏教彫刻の特徴について解説する
事前/古代インドの歴史 (2時間)
事後/古代インドの仏教美術 (2時間)
- 第5回 インド初期仏教美術史2
古代インドのカナガナハリ、ナーガルジュナコンダ、アマラーヴァティーなどの仏教彫刻について解説する

- 事前/古代インドの歴史 (2時間)
事後/古代インドの仏教美術 (2時間)
- 第6回 ガンダーラの歴史
ガンダーラの歴史について、コインに刻印された王の肖像や神々、彫刻を例に挙げて解説する
事前/ガンダーラがどこにあるか(2時間)
事後/ガンダーラの歴史 (2時間)
- 第7回 ガンダーラの仏教遺跡
仏教寺院(お寺)の遺跡を見ながら、寺院について解説する
事前/仏教寺院とは (2時間)
事後/仏教寺院に行く (2時間)
- 第8回 ガンダーラの仏教彫刻の種類
ガンダーラ仏教彫刻について、ギリシア・ローマ美術の影響を受けた彫刻と、仏像などの尊像について詳細に解説する
事前/ガンダーラの場所と歴史 (2時間)
事後/ガンダーラの仏教彫刻 (2時間)
- 第9回 仏像の起源
仏像がどのようにして生まれたのか?これまでの研究成果を示しながら解説する
事前/仏像の種類を確認 (2時間)
事後/仏像の起源の確認 (2時間)
- 第10回 風神雷神の東漸
日本に残る風神雷神図の起源を、中国、インド、西アジアを經由し、ギリシア・ローマまで遡って解説する。
事前/日本の風神雷神図を確認 (2時間)
事後/風神雷神図の確認 (2時間)
- 第11回 ヘラクレスと執金剛神
ギリシア神話に登場するヘラクレス像が東漸し、仏教に採り入れられて執金剛神(仁王)像となるまでの課程について解説する
事前/ヘラクレス像を確認 (2時間)
事後/仁王像を確認 (2時間)
- 第12回 四天王と毘沙門天
四天王像の東漸について解説する。特に、毘沙門天については、特別に採り上げて起源について説明する
事前/四天王の種類を確認 (2時間)
事後/四天王の図像を確認 (2時間)
- 第13回 ハーリティー女神と鬼子母神
日本の安産と子供守護女神である鬼子母神の起源を、ガンダーラのハーリティー女神やアルドクショー女神(大地の豊穡、子供の守護、安産の女神)像まで遡って解説する。
事前/鬼子母神を確認 (2時間)
事後/鬼子母神像を確認 (2時間)
- 第14回 バッカス神と葡萄唐草文
ギリシア神話に登場する酒神バッカスとそれに関連する葡萄唐草文について、その東漸と意味を解説する
事前/バッカス神を確認 (2時間)
事後/バッカス神像について確認(2時間)

第 15 回 まとめ・復習

これまでの文化交流史をまとめ、日本文化の源流が西方にあることを認識する

事前/これまでの確認 (2時間)

事後/これまでの確認 (2時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：— /

3回：— / 4回：— /

5回：— / 6回：— /

7回：— / 8回：— /

9回：— / 10回：— /

11回：— / 12回：— /

13回：— / 14回：— /

15回：—

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・ 仏教美術について書かれた本を何でもいいので一読する
- ・ 博物館、美術館に行く。東京国立博物館の東洋館及び松岡美術館を推薦する。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

パソコン

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

小レポート提出(70%)：毎回の授業後に授業内容（感想・疑問点を含む）をまとめた小レポートを提出。理解度を評価する。なお、配布資料やインターネット上からコピー&ペーストされたものは評価しない。

平常点(30%)：小レポートの提出状況で評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・ 提出した後、全体にアドバイスやコメントを行う

〔出席確認の方法〕

毎授業後に小レポートを提出すれば出席となる

〔基本的な授業の進め方〕

授業毎に10分から15分で授業内容の確認と質問に回答を行う。その後、およそ50分から60分の授業を見る。授業終了後、15分から30分の時間で授業内容をまとめた小レポートを書いて提出する

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし。プリントを配布する

〔参考文献〕

『仏像の事典』成美堂出版

〔オフィスアワー〕

Teams上のチャットなどで質問などは常時受け付けている

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

ロックミュージック概論Ⅱ

MM214

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

伊丹谷 良介

〔科目の概要および目的〕

70年代から90年代までのロックミュージックの変化について、各ジャンル・スタイルに分類、解説を行い、現代音楽としてのロックの特性について論じる。この授業を通じて、現代聴かれる音楽として主流にあるロック・ミュージックの歴史、ジャンルスタイルの特徴について理解し、音楽的知識を深めるとともに、自身の作品へ応用する力を育む。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・ ロックミュージックの生い立ちと進化を説明できる
- ・ 背景にある文化（ファッション、サウンド、ビジュアル等）との関わりについて説明できる
- ・ 理解と勘考し、自身の行動につなげることができる

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

第 1 回 歴史的概観（2）

ロックミュージックの歴史観（2）

事後/授業内容の確認（4時間30分）

第 2 回 シンガー・ソングライター

70年代からのシンガーの主張について

事後/授業内容の確認（4時間30分）

第 3 回 ファンク

アフリカ音楽に共通する明確なスタイルについて

事後/授業内容の確認（4時間30分）

第 4 回 ジャズ・ロックとフュージョン

ジャズがロックに及ぼした影響について

事後/授業内容の確認（4時間30分）

第 5 回 アート・ロック

ロックとクラシックの楽器編成を結合したアートロックについて

事後/授業内容の確認（4時間30分）

第 6 回 グリッターとグラム

80年代から90年代初期までのグラムバンドについて

事後/授業内容の確認（4時間30分）

第 7 回 ハードロックとヘヴィメタル

- 80年代後半から90年代前半のハードロックおよびヘヴィメタルについて
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 8 回 グローバル・メタル
世界各地で独自の進化を遂げるメタル・ロックについて
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 9 回 パンクロックとニューウェーブ
アメリカ、ブリティッシュのパンク、ニューウェーブについて
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 10 回 スカとレゲエ
スカとレゲエがロックに与えた影響について
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 11 回 ヒップホップとラップ
他のスタイルと組み合わせられたラップについて
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 12 回 オルタナティブロック
英国発、アメリカ発のオルタナティブロックについて
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 13 回 モダンメインストリームロック
インターナショナル・ミュージックとしてのロック
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 14 回 ロック・ミュージックの様々な試み
現代の音楽におけるロックの存在について
事後/授業内容の確認 (4時間30分)
- 第 15 回 まとめ
ロックミュージック概論まとめ
事後/授業内容の確認 (4時間30分)

【アクティブラーニング】

- 1回：F / 2回：F /
3回：F / 4回：F /
5回：F / 6回：F /
7回：F / 8回：F /
9回：F / 10回：F /
11回：F / 12回：F /
13回：F / 14回：F /
15回：F

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

積極的な授業態度

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①授業毎の質問 (60%)：質問、気付きが書かれたコメントカードから授業ごとの理解を評価する

②最終日のレポート (40%)：提出された「ロックミュージックの生い立ちと進化」のレポートを評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・授業毎のコメントカードを翌週の授業で回答します

【出席確認の方法】

指定のタイミングでコメント提出。リアクションペーパーの提出

【基本的な授業の進め方】

授業説明 10分

ワーク1 講義5分 ワーク①15分 解説10分

ワーク2 講義5分 ワーク②15分 解説15分

授業の振り返り 10分 次回課題説明 5分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：—
2. 表現力：—
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

ロックミュージックの歴史 (下) キャサリン・チャールトン著 佐藤実訳 音楽之友社

【オフィスアワー】

時間：出講日〔水曜日〕の授業終了後

場所：オンライン

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

非言語コミュニケーション論

MM215

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

竹内 一郎

【科目の概要および目的】

非言語コミュニケーションの重要性を認識する。日本では、伝達的手段として言葉だけが取りあげられる傾向が強い。しかし、実際は非言語情報の方が圧倒的に重要な伝達手段なのである。心理学・社会学の研究成果、漫画・演劇など技法を通じた概論を講義する。

【到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)】

・日本の伝達力の重要な部分を占める非言語コミュニケーションの高い知識を得る。

・自分のコミュニケーション能力の何が足りなかったかに気付き、実践の一步を踏み出すことができる。

・日本社会の特性に関心を持ち、諸外国とのコミュニケーションの違いに気付くことができる。

【授業形態】

5【同時双方向型】

【授業計画】

- 第 1 回 非言語コミュニケーションとは何か
言葉の伝達力・非言語力、信頼できる行動
事前／テキストを読む(30分) 事後／社会の中の
非言語情報に目を向ける(30分)
- 第 2 回 「見た目」の虜
野生動物と市民の違い
事前／テキストを読む(30分) 事後／社会の中の
非言語情報に目を向ける(30分)
- 第 3 回 言葉の無力さ
活字の世紀からテレビの世紀へ
事前／テキストを読む(30分) 事後／社会の中の
非言語情報に目を向ける(30分)
- 第 4 回 受信力
コミュニケーションの2つの側面
事前／テキストを読む(30分) 事後／社会の中の
非言語情報に目を向ける(30分)
- 第 5 回 ハイコンテキスト
日本文化の特徴
事前／テキストを読む(30分) 事後／社会の中の
非言語情報に目を向ける(30分)
- 第 6 回 ローコンテキスト
西洋文化の特徴
事前／テキストを読む(30分) 事後／社会の中の
非言語情報に目を向ける(30分)
- 第 7 回 オーラのある人
オーラとは何か
事前／テキストを読む(30分) 事後／社会の中の
非言語情報に目を向ける(30分)
- 第 8 回 背筋の意味
姿勢の根本
事前／テキストを読む(30分)
事後／姿勢よく歩いてみる(30分)
- 第 9 回 表情とは何か
嘘を見破れるか
事前／テキストを読む(30分) 事後／社会の中の
非言語情報に目を向ける(30分)
- 第 10 回 目力とは何か
目線の向け方
事前／テキストを読む(30分) 事後／社会の中の
非言語情報に目を向ける(30分)
- 第 11 回 声の力
高い声、低い声
事前／テキストを読む(30分)
事後／発声をしてくる(30分)
- 第 12 回 空間も伝達力
距離感を正しくつかおう
事前／テキストを読む(30分) 事後／社会の中の
非言語情報に目を向ける(30分)
- 第 13 回 IQとEQ

感情のコントロール

事前／テキストを読む(30分) 事後／社会の中の
非言語情報に目を向ける(30分)

第 14 回 SQの時代

社会的知性とは何か

事前／テキストを読む(30分) 事後／社会の中の
非言語情報に目を向ける(30分)

第 15 回 面接力

マナーの基本

事前／テキストを読む(30分)

事後／マナーの復習(30分)

【アクティブラーニング】

1回：— / 2回：— /

3回：— / 4回：— /

5回：— / 6回：— /

7回：— / 8回：C /

9回：— / 10回：— /

11回：E / 12回：— /

13回：— / 14回：— /

15回：E

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・60分の講義のあと班に分かれて、フリー・ディスカッション、さらにリアクションペーパーを作成する。コミュニケーション力・文章表現力が身に付く。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

PCあるいは、画像を送受信できる機器

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点(30%)：授業マナーを守り、積極的な授業参加態度を評価する

②授業内レポート(60%)：理解度について評価する

③発表(10%)：表現力について評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・毎週提出するリアクションペーパーは、次回にその講評を行います。

【出席確認の方法】

指定のタイミングでコメント投稿や出席票、リアクションペーパーの併用。

【基本的な授業の進め方】

講義(60分) エクソサイズ(20分) 講評(10分)

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：—

2. 表現力：—

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：○

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

竹内一郎『やっぱり見た目が9割』(新潮社) 814円

〔参考文献〕

竹内一郎『あなたはなぜ誤解されるのか 私を演出する技術』新潮社 858円

〔オフィシアワー〕

専任教員のオフィシアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

人物描写基礎

旧 マンガ人物描写基礎

MM265

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6 【対面型】

演習/1コマ

安田 隆浩

〔科目の概要および目的〕

7,8 人のグループで、順にモデルになり、1 ポーズ15 分程度、毎回5 ポーズのクロッキーを

描きます。また、プロのモデルを呼び、セミヌード、ヌードの人体クロッキーも描きます。

描いたクロッキーを基に家庭課題でペン画を制作し、オリジナルのポーズ集を完成させます。

人体のプロポーション、動作のバランスを理解するのは作品制作において重要です。

その基礎づくり、観察力、表現力をクロッキー体験を通して身につけていきます。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・描く対象に対しての観察力を身につける。
- ・人体を観察していく事でプロポーション、動きにともなうバランスを理解する事ができる。
- ・人体表現の基礎力を身につける。

〔授業形態〕

6 【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
授業説明とクロッキー
持ち物／4B の鉛筆、消し具
事前/ シラバスを読む (20 分程度)
事後/ 画材を揃える (30 分程度)
- 第 2 回 クロッキー1 / ペン画
立ちポーズを描く (1)
ペン画の説明、演習
事前/ 自分の課題を見つける(30 分程度)
事後/ クロッキーを基にペン画を書く(1 時間程度)
- 第 3 回 クロッキー2

立ちポーズを描く (2)

事前/ 自分の課題を見つける(30 分程度)

事後/ クロッキーを基にペン画を書く(2 時間程度)

第 4 回 クロッキー3

座りポーズを描く (1)

事前/ 自分の課題を見つける(30 分程度)

事後/ クロッキーを基にペン画を書く(2 時間程度)

第 5 回 クロッキー4

座りポーズを描く (2)

事前/ 自分の課題を見つける(30 分程度)

事後/ クロッキーを基にペン画を書く(2 時間程度)

第 6 回 クロッキー5

モデルを描く1 (セミヌード/ 男性)

事前/ 自分の課題を見つける(30 分程度)

事後/ クロッキーを基にペン画を書く(2 時間程度)

第 7 回 クロッキー6

モデルを描く2 (セミヌード/ 女性)

*ペン画の中間チェック

事前/ 自分の課題を見つける(30 分程度)

事後/ クロッキーを基にペン画を書く(2 時間程度)

第 8 回 クロッキー7

顔/ 上半身を描く

事前/ 自分の課題を見つける(30 分程度)

事後/ クロッキーを基にペン画を書く(2 時間程度)

第 9 回 クロッキー8

モデルを描く3 (ヌード/ 男性)

事前/ 自分の課題を見つける(30 分程度)

事後/ クロッキーを基にペン画を書く(2 時間程度)

第 10 回 クロッキー9

モデルを描く4 (ヌード/ 女性)

事前/ 自分の課題を見つける(30 分程度)

事後/ クロッキーを基にペン画を書く(2 時間程度)

第 11 回 クロッキー10

手を描く

事前/ 自分の課題を見つける(30 分程度)

事後/ クロッキーを基にペン画を書く(2 時間程度)

第 12 回 クロッキー11

モデルを描く5 (ヌード/ 女性)

事前/ 自分の課題を見つける(30 分程度)

事後/ クロッキーを基にペン画を書く(2 時間程度)

第 13 回 クロッキー12

モデルを描く6 (ヌード/ 男性) を描く

事前/ 自分の課題を見つける(30 分程度)

事後/ クロッキーを基にペン画を書く(2 時間程度)

第 14 回 クロッキー13

自由ポーズを描く

事前/ 自分の課題を見つける(30 分程度)

事後/ ポーズ集を完成させる① (2 時間程度)

第 15 回 クロッキー14

モデルを描く5 (セミヌード/ 女性)

事前/ ポーズ集を完成させる②自分の課題を見つける(30 分程度)

事後/ 自分の課題を見つける (2 時間程度)

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：E /
 3回：E / 4回：E /
 5回：E / 6回：E /
 7回：E / 8回：E /
 9回：E / 10回：E /
 11回：E / 12回：E /
 13回：E / 14回：E /
 15回：E

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・人体表現の基礎力を身につける目的なので1年次の受講が望ましい。

・授業の定員を21人とします。希望者が定員を超える場合は抽選を行います。

・A3程度のクロッキー帳、デッサン用鉛筆が必要になります。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①授業への参加姿勢（20%）：授業マナーを守り、積極的に参加出来ているか。

①クロッキーの枚数（20%）：授業参加日数によりクロッキーの体験数が変わります。50枚以上のクロッキーを描く。

②クロッキー及びペン画課題（60%）：人体のプロポーションの正確さ、表現力、完成度を評価します。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・中間提出課題は返却時に個人ごとにコメントをします。

・最終課題は提出日に個人ごとにコメントをします。

（最終課題の返却は学務からになります。）

〔出席確認の方法〕

授業初めに出席の点呼をとります。

〔基本的な授業の進め方〕

・授業説明：5分程度

・クロッキー：15分/全体へのアドバイスや個人毎のアドバイス、質疑応答を5回（モデル時は4回）繰り返します。

・次回課題説明5分程度

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：○

5. コミュニケーション力：—

6. 専門的知識・技能の活用力：△

〔◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない〕

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

随時貸与

〔オフィスアワー〕

時間：出講日の授業後30分

教室：授業実施教室/イラストレーション研究室（812）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

課題やレポート等に対するフィードバックの方法、基本的な授業の進め方

コミックイラスト概論

MA227

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

市野 治美

〔科目の概要および目的〕

1950年から現在まで一回あたり約10年刻みで、コミックイラストの歴史の講義を行う。講義内容はその時代のコミックイラストの作家、技法の紹介、社会における立ち位置などを画像、動画などで紹介する。

100年以上にわたるコミックイラストの種類や展開を学ぶことにより、自身のコミックイラスト制作の幅の広がりにつなげることを目的とする。学生は次の講義のテーマの作品をリサーチし、簡易レポートにまとめ、次の授業で提出。発表なども行う。最終課題は14週通しての事前学習と授業の総括をレポートにまとめたものを提出する。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

・コミックイラストに通じる絵画・サブカルチャーの歴史知識を習得する

・コミックイラストに通じる作画技法の知識を習得する

・予習レポートを行うことによってリサーチ能力を身につける

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

第1回 ガイダンス

コミックイラストとは何かの問いかけを行う。

事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)

第2回 コミックイラスト前史I

コミックイラスト誕生まで—日本編—

事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)

第3回 コミックイラスト前史II

コミックイラスト誕生まで—海外編—

事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)

第4回 ~1950コミックイラスト史I

	イラストレーション・バンド・デシネ・漫画作品、作家、技法の紹介 事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
第 5 回	～1950コミックイラスト史II アニメーション・キャラクターデザイン作品、作家、技法の紹介 事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
第 6 回	1950～コミックイラスト史 昭和サブカルチャーコンテンツ・マンガ・TV・アニメーション作品、作家、技法の紹介 事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
第 7 回	1960～コミックイラスト史 昭和サブカルチャーコンテンツ・マンガ・雑誌・アニメーション作品、作家、技法の紹介 事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
第 8 回	1970～コミックイラスト史 昭和サブカルチャーコンテンツ・マンガ・SF・アニメーション作品、作家、技法の紹介 事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
第 9 回	1980～コミックイラスト史 昭和サブカルチャーコンテンツ・マンガ・ゲーム・アニメーション作品、作家、技法の紹介 事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
第 10 回	1990～コミックイラスト史 平成サブカルチャーコンテンツ作品、作家、技法の紹介I 事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
第 11 回	2000～コミックイラスト史 平成サブカルチャーコンテンツ作品、作家、技法の紹介II 事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
第 12 回	2010～コミックイラスト史 平成サブカルチャーコンテンツ作品、作家、技法の紹介III 事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
第 13 回	昭和・平成コミックイラスト 昭和・平成コミックイラストの比較検証 事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
第 14 回	2020～コミックイラスト史 コミックイラスト今後の展開予想 事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
第 15 回	総括とレポート提出 課題レポート提出

〔アクティブラーニング〕

1回：E / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：E / 6回：E /
7回：E / 8回：E /
9回：E / 10回：E /
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：E

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

なし

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

・PC、マイク、カメラ等、通信環境の成り立つデバイス
・Word。アクロバットなど作文ツール

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点 (10%)：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む姿勢を評価する

②事前学習のレポート (50%)：事前学習に積極的に取り組む姿勢と内容の二方面から評価する（レポートは毎回の授業内において提出）

③最終課題レポート (40%)：14回の事前学習の成果と講義内容の理解度、レポート制作の構成、表現力をもって評価する（事前制作、講義最終回に提出）

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・事前レポートは毎回提出、授業内でプレゼン、講評。

〔出席確認の方法〕

・点呼確認
・提出課題発表

〔基本的な授業の進め方〕

・導入・授業のガイダンス
・コミックイラスト概論の講義 20分
・提出課題講評 60分
・今日のまとめと課題説明 10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：—
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

マンガ表現研究 旧 マンガドローイングⅡ

MA267

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

たちばな いさぎ、和田 歩美

【科目の概要および目的】

漫画の背景で日常的によく出てくるものや、分かっているようで分からない建築物や動植物などの構成を詳しく学んで描き、作品に生かせるようにする。

その比率に合わせて人間も描き、絵に違和感が出ない画面構成を研究する。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・パースの応用ができる
- ・漫画家、漫画家アシスタントに必要な背景技能、表現力を身につける
- ・曲をイメージした内容をオリジナルに表現する漫画をセリフなしで4ページで描く
- ・指定の入ったネームから原稿を完成させる

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

- 第 1 回 基本背景 (1)
クロッキー／窓の構造を理解し作画する
音楽イメージ漫画の構想を練る
事後/授業内の課題を完成させる(1時間)
- 第 2 回 基本背景 (2)
クロッキー／ドアの構造を理解し作画する
事後/授業内の課題を完成させる(1時間)
- 第 3 回 基本背景 (3)
クロッキー／和室の構造を理解し作画する
事後/授業内の課題を完成させる(1時間)
- 第 4 回 基本背景 (4)
クロッキー／花、樹木、葉の構造を理解し作画する
事後/授業内の課題を完成させる(1時間)
- 第 5 回 基本背景 (5)
クロッキー／筋肉の構造を理解し作画する
事後/授業内の課題を完成させる(1時間)
- 第 6 回 基本背景 (6)
クロッキー／犬、猫の構造を理解し作画する
事後/授業内の課題を完成させる(1時間)
- 第 7 回 基本背景 (7)
クロッキー／馬の構造を理解し作画する
事後/授業内の課題を完成させる(1時間)
- 第 8 回 基本背景 (8)

- クロッキー／鳥の構造を理解し作画する
事後/授業内の課題を完成させる(1時間)
- 第 9 回 講評会／基本背景 (9)
クロッキー／音楽イメージ漫画講評会／料理を作画する
事後/授業内の課題を完成させる(1時間)
- 第 10 回 基本背景 (10)
クロッキー／机、椅子の構造を理解し作画する
事後/授業内の課題を完成させる(1時間)
- 第 11 回 基本背景 (11)
クロッキー／日本刀の構造を理解し作画する
事後/授業内の課題を完成させる(1時間)
- 第 12 回 作画総合 (1)
クロッキー／原作付き漫画 2Pを描く① (下書き)
事後/授業内の課題を完成させる(1時間)
- 第 13 回 作画総合 (2)
クロッキー／原作付き漫画 2Pを描く② (下書き)
事後/授業内の課題を完成させる(1時間)
- 第 14 回 作画総合 (3)
クロッキー／原作付き漫画 2Pを描く (ペン入れ～仕上げ)
事後/授業内の課題を完成させる(1時間)
- 第 15 回 講評会
背景・原作付き 2P漫画の発表、講評会
事後/講評の結果を以後の自分の作品に生かす

【アクティブラーニング】

- 1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：— /
5回：— / 6回：— /
7回：— / 8回：— /
9回：D / 10回：— /
11回：— / 12回：— /
13回：— / 14回：— /
15回：D

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・普段から背景に使えるようなものや周囲の風景などを観察しておく

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点 (30%)：授業態度・積極性を評価する
②提出物 (70%)：課題の完成度・ム切が守られているかを評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・講評会で、担当教員、学生が作品を読み合せて、それぞれの作品のコメントを書く

【出席確認の方法】

出席票を提出

【基本的な授業の進め方】

- ・クロッキー：20分
- ・ペン使い練習：20分
- ・その日の演習説明：5分

- ・実践のワーク：130分
- ・振り返り/次回課題説明：5分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

時間：出講日の授業終了後30分

場所：授業実施教室または7F非常勤講師控室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、基本的な授業の進め方

アニメ制作・研究基礎Ⅱ

AN229

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

講義/1コマ

橋本 三郎

【科目の概要および目的】

「アニメ制作・研究基礎Ⅰ」を受講した受講生に対し、さらに作品の制作設計・作品の内容、目的（メッセージ）について基礎的問題の理解・把握をさせ、作品構成技法の修得を目的とする。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・アニメ制作・研究基盤の理解
- ・アニメ制作・研究基盤の修得
- ・アニメ制作・研究基盤の確信を持って実行

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第 1 回 ガイダンス

授業内容の説明 構成・予定 学習法 課題説明
事後/復習（レポート作成）(4時間)

第 2 回 長編アニメの歴史

アニメ映画の年表提示 参考映像視聴
事前/課題の確認(2時間)
事後/課題の復習(2時間)

第 3 回 映像構成①

アニメ映画の制作メイキングから学ぶ 参考映像
視聴
事前/課題の確認(2時間)
事後/課題の復習(2時間)

第 4 回 映像構成②

アニメ映画の制作メイキングから学ぶ ストーリー
ーからストーリーボードへ
参考映像視聴
事前/課題の確認(2時間)
事後/課題の復習(2時間)

第 5 回 映像構成③

アニメ映画の制作メイキングから学ぶ ストーリー
ーから世界観へ 参考映像視聴
事前/課題の確認(2時間)
事後/課題の復習(2時間)

第 6 回 映像構成④

アニメ映画の制作メイキングから学ぶ ストーリー
ーからキャラクターへ 参考映像視聴
事前/課題の確認(2時間)
事後/課題の復習(2時間)

第 7 回 映像構成⑤

ストーリーから美術設定へ 参考映像視聴
事前/課題の確認(2時間)
事後/課題の復習(2時間)

第 8 回 映像構成⑥

ストーリーからアニメーションスタイルへ 参考
映像視聴
事前/課題の確認(2時間)
事後/課題の復習(2時間)

第 9 回 巨匠達における真理

数々の長編映画から学ぶ真理 参考映像視聴
事前/課題の確認(2時間)
事後/課題の復習(2時間)

第 10 回 ステージング

アニメ画面と舞台の相違点とは 参考映像視聴
事前/課題の確認(2時間)
事後/課題の復習(2時間)

第 11 回 コンポジション

画面構成の効果的手法とは 参考映像視聴
事前/課題の確認(2時間)
事後/課題の復習(2時間)

第 12 回 アクションの分析Ⅰ

カット中のキャラの動きの意味 参考映像視聴
事前/課題の確認(2時間)
事後/課題の復習(2時間)

第 13 回 アクションの分析Ⅱ

キャラクターの存在感のあるアニメとは 参考映
像視聴
事前/課題の確認(2時間)
事後/課題の復習(2時間)

第 14 回 アクションの分析Ⅲ

キャラクター間の相関図の重要性とは
事前/課題の確認(2時間)
事後/課題の復習(2時間)

第 15 回 まとめ
アニメに必要な技術について
事前/課題の確認(2時間)
事後/課題の復習(2時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：— /
5回：D / 6回：— /
7回：— / 8回：— /
9回：— / 10回：— /
11回：— / 12回：— /
13回：— / 14回：— /
15回：—

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

・「アニメ制作・研究基礎Ⅰ」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

旺盛な好奇心と向上心。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①レポート (70%)：授業内容の理解度を評価

②平常点 (30%)：授業態度を評価

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

個別に授業内にて講評

〔出席確認の方法〕

点呼もしくは出席カード

〔基本的な授業の進め方〕

出欠確認 (10分)

資料鑑賞・講義 (80分)

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

授業内にて指示

〔参考文献〕

授業内にて紹介

〔オフィスアワー〕

時間：出講日〔火〕の授業の前後

場所：授業実施教室

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った

箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った

箇所②〕

なし

アニメスキルⅡ 旧 アニメスキルⅠ

AN253

東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)
1年生 2年生 3年生 4年生
2単位 後期
6 【対面型】
演習/2コマ

古瀬 登

〔科目の概要および目的〕

あらゆる動物の動きの基本は、歩き・走りであることは論をまたない。もっともアニメーション的でありもっとも基本的な作業だといえよう。アニメーションを目指す学生にとってははずすことのできない講座である。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・アニメーターとして必要な精度の高い原画・動画を作成することができる
- ・動かすタイミングを習得し、基本的なタイムシートを作成することができる
- ・アニメーション制作向けPCツールを操作できる

〔授業形態〕

6 【対面型】

〔授業計画〕

第 1 回 テーマの揭示

課題の説明,キャラクター・動きの元となる資料を選ぶ

事後/課題の制作(3h)

第 2 回 スケッチ

資料を元にキャラクターのスケッチをする

事後/課題の制作(3h)

第 3 回 絵コンテ

短い絵コンテの作成

事後/課題の制作(3h)

第 4 回 レイアウト

資料を元にアイレベルを決め,原図を作成する

事後/課題の制作(3h)

第 5 回 原画(1)

レイアウトを元に大まかな動きのラフを作成する。

事後/課題の制作(3h)

第 6 回 原画(2)

「キーフレーム」を描く。間接から間接までの骨格の長さは不変

軸足と運び足の運動曲線を意識する

事後/課題の制作(3h)

第 7 回 原画撮影

簡易的な撮影、動きの確認をする

事後/課題の制作(3h)

第 8 回 動画(1)

タイミングシートを元に中割りを入れる

人間の動き(歩き)は柔軟であり、そのやわらかさを表現するものは…

事後/課題の制作(3h)

第 9 回 動画(2)

- クリンナップする
事後/課題の制作(3h)
- 第10回 仕上げ(1)
クリンナップした素材や背景をスキャンする
事後/課題の制作(3h)
- 第11回 仕上げ(2)
キャラクターに色を付ける
事後/課題の制作(3h)
- 第12回 背景
背景に色を付ける
事後/課題の制作(3h)
- 第13回 撮影
カットごとに撮影する。撮影処理を加える
事後/課題の制作(3h)
- 第14回 編集・提出
カットごとのムービーを並べる。書き出しして提出
事後/課題の制作(3h)
- 第15回 講評
指導師のチェック&リメイク
事前/課題の制作(3h)

【アクティブラーニング】

- 1回：B,E / 2回：B,E /
3回：B,E / 4回：B,E /
5回：B,E / 6回：B,E /
7回：E / 8回：E /
9回：E / 10回：E /
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：E

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・「アニメスキルⅠ」の単位を修得していることが望ましい
- ・必要な用具①アニメーション用タップ②動画用紙(7階事務局にて販売)③鉛筆Bまたは2B④色鉛筆赤・青を初回授業時まで事前に必ず購入しておくこと
- ・デジタル作業可

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点(30%)：授業態度・積極性を評価する
②課題評価(70%)：表現力・完成度はどうか。PCツールを使いこなせているか

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・提出後の授業で個別にコメントします

【出席確認の方法】

授業開始時に名前を読み上げて確認します

【基本的な授業の進め方】

1コマ目

- ・出席確認:5分
- ・資料配布、課題説明:10分
- ・講義:10分
- ・作画作業:65分

2コマ目

- ・作成した課題のチェック、添削の繰り返し:80分
- ・課題提出:5分
- ・次回説明:5分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

課題ごとに資料配布

【参考文献】

神村 幸子 「アニメーションの基礎知識大百科」(2009年) グラフィック社

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照(7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、授業計画：テーマ・内容

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、教科書、参考文献

アニメデジタル基礎

AN266

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目(2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

5 【同時双方向型】

演習/1コマ

芦谷 耕平

【科目の概要および目的】

Adobe Premiere/After Effects/Clip Studioを使用し、動画編集ツールの基礎的な使用法を学ぶ。その際に人気TVアニメーションなどのオープニング映像集などを参考視聴し、主にアニメーション作品における動画制作の編集、録音を含む基本工程を理解する。映像編集の基本的なツールを扱いながら映像の概念を広く理解し、つなぎ方(モンターージュ)による効果の違いを研究し、オリジナルの映像作品を創作していく。

【到達目標(授業を通じて身につく能力・スキル)】

- ・ Adobe Premiere/After Effects/Clip Studioといった映像編集の基本的なソフトの、1分～2分程度の映像制作ができる操作方法を習得する
- ・ アニメーションにおけるカット編集、音との同期即ちスポッティングの技術を学ぶ
- ・ オリジナルの映像作品を編集、完成させ動画ファイルとして書き出すことができる
- ・ YouTubeなどの動画サイトも含め、発表できる形式に落とし込む

【授業形態】

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
動画編集と映像とは、概念と用語の解説
事前/動画編集の基本の予習(1時間)
事後/「映像編集用語」についての復習(3時間)
- 第 2 回 編集ソフトの基本操作
premiereの基本操作の解説
事前/動画編集の基本の予習(毎週1時間)
事後/Adobe CSシリーズの起動練習(毎週1時間)
- 第 3 回 素材を使用したモーショ
ン
Photoshopで制作した素材を動画編集ソフト上で
実際に動かしてみる
- 第 4 回 レイヤーを使用したモーショ
ン
トラックとチャンネル、合成の概念を把握する
- 第 5 回 レイヤーを使用したアニメーション
トラック操作により背景、キャラクター、オブジ
ェクトの配置を考察する
- 第 6 回 素材の取り込みと書き出し
撮影素材の取り込み方、コーデック方式、出力の
仕方とファイルの形式について
事前/Adobe CSシリーズの予習(毎週1時間)
事後/PC(Premiere)についての復習(毎週3時間)
- 第 7 回 アフレコとスポッティング
アニメーション作品の制作に欠かせない、音源と
の同期の問題を考察する
- 第 8 回 制作と録音
アニメーション素材に音を合わせ、シーンの創出
を目指す。必要な音源(簡単な効果音素材など)の
選定を試みる
事前/PC(Premiere)についての予習(1時間)
事後/第1課題の自主作業(2時間)
- 第 9 回 既存のアニメーションから学ぶ
既存のアニメーション作品のオープニング/エン
ディング映像を鑑賞し、音楽とのコラボレーショ
ンを学ぶ
事前/第1課題の自主作業(2時間)
事後/第1課題を完成させる(2時間)
- 第 10 回 特殊効果(1) AE基本編
アニメのみならず映像業界全般で必須のAfter
Effects、ソフトの使用法を修得する
事前/PC(After Effects)についての予習(2時間)
事後/PC(After Effects)についての復習(3時間)
- 第 11 回 特殊効果(2) AE応用編
After Effectsによる特殊効果作成、Premiereとの使
い分けについて
事前/冬休み中に最終課題の内容を検討する(毎週
2時間)
事後/PC(After Effects)についての復習(毎週3時
間)
- 第 12 回 スポッティング・アフレコ・MA
使用する音源を元に、スポッティングを試みる
制作したシーンに合わせ、MAを行う。必要であ
れば、効果音等のアフレコも行う
- 第 13 回 アニメ制作におけるClip Studio導入編

- Clip Studioによるアニメーション制作・タイムラ
インの考え方
事前/最終課題の自主作業(毎週2時間)
事後/最終課題の自主作業(毎週2時間30分)
- 第 14 回 アニメ制作におけるClip Studio基礎編
Clip Studioによるアニメーション制作・原動画と
レイヤー構造
事前/最終課題の自主作業(毎週2時間)
事後/最終課題の自主作業(毎週2時間30分)
- 第 15 回 作品提出
制作課題の講評会を行う
事前/最終課題を完成させる(15時間)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：— / 2回：F /
3回：F / 4回：F /
5回：F / 6回：F /
7回：F / 8回：F /
9回：D / 10回：F /
11回：F / 12回：F /
13回：F / 14回：C /
15回：D

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・「アニメスキルⅠ」、「コンピューターデザイン基礎Ⅰ」は、
ともに必須ではないが、単位を修得していることが望ましい。
- ・Windows、Mac等のPCのたちあげ、ソフトの汎用的な使用
法を理解している。AdobeCS,CCシリーズに触れた経験があ
る。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

- ・以下のソフトウェアが問題なく動作するPC
- ・Adobe Premiere /After Effects /Clip Studio

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点(30%)：授業態度・積極性で評価
- ②提出物(70%)：作品の出来を表現力・完成度・締め切り
で評価

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・各課題ごとに個別に授業内にて講評、または全体での講
評

〔出席確認の方法〕

- ・指定のタイミングでコメント投稿や出席票、出席者リス
ト、リアクションペーパー提出などを併用

〔基本的な授業の進め方〕

- ・授業説明:10分・その日の講義1:説明10分→思考のワーク
1:10分→解説10分・その日の講義2:説明10分→実践のワー
ク2:15分→解説15分
- ・授業の振り返り5分
- ・次回課題説明5分 ワーク1とワーク2の提出で出席など
- ・その授業回によってフレキシブルに対応。

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—

5. コミュニケーション力：－

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
－：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

神村 幸子『アニメーションの基礎知識大百科』グラフィック社 3080円

大村幸輝『AfterEffects for アニメーション』（の冒頭）ピー・エヌ・エヌ新社 4180円

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法

現代アニメ文化論Ⅱ

AN/MM226

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

月岡 貞夫

【科目の概要および目的】

私の先輩プロデューサーの著書「娯楽映画の骨法」の中に映画は悪が面白いほどおもしろくなる、という一文がある。これに共感した私は物語における悪というものの研究をしてきた。世界の三大宗教の戒律では、取るな盗るなかれ、騙すな嘘はダメ、殺すなまではある。物語の中には宗教の戒律を越えた悪が多く存在する。シェークスピア物語群16世紀、古くは我が国の「忠臣蔵」17世紀。ビクトル・ユーゴー「ノートルダム・イン・パリ」アレクサンドル・デュマ「モンテクリスト伯」18世紀、の悪はなにか。19世紀「ハリーポッター」2.360万部、映画興収77, 706億ドル。「半沢直樹」最高視聴率42%。「鬼滅の刃」1億2千万部、映画興収3百億突破。この大ヒットコンテンツに共通する悪はなにか。合わせて共通する面白さの研究は必要である。

講座は諸事情によりゼミ形式にはならないので、一方的なスピーチ形式となるので、基本的に事前の準備は不要だが簡単なレジュメは発信するとして、生徒は必ずメモをとることを要望する。不明な単語や言葉が出てきた場合、メモをとり、スピーカーに質問するなり辞書で調べてほしい。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・作る楽しさを理解することができる。
- ・アニメーションの基本的な理論について理解することができる。

できる。

・過去のアニメーション作品を研究し、自分の作品づくりに繋げることができる。

【授業形態】

5 【同時双方向型】

【授業計画】

第 1 回 アニメにおける短編と長編

長編とは劇場用アニメ、短編とは個人又は大学におけるアニメ。その間にあるテレビシリーズは22分の中編だ。何を学ぶのか。

事前/毎回、神話、寓話、おとぎ話、民話、伝説の違いについて調べる（30分）

事後/毎回、各自が一本の物語を読み、どうしたところに物語性をみたか、好感、共感、感動があればそれをレポートに纏めてみる（対象物語は各自が選ぶこと）（60分）

第 2 回 物語の骨法は悪にある

物語を語る人は人に何を伝えたいのか、必ず何か伝えたいものがあるはずなのだ。

第 3 回 宗教の悪は欲望にあり

人間の欲望に終わりはないというが、このコロナ渦で生きる欲望すら見いだせず、自死を選ぶ人が多いのは残念だ。

第 4 回 奪う・取る・嘘・騙す・殺すなかれ

こうした悪は法律でも書かれているが、世の中には法でも宗教でも書かれていない悪というものが、山のようにあるのだ。

第 5 回 キリスト教の悪

悪はキリスト教がつくった・ニーチェ。朱子学の悪について

第 6 回 j j ルソー、Eカント、Fニーチェ、の悪論

宗教が語らない悪

第 7 回 悪の象徴としてのキャラクター

悪魔サタンは象徴としてのキャラクターだ。日本のキャラは言わずもがな、鬼であった。

第 8 回 殺す=復讐（仇討ちもの）

殺人行為は絶対悪だが、これは結果である。その原因こそをさくべきだ。

第 9 回 現代の悪は苛め

「忠臣蔵」から「モンテクリスト伯」まで

第 10 回 嫉妬

「メデア」、「カルメン」、「オセロ」、「出世景清」

第 11 回 「ノートルダム・イン・パリ」

嫉妬は男と女の間だけに発生するものではない。競争相手間にはよく発生するし、女性だけの特有のものでもない。

第 12 回 オイデプス王の物語

父と男の子の葛藤はイデプスコンプレックスという

第 13 回 劣等コンプレックスと優越コンプレックス

コンプレックスは諸悪の根源か

第 14 回 「白雪姫」と「シンデレラ」「雪の女王」

魔女列伝と中国の三大悪女。ディズニーのアナはダイアナコンプレックスという。

第 15 回 自然悪と怨霊について

自然悪は象徴として、例えばホラーNo.1「ドラキュラ」は蝙蝠であり疫病でありコロナ・ウイルスの象徴なのである。

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：— /
5回：— / 6回：— /
7回：— / 8回：— /
9回：— / 10回：— /
11回：— / 12回：— /
13回：— / 14回：— /
15回：—

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

アニメーションについて深く興味を持ち、授業への積極的な参加を求める。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

Teamsでの受信ができるPC、端末

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点（10%）：積極的に授業に参加しているか
②レポート（90%）：授業内容が理解できているか

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

授業内で紹介

〔出席確認の方法〕

授業冒頭にTeams上のチャットで確認を行う

〔基本的な授業の進め方〕

出欠確認（10分）

テーマに関する講義・質疑応答①（20分）／テーマに関する講義・質疑応答②（20分）

テーマに関する講義・質疑応答③（20分）／テーマに関する講義・質疑応答④（20分）

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：△
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

出講日の授業前後

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

水墨画

AN/MM290

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 夏期集中

6 【対面型】

講義・集中/1日5コマ

王子江

〔科目の概要および目的〕

本科目は水墨画初心者向けの基礎作りの授業である。水墨画の画材説明・使い方から入り、水墨画の最も基礎となる「線」の練習と線描を中心として行う。水墨画の紙・筆・墨の性能と多様技法を学ぶ。山水画の構造法・透視法と、主要構成素材である山・石・樹木の表現方法を学んで、創作作品を完成させる。模写を通して山水画、花鳥画、人物画の基礎を学ぶ。写生などの資料をもとに学んだ技法を活用して、作品制作をする。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

・主に見本やモデルをモチーフに書きすすめる中で、個々のオリジナルな描線を描くことができる。

・自分のイメージだけでも正確な植物、動物、人物描写ができる。

・漫画、アニメ、ゲーム、イラスト制作キャラクター作りや、個性的な表現ができる。

〔授業形態〕

6 【対面型】

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

授業内容の内容特徴、使用教材、参考書、学習の取り組み方などの説明

事前・事後／授業中に描いた作品の復習（30分）

第 2 回 筆、墨、筆洗、皿、刷毛

線と筆法、墨と水の表現

第 3 回 山水画の技法(1)

樹木の画法

第 4 回 山水画の技法(2)

山、石の画法

第 5 回 山水画の技法(3)

雲、水の画法

第 6 回 山水画の技法(4)

山水画の構図

第 7 回 花鳥画の技法(1)

梅、蘭、竹、菊の画法

第 8 回 花鳥画の技法(2)

花卉の画法

第 9 回 花鳥画の技法(3)

鳥と昆虫の画法

第 10 回 花鳥画の技法(4)

写意花鳥画の創作

第 11 回 人物画の技法(1)

写意人物の線描

第 12 回 人物画の技法(2)

水墨クロッキー

- 第 13 回 人物画の技法(3)
人墨画の造型
- 第 14 回 人物画の技法(4)
人墨画の造型
- 第 15 回 基本技法のまとめ
水墨画の創作

【アクティブラーニング】

- 1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：— /
5回：— / 6回：— /
7回：— / 8回：— /
9回：— / 10回：— /
11回：— / 12回：— /
13回：— / 14回：— /
15回：—

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

水墨画描写の魅力を理解し、集中力を持って授業にのぞんでほしい。墨、筆、仙紙など各自で用意すること。

(準備物の詳細は、7月上旬頃にTeamsにてお知らせします。)

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①課題評価 (70%)：「墨の濃淡・明度の調整」「筆の持ち方」「線の書き方」「構図のとり方」ができているか

②平常点 (30%)：授業マナーを守り、積極的に授業に参加しているか

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・授業中に作品の指導をします

【出席確認の方法】

指定のタイミングで出席票を提出させる。

【基本的な授業の進め方】

集中講義のため、授業内で説明予定。

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

時間：開講期間中の授業終了後

場所：授業実施教室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

プログラム基礎

GA256

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6 【対面型】

演習/2コマ

増田 宗嶺

【科目の概要および目的】

プログラムは、コンピューターによる制御が必要な場面において多岐にわたり利用されています。

本授業では、プログラムに対する基礎・基本を修得することを目指します。演習を通し、「プログラムとはどのようなものであるかを理解」し、「文法の基本を学習」していきます。言語は主にJavaScriptを使用しますが、特定言語の文法を単に暗記するのではなく、言語によらないプログラムに対する共通の基本的な理解が深まることを優先します。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・プログラムに対する基本的な理解のもと、アプリケーションにおけるプログラムの役割を説明できる。
- ・実現したい基本的な機能に対して、プログラムによる解決策を提案できる。
- ・「変数」「関数」が使用できる。
- ・「条件分岐」「繰り返し処理」によりプログラムの流れを制御できる。

【授業形態】

6 【対面型】

【授業計画】

第 1 回 オリエンテーション

本授業の概要、進め方、作業環境について

事前/パソコンの基本操作 1.0(時間)

事後/授業内容の復習 2.0(時間)

第 2 回 プログラムの基本

ビジュアルプログラミングを使用した演習

(プログラムの基本と論理的思考を学習する。)

事前/疑問点の整理 1.0(時間)

事後/授業内容の復習 2.0(時間)

第 3 回 変数と演算子

「変数」と「演算子」の説明と演習

事前/疑問点の整理 1.0(時間)

事後/授業内容の復習 2.0(時間)

第 4 回 関数

「関数」の説明と演習

事前/疑問点の整理 1.0(時間)

事後/授業内容の復習 2.0(時間)

第 5 回 文脈の制御

「配列」と「繰り返し」及び、「条件分岐」による文脈の制御の説明と演習

- 事前/疑問点の整理 1.0(時間)
事後/授業内容の復習 2.0(時間)
- 第 6 回 イベント処理
「イベント処理」の説明と演習
事前/疑問点の整理 1.0(時間)
事後/授業内容の復習 2.0(時間)
- 第 7 回 中間課題演習 (1)
演習問題 (学んできたことの理解を深める。)
事前/疑問点の整理 0.5(時間)
事後/課題制作 2.5(時間)
- 第 8 回 中間課題演習 (2)
演習問題 (学んできたことの理解を深める。)
事前/疑問点の整理 0.5(時間)
事後/課題制作 2.5(時間)
- 第 9 回 中間課題演習 (3)
演習問題 (学んできたことの理解を深める。)
事前/疑問点の整理 0.5(時間)
事後/課題制作 2.5(時間)
- 第 10 回 課題制作 (1)
内容の発表と進め方の説明
事前/疑問点の整理 0.5(時間)
事後/課題制作 2.5(時間)
- 第 11 回 課題制作 (2)
企画、プログラムデザイン
事前/疑問点の整理 0.5(時間)
事後/課題制作 2.5(時間)
- 第 12 回 課題制作 (3)
プログラムコーディング
事前/疑問点の整理 0.5(時間)
事後/課題制作 2.5(時間)
- 第 13 回 課題制作 (4)
プログラムコーディング
事前/疑問点の整理 0.5(時間)
事後/課題制作 2.5(時間)
- 第 14 回 課題制作 (5)
制作、疑問点の解決
事前/疑問点の整理 0.5(時間)
事後/課題制作 2.5(時間)
- 第 15 回 課題発表
課題の提出、発表、講評
事前/発表準備 2.5(時間)
事後/まとめ・整理 0.5(時間)

【アクティブラーニング】

- 1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：— /
5回：— / 6回：— /
7回：A / 8回：A /
9回：A / 10回：— /
11回：A / 12回：A /
13回：A / 14回：A /
15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・プログラム経験の有無は問いません。
- ・ファイル操作などWindowsパソコンに対する基本操作ができること。キーボードによる入力に慣れておくこと。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点 (30%)：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組み、当日に演習課題がある場合は提出すること。

②課題制作 (70%)：授業内容の理解と、制作意図の把握が、課題制作にしっかりと反映されているかどうかを評価し、各自の仕様に対する完成度を重視します。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・発表したものに対して授業全体で講評を行います。
- ・質問に対して個別にコメントします。

【出席確認の方法】

出席票,またはそれに準ずるものにより確認

【基本的な授業の進め方】

前回の振り返り (10分) 実習を伴う講義 (120分) 演習, 質疑応答 (50分)

10回以降

前回の振り返り (10分) 実習を伴う講義 (50分) 演習, 質疑応答 (120分)

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：△
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

授業内で紹介します。

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

オフィスアワー

ゲームシナリオ制作

GA268

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

井上 幸喜

〔科目の概要および目的〕

ゲーム特有のシナリオ技法を学ぶ、ゲームシナリオの考え方、テクニック基礎をゲーム制作の進行に沿って学習する。制作者の現場の知識、プロジェクト内での制作手段を理解する。ゲームシナリオの制作過程を理解し、ゲームシステムの中核となるストーリーを組み立てる。制作方法として起承転結をベースに箱書き、企画原案まで実際に制作することが目的。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・ゲームシナリオの基本の考え方を身につける。
- ・シナリオ構成要素が理解できる。
- ・シナリオプロットの制作（10000字程度）を作成体験できる。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
自己プレゼンテーション
事後/シナリオ構成を抜き出し（1時間）
- 第 2 回 シナリオの考え方
既存作品を用いてセリフで構成された物語を解く
事後/アニメの台本の抽出（2時間）
- 第 3 回 ストーリーとシーンの考察
飽きさせない構成とは？ハリウッドスタイルエンターテイメントの秘密
事後/映画よりシナリオ構成を抜き出す（3時間）
- 第 4 回 企画基礎（Ⅰ）
起承転結構成を学ぶ
事後/映画よりシナリオ構成を抜き出す（3時間）
- 第 5 回 企画基礎（Ⅱ）
「起」パートの理解
事後/プロローグ制作作業（3時間）
- 第 6 回 企画基礎（Ⅲ）
「承」パートの理解
事後/承パートレポート作業（2時間）
- 第 7 回 企画基礎（Ⅳ）
「転」「結」パートの理解
事後/転パートレポート作業（2時間）
- 第 8 回 プロローグ作成
「転」「結」パートの理解
事前/前回までの企画基礎の理解（2時間）
- 第 9 回 イベントとフラグ
実際のイベントを作成しMap誘導と設計を学ぶ
事前/参考RPGの試遊検証（1時間）
- 第 10 回 シナリオテクニック（Ⅰ）

ゲームシナリオに使われるテクニックの紹介
事前/ 参考映画の構成検証（3時間）

- 第 11 回 シナリオテクニック（Ⅱ）
ゲームシナリオに使われるテクニックの紹介
事前/ 参考映画の構成検証（3時間）
- 第 12 回 RPGシナリオ制作（Ⅰ）
シナリオ制作実習を行う チェックシート作成
事後/シートの完成（1時間）
- 第 13 回 RPGシナリオ制作（Ⅱ）
シナリオ制作実習を行う 作成前編 起、承パート
事後/シートの完成（1時間）
- 第 14 回 RPGシナリオ制作（Ⅲ）
シナリオ制作実習を行う 作成後編 承、転、結パート
事後/プロット、箱書きの完成（2時間）
- 第 15 回 読み合わせと講評
作成したシナリオの読み合わせレポート作成と講評
事後/読み合わせレポート制作提出 2時間

〔アクティブラーニング〕

- 1回：A / 2回：E /
3回：F / 4回：A /
5回：F / 6回：F /
7回：E / 8回：E /
9回：A / 10回：B /
11回：B / 12回：C /
13回：C / 14回：C /
15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・発表力と簡単なプレゼンテーション能力、日本語の基本的な理解と文章作成能力を有する事
- ・最終課題は10000字程度のシナリオ提出が必要
- ・基本的なPhotoshop、Illustratorのスキルが必要

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点（30%）：授業態度
②中間提出物（30%）：完成度、クオリティ
③最終時課題（40%）：完成度、クオリティ

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・各課題について翌週授業冒頭に全体評価、個人評価
- ・プロットは読み合わせを行い、学生間の感想を公開する。

〔出席確認の方法〕

点呼及び課題提出

〔基本的な授業の進め方〕

- 開始～15分TOPICS業界の情報や市場動向について
15分～出席点呼・課題提出
20分～150分授業
150分～180分 内容見返り、課題出題と質疑応答

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

授業内で随時紹介

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

コンピュータグラフィックスⅡ

GA/MD255

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6 【対面型】

演習/2コマ

吉岡 章夫

〔科目の概要および目的〕

Mayaを使用して、3DCGの基本を学ぶ。映像制作、ゲーム制作に使える3Dデータの作成方法を身に付ける。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

・モデリング、UVテクスチャ、シェーダー、ボーンアニメーション、ライティング、カメラ、レンダリング等のCGデザイナーとして必要な操作ができる。

・ボーンアニメーションを使ったショートムービーが作成できる。

・オブジェクト、ポリゴンUV、マテリアル、レンダラーといったCGの概念を理解する。

〔授業形態〕

6 【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
3Dの概念を理解する/静物のモデリング①
事前/ 業界調査3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 2 回 モデリングの基本
静物のモデリング②
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 3 回 親子関係

オブジェクトの親子関係を学ぶ

事前/ 制作3(時間)

事後/ 制作3(時間)

- 第 4 回 ボーンアニメーション
ボーンアニメーションの基本を学ぶ

事前/ 制作3(時間)

事後/ 制作3(時間)

- 第 5 回 レンダリングの基本
レンダリングの基本を学び、アニメーションを映像化する

事前/ 制作3(時間)

事後/ 制作3(時間)

- 第 6 回 キャラクターモデリング
ポリゴンオブジェクトの分割、マージ

事前/ 制作3(時間)

事後/ 制作3(時間)

- 第 7 回 リギング
ボーンのセットアップ、ウェイト調整

事前/ 制作3(時間)

事後/ 制作3(時間)

- 第 8 回 キャラクターアニメーション
IK(インバースキネマティクス)の概念を学び、アニメーションの設定をする

事前/ 制作3(時間)

事後/ 制作3(時間)

- 第 9 回 パスアニメーション
相対座標系を作り、パスに沿わせたアニメーション作成

事前/ 制作3(時間)

事後/ 制作3(時間)

- 第 10 回 シーンの作成
カメラの作成、シーンのマージ

事前/ 制作3(時間)

事後/ 制作3(時間)

- 第 11 回 UV展開・テクスチャ作成
UV座標に合わせてテクスチャを描く
MayaとPhotoshopの連携

事前/ 制作3(時間)

事後/ 制作3(時間)

- 第 12 回 課題制作(1)
字コンテ・絵コンテを用意して15秒～30秒のショートアニメーション作成

事前/ 制作3(時間)

事後/ 制作3(時間)

- 第 13 回 課題制作(2)
字コンテ・絵コンテを用意して15秒～30秒のショートアニメーション作成

事前/ 制作3(時間)

事後/ 制作3(時間)

- 第 14 回 課題制作(3)
字コンテ・絵コンテを用意して15秒～30秒のショートアニメーション作成

事前/ 制作3(時間)

事後/ 制作3(時間)

第 15 回 プレゼン・講評

制作した作品を全員で講評する

事前/ 制作3(時間)

事後/ フィードバック確認3(時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：E / 2回：E /

3回：E / 4回：E /

5回：E / 6回：E /

7回：E / 8回：E /

9回：E / 10回：E /

11回：E / 12回：E /

13回：E / 14回：E /

15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

・「コンピュータグラフィックスⅠ」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・Photoshopが使えること

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点(最大30点)：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

②中間課題1(最大20点)：表現力・完成度を評価する。

③中間課題2(最大20点)：表現力・完成度を評価する。

④最終課題(最大20点)：表現力・完成度を評価する。

⑤プレゼンテーション(最大10点)：課題の制作意図をしっかりと伝えられているかを評価する。

平常点が6割に満たない場合は課題の採点対象外とする。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・提出後の授業で全体にコメントします

〔出席確認の方法〕

授業開始時に点呼

〔基本的な授業の進め方〕

20分：該当回の授業の内容の説明

150分：実技

10分：クロージング解説

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：—

5. コミュニケーション力：△

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

〔教科書〕

参考ウェブサイトを授業内で紹介

〔参考文献〕

参考ウェブサイトを授業内で紹介

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

インタラクティブデザイン

GA/MD257

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6 【対面型】

演習/2コマ

増田 宗嶺

〔科目の概要および目的〕

本科目ではUnityを用い、ユーザーによる操作とその結果の関係（インタラクティブ）におけるデザインを学ぶ。ゲームコンテンツ制作における基本的な考え方とプログラムの構造を理解し、インタラクティブなコンテンツを作成する。自分の描いた絵が自分の操作で動くようになる。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・プランナーとして必要な発想、企画が出来る
- ・デザイナーとして必要な精度の高い描画力があり、レイアウト作成が出来る
- ・開発者として必要な問題解決が出来る
- ・グループ制作を潤滑に進めるコミュニケーションが出来る

〔授業形態〕

6 【対面型】

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

ゲーム業界の動向紹介、授業の進め方の説明、Unityの基本操作を説明する

事後：復習（1h）

第 2 回 ボタンアクション（1）

ボタンを押すと、アニメーションが再生されるコンテンツの作成

事後：復習（1h）

第 3 回 ボタンアクション（2）

ボタンを押すと、物語が進んでいくコンテンツの作成

事後：復習（1h）

第 4 回 ボタンアクション（3）

ボタンを押すと、画面が遷移するコンテンツの作成

事後：復習（1h）

第 5 回 中間課題制作（1）

分岐のあるコンテンツの制作

事前：企画案の作成（1h）

事後：制作、企画案の再考（2h）

第 6 回 中間課題制作（2）

分岐のあるコンテンツの制作

事後：制作（2h）

第 7 回 中間課題制作（3）

- 分岐のあるコンテンツの制作
事後：制作（2h）
- 第 8 回 中間作品発表会
制作した作品を全員で講評する
事前：プレゼンテーションの準備（1h）
- 第 9 回 グループ制作（1）
新しいサンプルプログラム・復習問題を行う
事後：復習（2h）
- 第 10 回 グループ制作（2）
グループに分かれ、コンテンツの企画、分担、スケジュールをたて制作を行う
事前：企画案の作成（1h）
事後：制作、企画案の再考（2h）
- 第 11 回 グループ制作（3）
グループに分かれ、コンテンツの企画、分担、スケジュールをたて制作を行う
事後：制作（3h）
- 第 12 回 グループ制作（4）
グループに分かれ、コンテンツの企画、分担、スケジュールをたて制作を行う
事後：制作（3h）
- 第 13 回 グループ制作（5）
グループに分かれ、コンテンツの企画、分担、スケジュールをたて制作を行う
事後：制作（3h）
- 第 14 回 グループ制作（6）
グループに分かれ、コンテンツの企画、分担、スケジュールをたて制作を行う
事後：制作（3h）
- 第 15 回 講評会
制作した作品を全員で講評する
事前：プレゼンテーションの準備（1h）

【アクティブラーニング】

- 1回：E / 2回：— /
3回：— / 4回：— /
5回：C,E / 6回：C,E /
7回：C,E / 8回：C /
9回：— / 10回：B,E /
11回：B,E / 12回：B,E /
13回：B,E / 14回：B,E /
15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

「コンピュータグラフィックスⅠ」

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

Adobe Photoshop、Illustratorを使って素材の作成が可能な事。
AfterEffects等で動画作成が出来ることとおなじ。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点(授業に積極的に取り組む態度を評価：最大30点)
②中間課題（ボタンアクションの理解具合と制作物の完成度を評価：最大30点）
③グループ制作(制作物の完成度を評価：最大30点)、

- ④プレゼン（プレゼン資料、仕方を評価：最大10点）
平常点が6割に満たない場合は課題の採点対象外とする
【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】
提出後の授業で全体にコメントします。

【出席確認の方法】

授業内点呼、または講義内提出物

【基本的な授業の進め方】

- 1コマ目
10分：業界トピックの紹介
5分：出席点呼
10分：先週の振り返り、本日の講義内容の説明
65分：作業の説明
実作業

2コマ目

- 70分：作業の説明
実作業
10分：進捗ファイル提出
10分：まとめ

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
 2. 表現力：◎
 3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
 4. 課題発見力・課題解決力：△
 5. コミュニケーション力：○
 6. 専門的知識・技能の活用力：◎
- 【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

適宜授業内で紹介する

【参考文献】

適宜授業内で紹介する

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

絵画実習

旧 イラストレーションⅡ

IL259

東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)
1年生 2年生 3年生 4年生
2単位 後期
6 【対面型】
演習/2コマ

西岡 悠妃

【科目の概要および目的】

様々な絵画表現に触れ、イラストレーション制作における表現の幅を増やす。

普段とは違う技法や画材を手で実際に触って体験することで、イラストレーションという2次元の世界に実感を持って挑める様になり、その後の表現に深みが増す。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・画材によって違う技法や表情に触れることで、デジタル制作での表現の幅も増やすことが出来る
- ・手描き画材の特性の理解が進む。
- ・自分らしい描写や表現への手がかりが得られる。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業全体のオリエンテーションと課題説明
事後/制作(1時間)
- 第 2 回 制作 [手で絵を描く] アクリルガッシュ
事前/制作(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第 3 回 制作 [墨で遊ぶ] 墨、マーブリング
事前/制作(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第 4 回 制作 [紙の種類に触れる] 紙店見学(状況により講義に変更になる場合がある)
事前/制作(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第 5 回 制作 [ガッシュのマチエル表現研究]
事前/制作(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第 6 回 制作 [グリザイユでモノクロームの静物を描く]
事前/制作(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第 7 回 制作 [グリザイユでモノクロームの静物を描く] ②
事前/制作(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第 8 回 制作 [グリザイユでモノクロームの静物を描く] ③
事前/制作(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第 9 回 オンライン講義 [様々な絵画表現の参考資料]
事前/制作(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第 10 回 制作 [コラージュ]
事前/材料を集めてくる(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第 11 回 制作 [コラージュ] ②
事前/制作(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第 12 回 制作 [コラージュ] ③
事前/制作(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第 13 回 制作 [コラージュ] ④
事前/制作(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第 14 回 制作 [コラージュ] ⑤

事前/制作(1時間)

事後/仕上げ(1時間)

第 15 回 1年の授業総括と作品写真撮影/コラージュの全体講評

事前/制作(1時間)

事後/振り返り(1時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：E / 2回：E /

3回：E / 4回：E /

5回：E / 6回：E /

7回：E / 8回：E /

9回：E / 10回：E /

11回：E / 12回：E /

13回：E / 14回：E /

15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・画材代1,000円程集めます。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点(30%)：授業出席態度などを評価する。

②提出課題(70%)：表現力・完成度を評価する。課題それぞれに点数を振り分けるので、提出漏れに注意。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・手描き・デジタルともに、実技に対し個別にコメントします。

〔出席確認の方法〕

点呼とteamsによる出席確認

〔基本的な授業の進め方〕

- ・授業説明20～30分
- ・制作をしながら個別に実技指導

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法

版画表現

旧 プリンティングワーク

IL260

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

四宮 義幸、清水 友乃

【科目の概要および目的】

印刷技術の発達で簡単に複数生産、作刷ができるようになった現代であるが、作家の版画作品に接し、自ら版画を制作することで、直接描くのではない間接的な版表現の魅力をさぐる。印刷のそれぞれの版式の原理を学び、凸版、凹版の版画制作実習に重点を置き、技法を習得する。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

・版画を制作することで版式の原理を深く理解することができる。

・技法の習得を通して各自の表現の幅を広げることができる。

・各版式の作家作品を実際に見て、その表現の違いを知ることができる。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

- 第 1 回 印刷と版画について
授業の概要と、印刷と版画技法、及び紙について
事後/技法についての配布資料を読む (1H)
- 第 2 回 校外研修
印刷博物館見学
事後/レポート作成 (3H)
- 第 3 回 凹版印刷の実習 (1)
銅版画について
事前/作品の原案を構想 (3H)
- 第 4 回 凹版印刷の実習 (2)
腐蝕法を使って銅版を作る
事前/原画を作成 (3H)
- 第 5 回 凹版印刷の実習 (3)
銅版プレス機で刷る
事前/描版をすすめる (2H)
- 第 6 回 凹版印刷の実習 (4)
作品を完成させる
事後/作品を乾燥させ仕上げる (2H)
- 第 7 回 凸版印刷の実習 (1)
木版画について
事前/作品の原案を構想 (3H)
- 第 8 回 凸版印刷の実習 (2)

版分解と彫り

事前/原画を作成 (3H)

第 9 回 凸版印刷の実習 (3)

彫りの実習

事後/版を彫りすすめる (2H)

第 10 回 凸版印刷の実習 (4)

彫りから摺りへ

事後/版を彫りすすめる (2H)

第 11 回 凸版印刷の実習 (5)

摺りの実習

事後/試刷りを校正する (1H)

第 12 回 凸版印刷の実習 (6)

作品を完成させる

事後/乾燥と仕上げ (2H)

第 13 回 自由制作 (1)

木版画、銅版画を完成させる

事後/乾燥と仕上げ (2H)

第 14 回 自由制作 (2)

木版画、銅版画を完成させる

事後/乾燥と仕上げ (2H)

第 15 回 合評

作品の発表と合評

事前/発表の準備 (1H)

【アクティブラーニング】

1回：— / 2回：E /

3回：E,C / 4回：E,C /

5回：E,C / 6回：E,C /

7回：E,C / 8回：E,C /

9回：E,C / 10回：E,C /

11回：E,C / 12回：E,C /

13回：E,C / 14回：E,C /

15回：C,D

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・学校の設備を使い、特別な準備をして行う授業なので欠席しないように。

・教材費（銅版、木版、インク、絵の具、溶剤等）、及び第2回の校外研修の施設入館料などに3,000円～4,000円程必要

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点 (30%)：授業への取り組み態度を評価する

②課題 (70%)：技法とテーマを理解しているかと作品の表現力、完成度を評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・制作途中のコメント,及び完成後に合評します。

【出席確認の方法】

対面による確認

【基本的な授業の進め方】

参考作品などを見ながらの講義の後、各自の作品制作のプラン作り、実践。制作課程での適時の相談、アドバイスを経て完成させる。完成後、合評でのプレゼンテーションと講評など。

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

授業内で資料を配布する

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

時間：出講日の授業前後

場所：イラストレーション研究室（812）または501教室
〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

イラストレーション概論Ⅰ

IL219

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

北見 隆

〔科目の概要および目的〕

・授業の概要：現在私達が目に触れている美術やデザイン等の視覚表現は、全て先人達の試行錯誤の結果に基いている。この授業では東西の歴史上の美術やデザイン、イラストレーション作品を考察、認識するだけで無く、学生たちに実際に追体験（作画）してもらうことになる。自らの手を動かす事によって、その方法論やスタイルに対し、より深く理解することが可能となるであろう。概論Ⅰでは原始美術から20世紀初頭までの美術が扱われ、それ以降は概論Ⅱの授業へと続いていく。トレーニング的な小課題が5つ出題され、そのつど講評も行われる。なお授業最終日には簡単なペーパーテストが行われる。

・科目の目的：芸術における先人達の創意工夫や発見を学ぶ事で、自己の表現方法を模索する。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

・既存の美術作品に対する認識を深めることにより、日常生活に於いても、新たな世界の広がりを得ることができる。
・限られた条件の下で作品を制作することにより、自己の表現方法や、未発見の可能性を認識する事ができる。

・他の学生作品との比較により、自己の感性や創作意識が確認できる。

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

第1回 授業概要と原始美術

授業概要説明、原始美術について。

古代エジプト美術解説と、エジプトスタイルでイラストレーションを描いてみる。

事前学習（授業概要の認識/1時間）

事後学習（描写練習/1時間）

第2回 イラストレーション作品講評

古代エジプトスタイルのイラストレーション作品講評

事前学習（授業概要の認識/1時間）

事後学習（描写練習/1時間）

第3回 ヨーロッパ中世美術（1）

文字と絵の歴史的関係について解説。

中世の写本を例に装飾文字を描いてみる（1）

事前学習（授業概要の認識/1時間）

事後学習（描写練習/1時間）

第4回 ヨーロッパ中世美術（2）

中世の写本を例に装飾文字を描いてみる（2）作品講評

事前学習（授業概要の認識/1時間）

事後学習（描写練習/1時間）

第5回 紙の歴史と印刷の歴史

東西における紙の歴史と印刷機の発明について。

事前学習（授業概要の認識/1時間）

事後学習（描写練習/1時間）

第6回 日本における印刷の歴史と浮世絵

印刷と版画、浮世絵について。代表的な浮世絵作家と作品の紹介。

事前学習（授業概要の認識/1時間）

事後学習（描写練習/1時間）

第7回 現代の浮世絵を描いてみる（1）

知人もしくは自分をモデルに、現代の浮世絵を描く（1）

下書き作成後、講師チェック。手書き、デジタル自由。

事前学習（授業概要の認識/1時間）

事後学習（描写練習/1時間）

第8回 現代の浮世絵を描いてみる（2）

作画作業。中間チェックは随時受け付ける。

事前学習（授業概要の認識/1時間）

事後学習（描写練習/1時間）

第9回 現代の浮世絵を描いてみる（3）講評会

講師による作品講評。

事前学習（授業概要の認識/1時間）

事後学習（描写練習/1時間）

第10回 ジャポニズムとアールヌーボーと印象派美術

19世紀末ヨーロッパにおける、日本美術の影響と装飾様式について。

- 事前学習（授業概要の認識/1時間）
事後学習（描写練習/1時間）
- 第 11 回 挿絵の黄金時代と児童図書
19世紀末のイギリスにおける、挿絵の黄金時代について。関連画家の紹介。
モノクロで装飾的なイラストレーションを描いてみる。
- 事前学習（授業概要の認識/1時間）
事後学習（描写練習/1時間）
- 第 12 回 装飾的なイラストレーション講評
前回出題した装飾的なイラストレーション作品の課題講評。
- 事前学習（授業概要の認識/1時間）
事後学習（描写練習/1時間）
- 第 13 回 写真機の発明と絵画の関係
写真の歴史について。写真と絵画の関係解説。
写真を使ったイラストレーション作品制作。
- 事前学習（授業概要の認識/1時間）
事後学習（描写練習/1時間）
- 第 14 回 写真を使ったイラストレーション講評
前回出題した写真を使ったイラストレーションの課題講評。
- 事前学習（授業概要の認識/1時間）
事後学習（描写練習/1時間）
- 第 15 回 授業の総括と小テスト
この授業のまとめと小テスト（アイデアスケッチと授業感想文）
- 事前学習（授業概要の認識/1時間）
事後学習（描写練習/1時間）

【アクティブラーニング】

- 1回：D / 2回：C /
3回：E / 4回：C /
5回：E / 6回：E /
7回：E / 8回：E /
9回：C / 10回：E /
11回：E / 12回：C /
13回：E / 14回：C /
15回：F

【事前に修得しておく必要のある科目】

発想表現を履修している事が望ましい

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・特に予備知識や技術は必要無いが、手書きの場合はアクリル絵具等の画材、およびイラストボード（A3サイズ）の自己負担が必要となる。PCによる課題提出も可とする。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

デジタルカメラ（カメラ付き携帯電話可）また作品をPCで作画する学生は、任意の作画ソフト。

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①作品評価（50%）：表現力・完成度を評価する。
②平常点（25%）：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。
③筆記試験（25%）：授業の内容を理解してしているか評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・作画課題が2点出題され、その講評会も行われる。その際、学生による解説も求められる。

【出席確認の方法】

チャットと音声による確認。

【基本的な授業の進め方】

講師による講義（40分）、課題制作（40分）出席確認（10分）。作品講評の場合は、講義（20分）、講評（60分）出席確認（10分）程度の配分を予定。

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、アクティブラーニング

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

イラストレーション I

旧 イラストレーション

IL/MM261

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6 【対面型】

演習/2コマ

安田 隆浩

【科目の概要および目的】

この授業はアクリルガッシュを用いての手書きによる表現で進める。始めに表現の演習、次に『絵本制作』（今年度は「不思議の国のアリス」）による実践へと続く。

イラストレーションの表現は多彩で描く人の数だけバリエーションがある。どのような表現方法があるのかを授業で学習、体験し自分の絵を考えるきっかけにする。

イラストレーションとは他者とコミュニケーションを図るための一伝達手段である。「絵本」制作をとうして第三者への見せ方を考察する。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・アクリル画の基本技術を身につける
- ・イラストレーションによる表現力を身につける
- ・条件の制限の中でいかにクリエイティブになれるかを学ぶ

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス／課題 1 表現演習 (1)
授業説明。課題 1 説明。スケッチ。
事前／「不思議の国のアリス」を読む (2 時間)
事後／イラストレーションのさまざまな表現を見ておく。(1 時間)
- 第 2 回 表現演習 (2)
モチーフや写真などを題材にイラストレーションにおける表現のバリエーションを考え試みる。スケッチを基に制作 (1)
使用画材 (以後毎回用意する。) / アクリル絵の具 18 色以上。彩色用具一式。
事前／「不思議の国のアリス」を読む (2 時間)
事後／イラストレーションのさまざまな表現を見ておく。(1 時間)
- 第 3 回 表現演習 (3)
モチーフや写真などを題材にイラストレーションにおける表現のバリエーションを考え試みる。スケッチを基に制作。(2)
事前／課題制作 (1 時間)
事後／「不思議の国のアリス」のレポートを書く。(1 時間)
- 第 4 回 表現演習 (4) / 絵本演習
モチーフや写真などを題材にイラストレーションにおける表現のバリエーションを考え試みる。スケッチ。スケッチを基に制作 (3)
「不思議の国のアリス」DVD鑑賞。
事前／制作「不思議の国のアリス」のレポートを書く。(1 時間) / 提出
事後／課題制作 (1 時間)
- 第 5 回 表現演習 (5)
制作及び講評。「不思議の国のアリス」のレポート提出
事前／課題制作 (1 時間)
事後／復習、改めてイラストレーションのさまざまな表現を見る。(1 時間)
- 第 6 回 絵本 (1)
『不思議の国のアリス』をテキストに絵本を制作する。
既成の『不思議の国のアリス』に捉われずに登場人物を考える。物語の各場面の背景、世界観を考える。
事前／課題制作 (1 時間)
事後／登場人物を含む物語の世界観を考える。(1 時間)
- 第 7 回 絵本 (2)
『不思議の国のアリス』をテキストに絵本を制作する。
各自まとめたレポートを基に画面構成を考えて行く。文章と絵のバランスを考える。
事前／登場人物を含む物語の世界観を考える。(1 時間)
事後／画面構成を考える。(1 時間)
- 第 8 回 絵本 (3)
『不思議の国のアリス』をテキストに絵本を制作する。
製本作業。(進行具合により移動する場合もある。) 下絵を描く。
事前／課題制作 (1 時間)
事後／課題制作 (1 時間)
- 第 9 回 絵本 (4)
『不思議の国のアリス』をテキストに絵本を制作する。
下絵を描く。彩色。
事後／課題制作 (1 時間)
- 第 10 回 絵本 (5)
『不思議の国のアリス』をテキストに絵本を制作する。
イラスト制作。
事後／課題制作 (1 時間)
- 第 11 回 絵本 (6)
『不思議の国のアリス』をテキストに絵本を制作する。
イラスト制作。
事前／課題制作 (1 時間)
事後／課題制作 (1 時間)
- 第 12 回 絵本 (7)
『不思議の国のアリス』をテキストに絵本を制作する。
イラスト制作。
事前／課題制作 (1 時間)
事後／課題制作 (1 時間)
- 第 13 回 絵本 (8)
『不思議の国のアリス』をテキストに絵本を制作する。
イラスト制作。
事前／課題制作 (1 時間)
事後／課題制作 (1 時間)
- 第 14 回 絵本 (9)
『不思議の国のアリス』をテキストに絵本を制作する。
「不思議の国のアリス」の表紙・扉・奥付等を描く。
事前／課題制作 (1 時間)
事後／課題制作 (1 時間)
- 第 15 回 絵本 (10) 講評、及び発表
『不思議の国のアリス』をテキストに絵本を制作する。
仕上げ／講評会
事前/発表の予習 (1 時間)
事後/復習 (1 時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：E / 2回：E /
 3回：E / 4回：E /
 5回：C / 6回：E /
 7回：E / 8回：E /
 9回：E / 10回：E /
 11回：E / 12回：E /
 13回：E / 14回：E /
 15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・画材は各人が用意。アクリルガッシュ（筆／筆洗／ペーパーパレット／ティッシュ／40センチ以上の直定規・20センチ以上の三角定規／筆記用具、カッター、他。用紙費用を随時集める。

- ・定員28名（初回参加必須）
- ・事前に「不思議の国のアリス」を読んでおく。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①課題制作点（70%）：課題の表現力・独創性・完成度を評価する。

②平常点（30%）：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・各課題ごとに、個人ごとのアドバイス、または講評会を行う。

〔出席確認の方法〕

授業開始時に名前を呼んで確認する。

〔基本的な授業の進め方〕

- ・出席確認：5分
- ・授業説明：10分程度
- ・その日の作業：75分 ※随時、アドバイス、質疑応答、進行チェックをします。
- ・作業の片付け：10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 —：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

必要時に提示します。

〔オフィスアワー〕

授業終了後30分程、授業実施教室またはイラストレーション研究室(812)

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

科目の概要および目的、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方、オフィスアワー

視覚表現 I

旧 イラストレーション I

IL/MD269

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

たぶき 正博

〔科目の概要および目的〕

絵画の重要な表現技術の分野である、作図法、立体図法、透視図法（パース）を、製図用具を使い基礎から演習して行きます。後半これらを統合的に発展させ遠近感のある作品を仕上げて行きます。デッサンとは思考の違うこれらの技術を習得することにより描写力が向上し、人工物や背景をリアルに表現でき遠近感のある作品を描けるようになることが目標です。さらに、これらの技術を使いデザイン化、漫画化、デフォルメ、騙し絵など独創的なオリジナル表現に発展させることも目標です。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・正確な基本図形・楕円が描ける
- ・製図用具を使い複雑な立体を描ける
- ・図形やグリッドを使い模様やパターンを作れる
- ・パース（遠近法）を使いリアルな人工物が描ける
- ・パース（遠近法）を使い人物と背景が描ける

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第1回 授業概要と基本演習

授業内容を画像を使い説明 基本図形の演習を鉛筆を使いフリーハンドで行う
 事前/製図用具の準備（1時間）

第2回 作図の基礎1 演習

製図用具の使用法と技術を説明 三角定規とコンパスを使い作図の基礎演習
 事前/製図用具準備（1.5時間）
 事後/基本演習の復習（1.5時間）

第3回 作図の基礎2 演習

楕円の描き方を説明 楕円を描く演習
 グリッドを使い画像の拡大と変形演習
 事前/製図用具練習（1時間）
 事後/演習完成と復習（2時間）

第4回 立体図法1 演習

	立体図法の概要を講義 三面図、展開図、見取り図の演習 事前/参考書で予習 (1.5時間) 事後/演習完成と復習 (1.5時間)	課題制作作業 個別に指導 事前/制作進行 (2時間) 事後/制作進行 (3時間)
第 5 回	立体図法 2 演習 斜投影 (キャビネット) 図法の説明と演習 前回の講評 部屋を描く 事前/参考書で予習 (1.5時間) 事後/演習完成と復習 (1.5時間)	第 15 回 パース作品制作 4 と講評 課題制作作業、個別に指導 まとめと講評 感想発表 事前/制作進行 (2時間)
第 6 回	立体図法 3 演習 軸測投影 (アイソメトリック) 図法の説明と演習 前回の講評 学校を描く 1 事前/参考書で予習 (1時間) 事後/演習完成と復習 (2時間)	〔アクティブラーニング〕 1回：— / 2回：— / 3回：— / 4回：— / 5回：F / 6回：F / 7回：— / 8回：F / 9回：— / 10回：F / 11回：F / 12回：D / 13回：— / 14回：— / 15回：F
第 7 回	立体図法 4 演習 軸測投影 (アイソメトリック) 図法の説明と演習 学校を描く 2 事前/参考書で予習 (1時間) 事後/演習完成と復習 (2時間)	〔事前に修得しておく必要のある科目〕 なし
第 8 回	透視図法(パース)1 演習 透視図法について説明 一点透視図法の演習 前回の講評 公園の並木、標識、ベンチ、モニュメントを描く 事前/参考書で予習 (1時間) 事後/演習完成と復習 (2時間)	〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕 ・製図用具 (三角定規、コンパス、デバイダー、40～60cm 直線定規)、鉛筆 (3H～2B) を毎回持参のこと 〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕 —
第 9 回	透視図法(パース)2 演習 一点透視図法の演習、イメージ展開 人物、乗り物、階段を描く 事前/参考書で予習 (1時間) 事後/演習完成と復習 (2時間)	〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕 ①平常点 (20%)：授業への集中度と積極性を評価 ②演習課題点 (50%)：演習の習得度と完成度、努力を評価 ③課題作品点 (30%)：パースの正確さ、アイデア、完成度、熱意を総合評価
第 10 回	透視図法(パース)3 演習 二点透視図法の説明と演習 前回の講評 室内の椅子、テーブル、窓を描く 事前/参考書で予習 (1時間) 事後/演習完成と復習 (2時間)	〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕 ・当日又は翌週の授業で個別にコメントします ・最終課題は作品返却時にコメントします
第 11 回	透視図法(パース)4 演習 二点透視図法の説明と演習 街の交差点、ビルを描く 事前/参考書で予習 (1時間) 事後/演習完成と復習 (2時間)	〔出席確認の方法〕 授業開始時の点呼と演習課題の提出
第 12 回	パース作品制作 1 課題内容と制作手順の説明 前回の講評 アイデアスケッチを開始 事前/アイデア考案 (1時間) 事後/資料集めと下書き作業等 (2時間)	〔基本的な授業の進め方〕 演習内容の講義と説明 (40～60分) 前回演習課題の講評 (30分) 演習と指導(90～120分) 演習のまとめと次回の説明 (20分)
第 13 回	パース作品制作 2 課題制作作業 アイデアを確認し指導 事前/資料集めと下書き作業等 (1時間) 事後/転写作業等制作進行 (3時間)	〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕 1. 主体的行動力：△ 2. 表現力：○ 3. 社会貢献力・コラボレーション力：— 4. 課題発見力・課題解決力：△ 5. コミュニケーション力：— 6. 専門的知識・技能の活用力：◎ 〔◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない〕
第 14 回	パース作品制作 3	〔教科書〕 なし (プリント配布) 〔参考文献〕 「パースの描き方」K's Art著 グラフィック社 1,540円

【オフィスアワー】

時間：出講日の授業前後30分

場所：授業実施教室またはイラストレーション研究室（812）
 【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準
 【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方

デザイン概論Ⅱ

MD/MM221

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

中村 泰之

【科目の概要および目的】

デザインの技法について解説を行い、主にグラフィックデザイン・ウェブデザインなどの視覚情報としてのデザインを中心に実例を示しながら講義を行う。この講義を通じて視覚情報伝達におけるデザイン技法とはどのようなものであるかを理解し、各自の表現の多様性を育む。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・デザインのジャンルについて基礎的な分類を説明できる
- ・グラフィックデザインやウェブデザインなどの基礎的な技法を説明できる
- ・習得した知識を元にデザインを発想できる

【授業形態】

5 【同時双方向型】

【授業計画】

- 第 1 回 デザインのジャンル
 デザインのジャンルについてどのように分類されるのかを概説する
 事前学習（デザイン概論Ⅰの復習:2h）
 事後学習（ノートのまとめ:2.5h）
- 第 2 回 プロダクトデザイン
 プロダクトデザインについて歴史や技術、事例を概説する
 事前学習（リサーチ:2h）
 事後学習（ノートのまとめ:2.5h）
- 第 3 回 スペースデザイン
 スペースデザインについて歴史や技術、事例を概説する
 事前学習（リサーチ:2h）
 事後学習（ノートのまとめ:2.5h）
- 第 4 回 グラフィックデザイン1 歴史

グラフィックデザインの歴史について概説する

事前学習（リサーチ:2h）

事後学習（ノートのまとめ:2.5h）

- 第 5 回 グラフィックデザイン2 技術
 グラフィックデザインの技術について、主にレイアウト。タイポグラフィの観点から概説する
 事前学習（リサーチ:2h）

事後学習（ノートのまとめ:2.5h）

- 第 6 回 グラフィックデザイン3 事例
 グラフィックデザインの事例について、主にレイアウト。タイポグラフィの観点から概説する
 事前学習（リサーチ:2h）

事後学習（ノートのまとめ:2.5h）

- 第 7 回 特別講義
 デザインの現場で活躍するゲストスピーカーによる、デザインという仕事についての特別講義を行う（日程は前後する場合があります）
 事前学習（リサーチ:2h）

事後学習（ノートのまとめ:2.5h）

- 第 8 回 デザイン発想法
 デザイン発想法のワークショップを行う
 事後学習（ワークシートのまとめ:2.5h）

- 第 9 回 ウェブデザイン1 歴史
 ウェブデザインの歴史について、インターネット関連の歴史も含めて概説する
 事前学習（リサーチ:2h）

事後学習（ノートのまとめ:2.5h）

- 第 10 回 ウェブデザイン2 技術
 ウェブデザインの技術について、主にHTML,CSS等の基礎技法について概説する
 事前学習（リサーチ:2h）

事後学習（ノートのまとめ:2.5h）

- 第 11 回 ウェブデザイン3 事例
 ウェブデザインの事例について、歴史的な流れも含めて概説する
 事前学習（リサーチ:2h）

事後学習（ノートのまとめ:2.5h）

- 第 12 回 UI/UXデザイン1 歴史
 UI/UXデザインの歴史について概説する
 事前学習（リサーチ:2h）

事後学習（ノートのまとめ:2.5h）

- 第 13 回 UI/UXデザイン2 技術
 UI/UXデザインの技術について、主にペルソナ等の基礎技法について概説する
 事前学習（リサーチ:2h）

事後学習（ノートのまとめ:2.5h）

- 第 14 回 UI/UXデザイン3 事例
 UI/UXデザインの事例について、歴史的な流れも含めて概説する
 事前学習（リサーチ:2h）

事後学習（ノートのまとめ:2.5h）

- 第 15 回 まとめ

デザインの技法まとめと小テストを行う
事前学習（ノート全体のまとめ:5h）
事後学習（小テストの振り返り：1.5h）

【アクティブラーニング】

1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：— /
5回：— / 6回：— /
7回：— / 8回：— /
9回：— / 10回：— /
11回：— / 12回：— /
13回：— / 14回：— /
15回：—

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

「デザイン概論Ⅰ」を履修済みであることが望ましい

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

Teamsで受講できれば問題ない

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①授業毎のリアクションシートへの記入（30%）：毎回授業の理解度を評価する

②デザイン発想法ワークショップの成果（10%）：ワークショップの取り組みと成果を評価する

③小テスト（60%）：授業で説明のあったデザインに対する理解度を評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

毎回記述するリアクションシートへの回答を授業内で行う

【出席確認の方法】

期限を設定したリアクションシートの提出

【基本的な授業の進め方】

1.10～15分程度：前回のフィードバック

2.70～75分程度：講義

3.5～10分程度：リアクションシート記入

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：—

2. 表現力：△

3. 社会貢献力・コラボレーション力：△

4. 課題発見力・課題解決力：—

5. コミュニケーション力：—

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

『デザイン概論』飯岡正麻 白石和也 / 編著 ダヴィッド社

その他授業で紹介する

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

モーショングラフィックスⅡ

MD270

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6 【対面型】

演習/2コマ

金子 修

【科目の概要および目的】

Adobe PremiereとAfterEffectsをつかった動画制作の手法を学ぶ。YouTubeで必要とされるコンピューターグラフィックスの基本ツールの使い方とともに、ここでは映像やデザインに特化した制作技法を習得する。VFXの概念や初歩的なスキルを学習する。また制作現場で仕事を依頼された時に対応できるように、発注～納品式の実践的な作業工程を学ぶ。※授業科目はモーショングラフィックスではあるが、実写編集作業やVFXなど幅広く学習する

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

・企画、演出、撮影、編集等の映像制作に必要なスキルを身につける。

・VFXの概念とエフェクトや合成などのスキルを身につける

・YouTubeを想定した動画コンテンツを一人で行えるようになる

【授業形態】

6 【対面型】

【授業計画】

第 1 回 PremierePro① 基本操作

配布素材を使ってPremiere Proの基本的な編集方法を学習

ナレーション、効果音とBGMを用いたオーディオ編集

事前/シラバス確認 (1時間)

事後/課題を作成 (1時間)

第 2 回 PremierePro② エフェクトの使い方

色調整や各種エフェクトを学習

事前/本日の内容を予習 (1時間)

事後/課題を作成 (1時間)

第 3 回 PremierePro③ 音の同期とマルチカメラ

AfterEffectsとの連携、音の同期、マルチカメラ編集について学習

課題制作「スライドショームービー」

事前/本日の内容を予習 (1時間)

事後/課題を作成 (1時間)

第 4 回 PremierePro④ 演出

●課題発表「スライドショームービー」

台本作成と撮影の仕方、自己紹介ムービーの作り方を学習

事前/発表準備 (1時間)

事後/課題を作成 (1時間)

第 5 回	PremierePro⑤ YouTubeの撮影や編集テクニック 課題制作「自己紹介ムービー」撮影・編集 事前/編集作業 (1時間) 事後/課題を作成 (1時間)
第 6 回	PremierePro⑥ YouTubeの撮影や編集テクニック ●課題発表「自己紹介ムービー」 事前/発表の準備 (1時間) 事後/本日の復習 (1時間)
第 7 回	AfterEffects① 合成の基本 マスクや描画モードを使った合成 分身ムービーを撮影&編集 事前/本日の内容を予習 (1時間) 事後/課題を作成 (1時間)
第 8 回	AfterEffects② 合成の応用 トリックムービーの作り方について学習 課題制作「トリックムービー」 事前/本日の内容を予習 (1時間) 事後/課題を作成 (1時間)
第 9 回	AfterEffects③ クロマキー合成とトラッキングの基礎 ●課題発表「トリックムービー」 グリーンバックを使った合成を学習 カメラトラッカーを使ったトラッキングを学習 事前/発表準備 (1時間) 事後/課題を作成 (1時間)
第 10 回	AfterEffects④ 高度なトラッキング MochaAEを使った高度な合成を学習。道路標識アニメーション。 事前/本日の内容を予習 (1時間) 事後/課題を作成 (1時間)
第 11 回	AfterEffects⑤ 高度なトラッキング MochaAEを使った高度な合成を学習。グリーンスクリーン合成と連携。 最終課題の説明 事前/本日の内容を予習 (1時間) 事後/課題を作成 (1時間)
第 12 回	最終課題制作① 企画書提出～最終課題制作 事前/課題を準備 (1時間) 事後/課題を作成 (1時間)
第 13 回	最終課題制作② 最終課題制作 事前/課題を準備 (1時間) 事後/課題を作成 (1時間)
第 14 回	最終課題制作③ 最終課題制作 事前/課題を準備 (1時間) 事後/課題を作成 (1時間)
第 15 回	最終課題発表 ●最終課題発表および考察 事前/発表の準備 (1時間) 事後/本日の復習 (1時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：C /
5回：— / 6回：C /
7回：— / 8回：— /
9回：C / 10回：— /
11回：— / 12回：— /
13回：— / 14回：— /
15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

・「モーショングラフィックスI」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・AfterEffectsの基礎知識を習得している。
・動画撮影の機材が必要（動画撮影機能付きのスマホ、デジカメラ、一眼レフなどでよい）
安いものでよいので三脚があるとよい
・受講する学生の人数や授業の進行状況によって内容が適宜変わる

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

映像制作に最低限必要とされるスペックのPCもしくはMac、AdobeCC（AfterEffects,Photoshop,Illustrator）、Googleドキュメント、スマートフォンなどの撮影機材
※授業内容などによりオンライン授業を並行して行う回もありうる

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点（最大10点）：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

②通常課題（最大60点）：理解度・完成度を評価する。

③最終課題（最大30点）：理解度・完成度を評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・課題発表に対してコメントします。

〔出席確認の方法〕

Teams内のチャット

〔基本的な授業の進め方〕

①授業の説明と前回のおさらい（10分）

②基礎技術：その日の課題をPC画面を見ながら一緒に作業→練習（40分）

③実践ワーク：練習課題を学生が各自作業→解説（40分）

※②～③の繰り返し

④授業の振り返りと次回課題の説明（10分）

授業後、課題をTeamsに提出 ※毎回の授業で提出課題あり
2～3週に一度、学生が課題の発表を行う

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

参考ウェブサイトを授業内で紹介

〔オフィスアワー〕

授業時間前後もしくはTeamsのチャットにて質問

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、基本的な授業の進め方、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

メディアリテラシー

MD225

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 夏期集中

5 【同時双方向型】

講義・集中/1日5コマ

北村 伊知郎

〔科目の概要および目的〕

紙媒体からデジタルメディアまで、幅広くメディアの歴史や特徴を学び、情報を適切に読み解く力を養う。メディアを自分の道具として使いこなすための知識と、制作における基本的な考え方を身につける。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・メディアを通じて得られる情報を批判的に受け取ることができる。
- ・メディアの特性を理解し、メッセージを発信する上での媒体を使い分けすることができる。
- ・コミュニケーション、メディア、情報などの概念を正しく理解する。

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
講義全体の流れの説明、メディアの概説
事後/内容の復習（30分）
- 第 2 回 メディアとリテラシー
メディア、及びリテラシーについての解説
メディアに関する小レポート作成
事後/内容の復習（30分）
- 第 3 回 言葉
言葉の成り立ち、噂やデマのメカニズムについての解説
事後/内容の復習（30分）
- 第 4 回 ゲスト講義、グループワーク

ゲスト講師による講義を行った後、グループに分かれてワークを行う

事後/内容の復習（30分）

- 第 5 回 絵、文字
文字に関するメディア、書体についての解説
事後/内容の復習（30分）
- 第 6 回 視ること視られること
眼とカメラの構造、「視る」ことについての解説
メディアを通して「視られる」ことについての解説
事後/内容の復習（30分）
- 第 7 回 写真
写真表現（セルフポートレート）の作品解説
課題内容発表
事後/作品の制作（60分）
- 第 8 回 課題制作
課題制作を行う
事後/作品の制作（60分）
- 第 9 回 講評
課題に対する成果物の講評
事前/発表の準備（60分）
- 第 10 回 紙
紙の性質、印刷、郵便制度についての解説
事後/内容の復習（30分）
- 第 11 回 通信
デジタルとアナログの違いに関するワーク
狼煙、手旗信号に関する解説
事後/内容の復習（30分）
- 第 12 回 知的財産
特許や著作権など、知的財産に関する解説
事後/内容の復習（30分）
- 第 13 回 情報、プロパガンダ
情報という言葉の成り立ちについての解説
戦争や宗教におけるプロパガンダの歴史を説明
事後/内容の復習（30分）
- 第 14 回 ドキュメンタリー
ドキュメンタリー映像の鑑賞
事後/レポート作成（60分）
- 第 15 回 まとめ
本講義の振り返り、総括
事後/内容の復習（30分）

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：F /

3回：— / 4回：A / B

5回：— / 6回：— /

7回：— / 8回：E /

9回：C / 10回：— /

11回：F / 12回：— /

13回：— / 14回：D /

15回：—

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

授業中にワークや小レポートを課すことがあるため、毎回の出席が望まれる。日常的に目にする情報がどのような意

図を持って、どのような目的で運ばれてくるのか、積極的に興味を持って過ごすこと。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

Teamsデスクトップアプリ（PC）での受講を推奨
（授業中にカメラ、マイクを使用することがある）

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点(30%)：受講に際しての積極的な態度を評価する
- ②レポート(20%)：授業への理解力と言語化する力を評価する
- ③課題点(50%)：プレゼンの内容と成果物の完成度を評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・授業中にコメントする
- ・専門家等を招いて講評を行う

【出席確認の方法】

コメント投稿や授業終了後の出席提出

【基本的な授業の進め方】

- ・授業説明:10分
- ・講義:30分 →ワーク:10分 →解説:30分
- ・授業の振り返り、出席:10分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：一
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：△

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
一：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

授業中に紹介する

【オフィスアワー】

開講期間中の授業終了後

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、基本的な授業の進め方

映像・演出Ⅱ

MD264

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (2)

1年生 2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

真島 ヒロシ

【科目の概要および目的】

授業概要：「映像・演出Ⅰ」で学んだ知識をもとに、実際に長編映像作品（ショートフィルム・ミュージックビデオ等）の企画から演出、撮影、編集までを一貫して行う。

科目の目的：各グループ内で役割分担を決め、ひとつのチームとして作品を完成させる。映像・演出Ⅰよりさらに完成度の高い作品づくりを体験する事で、より進んだ現場作業への理解・関与を目的とする。知識・技術に対する個々のスキルアップと、チームとしての作品のクオリティ向上を目指す。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・長編作品（ショートフィルム・ミュージックビデオ等）の企画／撮影／編集の全ての行程を通して、より完成度の高い映像表現力を身につける。
- ・様々な撮影手法を実践し、より高度な撮影技術を習得する。
- ・CG表現や特殊効果を含めた、より高度な編集技術が習得できる。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第1回 オリエンテーション ～ 作品鑑賞

演習の全体像と制作スケジュールの解説、および様々なジャンルの映像作品の鑑賞を通じて様々な演出技法を学ぶ。

事後/演出技法の復習(時間)3.0H

第2回 実技（カメラ機材操作実習）（ノンリニア編集操作実習）

映像・演出Ⅰからより進んだカメラ機材の操作と編集のシュミレーション。

事後/撮影機材・編集の復習(時間)3.0H

第3回 企画

映像作品の企画・コンテ制作。

事後/企画コンテの完成(時間)3.0H

第4回 演出プラン決定／撮影準備

企画・演出プランの決定と、実制作にとりかかるための準備や撮影スケジュール作成。

事前/決定した企画の推敲(時間)1.5H

事後/演出コンテの完成(時間)1.5H

第5回 撮影準備

企画・演出プランの決定と、実制作にとりかかるための準備や撮影スケジュール作成。

事前/撮影プランの再確認(時間)1.5H

事後/撮影素材整理・編集準備(時間)1.5H

第6回 撮影（1）

	各グループ単位でのテーマに沿った撮影。撮影していないグループは編集ソフト操作の復習等。 事前/撮影プランの再確認(時間)1.5H 事後/撮影素材整理・編集準備(時間)1.5H	13回：B / 14回：B / 15回：C
第 7 回	撮影 (2) 各グループ単位でのテーマに沿った撮影。撮影していないグループは編集ソフト操作の復習等。 事前/撮影プランの再確認(時間)1.5H 事後/撮影素材整理・編集準備(時間)1.5H	【事前に修得しておく必要のある科目】 なし 【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】 ・映像制作の基礎知識と技術の習得が目標なので、特になし 【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】 —
第 8 回	撮影 (3) 各グループ単位でのテーマに沿った撮影。撮影していないグループは編集ソフト操作の復習等。 事前/撮影プランの再確認(時間)1.5H 事後/撮影素材整理・編集準備(時間)1.5H	【成績評価方法・評価割合・評価基準】 ①平常点 (30%)：授業態度・共同制作での作品づくりへの積極性を評価する ②企画力 (20%)：優れた企画ができるか・プレゼンテーション能力があるかを評価する ③課題作品 (50%)：完成した作品を総合的に採点し、その中で個人の貢献度に応じて評価する
第 9 回	撮影 (4) 各グループ単位でのテーマに沿った撮影。撮影していないグループは編集ソフト操作の復習等。 事前/撮影プランの再確認(時間)1.5H 事後/撮影素材整理・編集準備(時間)1.5H	【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】 ・制作チームごとに個別に指導する 【出席確認の方法】 対面授業のため直接点呼
第 10 回	編集 (1) 撮影した素材をもとに編集作業。編集していないグループは再撮影等。 事前/撮影素材整理・編集準備(時間)1.5H 事後/次週のための編集準備(時間)1.5H	【基本的な授業の進め方】 ・授業説明：10分・その日の講義or実践ワーク：140分・質疑応答：30分
第 11 回	編集 (2) 撮影した素材をもとに編集作業。編集していないグループは再撮影等。 事前/撮影素材整理・編集準備(時間)1.5H 事後/次週のための編集準備(時間)1.5H	【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】 1. 主体的行動力：○ 2. 表現力：◎ 3. 社会貢献力・コラボレーション力：— 4. 課題発見力・課題解決力：△ 5. コミュニケーション力：◎ 6. 専門的知識・技能の活用力：◎
第 12 回	編集 (3) 撮影した素材をもとに編集作業。編集していないグループは再撮影等。 事前/撮影素材整理・編集準備(時間)1.5H 事後/次週のための編集準備(時間)1.5H	【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない】
第 13 回	編集 (4) 撮影した素材をもとに編集作業。編集していないグループは再撮影等。 事前/撮影素材整理・編集準備(時間)1.5H 事後/次週のための編集準備(時間)1.5H	【教科書】 なし 【参考文献】 必要に応じて適宜プリント配布
第 14 回	編集 (5) 撮影した素材をもとに編集作業。編集していないグループは再撮影等。 事前/撮影素材整理・編集準備(時間)1.5H 事後/次週のための編集準備(時間)1.5H	【オフィスアワー】 時間：金曜日の授業前後 場所：授業実施教室
第 15 回	発表 (試写) / 講評 作品試写 / 講評、終了後に各自レポート作成 事前/作品が完成していない場合は編集(時間)3.0H	【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】 なし 【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】 なし
【アクティブラーニング】		
1回：A / 2回：B /		
3回：F / 4回：A /		
5回：B / 6回：B /		
7回：B / 8回：B /		
9回：B / 10回：B /		
11回：B / 12回：B /		

デッサンⅡ

MM350
東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)
2年生 3年生 4年生
2単位 前後期
6【対面型】
演習/2コマ

四宮 義幸

【科目の概要および目的】

鉛筆だけではない表現や、ヌードモデルによるクロッキーや人体デッサンの機会を多くする。

各自のデッサンを客観的に確認し、デッサン力を高めるためだけでなく、自分なりの表現や、デッサンの作品としてのおもしろさを見つけてほしい。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・デッサンで人に伝える力を高めることができる
- ・構成力を高めると同時に、客観的に作品をみることができる
- ・色々な画材の表現の違いを理解することができる

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

- 第 1 回 黒い紙に描く
黒紙に白コンテでデッサンする
事後/クロッキー帳に描く (1H)
- 第 2 回 黒い紙に描く
黒紙に白コンテでデッサンする
事後/クロッキー帳に描く (1H)
- 第 3 回 合評とクロッキー
合評のあと、クロッキーをする
事後/クロッキー帳に描く (1H)
- 第 4 回 静物デッサン (1)
各自にあったモチーフをデッサンする
事前/パネルに水張り (1H)
事後/クロッキー帳に描く (1H)
- 第 5 回 静物デッサン (2)
形をしっかりと測って確認する
事後/クロッキー帳に描く (1H)
- 第 6 回 静物デッサン (3)
十分に描き込む
事後/クロッキー帳に描く (1H)
- 第 7 回 静物デッサン (4)
完成させ、合評する
事後/クロッキー帳に描く (1H)
- 第 8 回 人物クロッキー
ヌードモデルをクロッキーする
事後/クロッキー帳に描く (1H)
- 第 9 回 人体デッサン (1)
ヌードモデルをデッサンする
事前/パネルに水張り (1H)
事後/クロッキー帳に描く (1H)
- 第 10 回 人体デッサン (2)

- ヌードモデルをデッサンする
事後/クロッキー帳に描く (1H)
- 第 11 回 人体デッサン (3)
完成させる
事後/クロッキー帳に描く (1H)
- 第 12 回 合評
合評する。クロッキーを提出
事後/クロッキー帳に描く (1H)
- 第 13 回 鉛筆淡彩デッサン (1)
墨による淡彩デッサンをする
事前/パネルに水張り (1H)
事後/クロッキー帳に描く (1H)
- 第 14 回 鉛筆淡彩デッサン (2)
鉛筆と透明水彩でデッサンする
事前/パネルに水張り (1H)
事後/クロッキー帳に描く (1H)
- 第 15 回 鉛筆淡彩デッサン (3)
完成させて合評する
事後/クロッキー帳に描く (1H)

【アクティブラーニング】

1回：E / 2回：E /
3回：E,D / 4回：E /
5回：E / 6回：E /
7回：E,D / 8回：E /
9回：E / 10回：E /
11回：E / 12回：E,D /
13回：E / 14回：E /
15回：E,D

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・「デッサンⅠ」を履修、あるいは相当の経験があること
- ・教材費(クロッキー帳、紙、モチーフ等)として1,500円程度必要
- ・鉛筆の2H、H、HB、B、2B、3B、4B、6B、練りゴム、カッター、あればデスケールを用意してください。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点 (30%)：授業への取り組み態度を評価する
②課題 (70%)：作品の表現力、完成度を評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・課題作品について制作途中、及び完成、提出後、授業で合評し、コメントします。
- ・作品には評価点をつけて返却します。

【出席確認の方法】

対面による確認

【基本的な授業の進め方】

課題のデッサンに取り組むなかで適時、アドバイスなどをして完成させ、完成後は合評の時間を取る。

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：△

5. コミュニケーション力：－

6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
－：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

時間：出講日の授業前後

場所：イラストレーション研究室（812）または501教室
【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った
箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った
箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など

物語創作作法

MA314

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

竹内 一郎

【科目の概要および目的】

物語創作法は、古代ローマ演劇、古代ギリシア演劇時代から、連綿と研究されてきた。だが、残念なことに物語創作の基礎理論が今日軽視されている現状がある。

本講義では、伝統的な物語創作法の考え方を提示し、授業中に議論を深め、さらには、自ら一つの物語作品を創作することにある。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・ 伝統的な物語創作の基本理論を身につける。
- ・ 物語を実作することで、伝達技術を磨くことが可能になる。
- ・ 作品を完成させる上で、何が足りないか、自分で考え、資料を収集する能力を身につける。

【授業形態】

5 【同時双方向型】

【授業計画】

第 1 回 物語とは

伝統的物語づくりの方法を概説する

事前／物語について考える（30分）

事後／型の復習（30分）

第 2 回 物語の分類法（1）

36の物語について、解説する

事前／型の復習（30分）

事後／型の復習（30分）

第 3 回 物語の分類法（2）

36の物語について、解説する

事前／型の復習（30分）

事後／型の復習（30分）

第 4 回 アイデア出し

自分の書きたい物語を考える

事前／物語を考える（30分）

事後／物語を整理する（30分）

第 5 回 ブレーンストーミング（1）

他者の意見を聞く

事前／自分の意見をまとめる（30分）事後／人の

意見を整理する（30分）

第 6 回 ブレーンストーミング（2）

他者の意見を聞いて、自分なりに考え整理する

事前／復習する（30分）

事後／考えを整理しておく（30分）

第 7 回 ハコの作成（1）

物語の設計図を作る

事前／ハコの準備をする（30分）事後／足りない

資料をまとめる（30分）

第 8 回 ハコの作成（2）

物語の設計図を作る

事前／ハコを整理してみる（30分）

事後／再構成する（30分）

第 9 回 ハコの作成（3）

物語の設計図を作る

事前／ハコを整理してみる（30分）

事後／再構成する（30分）

第 10 回 作品制作（1）

実際に、シナリオや小説を書く

事前／資料をあつめる（30分）

事後／ハコの完成をする（30分）

第 11 回 作品制作（2）

実際に、シナリオや小説を書く

事前／作品制作の準備をする（30分）

事後／復習（30分）

第 12 回 作品制作（3）

実際に、シナリオや小説を書く

事前／作品制作の準備をする（30分）

事後／復習（30分）

第 13 回 作品制作（4）

実際に、シナリオや小説を書く

事前／作品制作の準備をする（30分）

事後／復習（30分）

第 14 回 作品制作（5）

実際に、シナリオや小説を書く

事前／作品制作の準備をする（30分）

事後／復習（30分）

第 15 回 講評

お互いの作品を講評する

事前／発表の準備（30分）

事後／自分の考えを整理する（30分）

【アクティブラーニング】

1回：－ / 2回：－ /

3回：－ / 4回：－ /

5回：B / 6回：B /
 7回：E / 8回：E /
 9回：E / 10回：— /
 11回：— / 12回：— /
 13回：— / 14回：— /
 15回：B

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・脚本を実際に書くため、日本語能力・論理的思考力が求められる。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

PCあるいは画像を送受信できる機器

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点（30%）：マナーを守り、積極的な授業参加態度を評価する

②作品評価（70%）：構成力、表現力、伝達力を評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

一工程ごとに公表します。リアクションペーパーは次回にフィードバックします。

【出席確認の方法】

指定のタイミングでコメント投稿や出席票、リアクションペーパーの併用。

【基本的な授業の進め方】

講義（30分）実技（40分）講評（20分）

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 —：関連していない】

【教科書】

印刷物で配布

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

ペン画表現研究 I

旧 マンガドローイング I

MA351

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

吉田 光彦

【科目の概要および目的】

ペン画を用いた漫画やイラストでは、線の太さの描き分けや色の濃淡が立体表現の基本となる。そのため、授業の前半では、平面的な構図を立体的に表現できる空気遠近法を用いて、平面的な構図を立体的に伝える技術を学ぶ。また、登場人物の感情を読み手に効果的に伝えるフキダシのデザインとはどのようなものかを学ぶ。後半では、自作マンガの扉絵や単行本のカバーイラスト、ポスターを想定して、カラー原稿および朱色と黒の2色で表現する描き方を学ぶ。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・線のみでデザインするという既成感覚にとらわれず、描く内容に適した技法を選択することができる。
- ・授業を通じて学んだ技法を用いて、平面的な構図で空間を表現することができる。
- ・登場人物の感情を読み手に効果的に伝えるフキダシをデザインすることができる。
- ・使用できる色が限られている中で効果的な彩色原稿づくりができる。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第1回 空気遠近法1

空気遠近法で背景描写をする。

事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめておくこと（3時間）

第2回 空気遠近法2

空気遠近法で背景描写をする。

事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめておくこと（3時間）

第3回 フキダシのデザイン1

オリジナルなフキダシのデザインで感情表現をする。

事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめておくこと（3時間）

第4回 フキダシのデザイン2

オリジナルなフキダシのデザインで感情表現をする。

事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめておくこと（3時間）

第5回 図面を見て作画1

床面図を見て家具の配置など、室内をイメージして描写する。

事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめておくこと（3時間）

第 6 回	図面を見て作画 2 床面図を見て家具の配置など、室内をイメージして描写する。 事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめておくこと（3時間）	現する。 事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめておくこと（3時間）
第 7 回	図面を見て作画 3 床面図を見て家具の配置など、室内をイメージして描写する。 事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめておくこと（3時間）	
第 8 回	彩色の基本演習 各自、彩色演習にふさわしい画材や用紙の特質を知る。 事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめておくこと（3時間）	
第 9 回	カラー原稿の制作 1 自作マンガの扉絵や単行本のカバーイラスト、ポスターを想定したカラー原稿と朱色と黒 2 色で表現する。 事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめておくこと（3時間）	
第 10 回	カラー原稿の制作 2 自作マンガの扉絵や単行本のカバーイラスト、ポスターを想定したカラー原稿と朱色と黒 2 色で表現する。 事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめておくこと（3時間）	
第 11 回	カラー原稿の制作 3 自作マンガの扉絵や単行本のカバーイラスト、ポスターを想定したカラー原稿と朱色と黒 2 色で表現する。 事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめておくこと（3時間）	
第 12 回	カラー原稿の制作 4 自作マンガの扉絵や単行本のカバーイラスト、ポスターを想定したカラー原稿と朱色と黒 2 色で表現する。 事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめておくこと（3時間）	
第 13 回	カラー原稿の制作 5 自作マンガの扉絵や単行本のカバーイラスト、ポスターを想定したカラー原稿と朱色と黒 2 色で表現する。 事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめておくこと（3時間）	
第 14 回	カラー原稿の制作 6 自作マンガの扉絵や単行本のカバーイラスト、ポスターを想定したカラー原稿と朱色と黒 2 色で表現する。 事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめておくこと（3時間）	
第 15 回	カラー原稿の制作 7 自作マンガの扉絵や単行本のカバーイラスト、ポスターを想定したカラー原稿と朱色と黒 2 色で表	

【アクティブラーニング】

1回：F / 2回：F /
3回：F / 4回：F /
5回：F / 6回：F /
7回：F / 8回：F /
9回：F / 10回：F /
11回：F / 12回：F /
13回：F / 14回：F /
15回：F

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・1週～15週の実習に必要な画材・用紙の特徴を知っておく。
- ・各自マンガ画材、用紙を持参すること。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①提出課題（70%）：構図に対する考えや技法の修得レベルを含め、作品の完成度を総合的に評価する。

②平常点（30%）：授業態度を総合的に評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

課題作品を返却するとき、アドバイスやコメントを添付する。

【出席確認の方法】

各自、出席簿に記入

【基本的な授業の進め方】

教材のプリントを参考に作品を制作。

前半、作画のポイント等、各自と話し合いアドバイス。後半作品制作。

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

授業でプリントを配布する。

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

時間：出講日の授業前後（30分）

場所：イラストレーション研究室（812）または授業実施教室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

コミックイラスト演習 I 旧 コミック・イラスト演習

MA352

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6 【対面型】

演習/2コマ

和田 歩美

【科目の概要および目的】

教員のイラストレーション技法を参考にしつつ、実際に課題の制作を行うことによって、背景とキャラクターのバランス、1枚絵としての構成力、様々な等身や動きに対応する技術を習得し、自らの表現方法を見つける事ができる。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・コミックイラストの表現技法の学習をし、技術を習得する
- ・様々なコミックイラスト技法を知ることによって、自分らしい表現方法の発見をする
- ・期日、テーマなど条件の中で、自分らしい作品を完成させるプロの仕事を実体験する

【授業形態】

6 【対面型】

【授業計画】

- 第 1 回 ガイダンス
ガイダンス：授業内容と最終課題の説明
課題 1：オリジナルキャラクターの制作
事前/コミックイラストとは何かを思索する（1時間）
- 第 2 回 擬人化キャラクター制作(1)
擬人化のテーマに合わせたイラストレーションの制作
課題 2：擬人化キャラクターの制作
事後/作品制作（3時間）
- 第 3 回 擬人化キャラクター制作（2）
擬人化のテーマに合わせたイラストレーションの制作
課題2の講評
事後/作品のブラッシュアップ（1時間）
- 第 4 回 等身の描き分け（1）
デフォルメイラストレーションの説明および実技演習
課題 3：デフォルメイラストの制作
事後/作品制作（3時間）
- 第 5 回 等身の描き分け（2）
デフォルメイラストレーションの説明および実技演習
課題 3：デフォルメイラストの制作
事後/作品のブラッシュアップ（1時間）
- 第 6 回 タロットカード制作（1）

制作までのリサーチ方法と、光源の位置を意識したイラストレーションの説明

課題 4：タロットカードの制作

事後/作品制作（3時間）

第 7 回 タロットカード制作（2）
制作までのリサーチ方法と、光源の位置を意識したイラストレーションの説明

事後/作品制作（3時間）

第 8 回 タロットカード制作（3）
制作までのリサーチ方法と、光源の位置を意識したイラストレーションの説明

課題 4 の講評

事後/作品のブラッシュアップ（1時間）

第 9 回 模写（1）
模写方法の説明と制作
課題 5：絵画をモチーフとしたイラスト制作

事後/作品制作（3時間）

第 10 回 模写（2）
模写方法の説明と制作

事後/作品制作（3時間）

第 11 回 模写（3）
模写方法の説明と制作

課題 5 の講評

事後/作品のブラッシュアップ（1時間）

第 12 回 構図（1）
構図の説明とイラストレーションの制作
課題 6：コミックスカパーイラスト制作

事後/作品制作（3時間）

第 13 回 構図（2）
構図の説明とイラストレーションの制作
事後/作品制作（3時間）

事後/作品制作（3時間）

第 14 回 構図（3）
構図の説明とイラストレーションの制作
課題 6 の講評

事後/作品のブラッシュアップ（1時間）

第 15 回 まとめ
今までの作品の総合講評。

事後/作品のブラッシュアップ（1時間）

事後/作品のブラッシュアップ（1時間）

【アクティブラーニング】

1回：－ / 2回：－ /

3回：C / 4回：－ /

5回：C / 6回：－ /

7回：－ / 8回：C /

9回：－ / 10回：－ /

11回：C / 12回：－ /

13回：－ / 14回：C /

15回：－

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・2Dでの作業を周知している事

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

－

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点（10%）：積極的な授業態度を評価

②課題制作点（90%）：理解度＋完成度を評価

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

各課題は、全体での課題発表と講評を行う

〔出席確認の方法〕

- ・点呼確認
- ・課題のプレゼンテーション

〔基本的な授業の進め方〕

- ・出席確認および授業説明30分
- ・ワーク60分
- ・質疑応答10分
- ・ワーク70分
- ・制作物提出(途中経過含む)5分
- ・次回課題説明5分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

授業内で随時紹介し使用

〔参考文献〕

授業内で随時紹介

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

授業計画：テーマ・内容、アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法

デジタルマンガ表現技法 I

MA369

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

青田 めい

〔科目の概要および目的〕

デジタルでマンガを制作する基礎技術を習得する。

CLIP STUDIO PAINTを使用し、1本（4P以上）マンガが描き上げられる表現手法、作画方法を身に付ける。

制作過程や疑問点の発表を通じて教室全体で情報共有を行い、より効率的なマンガ制作を目指す。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

・CLIP STUDIO PAINTを使用し、カラー、モノクロ問わず仕様に合ったマンガが制作できる。

- ・制作期間内にマンガを仕上げる計画を立てる事ができる。
- ・相談力、対話力を養い、マンガを通じて相手を理解できる。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第1回 ガイダンス、オリエンテーション

講義内容説明

教員自己紹介を兼ねたマンガ家の仕事内容紹介

第2回 ネーム

複数ページ管理、ネーム制作方法について学ぶ

テーマを設定し、ネーム制作を行う（2h）

第3回 下描き

デジタル作画における下描きについて学ぶ

前回の授業で制作したネームを発表後、下描きを行う(2h)

第4回 ペン入れ

デジタル作画におけるペン入れの際に使用するペン設定の紹介

前回の授業で制作したネームを発表後、ペン入れを行う(2h)

第5回 コマ枠、フキダシ

コマ枠、フキダシツールの使用方法

前回の授業で制作したペン入れを発表後、フキダシ、コマ枠の配置を行う(1h)

第6回 コマ割り、見開き

コマ割り、見開きページの作り方を学ぶ

授業内で制作した見開きページの講評

第7回 トーン、背景効果

トーン貼り、背景効果（デコレーションブラシ）

第5～6回の授業で制作したページにトーン、背景効果を施す(1h)

第8回 カラー/線画

マンガ原稿におけるカラーページの線画の作画方法

用意された下描きを元に線画を作成する(2h)

制作した線画の講評

第9回 カラー/着彩①

マンガ原稿における効率的なカラーページの塗り方

アニメ塗りの応用、様々な塗り方について

第10回 カラー/着彩②

カラー作品を制作する(2h)

厚塗り風ブラシの使い方

事後：最終課題ネーム作成(3h)

第11回 プロット、ネーム発表

最終課題のプロット、ネームを発表、講評

事後：最終課題ネーム修正(3h)

第12回 課題制作①

- ・最終課題進捗を発表、講評
事後：最終課題制作(3h)
- 第13回 課題制作②
 - ・最終課題進捗を発表、講評
事後：最終課題制作(3h)
- 第14回 課題制作③
 - ・最終課題の完成、印刷、提出
- 第15回 最終課題講評会
 - ・提出作品を全員で読む
 - ・講評

【アクティブラーニング】

- 1回：E / 2回：E /
 3回：C / 4回：C /
 5回：C / 6回：C /
 7回：E / 8回：E /
 9回：E / 10回：C /
 11回：C / 12回：E /
 13回：C / 14回：E /
 15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・パソコンの基本操作
- ・パソコンまたはiPadでCLIPSTUDIO PAINTの使用ができる

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

CLIP STUDIO PAINTスマートフォン版については使用不可とする

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

最終課題（60%）：最終課題の完成度 作画、ストーリー、話題性各20%ずつ

発表、相談内容(20%)：発表での相談力、対話力

平常点(20%)：授業への取り組み姿勢

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・授業内にて口頭での講評
- ・チャットで随時質問を受け付け、回答を行う

【出席確認の方法】

- ・授業開始時に点呼
- ・授業毎の課題提出

【基本的な授業の進め方】

前回のフィードバック10分、講義80分、作業・発表等90分
 毎回1時間程度教員による講義を行い、その後発表及び制作に移る。

発表ではデータまたは印刷物の提出後、説明を交えながらプレゼンテーションを行ってもらう。

作業中は随時質問を受け付け、情報の共有を行う。

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 —：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応、オフィスアワー

マンガ背景美術Ⅱ 旧 マンガ背景美術

MA372

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前後期

6【対面型】

講義/1コマ

和田 歩美

【科目の概要および目的】

CLIP STUDIO PAINTを用いて背景作画技術を学ぶ。主に特殊定規、パース定規、スクリーントーンを使用した背景を作画し、それに付随した技術を身につける。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・CLIP STUDIO PAINTの背景作画における基本機能を理解する。
- ・上記に付随した技術を身につける。
- ・マンガ家のアシスタントをする上での最小限の技術を身につける。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第1回 ガイダンス

ガイダンス

基本操作と設定について

基礎的な線の引き方

事前/CLIP STUDIO PAINTの基本操作を理解していることが望ましい（1時間～）

第2回 定規ツール（1）

定規ツールを使用した効果線の描き方

事前/ショートカットの使い方などの基本的な知識が有る事が望ましい（1時間～）

第3回 パース定規（1）

	パースに関する基本的な説明と背景制作 事前/前回までの復習 (1時間～)	指示に従って背景処理を行う 事前/今までの中で分からなかった事や、応用などを知りたい方は上げておく。(1時間～)
第 4 回	パース定規 (2) パース定規を使用した背景制作 ・建物を描く① 事前/パースについて理解していることが望ましい (1時間～)	【アクティブラーニング】 1回 : E / 2回 : E / 3回 : E / 4回 : E / 5回 : E / 6回 : E / 7回 : E / 8回 : E / 9回 : E / 10回 : E / 11回 : E / 12回 : E / 13回 : E / 14回 : E / 15回 : E
第 5 回	パース定規 (3) パース定規を使用した背景制作 ・建物を描く② 事前/アナログでの背景技術を習得している事が望ましい (1時間～)	【事前に修得しておく必要のある科目】 なし
第 6 回	3D素材 3D素材を使用して背景を作画する ・線画抽出、トーン化 事前/パースについて理解していることが望ましい (1時間～)	【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】 特になし
第 7 回	トーン処理 (1) スクリーントーンを使用した背景処理 ・トーンの基本処理を学ぶ 事前/前回までの復習 (1時間～)	【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】 —
第 8 回	トーン処理 (2) スクリーントーンを使用した背景処理 ・グラデーショントーンの適切な使用方法を学ぶ 事前/前回までの復習 (1時間～)	【成績評価方法・評価割合・評価基準】 ①各課題 (50%) : 習熟度+理解度を評価 ②平常点 (30%) : 積極的な授業態度を評価 ③試験課題 (20%) : 完成度+表現力を評価
第 9 回	トーン処理 (3) スクリーントーンを使用した背景処理 ・パターン制作、デコレーショントーンを使用する 事前/前回までの復習 (1時間～)	【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】 ・各課題は提出時にアドバイスをを行う
第 10 回	自然物の描き方 (1) 自然物の描き方と、素材の効果的な使用方法を学ぶ ・植物を描く 事前/前回までの復習 (1時間～)	【出席確認の方法】 ・点呼確認 ・課題提出
第 11 回	自然物の描き方 (2) 自然物の描き方と、素材の効果的な使用方法を学ぶ ・食べ物を描く 事前/前回までの復習 (1時間～)	【基本的な授業の進め方】 各授業内容について説明後、実技演習を通して自分自身の作品に生かせるように習熟してもらう。
第 12 回	アナログ原稿のデジタル処理 アナログ原稿のデジタル処理を学ぶ 事前/前回までの復習	【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】 1. 主体的行動力 : ○ 2. 表現力 : ◎ 3. 社会貢献力・コラボレーション力 : — 4. 課題発見力・課題解決力 : ○ 5. コミュニケーション力 : — 6. 専門的知識・技能の活用力 : ◎ 【◎ : 特に関連が強い ○ : 関連が強い △ : 関連がある — : 関連していない】
第 13 回	背景作画 (1) 指示に従って背景処理を行う 事前/自分でやり方が分からない処理は質問できるようにしておく。(1時間～)	【教科書】 授業内で随時紹介
第 14 回	背景作画 (2) 指示に従って背景処理を行う 事前/前回の疑問点が有れば上げておく (1時間～)	【参考文献】 授業内で随時紹介
第 15 回	背景作画 (3)	【オフィスアワー】 専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板上に掲示) 【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】 科目の概要および目的、到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)、授業計画 : テーマ・内容、授業計画 : 事前・事後学習、アクティブラーニング 【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】 オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、出席確認の方法、オフィスアワー

ストーリーマンガ制作基礎

MA373

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

深谷 陽

〔科目の概要および目的〕

漫画独特の表現であるコマワリの手法、そして最も重要と言われるキャラクターについて学び、短編のネームを制作する

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・コマワリの基本的スキルが身につく
- ・演出意図に応じた構図の作り方が身につく
- ・伝えたい情報、感情を読者に明快に伝える手法が身につく

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第1回 初めに
ガイダンス・コマワリ課題の体験
事後/好きな作品の1p模写 (3時間)
- 第2回 絵変わり
絵変わりについての講義とそれを意識したコマワリ課題
事前/好きな作品の1p模写 (3時間)
- 第3回 アングル
アングルについての講義とそれを意識したコマワリ課題
事前/好きな作品の1p模写 (3時間)
- 第4回 奥行き
奥行きについての講義とそれを意識したコマワリ課題
事前/好きな作品の1p模写 (3時間)
- 第5回 フレーミング
フレーミングについての講義とそれを意識したコマワリ課題
事前/好きな作品の1p模写 (3時間)
- 第6回 フリとウケ
フリとウケについての講義と実践課題
事前/好きな作品の1p模写 (3時間)
- 第7回 キャラクター①基本描写・ゲーム
基本的な人体と顔の描き方についての講義とアイデアを出し合ったキャラクターデザインゲーム
事前/好きな作品のキャラクター研究 (3時間)
- 第8回 キャラクター②設定
自分が漫画に登場させたいキャラクターの設定
事前/自作のキャラクターについて考える (3時間)
- 第9回 キャラクター③実践

自作のキャラクターを実際にコマの中で動かしてみる課題

- 事前/自作キャラクターについて考える (3時間)
- 第10回 短編ネーム制作① (1) アイデア・構成
8pネームのためのアイデア出しと基本プロットの構成
事前/自分が漫画に描いてみたい要素を考える(3時間)
- 第11回 短編ネーム制作① (2) 制作
8pネームの制作
事前/内容を考える(3時間)
- 第12回 短編ネーム制作② (1) アイデア
16pネームのためのアイデア出しとプロットの基本構成
事前/自分の漫画に描いてみたい要素を考える(3時間)
- 第13回 短編ネーム制作② (2) 制作
16pのネームの制作
事前/内容を考える(3時間)
- 第14回 短編ネーム制作② (3) 修正
16pネームのブラッシュアップ
事前/内容を考える(3時間)
- 第15回 講評
講評を行う
事前/自作についての検討(3時間)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：— /
5回：— / 6回：— /
7回：— / 8回：— /
9回：— / 10回：— /
11回：— / 12回：— /
13回：— / 14回：— /
15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

自分の好きな作品があること、自分自身が今後描きたい作品のイメージを持つこと

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①課題 (70%)：表現力・完成度の評価
②平常点 (30%) 講義時の積極性・マナーなどの評価

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

提出物へのコメント、添削

〔出席確認の方法〕

氏名読み上げまたは出席票

〔基本的な授業の進め方〕

講義、課題説明15分 ワーク、75分 指導80分 振り返り5分
分次回説明5分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：－
 4. 課題発見力・課題解決力：○
 5. コミュニケーション力：－
 6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 ー：関連していない】

【教科書】

無し

【参考文献】

- ①『もっと魅せる・面白くする魂に響く漫画コマワリ教室』
 ②深谷陽/東京ネームタンク③ソーテック社④2300円（税別）

【オフィスアワー】

時間：出講日（月）授業終了後

場所：授業実施教室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件

マンガ制作基礎

旧 ヒューマンコミックス

MA374

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

楠木 あると、青田 めい

【科目の概要および目的】

オリジナルマンガを制作する。長さは雑誌用で12～16ページ、縦スクロールなら60～80コマを基本とする。アナログ・デジタルどちらでも可。プロット、キャラクター作り、ネーム、原稿という手順で作成する。3～4人のグループをつくりお互いの作品内容と進捗状況をチェックできるようにする。読み物として成立する作品を一本完成させる。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・自分の伝えたいテーマを明確にし、マンガで表現できる。
- ・段階を踏んで、ストーリーマンガを一定期間内に作成できる。
- ・他者の意見にも耳を傾け、加筆や修正を繰り返しながら作品の完成度を高めていくことができる。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

- 第 1 回 ガイダンス・企画トレーニング
 講義内容を説明する。
 企画、発想力のトレーニング。
 グループ分け、自己紹介、各自でラフな自画像とPR文を作成して投稿。
 事後：アンケートの回答 (30m) 課題の構想を練る (いつも)

- 第 2 回 ネームトレーニング・プロット1
 コマ割り、構図のトレーニング。
 課題プロットの作成。ストーリーの簡単な記述、主要キャラクターを描く。
 事後：課題プロット・キャラクター画を完成し、グループで共有 (1h)
- 第 3 回 プロット2
 プロット1の構成を考える。起承転結、それぞれに何ページくらいとるか、など見通しを立てる。
 事前：プロット1をグループ内でチェック (10m)
 事後：ネームに必要な資料収集 (1h)
- 第 4 回 ネーム1
 プロットからネームを作成する。
 事前：プロット2をグループ内でチェック(10m)
 事後：ネーム作成
- 第 5 回 ネーム2
 プロットからネームを作成する。進捗をグループ内でチェック。
 事前：ネーム作成(1h)
 事後：ネーム作成(1h)
- 第 6 回 ネーム3
 プロットからネームを作成する。進捗をグループ内でチェック。
 事前：ネーム作成(1h)
 事後：ネーム作成(1h)
- 第 7 回 ネーム4
 ネームを仕上げ、グループ内でチェックしたら指導者に投稿。
 事前：ネーム作成(1h)
 事後：ネームの修正(1h)
- 第 8 回 課題原稿制作1
 マンガ原稿を制作する。
 事前：ネームの修正・完成。資料収集。
 事後：課題原稿制作(2h)
- 第 9 回 課題原稿制作2
 マンガ原稿を制作する。
 事前：課題原稿制作(2h)
 事後：課題原稿制作(2h)
- 第 10 回 課題原稿制作3
 マンガ原稿を制作する。
 事前：課題原稿制作(2h)
 事後：課題原稿制作(2h)
- 第 11 回 課題原稿制作4
 マンガ原稿を制作する。
 事前：課題原稿制作(2h)
 事後：課題原稿制作(2h)
- 第 12 回 課題原稿制作5
 マンガ原稿を制作する。
 事前：課題原稿制作(2h)
 事後：課題原稿制作(2h)
- 第 13 回 課題原稿制作完成・提出
 マンガ原稿を仕上げ、グループ内でチェック。
 事前：課題原稿制作(3h)

事後：原稿の修正、最終チェック後 指導師に投稿

第 14 回 課題原稿制作・最終チェック

投稿した課題作品を必要に応じて手直し。作品のPR文作成。

事前/課題原稿制作 (3h)

事後/必要に応じて手直し (2h)

第 15 回 講評会・まとめ

制作課題の講評会を行う。

事前:課題原稿のPR準備(1h) 他の人の作品を読む (3h)

事後：アンケート人気投票回答 (5m)

〔アクティブラーニング〕

1回：B / 2回：B /

3回：B / 4回：B /

5回：B / 6回：B /

7回：B / 8回：E /

9回：E / 10回：E /

11回：E / 12回：E /

13回：B / 14回：B /

15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・アナログ、デジタルいずれの場合も道具を所持し、使い方がわかっている。

・デジタルはCLIP STUDIO PAINTなどのソフトを使用する。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

1.課題(95%):表現力・完成度はどうか、締め切りが守れているかを評価する

2.平常点(5%):授業マナーを守り、積極的に授業に取り組む態度を評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

提出物にコメントをつけて対面またはチャットで返信。

〔出席確認の方法〕

指定の出席票、提出物など

〔基本的な授業の進め方〕

・講義10分 思考・実践のワーク160分 適宜、個別に指導 ・解説10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：◎

4. 課題発見力・課題解決力：○

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

時間：出講日の授業終了後30分

場所：授業実施教室

オンラインの場合はMicrosoft Teams でのチャットや音声通話を使用します。

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

課題やレポート等に対するフィードバックの方法、基本的な授業の進め方

アニメ制作 I

AN354

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6 【対面型】

演習/2コマ

古瀬 登、川上 遥

〔科目の概要および目的〕

芝居の研究などを経て、アイデア発想法、起承転結、マンガの手法、アニメの手法など。箱書きからプロット、コンテツとしての画コンテ製作の指導と実践にいたる。あらゆる芝居は間だ、といわれている。とりわけアニメにとってもこの間は不可欠だろう、笑いを目指すアニメにとっては動きの間、芝居の間は重要である。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・アニメーション用の企画書を作成することができる
- ・グループ制作において柔軟なコミュニケーションを取ることができる
- ・スポッティングやタイミングを意識したコンテ撮影を作成できる

〔授業形態〕

6 【対面型】

〔授業計画〕

第 1 回 企画書の発表

企画をプレゼンし、他人の意見を収集する。

事前/企画書の作成(3h)

第 2 回 プリプロ作業

ドラマやマンガ構成上、考え易い構想として序破急や起承転結という形式を提示

事後/課題の制作(3h)

第 3 回 イメージボード作成(1)

全員でイメージボードの作成を行い、その中からイメージクリエイタ（演出）を決定する。

事後/課題の制作(3h)

第 4 回 イメージボード作成(2)

全員でイメージボードの作成を行い、その中からイメージクリエイタ（演出）を決定する。

事後/課題の制作(3h)

- 第 5 回 キャラクターデザイン・美術設定の作成(1)
イメージボードを元にアニメーション向けのキャラクターデザインを作成。
同じく背景美術の設定も各シーンごとに作成する。
各メンバーで協力し合いながらスムーズに進める。
事後/課題の制作(3h)
- 第 6 回 キャラクターデザイン・美術設定の作成(2)
イメージボードを元にアニメーション向けのキャラクターデザインを作成。
同じく背景美術の設定も各シーンごとに作成する。
各メンバーで協力し合いながらスムーズに進める。
事後/課題の制作(3h)
- 第 7 回 キャラクターデザイン・美術設定の作成(3)
イメージボードを元にアニメーション向けのキャラクターデザインを作成。
同じく背景美術の設定も各シーンごとに作成する。
各メンバーで協力し合いながらスムーズに進める。
事後/課題の制作(3h)
- 第 8 回 絵コンテの作成(1)
アニメーションの設計図と呼ばれる絵コンテの作成
事後/課題の制作(3h)
- 第 9 回 絵コンテの作成(2)第一項のチェック
アイレベル、パース感などは絵コンテのうちに決めておく
事後/課題の制作(3h)
- 第 10 回 絵コンテの作成(3)第二項のチェック
カットナンバーとカット尺は必ず記載する
事後/課題の制作(3h)
- 第 11 回 絵コンテの作成(4)決定稿のチェック
全体を見通して、カット数を調整する
事後/課題の制作(3h)
- 第 12 回 コンテ撮の作成(1)
Adobe Premiereを使い
音響とのスポッティングを図る(1)
事後/課題の制作(3h)
- 第 13 回 コンテ撮の作成(2)
Adobe Premiereを使い
音響とのスポッティングを図る(2)
事後/課題の制作(3h)
- 第 14 回 コンテ撮の作成(3)
Adobe Premiereを使い
音響とのスポッティングを図る(3)
事後/課題の制作(3h)
- 第 15 回 コンテ撮の発表・提出
コンテ撮を用いてプレゼンし、他人の意見を収集する。
事後/課題の制作(3h)

【アクティブラーニング】

- 1回：B / 2回：B /
3回：B / 4回：B /

- 5回：B / 6回：B /
7回：B / 8回：B /
9回：B / 10回：B /
11回：B / 12回：B /
13回：B / 14回：B /
15回：B

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・後期授業「アニメ制作Ⅱ」を通して、通年で作品の完成させる

- ・随時担当教員とミーティングあるいは指導を受けること
- ・授業は基本オンラインで行うが、発表時は対面にて行う

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

(本科目は対面実施ですが参考に記載します↓)

Adobe Photoshop, After Effects, Premiere Pro, CLIP STUDIO PAINT EX,ペンタブレット

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点 (30%)：授業態度、グループ制作に積極的に参加できているか

②課題 (40%)：企画書の内容・完成度。スケジュールを管理できているか

③成果発表(30%):コンテ撮発表でのプレゼン・内容について評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・課題提出後の授業で個別にコメントします

【出席確認の方法】

授業開始時に名前を読み上げて確認します

【基本的な授業の進め方】

1コマ目

・出席確認:5分 ・資料配布、課題説明:10分・講義10分 ・グループワーク65分

2コマ目

・完成した課題のチェック、添削の繰り返し80分

・課題提出5分・次回説明5分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

適宜、授業内にて資料を配布

【参考文献】

神村 幸子 「アニメーションの基礎知識大百科」(2009年) グラフィック社 3080円

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、教科書、参考文献

アニメ撮影技術Ⅰ
旧 アニメスキルⅡ(中割り)

AN355

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

はとり あゆむ

【科目の概要および目的】

アニメーション撮影技術After Effectsを使ったデジタルアニメーションの撮影スキルを身につけることが目的です。

実際のTVアニメーションで使用されたセル画や背景の素材を使い、カメラワークやその演出意図を表現できるスキルを身につけます。

また、火や水や光のエフェクトといった特殊効果技術の表現力と、開発や研究を行います。

アニメーション撮影はアニメーション制作スタジオでの最後の作業です、完成した映像がその場で確認できてクオリティアップにもつながるとも楽しくやりがいのある重要なパートです。

【到達目標(授業を通じて身につく能力・スキル)】

- ・アニメーション撮影のスキルを身につける
- ・映像演出、デジタルエフェクトのスキルを身につける
- ・映像編集能力を身につける
- ・デジタルアニメーションが完成するまでの全フローを理解できる
- ・アニメーション制作現場でのスタッフとしてのスキルの育成

(分からない?ではなく『何をすべきか?』という考え方を身につける)

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

- 第1回 After Effectsの基本操作
- ・After Effectsの基本操作と基本設定
 - ・アニメーション撮影機能の説明
- 第2回 絵コンテ撮影
- ・コンテ撮用のタイムシートの書き方
 - ・絵コンテを使った撮影
- 第3回 ラフ原画撮影
- ・ラフ原画を使った撮影
 - ・セルに色をつけて動きを確認しやすくする
- 第4回 原画撮影
- ・原画を使った撮影
 - ・数カットを撮影して、編集して動きを確かめます

- 第5回 本撮①
- ・実際のセルと背景を使った本番の撮影
 - ・コンポジションの整理整頓
- 第6回 本撮②カメラワーク
- ・カメラワークを入れる (PAN,TU,TB)
 - ・各種カメラワークにフェアリング(徐行)を入れる
- 第7回 本撮③スライディング
- ・キャラクターのスライディング
 - ・背景のFollow(引き)とキャラクターその場歩き
- 第8回 本撮④スローモーション
- キャラクターをスローモーションにします
- 第9回 エフェクト①天気
- 雨や雪を降らせます
- 第10回 エフェクト②トカ光1
- ・セルを光らせる
 - ・画面外からのフレア光や入射光
- 第11回 エフェクト③トカ光2
- 光を作る
- 閃光や爆発を作る
- 第12回 エフェクト④水の処理
- ・川の流れや水の揺らぎなど水面を作る
- 第13回 エフェクト⑤いろいろな光
- ・実際のセル素材を使い光の処理のある撮影
 - ・トカ光(ジェット噴射や電機の光)
- 第14回 エフェクト⑥いろいろな水面を作る
- ・実際のセル素材を使い水面の処理のある撮影
 - ・川や海の逆光を入れた撮影
- 第15回 編集
- Atere EffectsとPremiereを使った編集

【アクティブラーニング】

- 1回:F / 2回:F /
3回:F / 4回:F /
5回:F / 6回:F /
7回:F / 8回:F /
9回:F / 10回:F /
11回:F / 12回:F /
13回:F / 14回:F /
15回:F

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・After Effectsの基本操作が出来ると好ましい
- ・授業で作成した課題は必ず期間内に提出してください

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

Adobe After Effects

Adobe Photoshop

Adobe Premiere Pro

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点(30%): 授業態度を評価する
- ②課題(35%): 授業理解度を評価する
- ③提出課題(35%): 提出課題の表現度を評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・「課題」をその場でフィードバック
- ・「提出物」を次回の授業までに個人へフィードバック

〔出席確認の方法〕

出席票の提出

授業開始時にチャットに書き込む

フィードバックに出席状況を記載します

〔基本的な授業の進め方〕

- 1、授業開始、出席(出席票の配布)、授業概要説明：30分
- 2、課題の実演：30分
- 3、課題の実習：30分
(90分を2限行います。)

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

授業毎に課題を用意します。

〔参考文献〕

『アニメーションの基礎知識大百科・AfterEffects for アニメーション』

著者：大平幸輝

ビー・エヌ・エヌ新社(ISBN 978-4-8025-1003-5)

定価：本体3,200円＋税

〔オフィスアワー〕

時間：出講日の授業前後

場所：授業実施教室

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、教科書、参考文献

アニメスキルⅢ（中割り）

AN375

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

川上 遥

〔科目の概要および目的〕

ここでは中割りの技術指導を行う。プロダクションに入社した際真っ先にまっているのが、この中割りという仕事で

ある。

キーフレームがあつての中割りである。初期段階で中割りばかりやっているとキーフレームが描けなくなる、という論理もあるので、ここではキーフレーム作画と中割りと交互に演習課題として行っていきたい。中割りは立体感覚を養うという意味でアニメーターのトレーニング上も不可欠なものだ。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・キーフレーム（原画）と中割り（動画）を作成できる
- ・動かすタイミングを習得し、基本的なタイムシートを作成することができる
- ・アニメーション制作向けPCツールを操作できる

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第1回 課題A テーマの提示

CLIP STUDIOを用いたデジタル作画についての説明

課題の説明・キャラクターのスケッチ

事後/課題の制作(3h)

第2回 課題A レイアウト

資料を元にレイアウトの作成

カメラワーク「Follow」の説明

事後/課題の制作(3h)

第3回 課題A 原画(1)

ディズニーのアニメーションを元に動きを描く

事後/課題の制作(3h)

第4回 課題A 原画(2)

ラフの動きをさらに正確にし、動きのチェック

事後/課題の制作(3h)

第5回 課題A 動画(1)

中割り作業

事後/課題の制作(3h)

第6回 課題A 動画(2)

クリンナップする

事後/課題の制作(3h)

第7回 課題A 仕上げ・背景

セル・背景に色を付ける

事後/課題の制作(3h)

第8回 課題A 撮影・提出

撮影して提出

事後/課題の制作(3h)

第9回 課題B テーマの提示

浮世絵をアニメーション化させる

炎・煙の観察

事後/課題の制作(3h)

第10回 課題B レイアウト

エフェクトについて理解する

レイアウトの作成

事後/課題の制作(3h)

第11回 課題B 原画(1)

エフェクトの動きを描く

事後/課題の制作(3h)

第12回 課題B 動画(1)

- 中割り作業
事後/課題の制作(3h)
- 第13回 課題B 動画(2)
クリンナップする
事後/課題の制作(3h)
- 第14回 課題B 仕上げ・背景
セル・背景に色を付ける
事後/課題の制作(3h)
- 第15回 課題B 撮影・提出
撮影・書き出しして提出
事前/課題の制作(3h)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：— /
5回：— / 6回：— /
7回：— / 8回：— /
9回：— / 10回：— /
11回：— / 12回：— /
13回：— / 14回：— /
15回：—

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・「アニメスキルⅡ」の単位を修得済みであることが望ましい
- ・アナログ作業をする場合、必要な用具①アニメーション用タック ②動画面紙（7階事務局にて販売）③鉛筆Bまたは2B ④色鉛筆赤・青 を初回授業時までに事前に購入しておくこと
- ・授業は基本対面で行うが、必要な機器・ソフトウェアを所持している場合はオンライン受講可

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

(本科目は対面で実施しますが参考に記載↓)

CLIP STUDIO PAINT EX,ペンタブレット

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点（30%）：授業態度・積極性を評価する
②課題評価（70%）：表現力・完成度かどうか。PCツールを使いこなせているか

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・提出後の授業で個別にコメントします

〔出席確認の方法〕

授業開始時に名前を読み上げて確認します

〔基本的な授業の進め方〕

1コマ目

- ・出席確認:5分 ・資料配布、課題説明:10分・講義10分 ・作画作業65分

2コマ目

- ・作成した課題のチェック、添削の繰り返し80分
- ・課題提出5分・次回説明5分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：—

6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

課題ごとに資料を配布

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件

アニメ背景美術Ⅰ

旧 背景美術Ⅰ

AN376

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

松平 聡

〔科目の概要および目的〕

アニメの背景美術は、そのアニメの世界観を決定する重要な仕事である。その世界観を表現するには、基礎的な絵を描く力が必要である。各自の自在なイメージを表現する力と、そのための確かな描写力を獲得し自己表現の能力を高める為に、絵を描く基本的な描き方や考え方の獲得を目指す。コンピューターソフトAdobe Photoshopを絵を描く道具として使い方を習得する。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・ Adobe Photoshopの基礎と応用が習得できる。（特に描くための道具としての基礎技術が学べる。業界標準のプラットフォームとしてのPhotoshopの使い方が習得できる。）
- ・ 描画基礎として、一枚の絵を描き上げるためのプロセスを学ぶことができる。
- ・ Macの操作基礎が習得できる。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション、Macの基本操作

授業の概要説明、授業に必要なMacの基本を学ぶ
事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第2回 フォトショップデジタルデッサン (1)

Photoshopの基本操作手順、インターフェイスを学ぶ

	事前/授業内容の予習 (1時間)		事前/授業内容の予習 (1時間)
	事後/授業内容の予習 (1時間)		事後/授業内容の予習 (1時間)
第 3 回	フォトショップデジタルデッサン (2) リンゴ描写課題制作 (1) Photoshopの画像操作、 ブラシ機能、タブレット設定を学ぶ 事前/授業内容の予習 (1時間) 事後/授業内容の予習 (1時間)	第 14 回	室内課題制作 (3) 自室描画課題制作 (3) Photoshopの変形、形状編 集の講義 事前/授業内容の予習 (1時間) 事後/授業内容の予習 (1時間)
第 4 回	フォトショップデジタルデッサン (3) リンゴ描写課題制作 (2) 形の捉え方と立体感の 表現方法を学ぶ。レイヤー機能を学ぶ 事前/授業内容の予習 (1時間) 事後/授業内容の予習 (1時間)	第 15 回	室内課題制作 (4) 自室描画課題制作 (4) 課題提出 事前/授業内容の予習 (1時間) 事後/授業内容の予習 (1時間)
第 5 回	フォトショップデジタルデッサン (4) リンゴ描写課題制作 (3) 課題提出 色彩の設定方法、混色法、色彩理論を学ぶ。 事前/授業内容の予習 (1時間) 事後/授業内容の予習 (1時間)		〔アクティブラーニング〕 1回：F / 2回：F / 3回：F / 4回：F / 5回：F / 6回：F / 7回：F / 8回：F / 9回：F / 10回：F / 11回：F / 12回：F / 13回：F / 14回：F / 15回：F
第 6 回	フォトショップデジタルデッサン (5) 複数の物の描写課題 (1) 物と物との関係の描き 方を学ぶ 事前/授業内容の予習 (1時間) 事後/授業内容の予習 (1時間)		〔事前に修得しておく必要のある科目〕 なし
第 7 回	フォトショップデジタルデッサン (6) 複数の物の描写課題 (2) Photoshopの色調補正機 能の講義 事前/授業内容の予習 (1時間) 事後/授業内容の予習 (1時間)		〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕 ・PCのマウスやキーボード入力など基本操作のできること。 ・準備するもの：素描道具 (鉛筆 (B、2B、4B)、消しゴ ム、直定規30cm、スケッチブック又はクロッキー帳サイズ A4以上)
第 8 回	フォトショップデジタルデッサン (7) 複数の物の描写課題 (3) 課題提出 事前/授業内容の予習 (1時間) 事後/授業内容の予習 (1時間)		〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕 —
第 9 回	フォトショップを使った描画演習 (1) 自由課題制作 (1) 課題線画の作成。今まで学 んだことを使って描きたいものを自由に描いてみ よう。 事前/授業内容の予習 (1時間) 事後/授業内容の予習 (1時間)		〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕 ①平常点 (30%)：授業マナーを守り、授業に積極的に取り 組む態度を評価する。 ②提出課題 (30%)：理解度、表現力、完成度を評価する。 ③試験課題 (40%)：課題の総合的な完成度を評価する。
第 10 回	フォトショップを使った描画演習 (2) 自由課題制作 (2) 課題制作と線画の取り込み (ス キャン)、線画の修正、線画のレイヤー化 事前/授業内容の予習 (1時間) 事後/授業内容の予習 (1時間)		〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕 ・各課題に対し、個別にコメント、指導を行う。
第 11 回	フォトショップを使った描画演習 (2) 自由課題制作 (3) 課題作品提出 事前/授業内容の予習 (1時間) 事後/授業内容の予習 (1時間)		〔出席確認の方法〕 授業開始時に出席簿に記入
第 12 回	室内課題制作 (1) 自室描画課題制作 (1) 課題の説明。Photoshopの フィルター機能の講義 事前/授業内容の予習 (1時間) 事後/授業内容の予習 (1時間)		〔基本的な授業の進め方〕 ・その日の授業説明：10分／・講義：80分 ・演習実技：80分／・その日の授業の振り返り
第 13 回	室内課題制作 (2) 自室描画課題制作 (2) Photoshopの文字の作成、 編集機能の講義		〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕 1. 主体的行動力：◎ 2. 表現力：◎ 3. 社会貢献力・コラボレーション力：— 4. 課題発見力・課題解決力：◎ 5. コミュニケーション力：— 6. 専門的知識・技能の活用力：◎ 〔◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない〕
			〔教科書〕 なし
			〔参考文献〕 授業内で指示する

【オフィスアワー】

時間：出講日〔火・木〕の授業（9：10～12：20）の前後
場所：授業実施教室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

アニメ演出論 I 旧 演出論

AN/MD312
東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)
2年生 3年生 4年生
2単位 前期
6 【対面型】
講義/2コマ

橋本 三郎

【科目の概要および目的】

アニメーション演出が実写フィルムの演出とどのように違うのかを考え、アニメーション演出ならではの特殊性を明確にし、より効果的な仕事をするための考え方を学ぶ。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・アニメーション制作時の演出としての能力が身につく
- ・絵コンテから映像への過程での演出法が理解できる
- ・シナリオから絵コンテへの落とし込みの時の演出力を学びとることができる

【授業形態】

6 【対面型】

【授業計画】

- 第 1 回 アニメ演出とは、何をすべきか（1）
演出家の役割、責任、権利について説明する。
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第 2 回 アニメ演出とは、何をすべきか（2）
基本的な知識の解説をする。
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第 3 回 アニメ演出とは、何をすべきか（3）
DVD、資料等を観ながら、その制作過程を分析し、解説する
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第 4 回 アニメ演出とは、何をすべきか（4）
DVD、資料等を観ながら、その制作過程を分析し、解説する
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第 5 回 アニメ演出とは、何をすべきか（5）
資料の絵コンテの1カットずつを解説。悪い表現を如何に修正すればよいかを説明する。
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第 6 回 アニメ演出とは、何をすべきか（6）
資料の絵コンテの1カットずつを解説。悪い表現を如何に修正すればよいかを説明する。
事後/復習(2時間)レポート作成

- 第 7 回 アニメ演出とは、何をすべきか（7）
資料の絵コンテの1カットずつを解説。悪い表現を如何に修正すればよいかを説明する。
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第 8 回 アニメ演出とは、何をすべきか（8）
アニメ制作上、最低限、守らなければならない約束事を説明する。
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第 9 回 アニメ演出とは、何をすべきか（9）
アニメ制作上、最低限、守らなければならない約束事を説明する。
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第 10 回 アニメ演出とは、何をすべきか（10）
登場人物たちの行動と芝居付けの意味を解説する。
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第 11 回 アニメ演出とは、何をすべきか（11）
編集の色々な技術を説明する
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第 12 回 アニメ演出とは、何をすべきか（12）
編集の色々な技術を説明する
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第 13 回 アニメ演出とは、何をすべきか（13）
編集の色々な技術を説明する
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第 14 回 アニメ演出とは、何をすべきか（14）
編集の色々な技術を説明する
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第 15 回 まとめ
総括
事後/復習(2時間)ふりかえり

【アクティブラーニング】

1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：D /
5回：— / 6回：— /
7回：— / 8回：— /
9回：— / 10回：— /
11回：— / 12回：— /
13回：— / 14回：— /
15回：—

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・アニメーション演出に必要となる基本用語の予備知識を学習しておく。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点（30%）：授業態度（積極性）について評価する
- ②レポート（30%）：理解度を評価する
- ③課題（40%）：完成度より表現力を評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・提出後の授業で全体にコメントします
- ・各課題にコメントをつけて返却します

〔出席確認の方法〕

点呼もしくは出席カード

〔基本的な授業の進め方〕

出欠確認（10分）

講義（80分）

演習（90分）

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

資料を配布

〔参考文献〕

授業内で紹介する

〔オフィスアワー〕

時間：出講日〔火〕の授業の前後

場所：授業実施教室

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

企画・発想法とプレゼンテーション技法

GA316

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

講義/1コマ

井上 幸喜

〔科目の概要および目的〕

様々なジャンルのケーススタディに基づき、ゲームの発想の仕方、アイデアシートの作成法、企画書への落とし込みの方法を学ぶ。また、自ら作成した企画書をもとに、いかに説得力のあるプレゼンテーションを行うことができるかを実際に人前でプレゼンテーションを行うまでの過程で学ぶことで、必要とされるマーケティング力、企画力、プレゼンテーション力、ディレクション力を養う。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・ “企画” とは何かを理解し作成できる基礎能力を身につける。
- ・ ゲームやアプリなどの発想・企画力を養う。
- ・ 発想・企画力を養うことで、明確なコンセプトのもとに企画書を作成することができる。
- ・ 自ら作成したゲームの企画書を用い各自発表する。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
授業の概要を説明する
事前/ゲームを企画することについて事前に調べる（3時間）
事後/講義内容の振り返りと次回講義での質問事項などの準備（2時間）
- 第 2 回 業界研究
ゲーム産業についての基本的な事柄と現状を知る
事前/ゲーム業界について調べる（2時間）
事後/講義内容の振り返りと次回講義での質問事項などの準備（2時間）
- 第 3 回 製品研究
業務用・家庭用、パッケージ型そしてネットワーク型ゲーム製品など、ゲーム製品の特徴について学ぶ
事前/ゲーム製品について調べる（2時間）
事後/講義内容の振り返りと次回講義での質問事項などの準備（2時間）
- 第 4 回 制作工程について
ゲーム制作の流れを概説し、企画書や仕様書の役割を知る
事前/ゲーム制作について調べる（2時間）
事後/講義内容の振り返りと次回講義での質問事項などの準備（2時間）
- 第 5 回 発想法（Ⅰ）拡散発想法
実際の開発者はどうしているか、ゲームプラットフォームの違いを考慮しつつ学ぶ
事前/ゲームを”発想する”ことについて調べる（2時間）
事後/講義内容の振り返りと次回講義での質問事項などの準備（2時間）
- 第 6 回 発想法（Ⅱ）連続発想法
アイデアの出し方と的確な表現について
事前/前回の講義を踏まえ”ゲームを発想する”ことについて考察する（2時間）
事後/講義内容の振り返りと次回講義での質問事項などの準備（2時間）
- 第 7 回 企画書について
企画書を作る目的や役割を知る
事前/ゲームの企画書について事前に調べる（2時間）
事後/講義内容の振り返りと次回講義での質問事項などの準備（2時間）
- 第 8 回 企画書の書き方（Ⅰ）草案
関心を持たれる見せ方について知る
事前/ゲームの企画書を如何に上手く伝えるか考えてみる（2時間）
事後/講義内容の振り返りと次回講義での質問事項などの準備（2時間）
- 第 9 回 企画書の書き方（Ⅱ）複数枚へ展開

	企画書のレイアウトと文章法についての知識を得る 事前/前回の講義を踏まえゲームの企画概要を自ら試作してみる (2時間) 事後/講義内容の振り返りと次回講義での質問事項などの準備 (2時間)
第 10 回	企画書の書き方 (Ⅲ) まとめ コンセプトの図式化の手法を理解する 事前/前回の講義を踏まえゲームの企画素案を自ら試作してみる (2時間) 事後/講義内容の振り返りと次回講義での質問事項などの準備 (2時間)
第 11 回	企画書の書き方 (Ⅳ) 調整と仕上げ 後の授業でプレゼンする企画書を作成する 事前/前回の講義を踏まえゲームの企画書を自ら試作してみる (2時間) 事後/講義内容の振り返りと次回講義での質問事項などの準備 (2時間)
第 12 回	プレゼン技法 (Ⅰ) 展開法 プレゼンの目的について 事前/プレゼンの目的や必要性を考えてみる (2時間) 事後/講義内容の振り返りと次回講義での質問事項などの準備 (2時間)
第 13 回	プレゼン技法 (Ⅱ) 実プレゼン準備 上手なプレゼン、下手なプレゼン 事前/プレゼンの目的や必要性を考えてみる (2時間) 事後/講義内容の振り返りと次回講義での質問事項などの準備 (2時間)
第 14 回	プレゼン技法 (Ⅲ) 実プレゼン 作成した企画書をもとに人前でプレゼンする 事前/上手なプレゼンとはについて考え練習する (2時間) 事後/講義内容の振り返りと次回講義での質問事項などの準備 (2時間)
第 15 回	プレゼン技法 (Ⅳ) プレゼンの聴き方とまとめ 前回のプレゼンについて評価会を行う 事前/前回のプレゼンについて自分なりの意見をまとめる (2時間) 事後/今後活かすことを念頭に講義内容の振り返りを行う (2時間)
	【アクティブラーニング】 1回 : A,B / 2回 : B / 3回 : B / 4回 : C / 5回 : A,B / 6回 : E / 7回 : E / 8回 : C / 9回 : B,C / 10回 : B,C / 11回 : B,C / 12回 : B,C / 13回 : B,C / 14回 : C / 15回 : C 【事前に修得しておく必要のある科目】 なし

	【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】 ・受講生各自が持つ独特な視点や考え方を活かして、周囲のものや世の中の様々な出来事に興味を持ちゲームを発想し企画することの心構えを持つ。
	【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】 —
	【成績評価方法・評価割合・評価基準】 ①平常点 (30%) : 好ましい授業態度で積極的に意見を述べる等、授業への参加意欲を持っているか ②企画書作成 (40%) : 授業を理解し課題に提示された内容が企画書に記載されているか ③プレゼンテーション (30%) : 自らの作成した企画案の発表を積極的に行っているか
	【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】 ・各自が作成した企画書について学生や教員がコメントを行う。 ・各自が作成した企画書をプレゼンし、それについてコメントを行う。
	【出席確認の方法】 点呼及び課題提出
	【基本的な授業の進め方】 開始～15分TOPICS業界の情報や市場動向について 15分～出席点呼・課題提出 20分～150分授業 150分～180分 内容見返り、課題出題と質疑応答
	【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】 1. 主体的行動力 : ○ 2. 表現力 : ◎ 3. 社会貢献力・コラボレーション力 : △ 4. 課題発見力・課題解決力 : ○ 5. コミュニケーション力 : ○ 6. 専門的知識・技能の活用力 : △ 【◎ : 特に関連が強い ○ : 関連が強い △ : 関連がある — : 関連していない】
	【教科書】 なし
	【参考文献】 ※別途授業時に資料を配布し紹介する。
	【オフィスアワー】 専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)
	【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】 科目の概要および目的、授業計画 : テーマ・内容
	【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】 なし

ゲーム企画演習 I

GA356

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

吉岡 章夫

〔科目の概要および目的〕

ゲームのアイデアをテキストや図式に表すことを行い、相手に伝えることを訓練する。デザイン面では、精度の高いグラフィックスの作成、画面の設計を行う。後半ではグループに分かれ、企画書の作成とゲーム制作を行う。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・プランナーとして条件を踏まえた上で魅力的な発想ができる。
- ・プランナーとして相手に伝わる企画書を作れる。
- ・デザイナーとして必要な精度の高い描画力、レイアウト作成ができる。
- ・プログラマーとしてのロジカル思考ができる。
- ・グループ制作を円滑に進めるコミュニケーション力を持つ。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
業界動向。必要なスキル。
事前/ 業界調査3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 2 回 ゲームの骨組み作成
UnityとJavaScriptを使って、ゲームの基本となるロジックを組み上げる。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 3 回 アセツトの置き換え
自分で作成したオブジェクトをMayaからUnityへ読み込ませ、ゲームプログラムの制御下に置く。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 4 回 コンセプト出し
ベースとなるUnityゲームの仕様を理解し、ゲームコンセプトを考える。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 5 回 世界観の構築
イメージの收拾、コラージュ、およびレビュー。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 6 回 レベルデザイン
ステージデザイン、難易度の設計、およびレビュー。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)

- 第 7 回 個人制作 (1)
ゲームに必要な仕組みを組み上げる。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 8 回 動作試作確認
ゲームに必要な仕組みを組み上げる。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 9 回 個人制作 (2)
PC/iPad向けゲームの製作。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 10 回 個人制作 (3)
PC/iPad向けゲームの製作。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 11 回 個人制作 (4)
PC/iPad向けゲームの製作。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 12 回 ベータ版確認
ゲームの表現、ゲームバランスの確認。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 13 回 個人制作 (5)
PC/iPad向けゲームの製作。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 14 回 個人制作 (6)
PC/iPad向けゲームの製作。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 15 回 プレゼン・講評
制作した作品を全員で講評する。
事前/ 制作3(時間)
事後/ フィードバック確認3(時間)

〔アクティブラーニング〕

- 1回 : E / 2回 : E /
3回 : E / 4回 : E /
5回 : C / 6回 : C /
7回 : E / 8回 : C /
9回 : E / 10回 : E /
11回 : E / 12回 : C /
13回 : E / 14回 : E /
15回 : C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

- ・「コンピュータグラフィックスⅡ」
- ・「インタラクティブデザイン」 ・「ゲームシナリオ制作」
- ・「企画・発想法とプレゼンテーション技法」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・Adobe Photoshop、Illustratorを使って画素材の作成が可能なこと。
- ・Unity、java script等でコンテンツ作成が出来ること。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点(最大30点)：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。
 ②ゲームコンセプト(最大5点)：表現力・完成度を評価する。
 ③レベルデザイン(最大10点)：表現力・理解度を評価する。
 ④ベータ版(最大20点)：表現力・理解度を評価する。
 ⑤最終課題(最大30点)：表現力・完成度を評価する。
 ⑥プレゼンテーション(最大5点)：課題の制作意図をしっかりと伝えられているかを評価する。

平常点が6割に満たない場合は課題の採点対象外とする。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・提出後の授業で全体にコメントします

【出席確認の方法】

授業開始時に点呼

【基本的な授業の進め方】

20分：該当回の授業の内容の説明

150分：実技

10分：クロージング解説

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない】

【教科書】

参考ウェブサイトを授業内で紹介

【参考文献】

参考ウェブサイトを授業内で紹介

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

教科書、参考文献

ゲームプログラミング入門

GA357

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

森 けい

【科目の概要および目的】

ゲームエンジンUnityを使用したゲーム制作を学習しながら、Unityの基礎知識と技能の習得を行う。ゲームは2Dと3Dのサ

ンプルをベースとしスクリプトはC#を使用する。

Unityを用いてオリジナルの作品を作ることを目的とする。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・UnityとC#を用いてゲームが制作できる
- ・ゲーム制作の基礎知識について述べるができる
- ・3Dに対する基礎知識について述べるができる

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

- 第1回 Unityについて
開発環境の構築 Unityの基礎的当での制作
事後/ 授業の復習 (3時間)
- 第2回 3Dブロック崩し(1)
ブロック崩しを作成する
事後/ 授業の復習 (3時間)
- 第3回 3Dブロック崩し(2)
ブロック崩しを作成する
事後/ 授業の復習 (3時間)
- 第4回 2Dアクションゲーム作成(1)
2Dのアクションゲームを作成
事後/ 授業の復習 (3時間)
- 第5回 2Dアクションゲーム作成(2)
2Dのアクションゲームを作成
事後/ 授業の復習 (3時間)
- 第6回 2Dアクションゲーム作成(3)
2Dのアクションゲームを作成
事後/ 授業の復習 (3時間)
- 第7回 プレゼンテーション
作った作品の発表を行う
事前/プレゼンテーション準備 (3時間)
- 第8回 FPS (1)
FPSゲームを作成する
事後/ 授業の復習 (3時間)
- 第9回 3Dゲームの作成(1)
3Dモデルを使ったゲームの作成
事後/ 授業の復習 (3時間)
- 第10回 3Dゲームの作成(2)
3Dモデルを使ったゲームの作成
事後/ 授業の復習 (3時間)
- 第11回 3Dゲームの作成(3)
3Dモデルを使ったゲームの作成
事後/ 授業の復習 (3時間)
- 第12回 3Dゲームの作成(4)
3Dモデルを使ったゲームの作成
事後/ 授業の復習 (3時間)
- 第13回 3Dゲームの作成(5)
3Dモデルを使ったゲームの作成
事後/ 授業の復習 (3時間)
- 第14回 3Dゲームの作成(6)
3Dモデルを使ったゲームの作成
事後/ 授業の復習 (3時間)
- 第15回 プレゼンテーション
作った作品の発表を行う、まとめと振り返り
事前/プレゼンテーション準備 (3時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：E / 2回：E /
 3回：E / 4回：E /
 5回：E / 6回：E /
 7回：C / 8回：E /
 9回：E / 10回：E /
 11回：E / 12回：E /
 13回：E / 14回：E /
 15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

・「プログラム基礎」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・プログラミングの基礎（変数と式、条件分岐、反復処理、関数）、もしくはプログラム経験があるのが望ましい。
 ・3DCGに対する基礎知識があると良い

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

【本授業は対面授業であるが参考として記載】

以下のソフトウェアが問題なく動作するPC

- ・Unity2020最新版
- ・VisualStudio2019最新版

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点(最大30点)：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

②課題(最大60点)：表現力・完成度を評価する。

③プレゼンテーション(最大10点)：課題の制作意図をしっかりと伝えられているかを評価する。

平常点が6割に満たない場合は課題の採点対象外とする。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

提出後の授業で全体にコメントします

〔出席確認の方法〕

指定のタイミングでコメント投稿や出席票、リアクションペーパー提出などを併用

〔基本的な授業の進め方〕

・その日のワークに必要な技術、プログラミングについて
 説明:15～30分

・その後はワークに取り組んでもらう。途中で疑問点などあれば回答する形式。

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：—
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 —：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

参考ウェブサイトを授業内で紹介

〔オフィスアワー〕

時間：授業後30分

場所：授業実施教室

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、オフィスアワー

ゲームサウンド演習

GA358

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6 【対面型】

演習/2コマ

多和田 史

〔科目の概要および目的〕

・各種メディアで使われる音楽や効果音が、実際にどのようなプロセスで作られていくのかを実習を通して学ぶ。音楽に関する基礎知識やサウンド制作の制作フローをもとに、PCを使った実践的なMIDIの打ち込み、レコーディング、マスタリング作業を行いマスター音源を完成させる。

・サウンド自主制作が可能になるレベルの制作基礎知識や、音楽の基礎知識を習得すると同時に、クリエイティブ業種に必要とされる独自性や表現力に関して自己分析を行う。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

・各種メディアのサウンド制作に必要なとされる、MIDI、オーディオ、レコーディングなど、制作に必要な一連の専門的基礎知識を身につける。

・抽象的な物象に対するイメージ力と表現力を身につける。

・ロジカルな思考力、分析力、応用力を身につける。

〔授業形態〕

6 【対面型】

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

授業方針と制作フローの説明。PC/ソフトウェア等の制作環境を構築する。

事後/講義中簡易メモ(5分)

第 2 回 制作環境構築

ハードウェア、ソフトウェアの各種設定。ソフトウェアの基本操作の解説。

事後/講義中簡易メモ(5分)

第 3 回 音楽基礎知識1

楽譜の基礎知識。プロジェクトファイルの作成。MIDIトラック制作チュートリアル。

事後/配布資料で再確認(30分)

第 4 回 音楽基礎知識2

楽譜の基礎知識。MIDIトラック制作開始。

事後/配布資料で再確認(30分)

第 5 回 MIDIトラック制作1

MIDIトラック制作、ソフトウェア機能説明。

事後/ヘルプファイル再確認(20分)

- 第 6 回 MIDIトラック制作2
MIDIドラムトラック制作、ソフトウェア機能説明。
事後/ヘルプファイル再確認(20分)
- 第 7 回 音楽制作の実際
ゲームの開発資料やグラフィックデータとサウンド制作の関連性を理解するために、現場資料や実データを用いたデモンストレーション。
事後/講義中簡易メモ(5分)
- 第 8 回 レコーディング導入
レコーディングの基礎知識。
事後/講義中簡易メモ(10分)
- 第 9 回 レコーディング1
音の整理整頓（空間）の仕方を解説。
事後/講義中簡易メモ(10分)
- 第 10 回 レコーディング2
音の整理整頓（周波数）の仕方を解説。
事後/講義中簡易メモ(10分)
- 第 11 回 レコーディング3
エフェクタープラグイン等による一歩進んだ音作りを解説。
事後/講義中簡易メモ(10分)
- 第 12 回 途中検証
プロジェクトファイルの途中検証。個別アドバイス。
事後/講義中簡易メモ(30分)
- 第 13 回 レコーディング4
各トラックのバランスのとり方やミックスダウンの方法を解説。
事後/講義中簡易メモ(10分)
- 第 14 回 マスタリング
最終仕上げ（マスタリング）解説。
事後/講義中簡易メモ(10分)
- 第 15 回 完パケ
課題提出用マスターファイルの作成。レポートファイル作成。発表と講評。
事前/作品発表準備(20分)

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：— /
5回：— / 6回：— /
7回：— / 8回：— /
9回：— / 10回：— /
11回：— / 12回：— /
13回：— / 14回：— /
15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

講義内容（特に前半）は実習を進める上で非常に重要になってくるので、不明点があれば質問や自主的に調べるなどして、次週までにはクリアにしておくこと。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

【本授業は対面授業ではあるが参考として記載】

WindowsPC（OSは64Bit）

BandLab社 Cakewalkダウンロード～インストールして使用。

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

【評価方法】

- 1.平常点（30%）：理解するための努力をしているか。創意工夫をしているか。
- 2.提出課題（60%）：提出サウンドファイルをS、A、B、C、D、Eでランキング。
- 3.レポート（10%）：制作の過程や結果について文章でまとめる。

【評価基準】

- 1.授業中で得た知識や技術を毎回丁寧に積み上げて行ったかを、プロジェクトファイルの作業痕跡や各自の質問内容等から評価。
- 2.制作に対する意欲や作品への創意工夫が成果物に反映されているかを、課題ファイルとプロジェクトファイルから評価。音楽的品質よりも授業の内容が適切に反映されているかを優先して評価。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

授業中に随時。

【出席確認の方法】

授業中に出欠カードにて行う。

【基本的な授業の進め方】

基本方針としては授業開始後に30分～60分程度の講義、残りは実習と質疑応答。

ただし、カリキュラム前半で行う授業は重要な基礎知識を含むことから、実習途中であっても15～30分程度の講義を臨機応変に行う予定。カリキュラム中盤以降は実習と個別指導が主体となる。専門的な作曲技術や音符・楽典等の知識がない学生でも、講義によって得た基礎知識の範囲で実習へ移行・応用できるよう配慮された授業内容。

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：—
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

参考資料をファイル共有。

【参考文献】

なし。

【オフィスアワー】

出講日の授業の前後。

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

アクティブラーニング

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし、出席確認の方法

3DCG I

GA359

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6 【対面型】

演習/2コマ

有富 洋平

【科目の概要および目的】

現在の3DCG制作において必要とされる制作スキルを理解し、身につけることを目的とする。具体的には、Blenderによるモデリング、マテリアル作成、UV展開、テクスチャ作成、リギング、アニメーション作成、ゲームエンジン向けのファイル書き出し、Unityでのアニメーション制御を理解する。2年次以降のゲームエンジンを用いたゲーム制作に必要なスキルである。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・BlenderのUIを理解し3Dモデルの制作に必要な操作ができる
- ・3Dモデルの制作、UV展開、テクスチャを作ることができる。
- ・3Dモデルにリグを入れウェイトを調整し自然にポーズをとらせることができる
- ・基本的なボーンアニメーションを作成できる
- ・Blenderで作成したアニメーションをゲームエンジン向けに書き出すことができる

【授業形態】

6 【対面型】

【授業計画】

- 第 1 回 ガイダンスBlenderの基本操作
本授業の目的、進め方について説明する
Blenderの画面構成や基本的な操作方法を理解する
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第 2 回 モデリング
Blenderでのモデリング、UV展開、テクスチャ作成の流れを実践しながら確認する
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第 3 回 マテリアルとUV展開
Blenderのマテリアル、ノードの理解を深める
Blender上でのUV展開の方法を理解する
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ マテリアルの課題 1.0 (時間)
- 第 4 回 テクスチャ作成
テクスチャに関する基本的な知識を理解する
UVマップを元にBlender上でテクスチャを描く
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ テクスチャ作成課題 1.5 (時間)

- 第 5 回 リギング
リギングの基本的な考え方を説明する
Blender上でのリギング
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ リギング作成の課題 1.0 (時間)
- 第 6 回 ウェイト調整
ウェイトペイントやモディファイアを使ったウェイトの調整方法を理解する。ポーズライブラリの使い方を理解する
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ ウェイト調整の課題 1.5 (時間)
- 第 7 回 課題1 (中間課題)
モデルにリグを入れウェイトの調整を行う
事前/課題制作への準備(復習)2.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第 8 回 アニメーション作成
待機モーション/歩きモーション作成
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第 9 回 アニメーションのエクスポートとインポート
Blenderで複数のアニメーションまとめて書き出す方法とUnityにインポートして使う方法を理解する
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第 10 回 Unity上でのアニメーション制御(1)
Animatorを使い、スクリプトからアニメーションを切り替えられるようにする。他モデルのアニメーションを流用する方法を理解する
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第 11 回 Unity上でのアニメーション制御(2)
Cinemachine、Timelineの使い方を理解する
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第 12 回 課題制作 (1)
リアルタイムレンダリングのアニメーション制作
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第 13 回 課題制作 (2)
リアルタイムレンダリングのアニメーション制作
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第 14 回 課題制作 (3)
リアルタイムレンダリングのアニメーション制作
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第 15 回 プレゼン・講評
プレゼン、講評
事前/プレゼンテーション準備1.5 (時間)
事後/ (時間)

【アクティブラーニング】

- 1回：B / 2回：B /
3回：B / 4回：B /
5回：B / 6回：B /

7回：— / 8回：B /
 9回：B / 10回：B /
 11回：B / 12回：— /
 13回：— / 14回：— /
 15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

・「コンピューターグラフィックスⅡ」

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

Maya、Photoshopの基本操作を理解していること

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点（最大30点）：授業に積極的に取り組む姿勢を評価する

②授業後の提出課題（最大20点）：理解度、完成度を評価する。

③中間課題（最大20点）：理解度、完成度を評価する。

④最終課題（最大20点）：理解度、完成度を評価する。

⑤プレゼンテーション（最大10点）：課題の制作意図をしっかりと伝えられているかを評価する。

平常点が6割に満たない場合は課題の採点対象外とする。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

授業後の課題はTeamsにて全体にフィードバックします

課題制作は提出後の授業で全体にコメントします

【出席確認の方法】

授業時にTeamsのチャンネル上でのコメント投稿および点呼で確認

【基本的な授業の進め方】

・授業の概要説明：5分

・その日の講義1：説明 20分 →ハンズオン形式：60分

・その日の講義2：説明 20分 →ハンズオン形式：60分

・授業の振り返り10分・次回課題説明5分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：△

5. コミュニケーション力：△

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

①無料ではじめるBlender CGアニメーションテクニック ②

大澤龍一 ③技術評論社 ④3,058円

【参考文献】

適宜授業内で参考ウェブサイト、書籍を紹介

【オフィスアワー】

時間：出講日（月曜日）の授業後

場所：授業実施教室

それ以外の時間はTeamsにて受け付けます

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

教科書、参考文献

ゲームキャラクターデザイン

GA/MD360

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6 【対面型】

演習/2コマ

井上 幸喜

【科目の概要および目的】

デジタルコンテンツの世界観や登場人物の性格をアイコンとして表現すると共に、ゲーム表現配慮したデザイン作成。コンテンツにおけるキャラクターデザインの手法を学びます。また、マーチャンダイズにおけるキャラクタービジネスについても学習します。毎回課題作成と評価を行います。授業内でのソフト操作は中級レベルを学習します。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・ゲームキャラクターの基本的な考え方を身につける。
- ・キャラクターディレクションシートの作り方の基礎を身につける。
- ・クライアント課題に合わせたデザイン創造と提案能力を身につける。

【授業形態】

6 【対面型】

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 キャラクターデザイン作成の準備 プレゼンテーションの準備
 事後/課題作成（2時間）
- 第2回 キャラクターデザインの現在
 キャラクターデザイン作成の準備とIllustratorによるキャラクター作画
 事前/プレゼンテーション準備（30分）
 事後/課題作成（2時間）
- 第3回 キャラクターデザイン基礎
 自分についてキャラクターで表現
 事後/課題作成（2時間）
- 第4回 キャラクターデザイン作成（1）
 キャラクターマトリックスについてアイデア出し
 事前/プレゼンテーション準備（30分）
 事後/課題作成（2時間）
- 第5回 キャラクターデザイン作成（2）
 主人公キャラクターの作成と中間講評
 事前/プレゼンテーション準備（30分）
 事後/課題作成（2時間）
- 第6回 キャラクターデザイン作成（3）
 ライバルキャラクターの作成
 事前/プレゼンテーション準備（30分）
 事後/課題作成（2時間）
- 第7回 キャラクターデザイン作成（4）

- キャラクターシート制作と中間講評
事後／課題作成（4時間）
- 第 8 回 キャラクター設定基礎
設定資料の準備と心得
事後／課題作成（4時間）
- 第 9 回 ゲームキャラクターの作成（1）
ドット絵作成の基本技能
事後／課題作成（4時間）
- 第 10 回 ゲームキャラクターの作成（2）
2Dキャラクターの作成
事後／課題作成（4時間）
- 第 11 回 ゲームキャラクターの作成（3）
3Dポリゴンキャラクターの作成
事後／課題作成（4時間）
- 第 12 回 ゲームキャラクターシート作成（1）
ゲーム作成向けキャラクター仕様書作成 仕様作成
事後／課題作成（4時間）
- 第 13 回 ゲームキャラクターシート作成（2）
ゲーム作成向けキャラクター仕様書作成 設定決定
事後／課題作成（4時間）
- 第 14 回 ゲームキャラクターシート作成（3）
ゲーム作成向けキャラクター仕様書作成 完成
事後／最終課題作成（2時間）
- 第 15 回 発表と講評
全体総括と個別評価 振り返り
事前／プレゼンテーション準備（2時間）

〔アクティブラーニング〕

- 1回：A / 2回：— /
3回：C / 4回：B /
5回：C / 6回：— /
7回：C / 8回：— /
9回：C / 10回：C /
11回：C,E / 12回：— /
13回：— / 14回：— /
15回：C,E

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

- ・「インタラクティブデザイン」
- ・「コンピュータグラフィックスⅡ」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・発表力とプレゼンテーション能力、日本語の理解と文章作成能力を有する事
- ・Illustrator、Photoshop、PowerPointの基礎操作習得者及びペインタブレットの使用が出来る事を前提とする
- ・各ソフトの基本操作が出来ない者は履修できません

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法 ・評価割合・評価基準〕

- ①平常点（30%）：授業態度
- ②中間提出物（30%）：完成度、クオリティ、プレゼンテーション
- ③最終時課題（40%）完成度、クオリティ、プレゼンテーション

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・提出後全体評価と個別評価
- ・他学生の評価と講評

〔出席確認の方法〕

点呼及び課題提出

〔基本的な授業の進め方〕

開始～15分TOPICS業界の情報や市場動向について
15分～出席点呼・課題提出
20分～150分授業

150分～180分 内容見返り、課題出題と質疑応答

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

随時紹介使用する

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

編集デザイン表現 I

旧 イラストレーション表現

IL361

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6 【対面型】

演習/2コマ

城芽 ハヤト

〔科目の概要および目的〕

挿画装丁などの実際の仕事に照らして、デジタル・手描き両方でのイラストレーションの制作を進めます。また、衣類などへ応用できる連続パターンや、学外ギャラリーでの展覧会に出展するポストカード制作を通じて、イラストレーションの発表に結びつけるスキルを身につけます。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・表現力：モノクローム・彩色、デジタル・手描きでの技能の基本を身につける
- ・コミュニケーション力：人物など目に見える描写の中に、他者である作家が伝えたいことばや思いを入れこむことができ、他者である読者に伝えることができる。

- ・社会貢献力・コラボレーション力：平和の絵はがきPEACE CARD展への参加で、絵で社会にアピールする体験を得る。
- ・専門的知識・技術の活用力：Photoshop作画の応用を身につける

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 挿画を描く／小説挿画の表現(1)デジタルアナログ表現
城芽の実際のモノクロデジタル技法を解説し、自分のデジタルパレットを作ってもらいます。
事前/小説の読み込み(2H)
事後/データの保存(0.5H)
- 第 2 回 挿画を描く／小説挿画の表現(2)文章を切り取る
小説から二場面を選び、トビラ絵と文中絵の役割を解説。独自パレットからのコピーペースト表現を実演。
事前/図書室・インターネット等での資料研究(1H)
事後/完成データの保存・提出(1H)
- 第 3 回 装丁画を描く／小説表紙の表現(1)買わせる視覚化
(1)での小説挿画を、それを含む選集単行本の表紙カバー装丁へ発展させる際の違いを解説
事前/図書室・インターネット等での資料研究(1H)
事後/データの保存(0.5H)
- 第 4 回 装丁画を描く／小説表紙の表現(2)色彩のイメージ
作品世界を商業化する色彩計画などビジュアル表現を解説
事前/図書室・インターネット等での資料研究(1H)
事後/データの保存(0.5H)
- 第 5 回 装丁画を描く／小説表紙の表現(3)装丁完成
タイトル文字・オビを意識した仕上げまでを説明
事前/図書室・インターネット等での資料研究(1H)
事後/完成データの保存・提出(1H)
- 第 6 回 装丁を描く／上下巻のカバー絵(1)つながるビジュアル構成
自身が主役の上下巻の単行本表紙の制作。主役設定からラフまで。二巻の統一性を目指すビジュアルのつなげ方を解説。
事前/図書室・インターネット等での資料研究(1H)
事後/データの保存(0.5H)
- 第 7 回 装丁を描く／上下巻のカバー絵(2)下絵から本画へ
ラフ提出から本稿下描き。制作へ。制作時間から、完成可能な構成・分量を指示します。
事前/図書室・インターネット等での資料研究(1H)
事後/データの保存(1H)
- 第 8 回 装丁を描く／上下巻のカバー絵(3)本製作
引き続き制作。二巻のつながりを意識し、2点のレベルが同じになるよう指導します。
事前/図書室・インターネット等での資料研究(1H)
事後/データの保存(0.5H)

- 第 9 回 装丁を描く／上下巻のカバー絵(4)上下巻のバランス
引き続き制作。のこり時間から、完成に持ち込む力を引出します。2点の完成。
事前/図書室・インターネット等での資料研究(1H)
事後/データの保存(1H)
- 第 10 回 装丁を描く／上下巻のカバー絵(5)想定要素完成
完成作品を単行本カバー状にプリントアウトしたものを披露し、合評会
事前/図書室・インターネット等での資料研究(1H)
事後/データ出力保存(1.5H)
- 第 11 回 連続パターン表現の研究(1)オクリの理解
絵を連続してパターン化する「オクリ」の表現を解説する。オクリのテクニックを各自研究。
事前/図書室・インターネット等での資料研究(1H)
事後/テクニック研究(1H)
- 第 12 回 連続パターン表現の研究(2)自作完成
ファブリック等応用ジャンルを考え、コンピュータも使った実際の絵柄作成を指導。
事前/図書室・インターネット等での資料研究(1H)
事後/データ出力保存(1H)
- 第 13 回 ポストカードをつくる／ピースカード(1)アイデア出し
実際のポストカード展への出展を前提としたカード原画制作、展示テーマを説明します。
事前/プリント読み ネット資料チェック(1H)
- 第 14 回 ポストカードをつくる／ピースカード(2)原画としての作画
印刷物にするための、制作過程での細かな留意点などもチェック指導します。
事前/インターネット等での資料研究(1H)
事後/データの保存(0.5H)
- 第 15 回 ポストカードをつくる／ピースカード(3)印刷版下完成
原画をデジタルデータ化し、印刷所への版下とするためのフィニッシュワークまでを解説。その後各自入稿(100枚印刷)外部展示参加
事前/図書室・インターネット等での資料研究(1H)
事後/版下入稿・完成カードを各展示会場に発送・展示参加(5H)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：F / 2回：F /
3回：F / 4回：F /
5回：F / 6回：F /
7回：F / 8回：F /
9回：F / 10回：D,F /
11回：E,F / 12回：E,F /
13回：F / 14回：F /
15回：E,F

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・Photoshopが使えること。
- ・ポストカード課題において、100枚印刷代金(1,200円程度)のその時点での価格が必要です。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点(10%)：授業出席態度・クラスへの貢献などを評価する。ボーダーラインでの決め手。
- ②提出課題(70%)：表現力・完成度を評価する。課題それぞれに点数を振り分けるので、提出漏れに注意。
- ③クロッキー(20%)：毎授業冒頭のクロッキーの技能を評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・手書き・デジタルともに、実技に対し個別にコメントします。
- ・手書き提出課題にはコメントを添えて返却します。

〔出席確認の方法〕

授業開始時に点呼により確認をします。

〔基本的な授業の進め方〕

毎回冒頭20分は人物クロッキー。各課題初回授業で課題説明。授業中は学生の自習制作を基本とし、机間巡視で状況を見て随時個人指導コメント。制作初心者へは初歩的技法指導コメント。城芽も可能な範囲で同課題制作。90分時点で10分間の休憩。各課題終了時で全体講評40分。

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：○
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

時間：出講日の授業後

場所：授業実施教室・イラストレーション研究室(812)／Teams

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など

イラストレーションⅡ

旧 イラストレーション技法

IL362

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

西岡 悠妃

〔科目の概要および目的〕

イラストレーションを描く上で必要な、作品を客観的に見られる能力を身につける。

楽しみながら普段描かないジャンルの絵も描くことで、ポートフォリオの作品充実も目指す。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・自身の得意な表現を把握する。
- ・客観的な視点を身につける。
- ・将来依頼を受ける際に自分なりの楽しみ方を見つける能力を身につける。

〔授業形態〕

5【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第1回 授業全体のオリエンテーションと課題説明〔動物、人など、他者が設定したキャラクターで絵を描く〕
事前/制作(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第2回 第1回で提出した課題シートをもとに、ラフ案を練る
事前/制作(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第3回 制作(方向性を固める)
事前/制作(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第4回 制作(作品の仕上げ)
事前/制作(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第5回 制作(作品の仕上げ)／全体講評
事前/制作(1時間程度)
事後/制作(1時間程度)
- 第6回 第5回の講評の振り返りと課題説明〔好きな映画をオリジナルのイメージでチラシの制作する〕
事前/制作(1時間程度)
事後/制作(1時間程度)
- 第7回 制作(映画の設定と課題シートの提出)
事前/制作(1時間程度)
事後/映画鑑賞(2時間程度)
- 第8回 制作(構図の本決め)
事前/制作(1時間程度)
事後/制作(1時間程度)
- 第9回 制作(課題シートの講評／映画のチラシの講義)
事前/制作(1時間程度)
事後/制作(1時間程度)

- 第 10 回 制作(途中経過の確認)
事前/制作(1時間程度)
事後/制作(1時間程度)
- 第 11 回 制作(仕上げ)／全体講評
事前/制作(1時間程度)
事後/制作(1時間程度)
- 第 12 回 第11回の講評の振り返りと課題説明 [アルファベ
ットを自分のキャラクターでデザインする]
事前/制作(1時間程度)
事後/制作(1時間程度)
- 第 13 回 制作 [案を固める]
事前/資料を集める(1時間程度)
事後/制作(1時間程度)
- 第 14 回 制作 [仕上げ]
事前/制作(1時間程度)
事後/制作(1時間程度)
- 第 15 回 制作／全体講評
事前/仕上げ(1時間程度)
事後/振り返り(1時間程度)

【アクティブラーニング】

- 1回：E / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：C / 6回：E /
7回：E / 8回：E /
9回：E / 10回：E /
11回：C / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

「イラストレーションⅠ」

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・画材費用として、500円程度を徴収します。
- ・アクリルガッシュ（彩色用画材含む）、定規類が必要になります。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①授業への参加姿勢（20%）：授業マナーを守り、積極的に参加出来ているか。
- ②課題（80%）：テーマを理解出来ているか。完成度にこだわっているか。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

課題毎に講評会、または個人毎にコメントをします。

【出席確認の方法】

点呼とteamsによる出席確認、授業最後に課題ワーク提出

【基本的な授業の進め方】

- ・授業説明:10分～20分
- ・その日のワーク／全体への課題解説や個人毎の質疑応答、アドバイス
- ・次回課題説明5分（講評時は1時間ほど）

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：一
4. 課題発見力・課題解決力：○

5. コミュニケーション力：一
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
一：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板上に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方

視覚表現Ⅱ

旧 造形表現演習Ⅱ

IL363

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部＞メディア芸術学科＞専門科目＞専門選択科目（3）

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

たぶき 正博

【科目の概要および目的】

動物（野鳥）と植物のイラストをアナログとデジタルの両方の技法でリアルに描く演習をします。単に描くだけではなく骨格や行動・習性などを学習し、種の識別も観察と知識で学んでいきます。最終課題はアナログとデジタルを併用しイメージ作品を制作します。自然や環境を含め対象を科学的に知った上で描けばよりリアルに表現できる事を学び、さらにアナログとデジタル両方で描く事により表現の幅を広げ、それぞれ自己の適性と可能性を発見する事が目標です。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・野鳥の構造や動きを知り正しいポーズの鳥が描ける
- ・身近な野鳥の識別ができるようになる
- ・ボタニカルアートの基礎を知り透明水彩が使える
- ・MacとPhotoshopの高度な技法が使える
- ・Photoshopで独自のイラスト作品が描ける
- ・Photoshopでデザイン制作が出来る

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第 1 回 講義の概要 リアルイラスト演習Ⅰ

授業の説明と参考画像の解説

野鳥のポーズを描く演習

事前/ 道具類の準備と確認（1時間）

事後/ 野鳥図鑑確認（2時間）

第 2 回	リアルイラスト演習 2 野鳥を描く1 基本構造、骨格について解説後演習 講評 事前/ 野鳥図鑑予習 (1.5時間) 事後/ 野鳥スケッチ (1.5時間)	事前/演習課題を続行 (1時間) 事後/演習課題を完成させる (2時間)	
第 3 回	リアルイラスト演習 3 野鳥を描く2 行動や習性について解説後演習 事前/好きな鳥を選び資料集めと研究 (1.5時間) 事後/野鳥画進行 (1.5時間)	第 14 回	イメージイラスト制作 1 デジタル作品制作 アナログ+デジタルでイメージイラストを制作 事前/演習課題を続行 (1時間) 事後/制作課題を続行 (2時間)
第 4 回	リアルイラスト演習 4 野鳥を描く3 識別と環境について解説後演習 講評 事前/野鳥画進行 (1.5時間) 事後/野鳥画完成させる (1.5時間)	第 15 回	イメージイラスト制作 2 講評とまとめ デジタル作品制作 課題作品の確認と講評 技法・要点のまとめ 事前/制作課題を続行 (3時間) 事後/制作課題を完成させる (1時間～)
第 5 回	リアルイラスト演習 5 野菜を描く 実物を観察しスケッチ 講評 事前/植物学の予習 (1.5時間) 事後/演習を完成させる (1.5時間)	〔アクティブラーニング〕 1回：— / 2回：— / 3回：— / 4回：F / 5回：— / 6回：— / 7回：F / 8回：— / 9回：— / 10回：— / 11回：F / 12回：F / 13回：— / 14回：— / 15回：F	
第 6 回	リアルイラスト演習 6 植物を描く1 植物画 (ボタニカルアート) の解説 後演習 前回の講評 事前/植物画の予習 (1.5時間) 事後/下書きと着色 (1.5時間)	〔事前に修得しておく必要のある科目〕 ・「コンピュータデザイン基礎 I」	
第 7 回	リアルイラスト演習 7 植物を描く2 透明水彩で着色と指導 事前/着色 (1時間) 事後/着色 (2時間)	〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕 ・Macコンピュータの基本操作とPhotoshopの初級技能を持っている事 ・透明水彩絵の具と細い面相筆が必須。	
第 8 回	リアルイラスト演習 8 植物を描く3 透明水彩で着色と指導・講評 事前/着色 (1.5時間) 事後/講評指摘部分を修正・加筆完成させる (1.5時間)	〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕 —	
第 9 回	Photoshopの技法演習 1 Mac&Photoshopの操作復習と演習 自己作品の色調調整と切り抜き演習 事前/Photoshop操作予習 (1.5時間) 事後/演習の復習 (1.5時間)	〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕 ①平常点 (20%)：授業への集中度と積極性を評価 ②演習課題点 (60%)：演習の習得度と努力を評価 ③課題作品点 (20%)：課題テーマに対するアイデア、完成度、熱意を総合評価	
第 10 回	Photoshopの技法演習 2 ツールカスタマイズと額縁制作演習 講評 事前/スキャンデータ準備 (1時間) 事後/演習課題を完成させる (2時間)	〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕 ・演習作品は当日または翌週講評 ・課題作品は提出日又は後日個別にコメント	
第 11 回	Photoshopで描くイラスト1 パスとチャンネルを使って「バラの花」演習 事前/アナログデータ準備 (1時間) 事後/演習課題を完成させる (2時間)	〔出席確認の方法〕 授業開始時の点呼と演習課題提出	
第 12 回	Photoshopで描くイラスト2 選択範囲とマスクを使って「バラの花」演習 講評 事前/演習課題を続行 (1時間) 事後/演習課題を続行 (2時間)	〔基本的な授業の進め方〕 演習内容の講義と説明 (40～60分) 前回演習課題の講評 (30分) 演習と指導(90～120分) 演習のまとめと次回の説明 (20分)	
第 13 回	Photoshopで描くイラスト3 テキストチャーとグラデーションで「バラ」のアレンジ、水滴加筆演習 講評	〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕 1. 主体的行動力：○ 2. 表現力：◎ 3. 社会貢献力・コラボレーション力：— 4. 課題発見力・課題解決力：○ 5. コミュニケーション力：— 6. 専門的知識・技能の活用力：◎ 【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない】	

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

「ACAアドビ認定アソシエイト対応 PhotoshopCC試験対策」
 築城厚三著 2,000円 オデッセイ コミュニケーションズ
 【オフィスパワー】

時間：出講日の授業前後30分

場所：授業実施教室またはイラストレーション研究室（812）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方

造形表現演習Ⅱ

旧 視覚表現Ⅱ（キャラクターデザイン）

IL377

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6 【対面型】

演習/2コマ

高田 美苗

〔科目の概要および目的〕

日本では古来より「万物に魂が宿る」という神道の思想より、物を物質ではなく有機的な視点で受け入れ尊まれて来た。そうした「ひとがた」への愛着は、現代でもキャラクターのフィギュアや、衣装やメイクをカスタム出来るドールとして、現代の若い世代に深く浸透している。球体関節人形を制作する過程で、粘土や画材等、多くのマテリアルに直接触れ、素材の特質に触れる事が出来る。デジタル化により今後多くの仕事が無人化され、個々の更なる個性が問われていく中、独自の発想力や適応力を身に付させる。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

・平面での制作の表現にも役立つ立体造形力を身につけることができる。

・2次元ではなく現実のマテリアルの持つ特徴や素材の扱い方を経験する中で、より重さ、固さ、滑らかさといった視覚的に表現する基礎力を身につけることができる。

・様々な道具の使用方法を、実践的に学ぶことができる。

〔授業形態〕

6 【対面型】

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス、人形の設計

授業内容、材料等の説明。設計図正面・側面図を描く。

事前/球体関節人形のイメージ作り（3時間）

事後/設計図を完成させる（1時間）

第 2 回 人形の芯制作

芯のスティロール削り。清水真理先生来校日。

事前/球体関節人形のイメージ作り（3時間）

事後/設計図を完成させる（1時間）

第 3 回 芯に肉付けをする

土台に粘土を巻く。手足の土台（針金）を作る。

事前/素材購入(2時間)

事後/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

第 4 回 芯を抜く

粘土から土台を抜く。

事前/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

事後/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

第 5 回 粘土を盛る

粘土による造形。

事前/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

事後/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

第 6 回 粘土を削る、盛る（1）

腕と脚部の肉付けと、解剖学。

事前/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

事後/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

第 7 回 粘土を削る、盛る（2）

手足の造形。肉付けと鑿がけ。

事前/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

事後/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

第 8 回 粘土を削る、盛る（3）

肉付けと鑿がけ。顔の造形。

事前/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

事後/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

第 9 回 球体関節の球作り

球を付ける。清水真理先生来校日。

事前/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

事後/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

第 10 回 全体のバランスを見る

仮繋ぎ。清水真理先生来校日。

事前/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

事後/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

第 11 回 粘土を削る、盛る（4）

各パーツに粘土の受けを付ける。鑿がけ。

事前/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

事後/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

第 12 回 塗装（1）

塗装(刷毛によるアクリル塗装)。

事前/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

事後/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

第 13 回 塗装（2）

塗装、メイク。

事前/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

事後/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

第 14 回 本体の完成

フックを作り、パーツの繋ぎ。

事前/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

事後/作業の遅れがあれば家で進める（2時間）

第 15 回 細部の仕上げ、講評会

かつら、ヘアの作業完成。発表。

事前/発表準備 (2時間)

事後/復習 (2時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：D / 2回：E /

3回：E / 4回：E /

5回：E / 6回：E /

7回：E / 8回：E /

9回：E / 10回：E /

11回：E / 12回：E /

13回：E / 14回：E /

15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・「空間構成」「デッサン」を履修済みであることが望ましい。
- ・人形作家の清水真理先生をゲスト講師に招いての授業。必ず、人形1体を完成させること。人形は、人間以外の動物は不可とする。

- ・材料の購入予算を10,000円程度準備しておく。(筆記具、スチロール、金属やすり、紙やすり、カッター、彫刻刀、粘土ベラ、スポンジ、紙粘土、ドールヘア、ドールアイ、針金、筆、アクリル絵具、丸ゴムなどが必要。初回に説明)

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①課題制作点 (60%)：課題の表現力・独創性・完成度を評価する。

②平常点 (30%)：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

③課題発表 (10%)：課題の制作意図をしっかりと発表できているか。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・課題案の発表を行う・完成作品について発表、講評を行う

〔出席確認の方法〕

授業開始時に出席票で確認、又は、名前を呼んで確認

〔基本的な授業の進め方〕

- ・出席確認：5分
- ・授業説明：10分
- ・その日の作業：75分 ※随時、進行チェック
- ・その日の作業：70分 ※随時、進行チェック
- ・作業の片付け：30分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

『吉田式 球体関節人形 制作技法書』吉田良著 HOBBY JAPAN 2,934円

『はじめて作る球体関節人形』アイミ著 Kindle版 1,980円

〔オフィスアワー〕

時間：出庫日の授業前後

場所：授業実施教室

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：事前・事後学習

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、オフィスアワー

グラフィックデザイン演習Ⅰ Ⅱ グラフィックデザインⅡ

IL/MD364

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6 【対面型】

演習/2コマ

松吉 太郎

〔科目の概要および目的〕

演劇のグラフィックをモチーフにデザインを学ぶ。劇団名を考えロゴタイプを作成する事から始め、B2サイズのポスター、パンフレットもデザインする。ロゴのレタリング、ポスターは全て手描きで仕上げる。演劇をテーマにする事で、単に情報を伝達するだけに留まらず、情緒豊かに芸術性を伴う表現で伝える事を学ぶ。またロゴタイプ、ポスター、パンフレットの作成を通してグラフィックデザインの基本的表現を学ぶ。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・グラフィックデザインの基本概念を把握する
- ・表現の目的と多様性を考え実践する
- ・デザインによるコミュニケーションの習得
- ・自分が表現したものについて他者に論理的に説明ができる。
- ・演劇と云う文化に触れる事で、感性を育みながら表現の幅を広げることができる。

〔授業形態〕

6 【対面型】

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

全体の流れを説明 モチーフにする戯曲の紹介

但し、進行状況により多少講義内容を変更する事があります

事後/課題の制作(4時間)

第 2 回 課題Ⅰ [ロゴタイプ] (1)

- 劇団名をそれぞれ考え、ラフスケッチを重ねる
事前/課題の制作(4時間)
事後/課題の修正点の確認(2時間)
- 第 3 回 課題Ⅰ [ロゴタイプ] (2)
複数の出したアイデアをまとめ検証してから制作に入る
事前/課題の制作(4時間)
事後/課題の修正点の確認(2時間)
- 第 4 回 課題Ⅰ [ロゴタイプ] (3)
講評会 完成した作品を解説・説明
次課題の説明 モチーフにする戯曲の選定
事前/課題の制作(4時間)
事後/講評の検証(1時間) 課題の制作(2時間)
- 第 5 回 課題Ⅱ [ポスター] (1)
B2サイズのポスターをデザインする B2パネル
もしくはイラストボードを使用、各自事前に用意
する ラフスケッチを始める
事前/課題の制作(4時間)
事後/課題の修正・制作(2時間)
- 第 6 回 課題Ⅱ [ポスター] (2)
ビジュアル案を多数案考え、ラフスケッチを重ね
る
事前/課題の制作(4時間)
事後/課題の修正・制作(2時間)
- 第 7 回 課題Ⅱ [ポスター] (3)
複数の出したアイデアをまとめ、表現も色々と試
作しながらデザインを練り上げる B2原寸のラフ
で検証の上、下描き作成
事前/課題の制作(4時間)
事後/課題の修正・制作(2時間)
- 第 8 回 課題Ⅱ [ポスター] (4)
下描きチェックを受けた後、彩色など制作を進め
る
事前/課題の制作(4時間)
事後/課題の修正・制作(2時間)
- 第 9 回 課題Ⅱ [ポスター] (5)
制作過程のチェックを受けながら仕上げる
事前/課題の制作(4時間)
事後/課題の修正・制作(2時間)
- 第 10 回 課題Ⅱ [ポスター] (6)
講評会 完成した作品を解説・説明する
次課題の説明
事前/課題の制作(4時間)
事後/講評の検証(1時間) 課題の制作(2時間)
- 第 11 回 課題Ⅲ [パンフレット] (1)
パンフレットをデザインする
どのような内容にするかページ構成を考える。
事前/課題の制作(4時間)
事後/課題の制作(4時間)
- 第 12 回 課題Ⅲ [パンフレット] (2)
コンテを作りページ構成のアイデアを練る ダミ
ーなども作成
事前/課題の制作(4時間)
事後/課題の修正・制作(2時間)

- 第 13 回 課題Ⅲ [パンフレット] (3)
構成案や試作したページデザインのチェックを受
けながら制作を進める
事前/課題の制作(4時間)
事後/課題の修正・制作(2時間)
- 第 14 回 課題Ⅲ [パンフレット] (4)
制作過程のチェックを受けながら仕上げる
事前/課題の制作(4時間)
事後/課題の修正・制作(2時間)
- 第 15 回 全作品の最終講評会
パンフレットのプレゼンテーション
先に制作した課題作品を含め全体を総括する
事前/課題の制作(4時間)
事後/講評の検証(1時間)

【アクティブラーニング】

- 1回：C / 2回：C /
3回：C / 4回：C /
5回：C / 6回：C /
7回：C / 8回：C /
9回：C / 10回：C /
11回：C / 12回：C /
13回：C / 14回：C /
15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

この講義はグラフィックデザインの入門編ですので課題は基本手描きで仕上げます。またポスターデザインではB2サイズ(728×515mm)に対峙してもらい、これを通してグラフィックデザインを実際に体感しながら学ぶ講義となります

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

ー

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点(30%)：毎回の発表・報告・連絡・相談がきちんと行われているかを評価する
②課題(50%)：理解力・発想・表現力・芸術性を総合的に評価する。
③課題発表(20%)：作品をいかに理論的に説得力を持ってプレゼンテーション出来るかを評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

毎回の講義で必ず1度は課題の進行具合の報告もしくは発表をしてもらいます。その際に個別の質問を受け助言して行きます

【出席確認の方法】

講義の最初に出欠を取る。

【基本的な授業の進め方】

- 授業全体説明15分
- テーマ別レクチャー20分
- 課題の提出や進捗の報告55分
- 個別指導もしくは発表70分
- まとめと次回の講義説明20分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：－
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：－
4. 課題発見力・課題解決力：－
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：△

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
－：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

必要に応じて随時授業内で紹介します。

〔オフィスアワー〕

時間：出講日の授業後30分程度

場所：授業実施教室

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

科目の概要および目的、授業計画：テーマ・内容、アクティブラーニング

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

課題やレポート等に対するフィードバックの方法

インデペンデント映像及びアニメーション概論

旧 アニメーション原理

IL/MD/MM313

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

芦谷 耕平

〔科目の概要および目的〕

現代で言う音楽アーティストのPVなどを含む独立系映像とは、映画史の発達とアートのムーブメントと共に成立していった。世界各国のアート系映像作家の作品から、歴史、映像分野の特性などを解説し、実際の参考映像などを上映しながら幅広い意味での映像原理を講義部分で、教員との密なディスカッションを通して学んでいく。また平行して、与えられたテーマに沿って実際に映像制作作業を行っていく、時間軸をもった映像特有の表現を理解し、実践的な技術の修得を独立系アート映像表現と密接に結びつけながら動画の完成を目指す。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・“物語を語るもの”以外の映像固有の表現を理解する
- ・積極的なディスカッションにより映像・アニメ表現や映像史全般への造詣を深める
- ・課題を通してアニメーションも含めた映像全般の制作能力を身につける
- ・フリーランスとして仕事をする場合などを想定し、クラ

イアントにプレゼンテーションするための企画力・イメージ喚起力や映像演出能力とアニメーション力を身につける

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス・「映像」を考える
授業ガイダンス・「映像」の正体とは何か？を考察する
事前/映像の基本の予習(1時間)
事後/映像の基本の復習(2時間)
- 第 2 回 アート映像に触れる
「映像」の正体とは何か？考察の答えと映像表現
事前/映像の基本の予習(1時間)
事後/映像の基本の復習(2時間)
- 第 3 回 用語基礎・独立系映像略史(1)
映像のアート表現の歴史、ソーマトロープなどアニメ前史の運動装置、アニメーション成立の略史を解説する リュミエール兄弟、ジョルジュ・メリエス
事前/映像の歴史の予習(1時間)
事後/映像の歴史の復習(2時間)
- 第 4 回 独立系映像略史(2)
映画・映像の成り立ち ジガ・ヴェルトフ、レフ・クレシヨフ、エイゼンシュテイン
事前/映像の歴史の予習(1時間)
事後/映像の歴史の復習(2時間)
- 第 5 回 アートと独立系映像(1)
実験映画と映画表現の解説 ロッセリーニ、ウエルズ、フェリーニ、ウォーホール
事前/アート映像史の予習(1時間)
事後/アート映像史の復習(2時間)
- 第 6 回 アートと独立系映像(2)
シュルレアリスムとビデオアートの解説 マンレイ、ブニエール、ルネ・クレール、ヴィル・ヴィオラ、N・J・パイク
事前/アート映像史の予習(1時間)
事後/アート映像史の復習(2時間)
- 第 7 回 アートとアニメーションデザイン
抽象アニメーションの解説 ノーマン・マクラレン、オスカー・フィッシンガー、レン・ライ
事前/アニメ映像史の予習(1時間)
事後/アニメ映像史の復習(2時間)
- 第 8 回 質感表現と個人アニメーション
絵本を飛び出したようなアニメーションの解説 シュバンクマイエル、ユーリ・ノルシュテイン、フレデリック・バック、山村浩二
事前/アニメ映像史の予習(1時間)
事後/アニメ映像史の復習(2時間)
- 第 9 回 アートとCGデザイン
CGやテクノロジーとデザインの解説 ジョン・ウィットニー、ロバート・エイブル、神風動画、チームLab☆
事前/CG映像史の予習(1時間)
事後/CG映像史の復習(2時間)

- 第 10 回 実制作／絵コンテ・映像制作課題
 課題①：「与えられたテーマ」に沿って絵コンテ制作
 課題②：「与えられたテーマ」に沿ってショートムービー映像制作
 事前/絵コンテの予習・提出課題の自主作業(2時間)
 事後/提出課題の自主作業(5時間)
- 第 11 回 テクノロジーと最新のPV表現(1)
 CGやテクノロジーとMVの解説、ミシェル・ゴンドリー
 事前/CG映像の予習(1時間)
 事後/CG映像の復習(2時間)
- 第 12 回 テクノロジーと最新のPV表現(2)
 高橋栄樹とTHE YELLOW MONKEY、映像表現の独自性、固有性
 事前/MV映像の予習(1時間)
 事後/MV映像の復習(2時間)
- 第 13 回 テクノロジーと最新のPV表現(3)
 MVと女性シンガー・邦楽の時代を牽引する表現、安室奈美恵・YUKI・Perfume・サザン
 事前/MV映像の予習(1時間)
 事後/MV映像の復習(2時間)
- 第 14 回 実制作(4)・課題提出／講評
 制作、編集、必要があれば録音。編集ソフトで制作した課題をPC上で動画ファイルに書き出し提出し、全体で講評会を行う①
 事前/提出課題の自主作業(1時間)
 事後/提出課題の自主作業(5時間)
- 第 15 回 課題提出／講評・講義のまとめ
 全体で講評会を行う②
 全15回のまとめ・総評
 事前/提出課題を最終的に完成させる自主制作時間(16時間)

【アクティブラーニング】

- 1回：A / 2回：A /
 3回：D / 4回：D /
 5回：D / 6回：D /
 7回：D / 8回：D /
 9回：D / 10回：D /
 11回：F / 12回：F /
 13回：F / 14回：C /
 15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・ハンディカムやスマホなどで、ムービー撮影の経験がある。汎用的なPCのスキル(AdobeCS,CCシリーズを使用した経験がある)を有する。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

PC

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点(30%)：授業態度・授業でのディスカッション発言の積極性や授業態度を評価

②提出物(70%)：作品の出来を表現力・完成度・締め切りで評価

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・各課題ごとに個別に授業内にて講評、または全体でのプレゼンテーションと講評

【出席確認の方法】

指定のタイミングでコメント投稿 出席票、出席者リスト、リアクションペーパー提出など

【基本的な授業の進め方】

・授業説明:10分・その日の講義1:説明10分→思考のワーク1:10分→解説10分・その日の講義2:説明10分→実践のワーク2:15分→解説15分

・授業の振り返り5分

・次回課題説明5分 ワーク1とワーク2の提出で出席など

・その授業回によってフレキシブルに対応。

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照(7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

到達目標(授業を通じて身につく能力・スキル)、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

課題やレポート等に対するフィードバックの方法

映像表現論

MD317

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目(3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

講義/1コマ

池端 規恵子

【科目の概要および目的】

うまく説明できない、複雑な感情やメッセージ。それらは「表現」をすることで、人に伝えられる場合があります。文学や絵・音楽など様々な方法がある中で、それらを含んだ複合的な「映像」にはどんな表現方法があるのでしょうか

か？多種多様な作品を鑑賞しつつ探ることで、自身の表現の可能性を広げることを目指します。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・映像表現の面白さや多様性について見識を深めます。
- ・自分のイメージを煮詰め、表現するための制作プロセスを理解します。
- ・映像表現を通じて、他者とコミュニケーションを取る力を身につけます。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
講義全体の流れを説明、様々な映像表現の例を紹介
事後：内容振り返り、参考作品の鑑賞（2h）
- 第 2 回 課題（A）企画
課題（A）の内容説明、企画の立案
事前：課題内容の検討（2h）
事後：作品制作準備（2h）
- 第 3 回 課題（A）構成
課題（A）の構成検討、制作スケジュールや方向性の確認
事前：課題内容の検討（2h）
事後：作品制作準備（2h）
- 第 4 回 映像の基礎知識
映像の成り立ち～基本概念、撮影および編集技法の解説
事後：内容振り返り、参考作品の鑑賞（2h）
- 第 5 回 映像表現の現場から（1）
現場で活躍するプロによる活動報告
事後：内容振り返り、参考作品の鑑賞（2h）
- 第 6 回 課題（A）発表
課題（A）の成果物発表～講評
事前：課題作品の制作～提出（12h）
事後：講評用紙記入（1h）
- 第 7 回 ドキュメンタリー（1）鑑賞
長編ドキュメンタリー映画鑑賞
事後：レポート作成（2h）
- 第 8 回 ドキュメンタリー（2）解説
短編ドキュメンタリー作品などを鑑賞、制作工程や手法について解説
事後：内容振り返り、参考作品の鑑賞（2h）
- 第 9 回 映像表現の現場から（2）
現場で活躍するプロによる活動報告
事後：内容振り返り、参考作品の鑑賞（2h）
- 第 10 回 課題（B）企画
課題（B）の内容説明、企画の立案
事前：課題内容の検討（2h）
事後：作品制作準備（2h）
- 第 11 回 課題（B）中間発表
課題（B）の企画発表、構成検討～方向性の確認
事前：課題内容の検討、発表準備（2h）
事後：作品制作準備（2h）
- 第 12 回 アニメーション（1）解説

短編アニメーション作品などを鑑賞、制作工程や手法について解説

事後：内容振り返り、参考作品の鑑賞（2h）

第 13 回 アニメーション（2）鑑賞

長編アニメーション映画鑑賞

事後：レポート作成（2h）

第 14 回 課題（B）発表

課題（B）の成果物発表～講評

事前：課題作品の制作～提出（12h）

事後：講評用紙記入（1h）

第 15 回 アートと映像／まとめ

実験映画やメディアアート作品などを紹介、制作意図について解説／本講義の振り返り、総括

事後：内容振り返り、参考作品の鑑賞（2h）

【アクティブラーニング】

1回：— / 2回：E /

3回：E / 4回：— /

5回：— / 6回：C,D /

7回：— / 8回：— /

9回：— / 10回：E /

11回：E / 12回：— /

13回：— / 14回：C,D /

15回：—

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・課題制作時には、簡単な撮影や編集～動画ファイルの作成があります（専門的な機材や高度な技術は必要ありません）。

・複数回に渡ってワークやディスカッションを進めるため、毎回の出席がのぞまれます。

・現場で活躍するプロをゲストに呼ぶ関係上、スケジュールの問題で各回の内容が前後することがあります。変更時は事前に告知します。

・感染状況によっては一部の授業をオンライン化（もしくはハイブリッド化）、グループワークを個人制作に切り替える等、変更の可能性があります。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①課題点(60%)：表現力と成果物の完成度、制作および発表時の意欲的な態度等で総合的に評価します。最も重要視する点であり、参加や提出は必須となります。

②レポート(20%)：内容への理解度、自分の言葉で考えを述べられているかを評価します。

③平常点(20%)：授業に積極的に取り組む姿勢を評価します。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・授業中に全体へコメントします。

・必要な場合はMicrosoft Teamsの個別チャットに送信します。

【出席確認の方法】

リアクションペーパーの提出

〔基本的な授業の進め方〕

- ・ 前回の振り返り、授業の流れ説明：10分
- ・ 講義（参考映像の鑑賞と解説）もしくはワークや発表：60分
- ・ 本日のまとめ、次回課題の確認：10分
- ・ リアクションペーパー（授業の感想や小レポート）の記入：10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

授業中に紹介します。

〔オフィスアワー〕

時間：出講日の授業終了後30分

場所：授業実施教室または7F非常勤講師控室

上記以外はMicrosoft Teamsの個別チャットにて対応します。

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、教科書、参考文献、オフィスアワー

映像制作 I

MD365

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

仁藤 潤

〔科目の概要および目的〕

映像制作の基礎から応用を身につける。授業を通じて各ソフトウェアの基本操作を習得するとともに企画、コンテ、撮影、仕上げ、上映までのプロセスを一通り学ぶ。撮影は、デジタルカメラ、ビデオカメラ等で行う。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・ 企画書を作る事ができる。
- ・ 撮影をする事が出来る。
- ・ 動画編集をする事が出来る。
- ・ 自分の作品をプレゼンテーションする事が出来る

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
授業のガイダンスを行なう。
事前学習（シラバスの内容を確認する/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）
- 第 2 回 ドキュメンタリー映像（1）
ドキュメンタリー映像の基礎、カメラの基本知識
事前学習（本日の内容の予習/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）
- 第 3 回 ドキュメンタリー映像（2）
ドキュメンタリー映像の基礎、撮影の基本知識
事前学習（本日の内容の予習/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）
- 第 4 回 ドキュメンタリー映像（3）
ドキュメンタリー映像の基礎、ライティングの基本知識
事前学習（本日の内容の予習/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）
- 第 5 回 ドキュメンタリー映像の発表会
ドキュメンタリー作品の発表会を行う。
事前学習（本日の内容の予習/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）
- 第 6 回 ストップモーションアニメーション（1）
ストップモーションアニメーションの基礎、企画立案を行う。コンテ作成を行う。
事前学習（本日の内容の予習/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）
- 第 7 回 ストップモーションアニメーション（2）
企画発表を行う。
事前学習（本日の内容の予習/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）
- 第 8 回 ストップモーションアニメーション（3）
カメラを使い、撮影を行う。
事前学習（本日の内容の予習/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）
- 第 9 回 ストップモーションアニメーション（4）
動画編集を行う。
事前学習（本日の内容の予習/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）
- 第 10 回 ストップモーションアニメーション作品の発表会
作品発表会を行う
事前学習（本日の内容の予習/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）
- 第 11 回 ショートフィルム（1）
ショートフィルムの基礎、企画立案を行う。コンテ作成を行う。
事前学習（本日の内容の予習/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）
- 第 12 回 ショートフィルム（2）
映像制作を行う。
事前学習（本日の内容の予習/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）

- 第 13 回 ショートフィルム (3)
映像制作を行う。
事前学習 (本日の内容の予習/1 時間)
事後学習 (復習をする/1 時間)
- 第 14 回 ショートフィルム (4)
作品制作の仕上げ。
事前学習 (本日の内容の予習/1 時間)
事後学習 (復習をする/1 時間)
- 第 15 回 ショートフィルムの発表会
作品発表を行う。
事前学習 (本日の内容の予習/1 時間)
事後学習 (復習をする/1 時間)

【アクティブラーニング】

- 1回：— / 2回：C /
3回：B / 4回：B /
5回：C / 6回：B /
7回：C / 8回：B /
9回：B / 10回：C /
11回：C / 12回：B /
13回：B / 14回：B /
15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

・「映像・演出I・II」「撮影技術I」を履修していることが望ましい。

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・Aftereffects、Premiereの映像制作ソフトスキルを習得している事。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

- ・カメラ、ビデオカメラ (スマホでも構わない。)
- ・映像制作ソフトAftereffects、Premiere

【成績評価方法 ・評価割合 ・評価基準】

①平常点(最大30点)：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

②課題(最大70点)：理解度・完成度を評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・課題に対して個別にコメントします。

【出席確認の方法】

対面による確認もしくはMicrosoft teamsで確認を行う。

【基本的な授業の進め方】

・課題の説明 (20分)、課題に取り組む (70分) ・課題に取り組む (70分)、質疑応答(20分)

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：◎
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし。適宜提示する

【オフィスアワー】

場所：授業を実施する教室 時間：授業前後に直接問い合わせてください。

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応、教科書、参考文献、オフィスアワー

撮影技術 I

MD371

東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/1コマ

神林 優

【科目の概要および目的】

デジタル技術の興隆によって、メモを取るように撮影ソーシャルメディアなどを通して共有することが日常化している。それに伴い、写真や映像に関連する知識や技能が求められている。本科目では、撮影のための基礎知識＝カメラやレンズ、光と色、構図法、デジタル加工・編集の基礎を学ぶことで、写真や映像を媒介としたコミュニケーションを充実させる力とカメラを使った撮影 (写真を軸に動画も) に必要な知識や技術の基礎を習得する。スマホだけでなく一眼レフカメラや業務用ビデオカメラを使い、目的にあった撮影を行うことを目指す。

【到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)】

- ・絞りとシャッタースピードの関係を理解し適切な露出で撮影することができる。
- ・レンズの特性を理解し撮影意図に沿った選択ができる。
- ・撮影したデータを適切にデジタル処理することができる。
- ・ビデオカメラの基本的な知識が理解できる。
- ・カメラワーク特性を理解できる。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第 1 回 ガイダンス写真や映像の歴史

授業全体の説明。到達を目標を明確にし、授業の進行について理解する。

写真の発明からこれまでを概観し、基本的な知識を身につける

事前/シラバスををよく読む (1時間)

事後/授業で学んだことをまとめる (1時間)

- 第 2 回 カメラの構造と露出
カメラの基本操作、絞り、シャッタースピードやISO感度について学び露出の原理や被写界深度、設定による写りの違いを理解し撮影する。
事前/身近にあるカメラを使って撮影してみる (1時間)
事後/授業で学んだことを踏まえ撮影する (1時間)
- 第 3 回 カメラの基本操作
デジタル一眼・業務用ビデオカメラを実際に扱いながら基本操作を学び、
写真や映像を撮影する。
事前/カメラの操作について調べる (1時間)
事後/授業で学んだことを踏まえ撮影する (1時間)
- 第 4 回 レンズの特徴
レンズの画角やヤパースペクティブ、レンズによる表現の違いについて理解し写真や映像を撮影する。
事前/レンズについて調べる (1時間)
事後/授業で学んだことを踏まえ撮影する (1時間)
- 第 5 回 光と色
見る」ことや、「光」と「色」の三原色、ホワイトバランスについて理解し自身の写真や映像の撮影や画像編集に活用する。
事前/可視光や三原色について調べる。(1時間)
事後/授業で学んだことを踏まえ撮影する (1時間)
- 第 6 回 ささまざまな構図法
写真のフォーマットや構図の基礎を理解し、さまざまな構図法からイメージを構成することを学び写真や映像を撮影する。
事前/構図法について調べる。(1時間)
事後/授業で学んだことを踏まえ撮影する (1時間)
- 第 7 回 カメラポジションとアングル
カメラポジションやアングルによる効果を学び、撮影や映像を撮影する。
事前/ポジションやアングルについて調べる (1時間)
事後/授業で学んだことを踏まえ撮影する (1時間)
- 第 8 回 カメラワーク基礎
三脚を使用した撮影について学び、写真や映像を撮影する。
事前/三脚の使用法について調べる (1時間)
事後/授業で学んだことを踏まえ撮影する (1時間)
- 第 9 回 カメラワーク基礎
動画撮影 カメラワークの基礎 (パンとチルト) を学び撮影する。
事前/パンとチルトについて調べる (1時間)
- 事後/授業で学んだことを踏まえ撮影する (1時間)
- 第 10 回 カメラワーク基礎
動画撮影 カメラワークの基礎 (ドリリー) を学び撮影する。
事前/ドリリー撮影について調べる (1時間)
事後/授業で学んだことを踏まえ撮影する (1時間)
- 第 11 回 カメラワーク基礎
動画撮影 カメラワークの基礎 (フォロー) を学び撮影する。
事前/フォロー撮影について調べる (1時間)
事後/授業で学んだことを踏まえ撮影する (1時間)
- 第 12 回 撮影データの処理 基礎
Photoshop、Lightroomの基本操作方法を学び、撮影したRAWデータを現像する。Premiereで基礎的な映像編集を学ぶ。
事前/撮影したデータの整理と準備をする (1時間)
事後/授業で学んだことを踏まえデータ処理 (1時間)
- 第 13 回 課題作品企画
前期に学習した内容を踏まえ課題作品を企画する。
事前/課題企画の準備をする (1時間)
事後/課題制作の準備をする (1時間)
- 第 14 回 課題作品制作
前期に学習した内容を踏まえ課題作品を制作する。
事前/課題制作の準備をする (1時間)
事後/課題制作を進める (1時間)
- 第 15 回 課題作品講評
課題作品を相互鑑賞し講評する。
事前/課題プレゼンの準備をする (1時間)
事後/学んだことをまとめる (1時間)
- 【アクティブラーニング】**
1回：— / 2回：B /
3回：B / 4回：B /
5回：B / 6回：B /
7回：B / 8回：B /
9回：B / 10回：B /
11回：B / 12回：B /
13回：B / 14回：B /
15回：C
- 【事前に修得しておく必要のある科目】**
なし
- 【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】**
・Photoshop,Lightroom,Premiere,等が使える。
・写真や動画を日常的に撮っている。
- 【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】**
ソフトウェア:Photoshop,Lightroom,Premiere
機材：カメラ (写真・動画) スマホも可

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点(最大20点):授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

②課題ワークシート(最大40点):理解度を評価する。

③課題作品(最大40点):理解度・完成度を評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・課題に対して個別にコメントします。

・課題作品に対して、個別にコメントします。

〔出席確認の方法〕

点呼(オンラインの場合はMicrosoft Teamsのチャット機能で確認を行う)

〔基本的な授業の進め方〕

課題の説明15分、課題に取り組む60分、質疑応答15分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力:◎
2. 表現力:◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力:△
4. 課題発見力・課題解決力:○
5. コミュニケーション力:○
6. 専門的知識・技能の活用力:◎

【◎:特に関連が強い ○:関連が強い △:関連がある
—:関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

適宜提示する。

〔オフィスアワー〕

場所:授業を実施する教室 時間:授業前後に直接問い合わせてください。

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

メディアプログラミング基礎

MD378

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

原田 康

〔科目の概要および目的〕

ノードベースのビジュアルプログラミング環境であるTouchDesignerを使用し、様々なメディアを使用したプログラミングを学ぶ。ソフトウェアの基礎的な部分を学習していくことにより、講義の後も自主的に継続して学習を続けていく力を身につける。

〔到達目標(授業を通じて身につく能力・スキル)〕

- ・TouchDesignerの基本的な操作ができる
- ・アイデアを授業で学んだ知識や技術をもとに表現することができる
- ・他の学生と協調してプロジェクトに取り組むことができる

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第1回 Introduction 1
ソフトウェアの使用例や、環境を学ぶ、最初の一步
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第2回 Introduction 2
2Dを扱うオペレータ TOP の基礎を学ぶ
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第3回 Introduction 3
数字を扱うオペレータ CHOP の基礎を学ぶ
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第4回 Live Visuals ツールを作る1
動画にかけるフィルターを作る
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第5回 Live Visuals ツールを作る2
シンプルなアニメーションを作る
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第6回 Live Visuals ツールを作る3
UIを作ってツールを操作する
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第7回 音に反応するビジュアルを作る1
オーディオの使い方の基礎を学ぶ
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第8回 音に反応するビジュアルを作る2
3Dを扱う SOP と MAT の使い方の基礎を学ぶ1
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第9回 音に反応するビジュアルを作る3
3Dを扱う SOP と MAT の使い方を学ぶ2+ 音に反応させる
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第10回 プロジェクションマッピング1
TouchDesigner でのプロジェクションマッピングのツールを学ぶ
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第11回 プロジェクションマッピング2

	プロジェクションマッピング演習	
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)
第 12 回	インタラクティブな照明のコントロール1 Kinect などのデバイスの使い方を学ぶ	
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)
第 13 回	インタラクティブな照明のコントロール2 DMX、artnetの使い方の基礎を学ぶ	
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)
第 14 回	インタラクティブな照明のコントロール3 演習	
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)
第 15 回	講評会 制作課題の講評会を行う	
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)
	【アクティブラーニング】	
	1回 : E / 2回 : D,E /	
	3回 : D,E / 4回 : D,E /	
	5回 : D,E / 6回 : D,E /	
	7回 : D,E / 8回 : D,E /	
	9回 : D,E / 10回 : D,E /	
	11回 : D,E / 12回 : D,E /	
	13回 : D,E / 14回 : D,E /	
	15回 : C	
	【事前に修得しておく必要のある科目】	
	なし	
	【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】	
	PCの基本操作	
	【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】	
	・以下のソフトウェアが問題なく動作する Windows PC	
	・Derivative TouchDesigner	
	【成績評価方法・評価割合・評価基準】	
	①平常点 (30%) : 授業態度・積極性を評価する	
	②提出物 (70%) : 作品の出来を表現力・完成度・締め切りが守られているか評価を評価する	
	【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】	
	・次週の授業で質問に回答、課題の添削、質問者に Teams で回答	
	【出席確認の方法】	
	課題提出	
	【基本的な授業の進め方】	
	・その日の講義1:先週の質問回答15分、説明75分	
	・その日の講義2:課題説明10分、ワーク : 60分、解説10分	
	・授業の振り返り5分・次回課題説明5分	
	ワークの提出で出席とする	
	【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】	
	1. 主体的行動力 : △	
	2. 表現力 : ◎	
	3. 社会貢献力・コラボレーション力 : △	
	4. 課題発見力・課題解決力 : ◎	

5. コミュニケーション力 : △
6. 専門的知識・技能の活用力 : ◎
【◎ : 特に関連が強い ○ : 関連が強い △ : 関連がある
— : 関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

時間 : 出講日の授業前後

場所 : 授業実施教室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)、授業計画 : テーマ・内容、授業計画 : 事前・事後学習

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

メディアCG表現 I

MD379

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

有富 洋平

【科目の概要および目的】

Blenderの使い方を学習しつつ、CGを制作するために必要な基本的な知識や概念を身につけることを目的とする。

本科目では、Blenderの基本的な使い方を理解し、3Dモデルの制作方法、マテリアルやテクスチャーでの質感をつける方法、ポストエフェクト効果的に使い、説得力のある静止画を作成することを目的とする。

【到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)】

- ・3DCG作成に必要な基礎知識が身につく
- ・3Dモデルを制作するスキルが身につく
- ・マテリアルやテクスチャーの作り方を理解し、3Dモデルに質感をつけることができる
- ・Blenderを使って静止画を書き出すことができる

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第 1 回 ガイダンスBlenderの基本操作

本授業の目的、進め方について説明する

Blenderの画面構成や基本的な操作方法を理解する

	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)		事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)		事後/ 本日の復習	1.5 (時間)
第 2 回	モデリング 1 オブジェクトモードでの基本的なツールの使い方や、オブジェクトの追加、削除、分離、結合方法などを理解する		第 12 回	最終課題制作(1)モデリング 課題に沿ったものをモデリングする	
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)		事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.5 (時間)		事後/ 本日の復習	1.0 (時間)
第 3 回	モデリング 2 エディットモードでよく使うツールやモディファイアの使い方を一通り解説し、実際にモデリングをしながら使い方を学ぶ		第 13 回	最終課題制作(2)マテリアル調整 課題に沿ったものをモデリング (引き続き) マテリアルやライティングの調整	
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)		事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)		事後/ 本日の復習	1.0 (時間)
第 4 回	モデリング 3 エディットモードでよく使うツールやモディファイアの使い方を一通り解説し、実際にモデリングをしながら使い方を学ぶ		第 14 回	最終課題制作(3)レンダリング カメラアングルを決め、ポストプロセスをかけてレンダリングする	
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)		事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)		事後/ 本日の復習	1.0 (時間)
第 5 回	マテリアル 1 マテリアルの基本を理解し、オブジェクトに質感を付加できるようにする		第 15 回	プレゼン・講評まとめ 制作した作品を全員で講評する	
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)		事前/ プレゼン準備	1.5 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)		事後/ 本日の復習	1.0 (時間)
第 6 回	マテリアル 2 初歩的なノードの使い方を理解し、テクスチャを用いて様々な質感を表現する方法を学ぶ。				
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)			
	事後/ 本日の復習と課題	1.5 (時間)			
第 7 回	マテリアル 3 Blender上でテクスチャをペイントする方法を学ぶ				
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)			
	事後/ 本日の復習	1.5 (時間)			
第 8 回	課題制作1 作成した3Dモデルから1つ選び、UV展開しテクスチャをペイントする				
	事前/ 本日の内容の予習	1.5 (時間)			
	事後/ 本日の復習	1.5 (時間)			
第 9 回	プレゼン・講評 制作した作品を個別にプレゼン 全員で講評する				
	事前/ プレゼン準備	1.5 (時間)			
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)			
第 10 回	ライティング Blenderで光源の種類や特徴を理解し、基本的なライティングの方法について理解する				
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)			
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)			
第 11 回	レンダリング Blenderで静止画を書き出す方法や詳しい設定を理解する Blenderでのポストプロセスの使い方を理解する				

【アクティブラーニング】

1回：B / 2回：B /

3回：B / 4回：B /

5回：B / 6回：B /

7回：B / 8回：B /

9回：C / 10回：B /

11回：B / 12回：B /

13回：B / 14回：B /

15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

Photosopなどデジタルペイント系のソフトに関する知識、写真撮影に関する知識があるとより良いです。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点 (最大30点):授業に積極的に取り組む姿勢を評価する

②授業後の提出課題(最大10点):理解度、完成度を評価する

③課題制作1(最大10点):理解度、完成度を評価する

④最終課題 (最大30点):制作物の完成度を評価

⑤プレゼンテーション2回 (合計20点 各10点) : 課題の制作意図をしっかりと伝えられているかを評価する

平常点が6割に満たない場合は課題の採点対象外とする

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

授業後の課題はTeamsにて全体にフィードバックします

課題制作は提出後の授業で全体にコメントします

【出席確認の方法】

授業時にTeamsのチャンネル上でのコメント投稿および点呼で確認

【基本的な授業の進め方】

①授業の概要説明と前回のおさらい：10分

②基礎：その日学ぶ内容をハンズオン形式で学ぶ：40分

③実践：練習課題を各自で作業→解説：40分

※②と③を繰り返す

④授業の振り返りと次回課題説明5分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

参考ウェブサイト、書籍を授業内で紹介

【オフィスアワー】

時間：出講日（月曜日）の授業後

場所：授業実施教室

それ以外の時間はTeamsにて受け付けます

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、基本的な授業の進め方、教科書、参考文献

デザイン基礎演習

MD/MM367

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

川野 智美

【科目の概要および目的】

デザインに必要な基礎的要素、「色」「形」「文字」「写真・イラスト」「レイアウト」の5つの要素を講義、演習と合わせて学ぶ。講義では基礎的な知識を学び、演習でより理解を深めるために、Photoshop、Illustratorを使用して課題を行い、デザインの表現方法を習得する。演習課題では、制作意図、表現について自ら発表を行い、それを聞いた他の学生とのディスカッション、講師による講評を通して学び合う。また授業内で名刺を制作し、自ら紙を選び、入稿データの作成、印刷所に印刷を発注することで実際の制作物ができる流れも体験する。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

・デザイナーとして必要な基礎的要素を理解し、それを説明できる。

・基礎的要素を理解したうえで、自分の考えをデザインで表現することができる。

・自分の考え、制作意図をきちんと説明することができ、また他者のデザインを客観的に分析し意見を述べるができる。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション/名刺作成
これからの授業の流れの説明をする。
名刺制作（3週間ぐらいで締め切り、印刷所に発注）
事後/名刺作成(2時間)
- 第2回 デザインとは
「デザイン」とは何か、基本的な役割などの説明をする。
それを主とする職業・業界などの紹介。
事後/名刺作成(2時間)
- 第3回 形(1) 講義
「形」の役割、意味、表現方法の説明をする。
その後、演習課題の説明と演習課題を行う。（名刺提出締め切り）
事前/名刺作成(1時間)
事後/ピクトグラムリサーチ(1時間)
- 第4回 形(2) 演習ピクトグラムを作成する
「形」を理解する上での演習課題を行う。
-ピクトグラム- (Illustrator)
事後/ピクトグラム課題復習(2時間)
- 第5回 色(1) 講義
「色」の役割、仕組み、原理、配色などの説明をする。
その後、演習課題の説明と演習課題を行う。
事後/色の授業内容を復習(2時間)
- 第6回 色(2) 演習カラー配色を作成する
「色」を理解する上での演習課題を行う。
-カラー配色- (Illustrator)
事後/カラー配色課題復習(2時間)
- 第7回 文字(1) 講義
「文字」の役割、書体、組版の説明をする。
その後、演習課題の説明と演習課題を行う。
事後/文字の授業内容復習(2時間)
- 第8回 文字(2) 演習タイポグラフィを作成する
「文字」を理解する上での演習課題を行う。
-タイポグラフィ- (Illustrator)
事前/タイポグラフィのリサーチ(1時間)
事後/タイポグラフィ課題復習(1時間)
- 第9回 写真・イラスト(1) 講義
「写真・イラスト」の役割の説明をする。
その後、演習課題の説明と演習課題を行う。
事後/写真・イラストの授業内容復習(2時間)
- 第10回 写真・イラスト(2) 演習レタッチ・合成 or イラストを作成する
「写真・イラスト」を理解する上での演習課題を行う。
-レタッチ・合成 or イラスト作成 - (Photoshop/

- illustrator)
事後/レタッチ・合成、イラスト復習(2時間)
- 第 11 回 レイアウト (1) 講義
「レイアウト」のルールや考え方、手法の説明をする。
その後、演習課題の説明と演習課題を行う。
事後/レイアウトの授業内容復習(1時間)
課題で取り組みたい商品を探す(1時間)
- 第 12 回 レイアウト (2) 演習パッケージデザインを作成する
「レイアウト」を理解する上での演習課題を行う。
パッケージデザインと販促ツール(Illustrator)
事後/商品のリサーチ(2時間)
- 第 13 回 レイアウト (3) 演習パッケージデザインを作成する
既存パッケージのリニューアル企画を考え、
パッケージデザインを作成する
事後/課題制作(2時間)
- 第 14 回 レイアウト (4) 演習販促ツールを作成する
作成したパッケージデザインをもとに、販促ツールを作成する
事後/課題完成(2時間)
- 第 15 回 プレゼン/まとめ
プレゼン/これまでの授業の総括
事前/プレゼン用意(1時間)
事後/講評のポイント確認(1時間)

【アクティブラーニング】

- 1回：— / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：E / 6回：E /
7回：E / 8回：E /
9回：E / 10回：E /
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：C,D

【事前に修得しておく必要のある科目】

- ・「コンピュータデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ」

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・課題に取り組むにあたり、基本的なIllustrator、Photoshopのスキルが必要となる。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法 ・ 評価割合 ・ 評価基準】

平常点(30%):積極的に授業に参加をしているか、また、課題の取り組み姿勢を評価する

課題 (50%):授業内容の理解力、表現力を評価する

課題発表(20%): 課題の制作意図をしっかりと発表できるか評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

提出後、スクリーンに投影しながらフィードバックを行う。

【出席確認の方法】

授業開始後、名前を呼んで出席確認を行う。

【基本的な授業の進め方】

授業説明、出席 (前回振り返り) : 10分 / 講義or演習 : 70分 / 質疑応答 : 10分

-----10分休憩-----

講義or演習 : 70分 質疑応答 : 10分 連絡事項 : 10分
(演習の際は個別で相談、アドバイスをを行う)

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力 : ○
2. 表現力 : ◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力 : —
4. 課題発見力・課題解決力 : ○
5. コミュニケーション力 : ○
6. 専門的知識・技能の活用力 : ◎

【◎ : 特に関連が強い ○ : 関連が強い △ : 関連がある
— : 関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

時間 : 出講日 [木曜日] 1・2限の講義前後

場所 : 授業実施教室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

課題やレポート等に対するフィードバックの方法

仕事とキャリアデザインⅠ

旧 仕事とキャリアデザイン (分割)

MM315

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (3)

2年生 3年生 4年生

2単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

佐藤 宏樹

【科目の概要および目的】

この授業では、自分自身の興味関心を切り口に、みなさんが将来就く事になる「仕事」について考えていきます。仕事と言っても「どのように働くのか」「どこで働くのか」「何を仕事にするのか」と考える視点は様々です。そのためこの授業では働き方、企業や業界、職種・職業など、複数の視点から考えるために、自分自身が何に興味があり、なぜ大学に来たのか、根本を振り返ることから始めていきます。

授業形式は個人・チーム単位での演習が主体になります。グループワークや数度のプレゼンテーションという協働プロセスを通して、プレゼンテーション自体に慣れることや、他者と対話する力、意見をまとめる力なども身につけていきます。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・授業で触れるトピック（自分の興味関心）をきっかけに、将来携わる「仕事」に意識を向けることができる。
- ・個人ワーク、個人プレゼン、グループワーク、チームプレゼンを通して、他者の考えに耳を傾けることができる。また他者に自分の想いをわかりやすく伝えることができる。
- ・自分の専攻分野の知識やスキルを用いて、社会の課題に対するアプローチ策を検討し、具現化することができる。

〔授業形態〕

5【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
授業の目的、進め方、ルールなどについてガイダンスを行ったのち、受講生同士自己紹介を行う。
事前/授業目的を理解しておく(1時間)
事後/次週に向けた宿題を行う(2時間)
- 第 2 回 1stセッション : 「シゴトの” must” をリサーチする」①
「今」と「must」のギャップを知るワーク実施
宿題をもとに個人とグループの視点でワークを深掘りする。
事前/次週に向けた宿題を行う(2時間)
事後/授業内容を振り返る(1時間)
- 第 3 回 1stセッション : 「シゴトの” must” をリサーチする」②
個人プレゼン準備
プレゼンの構成を考え、次週のプレゼン用スライドを作成する。
事前/プレゼンの準備を行う(1時間)
事後/プレゼンの準備を行う(2時間)
- 第 4 回 1stセッション : 「シゴトの” must” をリサーチする」③
グループ内プレゼンテーション
3コマ目まででまとめたワーク内容を小グループのメンバー内でプレゼン。
事前/プレゼンの準備を行う(1時間)
事後/プレゼンの準備を行う(2時間)
- 第 5 回 中間リフレクション : 1stセッションから2ndセッションへ
1stセッションの振り返りと、2ndセッションの内容、進め方の説明を行ったのち、チーム編成を行う。
事前/プレゼンの準備を行う(2時間)
事後/フィードバックをまとめ提出する(2時間)
- 第 6 回 2ndセッション : 「メディアを活用して社会の事象にアプローチする」①
チーム内プレゼンテーション
「メディア作品に込められた社会的メッセージを読み解く」ワーク内容をプレゼン。
事前/次週に向けた宿題を行う(2時間)
事後/チーム作業を行うための準備(1時間)
- 第 7 回 2ndセッション : 「メディアを活用して社会の事象にアプローチする」②

プレゼンで扱う題材の決定

チームで話し合い、取り組むテーマ(課題)を決定する

事前/次週に向けた宿題を行う(2時間)

事後/アプローチ案の検討(3時間)

- 第 8 回 2ndセッション : 「メディアを活用して社会の事象にアプローチする」③

企画立案の解像度を上げる

企画立案の行い方・視点を学ぶ。

事前/アプローチ案の検討(3時間)

事後/授業内容を振り返る(2時間)

- 第 9 回 2ndセッション : 「メディアを活用して社会の事象にアプローチする」④

マーケティング理論

企画案を考える上で重要な「マーケティング」の視点を学ぶ。

事前/アプローチ案の検討(3時間)

事後/授業内容を振り返る(2時間)

- 第 10 回 2ndセッション : 「メディアを活用して社会の事象にアプローチする」⑤

プレゼントレーニング

プレゼンテーションに関するスキルのレクチャーを行う。

事前/アプローチ案の検討(3時間)

事後/授業内容を振り返る(2時間)

- 第 11 回 2ndセッション : 「メディアを活用して社会の事象にアプローチする」⑥

企画プレゼン準備

アプローチ案をブラッシュアップ、本発表の準備を行う。

事前/プレゼンの準備を行う(3時間)

事後/プレゼンの準備を行う(4時間)

- 第 12 回 2ndセッション : 「メディアを活用して社会の事象にアプローチする」⑦

企画案プレゼンテーション①

各チームごとにアプローチ案をプレゼン、フィードバックと評価を行う。

事前/プレゼンの準備を行う(4時間)

事後/自他チームのプレゼンを振り返る(1時間)

- 第 13 回 2ndセッション : 「メディアを活用して社会の事象にアプローチする」⑧

企画案プレゼンテーション②

各チームごとにアプローチ案をプレゼン、フィードバックと評価を行う。

事前/プレゼン練習、自他チームの内容俯瞰(2時間)

事後/自他チームのプレゼンを振り返る(1時間)

- 第 14 回 2ndセッション : 「メディアを活用して社会の事象にアプローチする」⑨

企画案プレゼンテーション③

各チームごとにアプローチ案をプレゼン、フィードバックと評価を行う。

事前/プレゼン練習、自他チームの内容俯瞰(2時間)

事後/自他チームのプレゼンを振り返る(1時間)

- 第 15 回 リフレクション

前期授業を振り返り、自分自身の成長・変化を考える。

事前/前期授業で行なったことを思い出す(1時間)

事後/前期授業での気づきをまとめる(2時間)

【アクティブラーニング】

1回：F / 2回：B /

3回：B / 4回：C /

5回：F / 6回：C /

7回：E / 8回：E /

9回：E / 10回：E /

11回：E / 12回：C /

13回：C / 14回：C /

15回：F

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・2年生は可能な限り履修することが望ましいです。作業ができる環境から参加してください(PCからの参加を推奨)。

・特別なスキルは必要ありませんが、他者と協働することが多くあるため、協働作業に積極的に臨んでほしいと思います。

・この授業は「自分」を切り口に「仕事」など未来に目を向けます。その視点を常に持ちながら「外の世界」を意識する姿勢を歓迎します。

・将来必須のスキルを身につけるため、プレゼンテーションはPowerPointやKeynote活用を基本 (Illustrator等使用も可) としますので得意不得意関わらず活用しましょう。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

プレゼンテーションソフト (PowerPoint/Keynote) が使用できること

・マイク、カメラが使用可能であること

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①グループへの貢献度、授業への姿勢 (40%)：この授業では他者との協働シーンが多いため、授業自体への積極性を重視します。

②提出物 (30%)：提出物は内容はもちろんのこと、社会ルールとして期限が守れているのかも重視します。

③プレゼンテーション (30%)：プレゼンテーションでは上手さよりも、臨む姿勢を重視します。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・提出またはプレゼン後、個別またはグループごとにコメントします (課題の種類による)。

【出席確認の方法】

指定のタイミングでコメント投稿や提出物などで確認

【基本的な授業の進め方】

・授業内容説明、ウォーミングアップ (15分)

・個人やグループでのワーク (60分)

・まとめ、次週への連絡事項等 (15分)

*知識面のレクチャーを行う日はワークの時間を割り当てます (30分程度)

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎

2. 表現力：○

3. 社会貢献力・コラボレーション力：○

4. 課題発見力・課題解決力：◎

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

適宜授業内で伝えます。

【オフィスアワー】

時間：授業 (13：20～14：50) の後30分～1時間

場所：授業実施教室 (オンラインの際はビデオ会議の延長上で対応)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など

ストーリーマンガ論

旧 マンガストーリー論

MA417

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

竹内 一郎

【科目の概要および目的】

起承転結がしっかり構成できているストーリーマンガのキャラ表、ネームを完成させる。設定した物語を使い、「絵を描くこと」に集中してマンガ制作を学修する。マンガの基本である、感情表現の基礎、コマどりの基礎を学修する。絵そのものの上達も目指す。

【到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)】

- ・文章読解力を身につけ、コミュニケーション力を上げる。
- ・日本マンガの表現法、コマの流れの基本を身につける。
- ・豊かな感情表現を身につける。

【授業形態】

5 【同時双方向型】

【授業計画】

第 1 回 物語を読む (1)

物語の全体像を解説する

事前/原作付きマンガを読む (30分)

事後/シナリオの復習 (30分)

第 2 回 物語を読む (2)

物語の構成を読み解く

事前/シナリオの予習 (30分)

事後/シナリオの復習 (30分)

第 3 回 キャラクター設定 (1)

- 全身の描き方を解説し、実習する
事前／キャラクター表の準備 (30分)
事後／キャラクター表の整理 (30分)
- 第 4 回 キャラクター設定 (2)
表情の描き方を解説し、実習する
事前／キャラクター表の準備 (30分)
事後／キャラクター表の整理 (30分)
- 第 5 回 キャラクター設定 (3)
男女別の描き方を解説し、実習する
事前／キャラクター表の準備 (30分)
事後／キャラクター表の整理 (30分)
- 第 6 回 キャラクター設定 (4)
モブの描き方を解説し、実習する
事前／キャラクター表の準備 (30分)
事後／キャラクター表の整理 (30分)
- 第 7 回 コマどり (1)
コマの流れを解説し、実習する
事前／シナリオの予習 (30分)
事後／シナリオの復習 (30分)
- 第 8 回 コマどり (2)
コマの流れを解説し、実習する
事前／キャラクター表の準備 (30分)
事後／キャラクター表の整理 (30分)
- 第 9 回 コマどり (3)
コマの流れを解説し、実習する
事前／キャラクター表の準備 (30分)
事後／キャラクター表の整理 (30分)
- 第 10 回 コマどり (4)
コマの流れを解説し、実習する
事前／キャラクター表の準備 (30分)
事後／キャラクター表の整理 (30分)
- 第 11 回 ネーム作成 (1)
キャラクターの動かし方を解説し、実習する
事前／キャラクター表の準備 (30分)
事後／キャラクター表の整理 (30分)
- 第 12 回 ネーム作成 (2)
表情の表現法を解説し、実習する
事前／ネームの準備 (30分)
事後／ネームの整理 (30分)
- 第 13 回 ネーム作成 (3)
静物の表現法を解説し、実習する
事前／ネームの準備 (30分)
事後／ネームの整理 (30分)
- 第 14 回 ネーム作成 (4)
動くものの表現法を解説し、実習する
事前／ネームの準備 (30分)
事後／ネームの整理 (30分)
- 第 15 回 講評・まとめ
グループをつくって講評しあう
事前／発表の準備 (30分)
事後／ネームのチェック (30分)

【アクティブラーニング】

- 1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：— /

- 5回：— / 6回：— /
7回：— / 8回：— /
9回：— / 10回：— /
11回：— / 12回：— /
13回：— / 14回：— /
15回：—

【事前に修得しておく必要のある科目】

・「マンガ背景美術Ⅰ」

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・日本語の読解力
- ・日本マンガのコマの流れの基本

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

PCあるいは画像を送受信できる機器

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点 (30%)：積極的な授業参加態度を評価する
- ②課題 (70%)：表現力・コミュニケーション力・完成度を評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・作成された課題毎に、講評を行います。リアクションペーパーは次回にフィードバックする。

【出席確認の方法】

指定のタイミングでコメント投稿や出席票、リアクションペーパーの併用。

【基本的な授業の進め方】

講義 (30分) 実技 (50分) 講評 (10分)

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：—
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

印刷物で配布

【参考文献】

授業内で紹介

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

マンガ企画制作概論 Ⅱ メディアⅡ

MA450
東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)
2年生 3年生 4年生
2単位 後期
6 【対面型】
演習/2コマ

菊池 優

【科目の概要および目的】

隔週で提示する課題（漫画のプロット及びキャラクター制作）を通して、**メ**切に関する意識を強く持ち、ドラマづくりのテクニックを学ぶ。この課題は授業の中で書き手本人が受講者全員に対してプレゼンを行う。その後、その内容について意見交換会を行い、最終的には、作品を編集者的な視線で見られるようになることを目的とする。但し履修登録者が10名に満たない場合は、課題制作を毎週行う。また、課題の内容に関しては変更する場合がある。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・受講者全員に対して自分の作品を発表することによって、プレゼン能力を身につける。
- ・他の受講生が、どんな目標ややり方で作品づくりをしているかを学ぶ。
- ・他の受講生の作品を編集者的視線で見ることを繰り返すことで、最終的には自分の作品を見る能力を身につける。

【授業形態】

6 【対面型】

【授業計画】

- 第 1 回 マンガを学ぶ上での注意
本講義の説明及びアンケートの実施。第1回課題提示（テーマ及びジャンル自由）
事前/事前学習は不要(0 h)
事後/第1回課題制作(3 h)
- 第 2 回 壁を乗り越えるための方法論
アンケートに関する回答及び映写会。第1回課題回収
事前/事前学習は不要(0 h)
事後/映画の重要ポイントを作成(2 h)
- 第 3 回 この作品には何が欠けているのか？ その1
第1回課題講評会その1。第2回課題提示（ジャンル＝ファンタジー）
事前/自分の作品のプレゼン準備(1 h)
事後/講評会のまとめ。第2回課題制作(3 h)
- 第 4 回 この作品には何が欠けているのか？ その2
第1回課題講評会その2。第2回課題回収
事前/自分の作品のプレゼン準備(1 h)
事後/講評会のまとめ(1 h)
- 第 5 回 ファンタジーとは何か？ その1
第2回課題講評会その1。第3回課題提示（ジャンル＝バトル物）
事前/自分の作品のプレゼン準備(1 h)
事後/講評会のまとめ。第3回課題制作(3 h)
- 第 6 回 ファンタジーとは何か？ その2

- 第2回課題講評会その2。第3回課題回収
事前/自分の作品のプレゼン準備(1 h)
事後/講評会のまとめ(1 h)
- 第 7 回 バトル物に求められるものは？ その1
第3回課題講評会その1。第4回課題提示（ジャンル＝恋愛物）
事前/自分の作品のプレゼン準備(1 h)
事後/講評会のまとめ。第4回課題制作(3 h)
- 第 8 回 バトル物に求められるものは？ その2
第3回課題講評会その2。第4回課題回収
事前/自分の作品のプレゼン準備(1 h)
事後/講評会のまとめ(1 h)
- 第 9 回 恋愛物に求められるものは？ その1
第4回課題講評会その1。第5回課題提示（テーマ＝笑い）
事前/自分の作品のプレゼン準備(1 h)
事後/講評会のまとめ。第5回課題制作(3 h)
- 第 10 回 恋愛物に求められるものは？ その2
第4回課題講評会その2。第5回課題回収
事前/自分の作品のプレゼン準備(1 h)
事後/講評会のまとめ(1 h)
- 第 11 回 笑いとは？ その1
第5回課題講評会その1。第6回課題提示（ジャンル＝ホラー）
事前/自分の作品のプレゼン準備(1 h)
事後/講評会のまとめ。第6回課題制作(3 h)
- 第 12 回 笑いとは？ その2
第5回課題講評会その2。第6回課題回収
事前/自分の作品のプレゼン準備(1 h)
事後/講評会のまとめ(1 h)
- 第 13 回 怖いということを考えてみよう その1
第6回課題講評会その1。第7回課題提示（テーマ及びジャンル＝自由）
事前/自分の作品のプレゼン準備(1 h)
事後/講評会のまとめ。第7回課題制作(3 h)
- 第 14 回 怖いということを考えてみよう その2
第6回課題講評会その2。第7回課題回収
事前/自分の作品のプレゼン準備(1 h)
事後/講評会のまとめ(1 h)
- 第 15 回 総括授業
半期の授業で行ったことの総括。（第7回課題に関してはコメントを作成し、後日、当人に配布する）
事前/半期の授業での疑問点をリストアップ(1 h)
事後/総括授業のまとめ(2 h)

【アクティブラーニング】

- 1回：F / 2回：D,F /
3回：C,D / 4回：C,D /
5回：C,D / 6回：C,D /
7回：C,D / 8回：C,D /
9回：C,D / 10回：C,D /
11回：C,D / 12回：C,D /
13回：C,D / 14回：C,D /
15回：C,D

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・特に必要なスキル、予備知識、技能等は必要ない。ただプロット制作にあたっては、パソコンに向かって自分の頭の中だけで構想を練るのではなく、辞書を引いたり、参考資料を読んだりという行為を日常的に行うことが重要である。また、時間があり、経済的にも余裕があるのであれば取材等も行うこと。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①課題提出率及び内容（70%）：作品制作意欲及び内容を評価する。

②平常点（30%）：出席率。授業における積極性、講評会発言内容等を評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・毎回行う課題講評会において、プレゼンや意見交換、質疑応答等によるフィードバックを行う。

〔出席確認の方法〕

授業開始時に出欠をとり、授業の最後にコメント用紙を回収する。

〔基本的な授業の進め方〕

①本日の授業の説明（10分） ②注意事項及び連絡事項（20分） ③課題プレゼン及び講評会（60分） ④休憩（10分）

⑤課題講評会の続き（80分） ⑦コメント記入及び回収（10分）

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

特になし

〔参考文献〕

随時、こちらで用意する

〔オフィスアワー〕

時間：出講日〔木曜日〕の授業終了後

場所：授業実施教室・7F非常勤講師控室

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

デジタルマンガ表現技法Ⅱ

MA469

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

青田 めい

〔科目の概要および目的〕

デジタルでマンガ制作における実践的なマンガ制作技術を習得する。

CLIP STUDIO PAINTを使用し4P以上のマンガが描き上げられる技術、作画方法を身に付ける。

制作過程や疑問点の発表を通じて教室全体で情報共有を行い、より効率的なマンガ制作を目指す。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

・CLIP STUDIO PAINTを使用し、カラー、モノクロ問わず投稿作の仕様に合ったマンガが制作できる。

・締め切りまでにマンガを仕上げる計画を立てることができる。

・相談力、対話力を養い、編集者との会話技術を身につける。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第1回 ガイダンス

講義内容、最終課題の説明

第2回 キャラクターペン入れ

キャラクターシートを作成（20m）

文字情報からキャラクタービジュアル線画を制作（1h）

第3回 背景ペン入れ

写真及び背景素材を使いペン入れ、線画抽出を行う（1h）

最終課題ネタ出しの為のブレインストーミング（1h）

第4回 3Dモデルによる作画

3Dモデルから作画を行う方法について学ぶ

事後：ペン画制作（1h）

第5回 コマ枠、フキダシ

より効率的なコマ枠の描き方、フキダシの作画と効果について学ぶ

最終課題プロット講評

第6回 ベタ、トーン処理

グラデトーン、トーンブラシ、削りブラシを使用したトーン処理（1h）

ネーム制作（2h）

事後：最終課題ネーム制作（2h）

第7回 描き文字

ペンツール、ブラシを使用した描き文字について学ぶ（1h）

ネーム講評（2h）

事後：最終課題作画制作（2h）

第8回 ベクターレイヤー

- 共通の下描きからベクターレイヤーでの作画を行い、講評を行う
事後：最終課題作画制作(2h)
- 第 9 回 効果音、効果線
レイヤー効果を使用した効果音の作画(1h)
効果線ツール、素材の使い方
事後：最終課題作画制作(2h)
- 第 10 回 表紙、扉①/構図、線画
カラー表紙、カラー扉の制作(2h)カラーならではの線画表現について学ぶ
事後：最終課題作画制作(2h)
- 第 11 回 表紙、扉②/塗り、仕上げ
カラー表紙、カラー扉の制作(2h)アニメ塗りからの派生、厚塗り風着彩について
扉絵講評
事後：最終課題作画制作(2h)
- 第 12 回 書き出し、入稿
各ファイル形式への変換方法
入稿の際便利なツールの紹介
個別相談
事後：最終課題作画制作(2h)
- 第 13 回 最終課題制作
最終課題の提出に向けて制作、修正を行う
個別相談
事後：最終課題修正(2h)
- 第 14 回 最終課題印刷
最終課題を制作、印刷し、ファイルにまとめる
最終課題提出
- 第 15 回 最終課題講評会
提出作品を全員で読む
講評

【アクティブラーニング】

- 1回：E / 2回：B /
3回：C / 4回：C /
5回：B / 6回：C /
7回：E / 8回：C /
9回：E / 10回：E /
11回：C / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・「デジタルマンガ表現技法Ⅰ」を履修済であることが望ましい

・CLIP STUDIO PAINTでのマンガ制作経験

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

CLIP STUDIO PAINTスマートフォン版については使用不可とする

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

最終課題 (60%)：最終課題の完成度 作画、ストーリー、話題性各20%ずつ

発表、相談内容(20%)：発表での相談力、対話力

平常点(20%)：授業への取り組み姿勢

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・授業内にて口頭での講評
- ・チャットで随時質問を受け付け、回答を行う

【出席確認の方法】

- ・授業開始時に点呼
- ・授業毎の課題提出

【基本的な授業の進め方】

前回のフィードバック10分、講義80分、作業・発表等90分
毎回1時間程度教員による講義を行い、その後発表及び制作に移る。

発表ではデータまたは印刷物の提出後、説明を交えながらプレゼンテーションを行ってもらおう。

作業中は随時質問を受け付け、情報の共有を行う。

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応、教科書、参考文献、オフィスアワー

コミックイラスト演習Ⅱ

MA472

東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6 【対面型】

演習/2コマ

澤田 美樹

【科目の概要および目的】

イラストレーション業務の一連のワークフローを実際に体験することで、コミックイラストへの理解を深めることが

できる。また、イラストレーション業務におけるトレンドを知ることにより、経営的観点からコンテンツ制作の本質を理解し、クリエイターとしての経営知識とセンスを兼ね備えることができる。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・イラストレーター業務における一連の流れ把握し、スケジュールに合わせて作業をする力が身につく。
- ・各過程におけるリテイクの重要性を理解することができる。
- ・既存のイラストにテイストを寄せて描くことにより技術面で新たな気付きを得られ、画力向上に繋がる。
- ・コミックイラストビジネス業界の現状を認識し、将来の仕事にどのようなスキルが必要かを考える能力が身につく。
- ・様々な線の描き方や色の塗り方、効果のかけ方を学べる。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
授業の概要説明。模擬発注による課題作成および発表。
事前/コミックイラストビジネスについて、リサーチする（1時間）
- 第 2 回 作品制作から納品までのスケジュールの考え方
イラストレーション業務の説明。
事後/作品制作3時間
- 第 3 回 仮想発注およびラフ作成
仮想発注の説明。ラフ作成。
事後/作品制作3時間
- 第 4 回 ラフ講評
ラフの講評およびリテイク出し。
事後/ラフ修正3時間
- 第 5 回 線画作成
線画の説明。
事後/作品制作3時間
- 第 6 回 線画講評
線画の講評およびリテイク出し。
事後/作品制作3時間
- 第 7 回 着色作成
着色の説明。Photoshopを使用した仕上げ方。
事後/作品制作3時間
- 第 8 回 完成講評
完成した作品の講評。
事後/作品制作3時間
- 第 9 回 最終課題用仮想発注設定
課題用の仮想発注の説明。
事後/作品制作3時間
- 第 10 回 テイスト寄せにおけるラフ作成
テイスト寄せにおけるラフ作成の説明。
事後/作品制作3時間
- 第 11 回 ラフ講評
ラフの講評およびリテイク出し。
事後/作品制作3時間
- 第 12 回 テイスト寄せにおける線画・着色作成
テイスト寄せにおける線画・着色作成の説明。
事後/作品制作3時間

- 第 13 回 中間確認
中間の経過確認、およびリテイク出し。
事後/作品制作3時間
- 第 14 回 テイスト寄せのポイント
テイスト寄せにおけるポイントの説明。
事後/作業3時間
- 第 15 回 発表および講評
作品完成。講評会。
事前/作品のプレゼン準備をする（2時間）
事後/講評を振り返り、作品のブラッシュアップを行う（1時間）

〔アクティブラーニング〕

- 1回：C / 2回：— /
3回：— / 4回：C /
5回：— / 6回：C /
7回：— / 8回：C /
9回：— / 10回：— /
11回：C / 12回：— /
13回：C / 14回：— /
15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・2Dでの作業を周知している事
- ・CLIP STUDIO PAINTの基本操作

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

提出期日を守れているか、授業の内容を理解しているか、表現力や完成度を評価。

課題①が50%、課題②が50%。各課題で3回ずつ提出と講評を設け、それぞれで採点。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

各自が作成した作品について教員がコメントを行う

〔出席確認の方法〕

授業開始時に口頭で確認

〔基本的な授業の進め方〕

- ・出席確認および授業説明30分
- ・ワーク60分
- ・質疑応答タイム10分
- ・ワーク70分
- ・制作物提出(途中経過含む)5分
- ・次回課題説明5分

(講評のある回は説明30分、講評150分を予定)

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

授業内で随時紹介し使用

〔参考文献〕

授業内で随時紹介し使用

〔オフィスアワー〕

時間：出講日の授業の前後

場所：7F非常勤講師控室または授業実施教室

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、成績評価方法・評価割合・評価基準

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

事前に修得しておく必要のある科目、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

ペン画表現研究Ⅱ

旧 漫画ペン画表現

MA474

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6 【対面型】

演習/2コマ

吉田 光彦

〔科目の概要および目的〕

紙の白地とインクの黒地のコントラストを活かす空気遠近法の画法を基本にして、平面的な構図の絵を効果的に表現するペン画を学ぶ。また、輪郭線のみ・輪郭線と陰影・陰影のみという3タイプの表現、写真や浮世絵作品をモチーフにしてリアルな画を描くことを通じて、物の質感を表現するペンタッチを学ぶ。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・ いろいろな明度のグレートーンを描写できる。
- ・ 作品を通じて現物を見通す観察力を身につけることができる。
- ・ 授業を通じて学んだ技法を用いて、物の質感描写や細部描写ができる。

〔授業形態〕

6 【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 トーン構成と明暗
ペン画の基本となるグレー・トーンやグラデーションの技法を学ぶ。
事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめる（3時間）
- 第 2 回 3タイプの表現
オリジナルキャラクターを3タイプの画法で表現する。
事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめる（3時間）

- 第 3 回 3タイプの表現
オリジナルキャラクターを3タイプの画法で表現する。
事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめる（3時間）
- 第 4 回 空気遠近描法
描いてみたいモチーフを空気遠近法で描く。
事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめる（3時間）
- 第 5 回 空気遠近描法
描いてみたいモチーフを空気遠近法で描く。
事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめる（3時間）
- 第 6 回 幻獣を描く
具体的なイメージを膨らませ、幻想的に表現する。
事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめる（3時間）
- 第 7 回 幻獣を描く
具体的なイメージを膨らませ、幻想的に表現する。
事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめる（3時間）
- 第 8 回 輪郭線描法
線描のみでモチーフを表情豊かに描く。
事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめる（3時間）
- 第 9 回 輪郭線描法
線描のみでモチーフを表情豊かに描く。
事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめる（3時間）
- 第 10 回 ペン画を模写
ペンタッチなどを追体験してみる。
事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめる（3時間）
- 第 11 回 ペン画を模写
ペンタッチなどを追体験してみる。
事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめる（3時間）
- 第 12 回 写真からペン画に
写真をモチーフにペン画を描く。
事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめる（3時間）
- 第 13 回 写真からペン画に
写真をモチーフにペン画を描く。
事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめる（3時間）
- 第 14 回 広重が見た風景
浮世絵版画を参考に、リアルな風景画を描く。
事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめる（3時間）
- 第 15 回 広重が見た風景
浮世絵版画を参考に、リアルな風景画を描く。
事後：課題提出日に間に合うように制作をすすめる（3時間）

〔アクティブラーニング〕

1回：F / 2回：F /
 3回：F / 4回：F /
 5回：F / 6回：F /
 7回：F / 8回：F /
 9回：F / 10回：F /
 11回：F / 12回：F /
 13回：F / 14回：F /
 15回：F

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・ペンの特長を活かした描法。 ・ペンのタッチの工夫。
- ・1週～15週の実習に必要な画材・用紙の特徴を知っておく。
- ・各自マンガ画材、用紙を持参すること。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法 ・評価割合 ・評価基準〕

①提出課題（70%）：構図に対する考えや技法の修得レベルを含め、作品の完成度を総合的に評価する。

②平常点（30%）：授業態度を総合的に評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

課題作品を返却するとき、アドバイスやコメントを添付する。

〔出席確認の方法〕

各自、出席簿に記入

〔基本的な授業の進め方〕

教材のプリントを参考に作品を制作。

前半、作画のポイント等、各自と話し合いアドバイス。後半作品制作。

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 —：関連していない】

〔教科書〕

プリントを配布。

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

時間：出講日授業前後（30分）

場所：イラストレーション研究室（812）または授業実施教室

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

現代マンガアニメ研究

MA/AN415

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

5 【同時双方向型】

演習/1コマ

芦谷 耕平

〔科目の概要および目的〕

現在のマンガ制作は、制作方法、発表形態、媒体などが多種多様に入り乱れ、時代的、技術的にも過渡期ではある。しかし、将来の制作者諸君にとってはチャンスの方が拵がっているとも言える。荒木飛呂彦先生・著「ジョジョの奇妙な冒険」の原作やアニメと、その漫画指南書「荒木飛呂彦の漫画術」を主な題材に、また周辺の関連作品にも触れながら、その制作技術や背景について、何が斬新で何が時代を超越して愛される秘訣なのか、その真髄を学ぶ。

昨今のアナログとデジタルの融合の時代においても、ハードがふるえ記憶に残る作品制作法を研究していく。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・ストーリーのあるマンガやアニメ制作における「基本四大構造」を習得する

- ・荒木飛呂彦作品の解説をもとに、自分の漫画・アニメ制作の制作技術とテーマに基づいた内容を論理的に説明出来る

- ・身上調査書をもとにキャラクターデザインし、クライアントからの発注～納品の流れを実際に即して制作出来る

- ・マンガ完成原稿やネーム・イラストの約16ページ程度に相当する（形式応相談）、完全オリジナルの作品を完成させる技術を身につける

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

第1回 漫画・アニメの教科書

荒木飛呂彦先生・著「ジョジョの奇妙な冒険」の紹介

事前/「ジョジョの奇妙な冒険」の予習(5時間)

事後/「ジョジョの奇妙な冒険」の復習(3時間)

第2回 王道漫画の描き方(1)

ジョジョは王道漫画である、そこにシビれる!導入の描き方、基本四大構造を学ぶ:

第1部「ジョナサン・ジョースター」

事前/漫画の描き方基本の予習(1時間)

事後/基本四大構造の復習(2時間)

第3回 王道漫画の描き方(2)

漫画に欠かせないものは「キャラクター」と「世界観」:

第2部「ジョセフ・ジョースター登場」

事前/漫画の描き方基本の予習(1時間)

事後/基本四大構造の復習(2時間)

第4回 キャラクターの作り方

よい動機とは、キャラクター「身上調査書」、どう描き分けるか:

続・「ジョセフ・ジョースター」

- 事前/漫画の描き方基本の予習(1時間)
事後/身上調査書の自主制作作業(2時間)
- 第5回 小課題(1) キャラクター制作
前週学んだ「身上調査書」を使用し、具体的に1キャラクター以上を考案する:
「スターダストクルセイダース」「空条承太郎」
事前/身上調査書の自主制作作業(1時間)
事後/第1課題の自主制作作業(2時間)
- 第6回 原作者・漫画家 荒木飛呂彦
漫画「デビュー秘話・挑戦=進化のマンガ術」
事前/第1課題の振り返り(1時間)
事後/最終課題の企画立案(2時間)
- 第7回 ストーリーの作り方
起承転結、「常にプラス」、やっではいけないタブー、困難な状況
事前/最終課題の企画立案(2時間)
事後/最終課題のプロット制作(4時間)
- 第8回 絵がすべてを表現する
ヒットする漫画の絵の条件、憧れの漫画家の絵、ポージング、ライブ感:イタリア「柱の男とシーザー」
事前/前回の復習(2時間)
事後/今回の復習(4時間)
- 第9回 漫画の「世界観」とは
読者は「世界観」に浸りたい。世界観とは、ネットではリサーチできないこと:
「第4部」杜王町「虹村兄弟・漫画家の家に遊びに行こう」
事前/前回の復習(2時間)
事後/今回の復習(4時間)
- 第10回 全ての要素は「テーマ」につながる
テーマはぐらつかせない、「人間讃歌」:
「第5部」ローマ「フィレンツェ行き超特急」
事前/前回の復習(2時間)
事後/今回の復習(4時間)
- 第11回 漫画ができるまで一実践編
アイデアは尽きない、コマ割りはリズム、最初の三ページ、確信の決めカット:岸辺露伴「富豪村」
事前/最終課題の下書き制作(2時間)
事後/最終課題の下書き制作(4時間)
- 第12回 ジョジョ原作とアニメの演出(1)
「ヴェネツィアへ向かえ!」極限の闘いに身を投じるキャラたちを描く覚悟を解説
事前/最終課題の制作(2時間)
事後/冬休み中に最終課題の制作(8時間)
- 第13回 ジョジョ原作とアニメの演出(2)
「ダービー・ザ・ギャングラー」その演出の異端さと先進性の解説
事前/最終課題の下書き制作(2時間)
事後/最終課題の制作(4時間)
- 第14回 小課題(2) アナログとデジタルの融合の時代着手
第二課題制作演習 デザイナーとしてキャラクターデザインの発注を受ける

- 事前/冬休み中に最終課題の制作(1時間)
事後/第2課題の自主制作作業(3時間)
- 第15回 「最期の波紋」講義の総括
キャラクターデザイン、イラストレーション、デジタル作画、更にはアニメーション制作も、個人でWEB及びSNS配信ができる時代である。
ClipStudio、Medibang Paintなどのソフト、ipadに代表されるタブレットやスマホメディアをも駆使し、課題を制作、発表し、提出する
事前/最終課題を完成させる(12時間)

〔アクティブラーニング〕

- 1回:— / 2回:D /
3回:D / 4回:D /
5回:D / 6回:D /
7回:D / 8回:D /
9回:D / 10回:D /
11回:D / 12回:F /
13回:F / 14回:D /
15回:F

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・「現代漫画文化論」「マンガ表現基礎」「マンガ制作基礎」
「現代アニメ文化論」「アニメスキルI」のいずれかの科目を修得していることが望ましい

・「ジョジョの奇妙な冒険」の原作またはアニメ版や、その周辺の少年マンガ原作作品などに興味・関心がある

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点(20%):授業態度・授業でのディスカッション発信の積極性や授業態度を評価

②提出物・小課題(合わせて30%)・原稿及びそれに類する提出物(50%):作品の出来を表現力・完成度・締め切りで評価

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・各課題ごとに個別に授業内にて講評、または全体での講評
・最終課題の添削とプレゼンテーションへの講評

〔出席確認の方法〕

・指定のタイミングでコメント投稿や出席票、出席者リスト、リアクションペーパー提出などを併用

〔基本的な授業の進め方〕

・授業説明:10分・その日の講義1:説明10分→思考のワーク1:10分→解説10分・その日の講義2:説明10分→実践のワーク2:15分→解説15分

・授業の振り返り5分

・次回課題説明5分 ワーク1とワーク2の提出で出席など

・その授業回によってフレキシブルに対応。

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力:—

2. 表現力:◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力:—

4. 課題発見力・課題解決力:—

5. コミュニケーション力:△

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

『荒木飛呂彦の漫画術』荒木飛呂彦／集英社文庫／¥780
【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）
【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った
箇所①】

到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：
テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った
箇所②】

課題やレポート等に対するフィードバックの方法

コンピュータデザイン演習

MA/IL/MD479

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

瀬戸 早苗、松吉 太郎

【科目の概要および目的】

Illustratorでデザインするために必要な基本的な操作を学ぶため、書店で本を購入したときにつけてくれる書皮のデザインからスタートします。その後、自分の個展を想定してそれに必要なフライヤーやポスター、冊子（12ページ程度）などをデザイン制作ソフトウェアを使ってデザインしていきます。身近なテーマを扱うことでデザイン思考を理解し、またソフトウェアによる制作方法の習得を目指す。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・デザイン制作の手順がわかる
- ・アイテム別にデザインの目的を理解できる
- ・デザイン制作ソフトウェアを使うことができる。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第1回 ガイダンス

全体の流れの説明

課題I出題 進行状況により多少講義内容を変更することがあります。

Illustratorの使い方（台紙をつくる）

事後：課題の制作（3h）

第2回 課題I【書皮デザイン】(1)

自分の書店を想定し 書皮のデザインを複数考える

Illustratorの使い方（素材を配置してデータをつくる）

事前：デザイン進行（3h）

事後：ソフトの使い方の復習（1.5h）

第3回 課題I【書皮デザイン】(2)

デザインをまとめ、ソフトを使い仕上げる
Illustratorの使い方（印刷入稿に向けての作業について）

事前：デザイン進行（3h）

事後：ソフトの使い方の復習（1.5h）

第4回 課題I【書皮デザイン】(3)

講評会。完成した書皮の解説・説明する

課題II出題 自分の個展を想定する。

Illustratorの使い方（台紙をつくる）

事前：デザイン進行（3h）、発表準備（1h）

事後：講評の検証（1h）、次回課題の確認（1h）

第5回 課題II【フライヤーデザイン】(1)

アイデアを出し、掲載する画像、原稿など素材集め
Illustratorの使い方/Photoshopの使い方（印刷に適した素材の作り方）

事前：デザイン進行（3h）

事後：ソフトの使い方の復習（1.5h）

第6回 課題II【フライヤーデザイン】(2)

アイデアをまとめながら、掲載する内容の検証

Illustratorの使い方/Photoshopの使い方（文字について）

事前：デザイン進行（3h）

事後：ソフトの使い方の復習（1.5h）

第7回 課題II【フライヤーデザイン】(3)

デザインをまとめ、ソフトを使い仕上げる

Illustratorの使い方/Photoshopの使い方（印刷入稿に向けての作業について）

事前：デザイン進行（3h）

事後：ソフトの使い方の復習（1.5h）

第8回 課題II【フライヤーデザイン】(4)

講評会。完成したフライヤーの解説・説明する。

課題III出題 ポスターの内容を確認する。

Illustratorの使い方（台紙をつくる）

事前：デザイン進行（3h）、発表準備（1h）

事後：講評の検証（1h）、次回課題の確認（1h）

第9回 課題III【ポスターデザイン】(1)

デザインをまとめ、ソフトを使い仕上げる

Illustratorの使い方/Photoshopの使い方（印刷入稿に向けての作業について）

事前：デザイン進行（3h）

事後：ソフトの使い方の復習（1.5h）

第10回 課題III【ポスターデザイン】(2)

講評会。完成した作品を解説・説明する。

課題IV出題 作品集の内容を検討する。

InDesignの使い方（概要とファイル作成）

事前：デザイン進行（3h）、発表準備（1h）

事後：講評の検証（1h）、次回課題の確認（1h）

第11回 課題IV【作品集】(1)

作品集の編集内容を考え、掲載する画像、原稿など素材集め

InDesignの使い方（ファイル作成とデータの作り方）

- 事前：デザイン進行 (3h)
事後：ソフトの使い方の復習 (1.5h)
- 第 12 回 課題IV [作品集] (2)
編集内容に合わせてデザインを考え、フォーマットを考える
InDesignの使い方 (文字を組む1)
事前：デザイン進行 (3h)
事後：ソフトの使い方の復習 (1.5h)
- 第 13 回 課題IV [作品集] (3)
デザインを進めて行く
InDesignの使い方 (文字を組む2)
事前：デザイン進行 (3h)
事後：ソフトの使い方の復習 (1.5h)
- 第 14 回 課題IV [作品集] (4)
デザインをまとめ、ソフトを使い仕上げる
InDesignの使い方 (印刷入稿に向けての作業について)
事前：デザイン進行 (3h)
事後：ソフトの使い方の復習 (1.5h)
- 第 15 回 全体講評
講評会。課題IVおよび、先に制作した課題作品すべてのプレゼンテーションを行い総括する
事前：デザイン進行 (3h)、発表準備 (1h)
事後：講評の検証 (1h)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：— / 2回：E /
3回：E / 4回：C /
5回：E / 6回：E /
7回：E / 8回：E /
9回：E / 10回：C /
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

デザイン制作ソフトウェア Adobe Illustrator、Adobe Photoshop、Adobe InDesignについて関心がある、あるいは基本操作はわかる。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点 (30%)：授業に積極的に取り組む態度を評価する
②課題 (50%)：表現力・完成度を評価する
③課題発表 (20%)：課題の制作意図をしっかりと発表できるか

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・毎授業内で個別に制作過程を確認、アドバイスしながら習得度をチェック。

・各課題ごとに、全体での課題発表と講評を行う。

〔出席確認の方法〕

講義の最初に出欠を取る。

〔基本的な授業の進め方〕

- 授業全体説明15分
- テーマ別レクチャー20分
- 課題の提出や進捗の報告55分
- 個別指導もしくは発表70分
- まとめと次回の講義説明20分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
 2. 表現力：◎
 3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
 4. 課題発見力・課題解決力：—
 5. コミュニケーション力：△
 6. 専門的知識・技能の活用力：◎
- 【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

『DTP基礎』波多江潤子著 エムディーエヌコーポレーション 2,500円＋税

〔オフィスアワー〕

時間：出講日の授業終了後30分

場所：授業実施教室

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

アニメ制作Ⅱ

AN454

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

古瀬 登、川上 遥

〔科目の概要および目的〕

アイデアは発想法、起承転結、マンガの手法、アニメの手法など。箱書きからプロット、コンテンツとしての画コンテ制作の指導と実践にいたる。後期に作品を完成させる。

〔到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル) 〕

- ・絵コンテを基にアニメーションを制作できる
- ・臨機応変にスケジュールを管理することができる
- ・グループ制作において柔軟なコミュニケーションを取ることができる

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第 1 回 スケジュールの見直し

- 現状の成果を報告し、後半のスケジュールを立て直す
事後/課題の制作(3h)
- 第 2 回 レイアウト
レイアウト作業
事後/課題の制作(3h)
- 第 3 回 原画(1)
レイアウトを元に大まかな動きのラフを作成する。
事後/課題の制作(3h)
- 第 4 回 原画(2)
ラフの動きをさらに正確にし、動きのチェック。
事後/課題の制作(3h)
- 第 5 回 動画(1)
中割作業
事後/課題の制作(3h)
- 第 6 回 動画(2)
クリンナップ
事後/課題の制作(3h)
- 第 7 回 仕上げ
スキャン・彩色
事後/課題の制作(3h)
- 第 8 回 中間発表(仮提出)
全体で発表、プレゼン。
講評会へ向けた予行練習を兼ねて
事後/課題の制作(3h)
- 第 9 回 撮影
AfterEffectsを使用し、背景とセルを組み合わせた(コンポジットする)。組み合わせたコンポジションに効果を加えていく。
事後/課題の制作(3h)
- 第 10 回 第一稿提出・発表
Adobe Premiere を使い撮影したカットを繋ぎ合わせる。不自然な箇所がないかチェックする。
事後/課題の制作(3h)
- 第 11 回 修正
第一稿の修正
事後/課題の制作(3h)
- 第 12 回 第二稿提出・発表
Adobe Premiere を使い撮影したカットを繋ぎ合わせる。不自然な箇所がないかチェックする。
事後/課題の制作(3h)
- 第 13 回 編集
最終的な編集
事後/課題の制作(3h)
- 第 14 回 講評会
課題の提出と講評会の実施
事後/課題の制作(3h)
- 第 15 回 作品完成
講評会で指摘された部分の修正
事前/課題の制作(3h)

【アクティブラーニング】

- 1回：B / 2回：B /
3回：B / 4回：B /
5回：B / 6回：B /

- 7回：B / 8回：B /
9回：B / 10回：B /
11回：B / 12回：B /
13回：B / 14回：B /
15回：B

【事前に修得しておく必要のある科目】

・「アニメ制作Ⅰ」

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・随時担当教員とミーティングあるいは指導を受けること

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

(本科目は対面実施ですが参考に記載します↓)

Adobe Photoshop, After Effects, Premiere Pro, CLIP STUDIO PAINT EX,ペンタブレット

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点 (30%)：授業態度、グループ制作に積極的に参加できているか

②課題 (40%)：スケジュールを管理できているか。表現力・完成度はどうか

③成果発表(30%)：講評会でのプレゼン・内容について評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・講評会にて全体の課題発表と講評を行う

【出席確認の方法】

授業開始時に名前を読み上げて確認します

【基本的な授業の進め方】

1コマ目

・出席確認:5分 ・資料配布、課題説明:10分・講義10分 ・グループワーク65分

2コマ目

・完成した課題のチェック、添削の繰り返し80分

・課題提出5分・次回説明5分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：△

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：◎

5. コミュニケーション力：○

6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

適宜授業で資料を配布

【参考文献】

神村 幸子 「アニメーションの基礎知識大百科」(2009年) グラフィック社 3080円

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、教科書、参考文献

アニメ背景美術Ⅱ

旧 背景美術Ⅱ

AN455

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

松平 聡

【科目の概要および目的】

「アニメ背景美術Ⅰ」で学んだ絵づくりからアニメーション美術という職域に必要な専門的知識と技術を学ぶ。

アニメーション制作の全体の流れの中で、背景美術をどう設定するかを習得する。描画技術としては、特に自然物を理解し、描く技術を習得する。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

・アニメーション制作における背景美術の設定プラン、美術デザイン、作品のカラープランニングが習得できる。

・Photoshopなどのペイントソフトの実践的応用技術が習得できる。

・描画力の向上。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第1回 模写課題制作①

実際の現場で使う背景美術ボードを見本にテクニックを学ぶ。特に手描きの色の豊かさを学ぶ。

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第2回 模写課題制作②

制作実習 実践技術講義、book,組み、イメージBG,流背

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第3回 模写課題制作③

制作実習 実践技術講義、Follow,PAN,カメラアングル

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第4回 模写課題制作④

制作実習 (課題提出)

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第5回 自然課題制作①

課題として樹木のある風景を描く。樹木は身近にありながらも非常に複雑な自然物です。その樹木を描くことによって物をとらえる力を養う。

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第6回 自然課題制作②

課題として樹木のある風景を描く。樹木は身近にありながらも非常に複雑な自然物です。その樹木を描くことによって物をとらえる力を養う。

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第7回 自然課題制作③

制作実習 光の設定

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第8回 自然課題制作④

制作実習 (課題提出)

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第9回 背景美術作品制作①

各自アニメの作品を設定し、美術設定のプランを作成する。

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第10回 背景美術作品制作②

美術設定制作 イメージスケッチの作成

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第11回 背景美術作品制作③

美術設定制作 参考資料の収集

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第12回 背景美術作品制作④

美術設定制作 線画の作成

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第13回 背景美術作品制作⑤

美術ボード制作 線画のスキャン カラーデザインの検討

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第14回 背景美術作品制作⑥

美術ボード制作 Photoshopで描写

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第15回 背景美術作品制作⑥

美術ボード制作 Photoshopで描写完成

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

【アクティブラーニング】

1回：F / 2回：F /

3回：F / 4回：F /

5回：F / 6回：F /

7回：F / 8回：F /

9回：F / 10回：F /

11回：F / 12回：F /

13回：F / 14回：F /

15回：F

【事前に修得しておく必要のある科目】

・「アニメ背景美術Ⅰ」

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・PCのマウスやキーボード入力など基本操作のできること。

準備するもの：素描道具（鉛筆（B、2B、4B）、消しゴム、直定規30cm、スケッチブック又はクロッキー帳サイズA4以上）

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点（30%）：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

②提出課題（30%）：理解度、表現力、完成度を評価する。

③試験課題（40%）：課題の総合的な完成度を評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・各課題に対し、個別にコメント、指導を行う。

【出席確認の方法】

授業開始時に出席簿に記入

【基本的な授業の進め方】

・その日の授業説明：10分／・講義：80分

・演習実技：80分／・その日の授業の振り返り：10分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

授業内で指示する

【オフィスアワー】

時間：出講日〔火・木〕の授業（9：10～12：20）の前後

場所：授業実施教室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

アニメ演出論Ⅱ 旧 コンテンツⅠ

AN466

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

橋本 三郎

【科目の概要および目的】

完成したアニメーション映像が正しく観る側に伝わる為、一番重要な設計図となる絵コンテを全15週で問題解決しつつ完成させる。

「アニメ演出論Ⅰ」よりも更に踏み込んだ演出力を学ぶ。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・絵コンテの基礎知識が理解できる
- ・破綻のないカットつなぎのできる絵コンテをつくることができる
- ・レイアウト、カメラワーク等の表現力を身につける
- ・説得力のある演出ができる。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

- 第1回 絵コンテ作成配置演出（1）
絵コンテの基礎知識（型、紙、用語etc）、配置演出を解説
事前/絵コンテを確認(1時間)
事後/復習(1時間)レポート作成
- 第2回 絵コンテ作成配置演出（2）
シナリオの決定（呷、カット数etc）、配置演出を解説
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第3回 絵コンテ作成配置演出（3）
カット割り（ラフ作成）、配置演出を解説
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第4回 絵コンテ作成配置演出（4）
カット割り（ラフ作成）、配置演出を解説
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第5回 絵コンテ作成配置演出（5）
カット割り（ラフ作成）、配置演出を解説
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第6回 絵コンテ作成配置演出（6）
カット割り（ラフ作成）（呷調整）、配置演出を解説
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第7回 絵コンテ作成配置演出（7）
カット割り（ラフ作成）（呷調整）、配置演出を解説
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第8回 絵コンテ作成配置演出（8）
カット割り（ラフ作成）（呷調整）、配置演出を解説
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第9回 絵コンテ作成配置演出（9）
カット割り（ラフ作成）（呷調整）、配置演出を解説
事後/復習(2時間)レポート作成

- 第 10 回 絵コンテ作成配置演出 (10)
カット割り(ラフ作成)(訳調整)、配置演出を解説
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第 11 回 絵コンテ作成エンタメについて (1)
クリーンアップ 資料を参照
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第 12 回 絵コンテ作成エンタメについて (2)
クリーンアップ 資料を参照
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第 13 回 絵コンテ作成エンタメについて (3)
クリーンアップ 資料を参照
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第 14 回 絵コンテ作成エンタメについて (4)
完成 資料を参照
事後/復習(2時間)レポート作成
- 第 15 回 まとめ
総括
事後/復習(2時間)ふりかえり

【アクティブラーニング】

- 1回：— / 2回：— /
3回：C / 4回：— /
5回：— / 6回：— /
7回：— / 8回：— /
9回：— / 10回：— /
11回：— / 12回：— /
13回：— / 14回：— /
15回：—

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・「アニメ演出論Ⅰ」を修得済みであることが望ましい
- ・アニメーション制作用語の知識

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点 (30%)：授業態度 (積極性) を評価する
②課題提出 (70%)：理解力と表現力を評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・各課題ごとにコメントをつけ返却する

【出席確認の方法】

点呼もしくは出席カード

【基本的な授業の進め方】

出欠確認 (10分)

講義 (80分)

演習 (90分)

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

資料を配布

【参考文献】

授業内で紹介する

【オフィスアワー】

時間：出講日〔火〕の授業の前後

場所：授業実施教室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

アニメ撮影技術Ⅱ

AN467

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

はとり あゆむ

【科目の概要および目的】

「アニメ撮影技術Ⅰ」で習得した技術をより掘り下げて、さらなる表現力を身につけます。

- ・カメラワークにブレーキや加速をつける
- ・3D機能を使った立体感のあるセルワークやカメラワークで映像表現にメリハリをつける
- ・キャラクターの動きをスローモーションやクイックモーションを使い強弱をつける
- ・エフェクトも、火から炎、水面のキラキラから波のテクスチャ、トカ光から熱量や冷気を感じる光、キャラクターの周りを漂うオーラ光、雨や雪も台風並みの自然現象などより高度なエフェクトを表現する

【到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)】

- ・アニメーション撮影のスキルを身につける
 - ・映像演出、デジタルエフェクトのスキルを身につける
 - ・デジタルアニメーションが完成するまでの全フローを理解できる
 - ・アニメーション制作現場でのスタッフとしてのスキルの育成
- (分からない?ではなく『何をするべきか?』という考え方を身につける)

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第 1 回 After Effectsの基本操作

- ・After Effectsでセルと背景の合成
- ・整理整頓されたコンポの組み方

第 2 回 絵コンテと原画を使った撮影

- ・絵コンテと原画を使った撮影
- ・本撮練習 (整理整頓された綺麗なコンポ作り)

第 3 回 本撮⑤

- ・スピード感のあるアクションカット撮影
- ・バトルでぶつかり合い飛び散る火花のトーカ光など
- 第4回 本撮⑥
 - ・格好いいアクションカット撮影
 - ・斬撃エフェクトを作る(刀の閃光が走るエフェクト)
- 第5回 本撮⑦
 - ・テンポのよいアクション撮影
 - ・数カットを撮影して、編集でテンポよく繋ぎます
- 第6回 セルワーク
 - ・セルSL(スライド)、Follow(BG引き)とその違い
 - ・背景の無限ループを作る
- 第7回 3Dセルワーク
 - ・After Effectsの3D機能を使った撮影
 - ・地面のパス引きや、長距離を移動するカメラワーク
- 第8回 スローモーション②
 - ・連続OLを使用したスローモーション撮影
 - ・キャラクターに残像を付ける撮影
- 第9回 エフェクト⑦トーカ光
 - ・T光の作り方(揺らめく動きのある光)
 - ・画面外からの入射光(スペクトル効果のある入射光)
- 第10回 エフェクト⑧パーティクル
 - パーティクル(光の粒子を飛ばす)
- 第11回 エフェクト⑨リアルな水面処理
 - ・水のエフェクト(キャラクターの映り込み)
 - ・ゆらゆらした水中(水中の処理)
- 第12回 エフェクト⑩リアルな雨と雪
 - ・雨と雪を降らせる
 - ・風にあおられる雨や雪を作る
- 第13回 エフェクト⑪煙
 - ・湯気・煙・蒸気を作る
- 第14回 エフェクト⑫キャラクターを発光させる
 - ・オーラ光・霧・DF(ディフュージョン)
 - ・キャラクターの周りから立ち上るトーカ光など
- 第15回 レンダリングと編集
 - ・ムービーにレンダリングして編集をする

【アクティブラーニング】

- 1回：F / 2回：F /
- 3回：F / 4回：F /
- 5回：F / 6回：F /
- 7回：F / 8回：F /
- 9回：F / 10回：F /
- 11回：F / 12回：F /
- 13回：F / 14回：F /
- 15回：F

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

After Effectsの基本操作が出来ると好ましい
授業で作成した課題は必ず期間内に提出してください

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

Adobe After Effects

Adobe Photoshop

Adobe Premiere Pro

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点(30%)：授業態度を評価する
- ②課題(35%)：授業理解度を評価する
- ③提出課題(35%)：提出課題の表現度を評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

「課題」をその場でフィードバック
「提出物」を次回の授業までに個人へフィードバック

【出席確認の方法】

出席票の提出
授業開始時にチャットに書き込む
フィードバックに出席状況を記載します

【基本的な授業の進め方】

- 1、授業開始、出席(出席票の配布)、授業概要説明：30分
- 2、課題の実演：30分
- 3、課題の実習：30分
(90分を2限行います。)

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

『アニメーションの基礎知識大百科・AfterEffects for アニメーション』

著者：大平幸輝

ビー・エヌ・エヌ新社(ISBN 978-4-8025-1003-5)

定価：本体3,200円+税

【オフィスアワー】

時間：出講日の授業前後

場所：授業実施教室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法

キーフレーム

AN475
東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)
2年生 3年生 4年生
2単位 後期
6【対面型】
演習/2コマ

川上 遥

〔科目の概要および目的〕

アニメ制作にとってもっとも必要不可欠な工程である。いくつかのキャラクターをあたえ、そのキャラクターに芝居をさせるためのキーフレーム作画が課題である。短いカットに慣らされたアニメーターは動きを付く出す能力が低いと言われる。ここではフル・アニメの伝統を絶やさぬためにもキーフレームをしっかりつくれる人材を育成していく。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・絵コンテの基本的な作成方法を理解する
- ・キーフレーム（原画）と中割り（動画）を作成できる
- ・作画・仕上げ・撮影用のPCツールを操作できる

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 課題A テーマの揭示
四足動物の動き・メタモルフォーゼへの理解
CLIP STUDIOを用いたデジタル作画についての説明
事後/課題の制作(3h)
- 第 2 回 課題A 絵コンテ
パターンを考え、コンテに書き起こす
事後/課題の制作(3h)
- 第 3 回 課題A レイアウト・原画
コンテを元にレイアウト・原画を作成
事後/課題の制作(3h)
- 第 4 回 課題A 動画(1)
中割り作業
事後/課題の制作(3h)
- 第 5 回 課題A 動画(2)
クリンナップする
事後/課題の制作(3h)
- 第 6 回 課題A スキャン・彩色
スキャンして彩色作業
事後/課題の制作(3h)
- 第 7 回 課題A 撮影
撮影作業
事後/課題の制作(3h)
- 第 8 回 課題A 提出・講評
課題提出と指導師のチェック&リテイク
事後/課題の制作(3h)
- 第 9 回 課題B テーマの揭示
キャラクターのスケッチ
事後/課題の制作(3h)
- 第 10 回 課題B レイアウト

レイアウトの作成

カメラワーク「つけPAN」について理解する
事後/課題の制作(3h)

- 第 11 回 課題B 原画(1)
参考資料を元にキャラクターに動きを付ける
事後/課題の制作(3h)

- 第 12 回 課題B 原画(2)
動きのタイミングチェックをしながら修正を加える
事後/課題の制作(3h)

- 第 13 回 課題B 動画
中割り作業
事後/課題の制作(3h)

- 第 14 回 課題B クリナップ・背景
セルをクリナップする。背景に色を付ける
事後/課題の制作(3h)

- 第 15 回 課題b 撮影・編集
撮影・編集して提出
事前/課題の制作(3h)

〔アクティブラーニング〕

1回：E / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：E / 6回：E /
7回：E / 8回：E /
9回：E / 10回：E /
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：E

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・「アニメスキルⅢ」の単位を修得していることが望ましい
- ・授業は基本対面で行うが、必要な機器・ソフトウェアを所持している場合はオンライン受講可

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

(本科目は対面で実施しますが参考に記載↓)

CLIP STUDIO PAINT EX,ペンタブレット

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点 (30%)：授業態度・積極性を評価する
- ②課題評価 (70%)：表現力・完成度はどうか。PCツールを使いこなせているか

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・提出後の授業で個別にコメントします

〔出席確認の方法〕

授業開始時に名前を読み上げて確認します

〔基本的な授業の進め方〕

1コマ目

- ・出席確認:5分 ・資料配布、課題説明:10分・講義10分 ・作画作業65分

2コマ目

- ・作成した課題のチェック、添削の繰り返し80分
- ・課題提出5分・次回説明5分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

課題ごとに資料を配布

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

授業計画：テーマ・内容

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件

アニメ背景水彩表現

旧 背景美術（水彩系）

AN476

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目（4）

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

松平 聡

〔科目の概要および目的〕

ポスターカラーによるアニメーション背景美術の演習科目である。手描きの描写による筆使いの味や、色の深みといった各自の感性と手技による表現方法を学ぶ。

アニメーション美術の独特な描画法を限られた授業時間内になるべく多く体験してもらう。自然物の描写に主眼をおいている。

手描きから得られるアナログ的な描画技法と表現思考を学び、現在のデジタルにおける表現力の向上に生かす。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・アニメーション背景美術の基本技法が習得できる。
- ・自然物の描写力が習得できる。
- ・アナログ画材で描く事による描画力が向上する。
- ・絵の具の混色により自ら色をつくりだす力が習得できる。
- ・筆使いの多彩な表現力が習得できる。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第1回 オリエンテーション

授業の概要説明。画材道具の説明。画材の購入。

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第2回 ポスターカラーの基本技法と画材道具の使用基本(1)

各種筆の使い方、絵の具の塗り方、グラデーションの作り方

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第3回 ポスターカラーの基本技法と画材道具の使用基本(2)

溝引き定規の使い方、カラバケ技法など特殊技法

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第4回 背景実技・静物描画

立体感描写のための光と影の設定と色彩表現

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第5回 背景実技・室内描画(1)

壁、床、天井の描写からはじめ、背景作業の描く手順を学ぶ

窓などの細部を描くテクニックについて学ぶ

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第6回 背景実技・室内描画(2)

壁、床、天井の描写からはじめ、背景作業の描く手順を学ぶ

窓などの細部を描くテクニックについて学ぶ

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第7回 背景実技・自然物描画(1)

空と雲を描くためのテクニックを学ぶ

色彩遠近法の表現方法

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第8回 背景実技・自然物描画(2)

樹木、茂み、草などを描くためのテクニックを学ぶ

落葉樹、針葉樹の表現。四季の表現

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第9回 背景実技・自然物描画(3)

樹木、茂み、草などを描くためのテクニックを学ぶ

落葉樹、針葉樹の表現。四季の表現

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第10回 背景実技・自然物描画(4)

土、地面、草地の表現方法

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第11回 背景実技・自然物描画(5)

石、岩、崖の表現方法

事前/授業内容の予習 (1時間)

事後/授業内容の予習 (1時間)

第12回 背景実技・自然物描画(6)

	時間帯、気象条件、季節による違いの表現方法	
	事前/授業内容の予習	(1時間)
	事後/授業内容の予習	(1時間)
第13回	課題制作(1)	
	課題作品制作	
	事前/授業内容の予習	(1時間)
	事後/授業内容の予習	(1時間)
第14回	課題制作(2)	
	課題作品制作	
	事前/授業内容の予習	(1時間)
	事後/授業内容の予習	(1時間)
第15回	課題制作(3)	
	課題作品制作	
	事前/授業内容の予習	(1時間)
	事後/授業内容の予習	(1時間)

【アクティブラーニング】

1回：F / 2回：F /
 3回：F / 4回：F /
 5回：F / 6回：F /
 7回：F / 8回：F /
 9回：F / 10回：F /
 11回：F / 12回：F /
 13回：F / 14回：F /
 15回：F

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・準備するもの：画材（ポスターカラーや筆等）※アニメーション領域にて貸出用の画材を用意します。一部の画材は、各自購入が必要です。（詳細は、掲示等で別途お知らせします。）

・履修人数制限あり（20名程度）

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点（30%）：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

②提出課題（30%）：理解度、表現力、完成度を評価する。

③試験課題（40%）：課題の総合的な完成度を評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・各課題に対し、個別にコメント、指導を行う。

【出席確認の方法】

授業開始時に出席簿に記入

【基本的な授業の進め方】

・その日の授業説明：10分／・講義：80分

・講習実技：80分／・その日の授業の振り返り：10分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 —：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

「学校では教えてくれない風景スケッチの法則」増山 修著 日貿出版社 2,200円

【オフィスアワー】

時間：出講日〔火・木〕の授業（9：10～12：20）の前後
 場所：授業実施教室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

ファンタジーと物語（物語作法）

旧 メルヘンファンタジー（物語作法）

AN477

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

平野 靖士

【科目の概要および目的】

ファンタジーと物語の関わり、映像作品との関わりを知り、物語の表現とは何か、そしてその発想方法や構造を学習して、物語を考え、実習する。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・ファンタジーと物語の関係性を説明できる。
- ・物語の本質がドラマであることが説明できる。
- ・ストーリー創作の発想力の基本的スキルが習得できる。
- ・ストーリー創作の構成力の基本的スキルが習得できる。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

この講義の内容と目的の説明。映像によるファンタジー作品を観る。

事後/授業内容の再確認 (1時間)

第2回 ファンタジーとは何か

ファンタジーの歴史と定義、そして、物語や演劇、映像などの始まりがファンタジーであることを解説する。

事後/授業内容の再確認 (1時間)

第3回 神話と物語

ファンタジーの例としてギリシア神話冒頭の物語を説明し、物語の本質であるドラマとは何かを解説する。

事後/授業内容の再確認 (1時間)

第4回 神話と登場人物

- 神話から生まれたキャラクターと現代コミックやアニメとの関係を解説する。
事後/授業内容の再確認 (1時間)
- 第5回 物語の構造
神話のエピソードを使って、物語の構造を解説する。
事後/授業内容の再確認 (1時間)
- 第6回 物語の構築法
発想したアイデアから物語を構築するためには、何から考えるかを解説する。
事後/授業内容の再確認 (1時間)
- 第7回 物語の展開と構成
物語の構成を説明し、伝えたいことの展開の仕方や伝え方を解説する。
事後/授業内容の再確認 (1時間)
- 第8回 童話の写筆
幼児向けの童話を写筆して、物語を書く作業を体験しつつ、書いた物語の内容を考えさせる。
事後/授業内容の再確認 (3時間)
- 第9回 物語の理解と発展
8時限で写筆した幼児向けの童話を大人向けにするための内容の理解を深め、ディスカッションさせる。
事後/授業内容の再確認 (2時間)
- 第10回 物語の整合性
グループで連想ゲーム形式の支離滅裂なストーリーを創り、自由な発想で整合性のあるストーリーにする。
事後/授業内容の再確認 (2時間)
- 第11回 ストーリーとドラマ
10時限で創ったストーリーを、グループでドラマのある物語にして発表する。
事後/授業内容の再確認 (2時間)
- 第12回 物語を面白くするために
自由に発想した登場キャラを使って、ディスカッションで物語を作ってみる。
事後/授業内容の再確認 (2時間)
- 第13回 物語の創作Ⅰ (テーマ)
自分が伝えたい話しのテーマを考え、一行で表現し、それを肉付けしてストーリー構成を組み立てていく。
事後/ストーリーの作成 (4時間)
- 第14回 物語の創作Ⅱ (執筆)
テーマから組み立てたストーリーをオリジナルの物語 (課題) として執筆する。
事後/ストーリーの作成 (4時間)
- 第15回 まとめ
課題を仕上げる。
事後/ストーリーの作成 (4時間)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：— / 2回：D /
3回：D / 4回：D /
5回：D / 6回：D /
7回：D / 8回：D /

- 9回：E / 10回：B /
11回：C / 12回：A /
13回：C / 14回：— /
15回：—

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

留学生は日本語の読み書きを習得していること。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点 (20%)：授業マナーを守り、積極的に授業に参加しているか。

②課題 (80%)：表現力、完成度はどうか。締切りは守れたか。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

授業で個別にコメントします

〔出席確認の方法〕

授業開始時、出席確認

〔基本的な授業の進め方〕

・授業説明 5分

・その日の講義 75分

・映像 (映画その他) 観賞：観賞 70分→感想 20分

・授業振り返り 5分

・次回講義説明 5分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：○

5. コミュニケーション力：—

6. 専門的知識・技能の活用力：△

〔◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない〕

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

必要に応じてプリント配布

〔オフィスアワー〕

時間：出講日の授業の前後

場所：授業実施教室

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

音響制作

AN/MD478
東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)
2年生 3年生 4年生
2単位 後期
6【対面型】
演習/2コマ

坂口 博樹

〔科目の概要および目的〕

- ・音とは何か、音の性質を理解する。
- ・世界には必ず「音」が存在する。聞き逃しがちなその音を再確認することによって、それに伴うヒトの感情の動きを体感し、映像作品に不可欠な音響演出を理解する。
- ・音響効果の実践を中心に映像一般に必要な音声録音や編集技術を学ぶ。
- ・五感(とくに視覚)に対する音とのシナジー効果を学ぶ。
- ・日常にある音コミュニケーションを通して、社会生活(広くは民族)が表意する音の考察をする。
- ・制作にはDAW(デジタル・オーディオ・ワークステーション)ソフトと映像編集ソフトを使い、録音や編集のスキルを高める。
- ・音楽経験がなくても受講できる。

〔到達目標(授業を通じて身につく能力・スキル)〕

- ・音への理解を深め、聴く力を高める。
- ・音声の編集、制作ができるようになる。
- ・音響編集ソフトの操作をマスターできる。
- ・映像作品を生かす音の演出の能力を習得できる。
- ・録音技術の習得ができる。
- ・未聴な音の創造と制作をする。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第1回 はじめに(音風景についての考察)
授業概要の説明。身近な生活音を注意深く聞き分けることによって、世界がどんな音で構築されているかを確認するためのエクササイズ。使用アプリの説明。
事前/自分の音体験を考えておく/1(時間)
事後/音風景について調べる/1(時間)
- 第2回 音響効果の種類と用途
音響制作の現場を説明する。実際に使用されている効果音、音楽を聴く映像視聴。オノマトペを使って表現する。
事前/効果音の調査/1(時間)
事後/オノマトペを音にする/1(時間)
- 第3回 編集ソフトの基本操作1
編集ソフトの基本的な操作の実習。サンプル映像視聴。映像への効果音の当て込み。
事前/編集ソフト操作の予習/1(時間)
事後/編集ソフト操作の復習/2(時間)
- 第4回 編集ソフトの基本操作2
同上。BGMの選曲。映像とリズム--音楽ソフトでドラムトラックを制作して映像と合わせる。

- 事前/編集ソフト操作の予習/1(時間)
事後/編集ソフト操作の復習/2(時間)
- 第5回 編集ソフトの基本操作3
同上。効果音の創作。
事前/編集ソフト操作の予習/1(時間)
事後/編集ソフト操作の復習/2(時間)
- 第6回 制作1-1
音楽と音を効果的に映像と結びつける実習。サンプル映像に実際に音をつけ、効果を検討する。
事前/選曲をしておく/1(時間)
事後/作品の完成/3(時間)
- 第7回 制作1-2
楽曲編集による時間調整の実習等。
事前/楽曲編集予習/1(時間)
事後/作品の完成/2(時間)
- 第8回 録音ソフトの基本操作
録音ソフトの基本的な操作の実習。
事前/録音ソフトの使い方予習 /1(時間)
事後/録音ソフト操作の復習 /2(時間)
- 第9回 録音の実践
ナレーション録音の実践。
事前/台本の精査、演出案/2(時間)
事後/ナレーションの編集/2(時間)
- 第10回 制作2-1~整音
録音物の音をきれいに整える実践。
事前/録音ソフト使い方予習/2(時間)
事後/作品の完成/3(時間)
- 第11回 制作2-2
ナレーション、効果音等の入れ替えによる音響演出実践。
事前/音響演出予習/1(時間)
事後/作品の完成/3(時間)
- 第12回 制作2-3
録音物、効果音、選曲等の要素を含んだ作品の制作。発表プレゼンテーション、講評。
事前/プレゼン準備 /2(時間)
事後/作品修正 /2(時間)
- 第13回 音の制作
音楽ソフトを使った、新しい(未知の)音の創造法。各自プレゼン及びディスカッション。
事前/新しい(未知の)音を調べる/2(時間)
事後/作品の修正/2(時間)
- 第14回 制作3
授業を通して体得したスキルを用いた総合的な作品の制作。
事前/作品制作/2(時間)
事後/作品の制作/2(時間)
- 第15回 最終作品完成
最終作品の完成提出
事前/作品の制作/2(時間)

〔アクティブラーニング〕

- 1回:A,E / 2回:D,E /
3回:D,E / 4回:E /
5回:E / 6回:B,E /

7回：B,E / 8回：E /
 9回：B,E / 10回：E /
 11回：D,E / 12回：C,E /
 13回：A,E / 14回：E /
 15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・基礎的なコンピュータの扱い。
- ・今まで自らが制作した作品の音をリストアップしてみる
- こと。
- ・興味のある映像作品を見て音(音楽、効果音他)をリストアップしてみる
- こと。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

(本科目は対面で実施ですが参考に記載します↓)

コンピュータ (Windows10、Mac OS10.13以上) もしくはiPad (iOS12以上)。

DAWソフト Roland Zenbeats 学校より供与。

映像編集ソフト Adobe Premiere Pro (必須ではないが、持っていることが望ましい)。

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ・最終作品提出(試験に相当)---音響制作を理解し、創造的な作品が作れるか(40%)
- ・授業ごとの課題提出---指示した内容に沿った課題ができて
- いるか、期限が守れたか(30%)
- ・成果発表---自作の発表の場でのプレゼンの姿勢・内容について
- 評価(20%)
- ・平常点---授業マナーを守り、積極的に授業に参加している
- か(10%)

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

提出後の授業で全体にコメントする

【出席確認の方法】

Teams会議でのチャット

【基本的な授業の進め方】

- ・授業説明等:10分
- ・前回のワーク評価20分
- ・講義1:30分 ワーク30分
- ・講義2:30分 ワーク40分
- ・まとめ、課題節目、予告など:20分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 —：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

授業内で紹介する

【オフィスアワー】

時間：出講日の授業の前夜

場所：授業実施教室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、出席確認の方法、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

ゲーム企画演習Ⅱ

GA458

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

吉岡 章夫

【科目の概要および目的】

特定のキーワードから発想の幅を広げる訓練をする。企画発想力のスピードと内容を高めるとともに、相手に伝える手段を学ぶ。デザイナーとしてゲームデザインに必要なとされるグラフィックスのスキルを身につける。頭の中のアイデアを目に見える形にする。ゲームショウ等のイベント出展も視野に入れる。

【到達目標(授業を通じて身につく能力・スキル)】

- ・プランナーとして条件を踏まえた上で魅力的な発想ができる。
- ・プランナーとして相手に伝わる企画書を作れる。
- ・デザイナーとして必要な精度の高い描画力、レイアウト作成ができる。
- ・プログラマーとしてのロジカル思考ができる。
- ・グループ制作を円滑に進めるコミュニケーション力を身につける。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第1回 イントロダクション

業界動向。必要なスキル。発想法。

事前/ 業界調査3(時間)

事後/ 制作3(時間)

第2回 企画を考える

特定のキーワードをもとに企画発想する。グループ分け。

事前/ 制作3(時間)

事後/ 制作3(時間)

第3回 企画書プレゼン

企画書のプレゼンテーション。

事前/ 制作3(時間)

事後/ 制作3(時間)

第4回 技術試作(1)

- 企画の根幹となる仕組みの試作と実現度の検証。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 5 回 技術試作 (2)
企画の根幹となる仕組みの試作と実現度の検証。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 6 回 グループ制作 (1)
グループでゲームを制作する。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 7 回 グループ制作 (2)
グループでゲームを制作する。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 8 回 グループ制作 (3)
グループでゲームを制作する。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 9 回 アルファ版確認
進捗と方向性の確認。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 10 回 グループ制作 (4)
進捗と方向性の確認
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 11 回 グループ制作 (5)
グループでゲームを制作する。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 12 回 グループ制作 (6)
グループでゲームを制作する。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 13 回 ベータ版確認
進捗と方向性の確認。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 14 回 グループ制作 (7)
グループでゲームを制作する。
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 15 回 プレゼン・講評
制作した作品を全員で講評する。
事前/ 制作3(時間)
事後/ フィードバック確認3(時間)

【アクティブラーニング】

- 1回：E / 2回：B /
3回：C / 4回：B /
5回：B / 6回：B /
7回：B / 8回：B /
9回：C / 10回：B /
11回：B / 12回：B /

13回：C / 14回：B /

15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

・「ゲーム企画演習Ⅱ」

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・ Adobe Photoshop、Illustratorを使って画素材の作成が可能
なこと。

・ Unity、java script、C#等でコンテンツ作成が出来ること。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点(最大30点)：授業マナーを守り、授業に積極的に取
り組む態度を評価する。

②ゲーム企画書(最大10点)：表現力・完成度を評価する。

③アルファ版(最大10点)：表現力・完成度を評価する。

④ベータ版(最大10点)：表現力・完成度を評価する。

⑤最終課題(最大30点)：表現力・完成度を評価する。

⑥プレゼンテーション(最大10点)：課題の制作意図をしっか
りと伝えられているかを評価する。

平常点が6割に満たない場合は課題の採点対象外とする。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・提出後の授業で全体にコメントします

【出席確認の方法】

授業開始時に点呼

【基本的な授業の進め方】

20分：該当回の授業の内容の説明

150分：実技

10分：クロージング解説

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：○

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

参考ウェブサイトを授業内で紹介

【参考文献】

参考ウェブサイトを授業内で紹介

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った
箇所①】

授業計画：テーマ・内容

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った
箇所②】

なし

3DCG II

GA459

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

有富 洋平

【科目の概要および目的】

現在の3DCG制作において必要とされる制作スキルを理解し、身につけることを目的とする。今期の授業では、背景モデル制作に必要な基礎知識やテクスチャの質感を向上させる方法を身につける。

具体的にはモディファイアやスカルプトを用いたハイポリゴンモデルの作成、Blender上で様々なテクスチャをベイクする方法を理解する。ハイポリゴンモデルの質感をローポリゴンモデルへ転用する方法を身につける。

Unityでのポストエフェクトの使い方を学び、CinemachineとTimelineを駆使したリアルタイムレンダリングのアニメーション制作を行う。ゲームエンジンを用いたゲーム制作に必要な3Dスキルが含まれる。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・Blenderで任意のテクスチャをベイクして作ることができる
- ・モディファイアやスカルプトを使って効率よくハイポリゴンのモデルが制作できる
- ・ハイポリゴンモデルを使いローポリゴンモデルの質感をアップさせることができる（ノーマルマップのベイク）
- ・リトポロジーのやり方を理解する
- ・Unityでのポストエフェクトの使い方がわかる

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

- 第1回 インTRODクシヨン
本授業で学ぶことの概要を説明する
リファレンスの集め方、活用の仕方を紹介する
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 課題:リファレンス集め1.0 (時間)
- 第2回 背景モデル作成1モデリング
オブジェクトの流用を考慮に入れたモデリング
スカルプトを使って岩のモデルを作成する
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第3回 背景モデル作成2 マテリアル、プロップスモデリング
マテリアル、ライトの設定、プロップスモデリング。
Decimate Modifierの使ったポリゴン削減法を理解する
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第4回 背景モデル作成3アニメーション
水面をアニメーションさせる
旗をアニメーションさせる

- 事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第5回 課題制作1 (中間課題1)
作成した背景モデルに今までに作成した3Dモデルをインポートしポーズを取らせる。
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第6回 テクスチャリング1テクスチャの種類とベイク
Blenderを使った様々なテクスチャの作り方を解説する
Blenderでテクスチャをベイクする方法を学ぶ
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/課題:ノーマルベイク 1.0 (時間)
- 第7回 テクスチャリング2ハイポリモデル作成
モディファイア、スカルプトを使ったハイポリモデルの作り方を学び、ノーマルマップにベイクする
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第8回 リトポロジー
リトポロジーの概念を理解する
Blenderでのリトポロジーのやり方を理解する
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/課題:リトポロジー 1.5 (時間)
- 第9回 課題制作2 (中間課題2)
リトポロジーしたモデルをUV展開しノーマルマップをベイクしマテリアルにアサインして着色
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.5 (時間)
- 第10回 LOD作成
LODの概念を理解する
BlenderでLODを作成する
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.5 (時間)
- 第11回 Unityでのライティング・ポストエフェクトの理解
Unityでのライティングの方法、ポストエフェクトの使い方を理解する
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第12回 最終課題制作(1)
リアルタイムレンダリングのアニメーション作成
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第13回 最終課題制作(2)
リアルタイムレンダリングのアニメーション作成
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第14回 最終課題制作(3)
リアルタイムレンダリングのアニメーション作成
事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)
事後/ 本日の復習 1.0 (時間)
- 第15回 プレゼン・講評まとめ

制作した作品を全員で講評する

事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)

事後/ 本日の復習 1.0 (時間)

【アクティブラーニング】

1回：B / 2回：B /

3回：B / 4回：B /

5回：— / 6回：B /

7回：B / 8回：B /

9回：— / 10回：B /

11回：B / 12回：— /

13回：— / 14回：— /

15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

・「3DCG I」

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

Blenderの基本操作を理解していること

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点（最大30点）：授業に積極的に取り組む姿勢を評価する。

②授業後の提出課題（最大15点 各5点）：理解度、完成度を評価する。

③中間課題1,2（最大20点）：理解度、完成度を評価する。

④最終課題（最大25点）：理解度、完成度を評価する。

⑥プレゼンテーション（最大10点）：課題の制作意図をしっかりと伝えられているかを評価する。

平常点が6割に満たない場合は課題の採点対象外とする。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

授業後の課題はTeamsにて全体にフィードバックします。

課題制作は提出後の授業で全体にコメントします。

【出席確認の方法】

授業時にTeamsのチャンネル上でのコメント投稿および点呼で確認します。

【基本的な授業の進め方】

・授業の概要説明：5分

・その日の講義1：説明 20分 →ハンズオン形式：60分

・その日の講義2：説明 20分 →ハンズオン形式：60分

・授業の振り返り10分・次回課題説明5分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：△

5. コミュニケーション力：△

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

参考ウェブサイト、書籍を授業内で紹介

【参考文献】

参考ウェブサイト、書籍を授業内で紹介

【オフィスアワー】

時間：出講日（月曜日）の授業後

場所：授業実施教室

それ以外の時間はTeamsにて受け付けます

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

Webデザイン演習

GA/MD460

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6 【対面型】

演習/2コマ

【科目の概要および目的】

情報を世界中に伝達することが可能な World Wide Web は、今日においてデジタルコンテンツ制作者のみならずとも欠かせない主要なメディアの一つです。

本授業では、Web サイト制作の基本的アプローチを学習し、その具体的な方法とスキルを修得することを目指します。日々の演習や課題制作を通して、主に、HTML によるマークアップと CSS によるプレゼンテーションの作成について学習し、Web メディアにより情報発信するための制作方法の理解を深めます。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

・HTML, CSS, Javascript の Web ページでの役割を理解し適切に利用できる。

・テキストエディタを使用し実践的なマークアップができる。

・複数の Web ページを作成し、1つの Web サイトとして制作することができる。

・Web デザインが果たす役割について説明できる。

【授業形態】

6

【授業計画】

第 1 回 オリエンテーション

本授業の概要、進め方、作業環境について

サイトマップ、インターネットリテラシーについて

事前/パソコンの基本操作 1.0(時間)

事後/授業内容の復習 2.0(時間)

第 2 回 Webページ制作演習 (1)

HTML, CSS, Javascript について説明と演習

(Web ページにおける各役割を理解する。)

事前/疑問点の整理 1.0(時間)

事後/授業内容の復習 2.0(時間)

第 3 回 Webページ制作演習 (2)

HTML, CSS, Javascript について説明と演習

(Web ページにおける各役割を理解する。)

	事前/疑問点の整理 1.0(時間)		
	事後/授業内容の復習 2.0(時間)		
第 4 回	Webページ制作演習 (3)		[アクティブラーニング]
	HTML, CSS, Javascript について説明と演習 (Web ページにおける各役割を理解する。)		1回:— / 2回:— /
	事前/疑問点の整理 1.0(時間)		3回:— / 4回:— /
	事後/授業内容の復習 2.0(時間)		5回:— / 6回:— /
第 5 回	スライス		7回:A / 8回:A /
	デザイン画像から部分的に切り出す方法についての説明と演習		9回:— / 10回:A /
	事前/疑問点の整理 1.0(時間)		11回:A / 12回:A /
	事後/授業内容の復習 2.0(時間)		13回:A / 14回:A /
第 6 回	スマートフォンページ制作演習		15回:C
	メディアクエリーについての説明と演習		[事前に修得しておく必要のある科目]
	事前/疑問点の整理 1.0(時間)		・「ゲームプログラミング入門」
	事後/授業内容の復習 2.0(時間)		[履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など]
第 7 回	中間課題演習 (1)		・ファイル操作などWindowsパソコンに対する基本操作ができること。キーボードによる入力に慣れておくこと。
	CSSと画像によるページ制作演習		・Photoshopの基本操作ができること。
	事前/疑問点の整理 0.5(時間)		[オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件]
	事後/課題制作 2.5(時間)		—
第 8 回	中間課題演習 (2)		[成績評価方法・評価割合・評価基準]
	CSSと画像によるページ制作演習		①平常点 (30%) : 授業マナーを守り、授業に積極的に取り組み、当日に演習課題がある場合は提出すること。
	事前/疑問点の整理 0.5(時間)		②課題制作 (70%) : 授業内容の理解と、制作意図の把握が、課題制作にしっかりと反映されているかどうかを評価し、各自の仕様に対する完成度を重視します。
	事後/課題制作 2.5(時間)		[課題やレポート等に対するフィードバックの方法]
第 9 回	課題制作 (1)		・発表したものに対して授業全体で講評を行います。
	内容の発表と進め方の説明		・質問に対して個別にコメントします。
	事前/疑問点の整理 0.5(時間)		[出席確認の方法]
	事後/課題制作 2.5(時間)		出席票またはそれに準ずるものにより確認
第 10 回	課題制作 (2)		[基本的な授業の進め方]
	制作、疑問点の解決		前回の振り返り (10分) 実習を伴う講義 (120分) 演習, 質疑応答 (50分)
	事前/疑問点の整理 0.5(時間)		
	事後/課題制作 2.5(時間)		
第 11 回	課題制作 (3)		9回以降
	制作、疑問点の解決		前回の振り返り (10分) 実習を伴う講義 (50分) 演習, 質疑応答 (120分)
	事前/疑問点の整理 0.5(時間)		
	事後/課題制作 2.5(時間)		
第 12 回	課題制作 (4)		[ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応]
	制作、疑問点の解決		1. 主体的行動力:◎
	事前/疑問点の整理 0.5(時間)		2. 表現力:○
	事後/課題制作 2.5(時間)		3. 社会貢献力・コラボレーション力:—
第 13 回	課題制作 (5)		4. 課題発見力・課題解決力:—
	制作、疑問点の解決		5. コミュニケーション力:△
	事前/疑問点の整理 0.5(時間)		6. 専門的知識・技能の活用力:◎
	事後/課題制作 2.5(時間)		[◎:特に関連が強い ○:関連が強い △:関連がある —:関連していない]
第 14 回	課題制作 (6)		[教科書]
	制作、疑問点の解決		なし
	事前/疑問点の整理 0.5(時間)		[参考文献]
	事後/課題制作 2.5(時間)		授業内で紹介します。
第 15 回	課題発表		[オフィスアワー]
	課題の提出、発表、講評		時間:出講日前後、これ以外については応相談
	事前/発表準備 2.5(時間)		[【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①]
	事後/まとめ・整理 0.5(時間)		[【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②]

視覚伝達論

旧 イラストレーション概論Ⅱ

IL411

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

松吉 太郎

〔科目の概要および目的〕

身の回りにある事物をモチーフに、ピクトグラム（絵文字）やマークのデザインを行い、ビジュアルによるコミュニケーションを試みる。絵やイラストレーションを描く事で獲得して来た表現力を使い、誰にでもわかる単純な造形に変換したビジュアル表現を考える。比較的馴染みのあるモチーフでの演習によりシンボルマークについての基本的な事柄を実践しながら学ぶ。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・グラフィックデザインの基本概念を理解する
- ・目的に合わせたビジュアルによる表現の習得
- ・ビジュアルによるコミュニケーションの実践
- ・自分が表現したものについて他者に論理的に説明ができる。

〔授業形態〕

6 【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 課題Ⅰピクトグラム (1)
全体の流れを説明
◎課題Ⅰの出題
事後/課題Ⅰの簡易なラフ制作(3時間)
(講義は進行状況により多少内容を変更する場合があります)
- 第 2 回 課題Ⅰピクトグラム (2)
モチーフの候補を複数考え、アイデアを練りラフを複数制作する
デザイン過程のチェックを受けながら進める
事前/課題Ⅰの簡易なラフ制作(3時間)
事後/講義内で指摘された修正点などの確認(1.5時間)
- 第 3 回 課題Ⅰピクトグラム (3)
モチーフを絞りブラッシュアップした完成形に近いラフを制作する
デザイン過程のチェックを受けながら仕上げる
事前/課題Ⅰのラフをブラッシュアップ(3時間)
事後/講義内で指摘された修正点などの確認(1.5時間)
- 第 4 回 課題Ⅰピクトグラム (4) 提出・講評
◎課題Ⅰの発表 デザイン意図などを説明する
◎課題Ⅱの出題
事前/課題Ⅰの制作・発表準備(4時間)
事後/課題Ⅰ講評の検証(1時間) 課題Ⅱの簡易なラフ制作(3時間)
- 第 5 回 課題Ⅱシンボルマーク (1)

モチーフの候補を複数考え、アイデアを練りラフも複数制作する

デザイン過程のチェックを受けながら進める

事前/課題Ⅱの簡易なラフ制作(3時間)

事後/講義内で指摘された修正点などの確認(1.5時間)

第 6 回 課題Ⅱシンボルマーク (2)

モチーフを絞りブラッシュアップした完成形に近いラフを制作する

デザイン過程のチェックを受けながら仕上げる

事前/課題Ⅱのラフをブラッシュアップ(3時間)

事後/講義内で指摘された修正点などの確認(1.5時間)

第 7 回 課題Ⅱシンボルマーク (3) 提出・講評

◎課題Ⅱの発表 デザイン意図などを説明する

◎課題Ⅲの出題

事前/課題Ⅱの制作・発表準備(4時間)

事後/課題Ⅱ講評の検証(1時間) 課題Ⅲの簡易なラフ制作(3時間)

第 8 回 課題Ⅲサイン (1)

モチーフの候補を複数考え、アイデアを練りラフも複数制作する

デザイン過程のチェックを受けながら進める

事前/課題Ⅲの簡易なラフ制作(3時間)

事後/講義内で指摘された修正点などの確認(1.5時間)

第 9 回 課題Ⅲサイン (2)

モチーフを絞りブラッシュアップした完成形に近いラフを制作する

デザイン過程のチェックを受けながら仕上げる

事前/課題Ⅲのラフをブラッシュアップ(3時間)

事後/講義内で指摘された修正点などの確認(1.5時間)

第 10 回 課題Ⅲサイン (3) 提出・講評

◎課題Ⅲの発表 デザイン意図などを説明する

◎課題Ⅳの出題

事前/課題Ⅲの制作・発表準備(4時間)

事後/課題Ⅲ講評の検証(1時間) 課題Ⅳラフ制作(3時間)

第 11 回 課題Ⅳシンボルマーク (1)

モチーフを考え、アイデアを練り、複数のデザインラフ及びブラッシュアップする

デザイン過程のチェックを受けながら進め、仕上げる

事前/課題Ⅳのラフをブラッシュアップ(5時間)

事後/講義内で指摘された修正点などの確認(1.5時間)

第 12 回 課題Ⅳシンボルマーク (2) 提出・講評

◎課題Ⅳの発表 デザイン意図などを説明する

◎課題Ⅴの出題

事前/課題Ⅳの制作・発表準備(5時間)

- 事後/課題Ⅳ講評の検証(1時間) 課題Ⅴの簡易なラフ制作(3時間)
- 第13回 課題Ⅴシンボルマーク (1)
コンセプトを考え、アイデアを練り、複数のデザインラフを作る
デザイン過程のチェックを受けながら進める。
事前/課題Ⅴの簡易なラフ制作(3時間)
事後/課題Ⅴの修正点の確認(1.5時間)
- 第14回 課題Ⅴシンボルマーク (2)
モチーフを絞りブラッシュアップした完成形に近いラフを制作発表する。
デザイン過程のチェックを受けながら仕上げる
事前/課題Ⅴのラフをブラッシュアップ(3時間)
事後/課題Ⅴの修正点の確認(1.5時間)
- 第15回 全体講評
●課題Ⅴの発表 及び先に制作した課題作品すべてを総括する。
事前/課題Ⅴの制作・発表準備(4時間)
事後/講評の検証(2時間)

【アクティブラーニング】

- 1回：C / 2回：C /
3回：C / 4回：C /
5回：C / 6回：C /
7回：C / 8回：C /
9回：C / 10回：C /
11回：C / 12回：C /
13回：C / 14回：C /
15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

課題は基本現物（出力したもの）とTeamsにAdobe Acrobatなどで提出。画像での提出も認めるがデザイン制作ソフトウェアAdobe Illustratorなどが使えることが望ましい

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

課題提出用のソフトAdobe Acrobatなど

画像での提出の場合は要相談

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点（30%）：毎回の発表・報告・連絡・相談がきちんと行われているかを評価する

②課題（50%）：理解力・発想・表現力・芸術性を総合的に評価する。

③課題発表（20%）：作品をいかに理論的に説得力を持ってプレゼンテーション出来るかを評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・毎授業内で個別に課題に対する報告・連絡・相談を受けアドバイスします。

・各課題の発表時に講評をする。

【出席確認の方法】

音声での出席確認および指定のタイミングでコメントの投稿

【基本的な授業の進め方】

●授業説明15分 ●個別指導もしくは発表65分 ●まとめと次回の講義説明10分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：－
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：－
4. 課題発見力・課題解決力：－
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
－：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

必要に応じて随時授業内で紹介します。

【オフィスアワー】

時間：出講日の授業後30分程度

Microsoft Teamsでのチャットや音声通話を使用

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件

イラストレーション概論Ⅱ

旧 イラストレーション表現基礎Ⅱ

IL412

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

北見 隆

【科目の概要および目的】

・授業の概要：絵画やイラストレーションの歴史を解説すると共に、その作品スタイルを追体験（作画）する授業である。イラストレーション概論Ⅰでは19世紀末までの美術やデザインを紹介したが、概論Ⅱでは20世紀から現代までのアートの動きを紹介する。概論Ⅰ同様講義中にトレーニング的な作画課題が5問程度出題され、その講評も行われる。複数枚のイラストレーションを連作する課題も出されるが、オンライン授業のためデジタルによる課題提出も可である。なお授業最終日にはペーパーテストが行われる。

・科目の目的：芸術における先人達の創意工夫や発見を学ぶ事で、自己の表現方法を模索する。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

・様々なジャンルのアートに対する知識を得る事で、美術作品に対し、これまでより新たな興味を持って観賞することができる。

・限られた条件の下で作品を制作することにより、自己の表現方法における未知の可能性を認識することができる。

・表現したいイメージを、分かりやすく伝達する技術を身に付けることができる。

・他学生作品との比較により、自己の感性や創作意識が確認できる。

【授業形態】

5【同時双方向型】

【授業計画】

- 第 1 回 授業概要と第一次世界大戦前後の美術 (1)
第一次世界大戦前後の作品紹介と解説。ロシア構成主義的ポスターを制作(1)
事前学習 (授業概要の認識/1時間)
事後学習 (描写練習/1時間)
- 第 2 回 第一次世界大戦前後の美術 (2)
ロシア構成主義的ポスターを制作(1)
事前学習 (授業概要の認識/1時間)
事後学習 (描写練習/1時間)
- 第 3 回 第一次世界大戦前後の美術 (2)
ロシア構成主義について、作品紹介と解説。構成主義的ポスターを制作。
事前学習 (授業概要の認識/1時間)
事後学習 (描写練習/1時間)
- 第 4 回 第一次世界大戦前後の美術 (3)
赤と黒 2 色による自己を励ますポスターを描く。(1)
サイズは A3
事前学習 (授業概要の認識/1時間)
事後学習 (描写練習/1時間)
- 第 5 回 第一次世界大戦前後の美術 (4) 講評会
自己作品解説と講評会
事前学習 (授業概要の認識/1時間)
事後学習 (描写練習/1時間)
- 第 6 回 第二次世界大戦後の美術 (1)
抽象画、ネオダダ、
事前学習 (授業概要の認識/1時間)
事後学習 (描写練習/1時間)
- 第 7 回 第二次世界大戦後の美術 (2)
アメリカにおけるポップアートの誕生。
事前学習 (授業概要の認識/1時間)
事後学習 (描写練習/1時間)
- 第 8 回 第二次世界大戦後の美術
ポップな絵を描いて見る試み。
事前学習 (授業概要の認識/1時間)
事後学習 (描写練習/1時間)
- 第 9 回 戦後の日本におけるアート状況 (1)
作品講評と1960年代の日本の美術状況。
事前学習 (授業概要の認識/1時間)
事後学習 (描写練習/1時間)
- 第 10 回 戦後の日本におけるアート状況 (2)
1970年代の日本のアート、イラストレーションを紹介。
事前学習 (授業概要の認識/1時間)
事後学習 (描写練習/1時間)
- 第 11 回 詩と絵 (1)
詩をもとに4頁の詩画集を作る。
資料作品の紹介と解説。アイデアを考える。作画と着彩。

事前学習 (授業概要の認識/1時間)

事後学習 (描写練習/1時間)

第 12 回 詩と絵 (2)

詩画集制作。作画と着彩。

事前学習 (授業概要の認識/1時間)

事後学習 (描写練習/1時間)

第 13 回 詩と絵 (3)

制作と自己作品解説及びその講評会。

事前学習 (授業概要の認識/1時間)

事後学習 (描写練習/1時間)

第 14 回 新しい表現

現代における新しい表現方法を紹介する。

事前学習 (授業概要の認識/1時間)

事後学習 (描写練習/1時間)

第 15 回 授業の総括と小課題

この授業のまとめと小課題 (アイデアスケッチと授業感想)

事前学習 (授業概要の認識/1時間)

事後学習 (描写練習/1時間)

【アクティブラーニング】

1回 : D / 2回 : E /

3回 : E / 4回 : E /

5回 : C / 6回 : E /

7回 : E / 8回 : E /

9回 : C,E / 10回 : E /

11回 : E / 12回 : E /

13回 : C / 14回 : E /

15回 : D

【事前に修得しておく必要のある科目】

「イラストレーション概論 I」

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・特に予備知識や技術は必要無いが、手書きの場合はアクリル絵具等の画材、およびイラストボード (A3サイズ) の自己負担が必要となる。PCによる課題提出も可とする。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

デジタルカメラ (カメラ付き携帯電話可) また作品をPCで作画する学生は、任意の作画ソフト。

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①作品評価 (50%) : 表現力・完成度を評価する。

②平常点 (25%) : 授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

③筆記試験 (25%) : 授業の内容を理解してしているか評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・作画課題が2点出題され、その講評会も行われる。その際、学生による解説も求められる。

【出席確認の方法】

チャットと音声による確認。

【基本的な授業の進め方】

講師による講義 (40分)、課題制作 (40分) 出席確認 (10分)。作品講評の場合は、講義 (20分)、講評 (60分) 出席確認 (10分) 程度の配分を予定。

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

広告表現概論

IL/MD418

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

川野 智美

〔科目の概要および目的〕

現場で働くデザイナーが広告について講義する。

身の周りにある「広告」とは何なのか、広告全体の知識を身につけ、それに関わるクリエイターや業界、広告が作り出される仕事の流れ、様々なメディアやテクノロジー、それを取り巻く周辺環境を学ぶ。

授業後半では、広告を考えるテクニックを学ぶとともに、広告ができる流れを体験し、企画を考えていく。課題を通して広告の理解を深めていく。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・ 広告とはなにか、広告業界の概要やメディアの種類などを理解し、それを説明できる。
- ・ 広告クリエイティブを生み出すためのフローや役割を理解し、それを説明できる。
- ・ 問題を提起し、その解決方法を考えることができる。

〔授業形態〕

5 【同時双方向型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション/広告に触れる
授業の流れと広告の目的や社会的影響力などの説明をする。

CMを視聴し、その中で気になるCMの感想を記入。
事後/広告に関しての感想を提出(4時間)

- 第 2 回 広告業界/クリエイター
広告業界の基礎知識、それに伴う様々な会社、クリエイターの説明をする。
事後/興味のある会社やクリエイターを調べる(4時間)
- 第 3 回 4マス媒体
広告媒体の種類と特徴を3週にわたり説明をする。
1週目は、4マス媒体(テレビ・ラジオ・新聞・雑誌)の特徴を説明。
事後/4マス媒体の授業を受け、気になる4マス媒体の広告を見つけて感想を提出(4時間)
- 第 4 回 プロモーションメディア媒体
2週目は、SP媒体(POP、DM、チラシ、フリーペーパーなど)と
OOH(屋外広告、交通広告)の特徴を説明をする。
事後/プロモーションメディア媒体の広告を見つけて感想を提出(4時間)
- 第 5 回 WEB媒体
3週目は、今一番勢いがあり、これからも強い影響を与えるWeb媒体の特徴を説明をする。
事後/Web媒体の広告を見つけて感想を提出(4時間)
- 第 6 回 ブランドとは
広告と密接に関係がある「ブランド」とはなにかを説明。世に出ていく流れを知り、新たな価値とはなにかを考える。
事後/身の回りのブランドをリサーチする(4時間)
- 第 7 回 公共広告とは
広告の持つみんなに伝える発信力を公共に役立て、社会啓発を行う公共広告についての説明をする。映像を見て感想を書く。
事後/公共広告についてリサーチする(4時間)
- 第 8 回 海外との広告の違い
日本と海外の広告の違いに関して、それぞれの表現方法の違いなどの説明をする。
事後/海外の広告についてリサーチする(4時間)
- 第 9 回 広告企画 (1)_商品説明1
広告制作の流れを学ぶため、広告課題を行う。3つの商品の成り立ち、過去の広告事例の説明を受け、商品の理解を深める。
事後/それぞれの商品のリサーチをする(4時間)
- 第 10 回 広告企画 (2)_商品説明2
理解を深めるために2週に分けて説明をする。
説明後、自分が考えたい広告の商品を決定。
事後/それぞれの商品のリサーチを行い、取り扱うテーマを決める(4時間)
- 第 11 回 広告企画 (3)_ターゲット
広告を向けるターゲット設定、フレームワークを学び、ターゲットに合わせた戦略を考えていく。
事後/フレームワークを埋め、ターゲットを決める(4時間)

- 第 12 回 広告企画 (4)_媒体
前半で説明した媒体の特徴を振り返るとともに、ターゲットに合わせた媒体を選定していく。
事後/媒体をリサーチし、媒体を決める(4時間)
- 第 13 回 広告企画 (5)_アイデア
アイデアを生み出すための発想法の説明をする。
コンセプト、アイデアを考える。
事後/アイデアをまとめる(4時間)
- 第 14 回 広告企画 (6)_表現方法
設定したターゲット、媒体、コンセプトやアイデアをもとに、表現方法を考える。
事後/表現方法をまとめる / 次週までに全体をまとめてレポートを完成させる(4時間)
- 第 15 回 課題提出 / まとめ
提出されたレポートの中から講評を行う / これまでの授業の総括
事後/講評のポイント確認(4時間)

【アクティブラーニング】

- 1回 : D / 2回 : E /
3回 : E / 4回 : E /
5回 : E / 6回 : E /
7回 : D / 8回 : E /
9回 : E / 10回 : E /
11回 : E / 12回 : E /
13回 : E / 14回 : E /
15回 : E

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

—

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

PC or スマホ or タブレット / office365 /

【成績評価方法 ・ 評価割合 ・ 評価基準】

平常点(30%):積極的に授業に参加をしているか、また、課題の取り組み姿勢を評価する

レポート(30%): 講義内容の理解度を確認するレポートを講義後に取り評価する

課題 (40%): 広告企画を理解し、制作意図をしっかりと自分の言葉で説明ができていないか評価する

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・ Webにて感想やレポートを提出し、その後各自にフィードバックします。

【出席確認の方法】

授業開始後、会議チャットにて出席を行う。

【基本的な授業の進め方】

授業説明、出席 (前回振り返り) : 10分 / 講義 : 35分 / 質疑応答 : 5分 / 講義 : 35分 / 質疑応答 : 5分

(講義は 2 パート or 3 パートに分けます)

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力 : ○
2. 表現力 : △
3. 社会貢献力・コラボレーション力 : —
4. 課題発見力・課題解決力 : ○
5. コミュニケーション力 : ○

6. 専門的知識・技能の活用力 : ◎

【◎ : 特に関連が強い ○ : 関連が強い △ : 関連がある
— : 関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

質問がある場合は、Teamsの個別チャットにて随時回答します。

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

造形表現 I

旧 イラストレーション演習

IL/MD461

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6 【対面型】

演習/2コマ

高田 美苗

【科目の概要および目的】

西洋絵画はルネサンスの頃に、展色剤の試行を繰り返しながら、テンペラ絵具から油彩へとゆるやかに移行していった。その過渡期に使われた技法が混合技法である。混合技法 (アルキド樹脂絵具と油絵具) による自画像制作をし古典的な技法を学び、それをイラストレーションに活かす方法を考える。本格的なアート志向の授業。筆などの道具の扱い方を知る。作業が早いものは、目だけの写真を元に、目の自画像を制作する。

【到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)】

- ・ デッサン力を身につける・古典的絵画技法の習得
- ・ アートへの興味を持つ・アナログでの絵具の混色効果を知る。
- ・ 時間配分が大事な技法であるので、手順を守り計画的に描き進めることができる

【授業形態】

6 【対面型】

【授業計画】

- 第 1 回 ガイダンス、撮影、混合技法による自画像 (1)
授業内容の説明。写真撮影、イラストレーションボードに下塗り。
事前/道具の使い方を強いる (1 時間)
事後/道具の購入 (2 時間)
- 第 2 回 混合技法による自画像 (2)
下絵トレース・有色下地。
事前/制作 (1 時間)
事後/制作 (1 時間)

第 3 回	混合技法による自画像 (3) アルキド樹脂絵具 (T.W.) によるインプリミトゥーラ。 事前/制作(1時間) 事後/制作(1時間)	「目だけの自画像」細部まで仕上げる。講評会。 事前/制作(1時間) 事後/制作(1時間)
第 4 回	混合技法による自画像 (4) 油彩による下層描き (不透明色・アキークラ)。 事前/制作(1時間) 事後/制作(1時間)	1回 : D / 2回 : E / 3回 : E / 4回 : E / 5回 : E / 6回 : E / 7回 : E / 8回 : E / 9回 : E / 10回 : E /
第 5 回	混合技法による自画像 (5) 油彩による下層描き (不透明色・アキークラ)。 事前/制作(1時間) 事後/制作(1時間)	11回 : C / 12回 : E / 13回 : E / 14回 : E / 15回 : C
第 6 回	混合技法による自画像 (6) 油彩による中層描き (不・半透明色・アキークラ)。 事前/制作(1時間) 事後/制作(1時間)	【事前に修得しておく必要のある科目】 ・「デッサン I」 【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】 ・筆等の道具の購入予算を20,000円程度準備しておく。(詳細は初回に説明) ・初回参加必須。
第 7 回	混合技法による自画像 (7) 油彩による中層描き (不・半透明色・アキークラ)。 事前/制作(1時間) 事後/制作(1時間)	【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】 ー
第 8 回	混合技法による自画像 (8) 油彩による上層描き (不・半透明色)。 事前/制作(1時間) 事後/制作(1時間)	【成績評価方法・評価割合・評価基準】 ①課題制作点 (60%) : 課題の表現力・独創性・完成度を評価する。 ②平常点 (30%) : 授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。 ③課題発表 (10%) : 課題の制作意図をしっかりと発表できているか。
第 9 回	混合技法による自画像 (9) 油彩による上層描き (不透明色)。 事前/制作(1時間) 事後/制作(1時間)	【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】 ・各課題ごとに、全体の課題発表と講評を行う
第 10 回	混合技法による自画像 (10) 目だけの自画像 (1) 仕上げ。「目だけの自画像」用の支持体作り。トレース。 事前/制作(1時間) 事後/制作(1時間)	【出席確認の方法】 授業開始時に出席票で確認、又は、名前を呼んで確認
第 11 回	混合技法による自画像 (11) 目だけの自画像 (2) 仕上げ。「目だけの自画像」インプリミトゥーラ。 事前/制作(1時間) 事後/制作(1時間)	【基本的な授業の進め方】 ・出席確認 : 5分 ・授業説明:10分 ・その日の作業 : 75分 ※随時、進行チェック ・その日の作業 : 80分 ※随時、進行チェック ・作業の片付け : 20分
第 12 回	混合技法による自画像 (12) 目だけの自画像 (3) 混合技法による「ポートレイト」課題提出。講評会 事前/制作(1時間) 事後/制作(1時間)	【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】 1. 主体的行動力 : ○ 2. 表現力 : ◎ 3. 社会貢献力・コラボレーション力 : △ 4. 課題発見力・課題解決力 : ○ 5. コミュニケーション力 : △ 6. 専門的知識・技能の活用力 : ◎
第 13 回	目だけの自画像 (4) 「目だけの自画像」油彩による下層描き (不透明色・アキークラ)。 事前/制作(1時間) 事後/制作(1時間)	【◎ : 特に関連が強い ○ : 関連が強い △ : 関連がある ー : 関連していない】
第 14 回	目だけの自画像 (5) 「目だけの自画像」油彩による上層描き (不・半透明色)。 事前/制作(1時間) 事後/制作(1時間)	【教科書】 なし
第 15 回	目だけの自画像 (6)、講評会	【参考文献】 なし 【オフィスアワー】 時間 : 出庫日の授業前後 場所 : 授業実施教室

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：事前・事後学習

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、オフィスアワー

デザイン企画論

MD419

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

5 【同時双方向型】

演習/1コマ

川野 智美

【科目の概要および目的】

デザイナーとして必要となる企画力、プレゼンテーション力を講義、課題を通して理解を深めていく。企画に必要な、調査、発想、表現、伝達を学び、自分が設定したテーマに対して、企画書をまとめていく。また、論理的な話し方を習得し、作成した企画書をもとに、説得力のあるプレゼンテーションを行うまでの過程を学び、社会人として必要とされる、企画力、ディレクション力、プレゼンテーション力を身につける。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

・企画とはなにかを理解し、自らが作成できる能力を身につける。

・調査、発想、表現、企画力を養うことで、コンセプトをもとに企画書を作成することができる。

・論理的な話し方を身につけ、相手に伝わりやすいプレゼンテーションを行うことができる。

【授業形態】

5 【同時双方向型】

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
これからの授業の流れ、身に付くスキルを説明する。
事後/身の回りにあるデザインを見る(4時間)
- 第 2 回 企画とは / 課題説明
企画についての概要を説明する。課題説明を行う。
事後/授業振り返りと次回までにテーマの設定、リサーチを行っておく(4時間)
- 第 3 回 調査(1)_説明
情報の収集、様々な調査方法について説明する。
事後/テーマに対して調査を行う(4時間)
- 第 4 回 調査(1)_調査を行う
実際に課題に対して調査を行い、報告書にまとめる作業を行う。
事後/来週にむけて報告書を完成させる(4時間)
- 第 5 回 調査報告

テーマに対しての調査報告書を作成し、報告を行う。

事後/他の人の報告を聞いて、報告書を見直す時間をつくる(4時間)

- 第 6 回 調査報告フィードバック
報告してもらったものに対して個別でアドバイスをを行う。それを受けてさらに調査を行う。
事後/フィードバック内容から再度調査を行う(4時間)
- 第 7 回 アイデア、発想法
アイデアやコンセプトの作り方、表現方法などの説明を行う。
事後/テーマに対してアイデア、コンセプトを固める(4時間)
- 第 8 回 企画書について
企画書を作る目的や役割の説明を行う。
事後/様々な企画書を見る(web)(4時間)
- 第 9 回 企画書作成(1)_参考
実際に現場で使われた企画書を見せながら、企画内容、企画書の作り方の流れについて説明を行う。
事後/企画書に入れる情報をまとめる(4時間)
- 第 10 回 企画書作成(2)_レイアウト
企画書のレイアウトや文章、まとめかたについての説明を行う。
事後/授業を受けてレイアウト、文章の見直しをして企画書を作成する(4時間)
- 第 11 回 企画書作成(3)_報告
企画書に入れる情報をまとめ、講師に報告、フィードバックを行う
事後/フィードバックをもとに企画書を完成していく(4時間)
- 第 12 回 プレゼン技法(1)_説明
プレゼンの目的についてや、相手に伝わりやすい話の基本を説明する。
事前/プレゼンに関する質問を準備(2時間)
事後/相手に伝わりやすい話し方を意識してみる(2時間)
- 第 13 回 プレゼン技法(2)_説明
論理的な話し方のコツ、プレゼンテーションスキルを説明する。
事後/論理的な話し方を意識し、プレゼンテーションの練習を行う(4時間)
- 第 14 回 プレゼンテーション
作成した企画書をもとにプレゼンテーションを行う。
事後/他の人の企画書、プレゼンを聞いて自分の企画書を見直す時間をつくる(4時間)
- 第 15 回 フィードバック / まとめ
前回のプレゼンについての講評、ディスカッションを行う。
これまでの授業の総括
事後/プレゼン後の意見を取り入れ、修正が必要であれば変更などを加えて完成させる(4時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：E /
 3回：E / 4回：E /
 5回：C / 6回：D /
 7回：E / 8回：E /
 9回：E / 10回：E /
 11回：C,D / 12回：E /
 13回：E / 14回：C /
 15回：E,D

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

—

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

PC or スマホ or タブレット / office365 /

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

平常点(30%):積極的に授業に参加をしているか、また、課題の取り組み姿勢を評価する

企画書製作(40%): 授業を理解し、内容を整理しながら作成できているかを評価する

プレゼンテーション (30%):企画書に合わせて積極的に発表を行えているかを評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

提出レポートに対して個別にフィードバックを行う。

〔出席確認の方法〕

授業開始後、会議チャットにて出席を行う。

〔基本的な授業の進め方〕

授業説明、出席（前回振り返り）：10分 / 講義or演習：70分 / 質疑応答、連絡事項：10分

(演習の際は個別で相談、アドバイスをを行う)

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：○
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 —：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

質問がある場合は、Teamsの個別チャットにて随時回答します。

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

課題やレポート等に対するフィードバックの方法、オフィスアワー

映像制作Ⅱ

MD465

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

仁藤 潤

〔科目の概要および目的〕

基本的な映像制作の基礎知識を踏まえ、応用的な表現方法を習得する。企画、プレゼン、絵コンテ、撮影、動画編集、サウンドデザイン、上映、プレゼンテーションの一通りを円滑に行えるスキルを身につける。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・企画を作る事が出来る。
- ・撮影をする事が出来る。
- ・動画編集をする事が出来る。
- ・自分の作品をプレゼンテーションする事が出来る

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第1回 ガイダンス

到達目標を明確にし、授業の進行について理解する。

事前学習（シラバスの内容を確認する/1時間）

事後学習（復習をする/1時間）

第2回 VFX映像制作（1）

VFX映像制作の基礎、企画を立てる。

事前学習（本日の内容の予習/1時間）

事後学習（復習をする/1時間）

第3回 VFX映像制作（2）

クロマキーの基礎、制作を行う。

事前学習（本日の内容の予習/1時間）

事後学習（復習をする/1時間）

第4回 VFX映像制作（3）

動画編集、制作を行う。

事前学習（本日の内容の予習/1時間）

事後学習（復習をする/1時間）

第5回 VFX映像作品の発表会（4）

作品発表会を行う

事前学習（本日の内容の予習/1時間）

事後学習（復習をする/1時間）

第6回 短編アニメ（1）

短編アニメの基礎、企画立案を行う。

事前学習（本日の内容の予習/1時間）

事後学習（復習をする/1時間）

第7回 短編アニメ（2）

絵コンテ作成を行う。

事前学習（本日の内容の予習/1時間）

事後学習（復習をする/1時間）

第8回 短編アニメ（3）

- 制作、進捗を報告する。
事前学習（本日の内容の予習/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）
- 第9回 短編アニメ（4）
作品の仕上げを行う。
事前学習（本日の内容の予習/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）
- 第10回 短編アニメ作品の発表会（5）
短編アニメ作品の発表会
事前学習（本日の内容の予習/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）
- 第11回 最終課題制作（1）
企画立案、プレゼン、コンテ作成を行う。
事前学習（本日の内容の予習/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）
- 第12回 最終課題制作（2）
制作を行う。
事前学習（本日の内容の予習/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）
- 第13回 最終課題制作（4）
制作を行う。
事前学習（本日の内容の予習/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）
- 第14回 最終課題制作（5）
仕上げを行う。
事前学習（本日の内容の予習/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）
- 第15回 最終課題作品の発表会
最終課題作品の発表会を行う。
事前学習（本日の内容の予習/1時間）
事後学習（復習をする/1時間）

【アクティブラーニング】

- 1回：— / 2回：C /
3回：B / 4回：B /
5回：B / 6回：C /
7回：C / 8回：B /
9回：B / 10回：B /
11回：C / 12回：B /
13回：B / 14回：B /
15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

- ・「映像制作Ⅰ」

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・Aftereffects、Premiereが円滑に使える事。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

- ・ソフトウェア:Aftereffects、Premiere
- ・撮影機材（カメラ、スマホも可）

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点(最大30点)：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

②課題(最大70点)：理解度・完成度を評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・課題に対して個別にコメントします。
- ・最終課題に対して、個別にコメントします。

【出席確認の方法】

対面、Microsoft teamsで確認を行う。

【基本的な授業の進め方】

- ・課題の説明（20分）、課題に取り組む（70分）
- ・課題に取り組む（70分）、質疑応答(20分)

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：◎
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし、適宜提示する

【参考文献】

適宜提示する

【オフィスアワー】

場所：授業を実施する教室

時間：授業前後に直接問い合わせてください。

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、基本的な授業の進め方、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応、教科書、参考文献

撮影技術Ⅱ

MD473

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/1コマ

神林 優

【科目の概要および目的】

デジタル技術の興隆によって、メモを取るように撮影しソーシャルメディアなどを通して共有することが日常化している。それに伴い、写真や映像に関連する知識や技能が求められている。本科目では、撮影技術Ⅰで習得した基礎的な技術を踏まえ、次の段階としてライティングを使用した撮影技術の習得を目指す。

また、表現者として応用的な撮影や作品制作を行う。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・ 基本的な撮影技術を理解し実践的な撮影ができる。
- ・ ライティングの基礎知識を理解し撮影に活用できる。
- ・ 撮影したデータを適切に編集・処理できる。
- ・ 撮影技術を活用した撮影で作品を制作し発表することができる。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
授業全体の説明。到達を目標を明確にし、授業の進行について理解する。
事前/シラバスをよく読む（1時間）
事後/ガイダンスを踏まえ学習計画を立てる（1時間）
- 第 2 回 ライティングの基礎
照明機材を使ったライティングについて、自然光との違いなどを考察しながら学ぶ。レンブラントライト・ライティングを基本に学ぶ。
事前/ライティングについて調べる（1時間）
事後/授業で学んだこと振り返り、まとめておく（1時間）
- 第 3 回 写真 スタジオ撮影 ポートレート
順光や逆光、その効果について撮影しながら理解を深める。
またスタジオ撮影の基本であるテザリング撮影についても学ぶ。
事前/ポートレート撮影に向け準備をする（1時間）
事後/撮影したデータを確認・整理しておく（1時間）
- 第 4 回 写真 スタジオ撮影 ポートレート
交互にカメラマン・モデルとなり、ライティングをしポートレート撮影を行う
事前/ポートレート撮影に向け準備をする（1時間）
事後/撮影したデータを確認・整理しておく（1時間）
- 第 5 回 写真 スタジオ撮影 物撮・複写
生物や商品の撮影、平面の複写について撮影しながら学ぶ。
スタジオ撮影の基本であるテザリング撮影について理解を深める。
事前/ブツ撮り・複写撮影に向け準備をする（1時間）
事後/撮影したデータを確認・整理しておく（1時間）
- 第 6 回 写真 スタジオ撮影 物撮・複写
被写体を用意しライティングしブツ撮り、複写撮影を行う
事前/ブツ撮り・複写撮影に向け準備をする（1時間）
事後/撮影したデータを確認・整理しておく（1時間）
- 第 7 回 撮影データの処理

ライティングして撮影したデータをPhotoshop、Lightroomで現像する。

事前/撮影したデータの整理と準備をする（1時間）
事後/データ処理を完了させる（1時間）

- 第 8 回 動画のライティング
動画のためのライティングの基礎を学ぶ。
事前/動画のライティング撮影について調べる（1時間）
事後/撮影したデータを確認・整理しておく（1時間）
- 第 9 回 動画のライティング
ライティングして動画を撮影する。
事前/撮影に向け準備をする（1時間）
事後/撮影したデータを確認・整理しておく（1時間）
- 第 10 回 撮影データの処理
ライティングして撮影したデータをPremiereで編集する。
映像の色調について学ぶ。
事前/撮影したデータの整理と準備をする（1時間）
事後/データ処理を完了させる（1時間）
- 第 11 回 中間課題講評
ライティングして撮影した課題作品を相互鑑賞し講評する
事前/課題作品のプレゼンの準備を行う（1時間）
事後/振り返りとまとめを行う（1時間）
- 第 12 回 最終課題作品企画
最終課題の作品テーマを決定する。
ロケーション撮影orスタジオにてライティングでの撮影など、方法も決定する。
事前/最終課題企画の準備をする（1時間）
事後/最終課題制作の準備をする（1時間）
- 第 13 回 最終課題作品制作
学習した内容を踏まえ課題作品を制作する。
事前/最終課題制作の準備をする（1時間）
事後/最終課題制作を進める（1時間）
- 第 14 回 最終課題作品制作
学習した内容を踏まえ課題作品を制作する。
事前/最終課題制作の準備をする（1時間）
事後/最終課題制作を進める（1時間）
- 第 15 回 最終課題作品講評
課題作品を相互鑑賞し講評する。
事前/最終課題プレゼンの準備をする（1時間）
事後/学んだことをまとめる（1時間）

〔アクティブラーニング〕

- 1回：— / 2回：B /
3回：B / 4回：B /
5回：B / 6回：B /
7回：B / 8回：B /
9回：B / 10回：B /
11回：C / 12回：B /
13回：B / 14回：B /
15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・「撮影技術I」を修得しておく事が望ましい
- ・Photoshop,Lightroom,Premiere,等がスムーズに使える。
- ・写真や動画を日常的に撮っている。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

ソフトウェア:Photoshop,Lightroom,Premiere

機材:カメラ(写真・動画) スマホも可

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点(最大20点):授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。
- ②ライティング課題作品(最大40点):理解度・完成度を評価する。
- ③最終課題課題(最大40点):理解度・完成度を評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・課題に対して個別にコメントします。
- ・最終課題に対して、個別にコメントします。

〔出席確認の方法〕

点呼(オンラインの場合はMicrosoft teamsのチャット機能で確認を行う)

〔基本的な授業の進め方〕

課題の説明15分、課題に取り組む60分、質疑応答15分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力:◎
2. 表現力:◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力:△
4. 課題発見力・課題解決力:○
5. コミュニケーション力:○
6. 専門的知識・技能の活用力:◎

【◎:特に関連が強い ○:関連が強い △:関連がある
—:関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

適宜提示する。

〔オフィスアワー〕

場所:授業を実施する教室 時間:授業前後に直接問い合わせてください。

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

メディアCG表現Ⅱ

MD480

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

有富 洋平

〔科目の概要および目的〕

Blenderの使い方を学習しつつ、CGを制作するために必要な基本的な知識や概念を身につけることを目的とする。

本科目では、Blenderでのアニメーション作成を中心に、パーティクルを使用した効率的な背景モデルの配置や動画として書き出す方法を学ぶ。カメラアニメーションやカメラの切り替える方法を学ぶ。実際にレンダリングの際に起こりがちなトラブルの対処法などを学び、最終的に説得力のある動画を作成することを目的とする

〔到達目標(授業を通じて身につく能力・スキル)〕

- ・Blenderでのアニメーションの作り方を理解することができる
- ・パーティクルを使ってオブジェクトを効率的にシーンに配置することができる
- ・カメラのアニメーションや切り替えができるようになる
- ・画像で書き出したを動画として書き出す方法を学ぶ
- ・画像書き出しの際の不具合を修正することができる

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第1回 アニメーション1

アニメーション作成によく使うエディターの解説後、実際に簡単なアニメーションを作成する

事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)

事後/ 本日の復習 1.0 (時間)

第2回 アニメーション2

モディファイアを使ったプロシージャルなアニメーションの作り方を学び、実際に簡単なアニメーションを作成する

事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)

事後/ 本日の復習 1.0 (時間)

第3回 課題制作1

課題に沿う形でオブジェクトにアニメーションをつける

事前/ 本日の内容の予習 1.0 (時間)

事後/ 本日の復習 1.0 (時間)

第4回 プレゼン、講評

オブジェクトにアニメーションを発表
フィードバックを元にブラッシュアップする

事前/ プレゼン準備 1.5 (時間)

事後/ 本日の復習 1.0 (時間)

第5回 モデリング

パーティクルの講義で使うプロップス(環境物)をモデリングしマテリアルを割り当てる

	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)
第 6 回	パーティクル パーティクルの概念を理解する。実際の使い方として任意のオブジェクトを画面上に効率よく配置する方法を学ぶ	
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)
第 7 回	パーティクル ウェイトペイントという機能を使い、プロップスを意図を持って効率的に配置する	
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)
第 8 回	課題制作2 パーティクルとウェイトペイントを使い、意図した風景を制作する	
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)
第 9 回	プレゼン、講評 制作した背景を発表 フィードバックを元にブラッシュアップ	
	事前/ プレゼン準備	1.5 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)
第 10 回	レンダリング Blenderを使って動画をレンダリングする方法とその際おこりがちなトラブルの解決法を学ぶ	
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)
第 11 回	カメラのアニメーション カメラをアニメーションさせる方法を学ぶ	
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)
第 12 回	最終課題制作(1)シーンを構成 課題1と課題2で制作したモデルを組み込み、カメラアニメーションをつける	
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)
第 13 回	最終課題制作(2)ルック調整 自分のイメージに沿うように、HDRIやライト、ポストエフェクトを調整する	
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)
第 14 回	最終課題制作(3)動画書き出し 静止画レンダリング、不具合のあるフレームの調整、動画として書き出す	
	事前/ 本日の内容の予習	1.0 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)
第 15 回	プレゼン・講評まとめ 制作した作品を全員で講評する	
	事前/ プレゼン準備	1.5 (時間)
	事後/ 本日の復習	1.0 (時間)

【アクティブラーニング】

1回：B / 2回：B /

3回：B / 4回：C /

5回：B / 6回：B /

7回：B / 8回：C /

9回：— / 10回：— /

11回：— / 12回：— /

13回：— / 14回：— /

15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

・「メディアCG表現 I」

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

Photosopなどデジタルペイント系のソフトに関する知識、写真撮影に関する知識があるとより良いです

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点 (最大30点):授業に積極的に取り組む姿勢を評価する。

②課題制作 2つ(最大20点):理解度、完成度を評価する。

③最終課題 (最大35点):理解度、完成度を評価する。

④プレゼンテーション3回 (合計15点 各5点):課題の制作意図をしっかりと伝えられているかを評価する。

平常点が6割に満たない場合は課題の採点対象外とする。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

授業後の課題はTeamsにて全体にフィードバックします

課題制作は提出後の授業で全体にコメントします

【出席確認の方法】

授業時にTeamsのチャンネル上でのコメント投稿および点呼で確認

【基本的な授業の進め方】

・授業の概要説明:5分

・その日の講義1:説明 20分 →ハンズオン形式:60分

・その日の講義2:説明 20分 →ハンズオン形式:60分

・授業の振り返り10分・次回課題説明5分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力:○

2. 表現力:◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力:—

4. 課題発見力・課題解決力:○

5. コミュニケーション力:△

6. 専門的知識・技能の活用力:◎

【◎:特に関連が強い ○:関連が強い △:関連がある

—:関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

参考ウェブサイト、書籍を授業内で紹介

【オフィスアワー】

時間:出講日(月曜日)の授業後

場所:授業実施教室

それ以外の時間はTeamsにて受け付けます

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

成績評価方法・評価割合・評価基準

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、教科書、参考文献

空間演出演習

MD481
東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)
2年生 3年生 4年生
2単位 後期
6 【対面型】
演習/2コマ

山本 圭太

【科目の概要および目的】

・LED等の照明進歩により、生活空間における照明が変化し、多くの人が照明機器を持ち歩く事になった。照明演出は身近になり自然と利用している日常がある。

その様な生活の中で身近な所から「ひかり」を見つめ直し、コントロールする基礎を身につける。

基礎を身につけた上で各々が求める表現、演出を実践をする為に演出技術習得を行う。

最終的に課題制作を行う事で他者の視点を学び、自らを客観的に捉える。技術基礎から次戦までを目的とする。

インプットするだけの「音」に対しても同様に捉え、上記実践、アウトプットを目指す。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

・照明/音響を通して表現メディアの入り口を基礎的なところから見直し「理解」「実践」「活用」を行えるようになる。

・基本的な照明演出技術を理解し実践的活用ができる。

・基本的な音響演出技術を理解し実践的活用ができる。

・上記技術を活用し作品作人に活かすことができる。

【授業形態】

6 【対面型】

【授業計画】

第 1 回 ガイダンス

授業全体の説明。到達を目標を明確にし、授業の進行について理解する。

「照明」「音響」演出の基本的な知識を身につける。

事前/シラバスををよく読む (1時間)

事後/授業で学んだことをまとめる (1時間)

第 2 回 照明基礎 講義 1

「照明演出」の歴史、技術進化を理解し、基礎を学ぶ。

事前/興味のある照明演出を探す (1時間)

事後/学んだことをまとめる (1時間)

第 3 回 照明技術習得 1

照明機材 (灯台) の特性、使用方法を理解する。

事前/照明技術基礎を復習する (1時間)

事後/学んだことをまとめる ((1時間)

第 4 回 照明技術習得 2

照明機材 (ミキサー、照明卓) の特性、使用方法を理解する。

事前/照明技術基礎を復習する (1時間)

事後/学んだことをまとめる ((1時間)

第 5 回 照明基礎 講義 2

技術基礎を基に「表現」を行うための基礎技術を学ぶ。

事前/照明演出を考える (1時間)

事後/学んだことをまとめる ((1時間)

第 6 回 照明技術習得 3

照明技術における 仕込み → 本番 → 撤収 を実践。

事前/照明技術基礎を復習する (1時間)

事後/学んだことをまとめる ((1時間)

第 7 回 照明技術習得 4

学習した内容を踏まえ課題構成を行い、課題制作を行う。

事前/照明技術の復習をする (1時間)

事後/課題制作 (1時間以上)

第 8 回 課題作品講評

課題作品を相互鑑賞し講評する。

事前/課題プレゼンの準備をする (1時間)

事後/学んだことをまとめる (1時間)

第 9 回 音響基礎 講義 1

「音響演出」の歴史、技術進化を理解し、基礎を学ぶ。

事前/興味のある音響演出を探す (1時間)

事後/学んだことをまとめる (1時間)

第 10 回 音響技術習得 1

音響機材 (マイク、音響素材) の特性、使用方法を理解する。

事前/音響技術基礎を復習する (1時間)

事後/学んだことをまとめる ((1時間)

第 11 回 音響技術習得 2

音響機材 (ミキサー、音響卓) の特性、使用方法を理解する。

事前/音響技術基礎を復習する (1時間)

事後/学んだことをまとめる ((1時間)

第 12 回 音響基礎 講義 2

技術基礎を基に「表現」を行うための技術基礎を学ぶ。

事前/音響演出を考える (1時間)

事後/学んだことをまとめる ((1時間)

第 13 回 音響技術習得 3

音響技術における 仕込み → 本番 → 撤収 を実践。

事前/音響技術基礎を復習する (1時間)

事後/学んだことをまとめる ((1時間)

第 14 回 音響技術習得 4

学習した内容を踏まえ課題構成を行い、課題制作を行う。

事前/音響技術の復習をする (1時間)

事後/課題制作 (1時間以上)

第 15 回 課題作品講評

課題作品を相互鑑賞し講評する。
事前/課題プレゼンの準備をする (1時間)
事後/学んだことをまとめる (1時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：— /
3回：B / 4回：B /
5回：— / 6回：B /
7回：C / 8回：C /
9回：— / 10回：B /
11回：B / 12回：— /
13回：B / 14回：C /
15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・照明・音響に興味がある。実践的に機器機材を利用したいと考えている。
- ・基礎的なPCスキル。
- ・ソフトウェア:DoctorMX(照明ソフトウェア)、機材:写真・動画・音楽使用可能なスマホ、事前購入:カラーフィルター(講義内で説明)
- ・学外施設見学も予定しています。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点(最大20点):授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。
②課題ワークシート(最大40点):理解度を評価する。
③課題作品(最大40点):理解度・完成度を評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・課題に対して個別にコメントします。

〔出席確認の方法〕

点呼

〔基本的な授業の進め方〕

1コマの配分

- ・授業説明:10分・講義:20分
- ・課題説明:10分→実践のワーク:40分
- ・授業の振り返り5分・次回課題説明5分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

適宜提示する。

〔オフィスアワー〕

場所：授業を実施する教室 時間：授業前後に直接問い合わせてください。

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

展示論

MM416

東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)
2年生 3年生 4年生
2単位 後期
6【対面型】
演習/1コマ

橋口 静思

〔科目の概要および目的〕

本授業は展示に関する基礎的な知識・概念を理解するものである。作品は制作されただけでは、受け手には完全には届かない。作品を展示して、作品の意図をより鮮明に伝えることができる。展示は作品のジャンルや保存方法など多岐にわたる知識が必要となるが、本授業においては各専門家が平面・立体・映像・写真・空間展示などの基礎的な展示手法を開講し、内容を理解する。この授業を通じて、展示空間の構成に必要な作品と展示器具などの使用方法を知ることと、展示の構成方法を制作者と鑑賞者の両方から理解できるように実践と理論の両面から理解することを目的とする。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・専攻する分野の展示の基本的な考え方/技術を理解する(専門的知識・技能の活用力)
- ・展示の考え方を理解し、幅広い作品を見せることを意識する(コミュニケーション力・専門的知識・技能の活用力)
- ・作品の意図だけでなく、展示空間の意図を読み取ることができる(主体的行動力・課題発見力/解決力)
- ・展示空間の構成を行うことができ、実践まで用いることができる(表現力・課題発見力/解決力・社会貢献力)

※到達目標は順に難度が増しています

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第1回 ガイダンス・なぜ展示をするのか
展示の思考・技術はなぜ必要なのか、展示することで鑑賞者に伝わるかどう変化するかを理解する
事前/「展示」をイメージする (時間)1
事後/実践をイメージして復習 (時間)1.5
- 第2回 課題説明・展示のメッセージを考える
授業を通じた課題を発表・意図を説明する。展示構成とテーマ設定の必要性を理解する
事前/前回授業の復習 (時間)1
事後/課題の計画を立てる (時間)4
- 第3回 平面作品の展示について

	平面作品を展示する際の基本的ルールを理解と、基礎技術の習得を行う。実際に壁掛けを行う	事前/キャプションを調べる (時間)1
	事前/平面作品の展示を調べる (時間)2	事後/授業内容の復習 (時間)2
第 4 回	立体展示とインスタレーション展示について 立体作品の展示手法の基礎知識を理解する。また、空間そのものを作品として見せることの知識・感覚を習得する	第 14 回 展示構成について 1 展示空間を構成するためにはどのような思考が必要かを理解し、立体的に展示空間を提示できるようにする
	事前/立体作品の展示を調べる (時間)2	事前/課題に取り組む (時間)5
	事後/実践をイメージして復習 (時間)1.5	事後/授業を踏まえて課題制作 (時間)5
第 5 回	マンガ・アニメーション・ゲームの展示手法について 本学特有のコンテンツに関する展示手法を理解し、実際の展示に役立てる基礎的な考え方を習得する	第 15 回 展示構成について 2・講評・振り返り 最終課題の展示を講評し、授業全体を振り返り知識と実践を定着する
	事前/該当の展示を調べる (時間)2	事前/課題を完成させる (時間)5
	事後/授業内容を復習して鑑賞 (時間)3	事後/授業全体の復習 (時間)2
第 6 回	写真と映像の展示 1 写真の成立とともに変遷した展示手法について理解する	〔アクティブラーニング〕 1回：A / 2回：A / 3回：E / 4回：E / 5回：E / 6回：A / 7回：A / 8回：E / 9回：E / 10回：C,E / 11回：A / 12回：A / 13回：A / 14回：C,E / 15回：C,E
	事前/映像・写真展示をリサーチ(時間)2	〔事前に修得しておく必要のある科目〕 なし
	事後/授業内容を復習して鑑賞 (時間)2	〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕 ・スキルは必要ありません。授業内容を理解しようとする姿勢を求めます ・「自分が作品を展示するのであれば」という想像を常に働かせてください。自分のこととして考えることが最も自分の力となります ・ミュージアムなどの展示構成や展示手法を気にして鑑賞してください。観察力を重視します。また理解度と進度に合わせて授業内容を変更する場合があります
第 7 回	写真と映像の展示 2 写真の成立とともに変遷した展示手法について理解する	〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕 ー
	事前/映像・写真展示を鑑賞 (時間)2	〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕 ①展示企画またはレポート (60%) : 「主体的行動力」「表現力」「課題発見力/解決力」「専門的知識・技能の活用力」を評価する ②授業内の実践活動 (ワークシート・展示技術実践など) (20%) : 「表現力」「課題発見力/解決力」を評価する ③積極的な授業参加と、思考力/実践力を総合的に評価する (20%)
	事後/授業内容を復習して鑑賞 (時間)2	〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕 ・授業内において展示実践や企画に対するフィードバックを行います ・課題に対してはフィードバックを行います ・実際に企画している展示計画がある場合には、より具体的なアドバイスをします
第 8 回	展示鑑賞 実際に展示を鑑賞し、これまで得た知識を体験として習得する	〔出席確認の方法〕 出席カード
	事前/鑑賞の調べをする (時間)1	〔基本的な授業の進め方〕 ・授業説明:5分 ・その日の講義1:説明20分 → ワーク1 : 10分 → 解説10分
	事後/鑑賞体験を振り返る (時間)2	
第 9 回	展示照明について 展示照明に関する知識を習得し、実践的に使える基礎力を身につける	
	事前/照明に注目して鑑賞する (時間)2	
	事後/課題に取り組む (時間)5	
第 10 回	中間発表・講評 写真の展示配置を実際に行う。講評をもとに展示をブラッシュアップする	
	事前/課題に取り組む (時間)5	
	事後/講評をもとに修正 (時間)5	
第 11 回	絵画の展示 1 絵画の額装について歴史を踏まえて実践的な知識を習得する	
	事前/額に注目して鑑賞する (時間)2	
	事後/授業内容の復習 (時間)1.5	
第 12 回	絵画の展示 2 展覧会の開催の手順や実践的な知識を習得する	
	事前/絵画作品の展示を調べる (時間)1.5	
	事後/授業内容の復習 (時間)2	
第 13 回	キャプションについて 展示に欠かせないキャプションの意図や具体例を理解し、実際に制作できるようになる	

- ・その日の講義2:説明20分→ワーク2:10分→解説15分
- ・授業の振り返り5分

※授業内容によって変更します。

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：○
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

授業内容に合わせて適宜配布を行う

【参考文献】

『思想としてのミュージアム』村田麻里子／人文書院／2014年／3,200円（税別）

『展示の政治学』川口幸也編／水声社／2009年／4,800円（税別）

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

仕事とキャリアデザインⅡ

MM414

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (4)

2年生 3年生 4年生

2単位 後期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

佐藤 宏樹

【科目の概要および目的】

この授業では、仕事とキャリアデザインⅠで扱った内容をベースに、マーケティング理論を用いて分析することで、自分自身や、仕事をさらに深く知っていきます。このプロセスを通して、将来自分のなりたい職業に就くために、今やるべきことを明確にし、就職活動自体はもちろん、就職したあとまでイメージを持てるようになっていきます。

授業形式は個人・グループ単位での演習が主体になります。グループワークや数度のプレゼンテーションという協働プロセスを通して、他者と対話する力、意見をまとめる力なども身につけていきます。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

・授業で触れるトピックをきっかけに、将来携わる「仕事」や「自分自身」について深く知る、深く調べる手法を身につけることができる。

・マーケティング理論の基本的なフレームワークを知り、それを用いて分析を行うことによって、仕事や就職活動で

使える知識に昇華する。

・個人ワーク、個人プレゼン、グループワークを通して、他者の考えに耳を傾けることができる。また他者に自分の想いをわかりやすく伝えることができる。

【授業形態】

5 【同時双方向型】

【授業計画】

第1回 インTRODクシヨン

授業の目的、進め方、ルールなどについてガイダンスを行ったのち、本授業で用いるマーケティング理論の説明を簡単に行う。

事前/授業目的を理解しておく（1時間）

事後/次週に向けた宿題を行う（2時間）

第2回 マーケティング分析を体験①

仕事や自分自身を分析する前に、練習としてマーケティング視点で各々が興味のあるものを分析してみる。

事前/前週の宿題を行う（1時間）

事後/リサーチした内容をもとにプレゼン準備（2時間）

第3回 マーケティング分析を体験②

前週及び宿題で行った分析結果をグループ単位でプレゼンし合い、他者の視点を交えながらリサーチ内容を深める。

事前/リサーチした内容をもとにプレゼン準備（1時間）

事後/自他の行ったプレゼンの内容を振り返る（2時間）

第4回 仕事（企業）分析①

マーケティング理論のSWOTフレームを用いて、興味のある仕事や企業・業界状況を分析する。

事前/自他の行ったプレゼンの内容を振り返る（1時間）

事後/志望業界のSWOT分析を行う（2時間）

第5回 仕事（企業）分析②

前週及び宿題でまとめた内容をグループ内でプレゼンし合い、他者の視点を交えながらリサーチ内容を深める

事前/志望業界のSWOT分析を行う（1時間）

事後/業界SWOT分析の深堀り（2時間）

第6回 ロールモデルから学ぶⅠ

ゲストスピーカーによる講義。
ゲストによるプレゼン、グループでのワーク、質疑等を想定。

事前/業界SWOT分析の深堀り（1時間）

事後/ゲスト講師の授業内容を振り返り、感想シートをまとめる（2時間）

第7回 自分SWOT分析①

マーケティング理論のSWOTフレームを用いて、自分自身を分析し、目指す職業に向けてどんな能力を意識的に伸ばすかを考える。

事前/ゲスト講師の授業内容を振り返り、感想シートをまとめる（1時間）

事後/自分SWOT分析を行う（2時間）

- 第 8 回 自分SWOT分析②
前週及び宿題で行った分析結果をグループ単位でプレゼンし合い、他者の視点を交えながらリサーチ内容を深める。
事前/自分SWOT分析を行う (1時間)
事後/ゲスト講師への質問項目をまとめる (1時間)
- 第 9 回 ロールモデルから学ぶⅡ
ゲストスピーカーによる講義。
ゲストによるプレゼン、グループでのワーク、質疑等を想定。
事前/ゲスト講師への質問項目をまとめる (1時間)
事後/ゲスト講師の授業内容を振り返り、感想シートをまとめる (2時間)
- 第 10 回 グループワーク① (目標設定、チーム編成)
チーム単位で課題に対するアウトプットを作成する。その際、自分SWOT分析の結果、掲げた「伸ばしたい能力」に意識を向け、役割分担やグループ作業を行う。また、取り組む課題はゲスト講師が取り組んでいる実社会に則した課題を題材にする。
事前/ゲスト講師の授業内容を振り返り、感想シートをまとめる (1時間)
事後/プレゼンの準備を行う (4時間)
- 第 11 回 グループワーク② (企画会議)
前週に引き続き、チーム単位で課題に対するアウトプットを作成のためのディスカッションや作業を行う。
事前/プレゼンの準備を行う (3時間)
事後/プレゼンの準備を行う (4時間)
- 第 12 回 グループワーク③ (企画会議、プレゼン準備)
次週のチーム課題のプレゼンに向けた準備と練習を行う。
事前/プレゼンの準備を行う (3時間)
事後/プレゼンの準備を行う (4時間)
- 第 13 回 課題プレゼンテーション①
チームで制作したアウトプットを全員に向けてプレゼンする。聴き手から内容に関してフィードバックを行う。
事前/プレゼンの準備 (5時間)
事後/ 自他チームのプレゼンを振り返る(1.5時間)
- 第 14 回 課題プレゼンテーション②
チームで制作したアウトプットを全員に向けてプレゼンする。聴き手から内容に関してフィードバックを行う。
事前/プレゼン練習、自他チームの内容俯瞰(3時間)
事後/自他チームのプレゼンを振り返る(1.5時間)
- 第 15 回 リフレクション
後期授業を振り返り、自分自身の成長・変化を考える。
事前/後期授業で行なったことを復習 (1時間)
事後/後期授業での気づきをまとめる(3時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：B / 2回：B /
3回：C / 4回：B /
5回：C / 6回：F /
7回：B / 8回：C /
9回：F / 10回：B /
11回：B / 12回：B /
13回：C / 14回：C /
15回：B

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし (仕事とキャリアデザイン I を受講していると内容をより深めることができます)

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・2年生は可能な限り履修することが望ましいです。作業ができる環境から参加してください (PCからの参加を推奨)。
- ・「仕事とキャリアデザイン I」を受講していると内容をより深めることができます。
- ・特別なスキルは必要ありませんが、他者と協働することが多くあるため、協働作業に積極的に臨んでほしいと思います。
- ・この授業は「マーケティング理論」を用いて「仕事」や「自分自身」を深掘りしますので、就職活動に紐付ける意識を持って受講してください。
- ・将来必須のスキルを身につけるため、プレゼンテーションはPowerPointやKeynote活用を基本 (Illustrator等も可) としますので得意不得意関わらず活用しましょう。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

- ・プレゼンテーションソフト (PowerPoint/Keynote) が使用できること
- ・マイク、カメラが使用可能であること

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①グループへの貢献度、授業への姿勢 (40%)：この授業では他者との協働シーンが多いため、授業自体への積極性を重視します。
- ②提出物 (30%)：提出物は内容はもちろんのこと、社会ルールとして期限が守れているのかも重視します。
- ③プレゼンテーション (30%)：プレゼンテーションでは上手さよりも、臨む姿勢を重視します。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・提出またはプレゼン後、個別またはグループごとにコメントします (課題の種類による)。
- ・コメントは教員からだけでなく受講生同士でも行います。

〔出席確認の方法〕

指定のタイミングでコメント投稿や提出物などで確認

〔基本的な授業の進め方〕

- ・授業内容説明、ウォーミングアップ (15分)
 - ・個人やグループでのワーク (60分)
 - ・まとめ、次週への連絡事項等 (15分)
- *知識面のレクチャーを行う日はワークの時間を割り当てます (30分程度)

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：△
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△

4. 課題発見力・課題解決力：○

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

適宜授業内で伝えます。

【オフィスアワー】

時間：授業の後30分～1時間

場所：授業実施教室（オンラインの際はビデオ会議の延長上で対応）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

事前に修得しておく必要のある科目、課題やレポート等に対するフィードバックの方法

ポートフォリオ制作実習

MM550

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/1コマ

神林 優、増田 宗嶺

【科目の概要および目的】

就職活動用のポートフォリオを作成します。

自身の作品や、思い、学びの成果をまとめ、分類・整理し、他者に魅力的に伝わるポートフォリオとは何かを考察しながら制作を進めます。

業種や会社ごとに求められる人材像やそれを表すポートフォリオは異なります。コアとなる自分の魅力が表現されたポートフォリオを作成し、相手に合わせて戦略的に内容を変更したり更新したりできる思考力とスキルを身につけることを目的としています。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

・業種や会社ごとに求められる人材像やそれを表すポートフォリオを理解することができる。

・作品や学びの成果を的確に把握し、専門的な知識・技術を活用して他者に発信する魅力的な表現力を身につけることができる。

・コアとなる自分の魅力が表現されたポートフォリオを作成し、発表することができる。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

授業全体の説明。受講希望者が多数の場合は選抜を行うため、必ず出席してください。ウィッシュリストの作成、未来を可視化する。

事前/ポートフォリオについて調べる（1.5時間）

事後/オリエンテーションの内容をまとめる（1時間）

第2回 ポートフォリオ・リサーチワーク

業界ごとに求められるスキルやポートフォリオは異なります。自身の希望する業界で求められるポートフォリオはどのようなものか、また必要なスキルなどをリサーチしましょう。

事前/自身の志望する業界について調べる（1.5時間）

事後/自身の志望する業界ではどんな人材が求められるかをまとめる（1.5時間）

第3回 ポートフォリオに必要な作品や自身のスキルを可視化する

自身が希望する業界のポートフォリオに必要な内容を考察し、それに合わせて必要な作品や要素を書き出し、整理・分類する。

事前/自身の志望する業界で求められるポートフォリオについて調べる（1.5時間）

事後/授業内で完成しない場合は次回までに作業を進めておく（1.5時間）

第4回 これまでに制作した作品を整理し足りない作品の制作計画を立てる

これまでに制作した作品を整理し、ポートフォリオに掲載できるようにしよう。

ポートフォリオに必要なだが、まだ制作できていない作品の制作スケジュールを作成する。

事前/これまで製作した作品をまとめておく（1.5時間）

事後/授業内で終わらない場合は次回までに完成させておく（1.5時間）

第5回 複写・ブツ撮り

アナログ作品やブック形式の作品、印刷物などをポートフォリオ用に撮影しよう。

今後、作品が増えた場合に備えて複写やブツ撮り、スキャンについて学ぶ。

事前/撮影する作品を整理・準備する（1.5時間）

事後/撮影したデータを整理しておく（1.5時間）

第6回 デザイン案・台割作成制作①全体の構成

希望職種に沿ってポートフォリオの内容を決め、全体の構成やページ数に合わせた

配置を考え、デザイン案・台割を作成しよう。

事前/ポートフォリオの構成や全体像を考えておく（1.5時間）

事後/作業を進めておく（1.5時間）

第7回 デザイン案・台割作成制作②フォーマット・デザイン

デザイン案・台割を完成させよう。

各作品のキャプションや作品概要も作成する。

事前/作業を進めておく（1.5時間）

- 事後/授業内で完成しない場合は次回までにコンテを完成させておく (1.5時間)
- 第 8 回 表紙、プロフィールページ作成
表紙と自己紹介ページを作成する。数社に応募することを踏まえ、コアとなる自己PRやアピールポイントを文章やビジュアルに起こし作成しよう。
事前：自己PR、アピールポイントのメモを作成する (1.5時間)
事後：授業内で終わらない場合は次回までに完成させておく (1.5時間)
- 第 9 回 レイアウト作成①InDesignの基本
まずInDesignの復習をし、デザイン案・コンテ案に沿って
ベースデザインをし、レイアウトを作成する。
(基本的にはInDesignでマスターページをデザインし制作していく。
事前：InDesignの復習をする (1.5時間)
事後：授業内で終わらない場合は次回までに進める (1.5時間)
- 第 10 回 レイアウト作成②レイアウト
ページデザイン、レイアウトを完成させよう。
事前：作業を進めておく (1.5時間)
事後/授業内で終わらない場合は次回までに完成させておく (1.5時間)
- 第 11 回 作品を配置する①イメージをレイアウト
作成したレイアウトに作品やキャプションを実際に流し込んでいく。
事前/キャプション制作や作品整理を済ませておく (1.5時間)
事後/作業を進めておく (1.5時間)
- 第 12 回 作品を配置する②テキスト情報
プリント前の最終調整を行い、データを完成させる。
事前/作業を進めておく (1.5時間)
事後/プリント作業に向け準備を進める (1.5時間)
- 第 13 回 プリントアウト、ファイル作成①出力準備
データから「もの」へ。紙やファイルにも多くの種類がある。自分の作品を魅力的に見せる紙やファイルなどの体裁について学び、ファイル作成をする。
事前/プリント作業に向け準備を進める (1.5時間)
事後/授業内で完成しない場合は次回までに作業を進めておく (1.5時間)
- 第 14 回 プリントアウト、ファイル作成②出力
プリントアウトとファイリングを行い最終確認する。
(基本は各自で紙を準備し、高品質インクジェットプリンタでプリントする)
事前/プリント作業に向け準備を進める (1.5時間)
事後/授業内で完成しない場合は次回までに完成させる (1.5時間)
- 第 15 回 最終プレゼン
完成したポートフォリオのプレゼンテーション。
講評会。

- 事前/ポートフォリオを完済させ、プレゼンの準備を済ませておく (1.5時間)
事後/授業の成果をまとめる (1.5時間)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：E / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：E / 6回：E /
7回：E / 8回：E /
9回：E / 10回：E /
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

- ・「コンピューターデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・フォトショップ、イラストレーター、インデザインの基本操作ができること
- ・ポートフォリオが必要な職種や業界を目指している学生対象

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

ー

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点30点：積極的に取り組む姿勢を評価する。
②プレゼンテーション30点：制作意図がしっかり発表できているかを評価する。
③ポートフォリオ40点：表現力・完成度を評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- 提出、プレゼン毎にフィードバックします
授業内で個別面談も行います

〔出席確認の方法〕

- 対面の場合は点呼及び課題の提出で確認します
オンラインの場合はチャットへの書き込みと
提出物の確認で確認します

〔基本的な授業の進め方〕

- 通常は講義・ワークや課題の説明 (30～40分程度)、ワーク作業 (40～50分程度)、まとめ (10分程度)
プレゼンテーションの回は各学生プレゼンテーションとフィードバック5分程度×受講生数、全体講評 (10分程度)

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：ー
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

〔◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
ー：関連していない〕

〔教科書〕

なし (授業内で適宜プリント配布します)

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧を参照 (7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

物語文化論

旧 ファンタジー概説

MA511

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

市野 治美

【科目の概要および目的】

メディアコンテンツの重要な一要素である”物語”の概要と、各物語が生まれた文化を知る手がかりとして、日本の文芸、芸能の歴史を紹介、概説を行い、各自が研究する際の分析方法を習得する授業である。各講義では毎回映像を上映、作品を形態と内容の2方面から解説、物語の形式（神話あるいは英雄譚などといった）と表現の形式（ギリシャ悲劇あるいは歌舞伎、落語など）を学ぶ。学生は次の講義のテーマの作品をリサーチし、簡易レポートにまとめ、次の授業で提出。発表なども行う。最終課題は14週通しての事前学習と授業の総括をレポートにまとめたものを提出する。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・様々なジャンル、メディアの物語作品を鑑賞することにより、物語文化の知識を深めることができる。
- ・物語文化の知識を得ることにより、自身の制作に反映、より高度な作品制作を目指すことができる。
- ・講義のテーマの事前学習を行うことにより、的確な資料の収集方法を学び、リサーチ能力が高まる

【授業形態】

5 【同時双方向型】

【授業計画】

- 第 1 回 物語とは何か
物語文化についての、現段階での考察のレポート作成（授業内30分）
事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
- 第 2 回 物語文化概説（1）
神話について（映像鑑賞：文芸輪読）
事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
- 第 3 回 物語文化概説（2）
民話について（映像鑑賞：文芸輪読）
事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
- 第 4 回 物語文化概説（3）

伝承について（映像鑑賞：文芸輪読）

事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)

- 第 5 回 物語文化概説（4）
日記について（映像鑑賞：文芸輪読）
事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
- 第 6 回 物語文化概説（5）
歴史について（映像鑑賞：文芸輪読）
事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
- 第 7 回 物語文化概説（6）
人物伝について（映像鑑賞：文芸輪読）
事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
- 第 8 回 物語文化概説（7）
戦記について（映像鑑賞：文芸輪読）
事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
- 第 9 回 物語文化概説（8）
奇談について（映像鑑賞：文芸輪読）
事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
- 第 10 回 物語文化概説（9）
喜劇について（映像鑑賞：文芸輪読）
事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
- 第 11 回 物語文化概説（10）
ホラーについて（映像鑑賞：文芸輪読）
事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
- 第 12 回 物語文化概説（11）
不条理について（映像鑑賞：文芸輪読）
最終日発表課題出題
事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
- 第 13 回 物語文化概説（12）
ミステリーについて（映像鑑賞：文芸輪読）
事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
- 第 14 回 物語文化概説（13）
SFについて（映像鑑賞：文芸輪読）
事後/ 次の講義のテーマになる時代の作品を調査し、レポートにまとめる(2時間)
- 第 15 回 総括：最終課題レポート提出
・総括
・14週通しての事前学習の総括をレポートにまとめたものを提出する
- 【アクティブラーニング】
1回：E / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：E / 6回：E /
7回：E / 8回：E /
9回：E / 10回：E /

11回：E / 12回：E /

13回：E / 14回：E /

15回：E

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

特になし

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

- ・PC、マイク、カメラ等、通信環境の成り立つデバイス
- ・Word。アクロバットなど作文ツール

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点（10%）：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む姿勢を評価する

②事前学習のレポート（50%）：事前学習に積極的に取り組む姿勢と内容の二方面から評価する（レポートは毎回の授業内において提出）

③最終課題レポート（40%）：14回の事前学習の成果と講義内容の理解度、レポート制作の構成、表現力をもって判定する（事前制作、講義最終回に提出）

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・事前レポートは毎回提出、授業内でプレゼン、講評。

〔出席確認の方法〕

- ・点呼確認
- ・提出課題発表

〔基本的な授業の進め方〕

- ・導入・授業のガイダンス
- ・物語文化論の講義 20分
- ・提出課題講評 60分
- ・今日のまとめと課題説明10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：一
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：一
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
一：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

マンガ編集論

MA517

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

講義/1コマ

菊池 優

〔科目の概要および目的〕

本講座の受講生に将来の夢を訊くと、「漫画家かイラストレーター等、絵に携わる仕事がしたい」という答が異口同音に返ってくる。これは、マンガを勉強した学生の進路に関する知識がないからだ考える。そこで「マンガ編集論」では、マンガの業界はもちろんのこと、それ以外の業界においても大学で学んだことを活かせる選択肢があることを理解して欲しい。もちろん編集に必要な知識の講義も実施する。ゲストは、プロの漫画家、ゲーム会社のディレクター、元・大手出版社の編集者であり、現在でもフリーの編集者として現場で活躍している方の三人を予定。卒業後の進路を決める参考にして欲しい。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・マンガ編集に関する基本的な知識を習得できる。
- ・編集者としての視点で作品を見られるようになる。
- ・自分自身の創作にも役立てることができる。
- ・3名のゲスト講師との対談を通じて、業界の現状を知ることができる。（ただしゲストとの対談は、先方のスケジュールによって変更する場合がある。）

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第1回 授業概要の説明及び講師略歴紹介
本講座の内容及び出版業界での講師の略歴を紹介
事前/シラバスに関する質問をリストアップ(2h)
事後/授業内容のまとめ(2h)
- 第2回 小池一夫という作家
原作者・小池一夫氏の創作に関するエピソード
事前/小池一夫作品を一作以上読んでくること(2h)
事後/授業内容のまとめ(2h)
- 第3回 編集者というお仕事
講師が接点のあった魅力的な編集者のエピソードを仮名で紹介
事前/編集者に関するイメージをリストアップ(2h)
事後/授業内容のまとめ(2h)
- 第4回 漫画家というお仕事
講師が接点のあった魅力的な漫画家のエピソードを仮名で紹介
事前/好きなマンガ家と作品、その理由を準備(2h)
事後/授業内容のまとめ(2h)
- 第5回 原作者というお仕事

	竹内一郎先生との合同授業 事前/竹内一郎作品を一作以上読んでくること(2h) 事後/授業のまとめ(2h)	マンガの持ち込み方法とか編集に関する対談 事前/編集者に対する質問事項をリストアップ(2h) 事後/授業のまとめ(2h)
第6回	ゲストトーク① ゲーム業界の現状に関する対談 事前/ゲームに関する質問事項をリストアップ(2h) 事後/授業のまとめ(2h)	〔アクティブラーニング〕 1回：E,F / 2回：E,F / 3回：E,F / 4回：E,F / 5回：E,F / 6回：E,F / 7回：E,F / 8回：E,F / 9回：E,F / 10回：E,F / 11回：E,F / 12回：E,F / 13回：E,F / 14回：E,F / 15回：E,F
第7回	新人漫画編集者の手引き①「キャラクター編」 マンガ制作で最も重要なキャラクターづくりに関する講義 事前/キャラクター創りに関する質問をリストアップ(2h) 事後/授業のまとめ(2h)	〔事前に修得しておく必要のある科目〕 なし
第8回	作家マネージメントというお仕事 講師が接点のあった魅力的な作家のエピソードを仮名で紹介 事前/作家マネージメントに関するイメージをリストアップ(2h) 事後/授業のまとめ(2h)	〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕 ・特に必要なスキル、予備知識、技能などは無し。ただし、基本的には講師である私自身の体験談をベースにした講義なので、他では耳にしたり眼にしたりすることはできないであろうという内容である。重要だと思う事項はメモをとり、今後の実作や進路決定に活かして欲しい。
第9回	プロデューサーというお仕事 講師がプロデューサーとして関わった仕事のエピソードを紹介 事前/プロデューサーに関するイメージをリストアップ(2h) 事後/授業のまとめ(2h)	・講義の中で、いろいろな作品名(漫画・小説・映画等々)が出てくると思うが、それを聞き流すのではなく、できるだけその作品を見る機会をつくるようにして欲しい。
第10回	ゲストトーク② 現役マンガ家との対談 事前/現役マンガ家に対する質問事項をリストアップ(2h) 事後/授業のまとめ(2h)	〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕 —
第11回	新人漫画編集者の手引き②「テーマ編」 テーマのないドラマにはなぜ魅力がないのか？ 事前/作品のテーマをどうやって決めているのか？(2h) 事後/授業のまとめ(2h)	〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕 ①毎回の講義終了時及び期末に提出させるレポート(70%)：講義内容に関する理解度を評価する。 ②平常点(30%)：出席率、受講時における積極性及び集中度を評価する。
第12回	マーチャндаイジングというお仕事 キャラクターグッズの企画販売と動物占い 事前/好きなキャラクター商品とその理由をリストアップ(2h) 事後/授業のまとめ(2h)	〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕 ・毎回提出させるミニレポート(質問事項や理解できなかったこと)に関しては、次回講義で回答する。
第13回	小野不由美という作家・狩撫麻礼という原作者 作家・小野不由美氏と原作者・狩撫麻礼氏の原作者の創作に関するエピソード 事前/ゲストふたりの作品を、一作以上読んでくること(2h) 事後/授業のまとめ(2h)	〔出席確認の方法〕 授業開始時に出席をとり、授業の最後にコメント用紙を回収する。
第14回	新人漫画編集者の手引き③「ストーリー編」 ドラマのストーリー創りのノウハウ 事前/ドラマづくりで苦労していることをリストアップ(2h) 事後/授業のまとめ(2h)	〔基本的な授業の進め方〕 ①当日のテーマに関する説明(10分) ②テーマに関する講義(70分) ③コメント記入及び回収(10分)
第15回	ゲストトーク③	〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕 1. 主体的行動力：◎ 2. 表現力：— 3. 社会貢献力・コラボレーション力：— 4. 課題発見力・課題解決力：◎ 5. コミュニケーション力：○ 6. 専門的知識・技能の活用力：◎ 【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない】
		〔教科書〕 なし
		〔参考文献〕 なし

【オフィスアワー】

時間：出講日〔木曜日〕の授業終了後

場所：授業実施教室・7F非常勤講師控室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

マンガ制作実習Ⅰ
旧 オリジナル漫画制作Ⅰ

MA554

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

芦谷 耕平

【科目の概要および目的】

企画・脚本・構成・配役・演出・撮影・照明・美術・衣装・編集(特効)・・・これらは全ての漫画家に必要な職能である。そしてマンガは、これら全てをたった一人の「個」の才能によって表現できる、大きな可能性を持ったメディアである。卒業研究を後に控えた時期に、今一度これまで学んできたマンガ制作のいろはを、多角的に分析・研究するために、科目前半は作品制作のアイデアを練りながら、先行作家・作品研究の講義を並行して行う。後半は本格的な作品制作に集中していくことになる。

マンガに限らず作品制作とは、押しなべて他者とのコミュニケーションである。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

・「自己表出」であれ、「コンテンツ」であれ、ターゲットにした「読者」を想定したプロ意識に根差した作品制作理論を習得・理解する

・マンガ原稿16ページ以上に相当する、完全オリジナルの作品を完成させる技術を身につける

・常に読み手を想定し、「書きたい」作品づくりから「読みたい」作品創りへのプロ目線を持つように意識を変化させる

・持込や投稿への意欲を向上させる

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第1回 マンガの企画(1)企画立案

卒業研究の模擬課題という設定のもと、まずは作品形式とターゲットの選定、調査のうえ決定する。(マンガ・イラスト原稿であれば一般的には12~50頁)

事前/漫画の基本の予習(1時間)

事後/漫画の企画制作(3時間)

第2回 マンガの企画(2)企画完成

アイデア、着想、発想法。何万人が挑む王道の難関に挑むのか、誰も手を付けていない前人未到の

領域に挑むのか。具体的な読者層を想定する。

事前/漫画の企画制作(1時間)

事後/漫画の企画完成(3時間)

第3回 マンガの脚本(1)大筋とページ数

序破急、起承転結を、漫画の読みきりに当てはめた際のページ配分、ドラマの展開法セオリー(マンガの企画(1)に基づき、ページ数を決定。)

ハリウッドの三幕構成。

事前/漫画のプロットの予習(1時間)

事後/プロット制作(10時間)

第4回 マンガの脚本(2)プロットの完成

プロットではキャラクターや物語の設定ばかりに囚われてはいけない。むしろクライマックスのスペクタクル、カタルシスから描いて物語を逆算する。欧米ドラマの手法を考察。『シックスセンス』

事前/プロットの振り返り(1時間)

事後/キャラクター表作成(8時間)

第5回 マンガの演出、ネーム執筆

漫画の設計図であり、作品のほぼ全てを左右するネーム作りに入る。井上雄彦、大作家の生みの苦しみを知る。グレマスの行為項。

事前/キャラクター表の振り返り(1時間)

事後/授業課題ネーム制作(5時間)

第6回 マンガの配役(1)キャラ表のラフ

DRAGONBALL、SLAMDUNK、ONEPIECEなど、国民的人気漫画に共通する、大ヒットするキャラクター作りの秘訣とは。

事前/授業課題ネーム制作(1時間)

事後/授業課題ネーム制作(5時間)

第7回 マンガの配役(2)キャラ表完成

ネーム制作と並行して、適切な配役を行う。プロット段階で、どの位置にどんな役割を持ったキャラクターを配置するか、計算出来るようになる。クリストファー・ボグラーの理論。

事前/授業課題ネーム制作(1時間)

事後/授業課題ネーム制作(5時間)

第8回 マンガの構成(1)原稿執筆(下描き)

ネームの推敲を重ね、この週末までで完成稿とする。ここまでは作品作りのセオリーについて、主に辿ってきた。ジョセフ・キャンベルの理論。

事前/ネーム制作の振り返り(1時間)

事後/漫画の原稿執筆開始(3時間)

第9回 マンガの構成(2)、原稿執筆

ここからは、セオリーとその枠を如何に壊していくか考察する。プロットの機能分類を採り上げる。

事前/ネーム制作の振り返り(2時間)

事後/授業課題原稿を制作する(6時間)

第10回 マンガの構成・演出、原稿執筆

演出は、いわばその作家の持ち味をいかに効果的に表出していくか。「間」の妙技。これまでの理論の現代型、ブレイクスナイダーの理論。

事前/授業課題原稿を制作する(2時間)

事後/授業課題原稿を制作する(6時間)

第11回 マンガの7つのポイントと6大構成要素

エンターテインメントの元祖はミステリであった。6大構成要素が読者にもたらす影響と、その工夫。参考視聴。

事前/授業課題原稿を制作する(2時間)

事後/授業課題原稿を制作する(6時間)

第12回 マンガにおける最も重要なポイントとは。原稿執筆

この授業で最も重要なポイントを、これまで学んできた理論から10のパターンに法則化する。ストーリー、演出面からのその必要性。

事前/授業課題原稿を制作する(2時間)

事後/授業課題原稿を制作する(6時間)

第13回 マンガの演出と編集・テーマ。原稿執筆、仕上げ背景美術やキャラクターの衣装は、作品の世界観を示す上で最も重要な位置を占める。時代考証や空気感の演出。視野範囲、描いてはいけないパス。スティーブン・キングとマズローの理論。

事前/授業課題原稿を制作する(2時間)

事後/授業課題原稿を制作する(6時間)

第14回 マンガの撮影と構図。原稿執筆、仕上げ分かり易く印象的な構図、魅力的な空間演出。舞台のどの場面を切り取るか。画面作りは撮影と照明のセンスにかかっている。原稿執筆の大詰めの段階となる。読み手を意識し、最終仕上げ、調整。

事前/授業課題原稿を制作する(2時間)

事後/課題原稿の最終確認(10時間)

第15回 原稿完成、講評会
完成原稿を提出し、プレゼンテーション及び合評会を行う。

事前/授業課題を完成させる(15時間)

【アクティブラーニング】

1回：C / 2回：C /

3回：— / 4回：D /

5回：D / 6回：F /

7回：F / 8回：— /

9回：D / 10回：— /

11回：— / 12回：F /

13回：F / 14回：F /

15回：C,D

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・「マンガ表現基礎」、「マンガ制作基礎」、「マンガ表現」、「マンガ表現研究」のいずれかの科目を修得していることが望ましい

・マンガ原稿の基本的な制作工程を理解している。制作は、アナログ、デジタルどちらでも可。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点 (10%)：授業態度・積極性で評価

②提出物 ・企画とプロット (30%)・原稿及びそれに類する提出物 (60%)：作品の出来を表現力・完成度・締め切りで評価

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・各課題ごとと教員による個別添削指導、プレゼンテーションへの講評

【出席確認の方法】

指定のタイミングでコメント投稿 出席票、出席者リスト、リアクションペーパー、その日の課題提出など

【基本的な授業の進め方】

・授業説明:10分・その日の講義1:説明10分

→ワーク1:10分→解説10分

・その日の講義2:説明10分→ワーク2:15分→解説15分・その日の講義3:説明10分→実作業:70分

・授業の振り返り10分、次回課題説明10分 ワーク1とワーク2の提出で出席

・提出方法は最後に説明・その授業回によってフレキシブルに対応

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：△

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：—

5. コミュニケーション力：—

6. 専門的知識・技能の活用能力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

『10年メシが食える漫画家入門 悪魔の脚本 魔法のデッサン』
／樹崎聖／講談社／819円

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)、授業計画：
テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

アニメ制作Ⅲ

旧 動画技術Ⅰ (アニメ制作)

AN558

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

古瀬 登、川上 遥

【科目の概要および目的】

アイデア発想法、起承転結、マンガの手法、アニメの手法等。箱書きからプロット、コンテンツとしての作品制作を行う。

3年次のアニメ制作では、コンテンツを考える意味でも、

人間を考えるとという点でも、テーマを再度反復したい。2年次同様各自プロットの作成を行い、OKの出たものから画コンテ作成に入る。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・アニメーション用の企画書を作成することができる
- ・グループ制作において柔軟なコミュニケーションを取ることができる
- ・スポッティングやタイミングを意識したコンテ撮影を作成できる

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 企画書の発表
アニメーション制作の一般行程を踏襲し、各学生のスタッフ構成を決定
事前/企画書の作成(3h)
- 第 2 回 プリプロ作業
ドラマやマンガ構成上、考え易い構想として序破急や起承転結という形式を提示
事後/課題の制作(3h)
- 第 3 回 イメージボード作成(1)
全員でイメージボードの作成を行い、その中からイメージクリエイタ（演出）を決定する。
事後/課題の制作(3h)
- 第 4 回 イメージボード作成(2)
全員でイメージボードの作成を行い、その中からイメージクリエイタ（演出）を決定する。
事後/課題の制作(3h)
- 第 5 回 キャラクターデザイン・美術設定の作成(1)
イメージボードを元にアニメーション向けのキャラクターデザインを作成。
同じく背景美術の設定も各シーンごとに作成する。
各メンバーで協力し合いながらスムーズに進める。
事後/課題の制作(3h)
- 第 6 回 キャラクターデザイン・美術設定の作成(2)
イメージボードを元にアニメーション向けのキャラクターデザインを作成。
同じく背景美術の設定も各シーンごとに作成する。
各メンバーで協力し合いながらスムーズに進める。
事後/課題の制作(3h)
- 第 7 回 キャラクターデザイン・美術設定の作成(3)
イメージボードを元にアニメーション向けのキャラクターデザインを作成。
同じく背景美術の設定も各シーンごとに作成する。
各メンバーで協力し合いながらスムーズに進める。
事後/課題の制作(3h)
- 第 8 回 絵コンテの作成(1)
アニメーションの設計図と呼ばれる絵コンテの作成
事後/課題の制作(3h)
- 第 9 回 絵コンテの作成(2)第一項のチェック

アイレベル、パース感などは絵コンテのうちに決めておく

事後/課題の制作(3h)

- 第 10 回 絵コンテの作成(3)第二項のチェック
カットナンバーとカット尺は必ず記載する
事後/課題の制作(3h)

- 第 11 回 絵コンテの作成(4)決定稿のチェック
全体を見通して、カット数を調整する
事後/課題の制作(3h)

- 第 12 回 コンテ撮の作成(1)
Adobe Premiereを使い
音響とのスポッティングを図る(1)
事後/課題の制作(3h)

- 第 13 回 コンテ撮の作成(2)
Adobe Premiereを使い
音響とのスポッティングを図る(2)
事後/課題の制作(3h)

- 第 14 回 コンテ撮の作成(3)
Adobe Premiereを使い
音響とのスポッティングを図る(3)
事後/課題の制作(3h)

- 第 15 回 コンテ撮の発表
コンテ撮を用いてプレゼンし、他人の意見を収集する。
事後/課題の制作(3h)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：B / 2回：B /
3回：B / 4回：B /
5回：B / 6回：B /
7回：B / 8回：B /
9回：B / 10回：B /
11回：B / 12回：B /
13回：B / 14回：B /
15回：B

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・後期授業「アニメ制作IV」を通して、通年で作品の完成させる
- ・アニメ制作中は随時担当教員とのミーティング、あるいは指導を受けること

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

(本科目は対面実施ですが参考に記載します↓)

Adobe Photoshop, After Effects, Premiere Pro, CLIP STUDIO PAINT EX,ペンタブレット

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点 (20%)：授業態度、グループ制作に積極的に参加できているか
- ②課題 (50%)：企画書の内容・完成度。スケジュールを管理できているか
- ③成果発表(30%):コンテ撮発表でのプレゼン・内容について評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・課題提出後の授業で個別にコメントします

〔出席確認の方法〕

授業開始時に名前を読み上げて確認します

〔基本的な授業の進め方〕

1コマ目

・出席確認:5分 ・資料配布、課題説明:10分・講義10分 ・グループワーク65分

2コマ目

・完成した課題のチェック、添削の繰り返し80分
・課題提出5分・次回説明5分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：－
4. 課題発見力・課題解決力：－
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
－：関連していない】

〔教科書〕

適宜授業で資料を配布

〔参考文献〕

神村 幸子 「アニメーションの基礎知識大百科」(2009年) グラフィック社 3080円

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、教科書、参考文献

音楽(劇場用・TV用・CM用・Web用)

AN/MD551
東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)
3年生 4年生
2単位 前期
6【対面型】
演習/2コマ

坂口 博樹

〔科目の概要および目的〕

・現代において映像作品は多様な形態、多様なメディアによって表現されるが、その中で音楽の役割はますます重要になってきている。映像の中の音楽、そして音楽そのものへの理解を深め、音楽をどのように使うのか、また音楽を作るにはどうしたらよいか、本授業では音楽制作の基礎を学び、実際に制作し、映像に音楽をつける実習を行っていく。

・制作にはDAW(デジタル・オーディオ・ワークステーション)ソフトを使い、楽曲の打ち込み、歌や楽器の録音の基礎を学ぶ。

・作った楽曲は映像制作ソフトを使い映像と合わせ動画ファイルとして出力し作品とする。

・最低限の音楽理論や作曲技法を学習し、多様なメディアコンテンツに対しどう音楽を作るのか考察し実践する。

・授業形態は対面授業を中心にするがハイフレックスにも対応する(感染状況により変わる)。

〔到達目標(授業を通じて身につく能力・スキル)〕

・映像と音楽の関係を理解し、実際に映像に音楽をつける。

・DAWソフトを使い基礎的な楽曲制作を学び、オリジナル楽曲を発信する。

・音楽制作の概要を学び、多様な音楽を理解し、映像制作の他の部門と協働し制作に貢献できる。

・音楽の意味と音楽理論の基礎を習得する。

・実際の作品制作・提出をもって評価する。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第1回 本授業について

授業概観/使用アプリについて/〈ワーク〉音楽鑑賞

事前/自分の音楽体験等をまとめる/1(時間)

事後/各自自分のプレゼンを書く/1(時間)

第2回 音楽の意味と映像

音楽とはなにか?/音楽と映像/音楽理論-1/〈ワーク〉映像鑑賞(音楽を中心に)

事前/音楽と映像事前学習/1(時間)

事後/映像鑑賞の感想を書く/1(時間)

第3回 音楽の理解と制作基礎

音楽ジャンル概観/音楽理論-2/音楽アプリの使い方-1/〈ワーク〉Zenbeats打ち込み-1

事前/音楽アプリの使い方予習/1(時間)

事後/音楽アプリの使い方復習/1(時間)

第4回 音楽史-1と制作基礎

音楽史-1(クラシック)/音楽理論-3/音楽アプリの使い方-2/〈ワーク〉Zenbeats打ち込み-2

事前/音楽アプリの使い方予習/1(時間)

事後/打ち込み課題/2(時間)

第5回 音楽史-2と制作基礎

音楽史-2(ジャズ、ブルース)/音楽理論-4/音楽アプリの使い方-3/〈ワーク〉Zenbeats打ち込み-3

事前/音楽アプリの使い方予習/1(時間)

事後/打ち込み課題/2(時間)

第6回 音楽史-3とメロディー作曲

音楽史-3(ロック、ポップス)/メロディー作曲法/〈ワーク〉メロディー作曲と打ち込み

事前/作りたい曲を考える/1(時間)

事後/メロディー作曲/2(時間)

第7回 コード理論基礎とメロディーのコード付け

コード理論基礎-1/メロディーとコード/〈ワーク〉メロディーのコード付けと打ち込み

事前/メロディーとコード予習/1(時間)

事後/メロディーとコードの打ち込み課題/2(時間)

- 第 8 回 コード理論基礎とコードとベース
コード理論基礎-2/コードとベース/〈ワーク〉
ベースを入れた打ち込み
事前/ベースとコード予習/1(時間)
事後/ベースを入れた打ち込み課題/2(時間)
- 第 9 回 アレンジの基礎-1
コード理論基礎-3/リズムセクション/〈ワーク〉
リズムセクションの打ち込み
事前/リズムセクション予習/1(時間)
事後/リズムセクションの打ち込み課題/2(時間)
- 第 10 回 アレンジの基礎-2
作編曲法-1/メロディーとリズムセクション/
〈ワーク〉歌の作曲とリズムセクションの打ち込み
事前/歌詞を作る/1(時間)
事後/歌入の楽曲打ち込み課題/2(時間)
- 第 11 回 アレンジの基礎-3
作編曲法-2/多様な楽器の理解〈ワーク〉インス
ト曲制作
事前/楽器について予習/1(時間)
事後/インスト曲制作/2(時間)
- 第 12 回 映像音楽制作-1
作編曲法-3/映像音楽制作-1〈ワーク〉映像音楽
制作
事前/映像音楽予習/1(時間)
事後/映像音楽制作/2(時間)
- 第 13 回 映像音楽制作-2
作編曲法-4/映像音楽制作-2〈ワーク〉映像音楽
制作
事前/映像音楽予習/1(時間)
事後/映像音楽制作/2(時間)
- 第 14 回 終了作品制作-1
映像音楽制作法/〈ワーク〉映像とサウンドトラ
ック制作(最終作品)
事前/映像音楽予習/1(時間)
事後/映像とサウンドトラック制作/2(時間)
- 第 15 回 終了作品制作-2
音楽制作総論/〈ワーク〉最終作品完成提出
事前/最終作品制作/2(時間)

【アクティブラーニング】

- 1回：D / 2回：A,D /
3回：D,E / 4回：B,E /
5回：B,E / 6回：B,E /
7回：B,E / 8回：B,E /
9回：E / 10回：E /
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

2年時に「音響制作」を受講していることが望ましいが、必修ではない。

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

受講は、中学校程度の音楽知識と基礎的なコンピュータ操作ができれば可能だが、できればAdobe Premiere Proが使える

ることが望ましい。しかし初心者には初歩的などころから教えるので、その場合申し出るように。なにより音楽が好きだという学生を歓迎する。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

(本科目は対面です実施ですが参考に記載します↓)

コンピュータ (Windows10、Mac OS 10.12以上) もしくは iPad(iOS12以上)

Roland Zenbeats (学校より供与)

Adobe Premiere Pro (できるだけ、必須ではない)

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

・最終作品提出(試験に相当)---音楽制作を理解し、創造的な作品が作れるか(40%)

・授業ごとの課題提出---指示した内容に沿った課題ができているか、期限が守れたか(30%)

・成果発表---自作の発表の場でのプレゼンの姿勢・内容について評価(20%)

・平常点---授業マナーを守り、積極的に授業に参加しているか(10%)

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

提出後の授業で全体にコメントする

【出席確認の方法】

Teamsの会議でのチャット

【基本的な授業の進め方】

・授業説明等:10分

・前回のワーク評価20分

・講義1:30分 ワーク30分

・講義2:30分 ワーク40分

・まとめ、課題節目、予告など:20分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：△

4. 課題発見力・課題解決力：○

5. コミュニケーション力：○

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし(講師の資料)

【参考文献】

「音楽の不思議を解く」坂口博樹：著(ヤマハミュージックエンタテインメント) ¥1,890

【オフィスアワー】

出講日の授業の前後

授業実施教室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

事前に修得しておく必要のある科目、履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必

要な機器・ソフトウェア等の条件、出席確認の方法、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

シナリオ原作 I

AN552

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

平野 靖士

【科目の概要および目的】

映像作品の設計図であるシナリオとは何かを学び、制作過程を知ることによって、基礎的なシナリオ創作を実習する。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

・シナリオとは何か、そして、映像作品にとっての重要性を説明できる。

・シナリオの書き方が習得できる。

・ショート・シナリオを創作できる。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
この講義の内容と目的の説明。映像を観ながらシナリオの概要を説明する。
事後/脚本を読む (1時間)
- 第 2 回 シナリオとは
シナリオ(脚本)と戯曲の関係を説明し、映像における脚本の重要性を解説する。また、脚本の用語や書式を説明解説する。
事後/授業内容の再確認 (1時間)
- 第 3 回 シナリオの製作過程と企画
脚本が製作される過程を説明し、その前段階にある企画のことを解説する。
事後/授業内容の再確認 (1時間)
- 第 4 回 テーマ(作者の視点)
脚本を書く上でのテーマの必要性を解説し、ディスカッション形式で若者に共通するテーマを考えてみる。
事後/授業内容の再確認 (1時間)
- 第 5 回 ストーリー作りとドラマ
テーマをストーリーにする方法論、ドラマの重要性を解説し、ディスカッションでドラマがあるストーリーを創ってみる。
事後/授業内容の再確認 (1時間)
- 第 6 回 キャラクター作り
ストーリーに登場するキャラクターの作り方を解説し、ディスカッションで共通のキャラクターを創ってみる。
事後/授業内容の再確認 (1時間)
- 第 7 回 プロット書き基本
構成であるプロットの重要性を解説し、その作り方を説明し、ディスカッションで一本のプロット

を組み立ててみる。

事後/授業内容の再確認 (1時間)

- 第 8 回 脚本書き基本
プロットから脚本を書く方法を説明して、ディスカッションで短い脚本を書いてみる。
事後/授業内容の再確認 (1時間)
- 第 9 回 脚本の直しの概要
既存の簡単な脚本を複写して、ディテールの修正を解説する。
事後/授業内容の再確認 (1時間)
- 第 10 回 一枚の脚本を書く
あるシチュエーションを設定して、脚本のワンシーンを書いてみる。
事後/授業内容の再確認 (1時間)
- 第 11 回 オリジナル・ストーリー作り
簡単なテーマを提示して、登場キャラクターや短いストーリーを考え、書いてみる。
事後/ストーリーの完成 (3時間)
- 第 12 回 プロット書き実践
オリジナル・ストーリーをプロットにしてみる。
事後/プロットの完成 (4時間)
- 第 13 回 脚本書き実践 I(起)
オリジナル・プロットの前半部をシナリオにしてみる。
事後/シナリオの作成 (4時間)
- 第 14 回 脚本書き実践 II(承)
オリジナル・プロットの中盤をシナリオにしてみる。
事後/シナリオの作成 (4時間)
- 第 15 回 脚本書き実践 II(転結)
オリジナル・プロットの後半部をシナリオにして、オリジナル・シナリオを仕上げる。
事後/シナリオの完成 (5時間)

【アクティブラーニング】

1回:— / 2回:— /

3回:— / 4回:C /

5回:C / 6回:C /

7回:C / 8回:E /

9回:— / 10回:— /

11回:C / 12回:C /

13回:C / 14回:C /

15回:C

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

「ファンタジーと物語(物語作法)」を履修していることが望ましい。

留学生は日本語の読み書きができること。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点(20%)：授業マナーを守り、積極的に授業に参加しているか。

②課題（80%）表現力、完成度はどうか。締切りは守れたか。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

授業で個別にコメントします

〔出席確認の方法〕

授業開始時、出席確認

〔基本的な授業の進め方〕

- ・ 授業説明 5分
- ・ 講義 70分
- ・ 筆記実習：筆記 50分 → 講評40分
- ・ 授業振り返り 10分
- ・ 次回講義説明 5分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

必要に応じてプリント配布

〔オフィスアワー〕

時間：出講日の授業の前後

場所：授業実施教室

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

Webデザイン論

旧 Webデザイン論・入門演習

GA514

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 前期

6 【対面型】

講義/1コマ

〔科目の概要および目的〕

情報を世界中に伝達することが可能な World Wide Web は、今日においてデジタルコンテンツ制作者のみならずとも欠かすことのできない主要なメディアの一つです。

本授業は、Web ページデザインに必要な基礎知識とグラフィックデザインの基本を修得することを目指し、伝えるためのグラフィックデザインを学習します。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

・ Web メディアの特徴を理解し、Web ページの基本的なグラフィックデザインができる。

・ ページ内の構成要素を整理し、情報の重要性の差や、情報の類似性を考慮し表現することができる。

・ スタイルによる違いを理解し、選択したスタイルに応じ適切に表現することができる。

〔授業形態〕

6

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

本授業の概要、進め方、作業環境について
事前/HTML, CSS の基本 3.0(時間)
事後/授業内容の復習 1.5(時間)

第 2 回 ページレイアウト

構成要素とワイヤーフレームについて
事前/疑問点の整理 1.5(時間)
事後/授業内容の復習 3.0(時間)

第 3 回 サイトデザイン基礎

UXフローとプロトタイプについて
事前/疑問点の整理 1.5(時間)
事後/授業内容の復習 3.0(時間)

第 4 回 グラフィックデザイン (1)

デザインルールの基本 (造形のルール) について
事前/疑問点の整理 1.5(時間)
事後/授業内容の復習 3.0(時間)

第 5 回 グラフィックデザイン (2)

デザインルールの基本 (造形のルール) について
事前/疑問点の整理 1.5(時間)
事後/授業内容の復習 3.0(時間)

第 6 回 グラフィックデザイン (3)

デザインルールの基本 (表現のスタイル) について
事前/疑問点の整理 1.5(時間)
事後/授業内容の復習 3.0(時間)

第 7 回 グラフィックデザイン (4)

デザインルールの基本 (表現のスタイル) について
事前/疑問点の整理 1.5(時間)
事後/授業内容の復習 3.0(時間)

第 8 回 グラフィックデザイン (5)

デザインルールの基本 (表現のスタイル) について
事前/疑問点の整理 1.5(時間)
事後/授業内容の復習 3.0(時間)

第 9 回 グラフィックデザイン (6)

デザインルールの基本 (表現のスタイル) について
事前/疑問点の整理 1.5(時間)
事後/授業内容の復習 3.0(時間)

第 10 回 解説と課題制作 (1)

内容の発表と進め方の説明。
事前/疑問点の整理 1.5(時間)
事後/課題制作 3.0(時間)

第 11 回 解説と課題制作 (2)

制作、疑問点の解決。解説。
事前/疑問点の整理 1.5(時間)
事後/課題制作 3.0(時間)

第 12 回 解説と課題制作 (3)

- 制作、疑問点の解決。解説。
事前/疑問点の整理 1.5(時間)
事後/課題制作 3.0(時間)
- 第 13 回 解説と課題制作 (4)
制作、疑問点の解決。解説。
事前/疑問点の整理 1.5(時間)
事後/課題制作 3.0(時間)
- 第 14 回 解説と課題制作 (5)
制作、疑問点の解決。解説。
事前/疑問点の整理 1.5(時間)
事後/課題制作 3.0(時間)
- 第 15 回 課題発表
課題の提出、発表、講評
事前/発表準備 4.0(時間)
事後/まとめ・整理 0.5(時間)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：— /
5回：— / 6回：— /
7回：— / 8回：— /
9回：— / 10回：— /
11回：A / 12回：A /
13回：A / 14回：A /
15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

- ・「Webデザイン演習」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・「Webデザイン演習」修得済、または、同等の知識・理解があること。

- ・Photoshop（またはXD等のグラフィックデザインアプリケーション）の基本操作ができること。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点（30%）：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組み、当日に演習課題がある場合は提出すること。

②課題制作（70%）：授業内容の理解と、制作意図の把握が、課題制作にしっかりと反映されているかどうかを評価し、各自の仕様に対する完成度を重視します。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・発表したものに対して授業全体で講評を行います。
- ・質問に対して個別にコメントします。

〔出席確認の方法〕

出席票、またはそれに準ずるものにより確認

〔基本的な授業の進め方〕

前回の振り返り（10分）実習を伴う講義（80分）

10回以降

前回の振り返り（10分）演習、質疑応答（80分）

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—

5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

授業内で紹介します

〔オフィスアワー〕

時間：出講日前後、これ以外については応相談

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

ゲーム企画演習Ⅲ

GA562

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

吉岡 章夫

〔科目の概要および目的〕

ゲームの難易度や世界観を図式に表すことを行い、相手に伝えることを訓練する。デザイン面では、精度の高いグラフィックスの作成、画面の設計を行う。後半ではベースとなるプログラムを解析し、自分なりに工夫を加えたゲーム制作を行う。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・プランナーとして条件を踏まえた上で魅力的な発想ができる。
- ・プランナーとして相手に伝わる企画書を作れる。
- ・デザイナーとして必要な精度の高い描画力、レイアウト作成ができる。
- ・プログラマーとしてのロジカル思考ができる。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
業界動向。必要なスキル。発想法。
事前/ 業界調査3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 2 回 UE4でゲームロジック作成(1)
ブループリントを使ってアイテム取得等、ゲームの基本となるロジックの作成
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)
- 第 3 回 UE4でゲームロジック作成(2)
ブループリントを使ってアイテム取得等、ゲームの基本となるロジックの作成
事前/ 制作3(時間)
事後/ 制作3(時間)

第 4 回	UE4でレベルデザイン(1) ホワイトボックスを使って、プレイヤーの誘導、ゲームの進行を考慮したレベルデザインの実践 事前/ 制作3(時間) 事後/ 制作3(時間)	事前/ 制作3(時間) 事後/ フィードバック確認3(時間)
第 5 回	UE4でレベルデザイン(2) ホワイトボックスを使って、プレイヤーの誘導、ゲームの進行を考慮したレベルデザインの実践 事前/ 制作3(時間) 事後/ 制作3(時間)	
第 6 回	レベルデザインチェック 進捗と方向性の確認。 事前/ 制作3(時間) 事後/ 制作3(時間)	
第 7 回	UE4でビジュアル作成(1) 作成したレベルデザインを基に、アセットを使って目指す世界観を表現する 事前/ 制作3(時間) 事後/ 制作3(時間)	
第 8 回	UE4でビジュアル作成(2) 作成したレベルデザインを基に、アセットを使って目指す世界観を表現する 事前/ 制作3(時間) 事後/ 制作3(時間)	
第 9 回	UE4でビジュアル作成(3) 作成したレベルデザインを基に、アセットを使って目指す世界観を表現する 事前/ 制作3(時間) 事後/ 制作3(時間)	
第 10 回	アルファ版確認 進捗と方向性の確認 事前/ 制作3(時間) 事後/ 制作3(時間)	
第 11 回	UE4で表現の調整(1) ゲームエンジンならではの機能を使い、サウンドを含むよりハイクオリティな表現を目指す。 事前/ 制作3(時間) 事後/ 制作3(時間)	
第 12 回	UE4で表現の調整(2) ゲームエンジンならではの機能を使い、サウンドを含むよりハイクオリティな表現を目指す。 事前/ 制作3(時間) 事後/ 制作3(時間)	
第 13 回	ベータ版確認 進捗と方向性の確認。 事前/ 制作3(時間) 事後/ 制作3(時間)	
第 14 回	ゲームバランス調整 ゲームとしての面白さの調整を行う 事前/ 制作3(時間) 事後/ 制作3(時間)	
第 15 回	プレゼン・講評 レベルデザインから最終成果物までの工程、差異をプレゼン・講評	

【アクティブラーニング】

1回：E / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：E / 6回：C /
7回：E / 8回：E /
9回：E / 10回：C /
11回：E / 12回：E /
13回：C / 14回：E /
15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

・「ゲーム企画演習Ⅱ」

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・ Adobe Photoshop、Illustrator を使って画素材の作成が可能なこと。

・ Unity、java script、C#等 でコンテンツ作成が出来ること。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点(最大30点)：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

②ゲーム企画書(最大10点)：表現力・完成度を評価する。

③アルファ版(最大10点)：表現力・完成度を評価する。

④ベータ版(最大10点)：表現力・完成度を評価する

⑤最終課題(最大30点)：表現力・完成度を評価する。

⑥プレゼンテーション(最大10点)：課題の制作意図をしっかりと伝えられているかを評価する。

平常点が6割に満たない場合は課題の採点対象外とする。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・提出後の授業で全体にコメントします

【出席確認の方法】

授業開始時に点呼

【基本的な授業の進め方】

20分：該当回の授業の内容の説明

150分：実技

10分：クロージング解説

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：○

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

参考ウェブサイトを授業内で紹介

【参考文献】

参考ウェブサイトを授業内で紹介

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F 掲示板に掲示)

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

3DCGⅢ

GA564

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

宮下 善成、増田 宗嶺

【科目の概要および目的】

3DCGソフト”Houdini”はハリウッド映画には欠かせないVFXツールとなっている。このHoudiniを使用し、アニメーションの制作演習を行う。基礎的な操作方法から覚え、エフェクトなどプロシージャルなアニメーションを習得する。また、実写との合成を行うことにより、ライティングやカメラなどの設定方法を習得し作品制作を進めていく。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

・3DCGソフトHoudiniの基本概念を理解し、基本操作の習得ができる。

・3DCGと実写合成におけるライティング、カメラを理解する事により、リアルな映像作品が制作できるようになる。

・機能の組み合わせを工夫することにより、オリジナリティのある作品制作を行えるようになる。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

HoudiniとUnityの説明（関連性含め）(担当：宮下、増田)

事前（Houdiniというソフトについて調べる/3H）

第2回 操作してみる

形状の衝突や破壊のアニメーションを経験し、操作画面に慣れる。(担当：宮下)

事後（衝突アニメーションの復習/3H）

第3回 モデリングの体験

テーブルのモデリング。モデリングからレンダリングまで一連作業を体験する。(担当：宮下)

事後（テーブルモデリングの復習/3H）

第4回 アニメーションの体験

キーフレームアニメーションを習得し、絵コンテ通りにフライングロゴを作ってみる。(担当：宮下)

事後（キーフレームアニメーションの復習/3H）

第5回 出力から合成まで

UFOモデル制作とアニメーションを設定。画像編集とムービー化を行う。(担当：宮下)

事前（背景に使う空素材の選定/1.5H）事後（ムービーファイルの提出/1.5H）

第6回 ビルと車のモデリング

UFOアニメーション講評会。Houdiniによるモデリング習得する。(担当：宮下)

事後（モデリングの復習/3H）

第7回 地形や高速道路のモデリング

Houdiniによるモデリングやマッピングを習得する。(担当：宮下)

事後（モデリングの復習/3H）

第8回 パスアニメーションとレンダリング

パスアニメーションの制作とUnityで使うモデルを制作する。(担当：宮下)

事後パスアニメーションの制作/3H）

第9回 Unity用モデリング

UnityにHoudiniのモデルを持っていく為の素材作りを習得する。(担当：宮下)

第10回 HoudiniとUnityの連携Unityを用いたEffect作成1

基本的なエフェクトの作成（担当：増田）

事後（エフェクトの作成の復習/1.5H）

第11回 Unityを用いたEffect作成2

闇の柱エフェクトの作成（担当：増田）

事後（エフェクトの作成の復習/1.5H）

第12回 Unityを用いたEffect作成3

斬撃エフェクトの作成（担当：増田）

事後（エフェクトの作成の復習/1.5H）

第13回 最終課題

リアルタイムレンダリングを用いたアニメーションの作成（担当：宮下）

事後（講義外で課題作成/3H）

第14回 最終課題

リアルタイムレンダリングを用いたアニメーションの作成（担当：宮下）

事後（講義外で課題作成/3H）

第15回 講評

講評会（担当：宮下）

【アクティブラーニング】

1回：E / 2回：E /

3回：E / 4回：E /

5回：E / 6回：E /

7回：E / 8回：D /

9回：E / 10回：E /

11回：E / 12回：E /

13回：D / 14回：— /

15回：—

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

・Photoshop及びAfter Effectsの基礎知識。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点（30%）：授業マナーを守り、積極的に授業に参加しているか

②成果発表（10%）：自作発表の場でのプレゼンの姿勢・内容について評価する

③課題（60%）：課題意図が理解できているか・完成度はどうか・締め切りが守られているか

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・各課題ごとに、課題発表と講評を行う。

【出席確認の方法】

講義開始時に点呼

【基本的な授業の進め方】

出席確認

講義内容説明 10分、

作業説明 5分、制作 20分、進行確認 15分、作業説明 5分、

制作 20分、進行確認 15分

作業説明 5分、制作 20分、進行確認 15分、作業説明 5分、

制作 20分、進行確認 15分

まとめ、次回予告 10分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：—

5. コミュニケーション力：△

6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある

—：関連していない】

【教科書】

PDFファイルでテキストを用意しています。

【参考文献】

「Houdiniではじめる3Dビジュアルエフェクト」平井 豊和
(I・O BOOKS)¥2,484

「Unity ゲームエフェクト マスターガイド」秋山高廣 (技術評論社)4,620

【オフィスアワー】

宮下先生

時間：授業の前後

場所：授業実施教室（601）

増田先生

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

イラストレーションⅢ

旧 イラストレーションアートⅠ

IL557

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

北見 隆

【科目の概要および目的】

・概要：イラストレーションの技術のステップアップ、および自己の世界観の確認を行い、よりオリジナリティのある自己表現の確立を目指す授業である。手描き中心の作業となるが、課題によってはデジタル技術も必要とされる。又指導教員の使う様々な画材や技法も紹介され、よりプロフェッショナルの世界を知ることになる。対面型の授業を予定しているが、状況に応じて、オンラインを活用した授業形態にも対応していく。またイラストレーション分野で制作している作品集のデータ作りや、学外授業も予定されている。

・目的：学生生活も後半に入り、卒業制作に向けて現時点での自己の作風や、世界観の確立を目指す。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

探究心を持って課題に取り組むことにより、

・新たな技術を体得できる。

・未知の技法による自己表現力を確認できる。

・完成度の高い作品を作ることができる。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第 1 回 前提講義と課題説明

授業ガイダンスの後、課題説明。

課題「海外向けの映画ポスターを自己のイメージで制作」

B3サイズ、文字も手書きで入れる。作画の前にアイデアスケッチを複数提出。

事前学習（課題の為の資料確認/1h）

事後学習（アイデアスケッチ制作/2h）

第 2 回 ポスター課題アイデアスケッチ

講師によるアイデアスケッチのチェックの後、作画に入る。表現方法は自由。

事前学習（課題の為の資料確認/1h）

事後学習（課題制作および描画練習/2h）

第 3 回 ポスター課題作画作業①

作画作業。

事前学習（アイデア確認および課題制作/1h）

事後学習（課題制作および描画練習/2h）

第 4 回 ポスター課題作画作業②

作画作業。

事前学習（アイデア確認および課題制作/1h）

事後学習（未完成作品の加筆および描画練習/2h）

第 5 回 ポスター課題作品講評会

	<p>作画作業の後、学生による作品プレゼンテーションと講評会。次回課題説明。</p> <p>事前学習（自己作品の説明確認/1h）</p> <p>事後学習（未完成作品の加筆および次回課題確認/2h）</p>	
第6回	<p>前提講義と課題説明</p> <p>課題「分野作品集のための作品」</p> <p>前提講義の後コンセプト設定とアイデアスケッチ。</p> <p>事前学習（アイデア確認/1h）</p> <p>事後学習（課題制作および描画練習/2h）</p>	<p>〔アクティブラーニング〕</p> <p>1回：D / 2回：E /</p> <p>3回：E / 4回：E /</p> <p>5回：C / 6回：D /</p> <p>7回：E / 8回：E /</p> <p>9回：C / 10回：F /</p> <p>11回：D / 12回：E /</p> <p>13回：E / 14回：E /</p> <p>15回：C</p>
第7回	<p>作品アイデアスケッチと作画</p> <p>講師によるアイデアスケッチのチェックの後、作画作業。</p> <p>事前学習（課題の為の作画研究/1h）</p> <p>事後学習（課題制作および描画練習/2h）</p>	<p>〔事前に修得しておく必要のある科目〕</p> <p>「イラストレーション概論Ⅰ・Ⅱ」</p> <p>他に1～2年時におけるイラストレーション分野のカリキュラムをある程度履修していること。</p>
第8回	<p>作画作業</p> <p>作画作業。</p> <p>事前学習（課題の為の作画研究/1h）</p> <p>事後学習（課題制作および描画練習/2h）</p>	<p>〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕</p> <p>・モチーフとなる作品や作家を事前に調べておく事。また絵を描くだけでなく、製本作業も自分で研究して行う。紙や素材は、自己調達する。</p>
第9回	<p>分野作品集作品講評会</p> <p>作画作業の後、学生による作品プレゼンテーションと講評会。次回課題説明。</p> <p>事前学習（自己作品の説明確認/1h）</p> <p>事後学習（未完成作品の加筆および次回課題確認/2h）</p>	<p>〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕</p> <p>オンライン提出の場合は、デジタルカメラ（カメラ付き携帯電話可）また作品をPCで作画する学生は、任意の作画ソフト。</p>
第10回	<p>学外調査（予定）</p> <p>紙の専門店訪問。次回課題のために使用する紙の確認。または教室にて作画作業。</p> <p>事前学習（紙について研究/1h）</p> <p>事後学習（描画練習/2h）</p>	<p>〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕</p> <p>①作品評価（70%）：表現力・完成度を評価する。</p> <p>②平常点（30%）：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。</p>
第11回	<p>画文集の制作①アイデアスケッチ</p> <p>課題「定められた文章を元に画文集を制作する」</p> <p>講師によるアイデアスケッチのチェックの後、作画に入る。</p> <p>事前学習（課題の為の資料確認/1h）</p> <p>事後学習（課題制作および描画練習/2h）</p>	<p>〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕</p> <p>・3課題が出題され、課題ごとに全体講評会が行われる。・自己の作品に対するプレゼンテーション。</p> <p>・作品は採点が記入され、返却される。コメントが記入される場合もある。オンラインを活用して、指導、講評が行われる場合もある。</p>
第12回	<p>画文集の制作②作画</p> <p>画文集の制作。作画。</p> <p>事前学習（課題の為の作画研究/1h）</p> <p>事後学習（課題制作および描画練習/2h）</p>	<p>〔出席確認の方法〕</p> <p>チャットと音声による確認。</p>
第13回	<p>画文集の制作③作画</p> <p>画文集の制作。作画。</p> <p>事前学習（課題の為の作画研究/1h）</p> <p>事後学習（課題制作および描画練習/2h）</p>	<p>〔基本的な授業の進め方〕</p> <p>講師による講義（40分）、課題制作（130分）出席確認（10分）。作品講評のある日の場合は、講義（20分）、課題制作（60分）講評（60分）、次回課題説明（30分）、出席確認（10分）程度の配分を予定。</p>
第14回	<p>画文集の制作④製本</p> <p>画文集の制作。作画と製本。</p> <p>事前学習（作画方法研究/1h）</p> <p>事後学習（課題制作および描画練習/2h）</p>	<p>〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕</p> <p>1. 主体的行動力：○</p> <p>2. 表現力：◎</p> <p>3. 社会貢献力・コラボレーション力：—</p> <p>4. 課題発見力・課題解決力：○</p> <p>5. コミュニケーション力：△</p> <p>6. 専門的知識・技能の活用力：◎</p>
第15回	<p>画文集講評と授業総評</p> <p>画文集の制作作業の後、学生による作品プレゼンテーションと講評会。</p> <p>事前学習（自己作品の説明確認/1h）</p> <p>事後学習（描画練習/2h）</p>	<p>【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない】</p> <p>〔教科書〕</p> <p>なし</p> <p>〔参考文献〕</p> <p>なし</p> <p>〔オフィスアワー〕</p> <p>専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）</p>

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

絵本表現 I

IL561

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 前期

6 【対面型】

演習/2コマ

柴田 こずえ

【科目の概要および目的】

絵本の構造というハード面と、ジャンルやテーマというソフト面を、課題を通して知る。実際に絵本をかたちにしていきながら、絵本制作の基礎を身につける。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

絵本という媒体に、自身の表現したいものを落とし込むにはどうしたらよいかを身につける／長いスパンの中で、順序だてて作品を仕上げる能力を身につける／他者に伝えることの楽しみを知る

【授業形態】

6 【対面型】

【授業計画】

- 第 1 回 絵本の基礎 (1)
さまざまな絵本を紹介し、ジャンルや、基本的構造を知ってもらう
事後/興味ある作品のチェック (1時間)
- 第 2 回 絵本の基礎 (2)
課題を通して絵本構造の理解へと導く
事後/興味ある作品のチェック (1時間)
- 第 3 回 ミニ絵本の制作 (1)
視覚を軸にした絵本を制作してもらい、チェックとアドバイスを
事後/課題を仕上げる (2時間)
- 第 4 回 ミニ絵本の制作 (2)
視覚を軸にした絵本を制作してもらい、チェックとアドバイスを
事後/絵コンテを仕上げる (2時間)
- 第 5 回 絵本の基礎 (3)
課題を通して絵本の絵の理解へと導く
事後/ミニ絵本を仕上げる (3時間)
- 第 6 回 絵本の制作 (1)
絵本の設定とキャラクターについて解説する
事後/課題を仕上げる (2時間)
- 第 7 回 絵本の制作 (2)
キャラクターのチェックとアドバイス
事後/キャラクターを仕上げる (2時間)
- 第 8 回 絵本の制作 (3)

絵本のストーリーのチェックとアドバイス

事後/ストーリーを考える (3時間)

- 第 9 回 絵本の制作 (4)
絵コンテのチェックとアドバイス
事後/ストーリーの仕上げと絵コンテ作成(3時間)
- 第 10 回 絵本の制作 (5)
絵本ダミーのチェックとアドバイス
事後/絵本ダミーの (作成3時間)
- 第 11 回 絵本の制作 (6)
絵本ダミーのチェックとアドバイス
事後/絵本ダミーを進める (3時間)
- 第 12 回 絵本の制作 (7)
絵本ダミーのチェックとアドバイス
事後/絵本ダミーを仕上げる (3時間)
- 第 13 回 絵本の制作 (8)
絵本ダミー、表紙、扉案のチェックとアドバイス
事後/表紙と扉案を仕上げる (2時間)
- 第 14 回 絵本の制作 (9)
場面の本描きのチェック
事後/本描きを仕上げる (3時間)
- 第 15 回 講評会
完成した絵本ダミーと絵の講評
事前/課題を完成させておく

【アクティブラーニング】

- 1回：B / 2回：E /
3回：F / 4回：F /
5回：F / 6回：A /
7回：F / 8回：F /
9回：F / 10回：F /
11回：F / 12回：F /
13回：F / 14回：F /
15回：F

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

—

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

—

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

表現力/完成度/締切がまもれているか/積極的に授業に参加しているか

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

コメントをつけて返却または講評会にてコメント

【出席確認の方法】

出席票の提出

【基本的な授業の進め方】

時間割通りに実施します。

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：△
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

授業終了後30分 812研究室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った
箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った
箇所②】

なし

挿絵表現

IL578

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/1コマ

吉田 光彦

【科目の概要および目的】

小説やエッセイに用いられる挿絵は、物語の世界へ読者を誘う務めはあるが物語の種明かしはいけないという暗黙のルールが存在する。この授業では、そのような挿絵表現に求められる特徴を理解するとともに、教材として使用する複数の短編小説やエッセイの熟読を通じて、それぞれの物語のイメージを膨らませ、印刷効果に適した画材を使用し、挿絵原稿を描くことを目的とする。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・物語のイメージを膨らませて挿絵の場面構成を考えることができる。
- ・紙の白地とインクの黒地のバランスを考えて挿絵原稿を描くことができる。
- ・印刷効果に適した画材を使用して、挿絵原稿を描くことができる。

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

- 第 1 回 小説雑誌の挿絵
挿絵鑑賞と印刷効果について
事後：課題提出日に間に合うように制作を進めておくこと（3時間）
- 第 2 回 演習（1）
教材の短編小説（1）の挿絵制作
事後：課題提出日に間に合うように制作を進めておくこと（3時間）
- 第 3 回 演習（1）
教材の短編小説（1）の挿絵制作
事後：課題提出日に間に合うように制作を進めておくこと（3時間）

- 第 4 回 演習（2）
教材の短編小説（2）の挿絵制作
事後：課題提出日に間に合うように制作を進めておくこと（3時間）
- 第 5 回 演習（2）
教材の短編小説（2）の挿絵制作
事後：課題提出日に間に合うように制作を進めておくこと（3時間）
- 第 6 回 演習（3）
教材の短編小説（3）の挿絵制作
事後：課題提出日に間に合うように制作を進めておくこと（3時間）
- 第 7 回 演習（3）
教材の短編小説（3）の挿絵制作
事後：課題提出日に間に合うように制作を進めておくこと（3時間）
- 第 8 回 演習（3）
教材の短編小説（3）の挿絵制作
事後：課題提出日に間に合うように制作を進めておくこと（3時間）
- 第 9 回 新聞エッセイ
教材のエッセイ（1）の挿絵制作
事後：課題提出日に間に合うように制作を進めておくこと（3時間）
- 第 10 回 演習（4）
教材のエッセイ（1）の挿絵制作
事後：課題提出日に間に合うように制作を進めておくこと（3時間）
- 第 11 回 演習（4）
教材のエッセイ（1）の挿絵制作
事後：課題提出日に間に合うように制作を進めておくこと（3時間）
- 第 12 回 演習（5）
教材のエッセイ（2）の挿絵制作
事後：課題提出日に間に合うように制作を進めておくこと（3時間）
- 第 13 回 演習（5）
教材のエッセイ（2）の挿絵制作
事後：課題提出日に間に合うように制作を進めておくこと（3時間）
- 第 14 回 演習（5）
教材のエッセイ（2）の挿絵制作
事後：課題提出日に間に合うように制作を進めておくこと（3時間）
- 第 15 回 演習（5）・まとめ
教材のエッセイ（2）の挿絵制作
事後：課題提出日に間に合うように制作を進めておくこと（3時間）

【アクティブラーニング】

- 1回：F / 2回：F /
3回：F / 4回：F /
5回：F / 6回：F /
7回：F / 8回：F /
9回：F / 10回：F /

11回：F / 12回：F /

13回：F / 14回：F /

15回：F

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

各自画材用具・用紙を持参すること。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①提出課題（70%）：構図に対する考えや技法の修得レベルを含め、作品の完成度を総合的に評価する。

②平常点（30%）：授業態度を総合的に評価する。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

課題作品を返却するとき、アドバイスやコメントを添付する。

〔出席確認の方法〕

各自、出席簿に記入

〔基本的な授業の進め方〕

前半は教材の短編小説を熟読。後半はイメージを具体化。資料を参考に作画。

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：△
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

プリントを配布

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

時間：出講日授業前後（30分）

場所：イラストレーション研究室（812）または授業実施教室

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

編集デザイン表現Ⅱ

旧 エディトリアルデザインⅠ

IL/MD556

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 前期

6【対面型】

演習/2コマ

松吉 太郎、瀬戸 早苗

〔科目の概要および目的〕

自分の興味のあるものをテーマにした雑誌を、デザイン制作ソフトウェアを使い実際にデザインする。編集デザインに関する基本的な考え方や必要な知識と、データ作成に関する基本的な知識を身につけ、ソフトウェアの使い方の習得を目指す。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・編集デザインに関する基本的な知識と、本や雑誌の組み立てや構成を理解できる
- ・InDesignを使用して、編集デザインができる
- ・デザイン制作ソフトウェアを使用して、印刷のための正しい入稿データを作成できる

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、編集デザイン、InDesign
全体の流れの説明。編集デザインの基本を学習する。
InDesignの概念と使い方を解説する。
事後：復習（1.5h）
- 第 2 回 課題Ⅰ 雑誌のコンセプト（1）
雑誌のコンセプトと企画を考える。
InDesignの使い方（データの作り方1）
事前：材料収集（3h）
事後：InDesignの使い方の復習（1.5h）
- 第 3 回 課題Ⅰ 雑誌のコンセプト（2）
集めた材料をもとにラフスケッチを作成。
InDesignの使い方（データの作り方2）
事前：材料収集（3h）
事後：InDesignの使い方の復習（1.5h）
- 第 4 回 ページデザインについて
雑誌のページを構成する要素について学習する。
InDesignの使い方（データの作り方3）
事後：InDesignの使い方の復習（1.5h）
- 第 5 回 課題Ⅱ 雑誌のコンテンツ（1）
雑誌内容、構成を考え取材、素材集めをする
InDesignの使い方（データの作り方4）
事前：材料収集（3h）
事後：InDesignの使い方の復習（1.5h）
- 第 6 回 画像について
印刷データ用の画像について学習する
InDesignの使い方（印刷に適した素材の作り方）
事後：InDesignの使い方の復習（1.5h）
- 第 7 回 課題Ⅱ 雑誌のコンテンツ（2）

- 雑誌内容、構成を考え取材、素材集めをする
InDesignの使い方（素材の配置のしかた）
事前：材料収集（3h）
事後：InDesignの使い方の復習（1.5h）
- 第8回 中間発表
進行状況の報告・相談
InDesignの使い方（文字の設定のしかた）
事後：InDesignの使い方の復習（3h）
- 第9回 文字について
フォントと文字組の基本的なことを学習する。
InDesignの使い方（文字の組み方）
事後：InDesignの使い方の復習（3h）
- 第10回 課題Ⅲ雑誌のデザイン（1）
特集ごとに編集内容からデザインを決めていく
実際にInDesignを使いながら指導
事後：InDesignの使い方の復習（3h）
- 第11回 課題Ⅲ雑誌のデザイン（2）
特集ごとに編集内容からデザインを決めていく
実際にInDesignを使いながら指導する
事後：InDesignの使い方の復習（3h）
- 第12回 課題Ⅲ雑誌のデザイン（3）
表紙のデザインなども進める
実際にInDesignを使いながら指導する
事後：InDesignの使い方の復習（3h）
- 第13回 課題Ⅲ雑誌のデザイン（4）
全体の構成を確認しながら変更修正を検討する
実際にInDesignを使いながら指導する
事後：InDesignの使い方の復習（3h）
- 第14回 課題Ⅲ雑誌のデザイン（5）
表紙から全ページトータルで編集・デザインを検証する
実際にInDesignを使いながら指導する
事後：InDesignの使い方の復習（3h）
- 第15回 全体講評
制作した雑誌のプレゼンテーションと講評
事前：発表準備（4.5h）

〔アクティブラーニング〕

- 1回：— / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：E / 6回：E /
7回：E / 8回：C /
9回：E / 10回：E /
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

- ・「コンピュータデザイン演習」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・毎授業内で個別に制作過程を確認、アドバイスしながら修得度をチェック。

- ・各課題ごとに、全体での課題発表と講評を行う。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点（20%）：授業に積極的に取り組む態度を評価する
- ②課題（50%）：表現力・完成度を評価する
- ③課題発表（30%）：課題の制作意図をしっかりと発表できるか

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・毎授業内で個別に制作過程を確認、アドバイスしながら修得度をチェック。

- ・各課題ごとに、全体での課題発表と講評を行う。

〔出席確認の方法〕

講義の最初に出欠を取る。

〔基本的な授業の進め方〕

- 授業全体説明15分
- テーマ別レクチャー20分
- 課題の提出や進捗の報告55分
- 個別指導もしくは発表70分
- まとめと次回の講義説明20分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

『DTP基礎』波多江潤子著 エムディーエヌコーポレーション
2500円＋税

〔オフィスアワー〕

時間：出講日の授業終了後30分

場所：授業実施教室

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

デザインサーベイ

MD570

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 前期

6 【対面型】

演習/2コマ

中村 泰之

〔科目の概要および目的〕

ユーザーのニーズを満たすデザインを行うためには、調査、評価等の統計データを適切に分析しデザインプロセスに取

り入れなければならない。この演習ではデータ分析に基づいたビジュアルデザインを演習形式で学んだ上で、外部から提供された統計データをベースに課題解決に向けたデザイン企画を行う。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・課題解決に向けて適切な調査を行うことができる
- ・統計データを分析しビジュアルデザインを行うことができる
- ・客観的な視点からデザイン企画を行うことができる

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
1. デザインサーベイの内容、進め方を概説する
2. 課題1説明
事後/復習(2時間)
- 第 2 回 調査のポイント1
1. リサーチの概説
2. リサーチ
事後/リサーチ(2時間)
- 第 3 回 調査のポイント2
1. リサーチ結果の分析
2. デザイン企画
事後/デザイン企画(2時間)
- 第 4 回 調査のポイント3
1. デザイン企画
2. プレゼンテーション準備
事後/資料作成(2時間)
- 第 5 回 調査のポイント4
1. 課題1プレゼンテーション
2. 評価
事前/資料作成(2時間)
- 第 6 回 データ分析1
1. データ分析の概説
2. 課題2説明
事後/リサーチ(2時間)
- 第 7 回 データ分析2
1. データ分析
2. デザイン企画
事後/デザイン企画(2時間)
- 第 8 回 データ分析3
1. デザイン企画
2. プレゼンテーション準備
事後/資料作成(2時間)
- 第 9 回 データ分析4
1. プレゼンテーション
2. 評価
事前/資料作成(2時間)
- 第 10 回 課題解決1
1. 課題2説明
2. リサーチ
事後/リサーチ(2時間)
- 第 11 回 課題解決2

リサーチ

事後/リサーチ(2時間)

第 12 回 課題解決3

データ分析

事後/データ分析(2時間)

第 13 回 課題解決4

デザイン企画

事後/デザイン企画(2時間)

第 14 回 課題解決5

1. デザイン企画

2. プレゼンテーション準備

事後/資料作成(2時間)

第 15 回 課題解決6

1. プレゼンテーション

2. 評価

事前/資料作成(2時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：A,E /

3回：A,E / 4回：A,E /

5回：A,C / 6回：A,E /

7回：A,E / 8回：A,E /

9回：A,C / 10回：A,E /

11回：A,E / 12回：A,E /

13回：A,E / 14回：A,E /

15回：A,C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

・「デザイン基礎演習」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

デザイン企画・制作に必要なPC操作スキル（Photoshop/Illustrator）を習得していること

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①授業毎のリアクションシート（30%）：毎回授業の到達度、理解度を評価する

②課題制作（50%）：課題制作の到達度、完成度を評価する

③プレゼンテーション（20%）：スライド、プレゼンテーション内容を評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

個別指導時、プレゼンテーション後に行う

〔出席確認の方法〕

リアクションシートによる

〔基本的な授業の進め方〕

前回のフィードバック 10分

調査・制作・資料作成（個別指導含む） 160分

リアクションシート記入 10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：○

4. 課題発見力・課題解決力：◎

5. コミュニケーション力：△

6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

なし

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

科目の概要および目的、到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）、授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

課題やレポート等に対するフィードバックの方法、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応

CM表現研究

MD561

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

真島 ヒロシ

【科目の概要および目的】

授業概要：広告主からのオリエンテーションをうけてからの企画立案、プレゼンテーション、そして実制作のための準備など一連の作業行程を体験しながら学習する。

科目の目的：様々な映像メディアの中でも他のメディアとは違った特殊なシステムの中で求められるCM（広告）表現の手法をシミュレーションを通して学んでいく。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

・CMやグラフィック広告などの作品を研究し、より効果的な広告表現手法を身につける。

・実際にCM企画～プレゼンを行いグループ単位で競う事で、独自性のある企画力を養う。

・共同研究作業を通して、コミュニケーション能力を培う。

【授業形態】

5 【同時双方向型】

【授業計画】

第 1 回 オリエンテーション／様々な広告表現について
本科目での履修内容と目的を説明。様々な映像メディアの中での広告表現の特異性を例示する。
事後/メディア特性と広告表現手法の復習(時間)3.0H

第 2 回 広告表現技法
広告の企画における重要ポイントの解説
事後/効果的な企画手法の復習(時間)3.0H

第 3 回 様々な表現手法

優れた企画を研究し、そのポイントを解明する
事後/効果的な企画手法の復習（時間）3.0H

第 4 回 特殊な企画
より進んだ「他社より目立つための表現手法」の研究

事前/効果的な企画方法の復習(時間)1.5H
事後/目立つ広告表現の復習(時間)1.5H

第 5 回 コピーの重要性
あらゆる企画作業の礎となるコピーライティングの重要性を理解し、実際にコピーを書いてみる。
事後/コピーから企画に結びつける発想手法の復習(時間)3.0H

第 6 回 ネーミングの研究
商品などの「ネーミング」の手法の解説
事後/ネーミング手法の復習(時間)3.0H

第 7 回 企画とコピー
前週までに課題として書いたコピーの発表。今まで学んだ知識を活かしたCM企画のシミュレーション。
事後/企画コンテの完成(時間)3.0H

第 8 回 プレゼンテーション
実際に企画した内容をプレゼンテーション形式で発表する
事後/グループ分けし次回以降の広告プロジェクトに取り組む(時間)3.0H

第 9 回 プロジェクト実習-1
商品の広告プロジェクトを組み、ネーミングやCM企画、パッケージデザインなどを行う
事前/商品特性の研究(時間)1.5H
事後/プレゼン準備(時間)1.5H

第 10 回 プロジェクト実習-2
商品の広告プロジェクトを組み、ネーミングやCM企画、パッケージデザインなどを行う
事前/商品特性の研究(時間)1.5H
事後/プレゼン準備(時間)1.5H

第 11 回 プロジェクト実習-3
商品の広告プロジェクトを組み、ネーミングやCM企画、パッケージデザインなどを行う
事前/商品特性の研究(時間)1.5H
事後/プレゼン準備(時間)1.5H

第 12 回 ビデオコンテ制作-1
前週までにまとめたCM企画を、ビデオコンテ形式で制作する
事後/ビデオコンテ編集(時間)3.0H

第 13 回 ビデオコンテ制作-2
前週までにまとめたCM企画を、ビデオコンテ形式で制作する
事後/ビデオコンテ編集(時間)3.0H

第 14 回 ビデオコンテ制作-3
前週までにまとめたCM企画を、ビデオコンテ形式で制作する
事後/ビデオコンテ編集(時間)3.0H

第 15 回 企画発表（プレゼン）

各グループごとに、企画のプレゼンテーション～
講評
事前/完成していない場合はビデオコンテ編集(時
間)3.0H

〔アクティブラーニング〕

1回：A / 2回：A /
3回：A / 4回：A /
5回：A / 6回：A /
7回：A / 8回：C /
9回：A / 10回：A /
11回：A / 12回：A /
13回：A / 14回：A /
15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・ 広告表現の基礎から講義するので、特になし。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

・ 以下のソフトウェアが問題なく動作するPC・Microsoft
PowerPoint Adobe PhotoShop/Illustrator

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点 (30%)：授業態度・共同研究での企画作業への積
極性を評価する

②レポート (20%)：学んだ広告表現手法への理解度を評価
する

③課題企画 (50%)：完成した企画とプレゼンテーション能
力を総合的に採点し、その中での個人の貢献度に応じて評
価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・ 制作チームごとに個別に指導する

〔出席確認の方法〕

指定のタイミングでコメントを投稿させる

〔基本的な授業の進め方〕

・ 授業説明：10分・その日の講義or実践ワーク&個別の質疑
応答：80分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：△
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

必要に応じて適宜プリント配布

〔オフィスアワー〕

時間：金曜日の授業前後

場所：授業実施教室

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った 箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った 箇所②〕

なし

インフォメーションデザイン

MD/IL571

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 前期

6 【対面型】

演習/2コマ

川野 智美

〔科目の概要および目的〕

デザイナーとして必要となる分析力、情報処理力、それを
きちんと視覚的に伝えるデザイン編集力を、課題を通して
理解を深めていく。自らが課題のテーマを決め、それに合
わせたデザイン表現、プレゼンテーションを行い、自分の
考えや表現を他者に伝える能力も合わせて身につける。そ
の際、聞く側も他者のデザインを見て感じたことを述べ、
ディスカッションをし、表現のインプットを行う。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・ 情報をわかりやすく正確に伝えるにはどういう事が必要
なのかを自ら考え、それを表現することができる。
- ・ 自分の考え、制作意図をきちんと説明することができる。
- ・ 他者のデザインを客観的に分析し意見を述べることがで
きる。
- ・ 身の回りのデザイン、クリエイティブに対して興味・関
心を持つ習慣をリサーチを通して身につける。

〔授業形態〕

6 【対面型】

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

これからの授業の流れ、身に付くスキルを説明す
る。

事後/身の回りにあるデザインを見る(2時間)

第 2 回 情報デザインとは

情報デザインの歴史、社会における情報デザイン
の役割を説明する。

事後/情報デザインに関してのレポートを作成
(2時間)

第 3 回 情報とモラル

情報社会において、正しいモラルを身に付けるた
めに情報社会のルールについて説明する。

事後/情報モラルに関してのレポートを作成
(2時間)

第 4 回 インフォグラフィック

課題では自分のインフォグラフィックを作成して
もらうため、インフォグラフィックの歴史や役割
について説明する。

事後/様々なインフォグラフィックをリサーチ
(2時間)

第 5 回 調査_1)

	課題に向けて情報の収集、様々な調査方法について説明する。 事後/調査を行う(2時間)	
第 6 回	調査_(2) 自分が決めたテーマに対して調査を行う。集めた情報を整理し、必要な情報をまとめていく。 事後/来週にむけて報告書を完成させる(2時間)	[アクティブラーニング] 1回：— / 2回：E / 3回：E / 4回：E / 5回：E / 6回：E / 7回：C / 8回：A,E / 9回：E / 10回：E / 11回：E / 12回：E / 13回：E / 14回：E / 15回：A,C
第 7 回	調査報告 テーマに対しての調査報告書を作成し、報告を行う。 事後/他の人の報告を聞いて見直す時間をつくる(2時間)	[事前に修得しておく必要のある科目] ・「デザイン基礎演習」 ・「グラフィックデザイン演習 I」
第 8 回	調査報告フィードバック 報告してもらったものに対して個別でアドバイスをを行う。それを受けてさらに調査行う又は制作に進める。 事後/フィードバック内容から再度調査を行う(2時間)	[履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など] ・課題に取り組むにあたり、媒体に合わせたソフトの操作ができるスキルが必要となる (Illustrator、Photoshop、After Effectsなど)
第 9 回	課題1_自己分析 課題のための自己分析を行う。用意されたワークシートを記入しながら自分を見つめ直す。 事後/ワークシートの記入をし、まとめておく(2時間)	[オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件] —
第 10 回	課題1_デザイン制作(1) 「自分をインフォグラフィック化」。見てすぐに自分のことが理解してもらえるようなインフォグラフィックを課題で制作していく。 事後/課題デザイン制作(2時間)	[成績評価方法・評価割合・評価基準] 平常点(30%):積極的に授業に参加をしているか、また、課題の取り組み姿勢を評価する 課題 (50%):情報処理力、発想力、表現力、完成度を評価する 課題発表(20%): 課題の制作意図をしっかりと発表できるか評価する
第 11 回	課題1_デザイン制作(2) 整理した情報からどれを視覚化するか精査し、どんな見せ方をすると自分らしさができるかを意識しながら全体のデザイン構成を考える。 事後/課題デザイン制作(2時間)	[課題やレポート等に対するフィードバックの方法] 課題に対して発表を行い、その場で講評をする。
第 12 回	課題2_デザイン制作(1) 自分で特集したいテーマを考え、情報をグラフィック化する。表現方法(媒体)も自分で選定し制作していく。 事後/課題デザイン制作(2時間)	[出席確認の方法] 授業開始後、名前を呼んで出席確認を行う。
第 13 回	課題2_デザイン制作(2) 調査内容から導き出した内容を整理し、自分が決めた媒体(紙面、映像、webなど)に合わせた全体の構成を考え、構成案を作成。 事後/課題デザイン制作(2時間)	[基本的な授業の進め方] 授業説明、出席(前回振り返り): 10分 / 講義or演習: 70分 / 質疑応答: 10分 -----10分休憩----- 講義or演習: 70分 質疑応答: 10分 連絡事項: 10分 (演習の際は個別で相談、アドバイスをを行う)
第 14 回	課題2_デザイン制作(3) 13週と同様デザインの製作を行う。 事後/課題デザイン制作(2時間)	[ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応] 1. 主体的行動力: ◎ 2. 表現力: ◎ 3. 社会貢献力・コラボレーション力: — 4. 課題発見力・課題解決力: ○ 5. コミュニケーション力: ○ 6. 専門的知識・技能の活用力: ◎
第 15 回	プレゼンテーション/まとめ プレゼンテーションを行い、ディスカッション、講評を行う。 これまでの授業の総括 事後/プレゼン後の意見を取り入れ、修正が必要であれば変更などを加えて完成させる(2時間)	【◎: 特に関連が強い ○: 関連が強い △: 関連がある —: 関連していない】 [教科書] なし [参考文献] なし [オフィスアワー] 時間: 出講日〔土曜日〕1・2限の講義前後 場所: 授業実施教室 【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】 なし

【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

就職活動とキャリアデザイン

MM516

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 前期

5 【同時双方向型】

講義/1コマ

佐藤 宏樹

【科目の概要および目的】

キャリアデザインとは主体的に自らの人生をデザインしていくことです。

本授業では、自分自身の大学生活を振り返り、大学での学び（経験・スキル・知識）が将来の職業にどう結びつくのかを考えます。

自己理解、職業理解を深め、自らの卒業後の進路を具体的に考え、実際の就職活動での目標設定と行動計画を立てます。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・就職活動の流れを理解し、社会に出るまでの行動計画書を作成することができる。
- ・様々なワークシートの作成を通して、自分自身の強みを言語化し、自己PRを作成することができる。
- ・自分自身の大学での学び（経験・スキル・知識）をどのように将来の仕事に生かすか考えることができる。
- ・プレゼンテーションを通して、高いコミュニケーション能力を身につけることができる。

【授業形態】

5 【同時双方向型】

【授業計画】

- 第 1 回 ガイダンスとイントロダクション
就職活動における [受け取る人] から [創る人] への視点の変換を解説する。社会に出るまでのスケジュールを解説し、仕事についてリサーチ・ワークを行う。
事前/シラバスを熟読してくる (1h)
事後/授業内容を復習する (2h)
- 第 2 回 雇用形態の違いを理解する
仕事と報酬、対価とはなにかを解説し、社員、フリーランス、契約社員など雇用形態別の働き方・税金・保険などの違いを説明する。
事前/就職活動のスケジュールを調べてくる (2h)
事後/授業内容を復習する (2h)
- 第 3 回 自分を知る①
仕事を解剖し、「求められる力」を理解していく。「できること」の言語化を進める。
事前/強みのエピソードを書きしておく (2h)
事後/振り返りシートの記入 (2h)
- 第 4 回 自分を知る②

説得力のある自己PRのポイントを学ぶ。「体験の言語化」を行い、根拠のある内容にしていく。
事前/就活手帳の10-11Pを熟読してくる (1h)
事後/振り返りシートからエピソードを選び、具体的に書く (2h)

- 第 5 回 自分を知る③
短所を長所に変換してみる。「体験の言語化」から自分を表す力をまとめていく。
事前/前回の授業内容を復習する (1h)
事後/授業内容を復習する (2h)
- 第 6 回 自分を知る④
大学指定の履歴書を学び、「学生生活を通じて得た力」「長所・自己PR」の文章化を仕上げていく
事前/就活手帳の12P~15Pを熟読してくる (2h)
事後/履歴書の欄の書き分けを決める (2h)
- 第 7 回 仕事を知る①
1) はたらく条件のこだわりと自身の価値基準を知る。
2) 求人票の見方/求人票に記載されている内容を理解する。
3) 提供する側の視点を理解する。
事前/中学と高校の正式名を調べてくる (1h)
事後/授業内容の復習と実践 (2h)
- 第 8 回 仕事を知る②
提供する側の視点にたち、希望する仕事への志望動機を考えてみる。
事前/求人サイトを見てくる (1h)
事後/ワークシートを仕上げてくる (2h)
- 第 9 回 仕事を知る③
1) 大学履歴書を仕上げていく
2) エントリーシートを理解する
3) 就活の選考プロセス（企業とのやりとり）メールの作法を学ぶ
事前/志望職種について調べてくる (3h)
事後/自己PRWS、履歴書自己PR欄を完成 (3h)
- 第 10 回 就職活動の流れを学ぶ①
面接映像（ムビケーション）から自己PRと志望動機を検証する
事前/志望動機欄以外を記入してくる (3h)
事後/Will・Can・Mustワークシートを完成 (2h)
- 第 11 回 就職活動の流れを学ぶ②
筆記試験対策—SPIを理解し、解いてみる。
事前/就活手帳18P-21Pを読んでくる (2h)
事後/授業内容の復習と実践 (2h)
- 第 12 回 就職活動の流れを学ぶ③
面接の種類とマナーを学ぶ。Web選考、オンライン面接のポイントを学ぶ。
事前/言語問題、非言語問題を1問以上問う (3h)
事後/SPI対策の勉強をする (3h以上)
- 第 13 回 就職活動の流れを学ぶ④
自己PRを声に出して伝える。オンライン・グループ面接を行う。
事前/就活手帳90P-95Pを読んでくる (1h)
事後/授業内容の復習と実践 (3h)

第 14 回 就職活動の流れを学ぶ⑤
自己PRを声に出して伝える。オンライン・グループ面接を行う。

事前/履歴書の自己PRを読んでもくる (1h)

事後/行動計画書を記入してくる (2h)

第 15 回 活動計画とリフレクション

今後の自分自身の行動計画を立てる。授業の振り返りと総括を行う。

事前/行動計画書を完成させてくる (3h)

事後/自らの実践に活かす (2h)

【アクティブラーニング】

1回：E / 2回：E /

3回：E / 4回：E /

5回：E / 6回：E /

7回：E / 8回：E /

9回：E / 10回：D /

11回：E / 12回：E /

13回：C / 14回：C /

15回：E

【事前に修得しておく必要のある科目】

なし

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・3年生は可能な限り履修することが望ましい。
- ・日本での就職を希望する留学生は日本語能力 (N1) を取得していることが望ましい。授業時間内で文章を書く時間、発表をする時間があります。
- ・本授業では、毎回のようにワークシート作成、ディスカッション、プレゼンテーションがあり、それらに積極的に取り組む必要があります。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

- ・Microsoft Officeが使用できること
- ・マイク、カメラが使用可能であること

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①平常点 (30点)：授業態度や発言内容、ワークシートやグループワークに積極的に取り組んでいるかを評価する。

②課題 (40点)：履歴書と行動計画書の記入内容について授業で学んだことを生かし具体的に記入されているかを評価する。

③最終プレゼン (30点)：プレゼンテーションの方法と内容について評価する。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・各WSは授業内でアドバイスと共に返却します。
- ・履歴書と行動計画書は授業後に返却します (後日返却日を指示)。

【出席確認の方法】

指定のタイミングでコメント投稿や提出物などで確認

【基本的な授業の進め方】

- ・授業内容説明、ウォーミングアップ (15分)
- ・レクチャー (30分)
- ・個人やグループでのワーク (30分)
- ・まとめ、次週への連絡事項等 (15分)

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：○

4. 課題発見力・課題解決力：○

5. コミュニケーション力：◎

6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

宝塚大学「就活手帳」

【オフィスアワー】

時間：授業前後 (30分)

場所：授業実施教室 (オンラインの際はビデオ会議の延長上で対応)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習、アクティブラーニング

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

キャラクター造形演習

旧 ファンシーキャラクター創作

MA553

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

和田 歩美

【科目の概要および目的】

巨大産業である日本のキャラクタービジネス。魅力的なキャラクターとはどのようなもので、どのような工程を経てつくられていくのか。ストーリー漫画キャラクターと、商業キャラクターの両面から、課題を通しオリジナルキャラクターを自在に作る実力と、企画力、プレゼンテクニックを身につける。

既存キャラクターや、企業の広報戦略の分析、発想法や造形法のメソッドの学習を行い、各演習ごとにキャラクターを制作、プレゼンする。最終課題は集大成として、12種のキャラクター関連作品を制作する。(チーム可)

【到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)】

- ・求められているものは何なのかを把握することができる
- ・発想し、形にすることができる
- ・Illustratorでキャラクターを描画できる
- ・効果的なプレゼンができる

【授業形態】

6【対面型】

【授業計画】

第 1 回 ガイダンス

	ガイダンス：授業内容と最終課題の説明 課題1：オリジナルキャラクターの制作（鉛筆） 事前/ キャラクターを作るとは何かを思索する（1時間）	事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間) 事後/ 授業課題のブラッシュアップ(1時間)	
第2回	キャラクター造形とは キャラクターとは何か。概論の講義 課題2：既存のキャラクター作品を分析：PowerPointにまとめる 事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間) 事後/ 授業課題のブラッシュアップ(1時間)		第11回
第3回	キャラクター発想法：1 抽象イメージとは何か。発想法の講義—マインドマップ 課題3：抽象イメージから発想し、キャラクターを制作する 事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間) 事後/ 授業課題のブラッシュアップ(1時間)		最終課題の最終企画発表 課題5：商品からキャラクターを創作する3 事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間) 事後/ 授業課題のブラッシュアップ(1時間)
第4回	キャラクター発想法：2（1） 具象イメージとは何か。発想法の講義—造形模写 課題4：具象イメージから発想し、キャラクターを制作する（ラフ） 事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間) 事後/ 授業課題のブラッシュアップ(1時間)		第12回
第5回	キャラクター発想法：2（2） 具象イメージとは何か。発想法の講義—合成と拡張 課題4：具象イメージから発想し、キャラクターを制作する（仕上げ） 事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間) 事後/ 授業課題のブラッシュアップ(1時間)		最終課題制作（1） 12種のキャラクター関連作品の制作 事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間) 事後/ 授業課題のブラッシュアップ(1時間)
第6回	キャラクター発想法：3 色とは何か。意味と効果 課題4：色のイメージから発想し、キャラクターを制作する 事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間) 事後/ 授業課題のブラッシュアップ(1時間)		第13回
第7回	キャラクター発想法：4 数とヴァリエーションとは何か。意味と効果 課題4：1、2、3、の復習と展開の作品を制作 事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間) 事後/ 授業課題のブラッシュアップ(1時間)		最終課題制作（2） 12種のキャラクター関連作品の制作 事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間) 事後/ 授業課題のブラッシュアップ(1時間)
第8回	中間発表 課題4の発表及び講評 最終課題の計画発表 事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間) 事後/ 授業課題のブラッシュアップ(1時間)		第14回
第9回	キャラクター造形：1 広報用キャラクター企画の概論 課題5：商品からキャラクターを創作する1 事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間) 事後/ 授業課題のブラッシュアップ(1時間)		最終課題制作（3） 12種のキャラクター関連作品の制作 事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間) 事後/ 授業課題のブラッシュアップ(1時間)
第10回	キャラクター造形：2 キャラクタービジネスの概論。 課題5：商品からキャラクターを創作する2		第15回
			講評会 最終課題のプレゼンテーション、講評 事前/授業課題のブラッシュアップ(1時間)
			【アクティブラーニング】
			1回：F / 2回：F / 3回：F / 4回：F / 5回：F / 6回：F / 7回：F / 8回：F / 9回：F / 10回：F / 11回：F / 12回：F / 13回：F / 14回：F / 15回：F
			【事前に修得しておく必要のある科目】 なし
			【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】 ・Illustrator：Photoshop：PowerPointの基礎操作技術があること ・演習課題を完成させる意欲があること
			【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】 —
			【成績評価方法・評価割合・評価基準】
			①平常点（20%）：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む姿勢を評価する
			②課題（50%）：授業の内容を反映しているか、作品性オリジナリティがあるか、期限、技術レベルの総合評価（1課題につき10%）
			③最終課題（30%）：授業の内容を反映しているか、作品性オリジナリティがあるか、技術レベル、プレゼン表現力の総合評価
			※各課題の未完成作品は評価の対象にしない
			【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】 ・各課題は、全体での課題発表と講評を行う
			【出席確認の方法】 ・点呼確認 ・提出課題発表

〔基本的な授業の進め方〕

- ・導入・授業のガイダンス
- ・キャラクターについての講義 20分
- ・演習 課題制作 提出課題発表+講評 70分+80分
- ・今日のまとめと課題説明 10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

マンガ制作実習Ⅱ

旧 オリジナル漫画制作Ⅱ

MA555

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

市野 治美、青田 めい、和田 歩美

〔科目の概要および目的〕

コマ漫画のみならず現在マンガを使用したコンテンツは幅広く存在する。劇画、四コマ、電子配信マンガ、ゲーム設定、アニメ設定、ライトノベル設定映像配信設定など広義な意味でのマンガ制作の企画制作演習、検証研究を行う。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・広義な意味でのマンガコンテンツの理解習得
- ・卒業研究に向けての実力把握、準備ができる
- ・作品を完成させるスキルと、体力の習得

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

本科目の概要の説明と各人の計画づくり

第 2 回 企画制作1

研究コンテンツ、ジャンル、テーマなどを決定する
事前/企画の準備(3時間)

第 3 回 企画制作2

研究企画の内容、ボリューム、スケジュールなどを決定する

事前/企画の制作(3時間)

第 4 回 研究発表1

企画内容についてのプレゼン行い、講評を受ける
事前/プレゼン準備—パワポ制作など (3時間)

第 5 回 作品制作1

各自、研究制作を進める

事前/原稿制作 (3時間)

第 6 回 作品制作2

各自、研究制作を進める

事前/原稿制作 (3時間)

第 7 回 作品制作3

各自、研究制作を進める

事前/原稿制作 (3時間)

第 8 回 研究発表2

制作の進捗発表、内容のキービジュアルの提出を行う

事前/プレゼン準備 (3時間)

第 9 回 作品制作4

各自、研究制作を進める

事前/原稿制作 (3時間)

第 10 回 作品制作5

各自、研究制作を進める

事前/原稿制作 (3時間)

第 11 回 作品制作6

各自、研究制作を進める

事前/原稿制作 (3時間)

第 12 回 研究発表3

各自進捗、展開方法の説明などの発表を行う

事前/発表準備(3時間)

第 13 回 作品制作7

作品のブラッシュアップ、最終発表、展開の準備を行う

事前/原稿制作 (3時間)

第 14 回 最終研究発表1

最終発表を行い、指導教員の評価を受ける

事前/完成作品準備(3時間)

第 15 回 最終研究発表2

最終発表を行い、指導教員の評価を受ける

事前/完成作品準備(3時間)

〔アクティブラーニング〕

1回：A / 2回：D /

3回：D / 4回：B /

5回：D / 6回：D /

7回：D / 8回：B /

9回：D / 10回：D /

11回：D / 12回：B /

13回：D / 14回：B /

15回：B

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕
マンガのコンテンツに対し、柔軟な見解を持っていること
〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕
—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①研究制作 (60%) : 企画力・表現力・独自性・完成度の評価
②発表 (20%) : 各回の発表・キービジュアル
③授業時の積極性・マナーなどの評価平常点 (20%)

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

発表後の講評だけでなく、毎時の質問に対する解答、指導を行う

〔出席確認の方法〕

氏名読み上げ

〔基本的な授業の進め方〕

冒頭20分ほど講義、ワークと巡回指導、終了際10分ほどまとめと次回への確認

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力 : ○
2. 表現力 : ◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力 : —
4. 課題発見力・課題解決力 : ○
5. コミュニケーション力 : △
6. 専門的知識・技能の活用力 : ◎

【◎ : 特に関連が強い ○ : 関連が強い △ : 関連がある
— : 関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照 (7F掲示板に掲示)

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

科目の概要および目的、到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル)、授業計画 : テーマ・内容、授業計画 : 事前・事後学習、アクティブラーニング、成績評価方法・評価割合・評価基準

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、課題やレポート等に対するフィードバックの方法、出席確認の方法、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応、教科書、参考文献、オフィスアワー

アニメ制作Ⅳ
旧 動画技術Ⅱ (アニメ制作)

AN559

東京新宿キャンパス
東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)
3年生 4年生
2単位 後期
6 【対面型】
演習/2コマ

古瀬 登、川上 遥

〔科目の概要および目的〕

後期は、前期 (アニメ制作Ⅲ) で作成した絵コンテを基に作業を進め、作品を完成させる。

後期後半そのコンテに基づいてアニメーション制作を行う。台詞ではなくモニタージュでもなく、アニメで他人を笑わせることができれば、結果としてそれはたいへんな技術力でありアニメの総合力なのだ。そうした能力を磨くための指導を行う。

〔到達目標 (授業を通じて身につく能力・スキル) 〕

- ・絵コンテを基にアニメーションを制作できる
- ・臨機応変にスケジュールを管理することができる
- ・グループ制作において柔軟なコミュニケーションを取ることができる

〔授業形態〕

6 【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 スケジュールの見直し
現状の成果を報告し、
後半のスケジュールを立て直す
事後/課題の制作(3h)
- 第 2 回 レイアウト
レイアウト作業
事後/課題の制作(3h)
- 第 3 回 原画(1)
レイアウトを元に大まかな動きのラフを作成する。
事後/課題の制作(3h)
- 第 4 回 原画(2)
ラフの動きをさらに正確にし、動きのチェック。
事後/課題の制作(3h)
- 第 5 回 動画(1)
中割作業
事後/課題の制作(3h)
- 第 6 回 動画(2)
クリンナップ
事後/課題の制作(3h)
- 第 7 回 仕上げ
スキャン・彩色
事後/課題の制作(3h)
- 第 8 回 中間発表(仮提出)
全体で発表、プレゼン。
講評会へ向けた予行練習を兼ねて
事後/課題の制作(3h)
- 第 9 回 撮影

AfterEffectsを使用し、背景とセルを組み合わせる(コンポジットする)。組み合わせたコンポジションに効果を加えていく。

事後/課題の制作(3h)

第 10 回 第一稿提出・発表

Adobe Premiere を使い撮影したカットを繋ぎ合わせる。不自然な箇所がないかチェックする。

事後/課題の制作(3h)

第 11 回 修正

第一稿の修正

事後/課題の制作(3h)

第 12 回 第二稿提出・発表

Adobe Premiere を使い撮影したカットを繋ぎ合わせる。不自然な箇所がないかチェックする。

事後/課題の制作(3h)

第 13 回 編集

最終的な編集

事後/課題の制作(3h)

第 14 回 講評会

課題の提出と講評会の実施

事後/課題の制作(3h)

第 15 回 作品完成

講評会で指摘された部分の修正

事前/課題の制作(3h)

〔アクティブラーニング〕

1回：B / 2回：B /

3回：B / 4回：B /

5回：B / 6回：B /

7回：B / 8回：B /

9回：B / 10回：B /

11回：B / 12回：B /

13回：B / 14回：B /

15回：B

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

・「アニメ制作Ⅲ」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・アニメ制作中は随時担当教員とのミーティング、あるいは指導を受けること

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

(本科目は対面実施ですが参考に記載します↓)

Adobe Photoshop, After Effects, Premiere Pro, CLIP STUDIO PAINT EX,ペンタブレット

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点(20%)：授業態度、グループ制作に積極的に参加できているか

②課題(50%)：スケジュールを管理できているか。表現力・完成度はどうか

③成果発表(30%)：講評会でのプレゼン・内容について評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・講評会にて全体の課題発表と講評を行う

〔出席確認の方法〕

授業開始時に名前を読み上げて確認します

〔基本的な授業の進め方〕

1コマ目

・出席確認:5分 ・資料配布、課題説明:10分・講義10分 ・グループワーク65分

2コマ目

・完成した課題のチェック、添削の繰り返し80分

・課題提出5分・次回説明5分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：△

2. 表現力：◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力：—

4. 課題発見力・課題解決力：—

5. コミュニケーション力：○

6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある —：関連していない】

〔教科書〕

課題ごとに資料を配布

〔参考文献〕

神村 幸子「アニメーションの基礎知識大百科」(2009年)グラフィック社 3080円

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照(7F掲示板に掲示)

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など、オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件、教科書、参考文献

シナリオ原作Ⅱ

AN579

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目(5)

3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

平野 靖士

〔科目の概要および目的〕

シナリオ原作Ⅰで学んだ知識を応用して、より専門的な企画作りやシナリオの知識を解説し、オリジナルの企画書とシナリオを創作する。

〔到達目標(授業を通じて身につく能力・スキル)〕

・シナリオに描かれた感情や状況を読み取り、より深く映像に昇華させることができる。

・映像制作の企画書を作成するスキルを習得できる。

・映像シナリオの構成力のスキルを習得できる。

・映像シナリオを書くスキルを習得できる。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
この講義の内容と目的の説明。シナリオ原作 I で学習した知識の再確認。
- 第 2 回 企画書作り I (テーマ)
グループ単位で企画書作りづくり、最初の企画意図 (テーマ) を考え、作成する。
事後/企画意図の完成 (1 時間)
- 第 3 回 企画書作り II (世界観と登場キャラ)
グループで作成した企画意図に沿った、物語の世界観と主な登場キャラクターを考え、作成する。
事後/企画書の作成 (1 時間)
- 第 4 回 企画書作り III (ストーリー)
グループで作成している企画のストーリーを考え、作成する。
事後/企画書の完成 (2 時間)
- 第 5 回 企画書の講評
各グループで企画書を仕上げ発表し、講評しあう。
- 第 6 回 個人的テーマの作成
オリジナル脚本を作成するにあたっての個人的なテーマ、を考え、作成する。
事後/テーマの文章化 (1 時間)
- 第 7 回 脚本の構想
個人的テーマから派生する世界観、登場キャラクター、ストーリーを考える。
事後/設定の構想 (1 時間)
- 第 8 回 脚本の基礎構築
考えた世界観、登場キャラクターを文章化する。
事後/設定の文書化 (2 時間)
- 第 9 回 脚本のストーリー
個人的テーマから考えたストーリーを文章化する。
事後/ストーリーの文章化 (2 時間)
- 第 10 回 脚本のプロット作成 I
ストーリーをプロットにして書く。
事後/プロットを書く (3 時間)
- 第 11 回 脚本のプロット作成 II (直し)
出来上がったプロットをディスカッションで修正する。
事後/プロットの仕上げ (3 時間)
- 第 12 回 脚本作成 I (起)
プロットの前半部を脚本にしていく。
事後/脚本作成 (4 時間)
- 第 13 回 脚本作成 II (承)
プロットの中盤を脚本にしていく。
事後/脚本作成 (5 時間)
- 第 14 回 脚本作成 III (転結)
プロットの後半部を脚本にしていく。
事後/脚本作成 (5 時間)
- 第 15 回 脚本作成 IV (仕上げ)
脚本を仕上げ完成させる。

〔アクティブラーニング〕

- 1回：— / 2回：B /
3回：B / 4回：B /
5回：A,C / 6回：— /
7回：— / 8回：— /
9回：— / 10回：— /
11回：— / 12回：— /
13回：— / 14回：— /
15回：—

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

・「シナリオ原作 I」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

—

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点 (20%) : 授業マナーを守り、積極的に授業に参加しているか。

②課題 (80%) 表現力、完成度はどうか。締切りは守れたか。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

授業で個別にコメントします

〔出席確認の方法〕

授業開始時、出席確認

〔基本的な授業の進め方〕

- ・授業説明 5分
- ・講義 25分
- ・筆記実習：筆記 60分→講評25分→筆記40分→講評15分
- ・授業振り返り 5分
- ・次回講義説明 5分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

必要に応じてプリント配布

〔オフィスアワー〕

時間：出講日の授業の前後

場所：授業実施教室

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【〔シラバスに不掲載〕昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

ゲーム企画演習Ⅳ

GA563

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

井上 幸喜、吉岡 章夫

〔科目の概要および目的〕

ゲーム制作における、作業の流れを習得し運用することを目標目的とする。

UI,UX,スケジューリングやコミュニケーションなどの重要性を理解する。企画よりXDでのプロトタイプ制作を行い、Unityでの実機でのデモンストレーションを行う。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・プロジェクトマネジメント・スケジューリング能力を身につける。
- ・画面遷移とUI,UXの基礎を身につける。
- ・実践的なゲーム制作方法とプロジェクトコミュニケーション力を身につける。
- ・企画書、仕様書、画面遷移図、プロトタイプ、実機データの作成

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・企画
授業の進め方の説明
個人での作成にあたり大まかなスケジュールを立てる
事前及び事後/ 企画準備 (6時間)
- 第 2 回 ゲーム企画書の書き方Ⅰ
実際のゲーム企画書の書き方を学びながら、自己制作物の作成を行う。
事前及び事後/ 企画書作業 (6時間)
- 第 3 回 ゲーム企画書の書き方Ⅱ
実際のゲーム企画書の書き方を学びながら、自己制作物の作成を行う。
事前及び事後/ 企画書作業 (6時間)
- 第 4 回 画面遷移の考え方Ⅰ 基本構造
フローチャート作成法、XDの使い方
事前及び事後/ フロー作業 (6時間)
- 第 5 回 画面遷移の考え方Ⅱ 作法確認
UI、UXの基礎 及びシミュレーション
事前及び事後/ フロー作業 (6時間)
- 第 6 回 仕様書作成Ⅰ
仕様書の作成を行う
事前及び事後/ 仕様書作成 (6時間)
- 第 7 回 仕様書作成Ⅱ 提出と中間講評
仕様書の作成を行う
事前及び事後/ 仕様書作成 (6時間)
- 第 8 回 プロトタイプ作成
プロトタイプを作成する。
事後/ プレゼン準備 (6時間)

- 第 9 回 プレゼンテーションと講評
プレゼンを行い他作品の評価レポートを提出
事前/ 制作と進捗報告の準備 (3時間)
- 第 10 回 チームプロト制作 (1) 企画草案
チームにてプロトタイプを企画作成する プレスト
事前及び事後/ 企画作業 (2時間)
- 第 11 回 チームプロト制作 (2) 企画展開
チームにてプロトタイプを企画作成する まとめ
事前及び事後/ 企画作業 (2時間)
- 第 12 回 チームプロト制作 (3) 作成Ⅰ
中間提出と進捗確認 プレゼン
制作と進捗報告の準備 (3時間)
- 第 13 回 チームプロト制作 (4) 作成Ⅱ
チームにてプロトタイプを企画作成する プレスト
事前及び事後/ 企画作業 (6時間)
- 第 14 回 チームプロト制作 (5) 仕上げ
チームにてプロトタイプを企画作成する 完成
事前及び事後/ 企画作業 (6時間)
- 第 15 回 プレゼンテーションと講評
作品提出とプレゼン、講評 振り返り
事前 プレゼンテーション準備 (6時間)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：— / 2回：A /
3回：A / 4回：— /
5回：— / 6回：— /
7回：— / 8回：— /
9回：B / 10回：B,C /
11回：B,C / 12回：C,E /
13回：B,C / 14回：B,C /
15回：C,E

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

- ・「ゲーム企画演習Ⅲ」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・Unity、Unreal Engine プログラムやモデリングなどの専門技能、3Dモデル、2Dでの作業を周知している事
- 〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕
-

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①平常点 (30%)：授業態度
②中間提出物 (30%)：完成度、クオリティ、プレゼンテーション
③最終時課題 (40%)：完成度、クオリティ、プレゼンテーション

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・提出物に対し各自へ講評を行う。
- ・全体のプレゼンテーションと学生同士の評価と合わせ教員より指導する

〔出席確認の方法〕

点呼及び課題提出

〔基本的な授業の進め方〕

開始～15分TOPICS業界の情報や市場動向について
15分～出席点呼・課題提出

20分～150分授業

150分～180分 内容見返り、課題出題と質疑応答

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：△
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：◎
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

授業内で随時紹介し使用

【参考文献】

授業内で随時紹介

【オフィスアワー】

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照（7F掲示板に掲示）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし、科目の概要および目的、授業計画：テーマ・内容

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

3DCGIV

GA565

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 後期

6 【対面型】

演習/2コマ

宮下 善成

【科目の概要および目的】

3DCGソフト”Houdini”はハリウッド映画には欠かせないVFXツールとなっている。このHoudiniを使用し、アニメーションの制作演習を行う。基礎的な操作方法から覚え、エフェクトなどプロシージャルなアニメーションを習得する。また、実写との合成を行うことにより、ライティングやカメラなどの設定方法を習得し作品制作を進めていく。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・3DCGソフトHoudiniの基本概念を理解し、基本操作の習得ができる。

- ・3DCGと実写合成におけるライティング、カメラを理解する事により、リアルな映像作品が制作できるようになる。

- ・機能の組み合わせを工夫することにより、オリジナリティのある作品制作を行えるようになる。

【授業形態】

6 【対面型】

【授業計画】

第 1 回 出力から合成まで

UFOモデル制作とアニメーションを設定。画像編集とムービー化を行う。

事前（背景に使う空素材の選定/1.5H）事後（ムービーファイルの提出/1.5H）

第 2 回 ビルと車のモデリング

UFOアニメーション講評会。Houdiniによるモデリング習得する。

事後（モデリングの復習/3H）

第 3 回 地形や高速道路のモデリング

Houdiniによるモデリングやマッピングを習得する。

事後（モデリングの復習/3H）

第 4 回 パスアニメーションの制作

パスアニメーションやカメラの切り替えを習得する。

事後（パスアニメーションの復習/3H）

第 5 回 CGと実写の合成 (1)

CGと実写の合成を習得する。

事後（CG合成の復習/3H）

第 6 回 CGと実写の合成 (2)

CG合成のムービー作品を作ってみる。

事後（CG合成の復習/3H）

第 7 回 CGと実写の合成 (3)

CG合成のムービー作品を作ってみる。

事後（CG合成の復習/3H）

第 8 回 衝突アニメーション (1)

CG実写合成作品講評会。衝突・破壊アニメーションを習得する。

事後（衝突・破壊アニメーションの復習/3H）

第 9 回 衝突アニメーション (1)

CG実写合成作品講評会。衝突・破壊アニメーションを習得する。

事後（衝突・破壊アニメーションの復習/3H）

第 10 回 衝突アニメーション (2)

衝突・破壊アニメーションによるアニメーションを制作する。

事前（衝突・破壊アニメーションの企画・絵コンテ制作/3H）

第 11 回 Timeshift機能

Timeshift機能を使ってドミノ倒しアニメーションを制作する。

事後（連動アニメーションの復習/3H）

第 12 回 連動アニメーション作品制作 (1)

企画・絵コンテを制作した上で、変形アニメーション作品を制作する。

事後（連動アニメーションの制作/3H）

第 13 回 連動アニメーション作品制作 (2)

連動アニメーション作品を制作する。

事後（連動アニメーションの制作/3H）

第 14 回 連動アニメーション作品制作 (3)

連動アニメーション作品を制作する。

事後（連動アニメーションの制作/3H）

第 15 回 連動アニメーション作品制作 (4)

連動アニメーション作品を制作する。作品講評会。

事後（連動アニメーションの制作/3H）

〔アクティブラーニング〕

1回：— / 2回：— /
 3回：— / 4回：— /
 5回：E / 6回：E /
 7回：D / 8回：E /
 9回：E / 10回：D /
 11回：E / 12回：E /
 13回：E / 14回：E /
 15回：D

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

・「3DCGⅢ」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

・Photoshop及びAfter Effectsの基礎知識。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点（30%）：授業マナーを守り、積極的に授業に参加しているか

②成果発表（10%）：自作発表の場でのプレゼンの姿勢・内容について評価する

③課題（60%）：課題意図が理解できているか・完成度はどうか・締め切りが守られているか

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・各課題ごとに、課題発表と講評を行う。

〔出席確認の方法〕

講義開始時に点呼

〔基本的な授業の進め方〕

出席確認

講義内容説明 10分、

作業説明 5分、制作 20分、進行確認 15分、作業説明 5分、制作 20分、進行確認 15分

作業説明 5分、制作 20分、進行確認 15分、作業説明 5分、制作 20分、進行確認 15分

まとめ、次回予告 10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：—
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
 —：関連していない】

〔教科書〕

PDFファイルでテキストを用意しています。

〔参考文献〕

「Houdiniではじめる3Dビジュアルエフェクト」平井 豊和
 (I・O BOOKS)¥2,484

「Unity ゲームエフェクト マスターガイド」秋山高廣 (技術評論社)4,620

〔オフィスアワー〕

時間：授業の前後

場所：授業実施教室（601）

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

インタラクティブ映像制作

GA566

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 後期

6 【対面型】

演習/2コマ

西山 信行

〔科目の概要および目的〕

Unity を使ったインタラクティブな映像制作(映像に干渉できる作品)に挑戦してもらいます。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・Unity を使ったオリジナルの映像作品を作る
- ・インタラクティブな映像作品についての知見を得る
- ・本人が実現したいと考えたことを実現する力を身につける

〔授業形態〕

6 【対面型】

〔授業計画〕

第 1 回 道具の使い方を知る

これまでのUnityの復習を兼ねて自己紹介アプリを作ってみましょう！

事後/2時間(内容の復習、課題の作品制作)

第 2 回 物体に触れる(2D編)

シーン内のGameObjectをドラッグ&ドロップする手法について学びます。2Dと3Dではやり方が違うので、まずは2Dから！

事後/2時間(内容の復習、課題の作品制作)

第 3 回 物体に触れる(3D編)

3Dの世界の物体をドラッグ&ドロップする手法について学びます！

事後/2時間(内容の復習、課題の作品制作)

第 4 回 向きを変える(2D編)

シーン内のGameObjectがマウスカーソルの位置に応じて向きを変える手法について学びます。まずは2D編！

事後/2時間(内容の復習、課題の作品制作)

第 5 回 向きを変える(3D編)

シーン内のGameObjectがマウスカーソルの位置に応じて向きを変える手法について学びます。その3D編です！

事後/2時間(内容の復習、課題の作品制作)

第 6 回 物理挙動と共存する(2D編)

シーン内の物理法則と、これまで学んできた干渉方法を共存するにはちょっとしたコツが必要で

- す。まずは2D編から！
事後/2時間(内容の復習、課題の作品制作)
- 第 7 回 物理挙動と共存する(3D編)
シーン内の物理法則と、これまで学んできた干渉方法を共存するにはちょっとしたコツが必要です。その3D編！
事後/2時間(内容の復習、課題の作品制作)
- 第 8 回 マイク入力を扱う 1
PCのマイク入力を使って作品に干渉してみましよう！まずは、マイク入力の扱い方と、音の大きさを調べる手法について学びます！
事後/2時間(内容の復習、課題の作品制作)
- 第 9 回 マイク入力を扱う 2
PCのマイク入力を使って作品に干渉してみましよう！続いて音の高さを調べる手法を学びましよう！
事後/2時間(内容の復習、課題の作品制作)
- 第 10 回 マイク入力を扱う 3
PCのマイク入力を使って作品に干渉してみましよう！最後はマイク入力をその場で録音して作品内で使う手法について学びます！
事後/2時間(内容の復習、課題の作品制作)
- 第 11 回 カメラ入力を扱う 1
PCに繋がられたカメラ入力をUnityで扱う方法について学びます！
事後/2時間(内容の復習、課題の作品制作)
- 第 12 回 カメラ入力を扱う 2
カメラ入力から得られた画像に色々と演出を付け足す手法について学びましよう！
事後/2時間(内容の復習、課題の作品制作)
- 第 13 回 映像の分岐
途中の操作で展開が変化するような演出の手法について学びます！
事後/2時間(内容の復習、課題の作品制作)
- 第 14 回 期末課題
これまで学んだことを活用して一つ、作品を手掛けてみてください！
事後/2時間(内容の復習、課題の作品制作)
- 第 15 回 品評会
提出してもらった課題をみんなで鑑賞し、互いの作品を評価し合ってもらいます！
事後/2時間(内容の復習、他作品のレビュー)

【アクティブラーニング】

- 1回：E / 2回：E /
3回：E / 4回：E /
5回：E / 6回：E /
7回：E / 8回：E /
9回：E / 10回：E /
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：C

【事前に修得しておく必要のある科目】

- ・プログラム基礎
- ・Unity演習

【履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など】

- ・「プログラム基礎」修得済、または、同等の知識・理解があること
- ・Unityの基本操作ができること

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

- ・Unityエディターが快適に動作するパソコン
- ・インカム(一部演習にて音声を使います)

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

- ①平常点(30%):授業マナーを守り、授業に積極的に取り組み、当日に演習課題がある場合は提出すること
- ②課題制作(70%):授業内容の理解と、制作意図の把握が、課題制作にしっかりと反映されているかどうかを評価し、各自の仕様に対する完成度を重視します

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

- ・発表したものに対して授業全体で講評を行います
- ・質問に対して個別にコメントします

【出席確認の方法】

指定のタイミングでコメント投稿や出席票、リアクションペーパー提出などを併用

【基本的な授業の進め方】

- ・授業説明:10分
- ・演出:演習資料を基に実際に動かしてみる(40分程度)
- ・補足説明:資料の補足説明など(30分程度)
- ・作品制作:その日に学んだ事を使って作品作り(80分程度)
- ・作品提出:20分

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：○
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

演習内で随時紹介します

【オフィスアワー】

時間：出講日の授業前後

場所：授業実施教室または7F非常勤講師控室

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

なし

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件

絵本表現Ⅱ

IL567

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

城芽 ハヤト

〔科目の概要および目的〕

短い文章や詩などにイラストレーションをつけ、絵本・画集を制作していきます。

テキストとイラストレーションの関係を考え、手描きで作品を制作します。

これまでの課題制作や独自の創作体験を活かし、自分ならではの作品作りを目指してい

きます。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・文章からの自由な発想力を身につける
- ・”本”という形態の中でテキストと絵の関係、見せ方、構成を考える力を身につける
- ・イラストレーションの役割を考え、実践する力を身につける

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス／詩画集（1）
授業説明と課題の導入。授業参加者で1冊の詩画集を作る。
事前：シラバスを熟読する。（20分程度）
事後：詩のイメージを広げる（1時間程度）
- 第 2 回 詩画集（2）
アイデアを考える。
事前：アイデアを考える。（1時間程度）
事後：アイデアを考える。下図を描く（2時間程度）
- 第 3 回 詩画集（3）
イラストを制作する。
事前：課題の進行（1～2時間）
事後：絵本にふれる／レポート（2時間程度）
- 第 4 回 詩画集（4）
イラストを制作する。
事前：課題の進行（1～2時間）
事後：絵本にふれる／レポート（2時間程度）
- 第 5 回 詩画集（5）
一枚目を仕上げる
事前：課題の進行（1～2時間）
事後：次課題のテキストを読む（1時間程度）
- 第 6 回 詩画集（6）
イラストを制作する。
事前：課題の進行（1～2時間）
事後：次課題のイメージを考える（1時間程度）
- 第 7 回 詩画集（7）、講評会

仕上げと講評。

事前：課題の進行（1～2時間）

事後/自己評価、自分の課題を見つける。（30分程度）

- 第 8 回 物語とイラストレーション（1）
既存の物語、文章から絵本を作る。アイデアを考える。
事前：次課題のアイデアを考える（1時間程度）
事後：課題のアイデアを考える（1～2時間）
- 第 9 回 物語とイラストレーション（2）
物語の展開流れを考え下絵を描く。
事前：アイデアを考える。（1～2時間）
事後：製本について学ぶ（1～2時間）
- 第 10 回 物語とイラストレーション（3）
イラストを制作する。彩色をする。
事前：課題の進行（1～2時間）
事後：課題の進行（1～2時間）
- 第 11 回 物語とイラストレーション（4）
イラストを制作する。彩色をする。
事前：課題の進行（1～2時間）
事後：入稿データについて学ぶ（1～2時間）
- 第 12 回 物語とイラストレーション（5）
イラストを制作する。彩色をする。
事前：データ化について学ぶ（1時間程度）
事後：データ化の準備をする（1時間程度）
- 第 13 回 物語とイラストレーション（6）
イラストを制作する。彩色をする。
事前：課題の進行（1～2時間）
事後：データ化する（1時間程度）
- 第 14 回 物語とイラストレーション（7）
イラストを制作／データ化・見本を作る。
事前：課題の進行（1～2時間）
事後：課題の進行（1～2時間）
- 第 15 回 物語とイラストレーション（7）講評会
仕上げと講評。
事前：課題の進行（1～2時間）
事後/自己評価、自分の課題を見つける。（30分程度）

〔アクティブラーニング〕

- 1回：B / 2回：B /
3回：B / 4回：B /
5回：B / 6回：B /
7回：B / 8回：E /
9回：E / 10回：E /
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：E

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

- ・「絵本表現Ⅰ」または「イラストレーションⅠ又はⅡ」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・一課題の中で数枚のイラストレーションを描くので計画性をもって時間配分を考えること。
- ・データ化・サンプル製本作業を各自工夫して行なう。紙

や製本工程等の研究、準備をする。

・画材費用として、500円程度を徴収します。

【オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件】

【成績評価方法・評価割合・評価基準】

①授業への取り組み姿勢（30%）：計画性・積極性・作品へのこだわりを評価します。

②作品の評価（70%）：文章とイラストレーションの関係性を考えられているか。独創性があるか。完成度が高いか。

【課題やレポート等に対するフィードバックの方法】

・課題毎に講評会、または個人毎にコメントをします。

【出席確認の方法】

授業初めに出席を点呼をとります。

【基本的な授業の進め方】

・授業説明:10分～20分

・その日のワーク／全体への課題解説や個人毎の質疑応答、アドバイス

・次回課題説明5分（講評時は1時間ほど）

【ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応】

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：◎
5. コミュニケーション力：—
6. 専門的知識・技能の活用力：○

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

【教科書】

なし

【参考文献】

授業内で紹介

【オフィスアワー】

時間：出講日の授業後30分

教室：授業実施教室／

イラストレーション研究室（812）

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①】

授業計画：テーマ・内容、授業計画：事前・事後学習

【【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②】

なし

造形表現Ⅱ

旧 イラストレーションアートⅡ

IL568

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

西岡 悠妃

【科目の概要および目的】

半年を通して、絵日記のように小さな作品（サイズは、はがき大程度を目安にする。紙の種類は自由）を沢山描く。この授業の中で30~50枚の作品を描きあげる。毎日、自分を見つめ直し、自分が何に興味を持っているのか、何を掘り下げて制作したいかのかを考え直し、主体性を持った制作をする。30~50枚を描くことで根気を養い、最後まで仕上げの気力を養うことができる。アートの現場、展示方法などを具体的に目的を持って知り、卒制までつなげる。

【到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）】

- ・企画力を身に付ける
- ・観察力を身に付ける
- ・立てた目標を完遂する力を付ける

【授業形態】

5【同時双方向型】

【授業計画】

第1回 課題説明。テーマの決定

課題についての説明。

事前/興味のある展示を探す(2時間)

事後/課題のテーマを決める(1時間)

第2回 ギャラリー周り

展示を3ヶ所以上見てください。個展、グループ展、プロ、アマチュア、若手、ベテラン等、なるべく色々な展示を見るようにする。

事前/ギャラリー周り(2時間)

事後/ギャラリー周り(2時間)

第3回 ギャラリー周りレポート発表

展示のレポート提出及び、発表。

事前/レポートをまとめて発表の準備(3時間)

事後/復習(1時間)

第4回 課題にするテーマを決める制作(1)

1週間(平日3~5日)に考えた日記を絵にする。

事前/1週間振り返って短い文章にする(時間)

事後/描ききれなかった作品を描く(時間)

第5回 制作(2)

1週間(平日3~5日)に考えた日記を絵にする。

事前/1週間振り返って短い文章にする(時間)

事後/描ききれなかった作品を描く(時間)

第6回 制作(3)

1週間(平日3~5日)に考えた日記を絵にする。

事前/1週間振り返って短い文章にする(時間)

事後/描ききれなかった作品を描く(時間)

第7回 制作(4)

- 1週間(平日3~5日)に考えた日記を絵にする。
事前/1週間振り返って短い文章にする(時間)
事後/描ききれなかった作品を描く(時間)
- 第8回 制作(5)
1週間(平日3~5日)に考えた日記を絵にする。
事前/1週間振り返って短い文章にする(時間)
事後/描ききれなかった作品を描く(時間)
- 第9回 制作(6)
1週間(平日3~5日)に考えた日記を絵にする。
事前/1週間振り返って短い文章にする(時間)
事後/描ききれなかった作品を描く(時間)
- 第10回 制作(7)
1週間(平日3~5日)に考えた日記を絵にする。
事前/1週間振り返って短い文章にする(時間)
事後/描ききれなかった作品を描く(時間)
- 第11回 制作(8)
1週間(平日3~5日)に考えた日記を絵にする。
事前/1週間振り返って短い文章にする(時間)
事後/描ききれなかった作品を描く(時間)
- 第12回 制作(9)
1週間(平日3~5日)に考えた日記を絵にする。
事前/1週間振り返って短い文章にする(時間)
事後/描ききれなかった作品を描く(時間)
- 第13回 制作(10)
1週間(平日3~5日)に考えた日記を絵にする。
事前/1週間振り返って短い文章にする(時間)
事後/描ききれなかった作品を描く(時間)
- 第14回 制作(11)
1週間(平日3~5日)に考えた日記を絵にする。
事前/1週間振り返って短い文章にする(時間)
事後/描ききれなかった作品を描く(時間)
- 第15回 発表、及び講評会
作品30~50枚をキレイにまとめる。箱に入れる、綴る等。
事前/製本、カルトナーージュをする(5時間)
事後/復習(1時間)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：D / 2回：E /
3回：C / 4回：E /
5回：E / 6回：E /
7回：E / 8回：E /
9回：E / 10回：E /
11回：E / 12回：E /
13回：E / 14回：E /
15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

なし

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・材料の購入予算を10,000円程度準備しておく。
- ・筆記具は初回から用意すること。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①課題制作点(60%)：課題の表現力・独創性・完成度を評価する。

②平常点(30%)：授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

③課題発表(10%)：課題の制作意図をしっかりと発表できているか。

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

- ・全体講評を行う

〔出席確認の方法〕

点呼とteamsでの出席確認、授業最後に課題ワーク提出

〔基本的な授業の進め方〕

- ・出席確認：5分
- ・授業説明：10分
- ・その日の作業：75分 ※随時、進行チェック
- ・その日の作業：80分 ※随時、進行チェック
- ・作業の片付け：20分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：○
2. 表現力：◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力：○
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：○
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

【◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照(7F掲示板に掲示)

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

授業計画：テーマ・内容

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

出席確認の方法

グラフィックデザイン演習Ⅱ

旧 グラフィックデザインⅢ

IL/MD569

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目(5)

3年生 4年生

2単位 後期

6【対面型】

演習/2コマ

松吉 太郎

〔科目の概要および目的〕

架空の会社を想定し、その業務内容、社名のネーミングも含め企画書を作成。会社のシンボルマークやロゴタイプをデザインし、ステーションナリー等に展開する。最後にその会社を最も良く表現できる展開(広告展開、パッケージや

サインなど幅広く) を考え作成する。会社のコンセプトを練り上げながらブランディングを考えるので、デザインの総合力を問われます。また自己完結せず広く社会との繋がりを意識した、より深い思考と造形力が必要になってきます。

〔到達目標(授業を通じて身につく能力・スキル)〕

- ・デザインによるコミュニケーションができる。
- ・自分が表現したものについて他者に論理的に説明ができる。
- ・デザインと社会の繋がりを考え、獲得した表現方法で様々な課題を発見、解決することができる。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
全体の流れを説明。進行状況により多少講義内容が変更することがあります。また報告、発表は随時おこないます
常に事前学習として課題についての報告・連絡・相談の準備をする
- 第 2 回 課題 I [企画書] (1)
どのような会社にするか、仕事内容、社名のネーミングなど企画書にまとめる
事前/課題の制作 (3H)
事後/修正点の確認 (1.5H)
- 第 3 回 課題 I [企画書] (2)
企画書について説明
事前/課題の制作 (3H)
事後/修正点の確認、時課題の検証 (3H)
- 第 4 回 課題 II [シンボルマーク、ロゴタイプ] (1)
シンボルマーク、ロゴタイプをデザインする
事前/課題の制作 (3H)
事後/修正点の確認 (1.5H)
- 第 5 回 課題 II [シンボルマーク、ロゴタイプ] (2)
ラフスケッチを多数作成し、様々な角度からアイデアを検証する
事前/課題の制作 (3H)
事後/修正点の確認 (1.5H)
- 第 6 回 課題 II [シンボルマーク、ロゴタイプ] (3)
デザイン案を複数作成し検証。1点に絞り込む。その際シンボルマーク、ロゴタイプの色や基本展開も考え最終的にグラフィック・マニュアルにまとめる。
事前/課題の制作 (4H)
事後/修正点の確認 (1.5H)
- 第 7 回 課題 III [アプリケーション] (1)
シンボルマーク、ロゴタイプを使い、名刺やステーションナリー(封筒・便箋)などに展開する
事前/課題の制作 (3H)
事後/修正点の確認 (1.5H)
- 第 8 回 課題 III [アプリケーション] (2)
制作。原寸でダミーを作成
事前/課題の制作 (3H)
事後/修正点の確認 (1.5H)

- 第 9 回 中間発表
各自、現時点での課題の進行状況の発表を行う
事前/課題の制作、発表準備 (4H)
事後/修正点の確認、時課題の検証 (3H)
- 第 10 回 課題 IV [デザイン展開] (1)
シンボルマーク、ロゴタイプを使いそのデザイン展開を考える。企業広告、パッケージ、企業の PR誌、店舗展開など自由に
事前/課題の制作 (3H)
事後/修正点の確認 (1.5H)
- 第 11 回 課題 IV [デザイン展開] (2)
会社のブランディングを意識し、明快な企業イメージを作り出せるかなど様々な事を考慮しながら方向性を決める
事前/課題の制作 (3H)
事後/修正点の確認 (1.5H)
- 第 12 回 課題 IV [デザイン展開] (3)
試作品作りは常に行い、複数のアイデアの中から検証し、報告や相談を繰り返しながら課題作成
事前/課題の制作 (3H)
事後/修正点の確認 (1.5H)
- 第 13 回 課題 IV [デザイン展開] (4)
課題を仕上げながら、修正点等の検証
事前/課題の制作 (3H)
事後/修正点の確認 (1.5H)
- 第 14 回 課題 IV [デザイン展開] (5)
最終チェックの完成させる
事前/課題の制作 (3H)
事後/修正点の確認 (1.5H)
- 第 15 回 講評会
各自、課題作品すべての最終プレゼンテーションを行う。
事前/課題の制作、発表準備 (4H)
事後/修正点の確認、時課題の検証 (3H)

〔アクティブラーニング〕

- 1回 : C / 2回 : C /
3回 : C / 4回 : C /
5回 : C / 6回 : C /
7回 : C / 8回 : C /
9回 : C / 10回 : C /
11回 : C / 12回 : C /
13回 : C / 14回 : C /
15回 : C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

- ・「グラフィックデザイン演習 I」
- ・「視覚伝達論」などグラフィックデザイン関連の講義を修得しておく事が望ましい

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・デザイン制作ソフトウェア Adobe Illustrator、Photoshop、InDesignなど使える事が望ましい。

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

—

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

①平常点 (30%) : 毎回の発表・報告・連絡・相談がきちんと行われているかを評価する

②課題 (50%) : 理解力・発想・表現力・芸術性を総合的に評価する。

③課題発表 (20%) : 作品をいかに理論的に説得力を持ってプレゼンテーション出来るかを評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・毎授業内で個別に課題に対する報告・連絡・相談を受けアドバイスをします。

・各課題のプレゼンテーション時に講評する。

〔出席確認の方法〕

講義の最初に出欠を取る。

〔基本的な授業の進め方〕

●授業全体説明15分

●テーマ別レクチャー20分

●課題の提出や進捗の報告55分

●個別指導もしくは発表70分

●まとめと次回の講義説明20分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力 : ○

2. 表現力 : ◎

3. 社会貢献力・コラボレーション力 : ー

4. 課題発見力・課題解決力 : ○

5. コミュニケーション力 : ◎

6. 専門的知識・技能の活用力 : ○

【◎ : 特に関連が強い ○ : 関連が強い △ : 関連がある
ー : 関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

必要に応じて随時授業内で紹介します。

〔オフィスアワー〕

時間 : 出講日の授業後30分程度

場所 : 授業実施教室

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

科目の概要および目的、授業計画 : テーマ・内容、アクティブラーニング

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

事前に修得しておく必要のある科目

コンテンツデザイン演習

MD572

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 後期

6 【対面型】

演習/2コマ

渡邊 哲意、中村 泰之

〔科目の概要および目的〕

現在のコンテンツ業界はメディアミックスによる企画はもちろんのこと、既存コンテンツにつきついても新たなメディア展開によりリデザインが行われるなどデザインに企画による新たな価値が生み出されている。この授業ではコンテンツを発信する様々なメディアデザイン提案を個人もしくはグループで行い、企画だけでなく実際の完成されたモデルまで制作を行ない、メディアにおけるデザイン方法論を理解し、企画・提案・表現・伝達のスキルを身につける。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・メディアにおけるデザイン方法を理解する
- ・デザインの企画ができる
- ・デザインの提案ができる
- ・考えた提案を表現できる

〔授業形態〕

6 【対面型】

〔授業計画〕

第 1 回 ガイダンス

授業の進め方説明、コンテンツデザインの概要説明

事後/コンテンツデザインの復習(2時間)

第 2 回 課題設定

コンテンツデザインの講義、課題を設定

事後/課題設定(2時間)

第 3 回 調査1-1

コンテンツをデザインするにあたり、必要な調査を講義。設定した課題に対してアイデア出し

事前/課題設定(1時間)

事後/調査(1時間)

第 4 回 調査1-2

様々なメディア（紙・動画・商品・空間メディア）に展開するコンテンツのデザインを講義。設定した課題に対してアイデア出し

事前/調査(1時間)

事後/調査(1時間)

第 5 回 制作1-1

設定した課題に対しアイデア出し、制作、個別指導

事前/調査(1時間)

事後/制作(1時間)

第 6 回 制作1-2

設定した課題に対しアイデア出し、制作、個別指導

事前/調査(1時間)

事後/制作(1時間)

- 第 7 回 資料作成1
アイデアの整理、資料作成、個別指導
事前/調査(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第 8 回 評価1
資料作成、プレゼンテーション
事前/制作(1時間)
事後/評価の振り返り(1時間)
- 第 9 回 課題設定2-1
研究するコンテンツを設定、アイデア出し、個別指導
事前/課題設定(1時間)
事後/調査(1時間)
- 第 10 回 調査2-1
研究するコンテンツを設定、アイデア出し、個別指導
事前/調査(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第 11 回 調査2-2
研究するコンテンツを設定、アイデア出し、個別指導
事前/調査(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第 12 回 制作2-1
研究するコンテンツを設定、アイデア出し、個別指導
事前/調査(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第 13 回 制作2-2
研究するコンテンツを設定、アイデア出し、個別指導
事前/調査(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第 14 回 資料作成2
アイデアの整理、資料作成、個別指導
事前/調査(1時間)
事後/制作(1時間)
- 第 15 回 評価2
資料作成、プレゼンテーション
事前/制作(1時間)
事後/評価の振り返り(1時間)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：— / 2回：— /
3回：— / 4回：— /
5回：— / 6回：— /
7回：— / 8回：A,C /
9回：— / 10回：— /
11回：— / 12回：— /
13回：— / 14回：— /
15回：A,C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

- ・「デザインサーベイ」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕
デザイン企画・制作に必要なPC操作スキル（Photoshop/Illustrator）を習得していること

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

- ①授業毎のリアクションシート（25%）：リアクションシート記載内容の精度で評価する
②中間発表（25%）：発表の内容、発言、態度を評価する
③完成作品（50%）：作品コンセプト、そのアウトプットの精度を評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

課題発表後、評価・コメントします

〔出席確認の方法〕

リアクションシートによる

〔基本的な授業の進め方〕

前回のフィードバック 10分
調査・制作・資料作成（個別指導含む） 160分
リアクションシート記入 10分

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力：◎
2. 表現力：○
3. 社会貢献力・コラボレーション力：—
4. 課題発見力・課題解決力：○
5. コミュニケーション力：△
6. 専門的知識・技能の活用力：◎

〔◎：特に関連が強い ○：関連が強い △：関連がある
—：関連していない〕

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

専任教員のオフィスアワー一覧表を参照

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

なし

アドバタイジング演習

MD/IL573

東京新宿キャンパス

東京メディア芸術学部 > メディア芸術学科 > 専門科目 > 専門選択科目 (5)

3年生 4年生

2単位 後期

6 【対面型】

演習/2コマ

木村 亮

〔科目の概要および目的〕

現場ではどのような流れで広告がつくられていくのか、現場で働くデザイナーが広告や仕事の流れを説明するとともに、毎週ディスカッションをしながら演習を行い、広告の

知識、表現について学ぶ。自らが設定する自由課題と、実際の企業や商品を想定した実践課題の二つの課題を通して、世の中に商品やサービスが発売されるまでのプロセスを学び、広告への関心、知識を高め、自らが広告表現できるように身につけていく。クリエイティブ業界の就活などの話も授業中に織り交ぜ、今後の就活に向けての準備としてクリエイティブ業界への興味・関心も高める。

〔到達目標（授業を通じて身につく能力・スキル）〕

- ・広告がつくられる流れを理解し、説明できる。
- ・リサーチ、企画立案、デザイン表現まで自ら行うことができる。
- ・就活に向けて、デザイン、クリエイティブ業界に対して興味と関心を持つ習慣を身につけられる。

〔授業形態〕

6【対面型】

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション/広告について
これからの授業の流れと、広告業界、各クリエイターの役割、広告媒体の種類や特徴、製作プロセスなどの説明。事後/身の回りにある広告を気にして見る (3H)
- 第 2 回 課題 1 説明 (課題自由)
自らがテーマを設定して、広告を作る演習を行う。毎週講師とのディスカッションの場を設けるため、その際に疑問など進め方についてもアドバイスしていく。
事後/世の中のブランドをリサーチする (1.5H)
自分がやりたい広告テーマを考える (1.5H)
- 第 3 回 課題 1 テーマ決定
まずは自分がやりたい広告テーマを見つけ出し決定を行い講師に報告。アドバイスをもらい、決定したテーマのリサーチを行う。
事後/決定テーマをリサーチする (3H)
- 第 4 回 課題 1 アイデアを考える
広告アイデアを考える。ターゲットに合わせて、媒体、ビジュアル、キャッチコピー、表現方法などを探っていく。
事後/授業内で終わらなかった部分
を考える (3H)
- 第 5 回 課題 1 広告制作
アイデアをもとに、いろんな方向性からのサムネイルを書き、決定したサムネイルをもとに広告制作を始める。
事後/デザイン制作 (3H)
- 第 6 回 課題 1 広告制作
前週と同様にデザイン制作に時間をあてる。
事後/デザイン制作 (3H)
- 第 7 回 課題 1 プレゼンテーション
広告のプレゼンテーションを行い、講評を行う。
事後/プレゼン後の意見を取り入れ、修正が必要であれば変更などを加えて完成させる (3H)
- 第 8 回 課題 2 説明 (課題指定)

指定された課題に対して、リサーチを行いブランドに関して理解を深める。

事後/ブランドに関してリサーチをする (3H)

- 第 9 回 課題 2 企画立案
リサーチしてきた内容を元に、ターゲット、媒体、広告企画アイデアを考える。
リサーチした内容を元に
アイデアを考える (3H)
- 第 10 回 課題 2 表現方法を探る
アイデアのビジュアル、キャッチコピー、表現方法などを探っていく。
事後/アイデアをまとめていく (3H)
- 第 11 回 課題 2 企画書の作り方
企画書の基本的な作り方の説明。広告制作とともに企画書も同時に制作を始める。
事後/課題デザイン制作 (3H)
- 第 12 回 課題 2 広告、企画書制作 (1)
自分が決めた媒体に合わせた広告を制作、企画書制作に取り組む。
事後/課題デザイン制作 (3H)
- 第 13 回 課題 2 広告、企画書制作 (2)
前週と同様に広告制作、企画書制作に時間をあてる。
事後/課題デザイン制作 (3H)
- 第 14 回 課題 2 広告、企画書制作 (3)
前週と同様に広告制作、企画書制作に時間をあけるとともに、
来週のプレゼンテーションに向けて準備を始める。
事後/課題デザイン制作 (3H)
- 第 15 回 課題 2 プレゼンテーション/まとめ
実践課題のプレゼンテーションと講評を行う /
これまでの授業の総括事後/プレゼン後の意見を取り入れ、修正が必要
であれば変更などを加えて完成させる (3H)

〔アクティブラーニング〕

- 1回：— / 2回：F /
3回：F / 4回：F /
5回：F / 6回：F /
7回：C / 8回：— /
9回：F / 10回：F /
11回：F / 12回：F /
13回：F / 14回：F /
15回：C

〔事前に修得しておく必要のある科目〕

- ・「デザイン基礎演習」・「広告表現概論」
- ・「インフォメーションデザイン」

〔履修に必要なスキル・予備知識や技能・留意点など〕

- ・課題に取り組むにあたり、媒体に合わせたソフトの操作ができるスキルが必要となる (Illustrator、Photoshopなど)

〔オンライン授業の受講に必要な機器・ソフトウェア等の条件〕

〔成績評価方法・評価割合・評価基準〕

(例) 試験 (30%) : 「理解度」を評価する

①平常点 (30%) : 積極的に授業に参加をしているか、また、課題の取り組み姿勢を評価する

②課題 (50%) : 情報処理力、発想力、表現力、完成度を評価する

③課題発表 (20%) : 課題の制作意図をしっかりと発表できるか評価する

〔課題やレポート等に対するフィードバックの方法〕

・課題に対してプレゼンテーションを行い、その場で講評をする。

〔出席確認の方法〕

授業開始後、名前を呼んで出席確認を行う。

〔基本的な授業の進め方〕

冒頭に今週の授業の説明・講義を行う (30~60分) その後は各自の制作時間とする。

必要に応じ、個別で講師と学生がディスカッションする場を設ける。

〔ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応〕

1. 主体的行動力 : ◎
2. 表現力 : ◎
3. 社会貢献力・コラボレーション力 : △
4. 課題発見力・課題解決力 : ◎
5. コミュニケーション力 : ◎
6. 専門的知識・技能の活用力 : ○

【◎ : 特に関連が強い ○ : 関連が強い △ : 関連がある
— : 関連していない】

〔教科書〕

なし

〔参考文献〕

なし

〔オフィスアワー〕

時間 : 出講日の授業前後

場所 : 授業実施教室、またはメールやチャットなど

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所①〕

なし

〔【シラバスに不掲載】昨年度のシラバスから変更を行った箇所②〕

出席確認の方法
